

この索引は、富士宮市立中央図書館蔵架の『岳南朝日』新聞に基づいている。  
期間は1955年＝昭和30年2月～1992年＝平成4年12月。歯抜けのような欠落もあるが、原紙のまとまった欠落状況は各年の初めに注記しておいた。  
私が村山古道を再発見して間もなく20年、麓を車で通過して五合目から富士山に登るわけにはいかなかった。  
《憧れの富士に向つた、古へからの数知れぬ人を迎へて、それによつて衣食した山麓の人々が、如何に争闘し、罪悪し、盛衰の波に漂はされて来たか。これがその儘人の世の姿である。富士は――しかし富士は悠久に東海の天にかかつてゐる。》（塚本繁松「富士登山道の種々相」『山と溪谷』33号、昭和10年9月）  
この一文が棘のように引っかかり、こんな索引ができてしまった。したがって新聞の索引としては汎用性に欠ける面があることを前提にして利用していただきたい。  
この索引の利用・引用は自由ですが、固有の著作権があることは認識しておいてください。  
とくに事件・事故に登場する人たちのプライバシーの保護には、節度を保っていただけよう強くお願いしておきたい。  
記事見出しの語数制限・送り仮名・誤字誤植のためにその記事に辿り着けないことがあるので、〔 〕内にキーワードを付すよう努力した。  
各記事見出しのあとに←印→印で注記を付したものもあるので、研究などにご活用いただければ幸いである。  
▼▼は事件・事故の内容理解や前後の経緯を理解するために、本文を私的にテキスト化した記事である。しかし複雑な著作権がからむこともあるので、公開しない。  
間違いや批判、あるいは成果物があつたばあいにはご連絡をお願いしたい。  
長年にわたつてご協力をいただいた富士宮市立中央図書館の歴代の職員の方々に謝意を表したい。  
2021年3月  
山樂カレッジ 畠堀操八

■ 1955年＝昭和30年

（富士宮市立図書館蔵架の『岳南朝日』のトップは1955年＝昭和30年2月2日付、この年は第1面のみのコピーが蔵架）

「富士宮市、富士根と合併す 急挙議会で決る 超スピードで決議 傍聴人わづか二人」  
〔富士根村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年2月20日付）←右端何行か読めず

「富士宮も満場一致」〔富士根村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年2月20日付）←右端何行か読めず

「■長と対談」〔富士根村〕〔赤池義男〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年2月20日付）←右端何行か読めず

「候補応援の知事に陳情書 北山村愛村同盟が合併却下を」〔町村合併〕〔小林敏悟〕〔齋藤寿夫〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年2月20日付）

「賛成派で署名提出」〔北山村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年2月20日付）

「言いたいほうだい 背徳漢はここにいる 北良人」〔富士根村〕〔北山村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年2月20日付）

「宙に浮いた北山合併 合併は無効、残された廃村の恨み」〔北山村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年2月22日付）

「村長解職を要請 富士根反対派が決議文発表」〔富士根村〕〔植松義忠〕〔赤池義男〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年2月22日付）

「村長宅“デモ”行う」〔富士根村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年2月22日付）

「県庁に行き反対陳情 赤池代表ら一行」〔富士根村〕〔赤池義男〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年2月22日付）

「開拓村少年に寄る同情 市民から衣類など寄付」〔北山村開拓部落〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年2月22日付）

「富士根賛成派 県に“承認”を要請 12日、地方課へ合併請願書提出す」〔富士根村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年3月9日付）

「田貫湖運営委開く 30年度事業計画を審議」（『岳南朝日』1955年＝昭和30年3月9日付）

「もたつく合併の承認 知事幹旋に乗り出す いきり立つ反対派 県議は慎重論を打ち出す」〔富士根村〕〔齋藤寿夫〕〔植松義忠〕〔赤池義男〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年3月16日付）

「記者席」〔富士根村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年3月16日付）

「廿五日に指名入札 浅間神社護岸工事」〔浅間大社〕〔神田川〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年3月24日付）

「登山バス発着所変更 観光専門委員会」〔登山バス〕〔スカイライン〕〔福石神社〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年3月24日付） ▼▼

「田貫湖幹事会 来年度予算など」（『岳南朝日』1955年＝昭和30年3月24日付）

「新富士宮市一日閉庁式」〔富士根村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年3月29日付）

「専門委員会見送り バス発着所など」〔登山バス〕〔スカイライン〕〔福石神社〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年3月29日付） ▼▼

「追加更正など 富士根村会」〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年3月30日付） ←右端何行か読めず

「田貫湖運営委 キャンプ場整備」（『岳南朝日』1955年＝昭和30年3月30日付）

「山頂問題近くケリ 奥宮など五万坪が払下げ」〔浅間大社〕〔小室鶴松〕〔石橋湛山〕〔竹山祐太郎〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年4月8日付） ▼▼

「新富士宮市政の展望 上杉市長の施政方針から 合併は慎重を期す 富士山循環道路の設置」〔上杉増太郎〕〔小室鶴松〕〔富士根村〕〔町村合併〕〔スカイライン〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年4月8日付）

朝日』1955年＝昭和30年5月11日付) 一部▼▼

「富士宮 富士根 青年団一本化」〔町村合併〕(『岳南朝日』1955年＝昭和30年5月22日付)

「言いたいほうだい 山麓にお願い 清幸治」〔山麓電鉄〕〔富士急〕(『岳南朝日』1955年＝昭和30年5月28日付)

「学校短信 中学校」〔農繁期〕(『岳南朝日』1955年＝昭和30年5月28日付) → 一部▼▼

「初夏は招く観光地 欲しい誘致客の足どめ 団体宿泊所を建設 素通り名所白糸滝」〔田貫湖〕〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1955年＝昭和30年5月28日付)

「発着所に新設 駐車場など 観光委諮問会」〔登山バス〕(『岳南朝日』1955年＝昭和30年5月28日付) ▼▼

「富士登山 船津口認められる 山麓鉄道、鶴の一声で」〔五登山口協議会〕〔富士急〕〔登山バス〕〔スバルライン〕(『岳南朝日』1955年＝昭和30年5月29日付) ▼▼ ←本文中「既報」とあるが見つからず。「北富士問題、一応の解決」(『山梨日日新聞』1955年＝昭和35年5月15日付)、「登山バス、近く再開」(同前)などに関連記事あり。

「再び統一に難 富士宮青連 団則で意見対立」〔青年団〕〔町村合併〕(『岳南朝日』1955年＝昭和30年5月31日付)

「山頂問題再燃の気配 神社側訴訟準備はじむ くすぶり続ける二つの法律争い」〔河井弥八〕〔遠藤三郎〕〔石橋湛山〕〔森山鋭一〕(『岳南朝日』1955年＝昭和30年6月2日付) ▼▼

「ケーブルカー架設など 田貫湖運営委」(『岳南朝日』1955年＝昭和30年6月2日付)

「登山バス延長に朗報 静岡営林署へ正式陳情」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1955年＝昭和30年7月24日付) ▼▼ ←本文中「既報」とあるが7月23日付は原紙欠号で記事見つからず

「“研修費は違法” 監査委 富士根小中学支出で追求」〔富士根村〕〔町村合併〕(『岳南朝日』1955年＝昭和30年8月30日付)

「県政通信 原子砲、キャンプ富士へ? 斉藤知事持込み反対を表明」〔米軍〕〔オネストジョン〕〔斉藤寿夫〕(『岳南朝日』1955年＝昭和30年8月30日付)

「登山バス延長路線 地元負担の支出で行悩む」〔スカイライン〕〔富士宮市観光協会〕〔静岡営林署〕〔小室鶴松〕(『岳南朝日』1955年＝昭和30年9月20日付) ▼▼

「申込み第一号 田貫のお月見へ」〔田貫湖〕(『岳南朝日』1955年＝昭和30年9月20日付)

「富士宮田中区 管理植林を売らる 実は所有権は北山 植えた区に売り渡して落着」(『岳南朝日』1955年＝昭和30年9月21日付)

「天間の湿田改良順調 今年は下川原、太夫島など」(『岳南朝日』1955年＝昭和30年9月21日付)

「富士根会計の監査“岳協”で市監査委に請求」〔富士根村〕〔岳南協和会〕〔町村合併〕(『岳南朝日』1955年＝昭和30年9月21日付)

「手続きに日数掛かる 旧富士根会計監査問題」〔富士根村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年9月22日付）

「県政通信 革新議員団が反対陳情 オネストジョンの共斗会」〔軍事基地〕〔オネストジョン〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年9月22日付）

「山麓で営業方針改善 神社にバス停車など」〔五湖めぐりバス〕〔山麓鉄道〕〔富士急〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年9月22日付） ▼▼

「不可解な富士根財政 借金の返済に窮す」〔富士根村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年9月23日付）

「富士根北土地改良会計監査行方 市の仮払いから調査始む 石川監査委員長談」〔富士根村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年9月23日付）

「県政通信 御殿場 日米連絡協に批判 反対提案握り潰しに成行き注目」〔軍事基地〕〔オネストジョン〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年9月23日付）

「救護所設置と便所の改善 登山反省会の収獲」〔五登山口協議会〕〔衛生センター〕〔岡田紅陽〕〔登山バス〕〔トイレ〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年10月7日付） ▼

▼

「新しい話題の創価学会 信者で賑わう大石寺“観光と学会”はタブー 月平均七、八千人 土曜日曜が参拝日」（『岳南朝日』1955年＝昭和30年10月12日付）

「潤井川改修終る 約四千立方の土砂かきならし 水害防止の応急措置」（『岳南朝日』1955年＝昭和30年10月18日付）

「富士文庫の読書週間 俳画練習会など」（『岳南朝日』1955年＝昭和30年10月18日付）

「富士根監査正式に受付」〔富士根村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年10月19日付）

「赤池理事長召喚 富士根土地改良」〔赤池義男〕〔富士根村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年10月19日付）

「富士川用水計画 今月中に纏る 出力八百キロの発電所建設」（『岳南朝日』1955年＝昭和30年10月19日付）

「乱脈財政の処理 富士宮市政の焦点 最後に残された旧富士根の借金払い」〔富士根村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年11月3日付）

「祭りの経費をみる まだる強制祝儀」（『岳南朝日』1955年＝昭和30年11月3日付）

「山室荒し横行 水槽まで穴を開ける」〔山室荒らし〕〔吉原山岳会〕〔山中休泊所組合〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年11月7日付） ▼▼

「富士山頂問題 神社の提そ暫く待つ 近く河合議長大蔵大臣と折渉」〔森山鋭一〕〔河井弥八〕〔高瀬荘太郎〕〔佐藤宮司〕〔浅間大社〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年11月8日付） ▼▼

「創価学会の立入禁止 身延山久遠寺」（『岳南朝日』1955年＝昭和30年11月9日付）

「今月下旬に御会式 大石寺新建物 戒壇本尊奉安殿と決定」（『岳南朝日』1955年＝昭和30年11月9日付）

「県の斡旋で方途つく 一時借入れて返済 旧富士根の借金問題解決」〔富士根村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年11月15日付）

「植林は市に移管」〔富士根村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年11月15日付）

「富士根地区で臨時保育所」〔農繁期〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年11月15日付）

「会議所27日引渡し 名称は“浅間神社参集所”」〔浅間大社〕〔富士宮商工会議所〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年11月27日付） ←本文中《既報》とあるが不明

「富士山大沢くづれ 頂上ぎわから崩る 県当局対策にやつ起」〔大沢崩れ〕〔河井弥八〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年11月27日付） ▼▼

「村山浅間境内の湧水利用 五倍の人がのめる 地元民が労力奉仕で貯水池作り」〔竜頭池〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年12月20日付） ▼▼

「正月中は四輛編成 スキー列車も」〔身延線〕（『岳南朝日』1955年＝昭和30年12月29日付）

「富士山を研究する会 先生が各部に分けて結成」（『岳南朝日』1955年＝昭和30年12月29日付）

「無学五百人 北山村の教育調査」（『岳南朝日』1955年＝昭和30年12月30日付） ▼▼

**■ 1956年＝昭和31年（この年も第1面のみのコピーが蔵架）**

「追いつめられた富士宮 自力更生か“整備”か 注目される予算編成の焦点」〔富士宮市財政〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年2月19日付）

「言いたいほうだい 山麓当局の反省を!! 一バス利用者」〔山賊バス〕〔山麓鉄道〕〔富士急〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年2月19日付）

「待望の快速列車 甲府－富士 廿日より身延線に走る」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年3月18日付）

「放水で行楽客二割減少 田貫赤字出す 施設費に収支を当てる」〔田貫湖〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年4月4日付）

「大石寺、鉄道新設？ 東急社長視察終る」〔五島慶太〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年4月27日付） ▼▼

「二合目延長五月認可」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年4月27日付） ▼▼

「36人の学童に恩恵 栗倉分校の校舎完成近し」〔富士根北小〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年5月15日付）

「街の話題 女流作家など大挙来宮」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年5月16日付）

「林道料金取らねば百万円寄付しよう 富士山麓バスの意見」〔富士急〕〔スカイライン〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年5月16日付） ▼▼

「21日に議会の決断 自力再建への動き見ゆ」〔富士宮市財政〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年5月18日付）

「“説明を聞くだけ” 北部村合併相変わらず低調」〔上井手村〕〔北山村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年5月18日付）

南朝日』1956年=昭和31年5月18日付)

「登山物価昨年通り 金剛杖は一本八十円」〔富士登山五口連絡協議会〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年5月18日付) ▼▼

「利子補給は二百五十万程度か 赤字一億を超える 議会、当局ともに県に提示」〔富士宮市財政〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年5月19日付)

「盛永農林研究所長 富士マサ土調査」(『岳南朝日』1956年=昭和31年5月19日付)

「富士宮 富士根 青年団一本化」〔町村合併〕〔富士宮連合青年団〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年5月22日付)

「『自力』では起債を抑制する 県地方課 適用を力説 六、六百万円を再建債対象」〔富士宮市財政〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年5月24日付)

「下山客誘致が重点 山中室役員会開く」〔山中室組合〕〔富士宮口砂走り〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年5月24日付) ▼▼

「認可あり次第着工 登山道路使用料も免除」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年5月24日付) ▼▼

「言いたいほうだい 富士山中衛生対策を歓迎 登山愛好者」〔山室衛生〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年5月30日付) ▼▼

「よく捌けた苗木 来年は品不足の見込み」(『岳南朝日』1956年=昭和31年5月30日付)

「山室業者の衛生講習会」〔山室衛生〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年5月30日付) ▼▼

「区長会誕生に批判 隣組制度の復活か」(『岳南朝日』1956年=昭和31年6月1日付)

「頂上山室打合せ」〔山室衛生〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年6月1日付) ▼▼

「村内意同をまとむ 合併協 県の説明をきく」〔町村合併〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年6月6日付)

「町誌に着手 二年計画で」〔高岡町〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年6月6日付)

「キャンプ申込み多し 今年は団体など大口目立つ」〔田貫湖〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年6月6日付)

「今年も林間学校へ」〔富士宮市観光協会〕〔田貫湖〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年6月14日付)

「観光補助に新工夫 委託料なら適用受けず」〔富士宮市財政〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年6月14日付)

「“サービスはこうやって” 小室さん、講師に」〔富士宮市観光協会〕〔接客業〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年6月14日付) ▼▼

「一日開山祭と総会開く」〔山開き〕〔富士宮市観光協会〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年6月14日付) ▼▼

「浅間神社で第一陣 卅日に強力長ら登山」〔山開き〕〔浅間大社〕(『岳南朝日』1956年=昭和31年6月27日付) ▼▼

「『御来光』撮影 産経ムービーで」(『岳南朝日』1956年=昭和31年6月27日付)



「富士山資料展示会準備 数十点を収集」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年6月30日付）▼▼

「十日からお山のパトロール」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月5日付）▼▼

「吉原山岳会て募集」〔ガラン沢コース〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月5日付）▼▼

「む医地帯の富士山へ 最盛期に保健婦を駐在 富士宮保健所で計画す」〔山室衛生〕〔医療センター〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月11日付）▼▼

「“富士山座談会”を録音」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月11日付）▼▼

「頂上に五〇〇Wの照明 山中電話も開通する」〔山頂電話〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月11日付）▼▼

「島田商高七十五人が登山申込み」〔六合目静岡県営ホテル〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月11日付）▼▼

「富士登山の昔ばなしを拾う 明治まで女人禁制 外人の初登りは英公使」〔オールコック〕〔合目〕〔標高〕〔ご縁年〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月12日付）▼

▼←『伝説富士物語』（小長谷宗芳著、富士宮市観光協会発行、1952年）所収の青木咲子訳「ふじやま行脚」に出てこない事実が各所に見られるのでほかの訳か岳南朝日記者が独自に訳した可能性が高い ←「女人禁制」についての須山口文書は不明

「富士山警備第一陣出発」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月12日付）▼▼

「一度は登ってみたい心のふるさと 今年こそ……富士山頂へ 宮崎ふとん店 頂上ホテル・富士館経営」〔広告〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月12日付）

「登山客毎日ふえる」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月13日付）

「山頂電話開通なる きのう浅間神社へ第一報」〔山頂郵便局〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月13日付）▼▼

「登山団体申込み千八百余り」〔ご縁年〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月14日付）▼▼

「学生混え応援に きのう定光権宮司山頂へ」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月14日付）▼▼

「京都の小学生三十三人が登山申込み」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月14日付）

「健脚老人の照介もある」〔高齢者登山〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月14日付）

「長びく再建団体の指定 計画承認は八月か『自治庁の検討』待つ」〔富士宮市財政〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月18日付）

「境内開放しふる神社 土産品売店断念」〔浅間大社〕〔富士宮市土産品商工業協同組合〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月18日付）▼▼

「大石寺などに交渉か」〔浅間大社〕〔富士宮市土産品商工業協同組合〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月18日付）▼▼

「夏祭りの打合わせ」〔富士宮商工会議所〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月18日付）

「涼気を涼うキャンパー 白糸滝廿日ごろシーズン入」〔白糸の滝〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月18日付）

「田貫で青年キャンプ 六単位団が一泊二日で」〔田貫湖〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月18日付）

「水着撮影会 田貫湖畔で」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月18日付）

「横浜の女高生大挙田貫へ」〔田貫湖〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月18日付）

「溶岩泥に目光らす 北山当局取締りを強化」〔北山村〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月18日付） ▼▼

「荷揚げ人夫暴れる」〔強力〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月18日付） ▼▼

「夏祭りに結論出ず 三競技で助成金減額さる」〔富士宮商工会議所〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月21日付）

「神田川から大腸菌 引続き第二回検査」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月21日付）

「登山客殺到」〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月21日付）

▼▼

「名古屋からも申込み」〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月21日付） ▼▼

「小作地解約の現状“手不足”は表向き 法の無智と義理で泣く小作人」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月29日付） ▼▼

「東京の富士講 白衣で登る」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月29日付） ▼▼

「市有林を公費」〔林道〕〔天照教〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年7月29日付）

▼▼

「日本の富士山を広く紹介 準国宝級がずらり 三競技と時を同じく展示」〔富士山研究会〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年8月4日付） ▼▼

「明治、大正当時の大宮町 曾宮画伯語る」〔曾宮一念〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年8月4日付） ▼▼

「頂上で避暑はいかゞ 下山の祢宜談」〔浅間大社〕〔船津口〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年8月4日付） ▼▼

「大蔵省でもたつく再建計画 八月提出危ぶまる 空転市政に非難」〔富士宮市財政〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年8月15日付）

「展示資料は約六十点」〔富士山研究会〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年8月15日付）

「鷹岡は合併に例外」〔町村合併〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年8月15日付）

「登山客にアンケート」〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年8月29日付）

「優秀な富士宮苗木 県品評会で一、二位を獲得」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年8月30日付）

「近日に登山道認可」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年8月30日付） ▼▼



「知られざる富士口の砂走り 宣伝にも新手が必要 来年は交通の便で売る」〔富士宮口〕〔富士宮口砂走り〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年8月31日付）▼▼

「千二百町歩を造林 富士南東麓の緑化計画」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年9月1日付）

「閉山奉告祭七日に執行」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年9月1日付）

「潤井川の川底をさらう」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年9月15日付）

「村内調整を始む 北山村 合併 部落ごとに説明」〔町村合併〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年9月26日付）

「大石寺の坊 宿泊実態調査」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年9月26日付）▼▼

「再提案再び上提 徴税に妙手ありや 伊藤議員質問に立つ」〔富士宮市財政問題〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年10月5日付）

「十一月中に完成 登山バス道二合目延長」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年10月5日付）▼▼

「四村合併の線強まる 民意の調整に各村慎重」〔北山村〕〔上野村〕〔上井出村〕〔白糸村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年10月5日付）

「西山本門寺が身延派を離脱」（『岳南朝日』1956年＝昭和31年10月5日付）

「スキースケート場適地を発見 二合目沿線に広がる一万坪 だが施設化すれば二千五百万はかゝる」〔スカイライン〕〔富士急〕〔山麓バス〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年10月14日付）▼▼

「富士宮保健所 県観光課に警告 附近の旅館から商売仇の訴えも」〔養鱒所〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年11月30日付）▼▼

「富士山二合目で青年服毒」〔二合目山室〕〔自殺〕（『岳南朝日』1956年＝昭和31年11月30日付）

## ■ 1957年＝昭和32年

「一九五七年の初夢 スケートの天国実現 望月與市氏（市商工課長）」〔スカイライン〕〔二合目〕（『岳南朝日』1957年＝昭和32年1月1日付）

「一九五七年の初夢 富士山博物館建設 望月弘（四中校長）」（『岳南朝日』1957年＝昭和32年1月1日付）

「一九五七年の初夢 十億円の複線化 岩岡正作氏（富士宮駅長）」〔身延線〕（『岳南朝日』1957年＝昭和32年1月1日付）

「白糸二村合併工作に傾注」〔白糸村〕〔上井出村〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1957年＝昭和32年3月10日付）

「山麓に季節外れの大雪 五湖廻りバス運休 除雪車出動」〔五湖巡りバス〕（『岳南朝日』1957年＝昭和32年3月10日付）

「上野派、過半数制す」〔柚野村下柚野〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1957年＝昭和32年3月12日付）

「両派、戸別訪問で説得工作」〔柚野村下柚野〕〔町村合併〕（『岳南朝日』1957年＝昭和32年3月12日付）

「大石寺と合同す 日蓮生地の妙本寺 財政難で」（『岳南朝日』1957年＝昭和32年3月12日付）

「石原一次郎長 誘水ごてる 神成など反対陳情す 不足がちの水源はやれぬ」〔地下水源〕（『岳南朝日』昭和32年5月25日付） ▼▼

「登山道延長25日に完成」〔登山バス〕〔二合目山室〕〔スカイライン〕〔富士宮市観光協会〕〔バス発着所〕（『岳南朝日』1957年＝昭和32年6月22日付） ▼▼

「四日間にわたって運営研開く 青年団初の主要行事」〔富士宮連合青年団〕（『岳南朝日』1957年＝昭和32年6月27日付）

「山開きのお天気はまずい 登山道も荒れる」〔山開き〕〔富士宮山岳会〕〔変わり種登山〕〔富士山測候所〕（『岳南朝日』1957年＝昭和32年6月29日付） ▼▼

## ■ 1958年＝昭和33年（1枚も蔵架されていない）

### ■ 1959年＝昭和34年

「単身で、大沢奥壁に成功 五時間で頂上へ 富士宮山岳会 中央山岳界に発表」〔遠藤晃龍〕〔大沢崩れ〕〔冬季登山〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年1月9日付） ▼▼  
←当時の『岳人』や『山と溪谷』などにこの記録載っているか？

「ことし百ヘクルタ程度か 国有林払下げ 期待外れる」（『岳南朝日』1959年＝昭和34年1月14日付）

「将来の財源づくり 山林に目をつけた富士宮」〔富士宮市財政〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年1月14日付） ←原紙の右端欠落

「成功した救助訓練 2日余の深雪を越えて」（『岳南朝日』1959年＝昭和34年1月21日付）

「新田川（大沢下流）を復旧 五年前の災害にやっと着工」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年1月24日付）

「二合目でスキー大会」〔鷹岡町体育協会〕〔鷹岡町青年団〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年2月6日付） ▼▼

「お化粧する田貫湖 屋根やテラスを塗装」（『岳南朝日』1959年＝昭和34年3月18日付）

「富士駅の着工困難か 富士－西富士複線化運動にも響く 西回り土地買収でもめる」〔身延線〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年3月25日付）

「ニジマスのエ（餌）にメス アイソトープを使って実験 消化状況を調べる 富士養マス場」〔富士養鱒場〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年3月28日付）

「村山の鈴木さんに喜び 見事、県下一を獲得 育林コンクール 火山灰土に打ち勝つ」〔鈴木富士雄〕〔林業〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年3月28日付）

「大沢崩れの調査で判る 意外にひどい落下 砂防えん堤で食い止め」（『岳南朝日』1959年＝昭和34年4月17日付） ▼▼

「二合目の富士 大塚恭則」（『岳南朝日』1959年＝昭和34年4月17日付） ▼▼←原紙の左端欠落

「言いたいほうだい 大社講に一言 一大社講員」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年4月28日付）▼▼

「終点は『新三合目』富士山バスの名称決る」〔スカイライン〕〔登山バス〕〔米配給〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年4月29日付）▼▼

「東京の老社長カゴで登山 きょう調査に来宮」〔高齢者登山〕〔変わり種登山〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年5月8日付）▼▼

「野ネズミに仕掛け 山林荒しに手を焼いて」〔吉原市桑崎〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年5月8日付）▼▼

「『山頂裁判』本格化す“準備公判”も近く終り神社、証人の選考始む」〔浅間大社〕〔山頂裁判〕（『岳南朝日』1959年＝昭和32年5月19日付）▼▼

「日帰り組の溜り場 創価学会 今度は休憩所建設」（『岳南朝日』1959年＝昭和32年5月19日付）

「富士山と観光 実るか雄大な構想 四季を通じ客を呼ぶ」〔富士五湖〕〔スカイライン〕〔三合目〕〔ハチマキ道路〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年6月10日付）▼▼←本文中《二合目一六■七M》は、「登山道視察の一行 寒さにブルブル」（9月5日付）によれば《標高千六百七メートル》である。

「観光協の総会 新年度事業決める」〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年6月10日付）

「“富士マサ”抜き本格化 農林省も力入れ 植松県議ら先進地区視察」〔植松■忠〕〔江藤栄〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年6月10日付）

「田貫水利委決まる」〔田貫湖〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年6月11日付）

「山室の衛生対策協議会」〔山室衛生〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年6月11日付）

「土地取上げは多い 話し合い解決が月七、八件」〔小作地の宅地化〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年6月19日付）

「遭難対策協を結成 きょう関係者が集まり」〔富士宮地区山岳遭難事故防止対策協議会〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年6月19日付）

「観光開発に一つの提案 加藤生」（『岳南朝日』1959年＝昭和34年6月19日付）

「山に生きる五十年 山口老の登山ものがたり」〔山口豊松〕〔富士山表口元祖七合目〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年6月23日付）▼▼

「山開き直後は危険 八合目以上は雪の割れ目 登山者の扱い協議 頭の痛い観光協会」〔残雪〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年6月23日付）▼▼←原紙の左端3段欠落

「登山は10日過ぎから“異常残雪”の対策決る」（『岳南朝日』1959年＝昭和34年6月26日付）▼▼

「手離し期待は危険 国有林払下げ価格はハネ上り」（『岳南朝日』1959年＝昭和34年6月26日付）

「生まれ出る林業研究会 山の青年たちのクラブ活動」（『岳南朝日』1959年＝昭和34年6月26日付）

「裏山に展望台など 田貫湖に家族むき施設」（『岳南朝日』1959年＝昭和34年6月26日付）

「身延線に登山列車二本 国鉄の夏ダイヤ決る」（『岳南朝日』1959年＝昭和34年6

月 27 日付)

「“異常残雪に閉口” 山室の開設おくれる」 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 6 月 28 日付) ▼▼

「汚れた町は観光の恥 山田生」 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 6 月 28 日付「言いたいほうだい」)

「七日 古色豊かなお田植え祭り」〔お田植祭〕〔浅間大社〕 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 6 月 28 日付)

「遭難防止協の第一回協議会」〔富士宮地区山岳遭難事故対策協議会〕 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 7 月 2 日付)

「富士山の天気 (五日) 南西の風弱く、時々雨」 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 7 月 5 日付)

「学生四百人の登頂 日大 本格シーズン入りを飾り」〔集団登山〕 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 7 月 5 日付) ▼▼

「登山バスの安全祈願」〔浅間大社〕 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 7 月 10 日付)  
「標高一千三百に水を求め 中腹に横穴掘抜き 一事業家が観光富士山めあてに」〔富士総合開発〕〔富士山坑道〕〔火山観測〕 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 7 月 10 日付) ▼▼→「横穴井戸あと二百メートル」(1960 年=昭和 35 年 12 月 7 日付) に続報、「火山活動を常時観測」(1982 年=昭和 57 年 10 月 23 日付) に関連記事あり。

「頂上電話開通遅れる」〔落雷〕 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 7 月 11 日付) ▼▼

「オリンピックに備えて富士山の实地踏査 厚生省が来月視察」〔山室衛生〕 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 7 月 18 日付) ▼▼

「はじめての撫育費 放ったらかしの市有林に手入れ」〔林業〕〔富士宮市営林委員会〕 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 7 月 18 日付)

「田貫湖キャンパーで賑わう」 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 7 月 18 日付)

「大石寺坊に課税 市で研究中 違法だ、と寺側は憤慨」〔大石寺宿坊課税〕〔宗教法人課税〕〔創価学会〕 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 7 月 22 日付) ▼▼←「宿坊課税なかばあきらめる」(1960 年=2 月 11 日付)、「“宿坊は課税対象” 自治省」(8 月 20 日付)、「宿坊の課税、政治的に動く」(8 月 21 日付)、「本会議質疑から」(12 月 23 日付) に続報

「言いたいほうだい 場所がまづい接待所 一市民」〔浅間大社無料接待所〕 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 7 月 22 日付) ▼▼

「国立公園協会の白糸滝公園計画 芝川の一部も含める 施設・整備に三億円必要」〔白糸の滝〕 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 7 月 23 日付)

「八年ぶりに登記 富士根の国有林払下げ地」 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 7 月 23 日付) ▼▼

「潤井川下流にゴミ 本州で焼却をやめたため」〔本州製紙発電所〕 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 7 月 23 日付) ▼▼

「富士宮駅の整備にメド 団体待合所を拡張 今月下旬には着工へ」〔創価学会〕 (『岳南朝日』 1959 年=昭和 34 年 8 月 1 日付) ▼▼

「標高六百で地下水にいどむ 人穴で試掘はじまる 十一月に結論 県の総合開発事業」(『岳南朝日』1959年=昭和34年8月8日付)

「水が汚れる大石寺下 上野地区衛生懇談会で訴え」〔創価学会〕(『岳南朝日』1959年=昭和34年8月8日付) ▼▼

「ハチマキ道路を視察 富士山観光に新境地」〔オリンピック〕(『岳南朝日』1959年=昭和34年8月8日付) ▼▼

「近江絹糸取水問題解決す」(『岳南朝日』1959年=昭和34年8月8日付)

「県、地元説得に乗出す 平山放牧場計画」〔平山放牧場〕(『岳南朝日』1959年=昭和34年8月8日付) →「平山放牧場設置また暗ショウへ」(1960年=昭和35年2月26日付) [関連記事あり](#)

「開拓地を一括登記 一戸平均五千円の負担」(『岳南朝日』1959年=昭和34年8月8日付)

「きょう身延線開通へ 富士宮一身延 電話線は一回線だけ」〔富士川台風〕〔豪雨〕(『岳南朝日』1959年=昭和34年8月20日付)

「フラトールで野ネズミ退治 水田の立入り禁止を」(『岳南朝日』1959年=昭和34年8月20日付)

「ゴミに埋もれる富士宮 焼却できず山にポイ 望まれる根本対策」〔富士川台風〕(『岳南朝日』1959年=昭和34年8月22日付)

「井之頭小 ひと足早い新学期 きょうで夏休みも終り」(『岳南朝日』1959年=昭和34年8月22日付)

「学会、専用バス申請 西富士宮駅始点、さしあたり五両で」〔創価学会〕〔大富士開発〕〔山麓バス〕(『岳南朝日』1959年=昭和34年8月29日付) ▼▼

「田貫湖の地調べ」〔かさ上げ〕〔地質調査〕(『岳南朝日』1959年=昭和34年9月1日付)

「富士山頂を水道化する テストで実用の確信 山のグループの念願実る」〔山頂水道〕(『岳南朝日』1959年=昭和34年9月2日付) ▼▼←記事中《テスト工事は去年八月》とあるが、1958年=昭和33年の紙面は1ページも残っていない

「ふえた老人登山者」〔高齢者登山〕〔鶴巻一郎〕〔村山庄兵衛〕〔浜田規一〕〔関口一二三〕〔佐賀乙蔵〕(『岳南朝日』1959年=昭和34年9月4日付) ▼▼

「ふえた老人登山者」(『岳南朝日』1959年=昭和34年9月4日付)

「大石寺に衛生組合 寺で自発的にゴミも焼く」(『岳南朝日』1959年=昭和34年9月5日付)

「登山道視察の一行 寒さにブルブル」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1959年=昭和34年9月5日付) ▼▼

「九割くらい死滅か 山ろくの野鼠退治大成功」〔野ネズミ〕(『岳南朝日』1959年=昭和34年9月18日付)

「富士～西富士宮間 身延線を強める 六輛編成が可能に 富士宮に新たな変電所」(『岳南朝日』1959年=昭和34年10月2日付)

「胎動する第二の軽井沢 朝霧にも手を伸ばす 三社が土地買収を申込み」〔ゴルフ場〕(『岳南朝日』1959年=昭和34年10月9日付)

「駒止めの桜 修復」〔台風〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年10月9日付）  
「今宵はお日待ち みのりの秋の前祝い」〔庚申講〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年10月16日付）▼▼  
「朝霧高原にゴルフ場熱 四か所に口がかかる 次から次の大資本進出」（『岳南朝日』1959年＝昭和34年10月25日付）  
「まだ続く台風の痛手 砂利の採取が不能 富士川の業者が悲鳴」（『岳南朝日』1959年＝昭和34年10月31日付）  
「大宝坊線、開通す 富士根地域の動脈路」（『岳南朝日』1959年＝昭和34年10月31日付）  
「野ネズミ退治補助 富士宮に国が60万円」〔第2次防除〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年10月31日付）  
「きょうで工事完成 祭りを前に国鉄駅」〔富士宮駅〕〔団体待合所〕〔西富士宮駅〕（『岳南朝日』1959年＝昭和34年11月2日付）  
「田貫湖のかさ挙げ一年見送り 堰堤 現状でさえ赤信号 課題は地質の水もれ防止」（『岳南朝日』1959年＝昭和34年11月21日付）

#### ■ 1960年＝昭和35年

「富士雑感 大久保太郎（富士宮市富士根）」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年1月1日付）  
「新年度には実現か 身延線に直通電車乗り入れ」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年1月1日付）  
「新春を富士山頂で 各地の山岳会くり出す」〔正月登山〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年1月1日付）▼▼  
「8,000万円を食い荒す《西富士山ろくの野ねずみ騒動》飛んだ幸わせを招く使者」〔野ネズミ〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年1月1日付）←右端原紙で読めず  
「天保年間に大発生 ねずみ神社もある富士宮」〔野ネズミ〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年1月1日付）←右端原紙で読めず  
「御中道を探ぐるー観光踏査班随行記＝コースは三合目→大沢→船津口 石滝にキモを冷やす 胸に迫るコケモモの赤い実」〔お中道〕〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年1月1日付）▼▼←文中《ハイ松》とあるが、古い記録では強風にはいつくばったカラマツを“這い松”と表現している。富士山にハイマツはいまだに発見されていない。  
「白糸滝観光 生れ変わる苦しみ“生活をうばうのか”苑地建設で売店大恐慌」〔白糸の滝〕〔白糸苑〕〔山麓電鉄〕〔富士急〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年1月8日付）←  
「旅館として申請」（1月31日付）に続報  
「五百~~円~~を緑化 拡大造林計画を協議」〔沼津林業事務所〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年1月9日付）  
「ヤキを入られた大石寺売店 選挙のしめくくりか 本山の印ある商品一切禁止」〔創価学会〕〔選挙〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年1月14日付）▼▼

「流血の水争いに終止符をうつ 北部用水路の大改造 内野に分水口集中 素掘りをコンクリートに」 (『岳南朝日』 1960年=昭和35年1月29日付) →「さようなら水争いの小ぜり合い」 (2月9日付) に続報

「旅館として申請 白糸滝のレストハウス」 [白糸の滝] [白糸苑] (『岳南朝日』 1960年=昭和35年1月31日付) ←「白糸滝観光 生れ変わる苦しみ」 (1月8日付) が第一報、「ホテルは水源地に」 (2月6日付) に続報

「忘れた時分にまた情報とぶ 身延派押かけ」 [大石寺] (『岳南朝日』 1960年=昭和35年2月5日付) ▼▼

「田子浦港の建設急ピッチ 荷役始まる来年度末 まず公共ふ頭から活動」 (『岳南朝日』 1960年=昭和35年2月6日付)

「ホテルは水源地に 山麓電鉄、猪之頭にも布石」 [富士急行] (『岳南朝日』 1960年=昭和35年2月6日付) ←「白糸滝観光 生れ変わる苦しみ」 (1月8日付) が第一報、「旅館として申請」 (1月31日付) に続報

「危険な田貫湖入口橋、架替え」 (『岳南朝日』 1960年=昭和35年2月6日付)

「さようなら水争いの小ぜり合い 馬見塚分水点を改造 協定を結び、近く着工」 (『岳南朝日』 1960年=昭和35年2月9日付) ←「流血の水争いに終止符をうつ」 1月29日付に第一報

「売店設置で物別れ 白糸滝 山麓と売店の交渉」 [白糸の滝] [富士急] [白糸苑] (『岳南朝日』 1960年=昭和35年2月11日付) ▼▼←「白糸滝観光 生れ変わる苦しみ」 (1月8日付) が第一報、「旅館として申請」 (1月31日付) に続報、「ホテルは水源地に」 (2月6日付) に続報

「宿坊課税なかばあきらめる」 [大石寺宿坊課税] (『岳南朝日』 1960年=昭和35年2月11日付) ▼▼

「山頂争いいよいよ法廷へ 次期公判の日取り決る」 [浅間大社] [山頂裁判] (『岳南朝日』 1960年=昭和35年2月17日付) ▼▼

「山頂へ架ける橋 バス会社の企画 表口からヘリコプターで登山」 [山麓電鉄] [富士急行] [堀内一雄] [富士宮市外三町組合伝染病院] [渡辺定信] (『岳南朝日』 1960年=昭和35年2月18日付) ▼▼

「街騒」 [ヘリコプター登山] [山麓電鉄] [山頂裁判] [堀内一雄] [渡辺定信] (『岳南朝日』 1960年=昭和35年2月19日付) ▼▼

「平山放牧場設置また暗ショウへ 一の竹払下げ待った 上野上井出から横ヤリ」 (『岳南朝日』 1960年=昭和35年2月26日付) ←「県、地元説得に乗出す 平山放物場計画」 (1959年=昭和34年8月8日付) 関連記事あり

「星山放水路いよいよ現実化 来年から事業開始へ」 (『岳南朝日』 1960年=昭和35年2月27日付)

「平山放牧場問題好転す」 (『岳南朝日』 1960年=昭和35年3月24日付)

「大石寺の山門がお化粧」 (『岳南朝日』 1960年=昭和35年3月24日付)

「朝霧高原で草競馬 今年も馬てい観音祭典に」 [馬蹄観音] (『岳南朝日』 1960年=昭和35年3月24日付)

「真下に田貫湖が 一般向きの天子ヶ岳」 (『岳南朝日』 1960年=昭和35年4月9日)

付)

「二合目下で植樹祭 富士山緑化のクワ入れ」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年4月9日付)

「花をつけた駒止の桜」(『岳南朝日』1960年=昭和35年4月16日付)

「雪どけ待つ建設 登山バス道、新三合上へ」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年4月17日付) ▼▼

「委員会、山交をおす 芝川-富士宮バス路線で」〔山梨交通〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年4月26日付)

「天照教の春祭り “人魚”のミイラも公開」(『岳南朝日』1960年=昭和35年4月26日付) ▼▼

「十五日から工事続行 登山道延長、標高二千へ」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年5月11日付) ▼▼

「あす登山道視察」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年5月11日付) ▼▼

「工事遅れる白糸苑 県も状況調査」〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年5月11日付) ←原紙の右端読めず

「街騒」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年5月11日付) ▼▼

「二合目に林間学校 市教委 山室利用して」(『岳南朝日』1960年=昭和35年5月14日付) ▼▼ →「約束がちがう運営 教委、少年山の家を再検討」(1961年=昭和36年6月11日付)に続報

「ふくれ上る大石寺境内 隣接の山林、原野とりこみ」(『岳南朝日』1960年=昭和35年5月14日付) ▼▼

「輪くぐり神社再建 予算も大巾に縮小して」〔福石神社〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年5月19日付)

「五合目下に電話を 山中関係者が陳情書」〔山室電話〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年5月19日付) ▼▼

「甲斐でみるより駿河一番(二) 富士山頂問題に寄せて 黒崎日巖(市内安居山東漸寺住職)」(『岳南朝日』1960年=昭和35年5月19日付「言いたいほうだい」) ←(一)掲載のはずの5月18日付は欠号

「水配・水門係決る 芝川水系用水に二十四人」(『岳南朝日』1960年=昭和35年5月25日付) ←原紙の右端欠落

「国有林の払い下げ確実」(『岳南朝日』1960年=昭和35年5月25日付)

「富士シート製作所」〔広告〕〔富士山マークの屋号〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年5月27日付、9月18日付、1961年=昭和36年1月12日付、2月23日付、6月24日付、1964年=昭和39年8月7日付、1965年=昭和40年9月26日付、10月7日付、11月21日付、1966年=昭和41年2月9日付、2月17日付、2月18日付、2月23日付、3月1日付、4月1日付、6月14日付、7月2日付、8月19日付、1972年=昭和47年6月18日付、8月11日付、8月22日付、9月24日付)

「言いたいほうだい 山開きを前にして (一) 黒崎日巖」(『岳南朝日』1960年=昭和35年6月1日付) ←(二) たぶん欠落、6月2日付、4~6日付原紙欠号



「黒田用水に水枯れ 工業用の節約を強制 田植えの終る六月いっぱい」〔農業用水〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年6月9日付)

「確約書を交わす きのう宝山問題、解決」〔国有林払い下げ〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年6月9日付)

「砂ぼこりに悲鳴 登山道わきから舗装陳情」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年6月12日付) ▼▼

「黒田用水汲込み」〔農業用水〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年6月12日付)

「きょう田貫湖水利委」(『岳南朝日』1960年=昭和35年6月12日付)

「きょうから十日間放出 田貫湖を開き植つけ促進」〔農業用水〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年6月14日付)

「草地改良地域に指定 農林省が富士山ろくを」〔大規模草地改良地域〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年6月24日付)

「ひのや」〔富士山マークの屋号〕〔広告〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年6月25日付、7月9日付、10月29日付、昭和36年8月20日付、昭和37年4月17日付、昭和38年1月8日付)

「きょう夏山ふたあけ 登山ブームに期待かけて」(『岳南朝日』1960年=昭和35年7月1日付) ▼▼

[↑この間なぜか富士登山関係の記事まったく見あたらない↓](#)

「お田植祭にぎわう きのう古式豊かな行事」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年7月8日付)

「六百五十畝の適地 37年から大々的に草地改良」〔草地改良〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年7月9日付)

「言いたいほうだい 町を歩いて感じたこと S・S生」〔城山公園〕〔若之宮神社〕〔福石神社〕〔雑草〕〔ゴミ〕〔富士川台風〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年7月9日付) ▼▼

「山中診療所店開き きょうから八合目で」〔衛生センター〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年7月9日付) ▼▼

「言いたいほうだい 農民の救済を 一農民」(『岳南朝日』1960年=昭和35年7月19日付) ▼▼←本文中の《貴紙の報道》は見つからず

「延長道路を測量 廿二日から三合目上で」〔スカイライン〕〔お花畑〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年7月19日付) ▼▼

「“戦後最高”の稼ぎ高 富士山 早くも去年の四倍」〔登山者数〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年7月26日付) ▼▼

「創価学会市政に接近策 市長につぎ市議招待」〔大石寺〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年7月28日付)

「二万六千人が登山 駅の総合調査 七月中の富士宮口」〔富士宮駅〕〔登山者数〕(『岳南朝日』1960年=昭和35年8月2日付) ▼▼

「議会に協力求む 大石寺、きのう議員招待」(『岳南朝日』1960年=昭和35年8月3日付)

「火山石、大もて 庭石として都市へ積出す」(『岳南朝日』1960年=昭和35年8月

3日付)

「所有権争い、核心に入る 神社側の証言聞く あす山頂で実地検証」〔山頂帰属〕〔浅間大社〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年8月4日付）▼▼

「井戸枯れは近絹が原因 野中住民主張」〔近江絹糸〕〔地下水〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年8月4日付）

「“神社の主張は正しい”識者に聞く山頂帰属問題」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年8月5日付）▼▼

「大石寺の自由登山に対処 西町にターミナル構想 専用道路一部は完成」〔創価学会〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年8月15日付）▼▼

「二合目に国民宿舎 県営 二千万円で来年度建設へ」〔富士急〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年8月15日付）▼▼

「七月の田貫湖に一万五千人」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年8月18日付）

「“地下取水に規制を”水の富士宮ももう限度」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年8月19日付）

「浅間神社に新しい火山弾 山頂でみつけ飾る」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年8月19日付）

「“宿坊は課税対象”自治省、一年ぶりの回答」〔大石寺宿坊課税〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年8月20日付）▼▼

「宿坊の課税、政治的に動く 協調にヒビ恐れる 市当局に慎重論強し」〔大石寺宿坊課税〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年8月21日付）▼▼

「頂上水道案も出す 二十万富士登山に新企画」〔頂上ホテル〕〔山頂水道〕〔お中道〕〔富士山博物館〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年8月27日付）▼▼

「引受けた空缶拾い 若もの40人、お山で奉仕」〔清掃登山〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年8月31日付）

「きょう夏山じまい 戦後最高の記録残して」〔登山者数〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年8月31日付）▼▼

「秋のお化粧した富士山ろく」〔写真〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年9月3日付）

「ハウスも外形成る 白糸苑、七分通りできる」〔白糸の滝〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年9月3日付）

「高原社協力会設く 土地ブローカーに対処」〔朝霧高原〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年9月6日付）

「素材生産に重点 富士森林組 再建をはかる」〔富士森林組合〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年9月16日付）

「田貫湖を干上げ 19日から28日まで放水」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年9月16日付）

「北山地区は丸坊主 野ねずみ被害は一千万円に」〔野ネズミ〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年9月21日付）

「補償には応ずる 井戸枯れ 近絹第一回交渉で回答」〔近江絹糸〕〔地下水〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年9月21日付）

「大石寺売店11軒に注意」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年9月21日付）

「三千竈に手まきで 野ねずみ対策きまる」〔野ネズミ〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年9月25日付）

「野に山に人出どっと 飛び石連休に行楽客」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年9月25日付）

「大客殿の設計をはじめる」〔大石寺〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年9月25日付）

「湖水放出30日まで すでに残り水深一・五メートル」〔田貫湖〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年9月18日付）

「工業用取水を調査 地下水利用の現況明らかに」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年10月6日付）

「大岩堤を十倍に アースダムの可能性調査」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年10月9日付）

「山ろくは豊猟予想 解禁前のハンター情報」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年10月9日付）

「黒門に大駐車場 大富士開発KK 学会登山バスを受入れ」〔創価学会〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年10月16日付）▼▼

「富士山を包んだ珍しい笠雲」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年10月21日付）

「街騒」〔大石寺〕〔創価学会〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年10月21日付）▼

▼

「地下水32万ト（日量）消費 大中里、野中、二号などに影響 富士宮全市49社を調査」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年10月24日付）

「観光客 年に98万人 大石寺登山にはかなわない」〔創価学会〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年10月24日付）▼▼

「北山・山宮に水道建設運動 来春の着工めざし地元あげてに乗り出す」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年10月29日付）

「K社、近こうに飛行場建設をねらう 土地の提供を依頼 まず学校、将来は観光事業も」〔朝霧高原〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年11月8日付）→「動く富士山の観光開発」（11月9日付）に続報

「きょう登山バス道調査」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年11月8日付）▼▼

「動く富士山の観光開発 数年で面目一新か 市長も議会も積極的」〔朝霧高原〕〔飛行場〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年11月9日付）▼▼←「K社、近こうに飛行場建設をねらう」（11月8日付）の続報

「来年中に建設へ 山頂水道 富士を愛する会、動く」〔山室衛生〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年12月3日付）▼▼

「国有林払い下げで埋木調査」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年12月3日付）

「冬山訓練に参加して 望月みさ子」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年12月4日付）

▼▼

「田貫湖南に遊園地計画 また申入れ」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年12月7日付）→「三年計画 二億五千万円」（12月8日付）に続報

「横穴井戸あと二百メートル」〔富士総合開発〕〔富士山坑道〕〔火山観測〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年12月7日付） ▼▼ →「標高一千三百に水を求め」（1959年＝昭和34年7月10日付）が第1報、「火山活動を常時観測」（1972年＝昭和57年10月23日付）に関連記事あり

「三年計画 二億五千万円 F社 田貫湖遊園地もくろむ」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年12月8日付） →「田貫湖南に遊園地計画」（12月7日付）に第1報

「十里木道の復活 村山に促進運動起る」〔国道469号?〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年12月10日付） ▼▼

「脚光浴びるイノシシ狩り 西南麓に数十頭 ハンター 犬探しに目の色変える」〔狩猟〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年12月13日付）

「姿変える総本山大石寺 十億の大客殿建設 境内地も二倍に広げて」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年12月20日付） ▼▼

「かさ上げで追加 田貫湖貯水組 予算18万組む」〔田貫湖貯水組合〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年12月21日付）

「週末登山の実態調べ 若人は五湖もかねる 56%が御殿場を下山」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年12月21日付）

「白糸一本栖に有料道路を開く 道路公団が来年中にも着工」（『岳南朝日』1960年＝昭和35年12月22日付）

「本会議質疑から」〔大石寺宿坊課税〕（『岳南朝日』1960年＝昭和35年12月23日付） →一部 ▼▼

## ■ 1961年＝昭和36年

「はかどらぬ酪農試験場予定地の買収 三分の一までは成功 あとは高原社との話合いが…」（『岳南朝日』1961年＝昭和36年1月12日付）

「警官から古物商に 立宿の塩川正吉さん」〔富士宮市資源回収組合〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年1月12日付「牛の歩みの」）

「林業五か年計画作成 地区ごとに指導 造林、管理などこと細かに」〔静岡県林産課〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年1月13日付）

「山頂水道の実現に乗り出す」（『岳南朝日』1961年＝昭和36年1月13日付） ▼▼

「用水を使う大富士駐車場」〔創価学会〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年1月25日付）

「星山放水路ことしは測量」（『岳南朝日』1961年＝昭和36年1月26日付）

「いちご苗 二合目で栽培 富士市がことしから」〔イチゴ苗〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年2月1日付）

「観光地なみの売店 上野大石寺の新町通り」〔創価学会〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年2月23日付「あの町この村④」） ▼▼

「田貫の南湖畔を開発 三年で大遊園地に 高山動・植物園やホテル」〔田貫湖〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年3月8日付）

「イチゴ苗ことしの目標 百二十万本を栽培」〔富士根北部イチゴ苗生産組合〕（『岳南

朝日』1961年=昭和36年3月8日付)

「話合進まぬ富士急、山交 芝川線完成の期待裏切り」〔山梨交通〕(『岳南朝日』1961年=昭和36年4月4日付)

「高原社も田貫湖へ 東の二十里に観光施設」(『岳南朝日』1961年=昭和36年4月26日付)

「野ねずみ退治 活動期を前に消長調査」(『岳南朝日』1961年=昭和36年4月26日付)

「ことしで姿けす 田貫湖の草競馬サヨナラ」(『岳南朝日』1961年=昭和36年4月29日付)

「植松氏、土地開発で警告 高原社の仲買性つく 規制の手をうてと県に要請」〔植松義忠〕〔朝霧高原〕(『岳南朝日』1961年=昭和36年5月3日付)

「富士山ろくの開発を語る 井上靖と知事の対談 きょう新緑の田貫湖で」〔斎藤寿夫〕(『岳南朝日』1961年=昭和36年5月10日付)

「落ちつかぬ酪農家 土地ブローカーの暗躍で」〔朝霧高原〕(『岳南朝日』1961年=昭和36年5月10日付)

「山ろく開発、大いに語る 富士の美を生かせ 井上靖氏 斎藤知事 開発は慎重な仕事」〔斎藤寿夫〕(『岳南朝日』1961年=昭和36年5月11日付)

「『工場誘致』の受入れ 事業局を設け予算をおく」〔工業団地〕(『岳南朝日』1961年=昭和36年5月11日付)

「大沢崩れ対策 議長会で陳情」〔全国市議会議長会〕(『岳南朝日』1961年=昭和36年5月11日付)

「田貫湖、近く着工 ことし中に一里水かさ上ぐ」(『岳南朝日』1961年=昭和36年5月11日付)

「旧射撃場を返還 16里を旧地主と入植者に」〔戦車学校射撃場〕(『岳南朝日』1961年=昭和36年6月8日付)

「二取入口こわされる 公共物破損の疑いで捜査」〔上井出用水〕〔水争い〕(『岳南朝日』1961年=昭和36年6月11日付)

「約束がちがう運営 教委、少年山の家を再検討」(1961年=昭和36年6月11日付)

▼▼←第1報「二合目に林間学校 市教委 山室利用して」(1960年=昭和35年5月14日付)

「スギ、ヒノキ苗全滅の危険 葉ふるい病など大発生 富士宮市 六千万本の八割に症状」(『岳南朝日』1961年=昭和36年6月22日付)

「市案に芝川は難色 きょう芝川町でやしゃぶ交渉」〔水争い〕(『岳南朝日』1961年=昭和36年6月22日付)

「用地売却の地主結束 進路は相談し合って 感慨深い植えおさめ」〔大中里〕〔富士写真フィルム〕(『岳南朝日』1961年=昭和36年6月24日付)

「きょうやしゃぶ審議 芝川町、譲歩の解決か」〔水争い〕(『岳南朝日』1961年=昭和36年6月24日付)

「空の旅はいかが? 富士急行が有料飛行」〔ヘリコプター〕(『岳南朝日』1961年=昭和36年6月24日付)

「佐久間送電線 近く増架工事」 (『岳南朝日』 1961年=昭和36年6月28日付)

「へい獣の捨場九か所に標識」 [斃獣捨て場] (『岳南朝日』 1961年=昭和36年6月28日付)

「富士宮地方の集中豪雨 芝川の本流が氾らん 身延線が不通」 (『岳南朝日』 1961年=昭和36年6月29日付)

「再検討迫られる水害対策 大沢、芝川へ突入 『あわや洪水』までゆく」 [大沢崩れ] (『岳南朝日』 1961年=昭和36年6月30日付) ▼▼

「登山道も流出 新三合目までの運行不可能」 [スカイライン] [登山バス] (『岳南朝日』 1961年=昭和36年6月30日付) ▼▼

「国有林払下げ 山宮と人穴団地」 (『岳南朝日』 1961年=昭和36年6月30日付)

「身延線26時間ぶりで復活」 (『岳南朝日』 1961年=昭和36年6月30日付)

「きょう婦人会が宝永火口に登山」 (『岳南朝日』 1961年=昭和36年6月30日付)

「田貫湖入口の道崩れを視察」 (『岳南朝日』 1961年=昭和36年7月11日付)

「夏山最盛期を登る 恋しい陽のぬくもり “冷房銀座”は若さがいっぱい」 (『岳南朝日』 1961年=昭和36年7月30日付)

「しゃくなげは咲き乱れる」 [シャクナゲ] [お中道] (『岳南朝日』 1961年=昭和36年7月30日付)

「きれいになった登山道」 [ゴミ問題] (『岳南朝日』 1961年=昭和36年7月30日付)

「大沢崩れ大崩落」 (『岳南朝日』 1961年=昭和36年8月1日付) ▼▼

「ハデになる服装 消費ブームで流行色」 (『岳南朝日』 1961年=昭和36年8月2日付「移り変わる富士②」)

「富士フィルムはどこへ 問題は」マス池補償だけ 会社は買収で一切を解消したい」 [富士フィルム] (『岳南朝日』 1961年=昭和36年8月11日付)

「東側にもホテル 高原社の田貫湖開発」 (『岳南朝日』 1961年=昭和36年8月11日付)

「登山バスダイヤ きょうから半減」 (『岳南朝日』 1961年=昭和36年8月11日付)

「富士フ 逃げるか来るかの分れ道 用地費圧縮の可否にかかる」 [富士フィルム] (『岳南朝日』 1961年=昭和36年8月13日付)

「夏山最後の山室検査終る 清掃されたゴミ」 [ゴミ問題] [山室衛生] (『岳南朝日』 1961年=昭和36年8月13日付)

「努力も空し? 市民体育祭 村部、そっぽを向く 富士根地区は同じ日に農協運動会」 (『岳南朝日』 1961年=昭和36年8月30日付)

「大石寺 事務所、寮を移転 二億二千万円かけて」 (『岳南朝日』 1961年=昭和36年8月30日付)

「倒れそうな大岩の火の見やぐら」 [小長谷宗芳] (『岳南朝日』 1961年=昭和36年8月30日付)

「宿坊、収容力四倍に 一万六千人が宿泊できる」 [大石寺] (『岳南朝日』 1961年=昭和36年9月22日付)

「太石寺防火を整備 施設強化など自衛力強化」 [大石寺] (『岳南朝日』 1961年=昭和36年9月29日付)

「林道で来年つなぐ 十里木めぐりコース」〔国道469号〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年10月11日付）▼▼

「鉄工団地を検討」〔工業団地〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年10月11日付）

「取入口改造に七百万円 芝川水利を合理化 本流六堰、十二月に着工」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年10月14日付）

「あて外れの区有地造林 ぼさ下の交渉」〔上井出〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年10月14日付）

「富士の美しさ求め 野中に岡田紅陽の撮影場」（『岳南朝日』1961年＝昭和36年10月14日付）▼▼

「南富士に大学建設 山下太郎氏が市と覚書」〔北山財産区〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年10月15日付）

「紅葉間近い白糸の滝 行楽客で連日の賑わい」〔写真〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年10月15日付）

「山川市長、開発の活況に見解 “数年は飛躍的發展” 殺到する資本家を選択する」（『岳南朝日』1961年＝昭和36年10月25日付）

「山鳥、ウサギよし 解禁を待つハンター」（『岳南朝日』1961年＝昭和36年10月25日付）

「モミジやコケモモをたむけ 東高登山部下山」〔大沢崩れ〕〔内藤敬子〕〔富士宮東高校〕〔遭難〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年10月25日付）▼▼←この遭難の詳細は不明

「大石寺に総合計画委員会」（『岳南朝日』1961年＝昭和36年11月11日付）

「山頂裁判審理おわる 来年三月に判決 きのうち名古屋地裁言渡す」〔浅間大社〕〔山頂裁判〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年11月15日付）▼▼

「用地問題の見通しはよい」〔工業団地〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年11月15日付）

「栗倉分校の教員住宅完成」〔富士根北小〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年11月18日付）▼▼

#### 【本文中の促音活字「っ」が小さくなる】

「一億円の負担となった富士フ 誘致、市財政を圧迫」〔富士フィルム〕（『岳南朝日』1961年＝昭和36年12月3日付）

「冬山の楽しさを味わう」（『岳南朝日』1961年＝昭和36年12月3日付）

「火入れ一斉に 山ろく三万社の防火線」（『岳南朝日』1961年＝昭和36年12月6日付）▼▼

#### ■ 1962年＝昭和37年

「あいついでイノシシ狩り 新年そうそう山ろくで」〔富士宮猟友会〕（『岳南朝日』1962年＝昭和37年1月1日付）

「初日の出を山頂で 富士山、登山者でにぎわう」〔冬季登山〕（『岳南朝日』1962年＝昭和37年1月1日付）▼▼

「三カ日の初詣 五万人を予想 富士宮浅間神社」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1962年=昭和37年1月1日付）

「富士高、きょう冬山訓練に出発」〔富士高校〕〔冬季登山〕（『岳南朝日』1962年=昭和37年1月5日付）▼▼

日付）

「『魅力ある下山』の構想 有料道路につなぐ 登山客を西ろくに誘致」〔周遊道路〕〔スカイライン〕〔富士宮道路〕（『岳南朝日』1962年=昭和37年1月24日付）▼▼

「富士山研究を集中=市長が会の結成を提唱」〔山川斌〕〔富士山に関する研究会〕〔博物館〕（『岳南朝日』1962年=昭和37年1月24日付）▼▼

「24日から測量 大規模草地」〔草地改良〕（『岳南朝日』1962年=昭和37年1月24日付）

「田貫湖結氷状況（27日午後4時現在）」（『岳南朝日』1962年=昭和37年1月28日付）

「スケート・リンク 観光委 二合目につくりたい」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1962年=昭和37年2月24日付）▼▼

「学会輸送を強化 富士急、特殊輸送事務所を新設」〔創価学会〕（『岳南朝日』1962年=昭和37年3月4日付）

「富士根住民 バス路線の延長を陳情」（『岳南朝日』1962年=昭和37年3月11日付）▼▼

「富士山頂の帰属裁判 判決を27日に延期 きのう名地裁が決める」〔山頂裁判〕〔浅間大社〕（『岳南朝日』1962年=昭和37年3月14日付）▼▼

「文化財条例を提出 新予算六万三千元とともに」（『岳南朝日』1962年=昭和37年3月14日付）▼▼

「穏やかだった春分の日 白糸の滝に三千人 春雨に墓地も洗われて」

「赤心隊の略史を再建 子孫の手で初の慰霊祭も」（『岳南朝日』1962年=昭和37年3月22日付）▼▼

「八合目以上を境内地と認める 浅間神社、ついに勝訴 判決理由も主張通り」〔山頂裁判〕〔浅間大社〕（『岳南朝日』1962年=昭和37年3月28日付）▼▼

「よかった、よかった！ 責任も持って保護を…と市長」〔山頂裁判〕〔浅間大社〕〔山川斌〕（『岳南朝日』1962年=昭和37年3月28日付）▼▼

「富士宮の市域さらに広がる 境内地の判決で」〔山頂裁判〕〔浅間大社〕（『岳南朝日』1962年=昭和37年3月28日付）▼▼

「風致守る運営委 浅間神社側、抱負を語る」〔山頂裁判〕〔浅間大社〕〔定光昭〕（『岳南朝日』1962年=昭和37年3月29日付）▼▼

「四合目へあと二キ。登山バス道、来年で完成」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1962年=昭和37年3月29日付）▼▼

「富士山頂問題、新局面へ 国側、控訴を決める 定光権宮司“譲与するまで対決する”」〔山頂裁判〕〔浅間大社〕〔定光昭〕（『岳南朝日』1962年=昭和37年4月6日付）▼▼

▼▼

「文化財専門委員は広く選考」（『岳南朝日』1962年=昭和37年4月6日付）



「始った難物“マサ土征伐” 大型ブル四台で日に一畝バリバリ砕く」〔草地改良〕（『岳南朝日』1962年＝昭和37年4月7日付）

「富士山を緑一色に 国有地に38万本を植樹」（『岳南朝日』1962年＝昭和37年4月7日付）

「星山放水路は地元調整段階」（『岳南朝日』1962年＝昭和37年4月7日付）

「下馬桜15日が満開 台風から見事、立直る」（『岳南朝日』1962年＝昭和37年4月10日付）

「近づく天照教の春まつり 桜も見ごろに」（『岳南朝日』1962年＝昭和37年4月17日付）

「遅れる富士フの着工 農林省にお百度 農地転用を渋られる」（『岳南朝日』1962年＝昭和37年4月18日付）

「富士山で入浴も 山頂水道の実現へ」〔宮崎利夫〕（『岳南朝日』1962年＝昭和37年4月18日付）▼▼

「富士山頂に戸籍を これにはおどろいた申請 結局は裁判待ち？」〔山頂帰属〕〔高原啓道〕（『岳南朝日』1962年＝昭和37年4月21日付）▼▼

「富士根への給水計画勧める」（『岳南朝日』1962年＝昭和37年4月21日付）

「“有料道路”消す 登山道修理に県負担」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1962年＝昭和37年4月21日付）▼▼→続報は「最盛期は一方通行 登山道の混雑を防ぐ」（7月5日付）、「登山バス、一合目で不通」（7月24日付）にあり

「富士山はまだ早春 雪どけの清水が流れ」（『岳南朝日』1962年＝昭和37年5月8日付）

「登山道工事を再開 新三合目上から一ヶ。延長」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1962年＝昭和37年5月17日付）▼▼

「『汚ない富士』を返上 富士宮口 三百五十人の大清掃 県、山岳会員を中心に」〔静岡県を美しくする本部〕〔ゴミ問題〕（『岳南朝日』1962年＝昭和37年5月23日付）

「来月二日に出発 登山宣伝のキャラバン」（『岳南朝日』1962年＝昭和37年5月23日付）

「美しい風景に感嘆 インドネシアの留学生来ろく」（『岳南朝日』1962年＝昭和37年5月23日付）←原紙右端数行読めず

「白糸の滝でガケくずれ 大滝の左側が30m<sup>ほど</sup> 地響きたてて岩盤落下 滝つぼ立入禁止」（『岳南朝日』1962年＝昭和37年5月24日付）

「富士山頂電話こしも開設 7月10日から」（『岳南朝日』1962年＝昭和37年6月2日付）

「きょう出発 キャラバン隊」（『岳南朝日』1962年＝昭和37年6月2日付）

「衛生センター調査 開山前に設備を整える」（『岳南朝日』1962年＝昭和37年6月3日付）

「クズカゴなども設置 富士山大掃除 具体的な行事きまる」〔静岡県をきれいにする運動本部〕〔ゴミ問題〕（『岳南朝日』1962年＝昭和37年6月6日付）

「にぎわった冬の富士山 雪山に八百人登る 富士宮口 県内外から164パーティー」〔冬季登山〕〔営林署山小屋〕〔検問所〕〔富士宮市遭難対策協議会〕（『岳南朝日』

1962年=昭和37年6月18日付) ▼▼

「浅間神社 ことし25万枚 山開き前にお守りづくり」〔浅間大社〕〔開山準備〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年6月18日付)

「山岳遭難対策決る 登山者に注意書配布など」〔富士宮地区山岳遭難対策協議会〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年6月30日付)

「準備ほとんど終る あす富士、山開き」〔開山準備〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年6月30日付)

「灘尾厚相ら来ろく 近づく富士山の清掃登山 元気に“実地勉強”きのう主婦百二十人登山」〔ゴミ問題〕〔灘尾弘吉〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月4日付)

「山室の衛生監視日どり決る」〔山室衛生〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月4日付) ←原紙の右端何行か読めず

「元気に“実地勉強” きのう主婦百二十人登山」(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月4日付)

「山室の衛生監視日どり決る」〔山室衛生〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月4日付)

「最盛期は一方通行 登山道の混雑を防ぐ」〔スカイライン〕〔登山バス〕〔交通規制〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月5日付) ▼▼←第一報は「“有料道路”消す登山道修理に県負担」(4月21日付)、続報は「登山バス、一合目で不通」(7月24日付)にあり

「きょう富士山大掃除 富士宮口に総本部置く」〔ゴミ問題〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月7日付)

「10カ所に山室電話を敷設」(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月7日付) ▼▼

「お山のサービス機関活動 最盛期迎える富士登山」〔電話〕〔郵便局〕〔警官詰め所〕〔衛生センター〕〔富士宮市立病院〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月10日付)

▼▼

「オート三輪4台分 富士山の大掃除の成果」〔ゴミ問題〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月10日付)

「フジヤマの清掃 植松芳男」〔ゴミ問題〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月10日付「わたしの発言」)

「富士宮-富士山頂 夏山電話が開通 納涼だより第一報」〔郵便局〕〔高齢者登山〕〔幼児登山〕〔ゴミ問題〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月11日付)

「無人駅には反対運動 源道寺駅計画で当局答弁」〔身延線〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月15日付)

「週末に登山者三千くり込む 今夏初の賑わい」(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月15日付)

「放射能対策を検討 山頂揚水の管理は良好」〔山頂水道〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月17日付) ▼▼

「富士登山 富士宮口 今夏最高を予想 手ぐすねひく山室業者」〔登山者数〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月21日付)

「田貫湖でワンダリング指導 高校生対象に」〔ワンゲル〕(『岳南朝日』1962年=

昭和 37 年 7 月 21 日付)

「登山バス、一合目で不通 悪路に補修費使い果す 観光協会 登山者の非難に困る」〔スカイライン〕〔登山自動車組合〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月24日付) ▼▼

←第1報は「“有料道路”消す 登山道修理に県負担」(4月21日付)、続報は「最盛期は一方通行 登山道の混雑を防ぐ」(7月5日付)にあり、さらに続報が「天候、今夜中に回復 富士山・人出最高を記録か」(7月28日付)、「登山道修理費の負担割決る」(8月12日付)にあり

「田貫湖も工事で車が入れず」(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月24日付)

「むりなスケジュールで登山中の病人続出 衛生センター 職員徹夜でくたくた」(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月26日付)

「斎藤知事、大石寺を訪れる」〔斎藤寿夫〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月26日付) ▼▼

「ジャンボリーに百四十人参加」〔滝ヶ原〕〔ボーイスカウト〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月26日付)

「消えていく“お花畑”土砂くずれで傷めつけられる 他所への移植計画も」〔フジアザミ〕〔レンゲツツジ〕〔富士宮市観光協会〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月28日付) ▼▼ ←場所はどこだろう？ 今日富士宮口新五合目付近に、フジアザミやレンゲツツジがあったとは考えられない

「天候、今夜中に回復 富士山・人出最高を記録か」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月28日付) ▼▼

「駅弁売りお目見え きょうから富士宮駅に」〔身延線〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月28日付)

「大石寺、旧信徒一まとめに きょう法華講連合結成 創価学会とならぶ団体」(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月31日付) ▼▼

「天母山は大石寺へ きょう議会で売却きめる」〔天母山法華道場〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年7月31日付) ▼▼

「あす結団式 アジアジャンボリーの富士宮 BS」〔滝ヶ原〕〔ボーイスカウト〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月1日付)

「2万5千人が登る 天気に恵まれなかった富士山 業者は“8月山”に期待」〔富士宮口登山事務所〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月1日付) ▼▼

「田舎では盆道作り 部落が総出でにぎやか」(『岳南朝日』1962年=昭和32年8月2日付) ▼▼

「ゴミ箱背負い農高生が登山」〔富士宮農高〕〔ゴミ問題〕(『岳南朝日』1962年=昭和32年8月2日付)

「幅四のの大センス 登山者が奥の宮に奉納」〔浅間大社奥宮〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月5日付)

「白糸の滝 ガケ崩れ再び活動 滝上の樹木倒れ落ちる」(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月5日付)

「白糸の滝 業者とのはなし合いつく 統一組合を新発足 七軒、テントを取り払う」(『岳

南朝日』1962年=昭和37年8月12日付) ▼▼←同日付「街騒」に詳しい経緯あり  
「登山中に少女急病」〔三合五勺山室〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月12日付)  
「へい獣捨て場に標識を立つ」〔斃獣捨て場〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月12日付)  
「参集所が旅館に? 『みんなわが子』のロケ」〔浅間大社〕〔学童疎開〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月12日付)  
「登山道修理費の負担割決る」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月12日付) ▼▼←第1報は「“有料道路”消す 登山道修理に県負担」(4月21日付)、続報は「最盛期は一方通行 登山道の混雑を防ぐ」(7月5日付)にあり、さらに続報が「登山バス、一合目で不通 悪路に補修費使い果す」(7月24日付)、「天候、今夜中に回復 富士山・人出最高を記録か」(7月28日付)にあり  
「街騒」(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月12日付) ▼▼←同日付「白糸の滝 業者とのはなし合いつく」に結末あり  
「開発訓練所誘致で上京」〔青年中央訓練所〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月21日付)  
「夏山はもう終り きのおサービス機関店閉い」〔電話〕〔郵便局〕〔警官詰め所〕〔登山者数〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月21日付)  
「白糸の滝を調査 法大地理学科の学生」〔浅井達部〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月21日付)  
「少なくなる浅間の森のセミ」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月21日付)  
「富士登山の歴史②大宮口と村山口 遠藤秀男」(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月22日付) ←8月13~20日付の原紙欠落、8月23日付は2面がなく、24日付はそっくり欠落のため①③④が不明  
「行楽客のお行儀採点 お山のモラルはやや向上」〔ゴミ問題〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月25日付)  
「富士登山の歴史⑤富士講 遠藤秀男〔終〕」(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月25日付)  
「お祭り騒ぎの青年グループ 田貫湖キャンプ場 他人の迷惑知らん顔」(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月25日付)  
「台風の置きみやげ 白糸の滝で避難騒ぎも」(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月28日付)  
「さんざんな目にあった行楽地」〔白糸の滝〕〔田貫湖〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月28日付)  
「登山税を設置せよ 寺田政弘」〔入山料〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年8月28日付「私の発言」)  
「富士フ、農転審査通る 十月中旬に起工式 操業は来年の八月」〔富士フィルム〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年9月1日付)  
「登下山者は4万人=夏山よ、さようなら=富士宮口 天候に恵れず10%減」〔登山者数〕

(『岳南朝日』1962年=昭和37年9月1日付)

「開拓は訓練所を条件誘致」〔青年中央訓練所〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年9月29日付)

「イチゴ苗を出荷 富士根北から久能へ」(『岳南朝日』1962年=昭和37年9月29日付)

「大石寺 ふたつの新たな計画 本山境内地を二倍化 天母山に宗教博物館や公園」〔創価学会〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年10月3日付) ▼▼

「身延線の改善計画発表 まず準急の新設など 将来は六両編成通勤車も」(『岳南朝日』1962年=昭和37年10月7日付) ←一部 ▼▼

「長びく農繁期に 7千人をやりくりと省力で」(『岳南朝日』1962年=昭和37年10月7日付)

「富士山に根雪 四合目以上真っ白」(『岳南朝日』1962年=昭和37年10月16日付)

「富士山の周遊道路計画 夢の“雲海ドライブ” 調査班大沢など視察」〔ハチマキ道路〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年11月7日付) ▼▼

「初冬の富士登山 高校生二百人がいどむ」〔静岡県高校体育連盟〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年11月9日付)

「開発訓練所の契約、月内に」〔青年中央訓練所〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年11月15日付)

「山梨はモグラケーブルに執着」(『岳南朝日』1962年=昭和37年11月15日付) ▼▼

「富士登山 三中二年五組 小林葉子 つづく」(『岳南朝日』1962年=昭和37年11月20日付「第三回岳南朝日作文コンクール入賞作品」)

「境内の指導を廃止 大石寺、代りに周回道路」(『岳南朝日』1962年=昭和37年11月20日付)

「富士登山 三中二年五組 小林葉子 おわり」(『岳南朝日』1962年=昭和37年11月22日付「第三回岳南朝日作文コンクール入賞作品」)

「山岳会が富士山で雪中訓練」〔富士宮山岳会〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年11月22日付)

「ハチマキ道路の完成を三市二町が促進協を結成 山ろく開発の足がかり」〔富士山周遊道路計画〕(『岳南朝日』1962年=昭和37年11月23日付) ▼▼

「白糸の滝に虚子の句碑 きょう記念の除幕式 “花見にと馬に鞍置く心あり”」(『岳南朝日』1962年=昭和37年11月25日付)

「田貫放水口を修理 堰堤の補強工事進む」(『岳南朝日』1962年=昭和37年12月9日付)

「大石寺が境内周回に新道路」(『岳南朝日』1962年=昭和37年12月15日付)

「東西に走る道路 富士根に農地保全事業」(『岳南朝日』1962年=昭和37年12月22日付)

「七地区にろ過装置 放射能雨の障害ふせぐ」(『岳南朝日』1962年=昭和37年12月22日付)

「雪で一週間の遅れ 西富士山ろくの火入れ」〔防火線〕(『岳南朝日』1962年=昭

和 37 年 12 月 22 日付)

「富士山山頂裁判 一審では勝ったが帰属に神社の生命かける」 (『岳南朝日』 1962 年=昭和 37 年 12 月 22 日付「この」一年①)

「富士山周辺の組織と結びつく 野鳥の会」 [日本野鳥の会] (『岳南朝日』 1962 年=昭和 37 年 12 月 22 日付)

## ■ 1963 年=昭和 38 年

「森林組合を統合 近く関係者が話し合い」 [芝川町森林組合] [富士森林組合] (『岳南朝日』 1963 年=昭和 38 年 1 月 1 日付) ←原紙の左端 1 行分欠落

「初日の出を山頂で 富士宮口、登山者相次ぐ」 (『岳南朝日』 1963 年=昭和 38 年 1 月 1 日付) ←原紙の左端 2 段分欠落

「新春の宝永山で遭難 一人死亡、三人重傷 雪渓を渡る途中火口へ ザイル結んだまま V 字型になって滑落 将来を期待された彫刻家」 [江尻広海] (『岳南朝日』 1963 年=昭和 38 年 1 月 5 日付) ▼▼

「初詣の参拝客は四万四千人 三ガ日の浅間神社」 [浅間大社] (『岳南朝日』 1963 年=昭和 38 年 1 月 5 日付)

「“宗教都市” 建設に踏出す 境内を三倍に広げる 高校、墓地など諸施設造成」 [大石寺] (『岳南朝日』 1963 年=昭和 38 年 1 月 6 日付)

「水道管破裂が続出 山ろくに寒波 田貫湖はスケート可能」 (『岳南朝日』 1963 年=昭和 38 年 1 月 8 日付)

「富士根北小学校焼く 八教室を全半焼 授業中の生徒は無事」 (『岳南朝日』 1963 年=昭和 38 年 1 月 13 日付)

「二万人登山の受入れ 大駐車場や宿坊 大石寺の三年計画」 (『岳南朝日』 1963 年=昭和 38 年 1 月 13 日付) ▼▼

「鉄工団地に認可 26 企業が中の原に移転」 (『岳南朝日』 1963 年=昭和 38 年 1 月 13 日付)

「白糸の滝に“氷の花” いすわる寒波に被害続出」 (『岳南朝日』 1963 年=昭和 38 年 1 月 18 日付)

「自然リンク賑わう 寒波歓迎の田貫湖」 (『岳南朝日』 1963 年=昭和 38 年 1 月 22 日付)

「無謀登山者引戻す 富士宮署員が緊急出動」 [遭難] (『岳南朝日』 1963 年=昭和 38 年 1 月 22 日付) ▼▼

「“ヤマを売っても……” 小中学校の改築整備」 [富士根北小] (『岳南朝日』 1963 年=昭和 38 年 1 月 22 日付)

「滝の東に駐車場 県が開設を検討中」 [白糸の滝] (『岳南朝日』 1963 年=昭和 38 年 1 月 22 日付)

「平等寺の山門 後藤清吉郎」 (『岳南朝日』 1963 年=昭和 38 年 1 月 25 日付「フジノミヤスケッチ」)

「朝霧高原の富士 えと文 大塚泰則」 (『岳南朝日』 1963 年=昭和 38 年 2 月 10 日

付「フジノミヤスケッチ」)

「日本一の台風観測レーダー 富士山頂に建設きまる」〔富士山レーダー〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年2月15日付) ▼▼

「とり残されては 表口の登山道改良を陳情」〔スカイライン〕〔スバルライン〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年2月15日付) ▼▼

「朝霧を愛す 絵と文 つばいしげる」(『岳南朝日』1963年=昭和38年2月15日付「フジノミヤスケッチ」)

「富士の雲 望月誠」(『岳南朝日』1963年=昭和38年2月16日付「随想」)

「悲しみに負けないで 清水から北小に義援金」〔富士根北小〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年2月20日付)

「富士の巻狩り(上) 遠藤秀男」(『岳南朝日』1963年=昭和38年2月20日付「伝説往来 頼朝とその周辺」)

「スケートに代つてワカサギ」〔田貫湖〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年2月20日付)

「産業訓練開発所の建設 四月ごろ工事に着手 将来は四億円かけ整備」〔青年中央訓練所〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年2月21日付)

「富士の巻狩り(下) 遠藤秀男」(『岳南朝日』1963年=昭和38年2月21日付「伝説往来 頼朝とその周辺」)

「山頂帰属裁判の後半を延期」〔山頂裁判〕〔名古屋高裁〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年3月9日付)

「フィリア病検査 県が柚野地区二千人に」〔風土病〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年3月9日付)

「夏山準備はじめる 宣伝、受入れ対策協議」〔夏山富士山宣伝受け入れ連絡打ち合わせ会〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年3月17日付)

「夏を待つキャンプ場 田貫湖に簡易ハウス 新型ボートもお目見え」(『岳南朝日』1963年=昭和38年4月27日付)

「ことし最高の人出 連休に山ろくへ五万人」〔春山登山〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年4月30日付) →一部 ▼▼

「高架の問題で難航 身延線西回りの交渉大詰め」〔潤井川〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年5月11日付)

「大石寺環状線完成 きのう盛大な開通式」(『岳南朝日』1963年=昭和38年5月11日付)

「百二十五種類住む 富士山の野鳥分布調査」(『岳南朝日』1963年=昭和38年5月15日付)

「登山客輸送に万全 臨時電車二本増発」〔夏山登山〕〔登山バス〕〔スカイライン〕〔身延線〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年6月18日付) ▼▼

「遅れる新登山道の復旧工事 山開きに支障か 望まれる県の根本対策」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年6月20日付) ▼▼

「身延線西回り全面解決」〔潤井川〕〔高架〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年6月21日付)

「ヘリコプターで荷上げ開始 山頂レーダー基地建設」〔富士山レーダー〕（『岳南朝日』1963年=昭和38年6月27日付） ▼▼

「山室が荒される 冬山登山者のしわざ？」〔胸突山荘〕〔伊藤荒吉〕〔山室荒らし〕（『岳南朝日』1963年=昭和38年6月27日付） ▼▼

《山室が荒される 冬山登山者のしわざ？

「登山道を交通規制 大型車乗入れ禁止 最盛期には一方通行」〔交通規制〕〔スカイライン〕（『岳南朝日』1963年=昭和38年6月29日付） ▼▼

《登山道を交通規制 大型車乗入れ禁止 最盛期には一方通行

「街騒」〔スカイライン〕〔モグラケーブル〕（『岳南朝日』1963年=昭和38年6月29日付） ▼▼

「観光協会の新年度計画決る」〔富士宮市観光協会〕〔富士山周遊道路〕（『岳南朝日』1963年=昭和38年7月2日付） ←ハチマキ道路のことかもしれない

「バカンスブームの山開き 一番バスに75人 富士宮口 去年の三倍の登山客」〔開山祭〕（『岳南朝日』1963年=昭和38年7月2日付） ▼▼

「新三合目でストップ 陸運局の認可がおりず」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1963年=昭和38年7月2日付） ▼▼

「街騒」〔交通規制〕〔スカイライン〕（『岳南朝日』1963年=昭和38年7月2日付） ▼▼

「京大医学部の医師ら勤務 富士山衛生センター」（『岳南朝日』1963年=昭和38年7月7日付） ▼▼

「雲海を足下にみる登山客 富士宮口八合目付近」〔写真〕（『岳南朝日』1963年=昭和38年7月7日付）

「富士山初の賑わい」（『岳南朝日』1963年=昭和38年7月7日付）

「街騒」〔清掃登山〕〔戦後最高〕（『岳南朝日』1963年=昭和38年7月7日付） ▼

「山頂電話開通」（『岳南朝日』1963年=昭和38年7月12日付）

「新五合、手にとるよう お山は快晴、春の気候」（『岳南朝日』1963年=昭和38年7月14日付）

「三千人がくりこむ=バス三十台で輸送」〔登山バス〕（『岳南朝日』1963年=昭和38年7月14日付）

「(写真) 頂上で迎えるご来光」〔写真〕（『岳南朝日』1963年=昭和38年7月14日付）

「発病の登山客救出」〔遭難〕〔富士山衛生センター〕（『岳南朝日』1963年=昭和38年7月16日付）

「田貫湖キャンプ場の新委員」（『岳南朝日』1963年=昭和38年7月16日付）

「雷鳥の生息調査 25日登山 山ろくの野鳥の会で」〔ライチョウ〕〔日本野鳥の会〕（『岳南朝日』1963年=昭和38年7月19日付）

「今夏最高のにぎわいか 四千五百人が登山 行列切れない富士宮口」（『岳南朝日』1963年=昭和38年7月21日付）

「殆ど注意受く 山室の衛生検査」〔山室衛生〕（『岳南朝日』1963年=昭和38年7



月 21 日付) ▼▼

「12 市中に広げて 登山道に二二〇万円」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 7 月 26 日付) ▼▼

「六千人の登山を予想 富士宮口 夏休み入りの週末で」(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 7 月 27 日付)

「本館工事を開始 根原訓練所あす地鎮祭」〔青年中央訓練所〕(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 7 月 31 日付)

「半日かけて盆道 きノウ農村部は一斉に」(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 8 月 2 日付)

「白糸の滝でマス供養」(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 8 月 2 日付) 「四千人を予想 週末登山」(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 8 月 3 日付)

「天然の冷房完備 にぎわう白糸の滝」〔写真〕(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 8 月 3 日付)

「西富士山ろくを総合調査 官庁都市移転に関連か 建設省がきょうから実施」(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 8 月 6 日付)

「山室を巡視」〔国立公園地域調査〕(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 8 月 6 日付)

「さびしいお中道 高山植物だけが咲乱る」〔スバルライン〕(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 8 月 7 日付)

「六百人が利用する 衛生センター店閉い」(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 8 月 10 日付)

「人騒がせな登山者 頭のおかしい男保護」〔遭難〕(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 8 月 11 日付) ←原紙の右端 1 行読めず

「夏山に名残り惜しむ 週末に富士山へ三百人」(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 8 月 18 日付)

「Xマスには店頭へ イチゴ苗の移植真っ盛り」〔富士根北部農協〕(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 8 月 21 日付)

「富士史談会例会」(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 8 月 21 日付)

「売上げ 20%伸びる 山頂郵便局の総決算」(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 8 月 22 日付)

「田貫湖の竣工式」(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 8 月 22 日付)

「崩壊つづく大沢くずれ 心細い治山治水対策」〔大沢崩れ〕〔土煙〕(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 8 月 27 日付) ▼▼

「山頂の運営管理を改善 諮問機関を設ける浅間神社 国民感情や公共性を尊重」〔浅間大社〕〔山頂裁判〕(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 9 月 3 日付) ▼▼

《山頂の運営管理を改善 諮問機関を設ける浅間神社 国民感情や公共性を尊重

「山室業者 白馬岳を視察 サービス改善に役立つ」〔伊藤荒吉〕〔望月喜儀〕(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 9 月 6 日付)

「大部屋から個室時代へ 白馬視察 山小屋の大型化痛感」〔伊藤荒吉〕(『岳南朝日』1963 年=昭和 38 年 9 月 12 日付)

「大鳥居に存廃論 創価学会は取除け希望」〔大石寺〕〔大鳥居〕(『岳南朝日』196

3年=昭和38年9月12日付) ▼▼

「ホームを12両停車可能に 身延線 輸送強化きまる」(『岳南朝日』1963年=昭和38年9月15日付) ▼▼

「文化財保護名ばかり 年間予算わずか二万円」〔富士宮市文化財保護委員〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年9月15日付)

「山小屋に影響、大ケーブル案に不安の色」〔モグラケーブル〕〔富士急〕〔富士山表口山内組合〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年9月17日付) ▼▼

「車両制限、九路線が該当 このままだとバス廃止」〔車両制限令〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年9月28日付) →「バス廃止路出さぬ」(10月17日付) 続報あり

「特土でマサ抜き ことしは百三十九び」〔富士マサ〕〔富士宮市特殊土壌対策費〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年9月28日付)

「西山本門寺の紛争に思う(西山本門寺一信徒)」(『岳南朝日』1963年=昭和38年10月2日付「私の発言」) ▼▼

「頂上まで13分30秒 富士急行モグラケーブル計画」〔ハチマキ道路〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年10月2日付) ▼▼

「富士山が初冠雪 冬の装いに急ピッチ」(『岳南朝日』1963年=昭和38年10月8日付)

「お化粧した頂上 市役所屋上から七日写す」〔写真〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年10月8日付)

「富士-西富士を複線化 身延線 学会輸送で踏み切る」〔創価学会〕〔大石寺〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年10月17日付)

「再び山ろく開発 新らしい角度から計画」(『岳南朝日』1963年=昭和38年10月17日付)

「バス廃止路出さぬ 幅員の狭い道は広げる」〔車両制限令〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年10月17日付) ←「車両制限、九路線が該当」(9月28日付) が第1報

「厳寒と闘う人々 富士五合上の道路延長」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年10月22日付) ▼▼

「有料猟区開場延期 五年間の実績上らず」〔狩猟〕〔西富士有料猟区〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年11月1日付)

「関係者から聞く ケーブル案に市は慎重」〔富士急〕〔モグラケーブル〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年11月1日付) ▼▼

「大室山まで広げる 西富士猟区の構想」〔狩猟〕〔西富士有料猟区〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年11月6日付)

「田貫湖取水口を補修」(『岳南朝日』1963年=昭和38年11月7日付)

「白糸の滝に五千人 連休初日 各所で多彩な催し」(『岳南朝日』1963年=昭和38年11月24日付)

「女子高校生も富士登山」〔静岡県高校体育連盟〕〔冬山訓練〕(『岳南朝日』1963年=昭和38年11月24日付)

「悪質登山者閉出す 冬山遭難防止きめる」(『岳南朝日』1963年=昭和38年11月29日付)

「南口を増設 富士駅の改修工事 跨線橋を架設して」〔身延線〕（『岳南朝日』1963年＝昭和38年12月17日付）

「身延線に湘南型 準急『富士川』の試運転」（『岳南朝日』1963年＝昭和38年12月20日付）

「宝永山で四人遭難」（『岳南朝日』1963年＝昭和38年12月26日付「この一年（2）」）

「富士根北小焼く 一年間で二千万円灰に」（『岳南朝日』1963年＝昭和38年12月26日付「この一年（2）」）

## ■ 1964年＝昭和39年

「冬山パトロール 遭難対策協が三日まで」（『岳南朝日』1964年＝昭和39年1月1日付）

「企業の合理化推進 ニジマス業界にも時代の波」（『岳南朝日』1964年＝昭和39年1月1日付）

「富士山で登山指導講習 百人が参加」〔静岡県山岳連盟〕〔冬山訓練〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年1月14日付） ←右端2段分、原紙読めず

「共有地に火入れ 見事な部落総出の作業」〔上井出区〕〔防火線〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年1月14日付）

「吉原市長に斉藤氏当選」〔斉藤滋与史〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年1月18日付）

「西ろくに施設計画 富士急行が80%確保」〔富士宮市根原〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年1月18日付）

「集団参詣の衛生対策 大石寺で開く」〔創価学会〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年1月18日付）

「富士山になだれの恐れ」（『岳南朝日』1964年＝昭和39年1月18日付）

「北小、給食室に着工」〔富士根北小〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年2月9日付）

「畜連の構想まとまる 富士山を放牧地に活用 まず国有林払下げに全力」〔富士畜連〕〔赤池義男〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年2月11日付）

「民衆駅問題で意見交換 観光委員」〔身延線〕〔富士宮駅〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年2月11日付）

「西富士宮駅構内を拡張」〔身延線〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年2月16日付）

「大ジカを仕止む 百五キロ、ツノは四段」〔狩猟〕〔シカ〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年2月16日付）

「停車駅など決まる 準急 富士川 一日二往復を運転」〔身延線〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年2月23日付）

「主丈流しへ新道 富士急行 周遊道計画廃止して」〔モグラケーブル〕〔ハチマキ道路〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年3月6日付） ▼▼

「低床ホーム完成 富士宮駅の貨物専用」〔身延線〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年3月13日付）

「移民組は三十四人 産業開発青年隊 根原で初の修了式」〔青年中央訓練所〕（『岳南

朝日』1964年=昭和39年3月13日付)

「富士山で植樹祭 営林署が緑の週間に」〔国有林〕〔植林〕(『岳南朝日』1964年=昭和39年3月27日付)

「大石寺 世界の名産集めて完成 あす大客殿の落慶式 市内では祝賀行進」(『岳南朝日』1964年=昭和39年3月31日付)

「“表口がさびれる”山室、モグラケーブルに反対」〔富士急〕〔富士表口山中休泊所組合〕〔中村嘉四郎〕〔ハチマキ道路〕(『岳南朝日』1964年=昭和39年3月31日付)



「街騒」〔〔入山許可証〕〔御料さん〕〔国有林〕(『岳南朝日』1964年=昭和39年3月31日付) →一部▼▼

「富士山を深緑に変える モミなど60万本を植樹」〔国有林〕〔営林署〕〔植林〕(『岳南朝日』1964年=昭和39年4月3日付)

「五合目まで直通 吉原、富士から定期バス」〔スバルライン〕〔スカイライン〕〔富士急〕〔登山バス〕(『岳南朝日』1964年=昭和39年4月8日付) ▼▼

「南口開設正式にきまる 富士駅 急ぎ契約、着工へ」〔身延線〕(『岳南朝日』1964年=昭和39年4月14日付)

「富士宮駅に水洗便所」〔身延線〕(『岳南朝日』1964年=昭和39年4月14日付)

「“ジプシー”の旅へ 雨が上ったミツバチ業者」〔養蜂〕(『岳南朝日』1964年=昭和39年4月14日付)

「庭木採取に監視の目」〔盗掘〕〔山林監視人〕(『岳南朝日』1964年=昭和39年5月12日付)

「八月に実地検証 富士山頂帰属争いで」〔浅間大社〕〔山頂裁判〕(『岳南朝日』1964年=昭和39年5月12日付) ▼▼

《八月に実地検証 富士山頂帰属争いで

「田貫湖にミズバショウ」(『岳南朝日』1964年=昭和39年5月12日付) ←原紙の右端が何行か欠落

「富士宮はベッドタウン 南部との関連」〔地下水〕〔ハチマキ道路〕(『岳南朝日』1964年=昭和39年5月13日付)

「一年間に二二三万人 大石寺登山の学会員」〔創価学会〕〔富士宮駅〕(『岳南朝日』1964年=昭和39年5月13日付) ▼▼

「まず田貫湖施設 高原社、開発に動く」(『岳南朝日』1964年=昭和39年5月17日付) ←原紙の右端が何行か欠落

「ハエが異常発生 上井出、山野に不衛生投棄」〔産廃投棄〕(『岳南朝日』1964年=昭和39年5月23日付)

「西ろくに野ネズミ繁殖 ことしは大発生の周期 幼令のヒノキ食い荒らす」〔植林〕(『岳南朝日』1964年=昭和39年5月26日付)

「中央訓練所 本館が落成 産業開発隊員の殿堂」〔産業中央訓練所〕(『岳南朝日』1964年=昭和39年5月26日付)

「夏富士パンフレット作製」〔富士宮市観光協会〕(『岳南朝日』1964年=昭和39年5月28日付) ←原紙の右端が何行か欠落

「富士の熔岩を探る① 遠藤秀男」 (『岳南朝日』 1964年=昭和39年6月10日付)

「キャラバン隊一行帰る」 [富士宮市観光協会] [スバルライン] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年6月12日付)

「朝霧に遊園地計画 リンクにつぎ食堂施設」 [アイススケート] [朝霧高原観光] [四条政雄] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年6月17日付)

「あちら立てば…… 田貫湖放水の明暗」 (『岳南朝日』 1964年=昭和39年6月17日付)

「スバルラインを行く あっという間に五合目へ 引きはなされた富士宮口」 [富士宮市観光協会] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年6月21日付) ▼▼

「牧草地を駆除 野ネズミのせい息地」 [西富士地区] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年6月21日付)

「底をつくまで放出 田貫湖水を青木へ」 [田貫湖貯水組合会] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年6月21日付)

「落石防止に標識 夏山の遭難対策決る」 [遭難] [衛生センター] [富士宮山岳遭難対策協議会] [富士宮山岳遭難対策協議会] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年6月23日付) ▼▼

「街騒」 [万野風穴] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年6月23日付) ▼▼

「山室、人夫不足に機械化 ブルを購入して荷揚げ テストの結果はまず上々」 [富士表口山中休泊所組合] [中村嘉四郎] [ブルドーザー] [荷揚げ] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年6月26日付) ▼▼

「放出水門に故障」 [田貫湖] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年6月26日付)

「きょう山開き 婦人会は一と足早く」 [一番バス] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年7月1日付)

「開山と同時にどっと詰めかけた登山客」 [写真] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年7月2日付)

「一番バスに百人 夏山スタート 富士宮口 女性も坊やも登山」 [浅間大社] [富士宮市観光協会] [開山祭] [湯茶接待] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年7月2日付)

「新駅舎で営業 富士駅改築工事が完成」 [身延線] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年7月3日付)

「塵芥焼却炉を設置 富士宮駅団体ホームに」 [身延線] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年7月11日付)

「頂上結婚の話題も 夏山電話開通 本社→奥宮で交信」 (『岳南朝日』 1964年=昭和39年7月11日付)

「県裁判長ら検証 富士山頂帰属争いで」 [浅間大社] [山頂裁判] [県宏裁判長] [越川純吉] [定光昭] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年7月12日付)

「“日本一”の結婚式 山頂で晴れて夫婦に」 [小野田一也] [瀬尾匡子] [楠田英香] [山頂結婚式] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年7月12日付)

「観光委員ら河口湖視察」 [スバルライン] (『岳南朝日』 1964年=昭和39年7月12日付)

「“これが富士山だよ” 沖縄の子ら登山に招待 富士宮郵趣会も歓迎準備」 (『岳南朝日』

1964年＝昭和39年7月29日付) ←原紙の右端何行か欠落

「かま倉仏教と日蓮宗の成立」(『岳南朝日』1964年＝昭和39年7月24日付「史談北山と日蓮宗」)

「題目と講中 寺院と檀家」(『岳南朝日』1964年＝昭和39年7月29日付「史談北山と日蓮宗」)

「危険はらむ潤井川 台風期前に状況視察」(『岳南朝日』1964年＝昭和39年7月29日付)

「ビワ湖の“遣使” 近江八幡市長ら登山」〔井上孫次郎〕〔琵琶湖〕(『岳南朝日』1964年＝昭和39年7月29日付)

「寺院と檀家」(『岳南朝日』1964年＝昭和39年7月30日付「史談北山と日蓮宗」)  
←「つづく」とあるが後続みつからず

「また紙クズの山 富士山の衛生監視」〔山室衛生〕〔ゴミ問題〕(『岳南朝日』1964年＝昭和39年7月30日付)

「祖国の土を確めながら沖縄の子らが富士登山」(『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月4日付)

「近江八幡の一行が来宮 市で歓迎会」〔琵琶湖〕(『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月4日付)

「粟倉で合宿して 労働について(2) 東洋大児研② 一年・松本秀子 二年・木沢啓二」(『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月2日付) ▼▼

「粟倉で合宿して 労働について(3) 東洋大児研③ 二年・矢島慶子 二年・安田弘文」(『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月4日付) ▼▼→7月31日付、8月1日付ともに原紙なく(1)は行方不明、8月5日付以降に(4)以下があるかどうか不明

「移動衛生部を開設 村山など二地区で」〔粟倉〕(『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月4日付) ▼▼

「道路制限令で待避所20誕生」〔車両制限令〕(『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月4日付)

「天然クーラー・白糸滝」〔白糸の滝〕〔写真〕(『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月7日付)

「美しい瓦屋根 大石寺、本堂に着工」(『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月7日付)

「高山植物の花、盛り お中道コース」(『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月7日付)

「あす富士山で現地検証 県裁判長ら40余人登山」〔浅間大社〕〔山頂裁判〕〔県宏裁判長〕〔越川純吉〕〔西川正也〕〔定光昭〕〔楠田英香〕〔牧野百松〕(『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月11日付)

「あす富士山で現地検証 県裁判長ら40余人登山」〔浅間大社〕〔山頂裁判〕(『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月11日付)

「登山客湯茶接待など店閉い」〔浅間大社〕〔衛生センター〕〔閉山〕(『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月11日付)

「主婦の生活作文 試練の十九年① 西富士開拓 真坂栄子(43)」(『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月12日付「婦人夏期大学入選作品」) ▼▼←8月13日付、14日付

は原紙なく②③は行方不明、15日付④は以下に収録

「“呉越同舟”で出発 日本一高い実地検証」〔浅間大社〕〔山頂裁判〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月12日付）

「ススキ立つ高原 放牧の牛ものどかに」〔朝霧高原〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月18日付）

「主婦の生活作文 試練の十九年④ 西富士開拓 真坂栄子(43)」（『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月15日付「婦人夏期大学入選作品」）▼▼

「山頂で平和祈願 終戦記念日の話題二つ」（『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月15日付）←右端原紙欠落して読めず

「富士パノラマパークとスバルライン会員募集中 富士急行富士宮営業所」〔広告〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月18日付）

「旧信徒の大石寺登山」〔法華宗〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月18日付）

「登山客もガタ落ち 夏山富士サービス機関店閉い」〔電報電話局〕〔郵便局〕〔富士宮口登山事務所〕〔登山者数〕〔スバルライン効果〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月20日付）▼▼

「移動衛生部開設 きょうは村山地区で」〔富士根北小〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月20日付）▼▼

「“台風日本”の目 富士山頂に巨大なレーダー」（『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月23日付）←右端何行か原紙読めず

「前年の五割増 山頂郵便局の総決算」（『岳南朝日』1964年＝昭和39年8月23日付）▼▼←右端何行か原紙読めず

「合併の仮調印正式決定 来年四月 九農協が単一組織へ」〔富士宮市農協〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年9月2日付）

「産業開発青年隊中央訓練所を拡充」〔青年中央訓練所〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年9月2日付）

「大規模な牧場計画 西ろくに子牛二千頭収容」（『岳南朝日』1964年＝昭和39年9月9日付）

「期成同盟つくる 富士山の補装促進で」〔表口富士登山自動車道完全舗装促進期成同盟会〕〔表口山中休泊所組合〕〔中村嘉四郎〕〔富士山周遊道路建設促進協議会〕〔スカイライン舗装〕〔スバルライン効果〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年9月9日付）▼

「富士山の落とし主を探す」〔落とし物〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年9月13日付）

「高砂 田子の浦 山中正吉商店」〔題字下、三峰富士カット広告〕（『岳南朝日』1964年＝昭和39年9月18日付、11月6日付、1965年＝昭和40年10月8日付、10月22日付、1966年＝昭和41年2月4日付、2月9日付、2月16日付、2月20日付、3月2日付、3月17日付、4月5日付、4月10日付、5月3日付、5月31日付、7月7日付、7月19日付、7月23日付、7月31日付、8月10日付、8月30日付、9月23日付、9月27日付、9月30日付、10月21日付、12月4日付、1967年＝昭和42年1月12日付、1月24日付、2月18日付、2月22日付、2月26日付、3月4日付、3月9日

付、4月5日付、4月7日付、4月13日付、4月29日付、5月3日付、5月10日付、6月2日付、6月7日付、7月12日付、7月22日、8月2日付、8月13日付、8月22日付、9月5日付、9月9日付、10月25日付、10月29日付、11月17日付、1968年＝昭和43年6月1日付、6月9日付、6月21日付、6月23日付、6月29日付、8月29日付、9月7日付、1969年＝昭和44年5月1日付、5月11日付、6月13日付、6月27日付、7月1日付、7月17日付、7月25日付、8月1日付、8月8日付、8月19日付、9月7日付、9月13日付、10月4日付、10月23日付、10月31日付、11月9日付、11月13日付、12月2日付、1970＝昭和45年1月29日付、2月4日付、2月7日付、3月14日付、3月25日付、4月12日付、4月30日付、5月4日付、5月17日付、5月31日付、6月13日付、7月2日付、7月16日付、8月5日付、8月14日付、8月25日付、8月28日付、9月8日付、9月13日付、10月4日付、10月14日付、10月20日付、1971＝昭和46年1月9日付、1月16日付、1月19日付、2月10日付)

「富士山ろくの総合開発 委員会が意見書を政府へ提出 新都市建設の青写真 西南ろくは最適地 酪農と頭脳センターに」 (『岳南朝日』1964年＝昭和39年9月18日付)

「大沢対策や大月線舗装 富士宮市 小山建設相に要請」 (『岳南朝日』1964年＝昭和39年9月20日付)

「富士山はもう初冬 セーターを着ても寒い」 [スカイライン] (『岳南朝日』1964年＝昭和39年9月20日付)

「静岡で直通電車祝賀会」 [静岡甲府直通電車] [身延線] (『岳南朝日』1964年＝昭和39年9月20日付)

「大石寺 農地転用許可さる 総坊、学校などを建設 三年計画、十四億円余で」 (『岳南朝日』1964年＝昭和39年9月30日付)

「八業者が進出 田子浦港に給油基地」 (『岳南朝日』1964年＝昭和39年9月30日付)

「牧野改良すすむ 西富士開拓 年度内には50㌖造成」 (『岳南朝日』1964年＝昭和39年10月2日付)

「富士宮駅の職員ふやす」 [団体ホーム] [創価学会] (『岳南朝日』1964年＝昭和39年10月2日付)

「お札授与所を新築 浅間神社」 [浅間大社] (『岳南朝日』1964年＝昭和39年10月2日付)

「お中道へ千百人 北高生が秋の団体登山」 [富士宮北高校] (『岳南朝日』1964年＝昭和39年10月28日付)

「復線化に踏切る 身延線を第三次計画で」 [複線化] (『岳南朝日』1964年＝昭和39年11月6日付)

「製紙業界にも不況の風 19事業所が倒産や不振 富士地区 金融引締めようやく浸透」 (『岳南朝日』1964年＝昭和39年11月21日付)

「登山道舗装を促進 富士宮市 期成同盟づくり運動」 [表口富士登山自動車道整備促進期成会] [スカイライン舗装] [スバルライン効果] (『岳南朝日』1964年＝昭和39年11月10日付) ▼▼

「富士山で遭難訓練 冬山に備える遭難協」 [富士宮遭難対策協議会]



「冬山をパトロール 遭対協が年末年始に」〔富士宮遭難対策協議会〕（『岳南朝日』1964年=昭和39年12月27日付）

## ■ 1965年=昭和40年

〔富士宮市立図書館には、1965年=昭和40年1月1日付～9月24日付は欠落しており、同年9月25日付以降が原紙で蔵架している〕

「あす盛大な開通式 有料富士宮道路 建設大臣も出席」〔日本道路公団〕（『岳南朝日』1965年=昭和40年9月26日付）

「“祝” 有料道路開通 “富士宮道路” 開通 9月27日より」〔広告〕（『岳南朝日』1965年=昭和40年9月26日付）

「道けわし『富士宮道路』 公団側が地元“譲歩” 審査もれで住民怒る」〔道路公団〕〔通行量免除〕（『岳南朝日』1965年=昭和40年9月28日付）

「八百台が“処女通行”」〔富士宮道路〕（『岳南朝日』1965年=昭和40年9月28日付）

「北山用水のおこり（2）三か所にトンネル 大規模な掛樋施設 松浦克己」（『岳南朝日』1965年=昭和40年10月1日付「歴史小話170」） ←1965年=昭和40年9月下旬は原本の欠落多く「北山用水のおこり（1）」見つからず

「山ろくで現代版富士の巻狩 17日、五百人が出動して きょう実施方法打ち合す」〔イノシシ〕〔猟友会〕（『岳南朝日』1965年=昭和40年10月2日付）

「北山用水のおこり（3）苦難の万野用水 数度にわたって計画 松浦克己」（『岳南朝日』1965年=昭和40年10月2日付「歴史小話171」）

「北山用水のおこり（4）人生の半生捧ぐ 万野に命かけた道順 松浦克己」〔芝川道順〕（『岳南朝日』1965年=昭和40年10月5日付「歴史小話172」）

「北山用水のおこり（5）本門寺 農民を支配 松浦克己」（『岳南朝日』1965年=昭和40年10月5日付「歴史小話173」）

「イノシシのせい息調査」（『岳南朝日』1965年=昭和40年10月5日付）

「北山用水のおこり（6）血の雨降る水争い 明治二十一年の記録 松浦克己」（『岳南朝日』1965年=昭和40年10月6日付「歴史小話174」）

「北山用水のおこり（7）水田の増殖は不可 苦労した農民の知恵 松浦克己」（『岳南朝日』1965年=昭和40年10月7日付「歴史小話175」）

「北山用水のおこり（8）個人所有の分水口 異例、堀筋に一つだけ 松浦克己」（『岳南朝日』1965年=昭和40年10月8日付「歴史小話176」）

「中央文化財委 大石寺を調査」（『岳南朝日』1965年=昭和40年10月8日付）

「進まない二市一町の合併協議 目前に迫った議決期日 重要事項一つも決らず」〔岳南3市町合併〕（『岳南朝日』1965年=昭和40年10月9日付）

「北山用水のおこり（9）米騒動防止の功労 勘解由に分水の特権 松浦克己（おわり）」（『岳南朝日』1965年=昭和40年10月9日付「歴史小話175」）

「今秋最高の人出か 仏観光団も五湖めぐり」（『岳南朝日』1965年=昭和40年10月10日付）

「高冷地に初霜 富士山頂も冠雪」(『岳南朝日』1965年=昭和40年10月10日付)

「天母山に男の白骨死体」(『岳南朝日』1965年=昭和40年10月10日付)

「登山自動車道、開通 駐車場の一部も完成」〔スカイライン〕〔加瀬沢建設〕(『岳南朝日』1965年=昭和40年10月16日付) ▼▼

「“ただいま零匹?” 大巻狩りの成果上がらず」〔イノシシ〕〔猟友会〕(『岳南朝日』1965年=昭和40年10月19日付)

「地元開発の課題(1)三県議(地元選出)囲む座談会 富士山開発 日が暮れる県単事業だが民間資本には警戒を」〔植松義忠〕〔斉藤孫一〕〔安部信義〕〔佐野茂樹〕〔望月弥六〕(『岳南朝日』1965年=昭和40年10月22日付) ←「[地元開発の課題\(2\)](#)」

掲載のはずの10月23日付は原紙欠落

「御殿場―富士宮口 富士急行 有料道路の建設計画」〔斉藤滋与史〕〔ハイマツ〕〔ハマナシ〕〔エバーグリーンライン〕(『岳南朝日』1965年=昭和40年10月22日付)

▼▼

「大石寺登山と身延山参詣者 上半期輸送実績」〔身延線〕(『岳南朝日』1965年=昭和40年10月22日付) ▼▼

「地元開発の課題(3)三県議(地元選出)囲む座談会 合併問題 住民の納得が先決 話し合いの場を広く」〔植松義忠〕〔斉藤孫一〕〔安部信義〕〔佐野茂樹〕〔望月弥六〕(『岳南朝日』1965年=昭和40年10月24日付)

「地元開発の課題(4)三県議(地元選出)囲む座談会 新幹線 誘致運動、慎重に 資金面を熟慮せよ」〔植松義忠〕〔斉藤孫一〕〔安部信義〕〔佐野茂樹〕〔望月弥六〕(『岳南朝日』1965年=昭和40年10月26日付)

「地元開発の課題(5)三県議(地元選出)囲む座談会 水資源 開発の一步前進 大倉川ダムの建設」〔植松義忠〕〔斉藤孫一〕〔安部信義〕〔佐野茂樹〕〔望月弥六〕(『岳南朝日』1965年=昭和40年10月27日付)

「大イノシシ仕止む 地元猟友会が初の戦果」(『岳南朝日』1965年=昭和40年10月26日付)

「夜明けの空に銃声 狩猟解禁の富士山ろく」(『岳南朝日』1965年=昭和40年11月2日付)

「大石寺、工事を中止 市、取水を別途計画」(『岳南朝日』1965年=昭和40年11月6日付) ▼▼

「岳南地区の公害を防ぐ 三市二町 対策協の設立きまる」〔富士地区公害対策協議会〕(『岳南朝日』1965年=昭和40年11月13日付)

「高体連、冬山訓練 きょう富士登山」〔静岡県高体連山岳部〕(『岳南朝日』1965年=昭和40年11月13日付)

「市遭対協でも21日救助訓練」〔富士宮市遭難対策協議会〕(『岳南朝日』1965年=昭和40年11月13日付)

「遭対協の冬山訓練延期」〔富士宮市遭難対策協議会〕(『岳南朝日』1965年=昭和40年11月21日付)

「石商が行くえ不明 富士宮署 足取り捜査始める 三百人が捜索 車を発見した山静岡県境で」〔豊茂開拓〕〔小玉帝一〕〔遭難〕〔望月定逸〕〔樹型石〕(『岳南朝日』1965年=昭和40年11月21日付)

4年＝昭和39年11月25日付)

「登山道の舗装化を図る 富士宮口は一合目まで 県が構想を示す」〔スカイライン舗装〕  
(『岳南朝日』1965年＝昭和40年11月26日付) ▼▼

「手がかりなし 石商行方不明 きのは搜索を中止」〔豊茂開拓〕〔小玉帝一〕〔遭難〕  
(『岳南朝日』1965年＝昭和40年11月26日付)

「窮迫する富士宮市財政 来年度の新規事業は絶望 人件費と借金返し 財源確保も困難に」  
(『岳南朝日』1964年＝昭和39年12月3日付)

「冬山パトロール 遭難防止決る 山岳会が年末年始に」〔富士宮地区山岳遭難事故防止協議会〕  
(『岳南朝日』1965年＝昭和40年12月7日付)

「まず資料の整備 公害対策協を設立」〔富士地区公害対策協議会〕 (『岳南朝日』1965年＝昭和40年12月7日付)

「英雄気取りは禁物 冬山登山に警告文配る」〔富士宮山岳遭難事故防止協議会〕 (『岳南朝日』1965年＝昭和40年12月22日付)

「身延線の“この一年” 来春は八両編成も 輸送力の増強と改善図る」 (『岳南朝日』1965年＝昭和40年12月24日付) ▼▼

## ■ 1966年＝昭和41年

「岳ろく開発に手がかり 周遊道、来年度着工へ 県、三か年計画で建設」〔スカイライン〕  
(『岳南朝日』1966年＝昭和41年2月2日付) ▼▼

「岳麓の頼朝伝説(4) 木に関する伝説 遠藤秀男」 (『岳南朝日』1966年＝昭和41年2月2日付「歴史小話181」)

「岳麓の頼朝伝説(6) 水に関する伝説 遠藤秀男」 (『岳南朝日』1966年＝昭和41年2月4日付「歴史小話183」)

「村山林道の開発 42年度から着工きめる」〔北井久保林道?〕 (『岳南朝日』1966年＝昭和41年2月4日付) ▼▼

「スノコで泥落とし 北中」〔富士根北中〕〔霜柱〕 (『岳南朝日』1966年＝昭和41年2月4日付) ▼▼

「岳麓の頼朝伝説(8) 地名に関する伝説 遠藤秀男」 (『岳南朝日』1966年＝昭和41年2月6日付「歴史小話185」)

「駅前へ案内所 富士急行で建設」 (『岳南朝日』1966年＝昭和41年2月5日付)

「岳麓の頼朝伝説(9) 地名に関する伝説 遠藤秀男」 (『岳南朝日』1966年＝昭和41年2月8日付「歴史小話186」)

「料金徴収を委託 富士根地区水道」 (『岳南朝日』1966年＝昭和41年2月6日付)

「ミツバチ30万匹処分 淀師に腐敗そ病が発生」〔腐蛆病〕 (『岳南朝日』1966年＝昭和41年2月8日付)

「岳麓の頼朝伝説(10) まとめとして 遠藤秀男」 (『岳南朝日』1966年＝昭和41年2月9日付「歴史小話187」)

「続戦国武士の転身(1) 百姓職という意味 中野国男」 (『岳南朝日』1966年＝昭和41年2月10日付「歴史小話188」)

「続戦国武士の転身（２）本門寺支配を解く 中野国男」（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月11日付「歴史小話189」）

「きびしい“三ちゃん農業”岳南地区 後継者はわずか182人 より深刻な南部地帯」（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月12日付）

「続戦国武士の転身（３）耕作田の権利認む 中野国男」（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月12日付「歴史小話189」）

「田貫湖に旅館建設 西富士観光 植物園も整備」（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月12日付）

「続戦国武士の転身（４）自立を図った農民 中野国男」（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月13日付「歴史小話191」）

「続戦国武士の転身（５）被官百姓を押える 中野国男」（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月15日付「歴史小話192」）

「風致阻害の対策を 県、キャンプ場運営委に要望」〔田貫湖〕（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月15日付）

「大石寺を視察 文化財の一行」（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月15日付）

「駿河代官（１）府中紺屋町に陣屋 古郡年こう」（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月16日付「歴史小話193」）

「駿河代官（２）歴代代官の氏名① 古郡年こう」（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月17日付「歴史小話194」）

「駿河代官（３）歴代代官の氏名② 古郡年こう」（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月18日付「歴史小話195」）

「駿河代官（４）歴代代官の氏名③ 古郡年こう」（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月19日付「歴史小話196」）

「駿河代官（５）盛んな水田開発 古郡年鴻」（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月20日付「歴史小話197」）

「四月合併（二市一町）は不可能に まだ決らぬ新庁舎位置」〔岳南3市町合併〕（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月22日付）

「駿河代官（６）水害防いだ雁堤 古郡年鴻」（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月22日付「歴史小話198」）

「70%の布設完成 富士根水道、支管工事へ」（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月22日付）

「駿河代官（７）農民救い閉門、自害 古郡年鴻」（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月23日付「歴史小話199」）

「駿河代官（８）地方功労者が条件に 古郡年鴻」（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月24日付「歴史小話200」）

「一部は海外へ輸出 ワサビ大根 富士根で収穫入り」〔ミツマタ生産組合〕（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月24日付）

「ユースホテル『麓の家』が一部着工 龍夫妻の夢、一步実現」〔龍武一郎〕〔龍ひろ子〕〔ふもとの家〕（『岳南朝日』 1966年＝昭和41年2月25日付）

「“春のアラシ”大暴れ 最大風速 30 ㍎を越す 浅間神社楼門の屋根も飛ぶ」〔浅間大社〕  
(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月1日付)

「清水山岳会員が転落死」〔遭難〔五十嵐昇〕〔仏石沢〕 (『岳南朝日』1966年=昭和41年3月1日付) ▼▼

「まず客の誘致に 夏山物価をすえ置きに」(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月2日付) ▼▼

「“山室の近代化をはかれ”市、企業統合の推進へ」(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月3日付) ▼▼

「大石寺 三門や五重塔 県文化財指定きまる」(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月3日付)

「宝山に野ねずみ 市有林を食い荒らす」(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月3日付)

「富士宮バイパス実現へ」(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月4日付)

「万野風穴の保護を」(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月4日付)

「化粧直しはじめる 田貫湖のボート」(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月11日付)

「珍しい火伏まつり 足形に伝わる念仏行事 後継者さがしに苦勞」(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月16日付)

「幻の国際柔道大学 四年間も放りばなし 『提供土地を返せ』疑惑深める旧地主」〔富士観光〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月17日付)

「郷土史ひと目で 北高 古文書年表つくる」〔『岳麓古文書年表』遠藤秀男・梶原照正・井上誠ほか編、富士宮北高郷土研究部発行、1966〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月17日付) →「[村山の歴史発売](#)」(1967年=昭和42年3月3日付) [に関連記事あり](#)

「モミ ヒモキ 富士山に30万本 植林シーズン 苗の抜取り始まる」〔静岡営林署粟倉苗畑事業所〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月18日付)

「駐車場建設きまる 登山道の最終工事」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月19日付) ▼▼

「富士宮山岳会員 北ア前穂高で遭難 行方不明一、重症三 登山中、大なだれにあい 現地へ救援隊 中堅の込山さん山岳会初の遭難事故 けがの三人生命に別状なし」〔込山靖彦〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月20日付)

「前穂高遭難 重症の二人を搬出 塩川さん元気 不明の込山さん絶望 望月会長らも現地へ出発」〔込山靖彦〕〔望月喜儀〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月22日付) →「[遭難の山男求めて](#)」(4月9日付)、「[込山さんの遺留品発見](#)」(5月3日付)、「[三カ月ぶりに我家へ](#)」(6月21日付) [に続報あり](#)

「大石寺五重塔が重文に 浅間造りに次ぎ二つ目」(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月29日付)

「夏山対策の打合わせ会」〔富士宮市〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月29日付)

「夏山宣伝は協力に実施」(『岳南朝日』1966年=昭和41年3月31日付)

「こぼれ話」〔開拓地の山静岡県境問題〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年3月31日付）

「急行吉田行新設 富士急行があすから」〔五湖行きバス〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年3月31日付）

「45年までに富士－西富士宮複線化 静鉄局で検討 六百万登山にあわせ」〔身延線〕〔創価学会〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月1日付）

「むだにすまい友の死 高校生遭難を究明 沼工が報告書つくり配る」〔沼津工業高校〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月1日付） ▼▼ ←この年（昭和41年）1月分の原紙まったくなし →「教え子の霊安かれ」（1967年＝昭和42年1月22日付）に続報あり。この遭難事故の報告書不明

「関西へ富士市キャラバン隊」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月1日付）

「大倉川ダム建設本決り 県営土地改良事業 新規事業に採択」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月3日付）

「まず資料集め早く 博物館建設で建議」〔図書館博物館建設調査委員会〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月3日付）

「富士山に試験植樹 欧州トウヒ トドマツ」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月5日付）

「15日に富士山で植樹祭」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月5日付）

「バス料金は値上げ 五口協の夏山対策 物価はすえ置き」〔富士山五口協議会〕〔登山バス〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月8日付）

「鈴木さんヒマラヤ遠征」〔鈴木弘文〕〔ネパールヒマラヤ踏査隊〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月8日付）

「遭難の山男求めて 立札持って前穂高へ 富士宮山岳会員、17日に出発」〔込山靖彦〕〔望月喜儀〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月9日付）

「横溝沿川道を拡幅 住民の念願、やっと実現 国道と登山道を連結」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月10日付）

「狩宿の『駒止めの桜』ことしも咲いたが いまにうちに保存策を」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月12日付）

「大石寺で給食室を建設」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月12日付）

「富士宮市 農業の後退目立つ 経営耕地四百㌔割る 人手不足に機械力進出」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月24日付）

「野放しの“文化財”消えてゆく庶民文化の遺産 開発から保護の声も」〔地蔵〕〔庚申塚〕〔道祖神〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月24日付）

「身延線の創価学会輸送 昨年二一五万人」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月24日付）

「駅前大鳥居でチェ集め 安全委に特別部会 危険な交通の対策はかる」〔駅前整備〕〔駅前整備〕〔浅間大社〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年4月29日付） ▼▼←『静岡新報』（1935年＝昭和10年6月2日付）に「大宮駅々頭に大鳥居建設 高さ卅一尺、幅廿五間」の記事あり、建設中の写真が『写真集 懐かしの富士宮』（遠藤秀男編著、羽衣出版、平成21年）に掲載されている。

「登山駐車場などに厚生省が整備補助」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年5月3日付）

「特別部会を設置 駅前交通対策に本腰」〔大鳥居〕〔駅前整備〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年5月3日付）

「込山さんの遺留品発見」〔遭難〕〔込山靖彦〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年5月3日付）

「世界最大の寺院建築 創価学会 正本堂の建設準備」〔大石寺〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年5月5日付）

「とんだ宝もの 一合目から銃弾ごっそり」〔旧陸軍〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年5月5日付）

「陽の目見る村山の仏像 製作年や作者もわかる 遠藤教諭の調査で信仰や生活に手がかり」〔興法寺大日堂〕〔遠藤秀男〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年5月11日付）



「“小鳥山、お宿だよ” 栗倉分校で児童が巣箱かけ」〔富士根北小〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年5月11日付）

「駅前交通対策委員会 あす初会合」〔駅前整備〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年5月11日付）

「駅前交通、さらに検討へ 鳥居撤去や北禁不可能 信号機設置も困難か」〔駅前整備〕〔車両北進禁止〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年5月13日付）

「▽【富士山頂境内組合総会】14日午前10時から浅間神社参集所で。」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年5月13日付）

「ブルドーザー富士登山 開山前だけ“解禁”を 山室業者、厚生省へ要請」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年5月28日付） ▼▼

「富士登山道の現地調査」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年5月31日付） ▼▼

「高原社などヤリ玉に 市議会 開発促進に特別委員会 六月定例会で設置か」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月1日付）

「汚水を海中放流 製紙会社 調査費を計上」〔公害〕〔岳南排水路〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月1日付）

「県側の構想説明 富士周遊道路建設」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月4日付） ▼▼

「駅前の信号機設置を提案 結論持ち越す」〔駅前整備〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月4日付）

「受入れ大わらわ 開山近い夏山富士」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月7日付）



《受入れ大わらわ 開山近い夏山富士

「7月23日に合併決議を 岳南二市一町 11月1日に新発足 新市名、20日までに決定」〔岳南3市町合併〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月8日付）

「厚生省などに陳情 ブル運行で山室業者」〔ブルドーザー〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月8日付） ▼▼

「身延線の複線化を早期実現 期成同盟会開く」〔身延線改善促進期成同盟〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月8日付）

「富士宮口、すたれる恐れ 吉原に有利な表富士周遊道 県に計画変更要求の動き」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月11日付）▼▼

「45年までに複線化 静鉄局 身延線の改良計画」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月11日付）

「山岳部の死で再捜査」〔日大山岳部シゴキ〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月14日付）▼▼

「許されない野ばん行為 “警察は徹底的究明を” 日大山岳部シゴキに市民の怒り」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月15日付）▼▼

「血のにじむ開拓20年 開拓婦人の生活体験記録 私の選んだ道 熊谷芳子」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月15日付）

「再放水せずにすむ 雨にめぐまれた田植」〔田貫湖〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月15日付）

「周遊道の計画変更要求 “表口の二合目を生かせ” 登山道整備促進同盟、県に強く働きかけ」〔スカイライン〕〔表富士登山道整備促進期成同盟会〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月17日付）▼▼

「血のにじむ開拓20年 開拓婦人の生活体験記録 開拓二代の夢 島崎福実(43)」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月17日付）

「スバルラインの策なし 今夏も終点伸びず 地元、消極的な県事業に渋い顔」〔スカイライン舗装〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月18日付）▼▼

「曾我兄弟の霊なぐさめる」〔曾我神社〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月18日付）

「岳南三市町合併に波紋 革新団体、反対運動起す 大資本の利益を図る…」〔岳南3市町合併〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月18日付）

「血のにじむ開拓20年 開拓婦人の生活体験記録 過去の夢捨てて 樋口三代子」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月18日付）

「愛鷹山で遭難救助訓練」〔吉原山岳救助隊〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月18日付）

「山開きまであと10日 夏山富士の準備すすむ 荷揚げも始める サービス機関も10日から」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月19日付）

「売った地代入らぬ 取水権に難航 根原の住民泣き込む」〔根原用水問題〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月19日付）

「三カ月ぶりに我家へ 北ア遭難 込山さんの遺体発見」〔込山靖彦〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月21日付）

「地元、制限通水を了承 根原用水問題」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月21日付）

「登山バスの実地運転 富士急行」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月21日付）

「夏至に三の雪 お山開き前の富士山」〔残雪〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月23日付）



「登山客へ婦人会が湯茶接待」〔富士宮市婦連〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月23日付）

「市婦連が登山教室 29日、帰りに美化清掃も」〔清掃登山〕〔富士宮市婦連〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年8月24日付）

「給水は来月末に 遅れる富士根の上水道」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年8月24日付）

「夏休みを山ろくで… 林間学校開設どっと 押すな押すなの北部地区」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月24日付）

「総会と開山式 市観光協会」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月24日付）

「28日に遭対協」〔富士宮地区山岳遭難防止対策協議会〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月24日付）

「夏山の事故ゼロに 富士宮遭対協 安全登山に万全策」〔富士宮地区山岳遭難防止対策協議会〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月25日付）

「解説『田子の古道』 野中の塩川氏 吉原市の変遷記す」〔塩川辰義〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月28日付）←『田子乃古道－妙祥寺本・元吉原本・津田本－』（塩川辰義編、富士市史編纂室、1976年）合冊の第1分冊ではないかと思われる。

「一と足早い山開き 婦人会員がきのう登山」〔富士宮市婦連〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年6月30日付）

「夏ひらく“さあ、おいでください”富士山開山祭で幕明け」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月1日付）

「週末はもう満員 田貫湖キャンプ場」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月1日付）

「10日から通話OK 気象電話もサービス」〔山頂電報電話局〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月1日付）

「日大山岳部シゴキ事件進展 リーダーら三人逮捕 富士宮署、暴行の疑いで」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月1日付）▼▼

「祝開山 富士のこけもも 藤太郎本店」〔富士山の写真付き広告〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月1日付、42年7月2日付）

「祝開山 登録商標銘菓かさぐも すその 江戸屋本店」〔広告〕（『岳南朝日』1965年＝昭和40年10月9日付、1966年＝昭和41年7月1日付、7月3日付、7月9日付、1967年＝昭和42年7月1日付、7月4日付）

「ふるえながら初登り 夏山 一番バスで40人」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月2日付）

「観光協会の事業計画きまる」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月2日付）

「祝開山 富士のこけもも 藤太郎本店」〔広告〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月2日付）

「シゴキ現場を検分 下山前日の訓練も追及」〔日大山岳部シゴキ〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月3日付）▼▼

「祝開山 登録商標銘菓かさぐも すその 江戸屋本店」〔広告〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月3日付）

「最悪の場合は返還を求める 特別委がきめる」〔富士西ろく開発促進特別委員会〕（『岳

南朝日』1966年=昭和41年7月3日付)  
「登山事務所に電話」〔富士急行バス〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月3日付)  
「ことしも“寒い夏”異変? 富士山は目下開店休業」(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月6日付)  
「富士山で“清掃作戦”岳連、自衛隊の八百人」〔静岡県観光協会〕〔静岡県山岳連盟〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月6日付)  
「特別委きょう上京 土地開発の計画聞く」〔富士西ろく開発促進特別委員会〕〔高原社〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月7日付)  
「きょうお田植祭 夜は神田川畔で花火大会」(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月7日付)  
「巷の神さま仏さま(1) 尻軽地藏さん 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月8日付)  
「山室の衛生監視」〔山室衛生〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月8日付)  
「自然保護の資料づくり 東大教授ら山ろくで学術調査」〔津屋弘達〕〔宮脇昭〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月9日付)  
「富士宮北 高原教室開く 教師と生徒が意見交換」(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月9日付)  
「「巷の神さま仏さま(2) 淀師渋沢の『竜神』 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月9日付)  
「祝開山 登録商標銘菓かさぐも すその 江戸屋本店」〔広告〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月9日付)  
「田貫湖から暴力一掃 機動隊員が常駐監視」(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月9日付)  
「お山の機関スタート きょうから一斉に開業」(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月10日付)  
「清掃登山延期」〔静岡県観光協会〕〔静岡県山岳連盟〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月10日付)  
「誠意ない高原社、富士観 未開発土地の計画なし 市議会特別委の上京報告」〔富士西ろく開発促進特別委員会〕〔富士観光〕〔富士総業〕〔富士急行〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月12日付)  
「富士山で大掃除 産業開発青年隊が登山」〔青年中央訓練所〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月12日付)  
「巷の神さま仏さま(3) 出水不動の『弁財天』 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月12日付)  
「積雪、1/3に減る 奥の宮の丸尾神官に聞く 悪天候に泣く山室業者」〔残雪〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月12日付)  
「御殿庭見学のバス旅行」〔富士植友会〕〔雲切不動〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月12日付)  
「三市町合併 事業費の配分率で対立 鷹岡 合併の特典ないと」〔岳南三市町合併〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年7月13日付)

「巷の神さま仏さま（４）大岩峰石のこう申碑 遠藤秀男」〔庚申碑〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月13日付）

「きょう実地検証 大沢のシゴキを追及」〔日大山岳部シゴキ〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月13日付）▼▼

「神主さんのタマゴ来宮 頂上で奉仕」〔國學院〕〔神宮皇学館〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月13日付）

「三市町合併 合併決議はお流れか 市名など依然きまらず」〔岳南三市町合併〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月14日付）

「巷の神さま仏さま（５）星山の名主安兵衛の話 遠藤秀男」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月14日付）

「田子の浦港へ鉄道敷設の研究会」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月14日付）

「全猟、禁猟を延期 地元、契約違反だ 西富士猟区開放で対立」〔全日本猟友会〕〔西富士猟友会〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月14日付）

「星山に放水路を建設 潤井川のはん乱防ぐ 県、本年度から事業に着手」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月15日付）

「巷の神さま仏さま（６）東海道の如意輪観音 遠藤秀男」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月15日付）

「業者、週末に切ない望み 不振の登山にかける」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月16日付）

「金指造船に質す 開発特別委清水へ」〔富士西ろく開発促進特別委員会〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月16日付）

「シゴキ棒を発見 日大三年山岳部 暴行事実も確認」〔日大山岳部シゴキ事件〕〔日大三島山岳部〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月16日付）▼▼

「行楽ダイヤ増す 富士急が21日から改正」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月16日付）

「巷の神さま仏さま（７）唯念の火ぶせ掛軸 遠藤秀男」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月16日付）

「北高郷研が山梨で合宿」〔富士宮北高郷土研究部〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月16日付）

「巷の神さま仏さま（８）立宿の甲子神さん 遠藤秀男」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月19日付）

「大石寺が二百万円 くるみ学園建設資金に」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月19日付）

「誠意を認める 金指造船の高校建設問題」〔富士西ろく開発促進特別委員会〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月19日付）

「はかどらぬ駅前交通対策 大鳥居存続でストップ 市、最後の“診断”求める」〔駅前整備〕（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月20日付）

「巷の神さま仏さま（９）なじみ深い道祖神 遠藤秀男」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月20日付）

「巷の神さま仏さま（10）みの輪の石棒（八幡）さん 遠藤秀男」（『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月20日付）

6年＝昭和41年7月21日付)

「数年間の最低記録 不振の富士山頂郵便局」(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月21日付)

「土砂が本流をせざる 落下点手前で落盤 心配される増水時期 白糸の滝」(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月22日付) → 「三十万円で改修 県、白糸滝の土砂崩れ」(8月9日付) に続報

「巷の神さま仏さま(11) 吉原(悪王子神社)の道祖神 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月22日付)

「共同責任で事業 県、潤井川改修で呼びかけ」〔星山放水路〕(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月22日付)

「巷の神さま仏さま(12) 淀師横丁のむつみ像 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月23日付)

「シゴキ事件のリーダー釈放」〔日大山岳部シゴキ〕(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月23日付) ▼▼

「巷の神さま仏さま(13) 貴船町のベンガラ道祖神 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月24日付)

「巷の神さま仏さま(14) 富士川水神の森の道標 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月26日付)

「大石寺を質す きょう」〔富士西ろく開発促進特別委員会〕(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月26日付)

「巷の神さま仏さま(15) 栗倉の登山道しるべ 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月27日付)

「富士登山は真っ盛り 活気づく富士宮表登山口 山室 土曜は徹夜の各さばき 効果ない『静かに』の立札 だるそうな人の波 “ご来光”に元気づく 危険!雪渓すべり あとを断たぬカミナリ登山」(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月28日付)

「巷の神さま仏さま(16) “六根清浄”の信仰 サイの河原の六地藏 遠藤秀男」〔賽の河原〕(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月29日付)

「文化財保護委が話し合い」(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月29日付)

「巷の神さま仏さま(17) 33回の登山記念に 村山浅間の大願成就碑 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月30日付)

「十人を暴行で送検 シゴキ事件がケリ」〔日大山岳部シゴキ〕(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月30日付) ▼▼

「大沢は国でやれ 潤井川治水同盟が発足」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月30日付)

「市首脳が近江八幡へ 富士と琵琶湖を結ぶ祭典 10周年 今夏も三日に登山 近江八幡の新市長が受け継ぐ」(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月30日付)

「17回目の山頂帰属問題公判」(『岳南朝日』1966年＝昭和41年7月31日付)

「登山客、大幅に減少 開山一カ月 天候不順がたたる」(『岳南朝日』1966年＝昭和41年8月2日付)

「巷の神さま仏さま(18) あるエピソード 拾われた馬頭観音 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年＝昭和41年8月2日付)

日』1966年=昭和41年8月2日付)

「県砂防課など大沢現地調査」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月2日付)

「砂防地域指定へ 危険な麓河原の護岸」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月3日付)

「市長ら潤井川治水で陳情」〔中部地建〕〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月3日付)

「きょう近江八幡から来宮」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月3日付)

「巷の神さま仏さま(19) 六本腕の馬頭観音 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月3日付)

「巷の神さま仏さま(21) 村山の不動明王石像 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月5日付) ←8月3日付が(19)、8月6日付が(21)だから、この回は(20)のはず

「巷の神さま仏さま(21) 北山東村の題目碑 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月6日付)

「富士宮防災会議 防災計画を一部修正 潤井川水系重点に施策 避難場所六地区十か所に」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月7日付)

「巷の神さま仏さま(22) 神田市神社のご神体 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月9日付)

「イチゴ苗、富士山へ 六百万本を促成」〔富士山表口二合目〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月9日付)

「三十万円で改修 県、白糸滝の土砂崩れ」〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月9日付) ←「土砂が本流をせざる」(7月22日付)に第1報

「すたれゆく“村まつり” 伝統の催し物も姿消す 青年の流出で守れぬ」〔露天商〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月10日付) ▼▼

「巷の神さま仏さま(24) 滝川の道しるべ石 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月10日付) ←8月9日付が(22)、8月10日付が(23)だから、(23)には居場所がない

「巷の神さま仏さま(25) 猪之頭の太鼓石 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月11日付)

「私の夏休み 富士山頂で毎日を満喫 定光昭氏(浅間神社権宮司)」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月11日付)

「衛生センター閉鎖」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月11日付)

「吉原 終戦記念日前に自衛隊が白兵戦 『非常識だ』と非難の声 革新団体も反対運動」〔軍事演習〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月13日付)

「巷の神さま仏さま(27) 白糸滝の食行身ろく碑」〔白糸の滝〕〔食行身禄〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月13日付) ←(26)はおそらく8月12日付に掲載のはずだがその日は原紙が欠落している

「六百万登山の受入で四車線の輸送道を建設 創価学会 バイパス―黒門間に 45年までに完成」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月14日付)

「山で働く高校生 夏休みを“避暑バイト”で」〔山室〕(『岳南朝日』1966年=昭和

和 41 年 8 月 14 日付)

「随想 富士にたち向かう 宇佐美勝司」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月14日付)

「17日まで増発 富士急行がお盆運転」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月14日付)

「富士登山、山梨のKO勝ち 業者二年連続不況を嘆く 貧しい政策に批判 赤字に早じまい 関西からもソッポ?」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月18日付)

「巷の神さま仏さま(29) 人穴に残る角行の石碑 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月18日付) ←8月14日付、15日付、17日付は原紙欠落で、(28)はそのどれかに掲載されていたものと思われる

「涼を呼ぶ白糸の滝」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月19日付)

「巷の神さま仏さま(30) 村山に残る小角の木像 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月19日付)

「七月の収入七五〇万円 有料道路 今月は通行量新記録」〔富士宮道路〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月20日付)

「巷の神さま仏さま(31) 村山の 大日如来堂 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月20日付)

「ベルリン大教授も参加 富士山で学術調査」〔マティック教授〕〔スカイライン〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月21日付)

「山頂電話局と郵便局が閉店」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月21日付)

「遅れる大倉川ダム建設 負担金など市町が対立 底流に相互不信 望まれる大局的展望」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月23日付)

「巷の神さま仏さま(32) 大頂寺の大日如来像 遠藤秀男」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月23日付)

「来年に持ち越しか 岳南二市一町合併 十一月実現絶望的」〔岳南三市町合併〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月24日付)

「江戸時代のベストセラー『富士人穴双紙』発見 版木のまま辻坂の旧家から」〔天保3年〕〔赤池善右衛門〕〔遠藤秀男〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月24日付) ←この発見とその後の出版経緯については佐野良「『富士人穴双紙』について〈上〉〈下〉」(1992年=平成4年9月2日付、9日付)に詳しい。また『富士の人穴雙紙』(富士市立中央図書館編・発行、平成20年)でも活字化されている。

「あす芝川が来宮 大倉川ダム問題で折衝」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月25日付)

「全面開放申入れ 地元猟友会が全猟に」〔西富士猟友会〕〔全日本猟友会〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月25日付)

「あす山頂に集結 国鉄山岳リレー縦走隊」〔変わり種登山隊〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月25日付)

「白糸の滝に市営駐車場」(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月28日付)

「清掃して山開い 山岳会員がきょう登山」〔清掃登山〕〔富士宮山岳会〕(『岳南朝日』1966年=昭和41年8月28日付)

「不振で終始した夏富士 登山客、前年の30%減 ソップ向かれた富士宮口 悪路よりスバルライン 逃げていった自家用車族」〔スカイライン舗装〕〔マイカー〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年8月30日付）▼▼

「江戸時代の富士登山 北高郷研 表口の資料まとめる」〔富士宮北高郷土研究部〕〔大鏡坊〕〔道者帳〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年8月1日付）←『行人塚』（同年11月発行）の内容紹介であるが、「北高郷研が『行人塚』発行」（12月4日付）と記事内容が重複している

「巷の神さま仏さま（完）淀師の正体不明像 遠藤秀男」（『岳南朝日』1966年=昭和41年8月20日付）

「11月合併に明るい見通し 吉原側折れる」〔岳南三市町合併〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年9月1日付）

「大石寺の給配水対策 六百万登山に対処」〔創価学会〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年9月2日付）

「浅間神社で閉山奉告祭」（『岳南朝日』1966年=昭和41年9月2日付）

「淀師北山の井戸を活用 大石寺、四千トン我希望」〔創価学会〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年9月7日付）

「新市名は『富士市』あす全体会議で決定」〔岳南三市町合併〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年9月7日付）

「養豚衛生モデル地区に 村山、栗倉を近く指定」（『岳南朝日』1966年=昭和41年9月8日付）

「高原にササダケ 例年にない“豊作”」〔朝霧高原〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年9月9日付）

「岳南二市一町合併 自治省が内示」〔岳南三市町合併〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年9月23日付）

「村山の宝守ろう 渡辺さんら協力申し出」〔金子重太郎〕〔渡辺英一〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年9月23日付）▼▼

「富士山二合目に男の死体」〔事件?〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年9月23日付）

「台風26号富士宮でも猛威 浅間神社も大きな痛手」〔富士川台風〕〔浅間大社〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年9月27日付）→一部▼▼

「身延線 全線開通は来月中旬」〔台風26号〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年9月28日付）

「応急修理に全力を 浅間神社の災害復旧」〔台風26号〕〔浅間大社〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年9月30日付）

「富士山が初冠雪六合目以上うっすらと」（『岳南朝日』1966年=昭和41年10月6日付）

「第12回スケッチ旅行御案内 紅葉の富士と宝永山火口」〔募集広告〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年10月6日付）▼▼

「両市で推せん競争 斉藤吉原・漆畑富士 新富士市長選で」〔岳南三市町合併〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年10月14日付）

「けさから全線開通 身延線 15 日ぶりに復旧」〔台風 26 号〕（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 10 月 14 日付）

「富士山二回目の冠雪」（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 10 月 14 日付）

「ホステラーの夢、実現へ 古材を無償で払い下げ『いこいの家』に市長さん」〔ユースホステル〕〔山川斌〕〔龍武一郎〕（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 10 月 20 日付）

「秋のお中道めぐり 遠藤不二夫（つづく）」（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 10 月 18 日付）

「全山、金色に染まる 富士山、紅葉たけなわ」（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 10 月 20 日付）

「秋のお中道めぐり 遠藤不二夫（おわり）」（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 10 月 20 日付）

「周遊道に観光施設 県の青写真 二合目に『野鳥亭』など」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 10 月 21 日付） ▼▼

「まつりの明朗化 祭礼協力会できる」〔浅間大社〕〔浅間神社祭礼協力会〕〔露天商組合〕（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 10 月 22 日付） ▼▼

「初の紅葉バス 富士急行が日曜日に」〔富士宮口新五合目〕（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 10 月 22 日付）

「一合目に男の白骨死体」〔事件？〕（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 10 月 25 日付）

「西富士猟区八年ぶりで日の目 問題残したまま開猟」〔西富士猟友会〕〔全日本猟友会〕（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 10 月 30 日付）

「新『富士市』きょう誕生 吉原・富士・鷹岡が合併 “岳南工都” が実現 人口 沼津抜き県下四位に」〔岳南三市町合併〕（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 11 月 1 日付）

「ぼくらを射たないで 人穴小児童が訴える 心ないハンターに怒り 猟場にされた通学区 山へも行けない」（『岳南朝日』〔西富士猟区〕昭和 41 年 11 月 12 日付）

「一合目までの舗装を 同盟会が促進働きかけ」〔表口富士登山道促進期成同盟会〕（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 11 月 16 日付） ▼▼

「野ねずみが大暴れ 白糸平山地区 ヒノキを食い荒らす」（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 11 月 18 日付）

「“演習はご免” 社共などが市長に申入れ」〔自衛隊〕〔神成地区〕（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 11 月 18 日付） ▼▼

「自衛隊演習は許可せず 革新が申入れ 山川市長が言明」〔軍事演習〕（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 11 月 19 日付）

「産業開発青年隊 帰途につく」〔青年中央訓練所〕（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 11 月 19 日付）

「年末年始パトロールなど 遭対協」〔富士宮市山岳遭難対策協議会〕（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 11 月 22 日付）

「博物館建設を検討 考古資料を一堂に展示」〔図書館博物館建設調査委員会〕（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 11 月 25 日付）

「山の遭難に備えパトロールなど決める」（『岳南朝日』1966 年＝昭和 41 年 11 月 26 日付）



「買い占められた開発基点 富士宮市北部地域土地利用 いぜん手つかず野の“青写真”  
大小資本目白押し 公共事業に“厚いかべ”」（『岳南朝日』1966年=昭和41年11月29日付）

「農村を明るく楽しく 娘さんらの研修グループ あす富士根北部に誕生」（『岳南朝日』1966年=昭和41年12月2日付）

「六合目で救助訓練 県山岳連盟が登山」〔静岡県山岳連盟〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年12月2日付）

「登山道整備で県知事に陳情 期成同盟会」〔表口富士登山道促進期成同盟会〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年12月4日付）

「北高郷研が『行人塚』発行」〔富士宮北高郷土研究部〕〔『行人塚』1966年11月発行〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年12月4日付）←「江戸時代の富士登山 北高郷研 表口の資料まとめる」（1966年=昭和41年8月1日付）と内容が重複

「田貫湖に五万尾 ことしもへラブナ放流」（『岳南朝日』1966年=昭和41年12月8日付）

「富士周遊道建設に着手 本年度は一―二合目間 富士宮側 22日に現地で起工式」（『岳南朝日』1966年=昭和41年12月11日付）

「四年ぶりで再折衝 “白紙還元”の駅前改造 だが地元はいぜん冷淡」〔駅前整備〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年12月11日付）

「空から野ねずみ退治 山ろくの国有林で」〔上井出〕〔北山〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年12月11日付）

「装備不十分なら下山勧告」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年12月14日付）

「やってきた冬将軍 富士山、すっぽり冠雪」（『岳南朝日』1966年=昭和41年12月14日付）

「日大のしごき事件 暴かれた大学スポーツの封建性 かげに一市民の協力」〔日大山岳部シゴキ〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年12月18日付「'66ニュースのあとさき（3）」）▼▼

「きょう富士山で冬山訓練 富士宮遭対協」〔富士宮山岳遭難対策協議会〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年12月18日付）

「一合目でクワ入れ きょう周遊道起工式」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1966年=昭和41年12月22日付）

←1966年=昭和41年12月22日以降、日大山岳部シゴキ事件に関する吉原地裁での公判記事は消える→

## ■ 1967年=昭和42年

「富士おろしにもめげず さあ、最後の勉強 張切る産業開発青年隊」〔青年中央訓練所〕（『岳南朝日』1967年=昭和42年1月4日付）

「59人が初登山 冬山パトロールぶじ終る」（『岳南朝日』1967年=昭和42年1月5日付）

「富士根へ全戸給水 工費一億円で完成」(『岳南朝日』1967年=昭和42年1月6日付)

「ふるわない造林申込み 六日から再募集」〔富士森林組合〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年1月6日付)

「ことしも節分に杉田の伝統行事『虫封じ』」(『岳南朝日』1967年=昭和42年1月12日付)

「村山で農家二むね焼く」〔火事〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年1月12日付)

「身延線を花の駅に 三月ごろサクラ モモを植樹」(『岳南朝日』1967年=昭和42年1月22日付)

「教え子の霊安かれ 教師らが追悼登山」〔沼津工業高校〕〔遭難〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年1月22日付) ▼▼ ←「むだにすまい友の死」(1966年=昭和41年4月1日付) が第1報

「地下水対策に本腰 岳南地区 自主規制に動く」〔岳南地域地下水利用対策協議会〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年1月22日付)

「五―六月に判決か “山頂裁判” 最終弁論へ」(『岳南朝日』1967年=昭和42年1月24日付) ▼▼

「崩壊する富士山 航空写真で明らかに」〔大沢崩れ〕〔潤井川治水期成同盟会〕〔豪雨〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年2月5日付) ▼▼

「市内から四千人 河口湖リンク 開所以来の新記録」〔アイススケート〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年2月7日付)

「早ければ四月末判決 富士山はだれのもの 控訴審きのう結審」〔山頂裁判〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年2月7日付)

「夏山登山の照会第一号 大阪から申込み」(『岳南朝日』1967年=昭和42年1月27日付)

「パトロールで受入れ改善 早くも夏山の対策」〔富士山五口協議会〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年2月8日付)

「複線化の測量 市内で国鉄岐阜工事局」〔身延線〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年2月8日付)

「五湖方面は大にぎわい 連休の初日」(『岳南朝日』1967年=昭和42年2月12日付)

「富士宮歴史散歩(1) 次郎長開墾(1) 遠藤秀男 清水港のバクチ打ち 鉄舟に目さます」(『岳南朝日』1967年=昭和42年2月17日付)

「北部では四カ所 3月1日から気象調査」〔日本気象協会〕〔気象統計〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年2月17日付)

「富士宮歴史散歩(2) 次郎長開墾(2) 遠藤秀男 実った汗と力の76び 囚人と共に半生を精算」(『岳南朝日』1967年=昭和42年2月18日付)

「富士宮歴史散歩(3) 古木と伝説(1) 遠藤秀男 田貫湖からも発見 富士宮の神代杉」(『岳南朝日』1967年=昭和42年2月19日付)

「朝霧高原に会場招致 市も実現に側面協力 世界ジャンボリー」(『岳南朝日』1967年=昭和42年2月21日付)

「頂上で“蛍の光” 東高 愛鷹でお別れ会」〔富士宮東高校〕〔愛鷹山〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年2月21日付）

「富士宮歴史散歩（4）古木と伝説（2）遠藤秀男 神話にある舞々木 遺物をのこす井出家」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年2月21日付）

「富士宮歴史散歩（5）古木と伝説（3）遠藤秀男 摩利支天の顛末 精霊やどす古木信仰」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年2月22日付）

「周遊道建設に六億円計上 県、42年度に」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年2月22日付）

「まだまとまらぬ“青写真” 西麓開発特別委の報告 三社三様に理由」〔富士総業〕〔高原社〕〔富士観光〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年2月23日付）

「富士宮歴史散歩（6）子育て信仰（1）遠藤秀男 福石神社の捨子の儀式 大正時代までつづく」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年2月23日付）

「卒業隊員こぞって献血 市民に“最後のプレゼント”と」〔青年中央訓練所〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年2月23日付）

「富士宮歴史散歩（7）子育て信仰（2）遠藤秀男 安産祈る願文も いまなおつづく俗信」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年2月24日付）

「当局、市史づくりに本腰 記念事業にも取上げる」〔『富士宮市史』〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年2月25日付）

「富士宮歴史散歩（8）子育て信仰（3）遠藤秀男 乗り移った安の霊 神にすがる女の業」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年2月25日付）

「大沢対策など国へ陳情」〔潤井川期成同盟会〕〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年2月25日付）

「村山浅間の記録 鈴木、遠藤両氏が発刊」〔『富士山表口「村山」の歴史』〕〔鈴木勲〕〔遠藤秀男〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年2月25日付）→「[村山の歴史発売](#)」（3月3日付）に続報あり

「富士宮歴史散歩（9）軍師山本勘助（1）遠藤秀男 富士宮の生まれ？吉野家に伝わる系図」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年2月26日付）

「富士宮歴史散歩（10）軍師山本勘助（2）遠藤秀男 武士団として活躍 伝説の人という異論も」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年2月28日付）

「富士宮歴史散歩（11）摩利支天塚 遠藤秀男 奇人がつくった塚 白尾山の裏手に遺跡」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月1日付）

「富士宮歴史散歩（12）二つの出水（1）遠藤秀男 生き神様のへび 小泉の出水不動」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月2日付）

「村山の歴史発売」〔『富士山表口「村山」の歴史』遠藤秀男〕〔『岳麓古文書年表』〕〔富士宮北高〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月3日付）

「富士宮歴史散歩（13）二つの出水（2）遠藤秀男 秘められた悲恋 淀師の出水観音」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月3日付）

「招致促進の運動を起す 世界ジャンボリー 朝霧高原ますます有力」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月4日付）

「富士宮歴史散歩（14）奇談あれこれ 遠藤秀男 足のあるへび 竜ヶ岳には伝説も」（『岳

南朝日』1967年＝昭和42年3月4日付)

「富士宮歴史散歩(15) 奇談あれこれ 遠藤秀男 北山の入定伝説 紅葉愛した一陽法印か」(『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月8日付)

「周遊道は高はちコースに」〔スカイライン〕【高鉢駐車場】(『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月8日付) ▼▼

「富士宮歴史散歩(16) 奇談あれこれ 遠藤秀男 住職に化けた狸 安養寺の狸伝説」(『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月9日付)

「富士宮歴史散歩(17) 昔の富士登山 遠藤秀男 80人もいた強力 ハイヤーはカケスバタまで」〔強力〕〔渡邊二三郎〕〔大宮新道〕(『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月12日付) ▼▼

「富士宮歴史散歩(18) 北山と法灯 遠藤秀男 梨の木と日尊 往時を語る腰掛石」(『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月14日付)

「富士宮歴史散歩(19) おぶつなさん 遠藤秀男 昔は浅間社の境内に “父親”の引越しで所がえ」〔山宮浅間神社〕(『岳南朝日』昭和42年3月16日付)

「富士宮歴史散歩(20) 白糸滝余談 遠藤秀男 神聖な修行の場 角行の二代目選びにも」〔斉藤資盛〕〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月17日付)

「猟友会の統合計画推進 南北を一緒に」〔富士宮猟友会〕〔富士南部猟友会〕〔西富士猟友会〕(『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月17日付)

「朝霧開催(世界ジャンボリー)は期待大 久留島総長も視察に」(『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月18日付)

「世界ジャンボリー会場 朝霧か御殿場か 白熱化する誘致合戦 巻き返しを狙う御殿場」(『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月21日付)

「白糸の滝 行楽客で賑わう マイカー族が目白押し」(『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月21日付)

「盛んなミツマタ天日干し」(『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月21日付)

「三中 富士山で巣箱かけ」〔富士宮第三中〕〔富士山六番〕(『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月28日付)

「遠藤先生の史話と伝説 来月七日発売」〔『富士山 史話と伝説』遠藤秀男著、寺田書店発行、1967〕(『岳南朝日』1967年＝昭和42年3月28日付) →[4月14日付に広告](#)

「富士宮口の夏山打ち合せ」〔富士宮市観光協会〕(『岳南朝日』1967年＝昭和42年4月1日付)

「終点五合目に延長 富士宮口 夏山受入れ対策決る」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1967年＝昭和42年4月5日付) ▼▼

「朝霧招致に隠れた功績 世界ジャンボリー会場は決定的 尾崎氏らの努力が実る」〔尾崎忠次〕(『岳南朝日』1967年＝昭和42年4月7日付)

「安定した“八月山”富士山の長期予報」(『岳南朝日』1967年＝昭和42年4月8日付)

「富士山頂訴訟が結審 名古屋高裁 浅間神社『勝訴を確信する』」〔山頂裁判〕〔浅間

大社] (『岳南朝日』1967年=昭和42年4月11日付)  
「高原社が敷地提供 山川市長 世界ジャンボリーで語る」〔山川斌〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年4月11日付)  
「雨の中で視察 ボーイスカウト世界委員ら」〔世界ジャンボリー〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年4月12日付)  
「自衛隊の穴埋め作業終る」〔富士根北中学〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年4月11日付)  
「ブル運転で打合せ 山室業者が許可陳情」〔ブルドーザー〕〔荷揚げ〕〔強力〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年4月11日付) ▼▼  
「世界委員も満足し帰る 朝霧高原視察」〔世界ジャンボリー〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年4月13日付)  
「富士山を緑一色に 植樹祭皮切りに植付け ことしはざっと40万本」〔静岡営林署〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年4月13日付)  
「駒止めの桜満開 地元で二代目づくり」(『岳南朝日』1967年=昭和42年4月14日付)  
「『富士山・史話と伝説』発刊」〔広告〕〔遠藤秀男〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年4月14日付)  
「白糸滝の露天商は不許可を 地元売店陳情」〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年4月19日付)  
  
「植林も厳しい風 思うにまかせぬ伐採地」(『岳南朝日』1967年=昭和42年4月20日付)  
「栗倉の子ら表彰 営林署が植樹祭に」〔静岡営林署〕〔富士根北小栗倉分校〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年4月21日付)  
「早くも団体などが予約 富士山照会しきり 林間学校の利用目立つ田貫湖」(『岳南朝日』1967年=昭和42年4月21日付)  
「新入生百二十人迎え入隊式 産業開発訓練」〔青年中央訓練所〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年4月26日付)  
「賑かにお花見も あす天照教の春祭り」〔臨時バス〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年4月28日付)  
「反省かねて訓練 しごき事件から一年 日大三島校舎山岳部が登山」〔日大山岳部シゴキ〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年4月29日付) ▼▼  
「行動は慎重に 連休登山に警告」(『岳南朝日』1967年=昭和42年4月29日付)  
「“千本桜”が満開 富士山天照教の春」(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月3日付)  
「パンフレット20万枚持参 関西へ登山誘致宣伝」〔キャラバン隊〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月3日付)  
「○…富士宮浅間神社では落雷で破壊された富士山頂の「鎮国の碑」の復元準備を」〔奥宮〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月3日付「こぼれ話」)  
「夏山登山の宣伝 キャラバン隊関西へ」(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月5日

付)

「ことしも巣箱を 栗倉分校で富士山へ」〔富士根北小〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月10日付)

「○…富士宮市山宮の天母山に」〔あじろ木会館建設同志会〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月10日付「こぼれ話」)

「国鉄、立入り測量 身延線の複線化で」〔土地収用法〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月11日付)

「白糸、人穴地区の野ねずみ退治」(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月11日付)

「“危険度が高い”と 田貫湖、モーターボートを禁止」(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月11日付)

「富士山誕生のナゾ解き 津屋教授も異常な関心 潤井川の神代杉 待たれる分析結果」〔津屋弘達〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月23日付) →「[富士山 形成年代にメス](#)」(5月26日付)に続報

「田貫湖 50センチかさ上げ」(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月23日付)

「登山客の誘致を キャラバンあす出発」〔キャラバン隊〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月23日付)

「白糸滝を日観連が視察」〔日本観光連盟〕〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月23日付)

「二七八万人が登山 昨年度の創価学会輸送 前年の23%増」(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月14日付)

「檜肌ぶき屋根を鉄板に 浅間さん、回廊の修理始める」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月16日付)

「山中に迷いこむ うど、ふき取りにご注意」〔山菜〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月23日付)

「きょうアルプス遠征隊出発」〔ヨーロッパアルプス〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月26日付)

「富士山 形成年代にメス きょう津屋教授が調査」〔神代杉〕〔津屋弘達〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年5月26日付) ←「[歴史散歩\(3\)](#)」(2月19日付)参照、「[富士山誕生のナゾ解き](#)」(5月23日付)第1報、「[郷土を知る生きた教材](#)」(6月6日付)に続報

「富士フィルム誘致のその後 市側の契約事業終わる だが、まだ一億円余の借金」(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月1日付)

「歴史巷談 異説人穴探検史考① 渡辺利雄」(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月1日付)

「猪之頭がSOS 田植えなかばで水枯れ」〔地下水〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月1日付)

「歴史巷談 異説人穴探検史考② 渡辺利雄」(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月2日付)

「砂防以上に治水対策を 大沢くずれ 地元の意見を国、県へ 潤井川 出水危険いっぱい」〔大沢崩れ〕〔潤井川治水対策期成同盟〕〔山川斌〕(『岳南朝日』1967年=昭和

和 42 年 6 月 3 日付)

「歴史巷談 異説人穴探検史考③ 渡辺利雄」(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月3日付)

「歴史巷談 異説人穴探検史考④ 渡辺利雄」(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月4日付)

「8月15日まで開設 夏山の衛生センター」(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月4日付)

「一と足早い夏開き 田貫湖で学生ワングル」(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月4日付)

「登山客誘致宣伝隊帰る 大沢くずれで持ち切り」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月6日付)

「郷土を知る生きた教材 失なわれる“神代杉”『なんとか保存』の声も」〔潤井川〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月6日付)

「歴史巷談 異説人穴探検史考⑤ 渡辺利雄」(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月7日付)

「北高、高校登山大会で入賞」〔静岡県高校登山大会〕〔富士宮北高〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月7日付)

「歴史巷談 異説人穴探検史考⑥ 渡辺利雄」(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月8日付)

「干害応急本部設置 湖水の放出を延長」〔田貫湖〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月8日付)

「歴史巷談 異説人穴探検史考⑦ 渡辺利雄」(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月9日付)

「歴史巷談 異説人穴探検史考⑨ 渡辺利雄」(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月11日付) ←⑧がない、6月10日付原紙欠落

「富士山をきれいに ことしも来月早々実施」〔静岡県山岳連盟〕〔自衛隊〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月9日付)

「夏山の受入れで県内バス業者らに説明」〔富士宮市観光協会〕〔スカイライン舗装〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月11日付)

「富士山の容姿を守ろう 17日、東京で結成 山静両県 大沢対策の期成同盟会」〔大沢崩れ〕〔富士大沢崩対策期成同盟会〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月13日付)

「歴史巷談 異説人穴探検史考⑩ 渡辺利雄」(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月13日付)

「歴史巷談 異説人穴探検史考(11) 渡辺利雄」(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月14日付)

「夏の予約申込み相つぐ ほぼ満員の田貫湖 四国、九州からも登山客」(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月14日付)

「歴史巷談 異説人穴探検史考(14) 渡辺利雄」(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月17日付) ←(12)(13)欠落

「受け入れ体制整う 山開きまであと10日」(『岳南朝日』1967年=昭和42年6月

20日付) ▼▼

「登山道の危険箇所調査」〔富士宮市福祉事務所〕〔富士宮警察署〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年6月20日付）

「ご婦人の富士登山 ことしも19日に百五十人」〔富士宮市婦連〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年6月20日付）

「陸運の路線延長許可確定的 富士宮登山道」〔スカイライン〕〔陸運事務所〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年6月20日付） ▼▼

「五合目に警告板を設置 夏山遭難対策」〔静岡県山岳遭難対策協議会〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年6月27日付）

「滝にも夏の訪れ 水のすだれにみとれる」〔白糸の滝〕〔写真〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年6月27日付）

「厚生省で大沢崩れ視察」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年6月28日付）

「富士宮二中 登山道は全面禁止 異例の通学路規制」〔スカイライン〕〔富士宮第二中学〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年6月28日付）

「登山バス発着所を開設 富士急行」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年6月28日付） ▼▼

「気遣いした徳川幕府 オールコックの登山 珍しい当時の廻文みつかる」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月1日付）〔オールコック〕〔大鏡坊〕 ▼▼

「きょうから夏の防犯運動 田貫湖に臨時派出所 フクロウ部隊も繰出す」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月1日付）

「こぼれ話」〔富士山頂局〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月1日付） ▼▼

「きょう夏山開き 登山客30%増を見込む 市、サービスで不振をばん回」〔富士宮市観光協会〕〔浅間大社〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月1日付）

「身延線の増収を 各駅、苦肉のばん回策」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月2日付）

「山頂裁判 近づく二審の判決『神社は勝訴を確信』佐藤宮司 市民の支援訴える」〔浅間大社〕〔佐藤東〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月2日付）

「一番バスに70人 富士宮口 夏山スタート」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月2日付）

「観光協会の総会ひらく」〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月2日付）

「祝開山 富士のこけもも 藤太郎本店」〔広告〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月2日付、7月4日付）

「きょう婦人会で富士登山」〔富士宮市婦連〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月4日付）

「祝開山 かさぐも すその 花鳥山脈 江戸屋本店」〔広告〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月4日付、7月9日付）

「21年ぶりに日の目 倉庫から古書どっさり 市立図書館」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月4日付）

「ぞくぞく平和登山 山開きには五百人参加」〔富士山を守る十万人平和登山〕〔軍事基



地)〔日本山妙法寺〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月4日付)

「無人化される踏切 国労支部 住民と反対共闘へ」〔身延線〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月5日付)

「頂上で平和祈願 傷い軍人が富士登山」〔傷痍軍人会〕〔障害者登山〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月5日付)

「公害防止の管理者設置 市、近く企業に申入れ」(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月6日付)

「平和登山の連絡所」〔富士山を守る十万人平和登山〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月6日付)

「あすから八本に 登山定期バスを増発」〔登山バス〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月7日付)

「進まない開発計画 土地を買占めた会社」〔朝霧高原〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月9日付)

「富士根地区に畑かん延長 県が地元の意見を聴取 岳南地区事業に関連させ」(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月9日付)

「裏切られた山室 荒れ模様に登山客さっぱり」(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月9日付)

「判決近い山頂問題 富士山はだれのもの(1)十五年越しの争い 大蔵省、譲与の答申無視」〔浅間大社〕〔山頂裁判〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月11日付)

「バス四本が運休 豪雨で登山道荒れる」〔登山バス〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月11日付)

「富士宮地方では51ミリ 富士山大荒れ」(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月11日付)

「お山のサービス機関活動開始 山頂の電話、郵便局も店開き」〔山頂電話〕〔山頂郵便局〕〔衛生センター〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月11日付)

「連日、ガスと雨 頂上の丸尾神官と通話」〔奥宮〕〔頂上郵便局〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月11日付)

「遊園地 朝霧高原グリーンパーク 7月15日オープン」〔広告〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月11日付)

「判決近い山頂問題 富士山はだれのもの(2) 一審は神社側勝つ ほぼ全面的に主張認める」〔浅間大社〕〔山頂裁判〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月12日付)

「きのう政府機関の一行視察」〔世界ジャンボリー〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月12日付)

「東北へ労働力探し 富士宮雇用対策協 来月、代表を派遣」〔中卒労働力〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月13日付)

「随想 雲の上から 松本鹿太郎」〔山頂郵便局〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月13日付) ▼▼

「富士 港祭り近づく 花火と自衛艦乗船」〔田子の浦港〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月13日付)

「山室の電話番号と料金 申込み106」〔山室電話〕(『岳南朝日』1967年=昭和

42年7月13日付) ▼▼

「交通事情の好転理由に 県、へき地診療前面廃止 住民は存続を強く要望」〔移動衛生部〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月14日付)

「きょう天王さんの夏祭り」〔富士根〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月14日付)

「夏休みを山麓で 林間学校 開設申込み相つぐ」(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月14日付)

「富士宮吉原山岳会パーティー ピッツパディレに北東壁 日本人で初の登頂成功」〔富士宮・吉原 山岳合同隊〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月15日付)

「元地主、解約を迫る 柔道大学建設用地 市に決議文を提出」〔富士観光〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月15日付)

「開山以来、初のにぎわい 千人を越す」〔富士宮口〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月16日付)

「夏祭りには完成 きのうふん水の起工式」〔浅間遊園地〕〔噴水〕〔富士宮市制25周年〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月16日付)

「田貫湖にキャンプ場荒し」(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月16日付)

「政府機関が朝霧を視察」〔世界ジャンボリー〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月16日付「週間グラフニュース」)

「富士山を大掃除 富士宮市婦連で」(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月16日付「週間グラフニュース」)

「“一か月後に具体案提示” 富士観顧問 特別委で弁明」〔富士観光〕〔柔道大学〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月18日付)

「あす、いよいよ判決 注目の富士山頂裁判」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月18日付)

「こぼれ話」〔浅間大社〕〔奥宮〕〔皇學館大学〕〔國學院大學〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月19日付)

「北山中二年生が富士登山」(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月19日付)

「神社、第二審でも勝訴 高裁 ほぼ全面的に主張認める 公益性にあてはまらぬ 一審判決破棄 国の施設など除外」〔山頂裁判〕〔浅間大社〕〔国有に残すべき土地〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月20日付) →一部▼▼

「最高裁でも勝利を確信」〔山頂裁判〕〔浅間大社〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月20日付)

「国利民福にそって運営 佐藤宮司、喜びを語る」〔山頂裁判〕〔浅間大社〕〔佐藤東〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月20日付)

「市民に明るい感激 山川市長も談話」〔山頂裁判〕〔浅間大社〕〔山川斌〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月20日付)

「朗報に思わず万才の声 神社社務所」〔山頂裁判〕〔浅間大社〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月20日付)

「きょうから夏ダイヤ 富士急行 五湖方面を増発」〔富士五湖〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年7月20日付)

「山室の衛生検査 保健所員が登山して」〔山室衛生〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月20日付）

「登山客歓迎のポスター設置」〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月21日付）

「富士山頂所有権裁判の判決要旨」〔山頂裁判〕〔浅間大社〕〔国有に残すべき土地〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月21日付）▼▼

「御礼御挨拶 富士山本宮浅間神社」〔浅間大社〕〔広告〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月21日付）

「こぼれ話○創価学会では富士宮市上野の大石寺に四十五年までに正本堂を…」〔創価学会〕〔大石寺〕〔正本堂〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月21日付）

「富士宮の恥さらす 浅間神社で犬の“用足し”」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月21日付）

「大登はん中止 富士宮、吉原山岳会パーティー 北アの日本人遭難悼み」〔富士宮・吉原山岳合同隊〕〔ピッツパディレ北東壁〕〔岐阜登高会〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月22日付）

「富士山二合目で野鳥の会」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月22日付）

「浮び出た滝 白糸滝の照明始まる」〔白糸の滝〕〔写真〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月23日付）

「高山病も最高 富士登山 土、日に五五〇〇人」〔富士登山バス〕〔衛生センター〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月25日付）

「出足悪い山頂便り 後半に期待かける」〔山頂郵便局〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月26日付）

「田貫湖カサ上げ記念碑」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月28日付）

「近江八幡 ことしも登山 富士と琵琶湖結ぶ祭典」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月29日付）

「大沢 潤井川 砂防治水対策急げ 同盟会 運動方針を決める」〔星山放水路〕〔大沢崩れ〕〔潤井川治水対策期成同盟〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月30日付）

「今夏最高を記録か きょうの富士登山」〔富士宮口〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月30日付）

「お山は晴天、六根清浄 にぎわう富士宮口」〔写真〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年7月30日付「週間グラフニュース」）

「尾をひく富士山頂問題 国側、最高裁に上告 『国民感情を無視』と」〔山頂裁判〕〔浅間大社〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年8月1日付）

「目的達成までがんばる 佐藤宮司談」〔山頂裁判〕〔浅間大社〕〔佐藤東〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年8月1日付）

「芸能人ぞくぞく きょう新十郎が登山」〔市川新十郎〕〔市川紋之助〕〔身生講〕〔山本富士子〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年8月1日付）

「まだ多いハエ 山室衛生監視」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年8月1日付）

「商工部長ら登山」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年8月1日付）

「市の防災計画まとまる 潤井川流域の警戒強化 情報収集体制を徹底」（『岳南朝日』

1967年=昭和42年8月2日付)

「好調だった“七月登山”登山客10%ふえる やはり多い夜行組」〔富士宮口〕〔夜行登山〕〔衛生センター〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月2日付)

「もめる警手踏切の廃止 西駅構内 “安全性に逆行の無人化”住民の反対機運上る」〔西富士宮駅〕〔身延線〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月3日付)

「大沢超えは早朝に 遭対が登山者に警告 陽が当たると落石増す」〔大沢崩れ〕〔お中道〕〔富士宮山岳遭難対策協議会〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月4日付) ▼▼

「登山中に急病」〔衛生センター〕〔竹尾道伯〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月4日付)

「農地の流出を防ぐ 富士根の保全事業を推進 本年度から 地形調査」(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月5日付)

「“夫婦都市縁組”も話題に 近江の国からことしも客」〔近江八幡〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月6日付「週間グラフニュース」)

「地元負担金が解決 身延線西回り近く着工」(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月6日付)

「山ろく開発の試金石 誘致二つの問題の現状」〔貿易研修センター〕〔世界ジャンボリー〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月8日付)

「ある夏休み(2) 登山バス運転手 緊張づめの二時間半 一般路線にない苦労」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月10日付) ▼▼

「柔道大学から音楽学校に? 富士観が18日来宮説明」〔富士観光〕〔国立音楽大学〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月10日付)

「富士宮駅で洗面所設置 団体ホームに」〔創価学会〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月10日付)

「日蓮聖人の遺文 重文指定書を伝達」〔大石寺〕〔国の重要文化財〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月8日11付)

「平和登山の一行 五百人が来宮」〔富士山を守る十万人平和登山〕〔軍事基地〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月8日11日付)

「富士山で神代杉の調査 津屋教授来ろく」〔津屋弘達〕〔古富士泥流層〕〔富士宮北高郷土研究部〕〔遠藤秀男〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月12日付)

「五百人が平和登山 そろいのゼッケンつけ」〔富士山を守る十万人平和登山〕〔軍事基地〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月8日13日付)

「土、日曜日に二千人登山」〔富士宮口〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月14日付)

「重文に指定された日蓮上人遺文」〔日蓮聖人〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月14日付「週間グラフニュース」)

「大沢くすれを現地調査 建設省専門官 工法など資料作成で」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月18日付)

「世論背景に運動 身延緯線改善同盟の方針」〔身延線改善促進期成同盟〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月18日付)

「高山病が圧倒的 衛生センター店じまい」(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月

18日付)

「第13回世界ジャンボリー 日本開催、正式に決定 朝霧高原で四年後に」(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月19日付)

「音楽大を建設 富士観、特別委で説明」〔富士観光〕〔国立音楽大学〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月19日付)

「近く準備委員会を結成 第13回世界ジャンボリー受け入れで 部内にも窓口設置か」(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月20日付)

「富士山に秋風立つ サービス機関も店閉い」〔山頂郵便局〕〔山頂電話局〕〔パトロール〕〔田貫湖〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月20日付)

「富士山を大掃除 昨夕、清掃隊が登山」〔清掃登山〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月20日付)

「ジャンボリー開催地に朝霧高原」(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月20日付「週間グラフニュース」)

「イチゴ苗の高冷地栽培盛ん」(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月20日付「週間グラフニュース」)

付)

「新委員長に望む 地元関係者の声 東富士問題など有利に 藤田孝昂市議」〔軍事演習〕〔勝間田清一〕〔社会党〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月22日付)

「県に事務局設置 ジャンボリー受け入れで」(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月22日付)

「受け入れ対策進む 世界ジャンボリー 来月四日に準備医発足」(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月25日付)

「市長、高原社に協力申入れ」〔山川斌〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月25日付)

「山頂だより一割増 一と夏に九万六千通」〔山頂郵便局〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月25日付)

「夏山富士の総決算 数年ぶり不振ばん回 登山客は26%増 富士宮口 だが大半が夜行、日帰り」〔登山者数〕〔夜行登山〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月27日付) ▼▼

「相変わらず無謀登山 高すぎる物価にも批判」(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月27日付) ▼▼

「大もての浅間神社 夏休みの終りを控えて」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月27日付)

「夏山さようなら 最後の山室も店閉い」〔閉山〕〔秋口登山〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月31日付) ▼▼

「噴水池荒しが出没 自然石、植え木ねらう」〔浅間遊園地〕〔富士宮市制25周年〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年8月31日付)

「七日に閉山式 浅間神社で」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月1日付)

「ジャンボリー受け入れできょう県で初の合同協議 市、バイパス促進強く要請」(『岳

南朝日』1967年=昭和42年9月2日付)  
「今月中旬に決定 貿易誘致 見通しは六分」〔貿易研修センター〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月2日付)  
「シャクナゲの季節」〔お中道〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月3日付「週間グラフニュース」)  
「県の基本計画 | 世界ジャンボリー受け入れ | バイパスや施設に 40 億円 山川市長 記者会見で説明」(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月5日付)  
「やっと事業解散へ 幻だった北部畑かん」〔富士宮市北部畑地灌漑事業〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月5日付)  
「市民参加の“歴史散歩”17日、郷土の文化財めぐり」〔興法寺大日堂〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月7日付)  
「四社、具体案は示さず ジャンボリーには注目 西ろく開発特別委が報告」〔朝霧高原開発〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月9日付)  
「ナゾ秘める“神代杉”発掘許可申し入れ 火山の津屋教授が山川市長に」〔津屋弘達〕〔山川斌〕〔潤井川〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月9日付)  
「北部の土地、異常値上がり ジャンボリーの思惑買い 市の開発計画に支障」〔朝霧高原開発〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月10日付)  
「西富士地区で 野ねずみが異常繁殖 幼令林全滅の恐れも 近く大がかりな防除計画」〔幼齡林〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月12日付)  
「維新当時の新聞発見 激動期の世相ありありと 池谷さん方で保存」〔池谷邦之〕〔池谷文具店〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月12日付) ▼▼  
「岳南排水路協が連合会結成」〔岳南排水路建設協会〕〔公害〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月12日付)  
「公害防止に本腰 あすから初の協調月間 事務所に甘い規制措置」(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月14日付)  
「石坂会長が視察か 貿易研修センター 遅れる候補地選定」〔石坂泰三〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月16日付)  
「初登頂みやげに 加藤さん、あす帰国」〔富士宮・吉原山岳合同隊〕〔加藤三郎〕〔ピッツパディレ北東壁〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月16日付)  
「ことしも紅葉バス 観光資源に売り出す」(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月17日付)  
「富士山に初雪 きのうぐんと冷え込む」(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月21日付)  
「畑かん、17年ぶりにフリーに 近く転用方針きめる」〔富士宮市北部畑地かんがい事業〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月29日付)  
「来月、野ねずみ一斉駆除」(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月30日付)  
「ワサビ大根が順調に生育」(『岳南朝日』1967年=昭和42年9月30日付)  
「秋の中道めぐり 北高、創立記念事業に」〔お中道〕〔富士宮北高〕(『岳南朝日』1967年=昭和42年10月5日付)  
「富士山うっすらと初冠雪」(『岳南朝日』1967年=昭和42年10月8日付)

「きょう正本堂起工 大石寺 七千人が出席して」〔創価学会〕（『岳南朝日』1967年=昭和42年10月12日付）

「重文の五重塔 修復工事終る 大石寺」（『岳南朝日』1967年=昭和42年10月13日付）

「紅葉バス、22日に初運行 富士急行で」（『岳南朝日』1967年=昭和42年10月19日付）

「人往来 富士宮浅間神社宮司の定光昭氏」〔浅間大社〕〔山頂裁判〕〔宝永山浅間神社〕（『岳南朝日』1967年=昭和42年10月20日日付） ▼▼

「歴史散歩 アイヌの墓① 遠藤秀男」（『岳南朝日』1967年=昭和42年10月20日日付）

「歴史散歩 アイヌの墓② 遠藤秀男」（『岳南朝日』1967年=昭和42年10月21日日付）

「大沢くずれを視察 対策懇談会の一行」〔大沢崩れ〕〔大沢崩対策懇談会〕（『岳南朝日』1967年=昭和42年10月21日日付）

「全山、色彩美 富士山の紅葉狩り」〔紅葉バス〕（『岳南朝日』1967年=昭和42年10月24日付）

「五合目まで冠雪 冬将軍はかけ足で」（『岳南朝日』1967年=昭和42年10月28日付）

「先人の功績讃え 田貫湖に顕彰碑建つ」〔渡辺兵定〕（『岳南朝日』1967年=昭和42年10月29日付）

「冬山登山に備える 富士宮山岳会」（『岳南朝日』1967年=昭和42年11月4日付）

「百億円の工費要す 大沢崩れ対策 お中道などにえん堤」（『岳南朝日』1967年=昭和42年11月17日付）

「冬山迎えて訓練 遭対協が富士山で」〔富士宮遭難対策協議会〕（『岳南朝日』1967年=昭和42年11月19日付）

「用地折衝、大きく前身 大倉川ダム用地 市、地元の条件のむ」（『岳南朝日』1967年=昭和42年11月19日付）

「大石寺でお会式」〔創価学会〕（『岳南朝日』1967年=昭和42年11月21日付）

「随想 霧の登山道 山下健」〔ハイマツ〕（『岳南朝日』1967年=昭和42年11月23日付）

「紅葉バス好評 市外からも客」（『岳南朝日』1967年=昭和42年11月23日付）

「今夜、正式調印へ 用地交渉が妥結 大倉川ダム」（『岳南朝日』1967年=昭和42年11月28日付）

「歴代管主の墓石？ 大石寺境内から五輪塔 地中から七基発見」（『岳南朝日』1967年=昭和42年11月28日付）

「きょう市長上京し陳情 貿研センターで」〔貿易研修センター〕（『岳南朝日』1967年=昭和42年11月28日付）

「冬山対策を決める 年末年始にパトロール 遭難防止に目光らす」（『岳南朝日』1967年=昭和42年11月30日付）

「コンクリート製で不評一掃 白糸滝の石段改良」〔白糸の滝〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年12月8日付）

「重傷のリーダー救出 冬富士で初の遭難」〔吉原山岳会〕〔遠藤保豊〕〔富士宮山岳会〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年12月19日付） ▼▼

「富士山で盗伐しきり ツリー用モミの木」〔ウラジロモミ〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年12月19日付）

「世界ジャンボリー開催期間きまる 46年8月2日－10日 テーマ『相互理解のために』」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年12月23日付）

「大沢崩対策で五千万円要求」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年12月23日付）

「冬山登山者を守る」〔写真〕〔富士宮山岳会〕（『岳南朝日』1967年＝昭和42年12月24日付「週間グラフニュース」）

「この一年記者座談会④注目集めた富士山」（『岳南朝日』1967年＝昭和42年12月28日付）

## ■ 1978年＝昭和43年

**この年前半は蔵架なし、1978年＝昭和43年は6月1日付～9月29日付のみ蔵架**

「大沢の流れ、芝川に向く 現地調査で明らかに 市、下流の防災体制急ぐ」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1968年＝昭和43年6月1日付）

「荷上げブルの運転許可申請 富士山山室組合」〔ブルドーザー〕（『岳南朝日』1968年＝昭和43年6月1日付） ▼▼

「田植えに水の援軍 八日から田貫湖を放水」（『岳南朝日』1968年＝昭和43年6月5日付）

「市、火力発電で資料作製 建設地の風向で影響大 南風だと富士宮を縦断 亜硫酸ガスの地上濃度」〔公害〕〔東電富士川火力発電所〕（『岳南朝日』1968年＝昭和43年6月8日付）

「第一号に『藤太郎』本格的耐火建築時代へ」（『岳南朝日』1968年＝昭和43年6月8日付）

「城山の縄状熔岩など 県 文化財指定で下調査」（『岳南朝日』1968年＝昭和43年6月9日付）

「広島まで登山宣伝 キャラバン、あす出発」（『岳南朝日』1968年＝昭和43年6月9日付）

「市、火電建設で申し入れ『調査結果まで待った』近く富士市と東電へ」〔公害〕〔東電富士川火力発電所〕（『岳南朝日』1968年＝昭和43年6月12日付）

「日本一の規模“万野風穴”先端部は外神方向へ 北高郷土研究部が踏査」〔富士宮北高〕（『岳南朝日』1968年＝昭和43年6月12日付） →「ドーム高くジャンボ型」（1972年＝昭和47年8月4日付）が続報か？

「夏めく白糸の滝」（『岳南朝日』1968年＝昭和43年6月14日付）

「富士宮駅に名産コーナ」（『岳南朝日』1968年＝昭和43年6月15日付）



「南ろくにも関心 富士登山 宣伝キャラバン帰る」(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月18日付)

「夏山登山客受入れ協議 商店街連盟」(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月18日付)

「山砂利採取の公害防げ 市、県に行政指導を要請」(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月18日付)

「建設すすむ富士周遊道 原生林をうねり延びる 来年には部分開通」〔スカイライン舗装〕〔高八林道〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月19日付) ▼▼←スカイライン横道・縦道に設置されている100メートルごとの距離標識はこのときの工事に基づくものである。

「登山道を交通規制 富士宮口 改良工事にぶつかり」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月19日付) ▼▼

「登山道に指導標を設置」〔富士宮ルート〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月19日付)

「市、大気汚染公害に本腰 調査費二百万円を追加 児童測定や気流調査」(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月20日付)

「遂に水田まで奪う 芝川町のダンプ公害」(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月20日付)

「山開き前に大掃除 北高生徒会が富士山で」〔富士宮北高〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月20日付)

「ジャンボリー映画会開く 各地を巡回」〔世界ジャンボリー〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月21日付)

「山室指導きめる 開山に備える保健所」〔山室衛生〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月21日付)

「登山客を商店街へ… 歓迎運動で売込み」(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月21日付)

「公害特別委設置へ 市議会全協できめる」(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月22日付)

「山室業者にショック “雲上電話” 架設量引上げ」〔山室電話〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月22日付)

「八月にクワ入れ式 朝霧高原でジャンボリー施設」〔世界ジャンボリー〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月23日付)

「五合目で開山式 富士山美化宣言大会も」〔富士宮市観光協会〕〔静岡県観光協会〕〔浅間大社参集所〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月23日付)

「二特別委員会が中間報告」〔朝霧高原開発〕〔世界ジャンボリー〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月23日付)

「山開きへ真っしぐら 登山客待つ富士宮口」〔スカイライン〕〔浅間大社〕〔金剛杖〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月23日付「週間グラフニュース」)

「岳鉄が定期バス乗り入れ」〔岳南電車〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月26日付) 「村山のいちょうなど県指定の文化財に」〔村山のいちょう〕〔村山の山ざくら〕

(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月27日付)  
「山岳遭難対策をきめる 山開きを前に」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月27日付)  
「一日で五百万円 身延線の水揚げ高」〔創価学会〕〔日本旅行〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月27日付)  
「危険度の高い潤井川流域 市の防災計画まとまる」(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月29日付)  
「夏山開き異常あり 八合目以上は危険 例年になく大雪」〔残雪〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月29日付)  
「浅間神社を訪問 スイスの大学教授」〔浅間大社〕〔H・ツォリンガー〕〔生田容正〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月29日付)  
「人穴を売り出す 住民が入口通路を舗装」〔世界ジャンボリー〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月29日付)  
「あす、夏山開き サービス機関 十日過ぎに活動 残雪で遅れる山室」(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月30日付)  
「救急隊の常時出動できぬ 富士山の事故」〔富士宮市救急隊〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年6月30日付)  
「霧の中で富士夏山開き富士宮口 一番乗りにBGも」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月2日付)  
「富士地区公害対策協議会」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月2日付)  
「浅間神社の森を“市民の森”にしよう 木を育て野鳥野楽園に 後藤さんらが運動を提唱」〔後藤清吉郎〕〔日本野鳥の会〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月4日付)  
「百ミリ降る 富士宮も大雨」〔豪雨〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月4日付)  
「業者はガックリ まだニケタの登山客」〔残雪〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月5日付)  
「亜硫酸ガスと公害①」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月6日付)  
「公害特別委員会を開く」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月6日付)  
「頂上奥宮奉仕の神官登山」〔残雪〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月6日付)  
「祝富士開山 富士山麓銘菓新発売 江戸屋」〔広告〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月6日付、7月20日付)  
「亜硫酸ガスと公害②」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月7日付)  
「市上水道 水源、そろそろ限界 動力揚水で打開へ」〔地下水〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月7日付)  
「星山放水路、やっと陽の目 難航の土地買収が解決」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月10日付)  
「亜硫酸ガスと公害③」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月10日付)  
「西駅で資料作る 身延線の旅客戦後史」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月10日付)  
「富士登山を“解禁” 異常残雪消えました」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月10日付)

「本格的な夏山開き 残雪消えた富士山 きょうから電話、郵便OK バス会社は週末に期待」 (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月11日付)

「工場で排水管敷設 小泉の公害問題解決」 [中央ボード] (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月11日付)

「夏山で冬山を満喫 雪かきが仕事の奥宮 頂上だより」 [残雪] (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月12日付)

「ジャンボリー県準備委開く」 [世界ジャンボリー] (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月12日付)

「輸出ニジマスの検査体制確立 水産庁、主要産地に施設 地元業者は歓迎」 (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月14日付)

「火電の建設『待った』市、富士フィルムにも申入れ」 [公害] [富士フィルム発電] (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月14日付)

「開山初の賑わい 週末の富士宮口」 (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月14日付)

「山室の衛生検査日延べ」 [山室衛生] (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月14日付)

「夫婦都市の“結婚式”決る 八月三日、富士宮で調印 近江八幡市長らが参列」 (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月17日付)

「県民運動で盛上げ 世界ジャンボリー “相互理解”を日常生活に スローガンも決まる」 (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月18日付)

「田畑のつぶれ地が急増 住宅や工場に衣がえ 一年間で二百件もふえる 富士宮市」 (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月19日付)

「“天然冷房”の万野風穴探訪 歴史散歩の会」 [富士宮歴史散歩の会] (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月19日付)

「富士川下流の民俗調査 北高郷研 夏休み合宿で」 [富士宮北高郷土研究部] (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月19日付) → [「悲劇の富士川流域史」\(9月25日付\)に一部を詳報](#)

「山頂と山ろく結んで…『スタジオ102』で中継放送」 [テレビ中継] (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月19日付)

「空の先輩、安らかに 朝霧のグライダー事故 遭難現場に慰霊碑 あす、関係者が除幕式」 (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月20日付)

「世話人会を結成 公害対策 市民運動へ盛上げ」 [富士宮地区公害対策打合わせ会] (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月20日付)

「富士山頂から TV 電波 到達新記録めざす アマ無線家が全国に発信」 [テレビ中継] (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月20日付)

「若い者に負けんぞ 百寿会が富士登山」 [高齢者登山] (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月20日付)

「公害測定器を設置 近く市内の各所へ」 (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月21日付)

「福地で山車を売ります」 (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月21日付)

「安全登山に一役 富士宮市内のハム仲間」 (『岳南朝日』 1968年=昭和43年7月

21 日付「週間グラフニュース」)

「山頂から暑中見舞 一週間で五千枚」〔山頂郵便局〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月21日付)

「登山もツユ明け 富士宮口も賑わう 富士山」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月21日付)

「涼を求めて三万人 行楽入りの白糸の滝」〔写真〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月23日付)

「山室衛生は良好 ハエの発生に注意」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月24日付)

「富士山頂でエイ、ヤァ! 剣道少年団」〔変わり種登山〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月24日付)

「芝川歴史散歩①宮峠の古道 富士宮歴史散歩の会会員 唐紙一修」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月25日付)

「富士山表口 山室の近代化を推進 企業合同で脱皮はかる 業者もようやく本腰」〔富士山中休泊所組合〕〔中村嘉四郎〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月26日付)



「芝川歴史散歩②戦国十八士の墓 富士宮歴史散歩の会会員 唐紙一修」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月26日付)

「芝川歴史散歩③アイヌのお墓 富士宮歴史散歩の会会員 唐紙一修」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月27日付)

「“信仰登山”賑わう『申年』縁起で変り種も」〔岩淵鳥居講〕〔伊勢市東豊瀬町〕〔中北豊助〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月27日付)

「約千人が引返す 富士山 台風四号の接近で」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月28日付)

「芝川歴史散歩④江戸時代の道しるべ 星山の安兵衛が刺激に 富士宮歴史散歩の会会員 唐紙一修」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月30日付)

「公害対策に上層気象観測 きょうから空陸一体で ラジオゾンデや気球も打ち上げ」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月30日付)

「富士山頂局で五万通受け」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月30日付)

「忘れたフィルムもどる 富士山頂からリレーされ」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月30日付)

「粟倉で農家全焼 葉タバコ乾燥の不始末」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月30日付)

「日本旅行輸送部 宮町へ移転」〔創価学会〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月30日付)

「不振で終わった夏山前半 悪天(異常残雪 台風四号)にふり回され 登山客は前年の三割減」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月31日付)

「芝川歴史散歩⑤流れて来た仏像 富士宮歴史散歩の会会員 唐紙一修」(『岳南朝日』1968年=昭和43年7月31日付)

「芝川歴史散歩⑥平維盛の墓 稲子谷の落人伝説 富士宮歴史散歩の会会員 唐紙一修」

(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月1日付)

「15日ごろまでに分せきし報告 気象観測結果」〔公害〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月1日付)

「きょうクワ入れ式 開場整備いよいよ開始 世界ジャンボリー準備」(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月2日付)

「芝川歴史散歩⑦遠藤家(塩出)の石垣 富士宮歴史散歩の会会員 唐紙一修」(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月2日付)

「祝富士宮市・近江八幡市夫婦都市提携記念 夫婦都市提携調印式」〔広告〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月2日付)

「“永かった春”にピリオド きょう晴れて挙式 | 富士宮市 近江八幡市 | 両市から約80人が参加し」〔夫婦都市〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月3日付)

「芝川歴史散歩⑧長者遠藤源兵衛 富士宮歴史散歩の会会員 唐紙一修」(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月3日付)

「はなやかに起工式 第十三回世界ジャンボリー 会場整備に着手」(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月3日付)

「一足早くジャンボリー 本州製紙の子弟ら」(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月3日付)

「芝川歴史散歩⑩河合の石まんだら 日興上人のツメ書き 富士宮歴史散歩の会会員 唐紙一修」(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月6日付) ←「芝川歴史散歩⑨」は8月4日付・5日付どちらかに掲載と思われるが原紙が欠落

「粗末な保管設備 林間学校施設に警告」〔山室衛生〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月8日付)

「松下村塾 10日に開塾式 中央訓練所に復元」〔青年中央訓練所〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月8日付)

「きょう近江八幡市で調印 市長ら出席して」(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月8日付)

「神主のタマゴ 山頂で奉仕」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月8日付)

「“健康都市”が泣いてます 焼却した沢へまた投棄 市、ゴミの増大もて余す」〔公害〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月9日付)

「富士市議会 火電建設の諾否 九月定例会に結論？」〔公害〕〔東電富士川火力発電所〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月9日付)

「素通り観光から脱皮 白糸滝へ半数立ち寄り 流量調査で明らかに」〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月13日付)

「客は減ってもゴミふえる 馬耳東風の登山客 裏切られた美化運動 富士山」〔清掃登山〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月14日付)

「最初の“文明の灯”送る 姿を消した泉発電所 原子力時代に勝てず」(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月15日付)

「富士山診療1か月 きょう店閉い 団体に多い高山病 リーダーは思いやりを」〔衛生センター〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年8月16日付)

「議会公害特別委員会 フィルム火電の建設 条件付きで着工認める 東電はさらに慎重に調査」〔富士フィルム発電〕〔東電富士川火力発電所〕（『岳南朝日』1968年=昭和43年8月18日付）

「ダンプ通行中止 住民に怒り 二業者」〔ダンプ公害対策委員会〕（『岳南朝日』1968年=昭和43年8月18日付）

「富士登山高令者番付け 最高は88歳」〔高齢者登山〕（『岳南朝日』1968年=昭和43年8月18日付）

「富士山頂電話郵便局店閉い」（『岳南朝日』1968年=昭和43年8月21日付）

「無公害の保障を要求へ フィルム火電 対策世話人会、近く協議」〔富士フィルム発電〕（『岳南朝日』1968年=昭和43年8月23日付）

「富士山 自然を破壊するな 施設は必要限度に 県の学術調査が結論だす」〔観光開発〕〔宮脇昭〕〔浜田文夫〕〔菅原久夫〕〔津屋弘達〕（『岳南朝日』1968年=昭和43年8月24日付）

「失なわれる“路傍の神々” 市民グループ、保護検討 都市開発が拍車 こっそり盗むもの」〔道祖神〕（『岳南朝日』1968年=昭和43年8月25日付）

「閉いまでつかぬ 夏休み最後の富士山」（『岳南朝日』1968年=昭和43年8月25日付）

「浅間裏山の下草狩り始める」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1968年=昭和43年8月25日付）

「隊員を天下りに募集 行き過ぎ、スカウトづくり ジャンボリー熱が刺激？」〔世界ジャンボリー〕（『岳南朝日』1968年=昭和43年8月28日付）

「趣旨を理解してもらおう」〔世界ジャンボリー〕（『岳南朝日』1968年=昭和43年8月28日付）

「夏山富士の総決算 前年の2割減 富士宮口 後半、台風が迫打ち ベソかく観光業者」（『岳南朝日』1968年=昭和43年8月28日付） ▼▼

「論壇 火力発電問題で議会特別委に問う 桜井俊雄（つづく）」（『岳南朝日』1968年=昭和43年8月29日付）

「東大生ら山ろくを調査」（『岳南朝日』1968年=昭和43年9月29日付）

「論壇 火力発電問題で議会特別委に問う 桜井俊雄（おわり）」（『岳南朝日』1968年=昭和43年8月30日付）

「五日間で一八五・五ミリ 富士宮地方の雨」〔豪雨〕（『岳南朝日』1968年=昭和43年8月30日付）

「開局以来の最低示す 富士山頂郵便局 前年の14・6%減」（『岳南朝日』1968年=昭和43年9月1日付）

「赤心隊の子孫が顔合わせ 浅間神社で」〔駿州赤心隊〕〔浅間大社〕（『岳南朝日』1968年=昭和43年9月1日付）

「大宮司家の蚕室 建築ブームで姿消す」（『岳南朝日』1968年=昭和43年9月3日付）

「公害問題、農村にも波及 養鶏対策に遅れ目立つ」（『岳南朝日』1968年=昭和43年9月4日付）

「私の発言 ジャンボリーを批判する 山本正」(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月4日付)

「汚れる富士宮の空 亜硫酸ガス測定 きのう最高値記録」(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月4日付)

「西山本門寺 木製五輪塔の調査 時代によって形体変化」(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月5日付)

「富士川火力発電 硫黄分は大井の15倍 九月議会 公害問題で論議必至 自治体の姿勢めぐり」〔東電富士川火力発電所〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月7日付)

「きょう富士山の閉山祭」(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月7日付)

「閉め出された? ダンプ 市が路線補修工事続行」〔ダンプ公害〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月8日付)

「養鶏対策で組織化 業者、届け出制に同意」〔公害〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月8日付)

「郷土資料が充実 富士宮北高に資料室」(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月8日付) → 「北高郷研、資料館へおくる」(1970年=昭和45年7月15日付) 参照

「富士山表周遊道に問題 現状では“雲上”で駐車難 山室業者ら拡張迫る」(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月14日付) ▼▼

「火力発電所問題を重視 “大気汚染がひどくなる” 富士宮市 東電、富士市に申入れ」〔東電富士川火力発電所〕〔公害〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月15日付)

「市職組が立上る 公害問題で研修会」(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月15日付)

「貿研センター着工 取付け道路から開始」〔貿易研修センター〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月15日付)

「文化財がひと目 散歩の会が総覧発行へ」〔富士宮歴史散歩の会〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月18日付) ←富士宮市立図書館で『文化財総覧』検索できず

「もたつく駅前広場拡張 大鳥居問題で二年越し 撤去反対に押される市当局 ますますつもの危険」〔駅前整備〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月21日付)

「富士市長の発言 市関係者は疑問視 東電水力発電問題」〔東電富士川火力発電所〕〔公害〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月21日付)

「悲劇の富士川流域史 まさに水との闘い 北高郷研が文化祭で発表」〔富士宮北高郷土研究部〕(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月25日付) ▼▼ ←この資料見つからず

「望まれる公害対策の強化 現状はわからないだらけ 不安高める富士宮市民」(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月27日付)

「亜硫酸ガス発生源の火電増新設を認めるな 医師ら有志 市、議会などへ陳情」(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月29日付)

「岳南排水路で追及 富士宮市議会スタート」(『岳南朝日』1968年=昭和43年9月29日付)

## ■ 1969年=昭和44年

## 1969年＝昭和44年も前半蔵架なし 5月1日付～12月28日付のみある

- 「県の回答を検討 火電問題 1市四町 きょう協議会開く」〔東電〕〔公害〕〔富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月1日付）
- 「前面に出た火電建設反対 富士北部メーダー 千九百人が参加」〔公害〕〔東電富士川火力発電所〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月2日付）
- 「火電建設問題で企画調整部長が回答」〔公害〕〔東電富士川火力発電所〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月2日付）
- 「七月ごろ着工の見通し 星山放水路 潤井川のはん乱防ぐ」（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月4日付）
- 「一市四町へ市の態度打出す “反対の基本方針変えぬ” 既存公害除去の新組織は認める」〔公害〕〔富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕〔富士宮市議会〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月7日付）
- 「富士川火力、新段階へ 二市四町で懇談会設置 一市四町 県の提案を了承」〔公害〕〔富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月10日付）
- 「冬期の汚染度高い 亜硫酸ガス測定 環境機銃は保つ」〔公害〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月11日付）
- 「通産省が汚染調査 今夏、富士地区で実施」〔公害〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月11日付）
- 「カラフルな湖畔づくり 湿地にはアヤメも 田貫湖 植樹計画すすむ」（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月14日付）
- 「登山バス今夏は『馬返し』まで 駐車場などの建設で」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月14日付） ▼▼
- 「幼令林で野ねずみ退治」〔幼齡林〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月14日付）
- 「気の早いジャンボリー照会」（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月16日付）
- 「公害対策懇談の形できる 富士市も加入に同意 “行政ペースに” 批判も」〔公害〕〔富士庵原地区公害対策懇談会〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月18日付）
- 「随想 ツツジと次郎長 山下健（つづく）」〔鉄舟寺〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月18日付）
- 「随想 ツツジと次郎長 山下健」〔鉄舟寺〕〔黒駒勝蔵〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月20日付）
- 「共同汽力を討議 きょう公害特別委」〔東電富士川火力発電所〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月24日付）
- 「既存の公害減少を急げ 発生工場にはきびしく 富士宮市 大部分は低煙突、C重油」（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月25日付）
- 「内容さらに検討 三社共同の汽力建設」〔公害〕〔共同汽力〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月25日付）
- 「公害対策懇談会が発足」〔富士庵原地区公害対策懇談会〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年5月25日付）



「三百十九万人登山 昨年度の創価学会輸送」(『岳南朝日』1969年=昭和44年5月25日付)

「外神の土地問題、解決か 地主、請願取下げ申出る」〔富士観光〕〔国際柔道体育大〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月28日付)

「市民運動を強化 勤労協 公害反対を推進」(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月28日付)

「中京 関西 登山キャラバン 二班に分け来月出発」(『岳南朝日』1969年=昭和44年5月28日付)

「モデル地域にゴミ騒動 住民、自衛の監視員出す 大岩 不法投棄にたまりかね」〔公害〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年5月29日付)

「県境から天子まで 東海自然歩道コースに」(『岳南朝日』1969年=昭和44年5月29日付)

「公害対策に競技会置く 当局部内の一本化図り 当面の火(汽)力問題」〔共同汽力〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年5月30日付)

「要請あれば放出 田貫湖が水の援軍」(『岳南朝日』1969年=昭和44年5月30日付)

「久須志宮を改築 五十年の風雪で痛み」〔浅間大社〕〔佐藤東〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月5日付)

「表富士周遊道、部分開通 7月1日、山宮-大淵間 山なみをぬう曲線」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月7日付) ▼▼

「自然美を守ろう 地元市町で連絡協つくる」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月7日付)

「救急体制の打合わせも」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月7日付) ▼▼

「“木こり”不足に対策 森林作業班を結成 労災保険にも加入、近代化」(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月7日付)

「潤井川の危険増大 大沢崩れ 分岐流路、向き変える」(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月8日付)

「大規模なボーリング 猪之頭で大昭和製紙」〔地下水〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月8日付)

「始発に富士宮から20人 富士急東名バス」(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月11日付)

「縄橋絵図見つかる 江戸末期の釜口(芝川)風景 芝川の臼井さん宅で」〔釜口橋〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月11日付) ▼▼

「“学生バイトやーい”人手不足に山室、悲鳴」(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月11日付) ▼▼

「田貫湖で放水はじめる」(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月13日付)

「民宿計画などで再開発 東海自然歩道に期待 過そ防止にと麓地区」(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月14日付)

「砂防対策を陳情 市、来ろくの建設相に」〔大沢崩れ〕〔坪川信三〕(『岳南朝日』1

969年=昭和44年6月16日付)

「朝霧に貯水池 近く着工 ジャンボリー用に三千トン」(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月16日付)

「山頂に公衆便所 厚生省が今夏建設」〔頂上トイレ〕〔環境省〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月15日付)

「頂上付近にダム 建設省の大沢崩れ対策」〔国土交通省〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月19日付)

「富士山を美しく 県美協の打合わせ」〔静岡県美化運動協議会〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月19日付)

「表富士周遊道通行料金決る」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月19日付) ▼▼

「お山にも学園闘争余波 難くなった診療員確保 開設期間を短縮 衛生センター 来年は派遣の見通し立たず」(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月20日付) ▼▼

「幼令林食い荒す 栗倉で野ねずみ被害」〔幼齡林〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月20日付)

「一万五千年以前のもの 神代杉、測定結果わかる」〔潤井川〕〔津屋弘達〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月21日付)

「救援隊本部が富士登山 緊急出動に備え」〔富士宮市救援隊〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月21日付)

「浅間神社大改修 きょう奉賛会が発足」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月21日付)

「今夏は山ろくブーム 東名、周遊道開通で だが受入れに難 手放しでは喜べない」(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月21日付)

「共同汽力、結論持ち越す 公害対策でより検討を 特別委、当局に要望」(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月22日付)

「富士山のゴミ一掃作戦 持込まない運動展開 県美化協 手焼かず空カン、空ビン」〔清掃登山〕〔静岡県美化運動協議会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月24日付)

「七月末まで認めて 業者 ダンプ輸送で回答」〔ダンプ公害〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月24日付)

「日本一の三々九度 富士山頂で結婚式 開山前に2組申込む」(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月25日付)

「富士川火力の建設は了解なしで議決せぬ 富士市側 公害対策懇で言明」〔東電富士川火力発電所〕〔富士庵原地区公害対策懇談会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月26日付)

「ばい煙発生施設 書類審査でわかる 富士宮市 不適合が六工場 近く検査し改善命令」〔公害〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月26日付)

「きょう夏山登山受入れ協議」(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月26日付)

「遭対協も夏山の対策開く」〔静岡県山岳遭難防止協議会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月26日付)

「アナ場となった田貫湖 早くも一万人予約 キャンパーふえる一方 遠距離組目立つ」

(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月26日付)  
「公害課の新設で論議か 市議会に早期設置の意見 現状では対策遅れ」〔東電富士川火力発電所〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月27日付)  
「富士根で二四五<sup>ミ</sup>、大雨被害 土砂崩れや冠水」〔豪雨〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月27日付)  
「富士の自然守ろう 保護管理協が発足」〔表富士自然保護管理協議会〕〔スカイライン〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月28日付)  
「夏山体制きまる 表口の受け入れ体制」(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月27日付)  
「きょう開通式 表富士周遊道」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年6月29日付)  
「きょう夏山富士スタート 準備整った表登山口」〔登山バス〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月1日付)  
「富士急が有料道路建設 周遊道と日本ランドを結ぶ」〔南富士エバーグリーンライン〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月1日付)  
「柔道大の請願取下げを承認」〔柔道体育大学〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月1日付)  
「さみしい夏山開き 富士宮口 悪天にたたられて」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月2日付)  
「潤井川の危険増大 大雨後の流路調査で判る」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月2日付)  
「神社の開山奉告」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月2日付)  
「三日間で32人 低調な出足の富士登山」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月4日付)  
「来月、完成めざす 大石寺周辺 潤井川付替え工事」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月8日付)  
「全面改修を推進 潤井川治水同盟が総会」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月9日付)  
「お手上げの登山業者 富士宮口 九日間で百人足らず 長ツユに客足さっぱり きょうから電話・郵便局開設」〔山頂郵便局〕〔山頂電話局〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月10日付)  
「沖縄返せの富士登山 代表招き歓迎集会」〔富士を守る平和登山〕〔変わり種登山〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月10日付)  
「山室の衛生監視きまる」〔山室衛生〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月11日付)  
「平和登山は19日に延期」〔変わり種登山〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月11日付)  
「新段階迎えた火電問題 富士市会、建設を認める きょう全協で抜打ち報告」〔公害〕〔東電富士川火力発電所〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月12日付)  
「登山バス きょうから増発 長雨に複雑な顔」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7

月 12 日付)

「一市四町は了解ずみ」〔公害〕〔東電富士川火力発電所〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月12日付)

「市は建設に現在も反対 報告=議決とは考えぬ 富士宮市民協」〔富士宮市公害対策市民協議会〕〔公害〕〔東電富士川火力発電所〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月13日付)

「反市民的な暴挙 富士市民協が抗議声明」〔富士市公害対策市民協議会〕〔公害〕〔東電富士川火力発電所〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月13日付)

「長雨はもうたくさん! 閑古鳥泣く登山バス 週末もまばらな富士宮口」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月13日付「グラフニュース」)

「周遊道が部分開通 富士山に行くハイウェイ」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月13日付「グラフニュース」)

「火電問題 一市四町が態度硬化 “県と富士市の茶番劇” 抜き打ち承認抗議きめる」〔公害〕〔東電富士川火力発電所〕〔富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月15日付)

「きょう共同汽力建設で協議」〔富士宮市公害対策特別委員会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月15日付)

「山はわたしの“恋人” 32回目の富士登山 そば店員の渡辺さん 出前持ちで鍛錬 山室ともすっかり顔なじみ」〔渡辺充夫 32〕〔回数登山〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月15日付) ▼▼

「共同汽力 まず、公害防止協定を 特別委 会社回答ほぼ了承」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月16日付)

「不信買った文書公表 県が基本的な方向づけ」〔公害〕〔東電富士川火力発電所〕〔富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月16日付)

「一市四町 19日、出県して抗議 火電問題で真意ただす」〔公害〕〔東電富士川火力発電所〕〔富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月17日付)

「市街地はスモッグ状態 亜硫酸ガス異常値を記録」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月18日付)

「富士市の背信行為に怒り 火電問題 高まる市民運動 公明党も集会開く」〔公害〕〔東電富士川火力発電所〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月19日付)

「きょう一市四町、県に抗議」〔公害〕〔東電富士川火力発電所〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月19日付)

「きょう週末に期待 富士登山、本番入り」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月19日付)

「山も湖畔も大にぎわい つゆ明け初の休日迎え 週末にどっとくり込む」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月20日付)

「頂上は快晴続き 本社-奥宮 やっと活気づく」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月20日付)

「県の責任を追及 一市四町 火電承認で強く抗議」〔公害〕〔東電〕〔富士川火力発電

所建設反対連絡協議会) (『岳南朝日』1969年=昭和44年7月20日付)

「白糸婦人会が田貫湖を清掃」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月20日付)

「抗議集会に二千人参加 盛上る火電阻止運動」〔公害〕〔東電富士川火力発電所〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月22日付)

「婦人会できょう清掃登山」〔富士宮市婦人団体連絡会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月22日付)

「三中、富士登山とキャンプ 夏休み行事」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月22日付)

「変りダネ登山も 武道奉納やみそぎ組 富士宮口」〔変わり種登山〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月22日付) ▼▼

「大気汚染ひどい富士市 夏場は潤井川に沿い拡散 五か所で基準上回る」〔公害〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月25日付)

「ふじやま学園が富士登山」〔障害者登山〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月25日付)

「測候所員の命救う 感謝される山中診療所」〔富士山頂測候所〕〔衛生センター〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月25日付)

「東駿河湾市民連合結成 富士川火力建設問題 組織広げて対決 地域開発問題も追及」〔東電〕〔富士川火力建設阻止東駿河地区市民連合〕〔公害〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月26日付)

「公害防止に協定 大昭和富士と大興製紙」〔富士市公害防止協定〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月26日付)

「きょう六千人登山? 夏休み入り初の週末」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月26日付)

「公害はごめんだ! 抜打ち承認に怒り 火電阻止の抗議集会」〔東電富士川火力発電所〕〔公害〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月26日付「グラフニュース」)

「山ろくのおアシス 天然クーラー白糸滝」〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月26日付「グラフニュース」)

「お山を美しく 婦人会が清掃登山」〔富士宮市連合婦人会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月26日付「グラフニュース」)

「どうなった全寮制高校 実現までかなり先?」〔金指造船〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月27日付)

「“銀座なみ”の人出 今夏最高の富士登山」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月27日付)

「10月から開通へ 急ピッチ身延線西回り」(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月27日付)

「尻上りの富士登山客 山頂局も大忙し」〔山頂郵便局〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月29日付)

「みなさん、ようこそ きょう八幡の子弟来宮」〔近江八幡市〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月29日付)

「時間かける共同汽力問題 承認には厳しい条件で 他企業への影響も考慮」〔公害〕(『岳

南朝日』1969年=昭和44年7月31日付)

「ダンプ公害お断り 市道貫戸線、やっとな解決 市、延長願いを拒否 三洋の運行、きょう限り」〔三洋興業〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年7月31日付)

「富士山大荒れ 二百人が山室に避難」(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月1日付)

「富士と琵琶湖を結ぶ登山 ことしも来宮」〔近江八幡市〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月1日付)

「公明党、火電反対で申入れ」〔東電富士川火力発電所〕〔公害〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月1日付)

「雨で登山客もさっぱり 富士宮で99<sup>ミ</sup>記録」(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月3日付)

「『全学同』の結成へ 創価学会学生部」〔全日本学生同盟〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月3日付)

「富士川流域民俗調査まとめ 北高郷研部」〔富士宮北高郷土研究部〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月3日付)

「拭えぬ富士市の“背信行為” 一市四町、回答に再抗議 懇談会参加の結論伸す 富士市の申入れ拒否」〔公害〕〔東電〕〔富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月5日付)

「東北へモーレツ求人 呼び文句に富士山 人手不足の雇用者ら」〔秀麗な富士山〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月6日付) ▼▼

「開かれなかった?水門 本州製紙“家屋浸水は人災だ” 県も調査に乗出す 被害住民が怒る」〔潤井川〕〔本州製紙発電所〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月8日付)

「一市四町 富士などへ抗議文 懇談会推進阻害を非難」〔公害〕〔富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月8日付)

「外国人スカウトも参加 ミニジャンボリー開幕」(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月8日付)

「きょうジャンボリー推進大会」(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月10日付)

「ジャンボリー開催にショック 国道139号線再び交通マヒ 延々五時間半も渋滞」(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月12日付)

「二年後へ力強く大会宣言 ジャ推進大会」〔ジャンボリー〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月12日付)

「富士宮市 懇談会の参加を決定 火電問題は触れさせぬ 県、富士市に確認求む 口々に背信行為非難」〔東電富士川火力発電所〕〔富士庵原地区公害対策懇談会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月13日付)

「一番小さな登山者 一歳八か月の徳子ちゃん 両親にダッコされ頂上へ」〔年少者登山〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月14日付)

「高煙突か低硫黄 共同汽力問題 市、会社側と協議」(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月14日付)

「51年度で1・9%に減らす 富士宮市 低イオウ化計画検討」〔公害〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月15日付)

「朝霧のミニ・ジャンボリー 外国スカウトも参加して」(『岳南朝日』1969年=昭和

和 44 年 8 月 15 日付)

「御殿場側も着工 表富士周遊道 来年七月全線開通」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月16日付) ▼▼

「“江州”の大宮ばやし」〔無形文化財〕〔近江八幡市〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月16日付)

「日本ランド道路も着工」〔エバーグリーンライン〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月16日付) ▼▼

「ルポ釜口を探る(1) 悲劇のクロス 昔は舟運、今はダンプ」〔唐沢一修〕〔佐野なか〕〔「望月家文書」〕〔『駿河志料』〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月18日付) ▼▼←最初の架橋について『富士川誌』(和田嘉夫著、富士ニュース社、2005年)に引用されている「望月文書」とはずいぶん異なる。

「甘くみられる富士登山 今夏も高山病続出 夜行組の婦人たちに目立つ」〔夜行登山〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月18日付)

「ダンプ公害、逆もどり わがもの顔で突っ走る 四区の住民、市へ陳情 “在籍調査”で追及」(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月19日付)

「ルポ釜口を探る(2) 原始の藤縄吊橋 足がすくんだ旅行者」〔「富士川縄橋小景」〕〔松浦武四郎〕〔『東海道山すじ日記』〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月19日付) ▼▼←松浦武四郎『東海道山すじ日記』は『松浦武四郎紀行集(上)』(吉田武三編、富残棒三房、昭和50年)に全文収録されている

「増設はレントゲン用工場 投資、二年間に百十一億 富士フィルムが申入れ」(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月20日付)

「ルポ釜口を探る(3) 人命奪った岩々 対策は祈りだけ」〔角倉了以〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月20日付) ▼▼

「取水、二万トンの上積み 一万キロワットの発電を設備 公害発生の恐れも」〔富士フィルム〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月20日付)

「本州製紙、天災を主張 台風七号集中豪雨 潤井川の出水問題」〔本州製紙発電所〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月21日付)

「ルポ釜口を探る(4) 釜口版ローレライも 許せない悲劇の放置」〔角倉了以〕〔ダンプ公害〕〔日本軽金属〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月21日付) ▼▼

「火電、タナ上げ条件に公対懇の継続参加決定 一市四町の建設反対連協 開催前にトップ会談要請」〔東電富士川火力発電所〕〔富士庵原地区公害対策懇談会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月22日付)

「記者席 協力会長の進出ストップ令」〔東電富士川火力発電所〕〔富士庵原地区公害対策懇談会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月22日付)

「不振続きの夏山富士 表口登山客、ガタ落ち 天候不順に道路事情拍車 クチコミで敬遠される」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月23日付)

「三社汽力問題で要望 富士宮市民協 近く市、議会へ」〔共同汽力〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月23日付)

「秋の富士山へ 富士急行 来月からバス運行」〔紅葉バス〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年8月24日付)

「市長 公害対策に積極姿勢 官許胃基準独自のものを 成案は協定前に好評」 (『岳南朝日』 1969年=昭和44年8月26日付)

「前年を17%上回る 富士山頂局の納涼日より 大口は広告社の三万七千通」 [山頂郵便局] [電通] (『岳南朝日』 1969年=昭和44年8月26日付)

「カーブ改良合せて 国鉄 西回りに続き複線化」 [身延線] (『岳南朝日』 1969年=昭和44年8月26日付)

「山頂久須志宮の改築始まる」 (『岳南朝日』 1969年=昭和44年8月27日付)

「猪之頭 別荘分譲地に化ける国立音楽大の林間用地 シテやられた富士宮市」 [富士観光] (『岳南朝日』 1969年=昭和44年8月28日付)

「夏の湖畔に一万入 田貫湖 閉幕近づくキャンプ」 (『岳南朝日』 1969年=昭和44年8月28日付)

「火祭り帰りの富士講参拝増える」 [吉田の火祭り] [浅間大社] (『岳南朝日』 1969年=昭和44年8月28日付)

「音大に何らかの処置 別荘分譲地問題 きょう事情聴取」 [国立音楽大学] [富士観光] (『岳南朝日』 1969年=昭和44年8月29日付)

「事情聴取にも“逃げ口上”『計画的でない』と弁明 音大関係者が来宮」 [国立音楽大学] [富士観光] (『岳南朝日』 1969年=昭和44年8月30日付)

「水門の管理で指示 潤井川の溢水問題 天災、人災結論でず」 (『岳南朝日』 1969年=昭和44年8月30日付)

「天照教林道整備を 村山、栗倉住民が陳情」 (『岳南朝日』 1969年=昭和44年8月30日付) ▼▼

「イチゴ苗も避暑中 高冷地で促成はかる」 (『岳南朝日』 1969年=昭和44年8月31日付「グラフニュース」)

「来年の夏山めざし周遊道建設すすむ」 [スカイライン] (『岳南朝日』 1969年=昭和44年8月31日付「グラフニュース」)

「田貫湖の『花鳥山脈』倒産 経営不振で不渡り出す 市内に多い小口債権者」 (『岳南朝日』 1969年=昭和44年9月3日付)

「休息期にも暴れる 10月に野ネズミ退治」 [栗倉] [村山] (『岳南朝日』 1969年=昭和44年9月3日付)

「農転地の分譲認めぬ 市、音大理事長に申渡す」 [国立音楽大学] (『岳南朝日』 1969年=昭和44年9月3日付)

「表富士周遊道の二か月 魅力欠く部分開通 通行量、予想を下回る」 [スカイライン] (『岳南朝日』 1969年=昭和44年9月3日付) ▼▼

「『花鳥山脈』再建への足固め 資金導入や倍額増資で 小口は年内に全額返済」 (『岳南朝日』 1969年=昭和44年9月4日付)

「近くトップ会談 火電問題で疎通図る」 [東電富士川火力発電所] [富士庵原地区公害対策懇談会] (『岳南朝日』 1969年=昭和44年9月4日付)

「七日閉山祭 富士宮浅間神社」 [浅間大社] (『岳南朝日』 1969年=昭和44年9月5日付)



「陽の目をみる A・B 沢 市、十万ト貯水池建設へ 県の一万吨に上積み」〔地下水〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月7日付)

「三社汽力を審議 十日に公害特別委開く」〔共同汽力〕〔公害〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月7日付)

「買戻しの交渉すすめる 音大が中間報告」〔国立音楽大学〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月7日付)

「富士宮市 十月、公害対策室を設置 行政指導の強化はかる 来年度は独立課に」(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月9日付)

「富士山に雪 涼風に秋の気配」〔初雪〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月9日付)

「あす火電問題でトップ会談 五市町長ら」(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月9日付)

「今月28日から運行開始 身延線西回りルート」(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月10日付)

「村山地区55戸県民健康調査」(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月10日付)

「三者共同汽力を承認 市議会特別委 市、ちかく会社側と協定へ」(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月11日付)

「公害防止総点検 県、測定車を使って」(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月11日付)

「懇談会へ積極参加 公害対策 トップ会談で確認」〔東電富士川火力発電所〕〔富士庵原地区公害対策懇談会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月11日付)

「独自の大気汚染防止計画 市、公害対策指針つくる 法制よりもきびしく 低イオウ化を推進」(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月12日付)

「沼久保駅を通過 身延線、利用少ない二本」(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月12日付)

「日本一高い神社 久須志の宮が完工」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月12日付)

「柔道合宿所を市へ寄付 富士観光 石川氏、土地をつけて 志に反したと無条件で」〔国際柔道体育大学〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月13日付)

「審議会に要望書 火電反対の連絡協議会」〔公害〕〔東電〕〔富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月13日付)

「“水鳥よ、湖へ戻って” 田貫周辺、保護区に 公聴会で全員が賛成 開発で姿を消す 野鳥の会、楽園立直しへ」〔鳥獣保護区〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月13日付)

「白糸滝へ一万人 連休の山ろくへどっと」〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月16日付)

「周遊道で初事故 二人重症 ダンプと乗用車衝突」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月16日付)

「立入条件撤回さす 早急に公対審設置 市長、市民協に確約」〔富士宮市公害対策協議会〕〔共同汽力〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年9月17日付)

「22日に懇談会 抜打ち承認以来初めて」〔東電富士川火力発電所〕〔富士庵原地区公害対策懇談会〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年9月17日付）

「秋の富士登山バス運転開始」〔紅葉バス〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年9月17日付）

「既存公害対策指針（5）富士宮市の大気汚染計画」（『岳南朝日』1969年＝昭和44年9月23日付） ←9月18日付～22日付の原紙欠落、そのなかに（1）～（4）が掲載されていたものと思われる

「公害シンポジウム 富士市で科学者会議が」〔日本科学者会議〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年9月23日付）

「富士宮市 国の環境基準は保つ 七月はスレスレの数値(市役所)亜硫酸ガスの測定 年間平均まとまる」〔公害〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年9月25日付）

「一時間で四キロも 富士山 キノコ狩り始まる」（『岳南朝日』1969年＝昭和44年9月25日付）

「富士市議会を監視 市民協 傍聴動員きめる」〔東電富士川火力発電所〕〔富士市公害対策市民協議会〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年9月26日付）

「登山かドライブか 表富士周遊道路 駐車場の場所で引合い 公団、山室が互いに運動」〔スカイライン〕〔静岡県道路公社〕〔静岡県観光課〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年9月27日付）



「富士宮 市民協が総決起大会 公害阻止を盛り上げ」〔富士宮市公害対策市民協議会〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年9月28日付）

「自主的に汚染防止 36工場、連絡会設立へ」〔富士地区大気汚染防止協力工場連絡会〕〔公害〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年9月28日付）

「西回り、きょう開通」〔身延線〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年9月28日付）

「憂慮される下流域 日本科学者会議 公害問題で声明」（『岳南朝日』1969年＝昭和44年9月30日付）

「きょう決起大会 公害反対訴えデモ行進」〔富士宮市公害対策市民協議会〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年10月2日付）

「大沢工事、いよいよ着手 まず、扇状地へ砂止め堤 二本で12万立法を押しやる」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年10月4日付） ▼▼

「市民集会に六百五十人 富士川火力反対決議 盛り上った公害排除」〔富士宮市公害対策市民協議会〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年10月4日付）

「宿泊者名簿統一 正しい記入を徹底」〔富士宮旅館料理組合〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年10月4日付）

「七次計画中止を 市民連合、県へ押しかく」〔富士川火力建設阻止東駿河地区市民連合〕〔公害〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年10月5日付）

「乱入事件 公害反対の法廷闘争へ 市民協、大弁護士編成」〔鷹岡事件〕〔東電富士川火力発電〕〔富士市公害対策市民協議会〕〔富士公害反対運動弾圧事件弁護団〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年10月12日付） ←昭和44年3月29日に発生した「静岡市議会乱入事件」〔鷹岡事件〕について『岳南朝日』は報道していないようだ

「戦没の友を慰霊 かつての少年戦車兵」〔陸軍少年戦車兵学校〕〔若獅子会〕（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月12日付）

「富士山をスモッグでくもらせるな！」〔富士市公害対策市民協議会〕（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月12日付「グラフニュース」）

「星山放水路建設に着手 洪水時の潤井川を調節 県、五か年計画で完成」（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月15日付）

「表富士をエックに 国鉄、公社の一行視察」（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月15日付）

「富士宮で秋型の気象観測 大気汚染の関係を究明 初の低層調査も実施」〔公害〕（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月16日付）

「公害対策室発足 まずデータ収集に全力」（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月16日付）

「“富士ぜんそく”はごめん 幼稚園長（富士宮地区）も立上る 火電建設問題 富士市長に連書で要望」〔東電富士川火力発電所〕〔公害〕（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月17日付）

「威力示すか新器材 きょうから気象調査」〔公害〕（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月21日付）

「極彩色に染める 富士山、いまが紅葉の盛り 秋を惜しむ行楽客」〔紅葉バス〕（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月21日付）

「四百年ぶりの改良工事 山宮用水を三面舗装に」（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月22日付）

「砂防工事スタート 大沢くずれを食止める」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月22日付）

「富士山が冠雪」（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月22日付）

「凍結された“汗の結晶” 初出荷の喜びも束の間 稗久保部落 花鳥山脈ピンチで」（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月23日付）

「紅葉賞で参詣 天照教秋まつり」（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月24日付）

「まるで“サイの河原” 大沢の扇状地をみる」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月26日付「グラフニュース」）

「紅葉見物で賑わう富士登山道」〔富士宮口〕（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月26日付「グラフニュース」）

「山本で高い数値 九月の亜硫酸ガス測定」〔公害〕（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月31日付）

「星山放水路起工 きょう現地でクワ入れ」（『岳南朝日』1969年=昭和44年10月31日付）

「仮本殿の工事進む 浅間神社の大修復」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1969年=昭和44年11月2日付「グラフニュース」）

「早くも銀盤へ ハイランドに一万七千人」〔富士急ハイランド〕〔アイススケート〕（『岳南朝日』1969年=昭和44年11月9日付）

「三測点で減少 10月の亜硫酸ガス 気象条件、大きく作用」〔公害〕（『岳南朝日』1

969年=昭和44年11月9日付)

「富士の絵えがいて28年 山肌に執念燃やす 手塚さん『私の生きがい』」〔手塚静栄〕  
(『岳南朝日』1969年=昭和44年11月9日付)

「遅れる低硫黄備蓄タンク 六社のうち二社だけ 富士宮関係 市、早急に設置を要請」  
〔公害〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年11月12日付)

「北高が朝霧で富士の巻狩り」〔富士宮北高校〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年11月12日付)

「“開店休業”の公害対策懇」〔富士庵原地区公害対策懇談会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年11月12日付)

「商工会議所も立つ 富士宮南口の開設」(『岳南朝日』1969年=昭和44年11月13日付)

「公害対策審議会設置で十二月市会に条例提案 山川市長 市民協に答える」〔富士宮市公害対策市民協議会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年11月18日付)

「冬山の遭難防止 登山者名簿の活用など」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年11月25日付)

「合理化の犠牲は真っぴら 沼久保駅通過で乗客抗義 ダイヤ改訂であおり」〔身延線〕  
(『岳南朝日』1969年=昭和44年11月26日付)

「新五合に近代的山小屋 山室業者 協同組合作り参加 周遊道全通までに建設」〔スカイライン〕〔レストハウス〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年11月28日付) ▼▼

「六、七日冬山訓練 富士山遭難対策きまる」〔富士宮地区山岳遭難対策打合せ〕〔十一番官舎〕〔桜土場〕〔富士宮山岳会〕〔冬山登山相談所〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年11月30日付)

「田貫湖畔に国民宿舎を 運営委、誘致に取り組む 東海自然歩道計画に併行」(『岳南朝日』1969年=昭和44年12月2日付)

「賃上げ、公害排除 地区労、運動方針決める」〔富士地区労〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年12月2日付)

「市内の高空にも逆転層 春型気象観測でわかる 大気汚染の影響大きい」〔公害〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年12月5日付)

「議場乱入事件初公判開く」〔東電富士川火力発電所〕〔鷹岡事件〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年12月5日付)

「工場拡張の富士フィルム 火力発電二号機を増設 きのう富士宮市に申入れ」〔富士フィルム〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年12月6日付)

「きょう冬山訓練 県下警察官も参加して」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会〕〔富士宮山岳会〕〔浜松山岳協会〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年12月7日付)

「頂点にきた拡大造林 今後は良質材生産へ 富士森林組合が新方針」(『岳南朝日』1969年=昭和44年12月11日付)

「北高郷研がうずら穴を調査」〔熔岩洞窟〕〔富士宮北高校郷土史研究部〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年12月13日付)

「この一年(1)火を吹いた火電問題」〔東電富士川火力発電所〕(『岳南朝日』1969年=昭和44年12月25日付)

「集中豪雨で被害も 表富士周遊道が開通」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年12月26日付）

「小口、29日支払い 花鳥山脈、無担保だけ」（『岳南朝日』1969年＝昭和44年12月26日付）

「浅間神社でお札授与所建設」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1969年＝昭和44年12月27日付）

## ■ 1970年＝昭和45年

「荒される西富士山ろく 給排水なしの別荘地 開発、めっちゃめっちゃに」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月7日付）

「富士山で練炭火バチで中速」〔スカイライン〕〔事故〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月6日付）

「弥生後期住居跡と断定 若林教授 月の輪平らで語る」〔若林淳之〕〔月の輪遺跡〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月9日付）

「環境汚染測定強化 市公害対策室 整備費予算を要求」〔公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月10日付）

「“工場、移転させて” 再建めぐり住民が陳情」〔浅間クレープ〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月13日付）

「騒音を法で規制 六月から富士宮市も」〔公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月15日付）

「電留線工事に着手 国鉄、秋までに完成」〔身延線〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月15日付）

「大沢崩れ対策で陳情 市長、副知事らと上京」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月21日付）

「身延線旧東回りレール撤去」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年月1日21日付）

「日本ジャンボリー開催日決る 8月6日～10日朝霧で」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年月1日21日付）

「レストハウス建設準備会 7月オープン目ざす」〔スカイライン〕〔レストハウス〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月21日付）

「一市四町、公害問題で動く 富士市長に会見申し入れ 由比蒲原も火電建設反対決議」〔東電〕〔富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月24日付）

「七月までに建設 五合目のレストハウス」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月24日付）

「肥料やり回生策 元気ない本門寺七本杉」〔北山本門寺〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月24日付）

「富士山ろくに養鶏団地 建設計画、一步踏み出す 臭気公害の防止へ 広見 市有地を開放して」〔人穴広見〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月25日付）

「富士地区の環境大気調査 厚生省が始める」〔公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月25日付）

「優良林材の生産 富士森林組合が指導」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月25日付）

「ジャ対策で全市の畜舎消毒」〔世界ジャンボリー〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月29日付）

「公対審委員きまる 二日に初会合開く」〔公害対策審議会〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月30日付）

「公害防止の協定検討を」〔富士フィルム火力発電所〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年1月30日付）

「北高郷研 うずら穴調査 長さ七九九センチに及ぶ」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月3日付）

「富士フと公害防止協定 市議会特別委 増設計画を了承 低硫黄化の推進条件に」〔富士フィルム〕〔火力発電所〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月4日付）

「“格下げ、とんでもない”源道寺住民 無人駅化に反対」〔身延線〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月4日付）

「富士市長と会う 一市四町 きょう火電問題で」〔東電〕〔富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月4日付）

「郷土資料館、11日に開館 古文書など百点展示 郷土の歴史とくらしがひと目」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月5日付）

「富士市長、協議会と会う 火電問題、表明避ける 既存公害防止は広域的に」〔東電〕〔富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月6日付）

「よみがえるA沢水源(根原)一万五千人の給水可能 10万トン貯水池建設スタート」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月7日付）

「本格化する大沢崩れ対策 お中道峡谷に砂防ダム 新年度は工事用道路に着手」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月10日付）

「あす待望の開館 郷土資料館 貴重な品ズラリ」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月10日付）

「旅館に配宿依頼 ジャ受入れ対策きまる」〔世界ジャンボリー〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月10日付）

「公害防止協定に調印 富士フィルム、市と」〔火力発電所〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月13日付）

「養鶏団地が本決り 県の新年度予算につく」〔人穴広見〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月14日付）

「遺跡の数に驚嘆 出足好調の資料館」〔郷土資料館〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月14日付）

「三本に一本は落第 富士地区の工場煙突」〔公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月19日付）

「解禁中千五百キログラム放流 市魚組の新年度事業計画決る 神田川の河床も掘り下げ」〔富士

宮市漁業協同組合〕〔ニジマス〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月21日付）  
「産業公害の実情を視察 富士市へ国際級科学者」〔国際公害会議〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月24日付）  
「宙に浮いた駅前改造 交通混乱も増すばかり 地下道案はタナ上げに 区画整理の外なし 放置できない事態」〔駅前整備〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年2月28日付）  
「神田川の春ひらく 本社賞は淀師の佐野さんが獲得 盛大にマス釣り大会」〔ニジマス〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月3日付）  
「源道寺駅無人化に反対 地元の請願を採択」〔身延線〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月3日付）  
「電発審に向け陳情 市民連合 火電建設阻止で署名」〔電源開発調整審議会〕〔富士川火力建設阻止東駿河地区市民連合〕〔公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月4日付）  
「新五合にレストハウス 周遊道全面開通に対処 三者で建設準備委 今夏は仮売店設置本格的な営業は来年から」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月6日付）▼▼  
「麓分校の廃校正式決る 富士宮市教委」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月6日付）  
「県政の立場で処理 火電問題 渡辺富士市長 施政方針で述べる」〔東電富士川火力発電所〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月7日付）  
「富士のお山も物価高！ 宿泊など軒並値上げ 今夏の協定料金きまる」〔富士山五口協議会〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月7日付）▼▼  
「修造工事進む」浅間神社 朱の色も鮮やかに 本殿の塗りは近く終了 本来の姿を再現」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月13日付）  
「『東京宣言』の一行が視察 車中の悪臭におどろく 公害問題国際シンポジウム参加者」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月14日付）  
「フィルム周辺調査 市民協が検討資料に」〔富士宮市公害対策市民協議会〕〔富士フィルム〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月14日付）  
「滝しぶき浴びて 豪快なマス釣り大会」〔白糸の滝〕〔ニジマス〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月15日付）  
「公害の町四日市市を訪ねて（1）松浦克巳 部落ぐるみの患者 保護よりも元のからだを！」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月19日付）  
「公害の町四日市市を訪ねて（2）松浦克巳 南風だけが頼み うがいは日に六回も」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月20日付）  
「公害の町四日市市を訪ねて（3）松浦克巳 誇らしげな諸設備 異常示す公害の町」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月21日付）  
「公害の町四日市市を訪ねて（4）松浦克巳 うそぶく市首脳 底に市民の絶望感が」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月22日付）  
「公対審、フルに活用 山川市長 市民協代表に答える」〔富士宮市公害対策市民協議会〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月22日付）  
「3・29 記念集会 市民連合 鷹岡事件一周年で」〔富士川火力建設阻止東駿河地区市民連合〕〔公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月22日付）

「映画『富士山』の試写会」〔富士山レーダー〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月22日付）

「じょうご状に「受ける煙 大気汚染の現状など 富士宮市が白書を発表」〔公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月24日付）

「白糸滝に駐車場 ことしの観光事業で」〔白糸の滝〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月25日付）

「“富士がよりひどい” 富士川火力建設反対 市原などを視察」〔富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月28日付）

「しゃれたマンモス交番」〔富士宮署宮町派出所〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月29日付「グラフィックニュース」）

「曾我仇討伝説ルートが完成」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月29日付「グラフィックニュース」）

「漁民は開場デモ 盛り上った三、二九集会」〔鷹岡事件〕〔富士川火力建設阻止東駿河地区市民連合〕〔公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年3月31日付）

「半数が物価高指摘 昨夏の登山アンケート」〔富士山五口協議会〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月4日付）

「電発審諮問延期を示唆 市民連合、出県して質す」〔電源開発調整審議会〕〔富士川火力建設阻止東駿河地区市民連合〕〔公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月5日付）

「大沢砂防工事の出張所 工事事務所に昇格 当初は農協仮住いに」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月7日付）

「人気は白糸の滝 昨年の観光客 西ろくへ二九〇万人」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月5日付）

「北山本門寺のお虫干し」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月8日付）

「養鶏団地の造成、近く着手 公害除去、振興で一石二鳥 二か年でまず十五ダニを」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月11日付）

「万一に備えて覚書 富士フ火電建設で 富士宮市と芝川町」〔富士フィルム火力発電〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月12日付）

「スギ生産赤信号 ダンピングが続出」〔スギ苗〕〔ヒノキ苗〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月12日付）

「百八十人入隊 根原の建設大学」〔建設大学校中央訓練所〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月12日付）

「プモリ（ヒマラヤ山群）に挑戦 富士宮山岳会が独自で」〔プモ・リ〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月14日付）

「“世界最美”の山 ヒマラヤの高峰プモ・リ 南壁にいどむ山男たち」〔富士宮山岳会〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月15日付）

「衛星中継で世界に 富士の公害紹介」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月15日付）

「ニジマスの春季卵成功 年間通じて出荷もOK 富士養そん場の研究実る」〔富士養鱒場〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月16日付）



「ことしは早めに？ 夏山キャラバン打合せ」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月16日付）

「ジャンボリー対策本部 来週早々、市に設置 富士宮市」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月17日付）

「大宮小などで学童の健康調査 千葉医大 公害との関係追及」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月17日付）

「スローガンに火電建設阻止 北部地区メーデー決る」〔公害〕〔東電富士川火力発電所〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月17日付）

「ミツバチに伝染病 上野 60万匹を焼却処分」〔腐蛆病〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月23日付）

「五月下旬に出発 ことしの観光キャラバン」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月23日付）

「新五合の整備答申 レストハウスや駐車場新設 国の自然公園審議会」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月25日付） ▼▼

「魚のすめる河川づくり 五月から水質、環境調査 富士地区二市が協力、汚水追放 潤井川水系など16河川で」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月30日付）

「こうなると遅い！大昭和製紙鈴川工場裏の沼川べりに立つ立札。工場の廃液で川を奪われた地域住民の悲痛な叫びが聞こえる。そばの『川にゴミをすてるな』という立札がなんとも皮肉だ」〔写真〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月30日付）

「水資源を保護せよ 狙われる猪之頭区」〔地下水〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月30日付）

「花見ならぬ“ツボミ”だが 大賑いの天照教 一合目も交通ラッシュ」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年4月30日付） ▼▼

「やぶさめ祭が開幕 きょうから賑やかに」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月4日付）

「“野鳥の宝庫”に危機 いまこそ自然保護を 戦前より20種減る 営巣荒しも原因に」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月10日付）

「上部地点から着工 大沢砂防工事 “急所”買占められて」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月12日付） ▼▼

「人工造林85%を完了 富士森林組合」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月12日付）

「生れ変わる元麓分校“山の家”今夏から開放 早くも申し込み殺到」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月13日付）

「裏山など牧草地に 村山の酪農家が計画」〔山県議〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月14日付）

「60%ふさがる 田貫湖キャンプ場 宿泊申し込みが殺到」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月14日付）

「米二分だけの食生活 文献にみる百年前 変ぼうをとげる富士山ろく 資料は『山すじ日記』」〔松浦武四郎〕〔唐紙一修〕〔釜口橋〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月14日付） ←「ルポ釜吉橋を探る（2）」（1969年＝昭和44年8月19日付）に言及

## されている

「六月と十月の二回 学童対象の公害調査」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月15日付）

「二市（富士宮 富士）議長らが懇談 火電以来の“冷戦”緩和か 三年ぶりに定例会復活」〔東電富士川火力発電所〕〔公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月16日付）

「三一九万人が“登山” 昨年の創価学会輸送 総選挙で二%減」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年6月16日付）

「またもや野天焼却 不燃物投棄場が山に」〔大岩〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年6月16日付）

「汚水、騒音が大部分 富士宮市 44年度の公害届け出」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月17日付）

「しっかりしろ観光協会 20年間、市にオンブ 望まれる積極的姿勢」〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月17日付）

「初夏の雪化粧 うっすらと富士山頂」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月19日付）

「“火電建設は時期の問題” 竹山知事きのう富士宮入り ジャンボリー跡地など語る」〔竹山祐太郎〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月20日付）

「使うな“BHC わら” 畜産課、酪農家に警告 残留農薬一掃厳しく」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月20日付）

「富士根北部でハエ駆除対策」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月20日付）

「地下貯水を検討 水資源確保に新方式」〔竹山祐太郎〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月20日付）

「片手落ち、表富士周遊道 駐車場増設間に合わず 七月オープンに不安の声 三百八十台で満員 さげられぬ雲上の交通規制？」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月21日付） ▼▼

「負債の全額支払う 西富士観光 債権者委も解散へ」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月21日付）

「短くなる東海自然歩道 既存道路の利用に変わる 富士宮ルートは20・1キロ 周辺は国定公園指定か」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月22日付）

「“公害の谷間”の対策を ゼンソクなど意外に多い 六月に学童検査で追跡」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月23日付）

「美化運動で協議 ジャンボリー対策で」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月23日付）

「来月から住民の一斉検診 北部地区重点に」〔世界ジャンボリー〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月23日付）

「観光客用に建設 白糸の滝に給食センター ドライブインが計画」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月23日付）

「宇宙中継に乗る富士公害 NHKテレビで世界に紹介」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月24日付）

「キャラバン あす関西へ 表富士周遊道を売込む」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月24日付）

「問題化する営業用廃棄物『捨ててよい場所』作りを 望まれる行政の抜本対策」〔産廃〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月26日付）

「県、地下貯水で調査 せき止めて給排水」〔富士山地下水〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月26日付）

「富士山に『自然休養林』整備して一般に開放す 表富士周遊道沿い主体に」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月27日付）

「汚泥、積るばかり 田子の浦港に廃港の心配も 入港船舶に支障きたす」〔ヘドロ公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月27日付） ▼▼

「公害の“元凶”に怒り『地球管理計画』放送 企業と政治の責任追及 熱気のティーン会場」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月29日付）

「大気の汚れを調査 市民協が独自の測定」〔公害〕〔富士宮市公害対策市民協議会〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月29日付）

「質疑に火電問題も 市政懇談会ひらく」〔東電富士川火力発電〕〔公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月29日付）

「国の予算化目ざす 養鶏団地緊急測量へ」〔人穴広見〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月29日付）

「公害追放宣言を 黒田の森井さんが要望」〔市政懇談会〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月30日付）

「四市で連絡会結成 表富士周遊道 救急事故体制作り」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月30日付）

「ヘドロ対策に処理委会 工業汚水 病める岳南排水路 外洋投棄も検討」〔田子の浦港〕〔ヘドロ公害〕〔富士地区岳南排水路建設協力会連合会〕〔富士市紙業協会〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月31日付）

「四万トンを規制 64社に節水を指示」〔岳南排水路管理組合〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月31日付）

「近代化が“荒廃”に拍車 昔は巨大な原生林 林業事務所 山ろくの森林推移をまとめる」〔沼津林業事務所〕〔『富士山麓の国土緑化』〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月31日付） ←[沼津市立図書館に蔵架](#)

「受入れ準備急ピッチ 開山まで一か月の新五合目」〔周遊道路〕〔スカイライン〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月31日付「グラフニュース」） ←[新五合目の当時の植生が分かる貴重な写真が掲載されている](#)

「芝川町にも畜産公害 養豚汚物が問題化“水晶の川”もたれ流しでにごる」〔芝川〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月31日付）

「富士宮市対協傘下の各連盟スケジュール決る」〔富士宮山岳会〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月31日付）

「プモリ登山隊に加わる佐野雄次さん」〔プモ・リ〕〔富士宮山岳会〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年5月31日付）

「周遊道にも愛称を 富士登山キャラバン帰る 望まれる受入体制れ」〔スカイライン〕

(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月2日付)  
「富士宮もハイオク追放 市、まず公用車から中止 関係業種にも協力要請」〔鉛公害〕  
(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月5日付)  
「業者も自粛の動き」〔鉛公害〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月5日付)  
「今夏は23日間 7月18日から 富士山診療所開設決る」〔衛生センター〕〔京大医学部〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月5日付)  
「十日に周遊道連絡会議」〔表富士周遊道四市救急連絡会議〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月7日付)  
「富士宮市政を語る市議会各党派座談会① 公害追放では一致 派閥争いには反省を」  
(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月9日付)  
「周遊道路、29日に開通式 7月1日待望の全面オープン」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月12日付)  
「早くも八千百人 ジャンボリーの宿泊申込み 小中学校に分散収容」(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月12日付)  
「取り戻そう二つの“清流” 神田川下流マスに油の臭気が 魚も住めない潤井川」(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月13日付)  
「こぼれ話」〔駿河湾フェリー〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月13日付)  
「電留基地 一期工事が終わる いよいよ軌道敷きへ」(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月13日付)  
「駐車場は四か所に 表富士周遊道の受入れ対策 新五合は百台分だけ」〔スカイライン〕  
(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月21日付)  
「神田川のゴミ掃除 市青協 山開き前に奉仕」〔富士宮市青年団体連絡協議会〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月13日付)  
「あいまいな『金指学園』市議会特別委 定例会後、独自調査」〔金指造船〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月14日付)  
「富士宮市政を語る 市議会各党派座談会⑤水資源を確保せよ 神田川など水利権の再検討を」(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月14日付)  
「数値が高まる 五月の大気汚染」〔公害〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月14日付)  
「夏山三題 全線開通間近の表富士周遊道路」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月14日付「グラフニュース」)  
「夏山三題 お札づくりも大わらわ」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月14日付「グラフニュース」)  
「夏山三題 “外材”のツエで富士登山」〔金剛杖〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月14日付「グラフニュース」)  
「青年が神田川を清掃 戦果はトラック八台分」〔富士宮市青年団体連絡協議会〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月21日付「グラフニュース」)  
「ジャンボリーにフラワー作戦」(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月21日付「グラフニュース」)  
「基礎づくりが急ピッチ 大倉川防災ダム」(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月

21日付「グラフニュース」)

「企業の届け出さっぱり 騒音規制特定施設 市、未提出者に督促」〔騒音公害〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月23日付)

「万博ショックの観光地 白糸の滝は三割減 車がふえても金落さぬ」(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月23日付)

「林道着工の準備進める 北井久保一天照教線」(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月23日付)

「桂酸鍾乳も発見『間々下穴』に貴重な資料 気温、意外に冷たい 北高調査」〔富士宮北高郷土研究部〕〔珪酸鍾乳〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月24日付) ▼▼

「無謀登山チェック 遭難対策」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月26日付)

「表口に微妙な影響 富士ハイウエーのオープン」〔スカイライン〕〔エバーグリーンライン開通〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月26日付)

「市議会、表富士周遊道視察」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月26日付)

「床固め効果を実証 砂防工事事務所 大沢扇状地を調査」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月27日付)

「あす、夏山富士開く 登山客、待つばかり 周遊道開通に期待」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月30日付)

「知事ら通り初め 表富士周遊道開通式」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年6月30日付)

「小雨ついて1番乗り 富士開山、元気よく30人」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月2日付)

「美化宣言を採択 山にチリを残さない運動展開」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月2日付)

「市、“死の川”の実態調査 毎月十日、採水して分析 潤井川などで定期観測 県も劇毒物の排水検査」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月3日付)

「10年間で37回記録 “山登り出前”の渡辺さん 山開きにも馳足登山」〔回数登山〕〔渡辺充夫37〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月3日付)

「電気施設を診断 ジャンボリー宿泊地校」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月3日付)

「富士山からモシモシ 赤電話も設置」〔山頂電話〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月4日付)

「上流もひどい汚れ 中里地内 方辺川 ゴミで家屋浸水騒ぎも 年ごとに河床が上る」〔公害〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月5日付)

「大沢砂防など推進 本年度から用地取得」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月5日付)

「郷土資料館 四か月で三千五百人 県外からも見学“専門家すじ”の訪ずれ増加」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月5日付)

「七千人受け入れ 市内小中校 見学スカウト宿泊」〔世界ジャンボリー〕(『岳南朝日』

1970年＝昭和45年7月7日付)

「きょうお田植祭 豊かな収穫を祈って」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月7日付)

「月の輪平、再び発掘 住居跡の解明を迫り 教委 夏休み利用して」〔月の輪遺跡〕(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月8日付)

「きょう清掃登山 婦人会の百四十人」〔富士宮市婦人団体連絡会〕(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月8日付)

「田子の浦港 閉鎖寸前に苦肉の策 あすからヘドロを移動 悪臭公害起きる恐れも」〔スラッジ〕(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月10日付) ▼▼

「きょう初の水質検査 潤井川水系三地点で」(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月10日付)

「サービス機関始動 シーズン間近の富士山」(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月10日付)

「北部などのべ一万坪舗装 ジャンボリーに便乗して枝道整備がすすむ」(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月12日付)

「ヘドロ放置に抗議 来月、市民連合が集会」〔田子の浦〕(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月12日付)

「駿河湾汚染対策など申入れ 社会党県本部」〔ヘドロ公害〕(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月12日付)

「暴風雨にガッカリ まばらば週末富士登山」(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月12日付)

「古色豊かなお田植祭」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月12日付「グラフニュース」)

「婦人会員がお山の清掃奉仕」〔富士宮市婦人団体連絡会〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月12日付「グラフニュース」)

「日本晴れ続く頂上 夏富士だより第一報 本社＝久須志の宮」〔山頂電話〕(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月11日付)

「乗客、全線に後退化へ 身延線複線化にも影 管理局、44年の輸送実績まとめる」(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月12日付)

「新五合目(表富士周遊道)は只今満車 すし詰め、各所で渋滞 好天の日曜日 さらに出した施設の遅れ 高鉢で乗入れ制限したが 二千台がノロノロ運転」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月14日付) ▼▼

「登山やキャンプ 三高校の夏休み行事」〔富士登山〕(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月14日付)

「北高郷研、資料館へおくる 貴重な品、約百点 苦勞して集めた民俗資料」(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月15日付) ←「郷土資料が充実 富士宮北高に資料室」(1968年＝昭和43年9月8日付) 参照

「拝殿一年ぶりに足場とれる 富士宮浅間神社」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月15日付)

「富士山自然休養林の保護を 協議会を設立」(『岳南朝日』1970年＝昭和45年7月

15 日付)

「大丈夫か、駐車場対策 四千五百台分は確保 日本ジャンボリー」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月16日付)

「千居遺跡を発掘 大石寺 縄文時代の集落跡」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月16日付)

「大挙して富士講登山 八年連続グループも」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月16日付) ▼▼

「放牧場周辺にモトクロス練習場 “招かざる客”に大弱り “寝耳に水”のオープン 騒音公害や事故の不安も」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月18日付)

「環境基準を越える 六月の亜硫酸ガス測定 四地点で高い数値」〔公害〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月18日付)

「16日、〇・二PPMを記録」〔富士宮市役所〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月18日付)

「一週間で三千通 好調な富士山頂郵便局」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月18日付)

「登山バス十本にふやす きょうから」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月18日付)

「県、富士地区で20日から ばい煙排出工場総点検 不相当施設は86工場」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月21日付)

「汚れた川にメス 定期的に水質検査」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月19日付)

「今夏最高を記録 富士宮口の登山者」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月19日付)

「三時間も足止め 新五合目 富士下山客 周遊道の渋滞で」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月21日付) ▼▼

「公害視察あいつぐ 政党幹部、富士市へ」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月22日付)

「日蓮宗信徒が霊蹟参拝 今秋に実施」〔日蓮宗富士宮市寺院協会〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月22日付) ▼▼

「テント村もできる にぎわう田貫湖キャンプ場 公害のがれてどっと」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月23日付)

「近江八幡と交歓 児童生徒52人を派遣」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月23日付)

「駅の合理化反対を決議 『住民の意志に反する』身延線改善期成同盟会 運動方針に盛り込む」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月24日付)

「来月から汚水処理調査 岳南排水路 対策協議会を設立 施設改善一年繰上げ」〔岳南排水路汚水対策協議会〕〔ヘドロ公害〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月25日付)

「外洋投棄決める 田子の浦港のヘドロ」(『岳南朝日』1970年=昭和45年7月25日付) ▼▼ ←本文言及の7月16日に起きた硫化水素中毒事故の記事はないようである

「本年度中に設定 水質審議会 潤井川、沼川の水質基準」 (『岳南朝日』1970年=昭和45年7月25日付)

「万野住民“水よこせ”デモ 長期間断水に不満爆発 二百人、市へ押しかける」 (『岳南朝日』1970年=昭和45年7月26日付)

「炎天下、黙々と遺跡発掘 月の輪平」〔月の輪遺跡〕 (『岳南朝日』1970年=昭和45年7月26日付)

「夏休入り初の週末で登山客もどっと」 (『岳南朝日』1970年=昭和45年7月26日付)

「山頂から暑中見舞い 大もての富士山頂郵便局」 (『岳南朝日』1970年=昭和45年7月26日付)

「閉鎖ピンチの田子浦港 “三本立”のへドロ対策 労基局、地元、県が推進」 (『岳南朝日』1970年=昭和45年7月28日付) ▼▼

「またもや渋滞 表富士周遊道 新五合下は立ち往生」〔スカイライン渋滞〕 (『岳南朝日』1970年=昭和45年7月28日付)

「貫間の配管終了 万野の水問題解決へ」 (『岳南朝日』1970年=昭和45年7月28日付)

「四五〇人登山 26日の富士山」 (『岳南朝日』1970年=昭和45年7月28日付)

「富士宮展望台『雲上』7月28日オープン! 富士総合開発観光」〔広告〕 (『岳南朝日』1970年=昭和45年7月28日付)

「ことしも、あす来宮 富士山と琵琶湖を結ぶ会 近江八幡市から50人」 (『岳南朝日』1970年=昭和45年8月1日付)

「中旬から外洋投棄 廃水処理施設促進も」〔へドロ公害〕 (『岳南朝日』1970年=昭和45年8月2日付)

「公明党が公害追放市民大会 五日、富士市で」 (『岳南朝日』1970年=昭和45年8月2日付)

「赤信号の富士宮の大気 高煙突化で“越境”増大 富士の防止協定がアダ?」 (『岳南朝日』1970年=昭和45年8月4日付)

「きょう第一陣到着 日本ジャンボリー 参加スカウトたち」 (『岳南朝日』1970年=昭和45年8月4日付)

「角材かつぎ上げる」 富士山へ青年大工たち 七月の登山客は減少」〔変わり種登山〕 (『岳南朝日』1970年=昭和45年8月4日付)

「排ガス除去で要請 地区労など五項目」 (『岳南朝日』1970年=昭和45年8月5日付)

「日本ジャンボリーきょう開く 朝霧に集う3万人」 (『岳南朝日』1970年=昭和45年8月6日付)

「九日に大抗議集会 田子の浦ふ頭 大昭和製紙などを告発 へドロ追放駿河湾返せ 住民が立上る」 (『岳南朝日』1970年=昭和45年8月6日付)

「負担、応じられぬ 富士宮市、へドロ問題で」 (『岳南朝日』1970年=昭和45年8月6日付)

「地元無視のジャンボリー 連盟の“横暴”に非難の声 支援本部の縮小意見も」 (『岳



南朝日』1970年=昭和45年8月8日付)  
「30%減の富士登山 ジャンボリー帰りに期待かける」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月8日付)  
「中古車にもビシビシと 自動車の排気ガス規制」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月9日付)  
「『駿河湾を返せ』きょう抗議集会 ヘドロの田子の浦港で」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月9日付)  
「新名所“宝永火口” 指導標建て売出す」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月9日付)  
「ジャンボリーだより」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月9日付)  
「海、陸の怒りが一つに 四企業と知事を告発 ふ頭埋めた四千二百人 漁船百四十四隻が海上デモ 洋傘でくり出す 富士宮市民協関係者」〔ヘドロ公害〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月11日付)  
「きのうジャンボリー閉幕」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月11日付)  
「ヘドロ告発 四企業と知事 公害反対住民、きのう地検」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月12日付)  
「進む富士宮の大気汚染 警報発令寸前の日も 亜硫酸ガス 七月は測定以来の最高」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月13日付)  
「汚水処理対策でヒヤリング 水質基準設定で」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月13日付)  
「ヘドロ問題 地元、一応期待 市民団体 監視体制強める」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月13日付)  
「紋之助さんら登山 頂上奥の宮に参拝」〔有名人登山〕〔ジャンボリー〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月13日付)  
「三浦布美子ショー 小田急花鳥山脈」〔広告〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月13日付)  
「湧玉池でも採水 潤井川 二回目の水質検査」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月14日付)  
「沖縄代表迎えて あす平和富士登山」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月14日付)  
「県、潤井川・沼川の工場排水規制 来月中に水質基準設定」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月15日付)  
「週末登山は危険 地方气象台が警告」〔台風〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月15日付)  
「平和登山も延期」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月15日付)  
「17日から登山バス減らす」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月15日付)  
「タバコ、切手など好成績 ジャンボリー総売上げ 多い見込み違い」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月15日付)  
「大部分は下山 富士登山客 台風の影響で大荒れ」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月16日付)

「駿河湾を返せ！港のイメージ変さず 田子の浦港のヘドロ公害」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月16日付「グラフニュース」）

「企業、操業を中止せよ 漁民側 県も行政責任を 企業側 ヘドロに関係者の意見」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月18日付）

「大規模な祭し遺跡 千居原の発掘調査でみつかると 日本で二番目 帯状配石は初めて」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月18日付）

「地元選出県議に聞く（1）公害問題 出席者 植松義忠氏（社会党）安倍信義（自民党）司会 本紙記者 沢田正彦 田子の浦港のヘドロ原因 無計画な後始末 植松氏 止むを得ない事情 安倍氏」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月19日付）

「千八百年前の集落跡 月の輪遺跡 火事跡も発見」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月19日付）

「地元選出県議に聞く（2）公害問題 出席者 植松義忠氏（社会党）安倍信義（自民党）司会 本紙記者 沢田正彦 田子の浦港のヘドロ原因 総業停止講ぜよ 植松氏 国は助成措置を 安倍氏」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月20日付）

「企業負担の結論持越す 岳南排水協議会」〔ヘドロ公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月20日付）

「夏山富士も終り近づく」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月20日付）

「地元選出県議に聞く（3）公害問題 出席者 植松義忠氏（社会党）安倍信義（自民党）司会 本紙記者 沢田正彦 富士地区の大气汚染対策 電力の確保必要 安倍氏 経済成長押えよ 植松氏」〔『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月21日付）

「漁協組も抗議集會 紙業協会の回答に不満」〔ヘドロ公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月21日付）

「水質改善急策 大昭和と本州で発表」〔大昭和製紙〕〔本州製紙〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月22日付）

「取水問題などで協議 大石寺総合整備連絡協議会」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月22日付）

「収入は二百万円 ジャンボリー会場電話」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月22日付）

「紙業協会 全額負担断わる ヘドロしゅんせつ費で回答 富士宮市『責任逃れ』と拒否へ」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月23日付）

「文化財指定へ動く 大規模な千居遺跡」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月23日付「グラフニュース」）

「これがヘドロだ！」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月23日付「グラフニュース」）

「ふるわなかった富士登山」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月23日付「グラフニュース」）

「地元選出県議に聞く（5）地域開発 出席者 植松義忠氏（社会党）安倍信義（自民党）司会 本紙記者 沢田正彦 対応した施策を 安倍氏 人工より保護を 植松氏」〔『岳南朝日』1970年＝昭和45年8月25日付）

「大气汚染 現情に合わぬ観測体制 警報伝達外される 基準点再検討の声も」（『岳南

朝日』1970年=昭和45年8月25日付)

「メッキ工場の排出規制 富士宮で説明会」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月25日付)

「砂防指定地分譲にメス 市議会建設委など 近く現地調査」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月27日付)

「古墳初期と断定 月の輪遺跡の発掘調査 大規模な集落跡 周辺に数十のピット群」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月27日付)

「楠田氏が権宮司に就任 富士宮浅間神社」〔浅間大社〕〔楠田英香〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月27日付)

「収入、前年の二倍 富士山頂郵便局の決算」〔電通〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月27日付)

「外洋投棄反対叫び 田子浦港 あす五千漁民が集会」〔ヘドロ公害〕〔田子の浦港〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月28日付)

「水質検査室設置を 公害対策課で予算請求」〔公害〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月28日付)

「火電で情報交換 一市四町反対協開く」〔富士川火力建設反対協議会〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月28日付)

「水質比較調査で歴然 潤井川水系の汚れぶり 浮遊物質ゼロの湧玉池」(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月29日付)

「富士宮市民協も支援に参加 漁民の抗議集会」〔ヘドロ公害〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年8月29日付)

「工場排水も調査 今月から富士地区で 経企庁」〔ヘドロ公害〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月2日付)

「大興製紙も排水処理計画」〔ヘドロ公害〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月2日付)

「平均30人が利用 オープンした観光案内所」(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月4日付)

「姿を変えた富士山観光 周遊客、大幅に増加 登山客は横ばい状態」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月4日付)

「一市四町 幅広い運動に進展か ヘドロ公害なども含めて 火電反対協で検討へ」〔富士川火力建設反対協議会〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月6日付)

「夏山シーズン 九万五千台乗入れ 表富士周遊道 70%は新五合目へ」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月6日付)

「公害追放宣言 排気ガス無料点検実施中 小笠原自動車工場」〔広告〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月6日付、9月16日付)

「10月から児童手当制度 補正予算に盛込む 水質実験室も設置へ」(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月8日付)

「測定機を設置しろ 硫化水素ガス 中毒で労組も対策」〔岳南電車〕〔ヘドロ公害〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月8日付)

「浮遊物質20%を削減 紙業協会が緊急対策 漁連 外洋投棄前提に反対」〔ヘドロ公害〕

(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月9日付)  
「近く立入調査 富士地区79社84工場を」〔岳南排水路污水対策協議会〕〔へドロ公害〕  
(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月11日付)  
「多様化する公害に対処 保健所運営協の重点方針 ジャンボリー衛生対策 手綱をゆるめず」(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月12日付)  
「企業負担を確認 へドロ処理で富士宮市」(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月12日付)  
「来月から四車線総業 20日に試運転 電留線工事進む」〔身延線〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月13日付)  
「大詰め迎えた外洋投棄 漁民は実力阻止の構え 強行したら不測の事態も」〔田子の浦港〕〔へドロ公害〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月16日付) ▼▼  
「車、車、車の波 秋の富士山五合目」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月16日付)  
「緊急調査実施へ 県と岳排協が污水対策」〔へドロ公害〕〔岳南排水路污水対策協議会〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月17日付)  
「外洋投棄は延期したが……田子の浦港 “二次公害” 発生の恐れ へドロの港内たらい回し 地元住民は強く反対 移動に絶対反対 地元住民が押しかける」(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月18日付)  
「公害に産業廃棄物 処理になやむ市当局」〔産廃〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月20日付)  
「10月5日に出発 初の関東方面キャラバン」(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月20日付)  
「土肥町が受け入れ カーフェリー実現へ」〔駿河湾フェリー〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月26日付)  
「来月、1年ぶりで遷座 浅間神社 朱色もあざやかに」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月27日付「グラフニュース」)  
「七億円の企業負担了承 紙業協会 へドロ緊急処理で」〔田子の浦港〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年9月29日付) ▼▼  
「『コンテナ基地』具体化 身延線電車区跡に 来年四月から着工」(『岳南朝日』1970年=昭和45年10月1日付)  
「田子の浦港へドロ問題 企業が廃水処理施設を 操業停止検討で新局面」〔スラッジ〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年10月3日付) ▼▼  
「浅間神社 表参道を舗装 アスファルトで完成」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年10月3日付)  
「高令者(七〇歳以上)一五四人登る 今夏の富士山 最高令は89歳 富士宮からも三人」〔高齢者登山〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年10月3日付)  
「多かった双体道祖神 富士宮との関連も 北高郷研が富士川流域(下部)を調査」〔富士宮北高校〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年10月4日付)  
「企業負担が解決 難航のへドロ処理問題」(『岳南朝日』1970年=昭和45年10月4日付)

「衝突、八人重軽傷 登山道で東京の車同士」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月6日付）

「秋のお中道 あす、北高生千二百人」〔富士宮北高校〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月8日付）

「処理施設30企業が該当か 市、近く排水量を調査」〔ヘドロ公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月10日付）

「来年度の公害学童健康調査 関係者が打合せ」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月10日付）

「関東の誘致成功 好評受けた観光宣伝」〔観光宣伝キャラバン〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月10日付）

「SSカットに新たな波紋 製紙カス投棄に『待った』富士フィルムに芝川住民が申入れ」〔ヘドロ公害〕〔スラッジ〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月13日付）

「上棟式終わる 大石寺 六千二千人が参列して」〔正本堂〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月13日付）

「ヘドロ公害で住民訴訟 県、企業の責任追及へ 市民協会 知事を相手どり」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月14日付）

「栗倉分校が“成人”に ことしで創立20周年 開拓農民がつくる」〔富士根北小学校〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月14日付） ▼▼

「随神様は『三七五歳』確認された製作年代 富士宮浅間神社の“守衛さん”」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月16日付）

「公害の面で検討 小野薬品の進出問題」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月16日付）

「初の公害防止協定に汚点 市の知らぬ間に“試運転”もう一か月余も 新設の三社共同汽力 住民、騒音に悲鳴『電話のベルも聞えない』」〔騒音公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月20日付）

「小野薬品を視察 特別委 公害対策の資料に」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月20日付）

「ヘドロ対策に新局面 水銀やカドミウムの検出で」〔田子の浦港〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月20日付）

「共同汽力が陳謝 当局、協定尊重申入れ」〔騒音公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月21日付）

「大沢崩れを空から撮影」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月21日付）

「自然歩道コース確認調査 きょう富士宮分」〔東海自然歩道〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月21日付）

「市が医療費負担 富士 ゼンソク重症児に」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月22日付）

「夜間、基準越える 共同汽力 市が騒音を測定」〔富士宮共同汽力〕〔騒音公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月22日付）

「磁石と地図が頼り 朝霧で新しい競技大会」〔オリエンテーリング〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月22日付）

「第八号床固めへ 大沢くずれの砂防工事」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月22日付）

「へドロたらい回し続く 今度は富士川河口へ 県が計画 隣接住民は反対の構え」〔富士川河川敷投棄〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月25日付）

「紅葉とススキの波……新五合は初冬の気配」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月25日付「グラフニュース」）

「神田川にマス放流」〔ニジマス〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月25日付「グラフニュース」）

「年内に30万トンの投棄 へドロの富士川河口処理 県から初めて明らかに」〔富士川河川敷投棄〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月27日付）

「まず四車線操業 富士宮駅の電留線基地」〔身延線〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月28日付）

「地元住民、反対を打出す へドロ投棄」〔富士川河川敷投棄〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月28日付）

「へドロ削減に一応の効果」〔田子の浦港〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年10月29日付）

「山ろく開発の拠点 A沢貯水池が完成」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年11月3日付）

「『冬富士』賑わう ごった返す新五合売店」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年11月3日付）

「局地的に高い数値示す 市民協が大気汚染測定調査 北高付近 川崎の拡大汚染地域に近い」〔富士宮市公害対策市民協議会〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年11月4日付）

「河川敷投棄反対 田子浦へドロ 富士市民協決める」〔富士川河川敷投棄〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年11月5日付）

「図書整備に百二十万円寄贈 大石寺、市病へ」〔富士宮市立病院〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年11月5日付）

「農業用水か観光資源か 音止め滝暖水に“待った” かんがい用工事を延期」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年11月6日付）

「法廷に出るへドロ公害 県と企業の責任衝く 全国で初の公害住民訴訟」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年11月8日付）

「事業費増額を陳情 潤井川治水期成同盟」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年11月8日付）

「園児の病気調査 公害に取り組む保母さん」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年11月8日付）

「火電見学も実施 東電 秋のサービス週間行事」（『岳南朝日』1970年＝昭和45年11月8日付）

「“青い空と海を返せ”……四県民が公害追放集会 15日に田子の浦港ふ頭で」〔へドロ公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45年11月10日付）

「全般に数値下る 十月の大気汚染状況」〔公害〕（『岳南朝日』1970年＝昭和45

年 11 月 10 日付)

「廃棄物の監視強化 公衆衛生協会」〔公害〕〔産廃〕（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月10日付)

「採卵たけなわ 富士養そん場 好況で注文殺到」〔富士養鱒場〕（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月12日付)

「消える松の巨木 郷土史の“証人”すらも 高齢化やムシの被害」（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月12日付) ▼▼

「きょう公害追放集会 田子の浦港 五千人集めて」〔ヘドロ公害〕（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月15日付)

「晩秋の山あるき 変化に富む十里木 新五合目の帰りコース」（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月15日付)

「登山ルート全面交通止め 積雪でスリップの危険」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月17日付)

「四県民が手を結ぶ 公害追放大集会開く」〔田子の浦港〕〔ヘドロ公害〕（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月17日付)

「自家処理決める 岳排一号幹線利用企業」〔岳南排水路建設協力会〕〔田子の浦港〕〔ヘドロ公害〕（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月17日付)

「親と子の公害意識調査『がまんできぬ』が圧倒的 国や県の対策に不信感 教祖富士支部」（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月19日付)

「前途多難な河川敷投棄 富士 住民、市へ押しかける 市長委交、物わかれ」〔富士川河川敷投棄〕（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月20日付)

「国・県・市 三者で協議機関を 大沢砂防指定地周辺 乱開発防止図る」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月20日付)

「富士宮駅にコインロッカー」（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月20日付)

「水質に厳しい措置必要 小野薬品新工場進出 公害対策で近く結論」（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月27日付)

「公害対策審は来月二日に」（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月27日付)

「冬山対策を協議 遭難事故防止中心に」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会〕（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月27日付)

「半数企業が不合格 富士地区 汚染防止の改善計画」〔ヘドロ公害〕（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月28日付)

「除雪車が初出動 富士山は冬の装おい」（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月29日付「グラフニュース」)

「百年ぶりの鐘の音が……久遠寺に完成」（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月29日付「グラフニュース」)

「プモ・リ登山許可される“さあ、いよいよ挑戦” 富士に宮山岳会に朗報 来年三月に出発 めざすはヒマラヤ連峰」（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月28日付)

「ねらわれる富士山ろく 土地取得目あてに警告 富士観が生きた教訓」〔富士観光〕〔柔道体育大学〕（『岳南朝日』1970年=昭和45年11月29日付)

「廃液を共同処理 メッキ工場 県下で初のケースに」〔岳南メッキ工業協同組合〕〔公

害) (『岳南朝日』1970年=昭和45年12月2日付)

「栗倉、村山の生活調査 不完全な環境衛生 東部普及所で改善対策」(『岳南朝日』1970年=昭和45年12月2日付) ▼▼

「きびしい態度で臨め 小野薬品進出問題 公対審が意見具申」(『岳南朝日』1970年=昭和45年12月4日付)

「複線化に赤信号 富士宮分は来春開通」〔身延線〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年12月4日付)

「年末年始に山中巡視 遭対協が冬山対策」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年12月5日付)

「月の輪遺跡を発掘 市教委が第三次調査」(『岳南朝日』1970年=昭和45年12月5日付)

「砂防指定地を不法分譲 業者ら五人書類送検」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年12月6日付)

「私の発言 富士山を汚染するな 勝田生」〔読者投稿〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年12月6日付)

「“たれ流し中止させよ” 岳排問題で当局追及 下岡氏 小野薬品進出は防止せよ 佐野信氏ら質問」〔富士宮市議会〕〔岳南排水路たれ流し〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年12月10日付)

「ユースホステル ふもとの家が発足 こんごは施設の拡充」〔龍武一郎〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年12月12日付)

「半世紀みつめた富士山頂 世に問う水墨画 渡辺氏が東京で富岳展」〔渡辺英一〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年12月20日付)

「へドロ公害 終末処理場に決まったが市財政圧迫する負担金 富士宮市だけで二億円?」〔田子の浦港〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年12月22日付)

「地元、県と話し合いへ へドロの河川敷投棄 いぜん強い反対」〔富士川河川敷投棄〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年12月23日付)

「この一年(2) '70年のハイライト へドロ公害に怒り爆発 日本ジャンボリー開かれる」(『岳南朝日』1970年=昭和45年12月26日付)

「この一年(3) '70年のハイライト 議会、告発であげくれ 二転三転のへドロ処理」(『岳南朝日』1970年=昭和45年12月27日付)

「たった15分で物別れ 河川敷へドロ投棄 住民、強く県に反発」〔富士川河川敷投棄〕(『岳南朝日』1970年=昭和45年12月28日付)

## ■ 1971年=昭和46年

「順調に工事進む 大沢下流の床固め工」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年1月7日付)

「市内で買物させて 商店街と学会が懇談」〔創価学会〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年1月7日付)



「激動下の登山綴る めずらしい新聞切抜き帳 市職員が大掃除で発見」〔富士宮市商工観光課〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月7日付） ←2012年＝平成24年5月に富士宮市立図書館を通じて確認してもらったところ行方不明という回答

「富士宮地区タクシー組合」〔年賀広告〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月7日付）

「市が広見に 畜産団地、きょう起工 23万羽養鶏を収容 悪臭公害解消へ一歩」〔畜産公害〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月8日付）

「県が企業を通じて調査 産業廃棄物処理 富士宮地区は73事業所に」〔産廃〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月8日付）

「市、小野薬品で方針固める 進出に七つの条件提示 土地利用対策委が煮詰め 近く県と事前協議」〔公害〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月9日付）

「土器を返して！ 月の輪遺跡で盗まれる」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月9日付）

「危険迫る水源地汚染 都市化で“聖域”なし 保健所が一斉衛生検査」〔公害〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月10日付）

「努力賞 富士山五合へ 黒田小三年 米山あけみ（つづく）」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月10日「第11回岳南朝日作文コンクール入選作品」）

「県の責任範囲で処理 竹山氏 大企業奉仕の失政 松本氏 立会演説会に五百人 公害で対決浮彫り」〔県知事選〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月12日付）

「努力賞 富士山五合へ 黒田小三年 米山あけみ（おわり）」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月12日「第11回岳南朝日作文コンクール入選作品」）

「土器が返ってきた！ 他のツボ二つ分も 盗まれた月に輪遺跡の出土品」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月12日付）

「ドーナツ化する大気汚染 富士宮も農村部に拡大 高煙突の影響現われる」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月13日付）

「懇談会を定期化 創価学会と地元商業者」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月15日付）

「きょう第一回口頭弁論 田子浦港へドロ裁判」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月16日付）

「行方不明の二人も遺体で 精進湖スケート遭難 悲嘆の森さん家族」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月19日付）

「関東との文化交流も 月の輪遺跡の調査終わる 50軒の住居跡を発掘」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月19日付）

「富士ゼンソク児に福音 条例を可決」〔公害〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月19日付）

「カゲひそめた火電問題 選挙後に再び表面化？ 県、東電の方針変らず」〔東電富士川火力発電所〕〔県知事選〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月22日付）

「魚の生息、上流でやっと 汚濁限界の市域潤井川 市の水質検査結果 主要原因は工場排水」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年1月23日付）

「駐車場工事に着手 白糸滝 つり橋架設も計画」〔白糸の滝〕（『岳南朝日』1971

年＝昭和 46 年 1 月 24 日付)

「ただいま“神仏不在”です 無住寺やお宮続出 都市化でさびれる一方」(『岳南朝日』  
1 9 7 1 年＝昭和 46 年 1 月 29 日付)

「ジャンボリーに富士登山 外国スカウト二千」〔世界ジャンボリー〕(『岳南朝日』  
1 9 7 1 年＝昭和 46 年 2 月 2 日付)

「富士市を指定 厚生省 公害防止策定地域に」(『岳南朝日』1 9 7 1 年＝昭和 46 年 2  
月 6 日付)

「世界の桜名所に 大石寺 十万六千本植樹へ」(『岳南朝日』1 9 7 1 年＝昭和 46  
年 2 月 7 日付)

「“石の博物館”建設 あじろ木教苑 世界の奇石集め」〔奇石博物館〕(『岳南朝日』  
1 9 7 1 年＝昭和 46 年 2 月 7 日付)

「富士観に法的措置 西麓特別委員が決める」〔富士観光〕(『岳南朝日』1 9 7 1 年＝  
昭和 46 年 2 月 10 日付)

「創価学会入門 聖教新聞社」〔広告〕(『岳南朝日』1 9 7 1 年＝昭和 46 年 2 月 10 日  
付)

「一斉休業で対策検討 黒チリ工場 迫られる汚水処理」〔静岡県製紙組合黒チリ部会〕  
(『岳南朝日』1 9 7 1 年＝昭和 46 年 2 月 12 日付)

「清流の川を返せ 公害に奪われた田中用水 遠藤岳水」(『岳南朝日』1 9 7 1 年＝昭  
和 46 年 2 月 12 日「私の発言」)

「ふもとの家ユースホテル 正式にスタート」〔龍ひろ子〕(『岳南朝日』1 9 7 1 年  
＝昭和 46 年 2 月 12 日付)

「ヘドロ投棄処理大詰め 八地区が条件付で認む 追い込まれた反対同盟」〔富士川河川  
敷投棄〕(『岳南朝日』1 9 7 1 年＝昭和 46 年 2 月 13 日付) ▼▼

「計画一年次繰上げ 上水道拡張 水源に初めて表流水」〔北山用水〕〔地下水〕(『岳  
南朝日』1 9 7 1 年＝昭和 46 年 2 月 13 日付)

「総門や宿坊建立 大石寺 総合整備計画の一環」(『岳南朝日』1 9 7 1 年＝昭和 46  
年 2 月 14 日付)

「富士宮駅にこ線橋 複線化で構内整備」〔身延線〕〔団体ホーム〕(『岳南朝日』1 9  
7 1 年＝昭和 46 年 2 月 16 日付)

「大気、水質汚染の排除へ テレメーター一台追加など 市の明年度公害対策事業」(『岳  
南朝日』1 9 7 1 年＝昭和 46 年 2 月 17 日付)

「緒につく排水処理施設 問題は企業側の“やる気”SS除去に成功した例も」〔ヘドロ  
公害〕(『岳南朝日』1 9 7 1 年＝昭和 46 年 2 月 18 日付)

「佐藤宮司に『長老』の称号 神社本庁が授与」〔浅間大社〕〔佐藤東〕(『岳南朝日』  
1 9 7 1 年＝昭和 46 年 2 月 18 日付)

「田貫湖野営場充実 さん橋や監視塔新設」(『岳南朝日』1 9 7 1 年＝昭和 46 年 2 月  
19 日付)

「登山道沿線にサクラの植樹」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1 9 7 1 年＝昭和 46 年 2  
月 19 日付)

「生きているカツギ屋さん 時勢は変わっても……交通難の甲州路へ 63 人が組合作って

足腰は若者以上の力」〔西富士宮駅モード〕〔身延線利用組合〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年2月21日付）

「ヘドロ投棄解決 地元住民と調印式」〔富士川河川敷投棄〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年2月27日付）

「四月中旬に出発 観光キャラバンの派遣」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月4日付）

「プモ・リ登山隊元気に出発」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月4日付）

「駅前鳥居の撤去を 富士宮署 浅間神社に申入れ」〔大鳥居〕〔駅前整備〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月6日付）

「富士砂防工事が核心へ 五億円の予算を要求」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月6日付）

「北高郷研 身延民俗調査を集約 年中行事や講に特色 富士川流域調査の副産物」〔富士宮北高郷土研究部〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月7日付）

「偽装倒産だと大昭和に抗議 日本製紙労組」〔公害倒産〕〔大昭和製紙〕（『岳南朝日』和46年3月7日付）

「公害企業労働者の手記①森井迪」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月12日付）

「公害企業労働者の手記②森井迪」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月13日付）

「久遠寺川を県管理に移す」〔二級河川〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月13日付）

「公害企業労働者の手記③森井迪」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月14日付）

「18日は星山観音祭典 大画像も展示」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月14日付）

「公害企業労働者の手記④森井迪」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月16日付）

「市史（上巻）六月刊行 予約受付か始める」〔富士宮市史〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月16日付）

「駅前鳥居撤去困る 浅間神社 富士宮署へ回答」〔大鳥居〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月18日付）

「ジャンボリー期間締出し？ 夏の田貫湖キャンプ場」〔世界ジャンボリー〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月18日付）

「公害企業労働者の手記⑤森井迪」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月18日付）

「乱開発の引金を警戒 山ろくの水ガメA沢貯水池 近く管理運営協を発足」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月19日付）

「条件付きで貸与認める キャンプ運営委」〔田貫湖〕〔世界ジャンボリー〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月19日付）

「公害企業労働者の手記⑥森井迪」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月19日付）

「公害企業労働者の手記⑦森井迪」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月20日付）

「公害企業労働者の手記⑧森井迪」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月21日付）

「公害企業労働者の手記⑨森井迪」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月23日付）

「死んだ牛捨てる あきれた酪農家に警告」〔斃獣処理法違反〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月23日付）

「メッキ工場の公害なくす 共同処理施設が完成 県下で初めて きょう試運転公開」〔排水処理〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月25日付）

「公害企業労働者の手記⑩森井迪（）おわり」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月25日付）

「潤井川水系十社に 市、処理計画提出求める」〔公害〕〔排水処理〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月25日付）

「五三〇に出来る 星山放水路 着工からまる一年」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月25日付）

「半年ぶりに再開 一市四町 火電建設反対運動」〔富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月28日付）

「池田大作 小説人間革命 聖教新聞社」〔広告〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年3月28日付）

「きょう初の一斉休業 富士地区製紙工場“公害のない日”に」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月4日付）

「お山にも値上げの波 宿泊、飲食代軒なみ 夏の富士山物価決る」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月8日付） ▼▼

「登山客の誘致へ キャラバン、12日出発」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月10日付）

「スカイラインコースで実施 芝川町歩け歩け運動」〔芝川スカイライン〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月11日付）

「ユメかうつつか 朝霧に自然公園 外国資本が市へ計画書」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月14日付）

「天母山大もて 春の遠足に」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月14日付）

「富士山にキャンプ場 7月オープンめざす 林野庁が6番の原生林に計画」〔グリーンキャンプ場〕〔静岡営林署〕〔六番官舎〕〔自然休養林〕〔西臼塚駐車場〕〔高鉢レストハウス〕〔新五合目売店〕〔二合目湧水〕〔スカイライン〕〔ピカ表富士〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月16日付）

「田子浦港 深刻な事態に きょうも高波で中止 ヘドロ投棄」〔富士川河川敷投棄〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月18日付）

「産業廃棄物チームが初会合」〔産廃〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月18日付）

「“1回でコリゴリや…” 不評広がる表富士周遊道 原因は狭い駐車場 現状では観光客がソッポ キャラバン隊叱られる」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月20日付）

「あす“本番”ヘドロ投棄」〔田子の浦港〕〔富士川河川敷投棄〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月20日付）

「産業廃棄物対策に本腰 市で近く企業の実態調査 プロジェクトチーム五月末までに結論」〔産廃〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月21日付）

「人気呼ぶ山荘 洋服店の厚生施設一般にも開放 昨年は一千人が利用」〔ダルマ会〕〔十里木山荘〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月21日付）

「五合目に『中宮』浅間神社が造営計画」〔浅間大社中宮〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月21日付）

《五合目に『中宮』浅間神社が造営計画

富士宮浅間神社は富士山五合目に末社の「中宮」を造営する計画をすすめていたが、五月から六月同神社を参拝した人たちから署名を集め、林野庁に建設許可を陳情することになった。

計画によると五合目のレストハウス上方の約三百三十平方メートルの敷地に百平方メートルのお宮を建て、頂上奥の宮に登拝できない人に四季を通じて参拝してもらおうというもの。》（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月21日付）

「新五合目駐車場増設を 富士地区観光協 県観光総会へ要望」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月21日付）

「ヘドロ公害で伸び率減少 富士宮電力需要」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月21日付）

「北部地区メーデー決る 地域スローガンに火電阻止 28団体三千人が参加して」〔東電富士川火力発電所〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月22日付）

「初日は三百台 表富士周遊道オープン」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月22日付）

「すすむ潤井川の汚濁 富士宮水域 弓沢合流地点は“死の川” 上流部もぎりぎりの状態 元凶は工場排水 日量六万トンたれ流し」〔公害〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月27日付）

「雨に流れた行楽 黄金週間初日 マイカーもまぼらの白糸滝 登山ルート雪で通行禁止」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年4月30日付）

「富士宮－富士根間 部分運転開始 すすむ複線化工事 身延線」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月1日付）

「表富士周遊登山ルート開通」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月2日付）

「黄金連休 縁日のような滝つぼ」〔白糸の滝〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月4日付）

「登山客が遭難」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月4日付） ▼▼

「団体列車が東北から 乗入れ 富士宮駅へ」〔創価学会〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月4日付）

「きょうからやぶさめ祭 練行、ついに徒歩で」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月4日付）

「ほぼ延長認める ヘドロの河川敷投棄」〔富士川河川敷投棄〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月7日付）

「学童むしばむ富士ぜん息 汚染地区は治りが悪い 千葉大医学部 前年度の調査概要」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月11日付）

「今夏、奥の宮大修理 登山最盛期に万全施工」〔浅間大社〕〔奥宮〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月12日付）

「過そ地域健康相談に七百人 西富士開拓 成人病の不安示す」〔過疎地健康相談〕（『岳

南朝日』1971年＝昭和46年5月12日付)

「ガイドブック創価学会 聖教新聞社」〔広告〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月12日付、6月10日付、8月26日付)

「低硫黄化の効果如実 富士宮市 大気汚染、全般に漸減 季節的な上積み監視」〔公害〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月14日付)

「学会輸送四％へる 富士宮駅は五千万円の収入減」〔創価学会〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月14日付)

「小野薬品の進出認める 市『阻む理由がない』と」〔公害〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月18日付)

「登山バス発着所で対立 山室や商店こぞって反対 浅間神社も」〔駅前発着〕〔富士急行〕〔浅間大社〕〔山中休泊所組合〕〔富士宮市観光協会〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月18日付) ▼▼

「プモ・リ登頂ついに断念 ベースキャンプを撤収 望月隊長から通信 松村隊員の発病で 人命尊重の措置 山川事務局長『登頂への足がかり』」(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月19日付)

「巨木に包まれた神殿 山ろくの天照教訪ねる 広大な桜の園 だいが味は雄大な眺望」〔赤石山脈の眺望〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月20日付)

「新県議に望む(4) ヘドロ処理 ふつうなら破産 勝田氏 再検討も考えよ」(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月21日付)

「夏山富士ヘダッシュ 来月、受入対策打合せ」〔富士宮市観光協会〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月23日付)

「“公害防止施設負担が圧迫” 八重洲製紙が工場閉鎖」〔八重洲製紙〕〔公害倒産〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月23日付)

「きょうから特訓 世界ジャンボリーに婦人会が踊り」(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月23日付)

「私の発言 小野薬品の進出について 松浦克己」〔公害〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月23日付)

「今夏から本格着工 富士山頂測候所改築」〔ヘリコプター〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月23日付)

「砂防堤工事など四億五千万円 大沢対策に予算化」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月26日付)

「琵琶湖の友招く ことしも夏休みに交歓」〔近江八幡市〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月26日付)

「プモ・リから帰る 望月隊長らひと足早く“40万円登山”を立証 時機を見て再挑戦も 松村隊員も元気に 十隊員は六月中旬帰国」(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月28日付)

「富士宮市議会 負担金で論議再燃か 市財政の圧迫は必至 当初予算の割に相当」〔岳南排水路終末処理場〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月29日付)

「私費負担に反対 共産党、市長に申入れ」〔岳南排水路終末処理場〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月29日付)

「負担金を了承 富士市全協」〔岳南排水路終末処理場〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月29日付）

「一株株主の発言封ず 大昭和製紙 怒号の中の株主総会」〔日本製紙〕〔公害倒産〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月29日付）

「『継続調査望ましい 富士区は軽度汚染地区』吉田千葉大教授語る」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月29日付）

「失敗したヘドロ処理 河川敷投棄 計画の三分の一で終る 11万トンに八億二千万円」〔富士川河川敷投棄〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月30日付）

「地域指定に動く 自主規制協議会結成へ 地下水条例」〔地下水採取適正化条例〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月30日付）

「夏山電話設置で打ち合せ」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年5月30日付）

「工場排水規制まで一か月 立入調査で施設を督促 市公害対策課 三分の二がまだ計画中」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月1日付）

「政治的解決を要望 新五合駐車場拡張で 観光専門委」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月3日付）▼▼

「田貫湖の園地整備計画決る 栈橋二本新設」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月3日付）

「富士川火力に再び関心 視察招待でムード作り？ 東京電力」〔東電富士川火力発電所〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月6日付）

「財政、技術上に不安残る 無条件追随はしない 山川市長 岳排終末場問題で語る」〔岳南排水路終末処理場〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月8日付）

「駅前改造を縮小 線上駅化含め練直す」〔駅前整備〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月8日付）

「くらしに生きる時鐘 一日も欠かさず30年間 天母山道場に市が感謝状」〔法華道場〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月10日付）

「市民協も反対申入れ 岳排終末処理場計画」〔岳南排水路終末処理場〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月10日付）

「浮遊粉じんの測定調査」〔厚生省〕〔公害〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月10日付）

「百三十台分を拡張 新五合目駐車対策 渋滞防止に規制も」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月10日付）

「木曜特集 公害に取り組む保母さんたち」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月10日付）

「上野区 米作農業なお健在 “別世界”の大石寺」〔上野村〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月10日「東西南北」）

「大沢を現地踏査 建設省の砂防関係者」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月11日付）

「道沿いに紙の山 富士宮市 非常識な業者に抗議」〔産廃〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月11日付）

「今夏、銀明館が営業休止」〔渡辺英一〕〔測候所工事〕（『岳南朝日』1971年＝昭和

和 46 年 6 月 11 日付)

「どうなる終末処理場 岳南排水路 態度迫られる市当局 企業側は計画を了承」 (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 12 日付)

「監視員制度を提案 富士宮環自協 不法投棄の防止で」 [産廃] [富士宮市環境衛生自治推進協議会] (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 12 日付)

「山岳遭難対策で協議会」 (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 12 日付)

「大気汚染が急上昇 五月の測定結果 市役所は基準スレスレ 南風が運ぶ亜硫酸ガス」 [公害] (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 13 日付)

「大もて表周遊道 シーズンオフを知らず」 [スカイライン] (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 13 日付)

「ねらわれる周遊道沿線 植木ドロ締め出す パトロールを強化して」 [盗掘] (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 13 日付)

「低硫黄重油供給条件に 東電火力の建設促進を 富士・富士宮 産業界が申し入れる」 [東電富士川火力発電所] [静岡県東部電力協議会] (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 15 日付)

「万野風穴に危険信号 炭酸ガスが充満 松明で生物も死滅 津屋教授ら保護訴える 早急に管理保護を…」 [津屋弘達] (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 16 日付)

「ジャンボリー探査に反対 朝霧三ツ池穴」 (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 16 日付)

「市の協力求める 岳排処理場 苦悩の中小企業」 [岳南排水路終末処理場] (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 16 日付)

「乱掘で寿命縮める“水の都” 水源でも水枯れ現象が 自家用井戸も姿消す 養そん業者も移転 元凶は工業用汲上げ？」 [地下水] [養鱒場] (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 17 日「木曜特集」) ←一部▼▼

「行楽特集 富士山へかけ上る表富士周遊道」 [スカイライン] (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 17 日付)

「行楽特集 にぎわう田貫湖 ヘラブナ」 (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 17 日付)

「軽装登山お断り 山岳遭難対策決まる」 (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 18 日付)

「駅長とも会談 南口開設期成同盟会」 [富士宮駅南口開設期成同盟会] [身延線] (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 18 日付)

「関東キャラバン出発近づく 関東方面へ」 (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 18 日付)

「あす、市議会全協開催 岳排処理場と駅前問題 活発な論議を展開か」 [岳南排水路終末処理場] [駅前整備] (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 20 日付)

「登山バス発覚は従来通り 富士急側折れる」 (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 20 日付)

「三兆観測所の起工奉告祭」 (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 20 日付)

「夏山電話と郵便局決る」 (『岳南朝日』 1971 年=昭和 46 年 6 月 20 日付)



「夏山へダッシュ 金剛ヅエ作り盛ん」〔金剛杖〕〔柴田木材〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月20日「グラフニュース」）

「北高郷研 富士川流域民俗調査 甲駿の交流を記録 今夏でピリオド、集約化へ」〔富士宮北高郷土研究部〕〔北原正道〕〔山田広道〕〔小林達〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月20日付）

「山室業者が清掃を強化」〔山室ゴミ〕〔奥宮境内地組合〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月20日付）

「都市再開発法で練直し 駅前改造問題方向付け 全員協議会」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月22日付）

「お山を美しく 境内地組合が清掃に一役」〔奥宮境内地組合〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月22日付）

「教師の見学やめよ 静教組支部 姉ヶ先招待で申入れ」〔東電富士川火力発電所〕〔静岡県教組〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月22日付）

「市議会は結論を保留 “財政負担の軽減図れ” 岳排終末処理場問題 全員協議会」〔岳南排水路終末処理場〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月23日付）

「教師の見学は遠慮 教委 姉ヶ崎招待を中止」〔東電富士川火力発電所〕〔静岡県教組〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月23日付）

「崩壊部で初テスト行う 大沢の砂防工事 八月にクラウド注入」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月23日付）

「松明の使用を厳禁 万野風穴で教委決める」〔富士山溶岩洞穴研究会〕〔津屋弘達〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月24日付）

「開山準備が整う 富士宮口 登山客迎えるばかり」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月25日付）

「市内全校を開放 ジャンボリー見学スカウト宿泊」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月25日付）

「“水の都”これではピンチ 日量90万トンを汲上げ 地下水枯渇にも影響？ 市も早急に科学調査」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月26日付）

「交通規制で緩和 今夏の新五合駐車対策」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月26日付）

「あす夏山開き 受入れ体制もOK」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月30日付）

「八月オープンめざす グリーンキャンプ場 一合目に建設着手」〔自然休養林〕〔静岡営林署〕〔六番官舎〕〔林野庁弘済会〕〔ピカ表富士〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月30日付） ▼▼

「廃水処理などまだ不完全 畜舎監視」〔畜産公害〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年6月30日付）

「随想 鉄道馬車 寺田理平」〔富士軌道〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月3日付）

「随想 鉄道馬車 寺田理平」〔富士軌道〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月4日付）←この2本の記事については「別当さんまだ健在」（7月22日付「木曜特集」）が言及しているが、7月1日付～5日付の原紙が欠落しており見つからず

「10日から通話開始 山頂電話加入は23か所」(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月6日付)

「表富士周遊道路で事故」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月6日付)

「身延線 新型急行乗入れ 万博輸送に活躍の12型」(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月7日付)

「きょうお田植祭 秋の豊作を祈って」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月7日付)

「48事業所が加入 地下水利用対策協へ」〔岳南地域地下水利用対策協議会〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月7日付)

「新駅前改造で初の説明 基本計画の調査を提案 地元は再度話し合いもつ」〔駅前整備〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月8日付)

「東高で富士登山 農高生も有志が参加」〔富士宮東高〕〔富士宮農高〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月8日付)

「うなばら号運転 沼津-甲府間 海水浴客輸送に」〔身延線〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月8日付)

「雨で稚児行列など中止 お田植え祭」〔お田植祭〕〔浅間大社〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月8日付)

「動き出す新都市計法」〔岳南都市計画区域〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月8日付「木曜特集」)

「区めぐり 粟倉 みぞ柿特産化の夢 広大な土地に七部落」〔四ツ溝柿〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月8日「東西南北」) ▼▼

「区めぐり 杉田 市境の茶の里 親しみ深い二つの社寺」〔安養寺〕〔子安神社〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月8日「東西南北」) ▼▼

「70年間、ご苦労さん 白糸小 気象観測に終止符 初期の目的を果す 高等農業学園パトタッチ」〔静岡気象台白糸観測所〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月9日付)

←「木曜特集 感嘆、70年の記録」(7月22日付)に関連記事あり

「合格は二工場だけ 大手の水質基準」〔田子の浦港水域暫定基準〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月9日付)

「31日に開設式 グリーンキャンプ場」〔ピカ表富士〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月10日付)

「世界ジャンボリー迎える大会 あす一千人が参加して ボーイスカウト」(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月10日付)

「水不足が心配 今夏の富士山頂」〔奥宮〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月10日付)

「第一次線引き県案公表 市街地は一〇五〇~~㌔~~」〔岳南都市計画区域〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月11日付)

「活気づく富士山頂 奥の宮へモシモシ」〔奥宮〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月11日付)

「潤井川治水期成同盟の総会」(『岳南朝日』1971年=昭和46年7月11日付)

「軒なみ上回る数値 市役所周辺 高濃度を出現 亜硫酸ガス」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月11日付）

「乗客減り、収入増加 万博で一と息 身延線の各駅」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月11日付）

「二中一年生が宝永山ハイク」〔富士宮市二中〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月11日付）

「農民に線引きショック“過疎引替え”に不安の声 市街化内にも問題が」〔岳南都市計画区域〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月15日付）

「説明会にソッポ 岳排終末処理場 建設予定地の住民」〔岳南排水路終末処理場〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月15日付）

「ブロック別の説明会へ 駅前改造問題」〔駅前整備〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月15日付）

「7月20日新装開店 富士山と牝牛と草原料理 まかいの牧場」〔広告〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月16日付）

「都計審、県案を受け入れ 市街化に万野を追加編入」〔岳南都市計画区域〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月18日付）

「開山初の人出か きょうの日曜日 富士にも“農協”目立つ」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月18日付）

「呼吸器疾患継続して調査 大気汚染との関連追究 医師会」〔富士宮医師会〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月18日付）

「“千客万来”の夏 杉田のふもとの家」〔ユースホステル〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月18日付）

「お山をきれいに 婦人会が“清掃作戦”」〔富士宮主婦連〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月18日付「グラフニュース」）

「ジャンボリーまであと20日 歓迎集会で盛り上げ」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月18日付「グラフニュース」）

「今月末から地域説明会 線引き県案に意見聴取」〔岳南都市計画区域〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月21日付）

「木曜特集 別当さん（軌道馬車）まだ健在！（上井出の田中さん）夏は6回往復 鉢合せ…ドッコイショ 発車の合図は鈴の音で 震災復興材運ぶ 自動車時代で姿消す」〔富士軌道〕〔田中清治〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月22日付）←この記事「本紙七月三、四日付の随想に寺田理平氏の『軌道馬車』が掲載された」から始まるが、すでに述べたように掲載紙は欠落、「続・軌道馬車」（9月4日付）は後出のように残っている

「感嘆、70年の記録 役目終えた白糸観測所」〔静岡气象台白糸観測所〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月22日「木曜特集」）←「70年間、ご苦労さん 白糸小」（7月9日付）参照

「随想 身延線今昔物語 寺田理平」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月23日付）

「公害防止施設を見学 県中小企業会」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月23日付）

「崩壊部施工の予備試験 大沢くずれ砂防工事 近く大滝地点で」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月24日付）

「御弊担ぎ富士登山 県大工組合 職人の意気込み示す」〔変わり種登山〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月26日付）

「迷惑料で一七五〇万円 契約不履行の土地会社 財産区へ“寄付”」〔多摩開発〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月27日付）

「施設改善を勧告 へい獣処理実態調査 保健所」〔斃獣〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月27日付）

「“皆さんようこそ” 近江八幡からお客さん」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月27日付）

「外人登山者山頂で凍死」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月27日付） ▼▼

「富士観の訴訟を議決 宝山問題 管財人（笹川氏）は右翼の大物 市議会 弁護団の強化を要望」〔富士観光〕〔笹川陽平〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月28日付）

「不備めだつ浮遊物処理 半数以上の紙パが失格 基準の16倍のたれ流しも 市が立入り検査」〔田子の浦港水域暫定基準〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月31日付）

「登山道で二人死傷 競輪選手の車が暴走」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年7月31日付）

「悲しみと怒りの町・富士 一瞬、一二五人の犠牲者 全日空遭難事故」〔吉原遺族会〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月1日付）

「世界ジャンボリーあす開幕 再び朝霧に友情の花」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月1日付）

「雨に叩かれたジャンボリー 一万四千人が緊急避難 強風と豪雨の二昼夜」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月7日付）

「きょうのジャンボリー行事 中止の公算大」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月7日付）

「富士山頂も大荒れ 台風19号 瞬間最大55<sup>mm</sup>記録」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月7日付）

「振り回された支援本部 きょう避難先から撤収 大会運営 徹底欠いた命令系統 外国スカウト七夕の町にどっと ハプニング国際親善」〔世界ジャンボリー〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月8日付）

「週末の新五合目 台風一過でにぎわう」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月8日付）

「各測点で高濃度汚染 七月の測定結果」〔富士宮市公害対策課〕〔亜硫酸ガス〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月8日付）

「伐り出し（1）回想の材木運搬 寺田理平」『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月8日付）

「バスの乗客ら余人けが 乗用車が衝突」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月8日付）

「富士宮地区タクシー組合」〔暑中見舞い広告〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月8日付）

月 8 日付)

「きょう大会の幕閉じる 世界ジャンボリー 友情と思い出胸に“脱線スカウト”横行 一部市民の行為にも非難」(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月10日付)

「富士山頂より暑中御見舞申し上げます 頂上富士館 宮崎ふとん店」〔広告〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月10日付、8月13日付)

「伐り出し(2) 素ぼくな山男たち 寺田理平」『岳南朝日』1971年=昭和46年8月8日付)

「四年後の再会を約して 世界ジャンボリー 朝霧の灯消える ストップウォッチ五個消える 避難先の貴船小から」(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月11日付)

「ジャンボリー終る “三年の苦労”に疲れも」(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月12日付)

「私の発言 公害発生企業を取締れ 一商店主」(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月12日付)

「登山も下火に 婦人会の湯茶接待所も閉鎖」(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月12日付)

「田子の浦は“横網格”水質汚濁検査」〔田子の浦港〕〔環境庁〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年

8月13日付)

「小野薬品の進出本決り 県が企業立地を承認 公害防止協定など条件に」(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月18日付)

「三井不動産も動く 大石寺はゴルフ場計画」(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月18日付)

「登山者は20%増 予測外れのBS登山」〔ジャンボリー〕〔鶴巻一郎〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月19日付)

「木曜特集 記者座談会 ジャンボリーが残したもの」(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月19日付)

「竹山知事、富士宮で語る 東電火力建設はばかす 広域市町村圏は来年設定」〔東電富士川火力発電所〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月20日付)

「“無キズ”の食品衛生 世界ジャンボリー 厳しい監視で成功」(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月20日付)

「富士山頂より残暑御見舞申し上げます 頂上富士館 宮崎ふとん店」〔広告〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月20日付)

「東海自然歩道、近く着工 富士宮分のコース本決り 根原県境から天子ヶ岳へ 県のモデルコースに」(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月21日付)

「公害病認定地区に 富士市を来年早々指定」(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月21日付)

「夏富士も終りに 頂上電話・郵便局が店閉い 意外に多い高山病患者」〔衛生センター〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月21日付)

「終末処理場建設協を創立 製紙汚水の浄化図る」〔浮島終末処理場建設協議会〕〔へドロ公害〕〔岳南排水路〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年8月22日付)

「創価学会が花火大会」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月22日付）

「波乱含む線引き説明会 質疑応答に怒号まじる 当局“地域責任”で調整化」〔岳南都市計画区域〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月24日付）

「富士ぜんそくが公害病指定 47年から適用の見通し」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月24日付）

「実施計画で聴取 富士宮市 フジヤマ工場建設 ドルショック含めて」〔小野薬品〕〔公害〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月25日付）

「私の発言 これで“たたき台”か 線引き第一次案の疑問 外神区一住民」〔岳南都市計画区域〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月25日付）

「百十九工場参加 終末処理場建設協が発足」〔浮島終末処理場建設協議会〕〔へドロ公害〕〔岳南排水路〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月25日付）

「建設現場から社員が転落死 正本堂建設現場」〔大石寺〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月26日付）

「清掃で夏山に別れ 青年ジャンボリーの一行」〔清掃登山〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月26日付）

「木曜特集 公害反対住民運動は定着したか いりまじる利害・打算」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月26日付）

「三日から待望の就航へ 駿河湾カーフェリー 富士山ろくと西伊豆が直結」〔駿河湾フェリー〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月27日付）

「ふえる遊覧する登山客 県外では関西が主力 富士宮口 観光協会がアンケート」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月28日付）

「駿河湾の海と空を守れ あす沿岸住民大会 大石環境長官に質問状」〔田子の浦へドロ公害〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月28日付）

「バス利用ガタ減り 自家用車やタクシーふえる ことしの夏山富士」〔スカイライン〕〔登山バス〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月28日付）

「ジャンボリーと夏山でガッポリ ホクホクの郵便局 切手収入だけで千七百万円」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年8月28日付）

「富士山頂奉仕者も下山」〔奥宮〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年9月1日付）

「約一千人が利用 海水浴電車『うなばら』号」〔身延線〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年9月1日付）

「敬遠された？表周遊道 乗入れ、一万台（前年比）減る 七、八月実績調査 駐車場難が響いたか」〔五合目駐車場〕〔スカイライン〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年9月2日付）

「夏山富士の閉山祭 浅間神社」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1971年＝昭和46年9月2日付）

「配石下から住居跡も 千居遺跡の発掘終る」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年9月3日付）

「五合目から男の白骨体」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年9月3日付）▼▼

「随想 続・軌道馬車 寺田理平」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年9月4日付）

「文化遺産を守ろう 小塚遺跡発掘を機に 斉藤静夫」（『岳南朝日』1971年＝昭和

46年9月5日付)

「特別史跡指定ほぼ確実 保存対策も近く決る」〔千居遺跡〕〔大石寺〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月5日付)

「亜硫酸ガス濃度が下降」(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月9日付)

「仮拝殿を来月中に移築 浅間神社」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月9日付)

「新五合ハイクバスを運転 富士急、休日に」〔紅葉バス〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月6日付)

「企業側が促進陳情 浮島終末処理場建設」〔浮島終末処理場建設協議会〕〔ヘドロ公害〕〔岳南排水路〕〔環境庁〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月10日付)

「密源確保にレンゲの種子 養蜂協が配る」〔静岡県養蜂協会〕〔ミツバチ〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月10日付)

「創価学会と接触へ 商連、振興策の一つに」〔富士宮商店街連盟〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月11日付)

「元吉原は大宮の2倍 富士ぜんそくの調査結果 大気汚染の影響裏付け」(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月12日付)

「追われる野鳥たち 限界越えた環境破壊 富士山 オオルリ コマドリ 滅亡寸前 ヒバリの生殖能力半減 乱開発、伐採やめろ」(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月16日付)

「“建設には実力阻止” 終末処理場反対同盟 九百人が抗議集会」〔岳南排水路浮島終末処理場建設反対同盟会〕〔ヘドロ公害〕〔大昭和製紙〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月18日付)

「問題はらむ山林投棄 製紙カス 二次公害発生の不安も きびしい監視望む声」〔ヘドロ公害〕〔産廃〕〔スラッジ〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月19日付)

「“自然破壊は許さぬ” 野鳥の会10周年大会」(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月19日付)

「民家に黒液の雨 大昭和製紙鈴川工場 蒸解のパイプ破裂」〔公害〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月24日付)

「山川市長、全員協議会で終末処理場建設賛成を打ち出す 議会側は結論を見送り」〔富士宮〕〔岳南排水路浮島終末処理場建設〕〔ヘドロ公害〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月28日付)

「工場取水に批判 議会 条例『権益保護では困る』」〔地下水〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月28日付)

「拝殿を火災から守る 浅間神社で着工」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月28日付)

「富士市本会議に五百人」〔岳南排水路終末処理場〕〔ヘドロ公害〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年9月28日付)

「木曜特集 大ゆれの岳排終末処理場建設 県、市は太鼓判を押すが…反対派比重占める 不安、疑問 住民不在—ヤグラ組んで阻止 “天下り決定” に反発 企業の悩み—ジレンマ ありあり 目前に迫る水質基準」〔岳南排水路終末処理場〕〔ヘドロ公害〕(『岳南朝日』

1971年＝昭和46年9月30日付)

「大沢崩れ防止あの手この手 砂防工事事務所 樹脂吹付テストも」(『岳南朝日』1971年＝昭和46年9月30日付)

「大混乱、本会議開けず 反対派住民すわりこみ 終末処理場建設流れる 富士市会」〔岳南排水路終末処理場〕〔ヘドロ公害〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年10月1日付)

「ライチョウ生存? 市の係員が似た鳥目撃 富士山新五合目付近」〔ハイマツ〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年10月1日付) ▼▼

「県、建設を一時見合す 市も分担金の修正削除 大もめの終末処理場問題」〔岳南排水路終末処理場〕〔ヘドロ公害〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年10月2日付)

「初期の目的果す 住民 ショック隠せず 企業」〔岳南排水路終末処理場〕〔ヘドロ公害〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年10月2日付)

「富士山が薄化粧 きのうち、」ぐんと冷え込む」(『岳南朝日』1971年＝昭和46年10月2日付)

「補正予算など可決、閉会 線引き市議会おわる 事後対処を要請 市長 処理場費撤回で答弁」〔岳南排水路終末処理場〕〔ヘドロ公害〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年10月8日付)

「飛び石伝いの布教? 興味ある資料まとまる 北高郷研 富士川流域調査」〔富士宮北高郷土史研究部〕〔日蓮宗〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年10月8日付)

「樹脂吹付け試験おわる コスト高など一長一短 大沢崩れ防止対策」(『岳南朝日』1971年＝昭和46年10月8日付)

「“犯人”は富士フィルム 市街地周辺の薬品臭」〔公害〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年10月8日付)

「登山ルート閉鎖 表富士周遊道に積雪」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年11月9日付)

「規制期限内の完成絶望 富士市も分担金外す 終末処理場建設費 14日、臨時会で再審議 追い込まれた中小企業」〔岳南排水路終末処理場〕〔ヘドロ公害〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年10月9日付)

「富士見平・上野・北山 三開拓農協が解散 有名無実にピリオド」(『岳南朝日』1971年＝昭和46年10月9日付)

「悪臭防止で申入れ 市、フィルムを立入調査」〔富士フィルム〕〔公害〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年10月10日付)

「“早急にアミから外せ”三区住民 地域指定廃止訴える」〔駅前整備〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年10月14日付)

「排水方法 20日まで結論延す 終末処理場建設協 住民説得は合意」〔岳南排水路終末処理場建設協議会〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年10月14日付)

「産業廃棄物対策方針決る 市と事業者が公社設立 短期計画 共同で埋立て処理」〔産廃〕(『岳南朝日』1971年＝昭和46年10月20日付)

「公害防止に管理者 明年度から設置義務付け」(『岳南朝日』1971年＝昭和46年10月20日付)

「黒田 倉庫という名の工場 違法建築で一年余操業 騒音公害で明るみに」〔静岡興業〕



(『岳南朝日』1971年=昭和46年10月26日付)

「きょうから国有林開放調査」〔富士山麓開発促進協議会〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年10月26日付)

「木曜特集 再燃したヘドロ陸上投棄計画 竹山知事が“電撃決定”降りかざした両断の剣 【ヘドロ】寝耳に水の地元・企業 市、企業に根強い県不信 【終末処理場】建設は絶望的に」(『岳南朝日』1971年=昭和46年10月28日付)

「富士フ、防止対策を回答 試運転期間の短縮考慮 フェノールガス公害問題」〔富士フィルム〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年10月29日付)

「終末処理場建設ご破産 知事、延長申入れ認めず 業界の陳情、物別れに 自家処理へ急展開か」(『岳南朝日』1971年=昭和46年10月30日付)

「自然を歩こう 富士宮で第一回走行テスト」〔ユースホテル協会〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年10月30日付)

「自己処理へUターンで 市が企業の考えを聞く 融資・技術面で助力」〔岳南排水路終末処理場〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年11月2日付)

「“誠意ない”と非難 試運転、市民知らされず 富士フのフェノール悪臭」〔富士フィルム〕〔公害〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年11月2日付)

「自己処理に新たな難問 どうする製紙カス対策 廃棄物計画の修正迫られる」〔岳南排水路終末処理場〕〔産廃〕〔スラッジ〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年11月4日付)

「試運転を中止 富士フィルム」〔公害〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年11月4日付)

「三区に対策委 駅前の地域指定廃止で」〔駅前整備〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年11月4日付)

「自己処理の決意固める スラッジは共同を望む 富士宮市の中小製紙企業」〔岳南排水路終末処理場〕〔産廃〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年11月7日付)

「新規採用とり止め 大昭和製紙も実施か」〔公害倒産〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年11月7日付)

「紅葉狩りも利用 グリーンキャンプ場店閉い」〔ピカ表富士〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年11月7日付)

「創立記念日に十里木強歩 富士宮北高」(『岳南朝日』1971年=昭和46年11月7日付)

「中小製紙の汚水処理対策 あすから本格的スタート 三班に分け施設指導」〔岳南排水路終末処理場〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年11月11日付)

「“対策なければ移転を”違法建築公害工場 住民が陳情」〔静岡興業〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年11月11日付)

「中心街に排気ガス公害? 夕方に高濃度が出現 宮町付近 望まれる本格的な測定 二師会で調査」〔富士宮薬業会〕〔富士宮薬剤師会〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年11月14日付)

「製紙カス、肥料に? 富士宮農高で実験進む」〔スラッジ〕(『岳南朝日』1971年=昭和46年11月14日付)

「公害に厳しい小さな目 行政の無策ぶり浮彫り 静教組支部が調査 70%が悪化を予測」 (『岳南朝日』1971年=昭和46年11月21日付)

「ヘドロ予算見送り? 田子の浦港 地元業界ソッポ」 [静岡県議会] (『岳南朝日』1971年=昭和46年11月21日付)

「砂防ダムを建設 大沢 中腹で測量始める」 [大沢崩れ] (『岳南朝日』1971年=昭和46年11月21日付)

「大石寺の御影堂修復完工」 (『岳南朝日』1971年=昭和46年11月21日付)

「迫られる自己処理」 [田子の浦港] [ヘドロ公害] (『岳南朝日』1971年=昭和46年12月1日付「カメラの目」)

「積雪で交通止め 表周遊道登山ルート」 [スカイライン] (『岳南朝日』1971年=昭和46年12月4日付)

「農家三むね全焼 村山 豚十頭も焼死」 [神戸広作] (『岳南朝日』1971年=昭和46年12月5日付)

「七日から最終テスト申入れ 富士フィルム」 [公害] (『岳南朝日』1971年=昭和46年12月5日付)

「川へたれ流し続く 水質調査結果 問題多い抜穴工場」 [製紙カス] (『岳南朝日』1971年=昭和46年12月10日付)

「毛無山で遭難騒ぎ 女性パーティー道に迷う」 (『岳南朝日』1971年=昭和46年12月14日付)

「五千万円の債権認めさす 富士観訴訟問題が和解」 [富士観光] (『岳南朝日』1971年=昭和46年12月16日付)

「冬山遭難防止で協議会」 [富士宮地区山岳遭難防止対策協議会] (『岳南朝日』1971年=昭和46年12月17日付)

「先月の亜硫酸ガス濃度」 [富士宮市公害対策課] (『岳南朝日』1971年=昭和46年12月17日付)

「天子ヶ岳に給水所 ハイカーのノド潤す ただしシーズンだけ」 (『岳南朝日』1971年=昭和46年12月17日付)

「焦点71 ニュースその後(上) 三度び動くヘドロ陸上投棄 【その1】 “四面楚歌” の製紙業界 むし返す『第1次処理失敗』 【その2】 問題はスラッジ処分 自己処理資金メドはついたが」 [スラッジ] (『岳南朝日』1971年=昭和46年12月17日付)

「東海初のスキー場 日帰りもOK 裾野に23日オープン」 [イエティ] (『岳南朝日』1971年=昭和46年12月17日付)

「吸着装置が完成 富士フィルムで公開」 [公害] (『岳南朝日』1971年=昭和46年12月24日付)

「どうなる製紙カス処理 キメ手をつかめず 用地、資金に問題横たわる」 [スラッジ] (『岳南朝日』1971年=昭和46年12月24日付)

「この一年(上) もたつくヘドロ投棄 矢継ぎ早やの選挙」 (『岳南朝日』1971年=昭和46年12月26日付)

「まず“広場”を買収 駅前問題 地元市案を説明」 [駅前整備] (『岳南朝日』1971年=昭和46年12月26日付)

「富士宮市史上巻が刊行」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年12月26日付）  
「この一年（中）悲惨、全日空機遭難 朝霧では世界ジャンボリー」（『岳南朝日』1971年＝昭和46年12月29日付）

## ■ 1972年＝昭和47年

「賀正 富士宮地区タクシー組合」〔広告〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年1月6日付）  
「富士山の美容整形 ことしも吹付テスト」（大沢崩れ）（『岳南朝日』1972年＝昭和47年1月9日付「グラフニュース」）  
「富士市 改善されぬ大気汚染 中年の健康にも影響 救済待つ公害患者 2月から待望の国指定」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年1月13日付）  
「ことしは最終年だが…基準達成危ぶむ声も」〔公害〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年1月13日付）  
「五月ごろまでに適用 富士宮 地下水規制の条例」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年1月15日付）  
「12月の亜硫酸ガス濃度下る」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年1月15日付）  
「市民スキー大会 来月六日、太郎坊で」〔太郎坊スキー場〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年1月20日付）  
「土砂の流出左岸へ 大沢扇状地へ九号堤」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年1月21日付）  
「夏場に基準越える 昨年の亜硫酸ガス測定 平均値はやや下降」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年1月22日付）  
「焦点 法改正、厳しさ増す産業廃棄物 急がれる処理対策 スラッジ問題が急務 業界は行政指導望む」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年1月28日付）  
「富士登山 一中二年 高橋利代美」(第12回岳南朝日作文コンクール入選作品 努力賞)（『岳南朝日』1972年＝昭和47年2月2日付）  
「富士登山 一中二年 高橋利代美」(第12回岳南朝日作文コンクール入選作品 努力賞)（『岳南朝日』1972年＝昭和47年2月4日付）  
「北山用水へたれ流しも 畜産公害 規制前に改善指導」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年2月9日付）  
「一月の亜硫酸ガス濃度」〔公害〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年2月10日付）  
「区めぐり【山宮区】押し寄せる市街化“聖域”も賑やかに“開発”に憂いも…」〔『重須本門寺と石川史』名加茂喜三・山口稔著、石川次助発行、1971年〕〔モーテル〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年2月11日付）▼▼  
「“汚れた川”に逆もどり 望まれる常時監視体制 夜間こっそりたれ流しも 潤井川 信栄製紙が違反 基準の三倍で放流」〔公害〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年2月17日付）  
「毘沙門天祭に交通規制」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年2月19日付）  
「大気汚染を監視 富士宮市へ“新兵器”」〔亜硫酸ガス〕（『岳南朝日』1972年＝

昭和47年2月23日付)

「富士宮の文化財 教委 夏ごろまでに出版」(『岳南朝日』1972年=昭和47年2月23日付)

「問題残し一応終了 身延線の輸送力強化事業 来月中に相次いで電留線と複線化」(『岳南朝日』1972年=昭和47年2月23日付)

「へドロ処理認める 田子の浦港 地元、条件付きで」〔富士川河川敷投棄〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年2月26日付)

「成人にも高い有症率 富士 大気汚染調査で判明」(『岳南朝日』1972年=昭和47年2月27日付)

「認定患者は百六十一人 富士の公害病」(『岳南朝日』1972年=昭和47年3月1日付)

「富士の思い出 一中二年 武田知子」(第12回岳南朝日作文コンクール入選作品 努力賞) (『岳南朝日』1972年=昭和47年3月1日付)

「富士の思い出 一中二年 武田知子」(第12回岳南朝日作文コンクール入選作品 努力賞) (『岳南朝日』1972年=昭和47年3月4日付)

「桜を守ろうー野鳥の会 テングス病を防ぐ」(『岳南朝日』1972年=昭和47年3月7日付)

「随想 富士川河口の野鳥 阿部英雄」(『岳南朝日』1972年=昭和47年3月7日付)

「“内陸”にしわ寄せ 汚染対策に新しい課題が」〔大気汚染〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年3月8日付)

「観光宣伝の打ち合せ会 キャラバン派遣」(『岳南朝日』1972年=昭和47年3月8日付)

「山の町芝川に公害騒動 進出プラント待った“寝耳に水”の周辺住民 あす反対決起集会 上長貫地区」(『岳南朝日』1972年=昭和47年3月12日付)

「岡山まで足伸す 来月、観光キャラバン派遣」(『岳南朝日』1972年=昭和47年3月14日付)

「共同で富士山の自然保護 四市一町首長が懇談会」(『岳南朝日』1972年=昭和47年3月16日付)

「高さもなら物価も日本一? 宿泊代など軒並アップ 今夏の夏山料金決まる」(『岳南朝日』1972年=昭和47年3月17日付) ▼▼

「富士山砂防 47年度事業計画決る 扇状部分 床固め工を継続」新しい工法実験も」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年3月19日付)

「春です連休です 白糸へ、朝霧へ二万人?」〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年3月19日付)

「連休の富士山で大量遭難 登山史上最大の惨事」(『山梨日日新聞』1972年=昭和47年3月22日付 掲載) ←1972年3月20日に発生したこの事故については、後に見るように佐野栄代記者が取材に赴いているのだが(「富士山は甘くない」(1992年=平成4年5月15日付「時評」)、3月20日付の原紙欠落、21日は休刊のため一本の記事も見つからない

「富士宮でも遭難騒ぎ 宝永登山の兄弟は無事」(『岳南朝日』1972年=昭和47年3

月 22 日付)

「〈みどころ〉地球の秘密も…奇石博物館」(『岳南朝日』1972年=昭和47年3月24日付)

「初の排ガス調査」〔静岡県公害防止センター〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年3月31日付)

「一年ぶりにヘドロ処理 田子の浦港で再開 50日間で30万トン 県、住民の監視の中で」〔富士川河川敷投棄〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年4月6日付)

「衛生センター共同運営主張 富士宮市 富士山五口協議会で」(『岳南朝日』1972年=昭和47年4月7日付) ▼▼

「月の輪遺跡調査 予備調査の候補地に」(『岳南朝日』1972年=昭和47年4月7日付)

「ヘドロ衛生監視 富士宮保健所も応援」〔富士川河川敷投棄〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年4月8日付)

「ピンチ、富士宮の地下水 湧泉の保護措置を急げ 県が調査報告『開発』で水位低下目立つ 市、県条例適用へ」〔地下水採取適正化条例〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年4月9日付)

「県が抜打ち検査 チリ紙工場から採水」〔水質検査〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年4月9日付)

「昨年度の苦情相談 断然多い悪臭公害 67件を受付け 移転した工場も 発生源はドーナツ化」(『岳南朝日』1972年=昭和47年4月11日付)

「新幹線富士駅設置で懇談会」〔新富士駅〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年4月11日付)

「富士宮 共同でスラッジ処理へ 企業も重い腰をあげる 近く推進協議会を設立」〔産業廃棄物共同処理推進協議会〕〔産廃〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年4月15日付)

「上野などにフソ病 ミツバチの移動禁止」〔腐蛆病〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年4月18日付)

「好評だったPR 観光キャラバン帰宮」(『岳南朝日』1972年=昭和47年4月18日付)

「期待と不安のヘドロ大作戦 田子の浦港」〔富士川河川敷投棄〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年4月19日「カメラの目」)

「“幻の高校”で市が呼出し 本年度をタイムリミットに 建設計画の提出求める 工業高を考慮 金指造船回答」(『岳南朝日』1972年=昭和47年4月20日付)

「公害管理者の願書受付け」(『岳南朝日』1972年=昭和47年4月20日付)

「目標を〇・〇〇三ppmに 50年度まで達成させる 富士市公対審 きびしい答申」〔亜硫酸ガス〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年4月20日付)

「行き場のないスラッジ富士山へ登る 村山“陸上投棄”に怒る住民『富士のモノ、なぜここへ!?!』原点は企業責任」〔産廃〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年4月21日付「焦点」)

「悪臭公害(フェノールガス)ヤリ玉に 環境庁も調査に乗り出す 不安高まる健康への

影響 市は法規制を要望 現状では行政指導に難」〔富士フィルム〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年4月22日付）

「立体交差つくれ 南口期成同盟が要望」〔富士宮駅南口設置促進期成同盟会〕〔駅前整備〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年4月28日付）

「サクラを植える会 有志18人が結成」〔富士山にサクラを植える会〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年4月28日付）

「白糸滝に三万人 全体に静かな幕あけ 連休初日」〔白糸の滝〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年4月30日付）

「五合目へハイクバス 富士急」〔発着所〕〔残雪〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年4月30日付）

「企業努力一応実る 富士市の大気汚染 初めて基準下回る だが局地的に高濃度も」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年4月30日付）

「衝突・落石死ぬ 登山道で乗用車暴走」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月2日付）

「富士山で心中 東京の男女」（北山林道一合目）（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月2日付）

「汗ばんだ肌に冷気がこころよい白糸滝の滝つぼ」〔白糸の滝〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月3日付「カメラの目」）

「潤井川に雪代どっと 富士山の集中豪雨 雪どけ誘い押出す」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月3日付）

「“スラッジ投棄 中止せよ” 地下水源汚染の恐れも 神成水道組合が市に陳情」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月5日付）

「大沢 戦後最大の崩壊 建設省調査官が視察」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月5日付）

「大沢の土石流 下流にも大きな被害 潤井川水系農業用水ストップ」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月7日付）

「日蓮宗信徒の京都霊跡回り 富士宮地区寺院」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月7日付）

「大沢崩壊 潤井川改修など要請 植松市長 永原副知事に」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月9日付）

「沢に死んだ豚を捨てる 保健所で捜査」〔斃獣〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月9日付）

「潤井川改修を急げ 植松市長 建設省、国会へ要請 相つぎ大沢視察 きょう竹山知事来ろく」〔えぐり取られた大沢の導流堤の写真〕〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月11日付）

「大自然の猛威に驚ろく 竹山知事、大沢を視察『国の力で思い切った手を』」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月12日付）

「五合目下へ百本 桜を植える会が初仕事」〔富士山にサクラを植える会〕〔フジザクラ〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月12日付）

「PCB有無立証せよ スラッジ投棄 市が五社へ申入れ」〔富士宮市公害対策課〕（『岳

南朝日』1972年=昭和47年5月13日付)

「危険はらむ峡谷部 土砂、さらに押出す恐れ 大沢現地調査」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月14日付)

「意見書の決議へ 市議会、潤井川改修で」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月14日付)

「富士市長も視察 港を埋めた土石流現場」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月14日付) ▼▼

「富士の自然守ろう 五市町が近く会結成」〔富士山を守る会〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月16日付)

「大沢の砂防工事が前身 日原造園 私有地の売却を了承 建設省の要請に応じる 全体の80%を取得 土地収用適用もOK」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月17日付)

「埋立用地あつ旋を 中小12製紙が市へ申入れ」〔スラッジ〕〔産業廃棄物共同処理推進協議会〕〔産廃〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月17日付)

「大沢崩れ 最下流にも被害 富士市側の水田に土砂 扇状地の復旧は順調に」(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月17日付)

「焦点 大沢くずれ 露呈した“低級河川潤井川”崩壊は自然現象、砂防にも限界 不安つのらせる沿岸住民 災害中心は下流に」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月19日付)

「随想 富士山白日夢(1) 大沢の現実と未来 植松貞治」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月20日付)

「ご難続きの田子の浦港 こんどは土砂さらいを 県 機能確保にけんめい」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月21日付)

「《人》往来 区長会長に選出された小長谷宗芳氏」(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月21日付)

「フィルムを視察 松永議員、悪臭問題で」〔公害〕〔松永忠二〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月21日付)

「香典返しの廃止決る 七月から全市一斉に 区長会、新生活運動の一環で」〔小長谷宗芳〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月21日付)

「随想 富士山白日夢(2) 崩壊に人造涸湖 植松貞治」(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月21日付)

「市、防災計画の再検討へ 重点に大沢土石流対策 穴だらけの雨量観測体制 緊急避難場所も指定」(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月23日付)

「富士宮市議 大沢を視察」(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月23日付)

「涙と感動のヒューマン・ドキュメント 聖教新聞社」〔広告〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月23日付)

「香典返し全廃に具体策 区長会、住民に協力求め 快気祝いや花輪もやめる」〔小長谷宗芳〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月24日付)

「富士山 例年になく多い雪 頂上にまだ一三七センチ」〔残雪〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年5月24日付)

「期成同盟も陳情 大沢くずれ融雪災害で」〔大沢崩れ〕〔富士地区総合開発期成同盟会〕  
（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月24日付）

「崩れる富士 恐怖の下流」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月24日付「カメラの目」）

「市独自に注意報出す 潤井川土石流対策 大沢監視員も委嘱」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月25日付）

「富士山で雪渓訓練 富士宮北高の登山部」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月26日付）

「黒田（潤井川下流）でついにゼロに 日ましに土砂がたい積 大雨降ると水害の危険 一日も早くしんせつを」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月28日付）

「西村建設相視察 きのう大沢扇状地を」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月28日付）

「河底橋に永久橋をかける 上井出区が陳情」〔水中橋〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月28日付）

「復旧工事急ピッチ 大沢崩れの4、5、6号堤」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月28日「グラフニュース」）

「大沢崩れの恐怖去らず “一の竹と沿岸守れ” 工法にも素朴な不安」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月30日付）

「20<sup>ミ</sup>で警戒水位 土砂で“上げ底”の発電所水門 放流も焼け石に水」〔本州製紙発電所〕〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年5月30日付）

「岳排の新水質基準迫る 処理場、三社残して完成 浮遊物質排出きびしく」〔公害〕〔岳南排水路〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年6月1日付）

「犬にも公害病 富士市の大気汚染 千葉大教授が研究報告」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年6月1日付）

「東海自然歩道（富士宮コース）が完成 バリエティー豊かな26<sup>キ</sup> 県境根原から天子ヶ岳まで」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年6月2日付）

「焦点 全川に広がる大沢崩れの恐怖 『生活にかかわる大事』一の竹 避難よりも安全の確保を」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年6月2日付）

「へドロ処理、延長したが…憂慮される有毒ガス発生 富士川河川敷 作業員に要精密検査が18人も」〔へドロ公害〕〔富士川河川敷投棄〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年6月3日付）

「“一級河川への昇格考慮” 建設省河川局長 放水路完成時点で 遅れる下流改修」〔潤井川〕〔星山放水路〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年6月4日付）

「瀬戸際に立つ畜産 悪臭防止法で規制強化」〔畜産公害〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年6月6日付）

「モーテル進出縮出しへ 富士宮市 建築協定条例を提案」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年6月7日付）

「南風が運ぶガス 大気汚染 ジワジワ濃度上昇」〔亜硫酸ガス〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年6月7日付）

「田植えに“水の援軍” 田貫湖 10日から放水開始」（『岳南朝日』1972年＝昭和47



年6月8日付)

「稲子地区にしぼる ことしの移動保健所」(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月8日付)

「大雨で潤井川沿い緊張 災害注意報初めて発令 大沢扇状地 土石流七万トン動く」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月9日付)

「へドロの有毒ガスで見解 富士労基署『直接の影響はない』あいまいさ残る検診結果」〔富士川河川敷投棄〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月9日付)

「大沢土石、三度目の大移動 えん堤三か所で破壊」〔大沢崩れ〕〔土石流〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月10日付)

「汚染される井戸水 取水の乱掘で潤井川沿いに流入?」〔地下水〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月10日付)

「三たび襲った土石流 出水は避けられたが」(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月11日「グラフニュース」)

「全面開放はいつの日 朝霧のジャンボリー跡地 宙に浮く青少年広場」〔高原社〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月14日付)

「共同歩調で『守る会』富士山の乱開発防止 五市町で結成へ」〔富士山の自然と環境を守る会〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月14日付)

「発着所従来通り 登山バス 富士急折れる」〔駅前発着〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月14日付) ▼▼

「“無縁仏”の大宮司家 荒れた墓所を守る会 有志が結成準備進める」〔富士大宮司家墓所護持会〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月14日付)

「たい積土砂を工事用に“一石二鳥”の利用方法 二万トン排除し貯蔵 市が県や国と話し合い」(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月15日付)

「焦点 芝川の山野はゴミ捨て場か…?? 稲瀬川上流でも産業廃棄物投棄 影響恐れる下流の人たち」〔産廃〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月16日付)

「河川に水銀、カドミウム 微量だが排水から検出 市川氏迫及 当局も事実認め公表」〔市川国司〕〔河川汚染〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月17日付)

「あす村山でスケッチ散歩 家族連れも歓迎」〔富士宮スケッチ散歩の会〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月17日付)

「市、河川の重金属検出でデータの提出求める 12工場の監視も強化」〔河川汚染〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月18日付)

「またモーター進出 外神 住民が反対運動『建築協定』前に許可とる」(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月18日付)

「『スラッジ規制条例』を可決 下水道負担は付託審査に 助役、収入役を決め閉会」(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月20日付)

「きょう山岳遭対協総会」〔山岳遭難防止対策協議会〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月20日付)

「身延線利用者にショック 源道寺、稲子など無人駅に 静鉄局が発表 貨物扱い富士宮駅だけ」(『岳南朝日』1972年=昭和47年6月21日付)

「救助隊の編成を検討 山岳遭対協支部の事業計画」〔山岳遭難防止対策協議会〕(『岳

南朝日』1972年＝昭和47年6月21日付) ▼▼

「ヘドロ処理、また延長 県の計画狂い放し 住民の不信強まるばかり」〔富士川河川敷投棄〕(『岳南朝日』1972年＝昭和47年6月22日付)

「大沢の抜本対策 建設省が協議会結成」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1972年＝昭和47年6月22日付)

「大宮司家墓所護持会が発足」(『岳南朝日』1972年＝昭和47年6月22日付)

「スラッジ当分野積み 水質規制、きょうスタート」〔産廃〕(『岳南朝日』1972年＝昭和47年6月24日付)

「土砂流入続く田子の浦港 “ヘドロ乾燥剤” にも つゆ明けまでくり返し」〔富士川河川敷投棄〕(『岳南朝日』1972年＝昭和47年6月24日付)

「埋立てに十社申請 人穴地区へ四か所 きょう現地調査」〔スラッジ〕〔産廃〕(『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月4日付)

「六、七日に現地視察 大沢くずれ対策協 恒久対策検討へ」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月5日付)

「夏山富士開く 快晴で好調なスタート」(『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月5日付「カメラの目」)

「農業青年が清掃登山『自然環境守ろう』と」(『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月5日付)

「スラッジ埋立て同意へ まず北山、人穴の15社」〔産廃〕(『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月7日付) ▼▼

「大沢 豪雨で四たび土石流 七号えん堤は決壊」(『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月7日付)

「きょうお田植祭 五穀の豊作祈って」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月7日付)

「浅間神社神職が山頂へ お宮びらきに」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月7日付)

「宙に浮いた公害対策審 後任委員決らず百余日 公害行政に批判の声」(『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月8日付)

「お山のサービス機関始動 あすから電話、郵便 OK」(『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月9日付)

「市婦連があす清掃登山」〔富士宮市婦連〕(『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月9日付)

「神主さんの卵も」〔奥宮〕〔久須志宮〕(『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月9日付)

「スラッジと地下水にメス 農林省土木試験場研究室が調査」〔落合敏郎〕〔川崎宏直〕(『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月11日付)

「金指造船に呼出し 富士宮市 高校建設で近く督促」(『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月11日付)

「大中里ご町内の皆様へ ただ今、沈澱池の改修並びに浚渫工事のため… 富士写真フィルム株式会社富士宮工場 大成建設株式会社」〔広告〕(『岳南朝日』1972年＝昭和

47年7月11日付)

「びわ湖で会いましょう“夫婦都市”の子どもが交歓」〔近江八幡市〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月12日付）

「樹齢七百年。老杉が圧倒する村山浅間神社境内」〔富士宮スケッチ散歩の会〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月12日付「カメラの目」）

「暴れツユ、たけり狂う 上井出で300<sup>ミ</sup>越す 潤井川増水、各所ではん乱」〔豪雨〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月13日付）

「市議会、急施本会議開く 災害対策特別委を設置 国、」県への要請事項決議 潤井川水防にお“盲点”望まれる対策の再検討」〔豪雨〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月14日付）

「大沢 えん堤、各所で寸断 扇状地さらに拡大」〔大沢崩れ〕〔豪雨〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月14日付）

「みやげは空カン 農業青少年がお山清掃」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月16日付「グラフニュース」）「15社に正式許可 市、スラッジの埋立て」〔人穴〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月16日付）

「被害額三億円越す 七・一二集中豪雨 富士宮の最終集計」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月20日付）

「山もつゆあけ “台風一過”の快晴続く」〔夏山富士〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月20日付）

「焦点 “人災”に泣く潤井川 源からは鉄砲土石流 河床は上り放っし 完全な護岸もゼロ 星山放水路だけではダメ 災害小史」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月21日付）

「知事、潤井川対策で語る 扇状地は国、河川は県で 川底橋の永久橋化 九月補正に予算計上」〔水中橋〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月22日付）

「四日市裁判の勝訴喜ぶ 富士市の大気汚染患者 横のつながり望む声も」〔公害〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月25日付）

「弥生集落の月の輪遺跡 最終の発掘調査へ」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月25日付）

「わくぐりさん例祭開らく」〔福石神社〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月25日付）

「郷土富士宮にスポット 北高郷研が民俗調査 秋の文化祭に成果発表」〔富士宮北高郷土研究部〕〔『行人塚』15号、1974年5月〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月26日付）

「悪天に山室泣く 次の週末に望みかける」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月26日付）

「金剛ツエも客待ち顔 富士登山客さっぱり」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年7月30日「グラフニュース」）

「富士山の自然環境守る会 四市一町 今月、富士宮で開催」〔富士山の自然と環境を守る会〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月1日付）

「施設ほぼ良好 山室衛生監視」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月1日付）

「“水の都富士宮”が再現 枯れた池、道からボコボコ 集中豪雨以来突如として」〔地下水〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月4日付）

「ドーム高くジャンボ型 北高郷研 窓穴に“陽の目” 熔岩棚や記録的な■酸鍾乳」〔万野風穴〕〔珪酸鍾乳〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月4日付） ■＝土へんに圭  
「海拔500mのビヤガーデン 700m<sup>2</sup>のジャンボな池に魚が一杯！ 村山つり堀ジャンボ」〔広告〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月4日付）

「スラッジ埋立て、検討しなおし 13社（荻平）に再許可しない 背景にPCBの不安」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月8日付）

「駅前問題具体化へ 植松市長 記者会見で語る」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月8日付）

「月の輪平の遺跡発掘 下からも住居址3つ 集落の特殊な場所 めずらしい配石遺跡」〔月の輪遺跡〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月11日付）

「あす平和富士登山」〔変わり種登山〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月11日付）

「富士根地区の畑総事業計画」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月11日付）

「富士宮駅前商店街診断 大幅な改善策を勧告 現状では存立さえ懸念 人為的造成の必要あり」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月12日付）

「衛生センター あす店じまい」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月12日付）

「開拓で貧血防止の特別相談」〔過疎地健康相談〕〔富士開拓〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月12日付）

「追詰められた中小製紙 スラッジ埋立許可 きよ打ちり」〔荻平〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月13日付）

「振るわぬ大石寺の登山 46年度 三百万人の大台割る 国鉄 正本堂落慶に期待」〔創価学会〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月13日付）

「仁丹テルモの産廃投棄 厳しい条件つきで許可」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月13日付）

「平等寺に眠る布山 大宮小初代校長jの消息わかる 子孫も市内に五人健在」〔長尾布山〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月16日付）

「富士川流域民俗調査から（1）唯一の交通機関 富士川の通船と渡船」〔富士宮北高校郷土研究部〕〔『行人塚』14号、1972年3月〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月16日付）

「新幹線を富士駅へ 二市二町自治組織 署名運動を展開」〔新富士駅〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月16日付）

「ようやくなじむ 香典返し廃止から45日」〔小長谷宗芳〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月16日付）

「受益者が推進委を結成 富士根地区畑総」〔杉田〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月16日付）

「富士で公害追放県民大会『駿河湾を返せ』を合言葉に」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月18日付）

「富士川流域民俗調査から（2）苦悩、忍耐の歴史 石造物に悲願こめる」〔富士宮北高

校郷土研究部〕〔『行人塚』14号、1972年3月〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月16日付）

「市が地下水の現状報告 豊かだが手放しでは…ことし中に県条例適用へ」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月19日付）

「富士川流域民俗調査から（3）民衆支持で発展 現況寺院のあり方にも」〔富士宮北高校郷土研究部〕〔『行人塚』14号、1972年3月〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月19日付）

「国鉄合理化に抗議 住民代表も押しかける」〔源道寺駅〕〔身延線〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月19日付）

「跡地開放どこへやら セカイジャンボリーから一年」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月20日「グラフニュース」）

「天然クーラーを満喫 にぎわう白糸の滝」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月20日付「グラフニュース」）

「小野薬品を呼出す 市 計画表の提出求める」〔公害〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月22日付）

「こぼれ話」〔和田川〕〔沼川〕〔水質汚濁〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月22日付）

「楽しかった富士山 コーフィ嬢、富士宮の休日」〔ライオンズクラブ〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月23日付）

「富士宮市 46年の公害白書発表 “死の川” よみがえらず 大気汚染 低硫黄かで数値降下」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月24日付）

「公害追放県民大会 32団体が参加して 十分科会で討論会」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月24日付）

「ぐーんと涼しく富士山に早くも雪」〔初雪〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月24日付）

「焦点 締め出されたスラッジ “疑わしきは拒否” 開拓農協PCB汚染を警戒 “基準不在” に問題が…あいまいな県の対策」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月25日付）

「水稻200㍉全滅 豪雨、ヒョウ被害 一時間雨量 史上最高のタイ記録」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月26日付）

「桜井権祐宜ら富士山頂へ」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月26日付）

「夏の行楽総決算 富士山 登山客は10%増 田貫湖は例年なみ 白糸の滝は減る」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月29日付）

「公害対策審議委員決る 学識経験者ら15氏任命 スラッジ処理方策の諮問も」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月31日付）

「人間医学への道 法律漫歩 聖教新聞社」〔広告〕（『岳南朝日』1972年＝昭和47年8月31日付）

「方形周墳墓を発見 南部谷戸遺跡 岳南地方では初めて」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年9月1日付）

「伝説だった王藤内の塚 実は近世のもの 発掘調査 人骨と寛永通宝が出る」（『岳南朝日』1972年＝昭和47年9月6日付）

「公対審が正式にスタート 市の積極的取組み要望 PCBや大気汚染防止など」〔富士宮市公害対策審議会〕（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月7日付）

「従業員募集 富士登山道中腹で 標高500mのドライブイン さんしょう」〔広告〕〔スカイライン〕（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月7日付）

「高原社、『開発計画』を提出 跡地の1/3にゴルフ場 国民広場 市民の願望よそに」（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月12日付）

「富士山自然休養林めぐり」〔静岡県営林署〕（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月12日付）

「富士砂防で説明 専門家が地域住民に」（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月13日付）

「高山病が圧倒的 富士山衛生センター 百八十五人が利用」（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月13日付）

「富士山に白い帽子 昨年おり三日遅く初雪」〔初冠雪〕（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月13日付）

「どうなった“富士山守る会” 発足以来開かれず四市一町首長会談『自然保護は本気か』の声も 民間資本の相つぐ進出下に」〔富士山の自然と環境を守る会〕（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月21日付）

「富士の巻狩り乱開発に降伏 北高、慣例行事を変更」〔富士宮北高〕（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月21日付）

「淀橋区 五百世帯が電波障害『原因はフィルムの建物』」〔富士フィルム〕（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月22日付）

「拓友の霊安らかに 『満蒙義勇軍』の塔完工 生存者が朝霧に建立」〔満蒙開拓義勇軍〕（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月22日付）

「公害防止統括者などの届出」（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月22日付）

「『山ろく国有化急げ』ゴルフ場進出を警戒 進まぬ自然保護行政に焦立ち」（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月22日付）

「大沢くずれ 扇状地の床固め着手 建設省、今月中に発注」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月23日付）

「売買契約に調印 日原造園 砂防事業に協力」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月23日付）

「私有地払下げ許すな 日本野鳥の会支部 自然保護で決議」（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月24日付）

「源道寺駅はタナ上げ 静鉄局 26日から『近代化計画』実施」（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月24日付）

「田貫湖 南岸の湖畔を整備 キャンプサイトも 県が計画」（『岳南朝日』1972年=昭和47年9月24日付）

「若い者に負けられぬ!! 高齢者富士登山が二五九人 トップは91歳の広田老(土佐) 富士宮勢は四人」〔高齢者登山〕〔広田耕作〕〔和波豊〕〔能勢太三郎〕〔回数登山〕〔稲葉真風283回〕〔山田昌平108〕〔渡辺仁三郎50〕〔大串梅三郎50〕（『岳南朝日』1972年=昭和47年10月1日付）

「『事実は直視すべし』元校長三上仙造氏 公害教育手引書にメス」(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月1日付)

「毘沙門天像は聖徳太子 南富士史料調査会が追求」(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月1日付)

「きょう正本堂完工式 大石寺」(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月1日付)

「悪臭防止法の規制区域に県、富士宮市など指定へ 影響受ける畜産、公共施設 フェノールは野放し」(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月14日付)

「星山放水路 分水、放流工に着手 三億五千万円追加」(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月14日付)

「浅間神社の宝物展 重要文化財など一堂に 資料館が公開」〔浅間大社〕〔富士宮市立郷土資料館〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月14日付)

「大規模化にブレーキ 水質汚染防止法 緊張する畜産農家」(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月14日付)

「国際色も豊かに 創価学会 きょう市中パレード」〔大石寺正本堂〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月15日付)

「富士は56社共同で スラッジ焼却場建設 あす設立総会開く」〔製紙スラッジ対策協議会〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月15日付)

「祝 日蓮正宗総本山 大石寺正本堂落慶 施工・正本堂建立共同企業体」〔全面広告〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月19日付)

「焦点 よみがえるか潤井川 魚の住める川を目指して 監視体制ポイントに」〔水質汚濁防止法〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月20日付)

「自然保護を大いに語る 植松市長←→曾宮一念氏」(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月21日付)

「祝 日蓮正宗総本山 大石寺正本堂落慶 施工・正本堂建立共同企業体」〔全面広告〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月21日付)

「新五合へレストハウス 県道路公社が二か年計画で」(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月22日付) ▼▼

「四市一町首長、来月会談 富士山の自然保護で」〔富士山の自然と環境を守る会〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月24日付)

「浅間神社宝物が一堂に 市立資料館 国宝など45点公開」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月28日付)

「月の輪遺跡報告 発掘調査成果を発表」(『岳南朝日』1972年=昭和47年10月28日付)

「床固め工を発注 建設省の大沢砂防工事」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年11月1日付)

「六千号に寄せて 社主 深沢佳士男」〔昭和28年4月1日創刊〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年11月1日付)

「買占められる山ろく 線引きもザル法の危機」(『岳南朝日』1972年=昭和47年11月3日付)

「裁かれる公害反対闘争“鷹岡事件”六日に判決 被告、弁護団は無罪主張」〔東電富士

川火力発電所) (『岳南朝日』1972年=昭和47年11月4日付)

「“鷹岡事件”に有罪判決 被告、弁護団直ちに控訴 判決は傷害事件をとる」(『岳南朝日』1972年=昭和47年11月7日付)

「人穴に研修運動施設 富士観開発に許可」〔富士観光〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年11月7日付)

「富士山の自然保護で山ろくの五首長が会談 あす富士宮市で開催」〔富士山の自然と環境を守る会〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年11月8日付)

「ジャンボゴルフ場など 大昭和観光 中腹(北山)に開発計画」(『岳南朝日』1972年=昭和47年11月8日付)

「30万羽養鶏が実現 広見団地 本格操業へ糸口」(『岳南朝日』1972年=昭和47年11月10日付)

「五合目レストハウスで県へ要望書 五首長『埋込み式施設に』」(『岳南朝日』1972年=昭和47年11月10日付)

「焦点 ゴルフ場ラッシュでむしられる山ろく 尾を引く“高度成長” 調整区域の10%民間資本の手中に 自然保護 自立農業 青写真づくりが急務」(『岳南朝日』1972年=昭和47年11月10日付)

「買占めの実態明るみに 土地利用計画作り急ぐ 山ろく五首長が申合せ」(『岳南朝日』1972年=昭和47年11月11日付)

「富士宮市 公害防止協定手直しへ 悪臭など含め再検討」(『岳南朝日』1972年=昭和47年11月11日付)

「大宮司家護持会で墓前祭」〔富士大宮司家墓所護持会〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年11月11日付)

「田貫湖に国民宿舎を 観光専門委が提言 温泉試掘したら」(『岳南朝日』1972年=昭和47年11月16日付)

「県が“開発基準”を設ける ゴルフ場進出に歯どめ だが逆手にとられる恐れも」(『岳南朝日』1972年=昭和47年11月23日付)

「富士の自然保護保てぬ 五百m高い県の開発計画 市、県に修正申入れへ」(『岳南朝日』1972年=昭和47年11月25日付)

「造林で緑取戻そう 森林組合 21日から出張受け」〔富士森林組合〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年12月16日付)

「年末年始登山にパトロール 冬山遭難対策」(『岳南朝日』1972年=昭和47年12月16日付)

「山ろくの土地買占め続く ゴルフ場計画が十一も 用途不明組も不気味な動き」(『岳南朝日』1972年=昭和47年12月17日付)

「富士文庫の近況を聞く 特異な専門書ずらり 来館者、乞食から大臣まで」(『岳南朝日』1972年=昭和47年12月17日付)

「会社(フィルム)の責任で長期調査 埋立てられ沈殿池のドロ PCB検出で市が指導」〔富士フィルム〕(『岳南朝日』1972年=昭和47年12月23日付)

「公害苦情ふえる 悪臭の大半フェノール」(『岳南朝日』1972年=昭和47年12月23日付)



## ■ 1973年=昭和48年

「失われた自然の回帰を しっかりと根を張り天をつく老杉（富士山一合目で）」（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月1日付）

「酪農の屋台骨ゆさぶる 開発と輸入牧草が挟撃 牧野造成にも新課題 富士山ろく」〔富士開拓（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月5日付）〕

「“土地不売運動”を提唱 植松市長 近く関係団体と懇談 資金調達も含めて要請」（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月9日付）

「賀正 富士宮地区タクシー組合」〔広告〕（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月9日付）

「時代が変れば天職も変る… カー時代でヘンシン 馬力、牛車はわずか20台前後に」〔交通革命〕（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月10日付） ←一部▼▼

「依然夏期に“高濃度” 昨年の大気汚染 年平均では減少」（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月11日付）

「足ぶみ状態、スラッジ処理 あい変わらず埋立て方式 焼却施設いつできる？」〔公害〕（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月12日付）

「県、新年度採択へ 富士根地区の畑総事業」（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月12日付）

「区めぐり 麓区」〔金山〕（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月12日付） ▼▼

「市観光協会、独立へ動く 48年度中に実現めざす まず財政面の確立が課題」（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月13日付）

「完成した八号堤 大沢の守り固く」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月14日付「グラフニュース」）

「浮遊物質、大幅減少 潤井川の水質 だがまだ魚は住めぬ」〔公害〕（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月18日付）

「土地不売運動、一步前進 土地懇で確認 早急に市民へ呼びかけ 相談窓口の開設も急ぐ」（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月24日付）

「自然破壊のハチ巻道路 計画撤回の要望書提出 野鳥の会富士宮支部も同調 予定路線は高山植物の宝庫」〔ハチマキ道路〕〔日本野鳥の会〕〔静岡県野鳥愛護協会〕〔スバルライン〕〔スカイライン〕〔小富士〕（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月28日付）



「水利用で過疎から脱却 陽の目を見る粟倉地区 ボーリングの成功を機に」〔北井久保畑灌〕（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月30日付） →「畑地灌漑で出発」（6月10日付）に続報、「天水部落さようなら」（1974年=昭和49年3月13日付）で北井久保畑灌が完成

「星山放水路全工区着手」（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月30日付）

「悪臭物質分析に威力 市が新鋭機設置へ」（『岳南朝日』1973年=昭和48年1月30日付）

「市域の7%は企業所有 富士山ろくの土地買占め」〔朝霧高原〕（『岳南朝日』197

3年＝昭和48年1月31日付「カメラの目」)

「土地不売、具体化へ動く 各機関代表で『幹事会』を 相談窓口も早期開設へ」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月4日付)

「富士宮市 大がかりな悪臭調査 あすから富士フ周辺で フェノールの除去効果探る」  
〔富士フィルム〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月6日付)

「こんどは長崎屋進出 富士宮駅前の一角へ」〔駅前整備〕〔大型店舗〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月6日付)

「工事用道路拡幅で陳情 市、大沢の土石搬出で」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月6日付)

「農転、史上空前の記録 65ヘクタールが宅地化 昨一年間 線引き告示で馳込み急増」  
〔農地転用〕〔新都市計画法〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月7日付)

「リレー時評 鉢巻き道路を憂う 阿部英雄」〔ハチマキ道路〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月7日付)

「人工川もある広場 大石寺の参道整備進む」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月7日付)

「新・生きる 聖教新聞社」〔広告〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月7日付)

「ふじとぞん 人穴小二年 あかいけとしふみ」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月13日付「第13回岳南朝日作文コンクール入選作品 努力賞」)

「新幹線富士駅設置で陳情 四市町自治会」〔新富士駅〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月13日付)

「ゴルフ場進出封殺 植松市長、議会で言明」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月13日付)

「土地不売の協力を要請 まず粟倉の約二百戸に 懇談会の名で文書発送」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月14日付)

「リレー時評 土地不売運動をこうみる 長沢亮太」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月14日付)

「16日に“守る会”開く 富士宮市 共同歩調呼びかけ」〔富士山の自然と環境を守る会〕  
(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月14日付)

「使用重油、排出量で規制 企業の低硫黄化を指導 使用量の増大に対処して」〔大気汚染〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月15日付)

「福島からも研修 土地不売運動の波紋」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月15日付)

「杉田、山本で数値が下る 一月の汚染測定」〔大気汚染〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月15日付)

「市内に三つ目のゴルフ場 当局、高原社の造成承認『現状ではやむを得ず』」〔朝霧高原〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月16日付)

「交流あった『芙蓉の人』宮崎家の“ネズミ書カン” 気象学上の原点も 野中到の研究裏付け」〔宮崎倉太郎〕〔参籠所〕〔宮崎利夫〕〔藤村郁夫〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年2月18日付) ▼▼

「公害対策審 議会で報告 富士フ調査」〔富士フィルム〕(『岳南朝日』1973年＝

昭和 48 年 2 月 18 日付)

「環境破壊の波阻止 富士を守る会 四市町首長が声明」〔富士山の自然と環境を守る会〕  
(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 2 月 18 日付)

「市、ゴルフ場計画を“凍結” 最低二年間は審査保留 二水系の安全確認が前提 全国では初めての措置 ひしめく『開発』ゴルフ場など 14 企業 植松市長が記者会見で語る」(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 2 月 20 日付)

「談話室 小長谷・前島両氏に聞く 万野入植武士団始末記 残った“土族”は3戸」〔小長谷鯛治〕〔前島幸雄〕〔遠藤秀男「富士宮市万野原新田における徳川藩士族の生活」駿河郷土史研究『駿河』17号、昭和45年11月、コピーあり〕(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 2 月 23 日付)

「富士宮山岳会員 谷川岳で遭難 古川さん遺体で収容 佐野さんの救出に全力」〔古川文夫〕〔佐野雄次〕(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 3 月 1 日付)

「佐々木捷祐著 インド紀行 聖教新聞社」〔広告〕(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 3 月 1 日付)

「国鉄に反対申入れ 市長 議長 源道寺駅無人化が再燃」〔身延線〕(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 3 月 2 日付)

「捜索活動が難航 谷川岳の佐野さん 気遣われる安否」〔遭難〕〔佐野雄次〕(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 3 月 2 日付)

「全国へ“みどりの死者”一千万本を出荷 富士山ろくの苗木」(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 3 月 3 日付)

「随想 ことしの一步 龍ひろ子」〔ふもとの家〕(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 3 月 3 日付)

「四月完成めざす 大石寺の富士美術館」〔創価学会〕(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 3 月 7 日付)

「地下水規制条例適用へ 4月30日の施工が内定 国有林除く全市域指定」(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 3 月 9 日付)

「万野風穴を手当 市教委 近く整備工事に着手」(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 3 月 9 日付)

「手がかりつかめず 谷川岳遭難の佐野さん」〔佐野雄次〕(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 3 月 2 日付)

「芝川・大嵐の薬師如来 33年ぶりの御開帳 “目の病気守る” 仏像 17日専門家の鑑定も依頼」(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 3 月 11 日付)

「“土地凍結宣言” から一か月 買占めから手引く大手も 予想外の効果 企業側の反発なし」(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 3 月 20 日付)

「33年ぶりの薬師様 芝川 大嵐で御開帳」(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 3 月 21 日付「カメラの目」)

「静鉄局、妥協案提示か 源道寺駅無人化 29日に議会特別委」(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 3 月 27 日付)

「今夕、金指学園高で説明会」(『岳南朝日』 1973 年=昭和 48 年 3 月 27 日付)

「旧地主側も協力姿勢示す 金指学園建設 来年開校へ解決急ぐ」(『岳南朝日』 1973

3年＝昭和48年3月29日付)

「岳排企業抜打ち検査 違反工場には強い処分も」〔岳南排水路〕〔ヤミ排水路〕〔公害〕  
(『岳南朝日』1973年＝昭和48年3月29日付)

「物価高、雲上にも 宿泊料など軒並み値上げ 今夏の夏富士料金が内定 金剛杖は三百  
円に」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年3月29日付) ▼▼

「源道寺駅問題 国鉄、地元歩み寄り あすから夜間を『無人化』七項目の条件付け着落」  
(『岳南朝日』1973年＝昭和48年3月31日付)

「“行楽”も値上げ 田貫湖キャンプ場施設 きょうから受付け」(『岳南朝日』197  
3年＝昭和48年4月1日付)

「焦点 “土地凍結”宣言から 1カ月 土地の社会性問い直す プーム衰退、効果広がる？」  
(『岳南朝日』1973年＝昭和48年4月1日付)

「牧口常三郎 聖教新聞社」〔広告〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年4月1日付)

「富士山の一筆画 渡辺さんが個展開く」〔渡辺瓜莊〕〔渡辺英一〕〔銀明館〕(『岳南  
朝日』1973年＝昭和48年4月3日付)

「ユニー9月に開店 年商30億円を目標に 地元商店街の打撃必至」〔大型店舗〕(『岳  
南朝日』1973年＝昭和48年4月4日付)

「登山バスも値上げ 新五合目まで九百円に」〔富士急〕〔駅前発着〕(『岳南朝日』1  
973年＝昭和48年4月6日付) ▼▼

「土地守る運動前面に 市農協、21日に通常総代会開く 山積する新年度事業」(『岳南  
朝日』1973年＝昭和48年4月7日付)

「16日から春ダイヤ 富士急 沼津行急行を増設」(『岳南朝日』1973年＝昭和48  
年4月7日付) ←一部 ▼▼

「県公害課 汚水流しに操業停止処分 基準はるかにオーバー 富士宮市関係 三陽、浅  
間、三昭の三社」〔汚水抜き打ち検査〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年4月11日  
付)

「潤井川 アリカリ化にストップ 井戸水のPH下降 ばっ気で中性に近づく」(『岳南  
朝日』1973年＝昭和48年4月11日付)

「建設省 大沢砂防に積極姿勢 本年度予算に九億円計上 星山放水路にも七億円」〔大  
沢崩れ〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年4月13日付)

「地上七階の店舗計画 長崎屋、駅前進出に布石」〔駅前整備〕〔大型店舗〕(『岳南朝  
日』1973年＝昭和48年4月13日付)

「金丸建設大臣、富士宮へ 大沢扇状地をあす視察 市、四項目を陳情 扇状地の砂れき  
排除など」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年4月14日付)

「富士山物価協定を決定 五口協議会終る」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年4月  
14日付) ▼▼←「物価高、雲上にも」(3月29日付) 参照

「白糸区長らゴルフ場誘致 戸惑う土地不売の市当局 自立経営の方針を検討」(『岳南  
朝日』1973年＝昭和48年4月21日付)

「登山ルートが開通 きょうから四か月ぶり」(スカイライン)(『岳南朝日』1973  
年＝昭和48年4月21日付)

「“県の基準は甘すぎる”植松市長、きびしく批判 県市長会も規制強化要望」(『岳南

朝日』1973年=昭和48年4月22日付)

「土地を守る運動積極的に 財産保全の窓口を設置 市農協の事業計画決る」(『岳南朝日』1973年=昭和48年4月24日付)

「佐野さんの遺体を収容 谷川岳遭難」〔佐野雄次〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年4月24日付)

「30日から条例適用 地下水くみあげ規制 あす説明会開く」(『岳南朝日』1973年=昭和48年4月25日付)

「富士宮市『土地を守る運動』を強化 五月早々、推進母体組織 県農業会議と歩調して」(『岳南朝日』1973年=昭和48年4月27日付)

「焦点 大沢崩れ、あれから一年 潤井川の防災は完璧か 県、下流の抜本改修図る 市も避難体制確立へ」(『岳南朝日』1973年=昭和48年4月27日付)

「歩け歩け黄金週間 山ろくの見どころ 周遊道路は早春 別天地の天照教周辺 小田急花鳥山脈」(『岳南朝日』1973年=昭和48年4月27日付)

「申請書類の提出求める 大石寺市道廃止」(『岳南朝日』1973年=昭和48年4月29日付)

「富士山へハイクバス運転 富士急きょうから」〔駅前発着〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年4月29日付) ▼▼

「土地成金ぞろぞろ 富士地区の高額所得者 億万長者が12人も 三分の二が山林売り」(『岳南朝日』1973年=昭和48年5月2日付)

「きょう開館披露式 富士美術館」〔創価学会〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年5月3日付)

「9日に巣箱かけ すでに30個を用意 粟倉分校」〔富士根北小〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年5月3日付)

「県、水防危険箇所を指定 大沢川、山津波注意区域に 潤井川は大中里の二か所追加」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年5月9日付)

「富士山ろくをたずねる会」(『岳南朝日』1973年=昭和48年5月9日付)

「ゴルフ場申請ぞくぞく “開発凍結” どこ吹く風」(『岳南朝日』1973年=昭和48年5月10日付)

「1日2千人が観賞 一般開放した富士美術館」〔創価学会〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年5月13日付)

「四月の亜硫酸ガス」〔大気汚染〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年5月13日付)

「乱開発から聖域を守る 地下水汲み上げ規制 国有林除き全市対象」(『岳南朝日』1973年=昭和48年5月16日付)

「“公害”たねに脅す 二人を逮捕、一人手配」(『岳南朝日』1973年=昭和48年5月16日付)

「七月から 使用量を半分に削減 フェノール臭公害 富士フが市に回答」〔富士フィルム〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年5月17日付)

「そらから “スラッジ紙” ずさんな焼却で被害」(『岳南朝日』1973年=昭和48年5月17日付)

「買占めから森林を守る 森林組合 造成推進の姿勢へ」〔富士森林組合〕(『岳南朝日』

1973年＝昭和48年5月18日付)

「焦点 大沢崩れ、その周辺総点検①一の竹 導流堤かさ上げで“安心”砂防工事“監視”は続けるが 出水なし、うすれる恐怖感」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年5月18日付)

「富士宮市の清掃センター 天母山の裏側に建設 本年度着工本決まり 日量一五〇トン进行处理 三年がかりの土地選定」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年5月20日付)

「きびしい規制要望 植松市長 県知事懇談会で」〔ゴルフ場等大規模開発事業〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年5月20日付)

「一割余が違反車 排気ガスを吐き流す 公開取締り」〔大気汚染〕〔光化学スモッグ〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年5月20日付)

「大沢扇状地の土砂除去 まず五万立方メートル目標に 今月下旬から作業着手」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年5月22日付)

「富士山の縦ジワにメス 市が野けいの実態調査へ 建設大が協力 関係機関と打合せ」〔野溪〕〔ゴルフ場〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年5月26日付) ▼▼

「山ろくの自然を調査 きょう二グループ」〔富士宮理科同好会〕〔富士山ろくをたずねる会〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年5月26日付)

「土石搬出道路の予算つく 扇状地に延長二・九キロ 富士砂防 市に用地取得を要請」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年5月27日付)

「ついにプモリ登頂成功 望月さん、二度目の挑戦 京都登はんクラブに参加 富士宮山岳会に朗報」〔望月忠〕〔プモ・リ〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年5月29日付)

「六月に野溪調査 植松市長、協力を要請」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年5月29日付)

「まず弓沢川など14か所 野溪実態調査に乗出す」〔建設大学中央訓練所〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年5月30日付)

「店員確保に根回し ユニー三島店の募集を富士宮で 地元関係者はカンカン」〔大型店舗〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年5月30日付)

「『土地を守る』県民運動に 富士宮市 売買規制策も推進」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年5月31日付)

「公害病五百人越す 富士で21人を新認定」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年5月31日付)

「焦点 大沢崩れ、その周辺総点検②ノド元の不安はいえず 頼りは土石の封じ込め 上井出 “急所はバイパスガード上下” 低い護岸に高い河床」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年6月1日付)

「不安たえぬ“凍結宣言”自治体まかせの県当局 乱開発規制にも消極的」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年6月3日付)

「不合理な登山バス料金 河口湖口より倍近い高額 市も是正要望」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年6月3日付) ▼▼

「あす関西、四国へ 観光誘致キャラバン」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年6月3日付)

「大気汚染防止に総量規制 50年目標に〇・〇二五PPM 富士宮市 独自の指導指針諮

る 新增設に厳しいけん制」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年6月7日付）

「ヘドロ、軒先を襲う 富士市 鉄パイプにき裂 三百トンが噴出」〔田子の浦港ヘドロ〕  
〔富士川河川敷投棄〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年6月7日付）→「ヘドロ補償  
が妥結」（9月23日付）に続報

「建設委、市道廃止案件審議」〔大石寺〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年6月7日  
付）

「大沢崩れ、その周辺総点検③狩宿～青木 集積土砂の搬出急げ『潤井川は特殊な河川』」  
（『岳南朝日』1973年＝昭和48年6月8日付）

「大型店対策の“切札” 富商ビルが着工」〔大型店舗〕（『岳南朝日』1973年＝昭和  
48年6月10日付）

「戻るか“青い空” 富士の一斉休業で観測 市会公害対策課」（『岳南朝日』1973年  
＝昭和48年6月10日付）

「畑地灌漑で出発 粟倉のボーリング揚水」〔北井久保畑灌〕（『岳南朝日』1973年  
＝昭和48年6月10日付）→「水利用で過疎から脱却」（1973年＝昭和48年1月30  
日付）が第1報、「天水部落さようなら」（1974年＝昭和49年3月13日付）で北井  
久保畑灌が完成「国民宿舎建設促進 田貫湖キャンプ場運営委 湖上祭復活検討」（『岳  
南朝日』1973年＝昭和48年6月12日付）

「観光キャラバン一行帰宮」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年6月12日付）

「富士山の野溪調査着手 まず弓沢川流域一・一\*。建設大 15日、三班に分れて」〔建  
設大中央訓練所〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年6月13日付）

「焦点 大沢崩れ、その周辺総点検（終）復旧事業、まず順調に 一淀師、青木はさみ上  
下に分類一」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年6月15日付）

「法人所得 笑い止まらぬ大企業 大昭和製紙 公害どこ吹く風」（『岳南朝日』197  
3年＝昭和48年6月16日付）

「鉄砲水の跡生々しく 弓沢川で初の野溪調査」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年6  
月16日付）

「山ろくの洞穴探検 七月にケイビング大会」〔日本ケイビング協会〕〔富士山溶岩洞窟  
研究会〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年6月16日付）

「子連れ熊が里へ 北山の角木沢 山菜とりに注意を」（『岳南朝日』1973年＝昭和  
48年6月17日付）

「大気汚染削減指針を了承 富士宮市 公害防止協定も手直し 監視体制の強化要望 公  
害対策審議会」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年6月21日付）

「四工場を摘発 旧排水路そのまま」〔岳南排水路管理組合〕〔ヤミ排水路〕（『岳南  
朝日』1973年＝昭和48年6月21日付）→「県警 四工場手入れ」（7月3日付）に  
続報

「『開発は慎重に』 治山治水同盟総会 野溪調査で報告」（『岳南朝日』1973年＝昭  
和48年6月21日付）

「市道廃止で告発騒ぎ 上杉副議長ら 大石寺など相手どり 審議付託中の案件 建設委  
は継続審議に 協議会開いて決める」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年6月23日付）

「山開まであと四日 夏山富士へダッシュ」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年6月

27日付「カメラの目」)

「夏山受入れ体制着々 本番間近に急ピッチ 山室業者もきょうから荷上げ」〔登山バス〕〔駅前発着〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年6月28日付) ▼▼

「秋には用地交渉へ 大中里地先 潤井川の河川改修」(『岳南朝日』1973年=昭和48年6月28日付)

「焦点 あア“黄害”が流れる 野放しにされたし尿浄化槽 悪臭被害ふえるばかり 増設に追いつかぬ監視」(『岳南朝日』1973年=昭和48年6月29日付)

「富士山をきれいに きょう四Hが清掃登山」〔四Hクラブ〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年6月30日付)

「山、湖オープン きょうから七月 夏、本番入り」(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月1日付)

「富士山の美化推進 12日から清掃運動展開」〔清掃登山〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月1日付)

「富士宮にも光化学被害? 校庭の児童らセキごむ 硫酸雨も襲い目チカチカ」〔光化学スモッグ〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月3日付)

「県警 四工場を手入れ 汚水のたれ流しで」〔ヤミ排水路〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月3日付)

「また硫酸雨降る 市公害対策課 雷雨からも検出」(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月4日付)

「前途厳しい土地不売運動 農地確保に法人組織検討 土地懇幹事会が提案」(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月5日付)

「村山浅間神社と公孫樹 画と文 後藤清吉郎」(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月5日付「すけっちさんぽ」)

「焦点 戦りつの製紙汚水 地に落ちた企業モラル たれ流しで暴露する なお低い責任観念 規制強化も尻抜け 望みうすい“きれいな海” 水質規制」〔岳南排水路〕〔ヤミ排水路〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月6日付)

「6月28日~30日 高かった亜硫酸ガス濃度 各測点で基準超える 公害対策課 硫酸雨の追跡調査」〔大気汚染〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月6日付)

「例外でなかった有害物質汚染 砂泥から微量だが検出 市、二工場の水銀、PCB調査」〔岳南排水路〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月7日付)

「夏山富士、シーズン入り 公共機関も一斉に始動 きょうから電話、郵便も」(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月10日付)

「ダンマリきめこむ建設委 大石寺市道廃止案件 審議せずに散会」(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月13日付)

「自主監視へ一歩 紙業協会 富士宮で立ち入り検査」〔汚水たれ流し〕〔岳南排水路〕〔ヤミ排水路〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月13日付)

「県、小野薬品の建設許可 北山に『フジヤマ工場』進出計画から二年ぶり」〔公害〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月14日付)

「中小四企業が違反 市が重油の抜き取り調査」〔大気汚染〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月14日付)



「新幹線富士駅設置で要望 促進準備会」〔新富士駅〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月14日付）

「管理監視の二重ミス フィルムの薬液流出 きのうも追跡調査 潤井川の PH 正常に戻る」〔富士フィルム〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月15日付）

「富士山の勉強かねて 市婦連が清掃登山」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月15日付「グラフニュース」）

「“市道廃止議案可決して” 上野の四区長らが陳情」〔大石寺〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月17日付）

「ソ連生れのミツバチ きのう県畜産試験場へ 日本産と“見合結婚”も」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月18日付）

「千代田工業が違反 たれ流しで一時停止操業」〔汚水たれ流し〕〔潤井川〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月18日付）

「二、山中が宝永登山 巣箱かけも兼ねる 三中」〔富士宮市立二中〕〔富士宮市立三中〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月18日付）

「子安神社 安産と受胎の守り神 信仰は再び上昇気運 文・小山忠之」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月19日付「岳麓拾遺（1）」）

「危険なブル道下山 遭対協 近く警告板設置」〔ブルドーザー〕〔静岡県山岳遭難事故防止対策協議会〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月19日付） ▼▼

「プモ・リに挑む（1）望月忠 南面の大岸壁に魅力 シェルパ抜きで節減」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月20日付）

「自然と共に親しもう 富士山中を探勝 野鳥や植物が一杯 個性的な山腹」〔表富士二合目〕〔表富士グリーンキャンプ場〕〔ピカ表富士〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月20日付）

「台風接近にガックリ 週末登山に“足止め”」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月21日付）

「養魚用水再利用を検討 業者と非公式に話し合い 市、地下水の保全推進図る」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月22日付）

「平和富士登山 沖縄県代表を迎えて」〔変わり種登山〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月22日付）

「富士の郷土文化掘起し 習慣、地名などテーマに 北高郷研 合宿で民俗調査」〔富士宮北高校郷土研究部〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月22日付）

「0・13PPMで『予備注意報』 光化学スモッグ連絡体制を確立 富士宮市」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月25日付）

「八幡から交歓児童 井之頭小で楽しい集い」〔近江八幡市〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月26日付）

「魚類の安全性についてお知らせ 静岡県 富士宮保健所・富士宮市 富士宮医師会 静岡県公認株式会社富士宮魚市場・富士宮鮮魚買受人組合」〔広告〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月26日付）

「市道廃止、政治的収拾へ 上杉氏ら告発取り下げ 市長に三条件で委任」〔大石寺〕〔創価学会〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年7月27日付）

「プモ・リに挑む(2) 望月忠 キャラバン隊出発 海拔5300mにBC」(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月27日付)

「メドつかぬ処理施設 スラッジ埋立から1年 住民、地下水汚染に不安 建設への足並揃ったが」(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月28日付)

「予備注意報寸前 光化学スモッグ 基本スレスレに迫る」(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月28日付)

「富士山頂で水不足深刻 湯茶も制限 麓から運ぶ業者も」〔山頂水道〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月29日付) ▼▼

「富士山を大掃除 あす、県内登山口一斉に」〔清掃登山〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月29日付)

「市で富士登山客の人員調査」(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月29日付)

「もめた市道廃止終止符 三者(市長、大石寺、学会)が陳謝しケリ 六日の臨時会で可決へ」〔創価学会〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月31日付)

「富士宮市 初の悪臭調査 畜産関係を対象に」〔畜産公害〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月31日付)

「7月31日夜 わくぐりさん 福石神社祭典 城山区氏子一同」〔広告〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年7月31日付)

「富士山に魅せられて 記録を作る渡辺さん 出前で鍛えた足で 今夏で60回の登山」〔渡辺充夫〕〔回数登山〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月1日付)

「50工場に再勧告 紙業協会 排水自主点検で」〔岳南排水路利用工場〕〔ヤミ排水路〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月2日付)

「悪天候もなんのその 変りダネ富士登山賑わう 願いは共通の平和と繁栄」〔変わり種登山〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月2日付) ▼▼

「プモ・リに挑む(3) 望月忠 吹雪の南壁氷河へ 頂上まであと一息」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月3日付)

「市、六社と公害防止協定へ 富士フィルム 共同汽力 両社とも再締結 近く公対審へ諮問、意見聞く 責任の分担明確化図る」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月5日付)

「初の光化学警戒情報 オキシダント許容限越える」〔光化学スモッグ〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月9日付)

「2日つづき『注意報』光化学スモッグ発生 汚染のひどさ痛感 市民に大きなショック 六社へ燃料削減を要請」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月10日付)

「プモ・リに挑む(4) 望月忠 ついに頂上を極める 果したプモリ30万円説」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月10日付)

「阿蘇から富士山へ 第16回自然公園大会 来夏、朝霧高原で開催決定 県、地元が受入れ体制へ」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月12日付)

「地元市議に協力要請 市長、駅前拡幅問題で」〔駅前整備〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月12日付)

「また光化学注意報 高濃度が長時間出現」〔光化学スモッグ〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月14日付)

「二次公害防止に汚染源へメス 保健所が初の巡回調査 スラッジぶっせきひょうの提示も」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月15日付)

「スモッグ拭い払う 久しぶり夏山富士も」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月15日付)

「7時間40分の長時間数記録 13日の光化学注意報」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月15日付)

「イライラ、逆戻り また光化学注意報出る」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月21日付)

「公害の原点『水俣』を訪ねて(1)松浦克巳」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月21日付)

「公害の原点『水俣』を訪ねて(2)松浦克巳」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月22日付)

「祥禅寺 鎌倉時代の開基か?“内房の元祖”の説も残る 文 小山忠之」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月23日付「岳麓拾遺(2)」)

「公害の原点『水俣』を訪ねて(3)松浦克巳」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月23日付)

「山ろくに国民休暇村計画 郵政省が白羽の矢たつ きょう市長らに構想説明」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月24日付)

「公害の原点『水俣』を訪ねて(4)松浦克巳」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月24日付)

「関東へ観光キャラバン あす打合せ会」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月24日付)

「国民休暇村の計画 有力候補に猪之頭周辺 条件整えば市も協力 宿泊施設は五百人収容」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月25日付)

「公害の原点『水俣』を訪ねて(5)松浦克巳」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月25日付)

「大石寺 創価学会 関係改善に乗り出す 市当局が定期協議へ 来月早々、懇談会開く」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月26日付)

「公害の原点『水俣』を訪ねて(6)松浦克巳」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月25日付)

「公害の原点『水俣』を訪ねて(7)松浦克巳」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月28日付)

「文字消えてマス 村山の杉 説明板も老朽化?」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月29日付)

「創価学会 米国から三千人 今秋、大石寺で全米総会」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月29日付)

「公害の原点『水俣』を訪ねて(8)松浦克巳」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月30日付)

「公害の原点『水俣』を訪ねて(9)松浦克巳」(『岳南朝日』1973年=昭和48年8月31日付)

「白糸の滝へ27万人 富士登山客ふえる 夏の行楽総決算」〔登山者数〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月1日付）▼▼

「市道路線廃止事件の責任とり 市長、助役が減給処分 四管理職に戒告、訓告」〔大石寺〕〔市道廃止〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月2日付）

「光化学スモッグ 八月は四回発生 暑い夏に“招かざる客”」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月2日付）

「白糸の念仏講 北高郷研が追跡調査」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月2日付）

「富士山ハイクバスにぎわう 毎日曜・祭日に運転」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月5日付）

「大気汚染防止 市、低いおう化推進 来月から一・五%以下に 対象25工場の指導強める」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月7日付）

「稲子で移動保健所開く」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月7日付）

「富士山ろくに温泉のユメ 地下六百メートルを掘さく グリーンパーク 静岡市の企業も申請 早くも“熱い競争”展開」〔朝霧グリーンパーク〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月7日付）

「富士山が初冠雪」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月9日付）

「にぎわった表富士周遊 今夏11万台繰込む 44%が新五合へ登山」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月11日付）▼▼

「拓友の霊安かれ 静岡で大会 地元から多数参加」〔満蒙開拓義勇軍〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月13日付）

「起工式まで三年 18日現地で 小野菜品フジヤマ工場」〔柔道体育大学〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月14日付）

「ルポ 恩地養宗と杉田用水（1）ノミ一つで岩削る 延長六百メートルの約半分」〔安養寺〕〔『静岡県城址史』横山武男ほか編、静岡同好通信社、1968〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月20日付）

「源頭部対策で新工法導入 地盤改良して崩壊防止 来月から“手さぐり実験”へ 建設超砂防事務所」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月20日付）

「ルポ 恩地養宗と杉田用水（2）三年余日で完成 大般若経も質入れする」〔安養寺〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月20日付）

「ルポ 恩地養宗と杉田用水（3）寺を追われた養宗 浮島沼の干拓に出向」〔安養寺〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月22日付）

「ルポ 恩地養宗と杉田用水（4）水枯れも知らずに 付録に縄文の土偶」〔『史話と伝説』松尾書店〕〔『富士南麓郷土史談』佐野要吉〕〔『警察だより』小長谷宗芳〕〔富士宮北

高郷土史研究部〕〔安養寺〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月23日付）→この土偶に関して「安養寺（杉田）の土偶など」（1992年＝昭和57年1月29日付）に関連記事

「ヘドロ補償が妥結 輸送管破裂事件 二千五百万円で」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月23日付）←「ヘドロ、軒先を襲う」（6月7日付）が第1報

「ゴルフ場の開発行為で現実的な検討を示唆 植松市長『土地凍結の精神崩さぬ』」（『岳

南朝日』1973年＝昭和48年9月27日付)

「金之宮神社」〔イワナガヒメ〕〔小山忠之〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月28日付「岳麓拾遺(3)」)

「東の“さいはて”に陽の目 千貫松一次郎長線 農免道路工事開始 神成一杉田の距離が大幅短縮」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月28日付)

「企業に厳しい姿勢 公害防止協定修正案まとまる 公対審小委」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月29日付)

「四百年目の引越し 重林寺の解体始まる」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年9月29日付)

「製紙会社、またたれ流し 県 一週間の施設停止処分 社長は議会厚経委員長」〔岳南排水路〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年10月3日付)

「秋の村山路めざして 市民あるけあるけ実施」〔富士根北小〕〔村山浅間神社〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年10月3日付)

「稀本『富士の研究』全六巻複刻版が刊行」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年10月7日付)

「“ノー政”の特産ダウン 葉たばこ事務所が閉鎖 農協に移管、明け渡し 黄金時代は30年代まで」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年10月13日付)

「青年会議所も“縁組” 富士宮・近江八幡仲よく」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年10月13日付)

「相次ぐ外来大型資本進出 長崎屋が富士宮駅前に 明年七月オープン予定」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年10月17日付)

「清掃センター機種決る 公害除去設備に重点 メーカーは三菱重工に」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年10月18日付)

「市民はブルブル 富士山は一面銀世界」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年10月18日付)

「上井出 光立寺 身延総本山の直末に 二度の大災、宝物も失なう」〔小山忠之〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年10月18日付「岳麓拾遺(4)」)

「山ろくへ林間学校施設 町田市(東京)が人穴へ計画 地元市も協力 用地確保にメド」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年10月21日付)

「冬将軍は馳足で 富士山、雪でスッポリ」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年10月21日付「グラフニュース」)

「公害防止協定修正案承認 行政の指導権限強める 公害対策審議会 企業側の責任明文化」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年10月23日付)

「『ビルに太陽が奪われる』長崎屋の計画変更訴う 日陰になる隣接住民」〔大型店〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年10月25日付)

「大型店ユニー開店の反響 地元商店、売上げガタ落ち 三時間で五万人集める」(『岳南朝日』1973年＝昭和48年10月28日付)

「基準超える富士宮 窒素酸化物 光化学の原因物質」〔光化学スモッグ〕(『岳南朝日』1973年＝昭和48年10月28日付)

「新五合目から SOS 北高登山部員ブルブル」〔遭難〕(『岳南朝日』1973年＝昭和

48年10月30日付)

《新五合目から SOS 北高登山部員ブルブル

低気圧の通過した二十八日、富士宮北高登山部生徒が同高創立記念日の富士登山・お中道めぐりのコース探索に出かけ、遭難直前の苦い目にあった。

一行は生徒十二人、顧問の先生二人と計十四人で二十七日午後同校を出発、表口六合目の山室へ一泊。二十八日あさ八時ごろ同所を出発、同八時半ごろ宝氷山火口に達し間もなく御殿場側尾根に回ったとき身体ごと吹きとばされそうな強風に会い、あわせて頬をなぐりつけるような雨に打たれ目的地の吉田口五合目ゆきをあきらめた。

ところが、富士急バスが運休していたため新五合目売店で立ち往生。車を呼びたくても電話がなくて途方に暮れた。引率の先生が学校へ無線連絡をとったが応答なし。たまたま静岡市内のアマ無線家がこのSOSをキャッチ、同校へ電話連絡した。

これを受けた同校では中山教頭の陣頭指揮で直ちに自家用車五合を繰り出し、午後三時すぎ、新五合目の一行を救出して帰校した。》(『岳南朝日』1973年=昭和48年10月30日付)

「すけっちさんぽ(5)大沢の景観 絵と文 植松貞治」(『岳南朝日』1973年=昭和48年11月1日付)

「治山治水の推進で陳情 大沢砂防区域拡大など 期成同盟会 建設省や環境庁へ」〔大沢崩れ〕〔富士治山治水同盟会〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年11月6日付)

「好天に恵まれ12万 浅間神社祭典にぎわう」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年11月6日付)

「四国へ富士山観光共同宣伝 四市二町の自治体」(『岳南朝日』1973年=昭和48年11月6日付)

「郷土史同好会発足 成人学校修了者が参加」〔富士宮郷土史同好会〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年11月7日付)

「元気にお中道巡り 北高」〔富士宮北高〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年11月7日付)

「苦悩つきぬ地元商店街 西友、丸井も進出ねらう『共存共栄の時期過ぎた』」〔大型店舗〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年11月9日付)

「進出迫った長崎屋 商業部会と初顔合せ きびしく迎える地元」〔大型店舗〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年11月9日付)

「富士山中腹を踏査 農業開発協議会 草地造成を推進」〔富士山麓農業開発協議会〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年11月11日付)

「年商額20億円を見込む 長崎屋 地元へ初めて説明 初交渉は物別れ 長崎屋の日照権侵害」〔大型店舗〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年11月16日付)

「“本宮の伯父”を祭る阿幸地の悪王子神社」〔カブツチノミコト〕〔小山忠之〕(『岳南朝日』1973年=昭和48年11月21日付「岳麓拾遺(5)」)

「特集 初冬の北麓を歩こう」(大沢・御庭・青木ヶ原) (『岳南朝日』1973年=昭和48年11月21日付)

「郵政省の計画『国民休暇村』函南へ 富士宮 候補地から落ちる」(『岳南朝日』1973年=昭和48年11月23日付)

「川が澄み、港にカモメが 水質規制に節約プラス？ スラッジの投棄も減少」〔オイルショック〕〔公害〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年11月23日付）

「いしぶみ 富士登山道標」〔山辻〕〔右富士山〕〔道者道〕〔郷土資料館〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年12月2日付） ▼▼

「新五合に休憩舎 来夏オープン 掘込み式で完成」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年12月5日付） ▼▼

「73 ニュースその後①土地防衛 土地不売～土地凍結 ブームに急ブレーキが 大きな動きはパッタリ “林業経営のも指針” 地に戻るか？ 造林意欲 食糧生産に励み 空気をきれいに『土地は生命の源だ』凍結の軌跡」（『岳南朝日』1973年＝昭和48年12月7日付）

「12月定例会 大石寺、学会との協力強調 植松市長『借入れはこんごも』」〔創価学会〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年12月8日付）

「きょうオープン 日本ランドスキー場」〔イエティ〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年12月9日付）

「柚野 三沢寺“交通寺”で再建へ 栄光極めた戦前まで」〔小山忠之〕（『岳南朝日』1973年＝昭和48年12月27日付「岳麓拾遺（6）」）

## ■ 1974年＝昭和49年

「北高郷研部 富士市の民俗調査から 上 習慣に似通った“岳麓住民”にじみ出る生活悲喜劇」〔富士宮北高郷土研究部〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年1月9日付）

「近郊周辺へ広がる公害 昨一か年の苦情 騒音、水質など大幅増」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年1月10日付）

「北高郷研部 富士市の民俗調査から 下 父祖も苦しむ潤井川出水 心のつながる“はい親・子”」〔富士宮北高郷土研究部〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年1月11日付）

「農用地設定で県が認可 調整区域の80%にアミ 六地区に分け整備計画推進」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年1月12日付）

「営林署と初懇談 山ろく開発協 国有林開放訴える」〔富士山ろく農業開発協議会〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年1月12日付）

「産業廃棄物監視厳しく 機動班結成して調査 富士宮・富士保健所が結足」〔産廃〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年1月13日付）

「50年前も暗かった『白糸村史』見つかる 不況下に節約大号令 自治会々則作り対処」〔『富士宮市史 下』〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年1月18日付）

「“富士山はだれのもの” 帰属問題、近く判決か 一、二審は神社が勝訴 最高裁審理も七年目」〔浅間大社〕〔山頂裁判〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年1月19日付）

「クローズアップする水資源 ただ同然の工業用取水『既得権再検討の時期』本州の場合 日量二万ト、年間11万円」〔地下水〕〔本州製紙〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年1月20日付）

「富士川火力反対協開く 一市四町事務担当者」〔富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕

(『岳南朝日』1974年=昭和49年1月22日付)

「富士根畑総スタート 五か年計画で農地整備」(『岳南朝日』1974年=昭和49年1月22日付)

「市が有害物質汚染調査 土壌、農作物まず大丈夫 微量検出したが基準以下」(『岳南朝日』1974年=昭和49年1月27日付)

「物心交流の中継点 富士川舟と“沼久保港”」(『岳南朝日』1974年=昭和49年1月31日付「岳麓拾遺(7)」)

「焦点 シリーズ水の公共性考える①本州取水問題『常識だった反対行動』契約発効から20年“不合理”指摘する声も」〔地下水〕〔本州製紙富士根工場〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年2月1日付)

「富士の麓で雪遊び にぎわう日本ランド」〔イエティ〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年2月3日付「グラフニュース」)

「焦点 シリーズ水の公共性考える②現況と問題点 自然秩序の認識を 私有できぬ生命の源 乱取?地下水利用」(『岳南朝日』1974年=昭和49年2月8日付)

「土地凍結二年目の富士宮 事前審査前の検討再開 最終的に二、三社にしぼる? 審査保留の事業」(『岳南朝日』1974年=昭和49年2月10日付)

「焦点 シリーズ水の公共性考える③佐野正夫:回収水に力入れよ 目的に沿う再配分も阿部英雄:“公共性”を具現せよ 利用面だけ考えるな」(『岳南朝日』1974年=昭和49年2月15日付)

「悪臭公害も引越し“新天地”求めた養鶏団地 地元酪農家は大弱り」〔広見養鶏団地〕〔畜産公害〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年2月22日付)

「千代田工業のたれ流し 刑事事件で捜査を開始 利子補給も生かされず」〔公害〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年2月27日付)

「市、たれ流しに断固“制裁”利子補給返還と停止処分」〔千代田工業〕〔公害〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年2月28日付)

「水利権などで論議 二月定例議会 一般質問幕開け」〔地下水〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年2月28日付)

「万野開拓の原点に 苦闘を支えた琴平神社 小山忠之」(『岳南朝日』1974年=昭和49年2月28日付「岳麓拾遺(8)」)「亦八郎の墓碑建立 護持会 秋の彼岸までに」〔富士大宮司家墓所護持会〕〔富士亦八郎〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年3月3日付)

「表面チェック開始 扇状地のグラウド実験」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年3月6日付)

「お山もグンと高く 夏山物価、一斉に値上げ」〔ワラジ〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年3月10日付) ▼▼

「苗木出荷が最盛期へ 今年は四百万本“乱開発”で造林後退」(『岳南朝日』1974年=昭和49年3月10日付)

「社長らを書類送検 千代田工業たれ流し事件 汚濁法違反で」〔公害〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年3月12日付)

「天水部落さようなら 26日、待望の通水 北井久保畑かん完成」〔北井久保畑灌〕(『岳



南朝日』1974年＝昭和49年3月13日付) ▼▼

「十一面観音大画像と御開帳 星山大悟庵祭典」(『岳南朝日』1974年＝昭和49年3月16日付)

「スラッジ、瀬戸際作戦 メド立たぬ共同処理工場 産廃処理推進協“投棄場所変更”で当座凌ぐ」〔富士宮産業廃棄物共同処理協議会〕(『岳南朝日』1974年＝昭和49年3月20日付)

「“二次公害の恐れ強い”スラッジ焼却場に反対 富士市大淵住民が硬化」〔富士製紙協同組合〕(『岳南朝日』1974年＝昭和49年3月24日付)

「区めぐり 宮本区 “社人町”の風格遺す 浅間神社と一体で生息」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1974年＝昭和49年3月24日付)

「妻子を殺し姿消す 村山で無理心中 夫の行方を追及」〔与五沢軍司〕(『岳南朝日』1974年＝昭和49年3月26日付)

「国民宿舎誘致を強力に 田貫湖畔へ 49年度は見込み薄」(『岳南朝日』1974年＝昭和49年3月28日付)

「富士山共同宣伝で打合わせ会」〔富士地区観光協議会〕(『岳南朝日』1974年＝昭和49年3月28日付)

「大石寺から買収 土地開発公社 駅前改造の代替地」〔駅前整備〕(『岳南朝日』1974年＝昭和49年3月28日付)

「大悟庵 秀吉の保護で栄える『星山観音』になじみが 小山忠之」(『岳南朝日』1974年＝昭和49年3月28日付「岳麓拾遺(9)」)

「来月七日に歩けあるけ 桜の天母山へ」(『岳南朝日』1974年＝昭和49年3月30日付)

「与五沢の手掛りなし 妻子殺し きょうで一週間」〔与五沢軍司〕(『岳南朝日』1974年＝昭和49年3月30日付)

「妻子殺し 与五沢、自殺体で 一週間ぶり、富士山で発見」〔与五沢軍司〕(『岳南朝日』1974年＝昭和49年4月2日付)

「ミミズで製紙カス処理 百万匹、富士宮市へ 養殖して食わせる」〔スラッジ〕〔産廃〕(『岳南朝日』1974年＝昭和49年4月2日付)

「初日で三百人も 夏の田貫湖施設予約スタート」(『岳南朝日』1974年＝昭和49年4月2日付)

「ヤマメ帰るには程遠い BCD、いぜん基準超す 支川の雑排水流入が原因」(『岳南朝日』1974年＝昭和49年4月4日付)

「池田山で桜祭り 大石寺が地元を招待」(『岳南朝日』1974年＝昭和49年4月4日付)

「さよなら、天水部落!! 北井久保の悲願実る」〔畑灌〕〔地下水〕(『岳南朝日』1974年＝昭和49年4月3日付「カメラの目」)

「58万トンさらう 田子の浦港 月末には 完了か」〔ヘドロ〕(『岳南朝日』1974年＝昭和49年4月5日付)

「富士川火電反対連協打合会 一市四町」〔富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕(『岳南朝日』1974年＝昭和49年4月9日付)

「浅間神社勝訴 最高裁、上告棄却」〔山頂裁判〕〔浅間大社〕（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月10日付）▼▼

「駅前広場用地買収第一号 まず日通と市が契約」〔駅前整備〕（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月10日付）

「富士宮でも一三〇<sup>mm</sup>の雨」〔豪雨〕（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月10日付）

「星山放水路が完成 26日に通水式举行 潤井川下流の安全OK」（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月10日付）

「石原地区の地下水調査 水脈つきとめる」（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月10日付）▼▼

「富士宮の光化学スモッグ 出現率多い高濃度 市公害対策課 昨夏の分析まとめる」（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月17日付）

「富士宮市 ゴルフ場の審査開始 きびしい基準、条件付け 当面は保留中の十社を」（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月19日付）

「登山バス 五年間の論争に終止符 今夏から駅前が発着 神社は“停留所”に」〔駅前発着〕（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月21日付）▼▼

「山頂郵便運び20年 渡辺さんを表彰 通信記念日」〔渡辺英一〕〔回数登山〕（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月21日付）▼▼

「旧登山道の散策継続 郷土研究の『出田阿会』」〔富士宮北高郷土研究会〕〔**村山古道探査最初の記事**〕〔井出健〕〔機関紙?■〕（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月21日付）▼▼ ←遠藤秀男氏の紹介で井出健氏と面談したことがあるが、記録も資料も残っていないということであった。

「『富士保全法案』で陳述 植松市長、きょう国会で 参考人として出席」〔富士地域環境保全整備特別措置法〕〔植松義忠〕（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月24日付）

「富士山国有林で植樹祭」〔静岡営林署〕（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月24日付）

「富士宮駅 電車利用10%減 マイカー攻勢やまず“石油危機”も救いの外」（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月25日付）

「新五合休憩所 五月から営業」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月25日付）

「凍結ゴルフ場 審査再開は選挙後に 議会特別委 当局方針を了承 アサヒカントリーの申請返却」（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月27日付）

「登山ルート開通 あすから表富士周遊道」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月27日付）

「星山放水路 どよめきの中で通水式 知事ら完工祝う」（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月27日付）

「星山放水路が通水 下流の安全は大丈夫」（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月28日付「グラフニュース」）

「新芽吹く富士山でにぎやかに植樹祭」〔静岡営林署〕（『岳南朝日』1974年=昭和49年4月28日付「グラフニュース」）

「光化学の監視観測強化 初の試み、スモッグ予報 時間変化の追跡調査も 富士宮、早

くも“黄信号”」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月3日付）

「大淵への建設断念 スラッジ焼却施設 住民無視たたる」〔富士製紙協同組合〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月3日付）

「新五合目の休憩所 新装なって開店」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月3日付）



「運動、開放から貸与へ 国有林払下げ 社会情勢の変化で」〔富士山ろく開発協議会〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月5日付）

「天子ヶ岳 植物調査の一年 先生たちが毎月登山」〔富士宮市理科同好会〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月5日付）

「ジャンボ連休大詰めに 登山ルートに人気 5合目に新名所」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月5日付「グラフニュース」） ▼▼

「富士南ろくに“桜の園”建設省が国立で計画 1000畝を買収して」〔日本さくらの会〕〔船田中〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月8日付）

「大型連休の総決算 富士宮地方 マイカーは大幅減 好天のまつりにどっと」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月8日付）

「宝永火口に変死体 雪中訓練のパーティー発見」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月8日付） ▼▼

「導流堤中心に整備 大沢くずれ 本年度砂防予算決る」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月15日付）

「裏山で巣箱かけ 粟倉分校 保護と観察兼ねて」〔富士根北小粟倉分校〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月16日付）

「西駅まで 複線化延長 身延線改善促進期成同盟会」〔西富士宮駅〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月17日付）

「焦点 大沢くずれその源頭部をみる 速まる崩壊ペース 年平均20万立方畝余も“精算速度ゆるめろ” エネルギー分散させて」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月17日付）

「区めぐり 阿幸地 分断したバイパス 交通規制に強い不満“自力”で規制解除へ」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月17日付）

「建設大で公開講座 学者招き特別講演」〔中央訓練所〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月19日付）

「警報テレメーター化 市県 光化学対策に期待」〔光化学スモッグ〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月23日付）

「ボロボロの白骨 心中か、富士山で発見」〔土屋次美〕〔新五合目下〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月23日付）

「大石寺へ168万人 国鉄、バス輸送機関 正本堂完成で前年の倍」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月23日付）

「一部修正と補償で 長崎屋日照権紛争解決」〔大型店舗〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月24日付）

「初夏の森を歩く さわやかな自然休養林 表富士 キャンプ場に人気集まる」〔グリー

ンキャンプ場〕〔ピカ表富士〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月24日付）  
「観光協会が総会開く 事業計画きめる」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月26日付）  
「長崎屋に照準 商連 大型店対策を強化」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月28日付）  
「子熊の父親？射殺 体重百キロの大物ノソリ ハンター、見事に命中」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月28日付）  
「遭難対策を協議 遭対協 来月一日の総会で」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月29日付）  
「亜硫酸ガス 杉田で高濃度出現 記録紙を振切る」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月30日付）  
「富知神社 土俗信仰で立つ？ 浅間本宮の父まつる」〔大山津見神〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年5月31日付「岳麓拾遺（10）」）  
「大気汚染との関連追究 第三次気道疾患調査 富士宮市医師会が七月から実施」〔公害病〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月1日付）  
「山男の保険金増額 山岳対策協が陳情へ」〔静岡県山岳遭難対策協議会〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月2日付）▼▼  
「メッキ汚泥と古タイヤ処理 機動班が警告」〔産廃〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月2日付）  
「芝川の農用地設定認可 実面積で四八五<sup>㊦</sup> 目玉は柚野の水稻、酪農」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月2日付）  
「関西へあす出発 観光キャラバン隊」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月2日付）  
「富士地区製紙工場 工業ガスに切換え 基地を建設 いおう酸化物削減」〔亜硫酸ガス〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月2日付）  
「神戸麗山の絵馬を発見 万延の富士を描く 浅間神社の土蔵に眠る」〔浅間大社〕〔金森安彦〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月2日付）▼▼  
「今夏、朝霧公園に3千人 第16回自然公園大会 地元も受入れ体制へ」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月5日付）  
「メッキ排水たれ流し 白糸工業 県が操業停止処分〔水質汚濁防止法〕」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月9日付）  
「につつき野ねずみ 山ろく農林業に大打撃 植林幼木をボリボリ 牧草畑へダニばらまく」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月14日付）  
「新雪、富士に輝く つゆも中休み」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月16日付）  
「近代酪農のアキレスケン 開拓で放牧病調査」〔ピロプラズマ症〕〔野ねずみ〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月16日付）  
「大滝で220<sup>㊦</sup> 富士山ろくに大雨 星山放水路、初開放 各所で小被害でる」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月19日付）  
「西駅へ急行停車を 地元商店主らが陳情」〔身延線〕〔西富士宮駅〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月19日付）  
「姿消した登山道 落石もゴロゴロ 山開き前までに整備」〔富士宮口登山道〕〔ブルド

ーザー〕〔富士山運搬組合〕〔衛生センター〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月19日付）▼▼

「衛生センター改修 予想以上の荒れぶり」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月21日付）

「間引き停車の可能性を示唆 西駅急行停車問題」〔身延線〕〔西富士宮駅〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月21日付）

「登山バス 値上げトバッチリ 旧料金パンフで大あわて」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月21日付）

「日々活気づく白糸の滝 すでに夏一色」〔写真〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月21日付）

「夏山もシーズンに【山】【周遊道路】【有料道路料金】」〔スカイライン〕〔富士宮口砂走り〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月21日付「レジャー」）←一部▼▼

「浅間神社青年会が清掃登山」〔富士宮浅間神社青年会〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月22日付）

「大雨に威力を発揮 星山放水路、初めて開放」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月23日付「グラフニュース」）

「屋根にポッカー大穴 ブルに押され岩石ゴロゴロ」〔富士宮口登山道〕〔富士山測候所〕〔ブルドーザー〕〔富士山運搬組合〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月23日付「グラフニュース」）

「四トン車一台分も 富士山の空カン集め」〔富士宮浅間神社青年会〕〔清掃登山〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月26日付）

「八合目でトンテンカン 衛生センターの改修工事」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月30日付「グラフニュース」）

「田貫湖のヘラ釣りシーズン」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月30日付「グラフニュース」）

「あす夏山開き 登山客受入れOK サービス機関10日すぎから開設」〔駅前発着〕〔奥宮〕〔山頂電話〕〔山頂郵便局〕〔衛生センター〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月30日付）▼▼

「婦人会員も清掃 四日に富士登山」〔富士宮市婦人団体連合会〕〔清掃登山〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年6月30日付）

「ヘドロを不法投棄 富士宮署も調べる 市、撤去申し渡す」〔スラッジ〕〔産廃〕〔青葉工業〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年7月6日付）

「長雨にため息 空車の富士登山バス」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年7月6日付）

「夏山富士開く 一番バスおはらい受けて」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年7月7日付「グラフニュース」）

「ガケ崩れや浸水 台風余波 富士宮地区にも影響 身延線ダイヤ乱れる」〔豪雨〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年7月9日付）

「久須志の宮全焼 乾燥のふとんに引火」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年7月9日付）

「山頂で焼跡整理 氏子青年たちが登山」〔浅間大社〕〔富士宮浅間神社氏子青年会〕〔加

藤彰久] (『岳南朝日』1974年=昭和49年7月11日付)  
「近江八幡から登山」〔富士と琵琶湖を結ぶ会〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月11日付)  
「大宮司家墓所護持会で総会」〔後藤忠男〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月11日付)  
「山頂に初めて薄日 本社-奥の宮でモンモン 焼跡整理(久須志宮)すすむ 開山祭。きょうに延ばし」〔奥宮〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月12日付)  
「山室も泊客ゼロ 登山バス 乗客前年の1/3」(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月13日付)  
「生し尿を不法投棄 青木 住民が市へ訴え」〔畜産公害〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月13日付)  
「富士宮にも“酸性の雨”無風状態の霧にご注意 逆転層で拡散せず」(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月14日付)  
「富士山の山室を衛生監視 保健所18日登山」〔山室衛生〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月16日付)  
「落石事故の未然防止を 富士宮署長 市長に勧告依頼」〔登山道整備〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月18日付) ▼▼  
「四Hクラブが清掃登山」(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月18日付)  
「随想 落ち目の表口富士宮 昔家九百助」〔駅前発着〕〔駅前富士山案内所〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月18日付) ▼▼  
「ことしは琵琶湖畔で… 富士宮・近江八幡 児童生徒交歓会」(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月19日付)  
「区めぐり 人穴区 開墾グワふるって『明るい酪農地帯』へ…」(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月19日付)  
「高山植物と野鳥と 自然と親しむ会 31日、市立公民館主催で」(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月20日付)  
「ゴミ持ち帰り運動展開 山静両県が協力して 富士山の美化を推進」〔富士山美化推進協議会〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月20日付)  
「外国人が施設慰問 大石寺夏季講習のメンバー」(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月20日付)  
「23日ぶりの青空 県下もつゆ明け宣言 富士山もさわやかに 二中調べ 雨量、前年の四倍余」〔豪雨〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月23日付)  
「トラック一台分 四Hの富士山清掃」〔清掃登山〕〔四Hクラブ〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月24日付)  
「低公害バス開発へ 富士急 登山用で研究依頼」〔登山バス〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月25日付)  
「夏山富士に降雪 登山客もブルブル」(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月25日付)  
「三年目迎えた民俗調査 夏休みを利用してことしは吉原地区で 北高郷研部」〔富士宮北高郷土研究部〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年7月26日付)

「認可に明るい見通し 金指学園星陵高校問題 来月六日に審議会開催」 (『岳南朝日』1974年=昭和49年7月27日付)

「山や湖へどっと 夏休み入り初の週末 きょう、増発バスも用意」〔登山バス〕 (『岳南朝日』1974年=昭和49年7月27日付)

「富士と琵琶湖を結ぶ会来宮 今夜、歓迎交歓会も」 (『岳南朝日』1974年=昭和49年7月27日付)

「青見 先照寺 往時は“大樹の下”戦後は『民』の支えで… 小山忠之」 (『岳南朝日』1974年=昭和49年7月29日付「岳麓拾遺(11)」)

「大沢防災に取組む富士宮農高土木科生徒 潤井川の流砂を観測 毎月一回、人海作戦で研究発表で最高位賞」〔大沢崩れ〕 (『岳南朝日』1974年=昭和49年8月2日付)

「スラッジ処理施設完成 鷹岡地区の共同焼却場 八日に火入れ式」〔岳南第一製紙共同組合〕 (『岳南朝日』1974年=昭和49年8月3日付)

「自然公園大会あす開幕 朝霧へ全国から三千人 栄火行事や野外活動」 (『岳南朝日』1974年=昭和49年8月6日付)

「光化学スモッグ 連日ヒヤヒヤ続き 神経とがらせる公害対策課」 (『岳南朝日』1974年=昭和49年8月10日付)

「市長さん富士登山 帰属裁判勝訴を表敬」〔山頂裁判〕〔植松義忠〕〔奥宮〕 (『岳南朝日』1974年=昭和49年8月10日付)

「研修で指導力強化 公害防止管理協 会員増も推進」 (『岳南朝日』1974年=昭和49年8月10日付)

「星陵高校10年ぶり実現へ 来春四月開校は確定的 市、土地所有権移転で助言」 (『岳南朝日』1974年=昭和49年8月13日付)

「契約再改定検討を 建設委協議会 工業用水で要望」〔地下水〕 (『岳南朝日』1974年=昭和49年8月13日付)

「公害防止 フィルムと再協定 総量規制的な考え導入 富士宮市 手直し案諮問へ」 (『岳南朝日』1974年=昭和49年8月14日付)

「今年も平和登山 歓迎キャンプや集会も」〔変わり種登山〕 (『岳南朝日』1974年=昭和49年8月14日付)

「南と北で光化学スモッグ調査 原因物質の成分にメス 20日から富士宮で 汚染の動きも追う」 (『岳南朝日』1974年=昭和49年8月15日付)

「遭難の老女遺体で 富士山で一年ぶり発見」〔吉田とり〕 (『岳南朝日』1974年=昭和49年8月18日付) ▼▼

「モグリ運搬業者を検挙 産廃処理で大もうけ インキカス投棄で足がつく」 (『岳南朝日』1974年=昭和49年8月20日付)

「夏山でご苦労さん 山頂郵便電話の店閉い」 (『岳南朝日』1974年=昭和49年8月20日付)

「あす清掃登山 四百人が人海戦術で」 (『岳南朝日』1974年=昭和49年8月21日付)

「焦点 スラッジ生理立て、いつまで? 合法。期限なしだが『好ましくない生処理』地元業界『努力はしている』市外からの流入も心配」 (『岳南朝日』1974年=昭和49年8月21日付)

年8月23日付)

「富士山を大掃除」(『岳南朝日』1974年=昭和49年8月25日付)

「威力みせる大気汚染測定車 光化学スモッグ調査」(『岳南朝日』1974年=昭和49年8月25日付「グラフニュース」)

「大滝で781ミリ“迷走台風”14号 芝川水系が異常水位 潤井川 星山放水路が大活躍 富士急バスも22本運転中止」〔豪雨〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年8月27日付) ←一部▼▼

「山頂裁判 立役者13氏が故人に 近く慰霊祭で報告 浅間神社『力となった言動』」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年8月28日付)

「大気汚染と健康追求 養護教諭がアンケート調査」(『岳南朝日』1974年=昭和49年8月28日付)

「汚濁、進行する恐れ 原因は下水の流入 田貫湖はふとり気味？」(『岳南朝日』1974年=昭和49年8月29日付)

「植松市長 スラッジ埋立てで言明 新規持込み認めぬ」(『岳南朝日』1974年=昭和49年9月3日付)

「久須志宮が再建 焼失してから一カ月半で」〔山頂ホテル〕〔宮崎利夫〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年9月4日付)

「渋かった夏休み 富士山と南ろく観光総決算 オイルショック響く マイカー減りバス利用増」(『岳南朝日』1974年=昭和49年9月8日付) ▼▼

「温泉へのユメかけて ボーリング進む グリーンパーク」〔朝霧高原〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年9月8日付)

「随想 天子ヶ岳の法印(1)風雨の山越え 岡本なゝを」(『岳南朝日』1974年=昭和49年9月10日付) ▼▼

「随想 天子ヶ岳の法印(2)脳天に穴あく 岡本なゝを」(『岳南朝日』1974年=昭和49年9月11日付) ▼▼

「特集 東海自然歩道を歩く 史跡も豊富に点在 目を楽します草花」(『岳南朝日』1974年=昭和49年9月13日付)

「牧草地在隠れミノ 野ねずみの消長調査」(『岳南朝日』1974年=昭和49年9月17日付)

「スラッジの行方を追って① 現場ルポ 静教祖富士支部公害対策委視察から 山林を崩して埋立て」〔松浦克己〕〔産廃〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年9月20日付「焦点」)

「スラッジ仮置き限界へ 富士 操短で減量化図る」(『岳南朝日』1974年=昭和49年9月26日付)

「曾我八幡宮 上井出 祭られた曾我兄弟 小山忠之」(『岳南朝日』1974年=昭和49年9月26日付「岳麓拾遺(12)」)

「名実ともに複線化 壱堀-入山瀬間 午前零時期し開通 身延線」(『岳南朝日』1974年=昭和49年9月27日付)

「焦点 スラッジの行方を追って②内山町で反対運動 えぐられた岩本山で なし崩し延長警戒」〔産廃〕〔公害〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年9月27日付)



「天母山開発など議題に 一日、市と大石寺・創価学会が懇談会」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年9月29日付）

「懇談会で表明 大石寺・創価学会 どっさり、おみやげ 教育基金に二億円寄付 万野の土地も造園して 天母山は公園を計画」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年10月2日付）

「長崎屋 デパート並みの規模 年商額27億円をめざす 開店は明年四月 地元、動揺隠しきれず」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年10月4日付）

「紅葉の村山浅間へ 秋の市民歩け歩け運動」〔富士宮市教育委員会〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年10月4日付） ▼▼

「建設大で公開講座開く」〔長沢亮太〕〔青年中央訓練所〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年10月4日付）

「公害認定患者に企業責任 賠償法で負担金徴収 フィルムから焼却場まで 市内は十企業が対象に」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年10月5日付）

「土地の動きパツタリ ゴルフ場など軒並み 総需要、不動産を直撃」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年10月10日付）

「白糸滝ドライブイン 十月末で小田急へ身売り 負債で経営難に」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年10月10日付）

「根北中で『北峰祭』創立25年の記念も」〔富士根北中〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年10月16日付）

「水資源に取り組む 市民協が研修会開く」〔富士宮市公害対策市民協議会〕〔地下水〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年10月23日付）

「27日にオープン 日本ランドスケート場」〔イエティ〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年10月23日付）

「富士 自然破壊の造成に抗議 市民二団体が実力阻止 行政指導無視のゴルフ場」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年10月27日付）

「ペダルを踏んで富士登山」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年10月27日付「グラフニュース」）

「最高は91歳の旧軍人 夏山富士山の高齢登山者 三八八人が頂上へ」〔浅間大社〕〔高齢者登山〕〔富士喜楽会〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年10月27日付） ▼▼

「畑灌作品が初出荷 北井久保のキャベツ」〔北井久保畑灌〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年10月27日付） ▼▼

「冬将軍、ふもとへ 新五合目まで真っ白」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年11月8日付）

「大石寺 二万基の墓苑増設 市へ事前審査申請」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年11月7日付）

「万野風穴の整備議題に 文化財保護委」（『岳南朝日』1974年＝昭和49年11月7日付）

「11日から排脱試運転 富士フィルム 操業まで三カ月間」〔亜硫酸ガス〕（『岳南朝日』1974年＝昭和49年11月9日付）

「随想 富士宮市南部町(1)内船寺ドラマ 西川三千夫」（『岳南朝日』1974年＝昭和

49年11月14日付)

「随想 富士宮市南部町(2)山村での“実証”西川三千夫」(『岳南朝日』1974年=昭和49年11月15日付)

「冬山登山教室 初心者にも対象広げる 富士宮山岳会 来月7日八合目で雪上の練習」(『岳南朝日』1974年=昭和49年11月15日付)

「造林家ショック 鉄砲と長イモ掘りで“山入り禁止”検討」〔狩猟〕〔ヤマイモ〕〔富士森林組合〕〔森林法〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年11月16日付)

「富士山頂をロケットで一と飛び 頭ごしまかりならん 浅間神社 計画に猛反対」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年11月16日付) ▼▼

「大気汚染防止に総量規制 25日の閣議で知己指定へ 富士地区 排出量を大幅カット 富士宮市関係の工場 20工場が該当か」(『岳南朝日』1974年=昭和49年11月22日付)

「さあ、冬山のチャンス 八合目で登山教室 初心者も大歓迎」(『岳南朝日』1974年=昭和49年11月22日付)

「ロマンの“稲子平家部落”」〔平維盛〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年11月28日付「岳麓拾遺(13)」)

「毛無で登山訓練 富士宮署員 冬山遭難に備えて」(『岳南朝日』1974年=昭和49年11月29日付)

「初滑りを楽しむ 日本ランドスキー場 きのうオープン」〔イエティ〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年12月8日付)

「還ってきた“神体山”」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年12月18日付「カメラの目この一年(上)」)

「文化財汚がすは誰だ! 説明板に散弾 文字もスプレーで消す 万野風穴にいたずら」(『岳南朝日』1974年=昭和49年12月20日付)

「事前に計画書提出を…」〔冬山登山〕〔静岡県警〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年12月20日付)

「雪に包まれた登山ルート 除雪車が出動」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年12月22日付「グラフニュース」)

「一年間のチリ落す 浅間神社の迎春準備」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1974年=昭和49年12月22日付「グラフニュース」)

## ■ 1975年=昭和50年

「建設相、国土庁長官来宮 18日大沢扇状地など視察」〔大沢崩れ〕〔仮谷忠雄〕〔金丸信〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年1月10日付) ←紙面破損して一部読めず

「新刊紹介 ユニークな奇談、伝説 遠藤秀男著『富士山の謎』」(『岳南朝日』1975年=昭和50年1月12日付)

「初滑りで賑わう日本ランド」〔イエティ〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年1月12日付「グラフニュース」)

「山静岡県境の治水にメス 市、防災ダム計画を提起 国県の出先機関も視察」(『岳南朝日』1975年=昭和50年1月12日付「グラフニュース」)

日』1975年=昭和50年1月14日付)

「両大臣、あす大沢視察 山本知事も同行 スケジュール決る」〔仮谷忠男〕〔金丸信〕  
〔山本敬三郎〕〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年1月17日付)

「北高郷研部 富士市の民俗調査から 上 山ろく庶民の“生活原点”考えさせられる軌跡も」〔富士宮北高郷土史研究部〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年1月17日付)

「『大沢予算は削りません』建設相、崩壊にうなる 両大臣視察」〔仮谷忠男〕〔金丸信〕  
「大沢崩れ」(『岳南朝日』1975年=昭和50年1月19日付)

「富士宮市理科同好会 天子ヶ岳の植物ひと目 標本、写真で“小体系” 整理して資料館へ寄贈」(『岳南朝日』1975年=昭和50年1月19日付)

「冬山の救助訓練 遭対協が富士山で」〔富士山遭難対策協議会〕〔富士宮山岳会〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年1月24日付)

「北高郷研部 富士市の民俗調査から 下 現代にも脈打つ迷信 水のまずさは伝統的」  
〔富士宮北高郷土史研究部〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年1月17日付)

「富士宮市 沈潜した土地ブーム 農転、前年の半分に減る 大口取引きピッタリ」(『岳南朝日』1975年=昭和50年1月26日付)

「大昭和製紙が減産強化 きょうから不況対策で 一時帰休も検討 富士地区経済に影響大」(『岳南朝日』1975年=昭和50年2月1日付)

「ヒヨドリ被害 ついに“実力行使”百五十羽射落とす」(『岳南朝日』1975年=昭和50年2月1日付)

「冬山救助訓練 県山岳連盟」(『岳南朝日』1975年=昭和50年2月1日付)

「洞穴開放は可能か 万野風穴を調査 市教委」〔富士急学術調査〕〔万野風穴池田公園〕  
(『岳南朝日』1975年=昭和50年2月5日付)

「若之宮神社(元城)本宮の“長子”まつる 小山忠之」(『岳南朝日』1975年=昭和50年2月5日付「岳麓拾遺(14)」)

「二公園事業を承認 土地利用対策委 天母山と万野風穴」〔大石寺〕〔創価学会〕〔万野風穴池田公園〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年2月6日付)

「初の富士宮名誉市民に 池田大作氏に決る」〔創価学会〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年3月18日付)

「萩一族の消息 淀師 戦乱逃れ隠れ住む?『松野城主萩氏の末流』小山忠之」(『岳南朝日』1975年=昭和50年3月28日付「岳麓拾遺(15)」)

「ことしの夏山物価決める 五口協開く」〔富士山五口協議会〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年4月3日付) ▼▼

「飲食料など値上がり 夏富士の物価決まる 五口協議会」〔富士山五口協議会〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年4月5日付) ▼▼

「変貌する富士開拓地 入植から30[年の歳月 二世へバトンタッチ “側面の敵”乱開発」  
(『岳南朝日』1975年=昭和50年4月13日付)

「硫黄酸化物の規制強化 富士宮市は10施設該当 K値は三・五 現状より25%カット」  
〔亜硫酸ガス〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年4月16日付)

「要求の半分バツサリ 畑総など進捗に影響か」〔富士根畑地総合整備事業〕〔杉田〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年4月16日付)

「協力は六工場施設に 光化学オキシダント 緊急時に燃料削減」 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年5月1日付)

「ガラガラ運転 富士山行楽バス」〔登山バス〕 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年5月1日付) ▼▼

「富士山中で男の自殺体」〔二合目旧登山道?〕 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年5月3日付) ▼▼

「古文書解読に光明 芝川美佐野さん 長年の研究を本に」〔佐野保彦〕〔『近世文字(古文書)解読本』〕 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年5月4日付)

「田子浦港周辺二ヶ所範囲 地下水くみ上げ 県が全面禁止を検討 塩水化現象に歯止め」 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年5月18日付)

「山静両県、国を巻きこんで北部の治水対策を促進 富士宮地区行政連 小委、再び現地調査」 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年5月23日付)

「現状変更で文化庁が調査 万野風穴周辺」〔万野風穴池田公園〕 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年5月23日付)

「新緑と白銀と青空と 終冠雪の富士山くつきり」 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年5月25日付「グラフニュース」)

「野中・善能寺 本門寺隠居寺として開基 小山忠之」 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年5月30日付「岳麓拾遺(16)」)

「信英製紙を立入検査 すず公害 きょう県と市合同で」 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年6月3日付)

「田植えに水の援軍 田貫湖から放水」 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年6月3日付)

「八月オープン強行せず『南富士ゴルフ』やや軟化」 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年8月3日付)

「池田会長表敬訪問 明日富士宮市役所へ」〔池田大作〕〔創価学会〕〔富士宮市名誉市民〕 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年6月8日付)

「白骨死体確認で山狩り 富士宮署」〔スカイライン〕〔頭蓋骨事件〕 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年6月8日付) →「きょうも一合目で山狩り」(6月11日付)、「北山林道に白骨死体」(1976年=昭和51年3月9日付)に関連記事

「おみやげにハシゴ車 名誉市民 池田氏寄贈を申出」〔池田大作〕〔創価学会〕〔富士宮市名誉市民〕 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年6月10日付)

「開店と同時押すな押すな 予測どおり長崎屋旋風 閑古鳥鳴く地元商店街 影響回復まで一カ月?」 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年6月11日付)

「きのうも一合目で山狩り 頭がい骨事件」〔頭蓋骨事件〕 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年6月11日付)

「痛手の田貫湖キャンプ場 団体宿泊所中止」 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年6月11日付)

「表富士周遊道ってナアニ? 低い観光知名度 キャラバン隊 ショック旅行でした」〔スカイライン〕 (『岳南朝日』 1975年=昭和50年6月12日付)

「『西友』の出店計画お流れ 中央ビル建設も中止」 (『岳南朝日』 1975年=昭和50

年6月13日付)

「新溶岩トンネル発見 山宮 一万年の眠りからさめて市民公園建設現場 高い学術的価値 無数の鐘乳、動物の骨も」〔万野風穴〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年6月19日付)

「“不人気”に拍車・心配 表富士周遊道路 こんどは通行料値上げ 市観光協会『ウソツキ宣伝』に当惑」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年6月21日付)

▼▼ →「周遊道値上げ20日間延期」(7月8日付)に続報

「日本一の『八日市大だこ』富士山頂で飛揚 デックイ計画舞いこむ」〔東近江大凧保存会〕〔浅間大社〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年6月21日付) ▼▼ →「“夏富士”にデックイ計画 滋賀県八日市」(1976年=昭和51年7月9日付)に関連記事

「“ツユ払い”の清掃 神社青年会が富士登山」〔富士宮浅間神社青年会〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年6月22日付)

「自然休養林にオアシス 二合目にオープン 表富士レストハウス」〔グリーンキャンプ場〕〔表富士グリーン観光〕〔ピカ表富士〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年6月26日付) ▼▼

「夏山開きまで2日 表富士宮口の受入れは 準備に急ピッチ サービス機関の日程も決まる」(『岳南朝日』1975年=昭和50年6月29日付) ▼▼

「政治的段階で促進を 新幹線駅設置委 総会に盛り」〔新富士駅〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年6月29日付)

「一番乗りめざして 夏山開きに19人登山 富士宮口」(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月2日付)

「野ネズミの消長調査開始 富士森林組合」(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月2日付)

「富士山を美しく…神社青年会が清掃登山」〔富士宮浅間大社青年会〕〔グラビア〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月2日付「カメラの目」) ←原紙のハシラは通巻6805号で順を追っているが、日付が6月2日付となっている

「4Hクラブが清掃登山 21日に頂上からゴミ集め 東部地域の仲間も参加」(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月4日付)

「ニジマス関係者に朗報 “神話”だった寄生虫説 県立富士養そん場 調査で科学的に証明 刺身用の出荷に期待」〔県立富士養鱒場〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月8日付)

「周遊道値上げ20日間延期 市長、記者会見で語る」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月8日付) ←一部▼▼ ←第1報は「“不人気”に拍車・心配 表富士周遊道路」(6月21日付)

「山静県境越え協力体制 富士北部の治水対策 隣接市町が初の懇談」〔富士北部治水対策懇談会〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月11日付)

「富士山電話きょう開通」(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月11日付)

「百五十人が集団献血 大石寺グループ 波紋描いた呼掛け」(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月13日付)

「孤塁守る20数戸 富士宮の葉たばこ栽培」(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月

12日付)

「富士山の山室衛生監視」(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月21日付)

「古式床しく絵巻行事 豊作祈ってお田植え祭」〔お田植祭〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月13日付「グラフニュース」)

「一本で百四十個も 野中にお化け山百合」〔ヤマユリ〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月13日付「グラフニュース」)

「富士登山好調なスタート」(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月13日付「グラフニュース」)

「すけっちさんぽ(17) 朝霧の富士 二重作龍夫」(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月16日付)

「18日からオープン 八合目の衛生センター」(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月17日付)

「山頂もツユ明け 金森神宮から便り」(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月17日付)

「北部治水対策で共同歩調 連絡会結成を申し合せ タメ池づくりに県へ運動」〔富士北部治水対策懇談会〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月18日付)

「富士山美化人海作戦 三百人が清掃登山」〔静岡県美化推進協議会〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月18日付)

「ことしの遭対協事業決まる」(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月18日付)

「富士山切手のしおり発売 富士宮郵便局」(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月18日付)

「団体組が押すな押すな 夏山富士登山本格化 富士講や歌舞伎俳優まで」〔変わり種登山〕〔富士と琵琶湖を結ぶ会〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月19日付) ▼▼

「スラッジ肥料花ざかり 4Hクも本格試験 製紙会社も“発起”」〔ヘドロ〕〔公害〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月19日付)

「富士急行 夏ダイヤ改正 休止、増発などで38本」(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月19日付)

「日本ランドに夏の目玉 水陸両用車が登場 低料金クーポンも発売」〔イエティ〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月25日付)

「騒音紛争に一つの目安 環境基準、富士宮も適用」〔公害〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月26日付)

「自然保護を訴え ユース協会 富士登山ラリー」〔静岡県ユースホテル協会〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月26日付)

「富士と琵琶湖を結ぶ会登山 きょう富士宮へ」(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月26日付)

「観光客の流動調べ 白糸滝と新五合目」〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年7月30日付)

「安沼用水 “画期的な” トンネル用水 小作人は『水代米』に苦悩」(『岳南朝日』1975年=昭和50年8月1日付「岳麓拾遺(17)」)

「発言力弱いなやみ 公害防止管理者協 総会で対策協議」〔富士宮地区公害防止管理者

協議会] (『岳南朝日』1975年=昭和50年6月2日付)

「ウケに入る山室 登山富士 戦後最大の人出？」(『岳南朝日』1975年=昭和50年6月2日付) ▼▼

「スポーツニックなど登場 富士急ハイランド」(『岳南朝日』1975年=昭和50年8月2日付)

「探鳥と植物観察 二合目で 自然と親しむ会」(『岳南朝日』1975年=昭和50年8月3日付)

「湖と山の子が交歓 ようこそ近江八幡の小中生」(『岳南朝日』1975年=昭和50年8月3日付「グラフニュース」)

「登山客の健康を守る 保健所の山室衛生監視」(『岳南朝日』1975年=昭和50年8月3日付「グラフニュース」)

「自から産業公害防止する 環境保全協会が法人化へ 充実した活動へ一歩前進 被害者救済にも」(『岳南朝日』1975年=昭和50年8月21日付)

「きれいな畜舎で生産増 整備共励会始まる」〔畜産公害〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年8月21日付)

「富士登山は戦後最高? 盆明けまでに一万七千人 前年比二倍増、前半が好調」(『岳南朝日』1975年=昭和50年8月22日付) ▼▼

「自然歩道を美しく 清掃大会に40人が参加」〔東海自然歩道〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年8月22日付)

「杉田・ふもとの家 日本で一番小さいユースホテル 赤字の苦しみ超えて 地元と交流深める」〔龍武一郎〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年8月22日付「談話室」)

「鼻中隔セン孔九人 富士宮市内 六価クロム障害」〔公害〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年8月28日付)

「地下水適正利用で新方針 研究組織作り共同調査 行詰まる六社折衝に打開策 富士の靄」(『岳南朝日』1975年=昭和50年8月30日付)

「若いモンには負けんヨ 94歳、自力で富士登山 奥宮調べ 70歳以上が四五七人」〔高齢者登山〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年8月30日付) ▼▼

「風穴公園が完成 8日に開園式 夜は祝賀業行事も」〔万野風穴池田公園〕〔大日穴〕〔創価学会〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年9月6日付)

「患者ふえそう メッキ工場立入調査」〔六価クロム〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年9月7日付)

「風穴公園、正式に市へ寄贈 盛大に開園式」〔万野池田公園〕〔創価学会〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年9月9日付)

「今夏の観光地総決算すれば 富士登山前年の倍 西ろく観光施設ダウン 白糸の滝に一一六万人」(『岳南朝日』1975年=昭和50年9月11日付) ←一部▼▼

「大沢はん乱が影響 一の竹沢・猪の窪沢 建設大 野溪調査まとまる」〔中央訓練所〕〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年9月17日付)

「味覚の秋 キノコ狩りシーズン 大賑わいの一合目 『毒キノコには要注意』」(『岳南朝日』1975年=昭和50年10月19日付)

「五合目に展望台 営林署が設置計画」〔静岡営林署〕(『岳南朝日』1975年=昭和

50年10月19日付) ▼▼

「鼻中隔セン孔患者 新たに三人発見」〔六価クロム〕〔公害〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年9月24日付)

「随想 甦える記憶の中の一少年戦車兵― 宮崎輝雄」(『岳南朝日』1975年=昭和50年9月26日付) ▼▼

「総量規制に」対応して相次ぎ排脱装置が稼働 未設置企業は低硫黄化」〔亜硫酸ガス〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年10月5日付)

「人穴の山林 製紙スラッジ大量投棄 大がかりな埋立て計画か 富士宮署 産廃処理法違反で捜査」(『岳南朝日』1975年=昭和50年10月15日付)

「“冠雪の富士”くっきりと」(『岳南朝日』1975年=昭和50年10月15日付)

「ふもとは冬仕度 富士山、白い帽子かぶる」(『岳南朝日』1975年=昭和50年10月26日付「グラフニュース」)

「郷土史トリオ、出版計画 失われる史話記録 芝川町 斉藤さんら研究者」〔斎藤静夫〕〔佐野保彦〕〔唐紙一修〕〔『目でみる芝川町の歴史』〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年11月11日付) →「写真で語る今昔」(1976年=昭和51年8月1日付)が続報

「大鳥居は空洞でした 浅間神社で西門改修 虫食い跡は鉄筋補強」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年11月18日付)

「『河合入道』と『川合千軒』・芝川 都から栄転、芝川へ『日興上人はその孫に』小山忠之」(『岳南朝日』1975年=昭和50年11月30日付「岳麓拾遺(18)」)

「日本ランドがオープン きょうから」〔イエティ〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年12月13日付)

「神道本社で八方除歳祭 しあわせ祈願」〔城山ふじせんげん〕(『岳南朝日』1975年=昭和50年12月14日付)

「東電 芝川水系13発電所を譲渡 合理化で姫川電力へ 明年4月から」(『岳南朝日』1975年=昭和50年12月18日付)

## ■ 1976年=昭和51年

「失なわれた土との対話」(『岳南朝日』1976年=昭和51年1月1日付)

「伊藤富士山元宮司に県神社庁表彰」〔浅間大社〕〔伊藤善教〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年1月13日付)

「風穴を学術調査 教委 静大の専門家に依頼」〔万野風穴〕〔銀河風穴〕〔若林淳之〕

〔〕徳山茂樹〔松本明〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年1月15日付)

「北高郷研部 富士市民俗調査から 上 大淵住民生活史浮き彫り きびしい自然との対決」〔富士宮北高郷土史研究部〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年1月18日付)

「『富士山を守る会』解消か 各論で足並み揃わず こんごは随時話合いに」〔富士山の自然と環境を守る会〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年1月21日付) ▼▼

「北高郷研部 富士市民俗調査から 下 出産にも生活の厳しさ 水の模索、幾世紀苦し



む」〔富士宮北高郷土史研究部〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年1月23日付） ←  
右上が12行5段切り取られており一部読めず

「芝川町 石造物の台帳づくり 文化財保護に本腰」（『岳南朝日』1976年＝昭和51  
年1月25日付） →「石造物がゾークゾク」（2月18日付）に関連記事

「富士山美化に尽す 環境衛生推進大会 市婦連を表彰」〔富士宮市婦人団体連合会〕（『岳  
南朝日』1976年＝昭和51年1月28日付）

「すけっちゃんぼ(19)ごろ道 後藤公男」〔ゴーロ道〕（『岳南朝日』1976年＝昭和  
51年1月30日付） ←一部▼▼

「曹洞宗・法蔵院（白糸・内野）天台宗から改宗」（『岳南朝日』1976年＝昭和51  
年1月30日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて」）

「宗教論壇 教会というところ 日本キリスト教団富士宮教会牧師 阿部正」（『岳南朝  
日』1976年＝昭和51年1月30日付）

「通信 袖野仏教会が寒行」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年1月30日付）

「通信 芝川仏教会改選」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年1月30日付）

「山ろくの開発規制強化 来年度から県の土地保全指定適用」（『岳南朝日』1976年  
＝昭和51年1月31日付）

「大気汚染 富丘除き環境基準達成 排脱奏効、皮肉に不況も 長期的にはまだ不安 総  
量規制で定着へ」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年2月7日付）

「幕末の富士宮の世相『袖日記』から拾う（其二）市立郷土資料館 河野佐登肆」（『岳  
南朝日』1976年＝昭和51年2月8日付「文化」） ←（其一）見つからず

「珍しい農民集落跡 代山遺跡 竪穴住居群発見」（『岳南朝日』1976年＝昭和51  
年2月8日付）

「石造物がゾークゾク 芝川で分布状況を調査 老人会が協力 歴史書書き替える場合  
も？」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年2月18日付）

「貴船区の氏神 貴船神社」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年2月27日付「精神の  
旅 岳麓の社寺を訪ねて」）

「『和党会』が記念講演 結成20年にあたり」（『岳南朝日』1975年＝昭和50年2  
月27日付）

「通信 横手観音に堂宇 芝川 峯地区で寄進」（『岳南朝日』1975年＝昭和50年2  
月27日付）

「浅間さんで朝詣賞おくる」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年3月3日  
付）

「急行停車（西富士宮駅）、今年も困難 渋い静鉄局 地元の要望、全く無視」〔身延線〕  
（『岳南朝日』1976年＝昭和51年3月4日付）

「宿泊料など値上げ 夏富士物価決まる」〔分裂料金〕（『岳南朝日』1976年＝昭和  
51年3月9日付） ▼▼

「北山林道に白骨死体 家出の老人か」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年3月9日付）  
←「白骨死体確認で山狩り」（1975年＝昭和50年6月8日付）が第1報

「国の草地事業に指定 西富士開拓 新年度から調査着手」（『岳南朝日』1976年＝  
昭和51年3月10日付）

「大沢砂防など陳情 富士治山治水期成同盟」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年3月16日付）

「ニジマス110万尾全滅 白糸 セメントミルク流入」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年3月1日付）

「富士山久遠寺（小泉）勇猛精進法灯守る 大火災に六度も」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年3月19日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて」）

「宗教論談 がんばれこじゅけい 柚野・興徳寺住職 松永泰静（『岳南朝日』1976年＝昭和51年3月19日付）

「通信 岩本教会で百年記念式」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年3月19日付）

「寒さと疲労で次々と 富士山で二学生死ぬ」〔遭難〕〔国学院大〕〔山頂測候所〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年3月26日付）▼▼ →「高山病の四人下山」（3月27日付）に続報

「〈旧会津藩士・嶽麓洞初代塾頭〉長尾布山の周辺 会津戦一戦犯一脱走一小島へ 名主の招きで来宮 血縁者は五人在住 足跡は子孫に遺す」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年3月26日付「岳麓拾遺（19）」）

「高山病の四人下山 富士山頂の国学院大パーティー」〔遭難〕〔山頂測候所〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年3月27日付）▼▼

「ピンチの県営田貫湖キャンプ場 繰越金ゼロ 収入増もままならず 施設の老朽化が追打ち」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年3月28日付）

「チェリーライン その名にふさわしく 表富士周遊道にさくら植樹」〔ソメイヨシノ〕〔スカイライン〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年3月28日付「グラフニュース」）  
←こんにちこの桜並木は、御殿場口の馬返しから下、東側は生き残っているが、それ以外は全滅している

「新五合目下で雪崩 “七曲り” 数カ所埋まる」〔スカイライン〕〔スラッシュ雪崩〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年4月1日付）▼▼

「夏の施設利用予約受付け 田貫湖キャンプ場」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年4月1日付）

「やった！青木ヶ原樹海の横断 中央訓練所の五青年」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年4月2日付「談話室」）

「徒歩で富士五湖一周の旅へ 5日間で歩き抜く ユースホステル 仲間の参加募り」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年4月8日付）

「麓山の家 予約受付け 市民を優先に」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年4月8日付）

「除雪作業の再開で協議 表富士周遊道 復旧作業と切り離し」〔スカイライン〕〔スラッシュ雪崩〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年4月9日付）▼▼

「雪崩調査に専門家依頼 二次災害の有無つかめず 除雪作業 安全対策たて再開へ」〔スカイライン〕〔スラッシュ雪崩〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年4月10日付）▼

「建設省関係者が来富 二市一町 治山治水を陳情」〔富士市〕〔富士宮市〕〔芝川町〔大沢崩れ〕〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年4月10日付）

「周遊道路をクシ刺し ツメ跡みせた富士山の大雪崩」〔スカイライン〕〔スラッシュ雪崩〕（『岳南朝日』1976年=昭和51年4月11日付「グラフニュース」）▼▼

「あすから除雪作業再開 雪崩の障害物きょうから撤去 表富士周遊道」〔スカイライン〕〔スラッシュ雪崩〕（『岳南朝日』1976年=昭和51年4月14日付）▼▼

「田子の浦港第4次へドロ処理 業界に62%負担示す 県、今秋から再開方針 難色示す製紙業界」（『岳南朝日』1976年=昭和51年4月15日付）

「教育基金に1億円寄付 池田会長 消防施設にも5千万円」〔創価学会〕〔池田大作〕（『岳南朝日』1976年=昭和51年4月16日付）

「今度は砂れき流失 ツいてない表富士周遊道 豪雨で押し出す」〔スカイライン〕〔日沢〕〔土石流〕〔豪雨〕（『岳南朝日』1976年=昭和51年4月16日付）▼▼

「急性上気道炎 富士根に発生率高い 富士宮医師会 市に窒素酸化物の測定要望 複合汚染の関連追究」〔大気汚染〕（『岳南朝日』1976年=昭和51年4月18日付）

「山ろくにやっと“春本番”ぜんまい採り盛ん わらびは例年より遅い」（『岳南朝日』1976年=昭和51年4月18日付）

「現代版“花咲かじいさん”駒止めの桜を守る刈宿老人クラブ」（『岳南朝日』1976年=昭和51年4月18日付「グラフニュース」）

「28日オープンめざし 富士山雪崩現場の復旧開始」〔スカイライン〕〔スラッシュ雪崩〕（『岳南朝日』1976年=昭和51年4月18日付「グラフニュース」）

「富士山資料館建設など富士急が創立50周年記念事業」（『岳南朝日』1976年=昭和51年4月20日付）→『富士山麓史』（富士急行50年史編纂委員会編集制作、富士急行発行、1977年）

「ゴルフ場現地調査終る 5月中に土地対策委へ 板挟みの市当局 件の規制で政治折衝か ゴルフ場計画一覧」（『岳南朝日』1976年=昭和51年4月24日付）

「また土砂が流出 表富士周遊道 片側通行で開通へ」〔スカイライン〕〔日沢〕〔土石流〕（『岳南朝日』1976年=昭和51年4月25日付）▼▼

「黒田・八幡宮 応神天皇まつる 地元郷土が勧請」（『岳南朝日』1976年=昭和51年4月28日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて」）

「開通の日に閉鎖 富士山周遊道登山ルート またまた土砂流失」〔スカイライン〕〔スラッシュ雪崩〕（『岳南朝日』1976年=昭和51年5月2日付）▼▼

「客寄せに目玉も 山ろくの行楽地 表富士周遊道路」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1976年=昭和51年5月2日付「レジャー」）

「やぶさめ祭開幕 あす練行や的射ち」（『岳南朝日』1976年=昭和51年5月4日付）

「行楽地やっと活気 大型連休 ぐずつく空模様」〔新五合目〕〔スカイライン〕（『岳南朝日』1976年=昭和51年5月4日付） ←一部▼▼

「天母山自然公園が完成 大石寺が整備 市民に広く開放」（『岳南朝日』1976年=昭和51年5月8日付）

「国の予算配分決る 農林・建設省関係 富士根畑総に8千万」（『岳南朝日』1976年=昭和51年5月11日付）

「富士山を緑化 ヒノキ17万5千本植樹」〔静岡営林署〕（『岳南朝日』1976年=昭和51年5月19日付）

「寺の米ドロン 西山本門寺で盗難」(『岳南朝日』1976年=昭和51年5月19日付)  
「山開き前に誘客隊 関西、関東へキャラバン」(『岳南朝日』1976年=昭和51年5月23日付)  
「次代の人のために 富士山で恒例の植樹祭」〔大淵林道〕〔静岡営林署〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年5月23日付)  
「環境騒音を調査 市街化区域119点で」〔公害〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年5月26日付)  
「富士宮駅舎改築を 市長ら静鉄局へ陳情」〔駅前整備〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年5月26日付)  
「富士山頂に交流記念柱 富士と琵琶湖を結ぶ会が計画」〔近江八幡市〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年5月27日付)  
「日蓮宗法華寺(宮原) 出発は“土族寺” 荒廃超えて再建」〔万野原新田〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年5月28日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて」)  
「佐東、伊藤宮司が受賞 神社本庁30周年で 多年の功労認められ」〔佐藤東〕〔伊藤善教〕〔浅間大社〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年5月28日付)  
「佐東、伊藤宮司が授彰 神社本庁30周年で 多年の功労認められ」〔佐藤東〕〔伊藤善教〕〔浅間大社〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年5月28日付)  
「自衛隊実弾展示演習見学会 主催 富士宮・芝川自衛隊父母会」〔広告〕〔総合火力演習〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年5月28日付)  
「ヘドロ処理、秋ごろ再開か 負担歩合など結論急ぐ 田子の浦港」(『岳南朝日』1976年=昭和51年6月3日付)  
「二億円の寄付申出 墓園計画の学会が 三千基分開放も」〔創価学会〕〔富士桜自然墓地公園〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年6月9日付)  
「田子の浦港ヘドロ処理 負担問題は物別れに 県、地元業者と会合」(『岳南朝日』1976年=昭和51年6月12日付)  
「富士山でクマ狩り フキ取りの会社員遭遇 地元猟友会が駆除隊」〔檜塚〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年6月18日付)  
「営林署、機械から転換 職業病の労働者守る 富士山で現場実習」〔静岡営林署〕〔チェンソー〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年6月18日付)  
「蔵屋敷稲荷大神 京都伏見から分霊 今も神田区の柱に 根強い住民の信仰心」(『岳南朝日』1976年=昭和51年6月25日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて」)  
「墓園問題で質問状 共産党が山川市長に」〔富士桜自然墓地公園〕〔創価学会〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年6月27日付)  
「汗流しつつ自然観察…親と子の富士登山」(『岳南朝日』1976年=昭和51年6月27日付)  
「夏山開き迫る 表富士宮口の受入れOK」〔登山バス〕〔山頂郵便局〕〔富士山電話局〕〔衛生センター〕〔物価〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年6月29日付) ▼▼  
「あす山開き 活気づく富士山新5合目周辺」〔浅間神社氏子青年会〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年6月30日付「カメラの目」)  
「夏ひらく きょうから7月 登山、キャンプ一斉に」(『岳南朝日』1976年=昭和

51年7月1日付)

「予約でいっぱい 大もての田貫湖キャンプ場」(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月1日付)

「(祝)開山 頂上富士館 頂上銀明館 ふとんの宮崎」〔広告〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月1日付)

「神主さんからおはらいを受ける一番バスの登山客」〔写真〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月2日付)

「山開き 女性グループも富士山へ一番乗り」〔浅間講〕〔千元講〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月2日付) ▼▼

「富士地域 大幅に改善対策すすむ 公害防止五カ年計画 二酸化硫黄基準達成未だ」(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月3日付)

「雪崩の被害で 登山道荒れる」〔浅間大社〕〔スラッシュ雪崩〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月3日付) ▼▼

「東海自然歩道 根原→天子ヶ岳 変化に富むコース」(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月3日付「レジャーガイドコーナー」)

「山開きした富士山新五合目 初夏の装い」(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月4日付「グラフニュース」)

「栗倉の遠藤さん 草地コンクール西日本一賞を獲得」〔遠藤千代治〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月6日付)

「富士山頂で積雪“冷たい夏”つづく」(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月6日付)

「きょうお田植え祭 神田宮で古式豊かに」〔お田植え祭〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月7日付)

「大がかりな食品一斉監視 山室や観光地施設 県機動班も応援出動」〔山室衛生〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月8日付)

「随想 気象異変(1) 気になる夏の雪 本間天念」(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月8日付)

「富士宮の大型店攻勢 県境越えて打撃 峡南(山梨)商店、青息吐息」〔長崎屋〕〔八百半〕〔ひのや〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月9日付)

「“夏富士”にデッカイ計画 滋賀県八日市 山頂で“世紀の飛揚”」〔東近江大風保存会〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月9日付) ←「[日本一の『八日市大だこ』富士山頂で飛揚\(1975年=昭和50年6月21日付\)に関連記事あり](#)」

「随想 気象異変(2) 食糧危機を憂える 本間天念」(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月9日付)

「寒さゆるむ富士山頂 本社-奥宮モシモシ 夏山シーズン本格化 郵便局も店開き」〔頂上電話〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月11日付) ▼▼

「富士登山参加者募る 青少年ホーム」(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月17日付)

「近江八幡市 琵琶湖で友情誓う 夏休みに児童生徒交歓」(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月17日付)

「景気回復の兆しで警戒体制 産廃投棄に目光らす 県東部監視機動班 富士地区をマー

プ」(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月21日付)

「山宮浅間神社 山体の遙拝所に田村麻呂の伝承宿し」(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月23日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて」)

「宗教論壇(7) 富士山を仰いで 浅間神社権宮司 楠田英香」〔浅間大社〕〔山頂裁判〕〔神社等に無償で貸付けてある国有財産の処分に関する法律〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月23日付)

「風船、気球、大ダコ 夏山富士の話題 冒険野郎が挑戦」〔変わり種登山〕〔東近江大帆船保存会〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月24日付)

「富士山の自然休養林 大樹海の中のオアシス 景観と多彩な遊戯施設」(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月24日付「レジャーガイドコーナー」)

「スラッジ埋立て限界 新しい用地探し 市内製紙工場」〔産廃〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月27日付)

「五湖めぐり楽しむ 加、米のLC交換学生」(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月27日付)

「現状では汚染の心配なし 市の有害物質調査結果 PCBはなお監視」(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月29日付)

「今夏は富士川町を探る 民俗調査総仕上げ 北高郷研 期待される研究の成果」〔富士宮北高郷土研究部〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年7月29日付)

「富士山の生物相にメス 静大教授陣中心に未調査分野を解明」〔富士山生物相学術調査会〕〔近田文弘〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年8月1日付)

「写真で語る今昔『目でみる芝川の歴史』郷土研究トリオが出版」〔『目でみる芝川町の歴史』〕〔唐紙一修〕〔芹沢幹雄〕〔佐野文孝〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年8月1日付) ←「郷土史トリオ、出版計画」(1975年=昭和50年11月11日付)が第1報

「親と子の富士登山 あす17組39人が参加」(『岳南朝日』1976年=昭和51年8月4日付)

「白糸の滝で人海清掃作戦 創価学会青年部員」(『岳南朝日』1976年=昭和51年8月6日付)

「親と子の富士登山 再募集」(『岳南朝日』1976年=昭和51年8月7日付「レジャーガイドコーナー」)

「“天然のクーラー”夏の白糸滝」〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年8月8日付「グラフニュース」)

「頂上きわめ全員ぶじ下山 親と子の富士登山」(『岳南朝日』1976年=昭和51年8月14日付)

「富士宮市 市民霊園の調査継続 学会の寄付と切離し」〔創価学会〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年8月14日付)

「市民霊園の調査継続 富士宮市 学会の寄付と切離し」〔創価学会〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年8月14日付)

「三百人以上が利用 八合目衛生センター閉ず」(『岳南朝日』1976年=昭和51年8月20日付) ▼▼

「田貫湖を守ろう 市が汚染に監視の目」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年8月21日付）

「400人が清掃登山 富士急従業員が交代で トラック2台分も」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年8月21日付）

「夏山富士」終幕近づく 8月登山で盛り返す 戦後二番目の記録確実〔登山者数〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年8月21日付）▼▼

「コンピューターが解析 10人に1人は『佐野』富士宮市民の姓名全調査」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年8月25日付）

「びっしり“千社札”庶民の願いこめて 浅間大社」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年8月27日付）

「感動の親子登山 感想作文 遊歩道へまた行きたい 渡辺法忠 市民になった 渡辺正代 ふじさんはふしぎな山 渡辺由紀子」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年8月27日付）

「『富士川の変貌と住民』高校教師が発刊」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年9月3日付）

「住民と隔離された川 高校教師ら地道な調査で“告発”『富士川の変貌と住民』」〔静岡地理教育研究会〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年9月3日付「ズームアップ」）

「夏山富士の片付けハイク サークル・ヘドロ」〔清掃登山〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年9月3日付）

「振わなかった夏山 富士宮駅調べで30%減 悪天に禍いされ 新五合は平年並」〔登山者数〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年9月4日付）▼▼

「蜂さん、山ろくのバカンス 一千群が“ホネ休み”」〔養蜂〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年9月4日付）

「北部観光地も振わず 今夏の観光客 周遊道は12%減」〔登山者数〕〔スカイライン〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年9月8日付）

「夏山富士に別れ告げる 浅間神社で閉山祭」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年9月8日付）

「研究用のスラッジ搬入 現状復帰指示」〔公害〕〔産廃〕（『岳南朝日』1976年＝昭和51年9月8日付）

「イチゴの高冷地育苗に人気 ことしは千百万本 県内の大半占める 指導機関もポカン」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年9月9日付）

「北部山間部に集中豪雨 民家孤立や床下浸水も 芝川水系、各所で溢水」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年9月10日付）

「橋（6）釜口橋“奇橋”の異名を担う富士川随一の難所」（『岳南朝日』1976年＝昭和51年9月11日付）▼▼←インタビュー以外の記事内容は『芝川町誌』のコピペで、

『甲斐国志』の読み込みが不十分である。参考文献は以下の通り：

『目でみる芝川町の歴史』（唐紙一修・芦沢幹雄・佐野文孝著、中井泰栄編、緑星社出版部発行、昭和51年）

『芝川町誌』（芝川町史編さん委員会編、芝川町発行、昭和48年、昭和54年増刷）

『芝川町誌 追補』（芝川町史編纂委員会編、芝川町発行、昭和60年）

(『甲斐国志 卷之五十一』『甲斐叢書 十一卷』甲斐叢書刊行会編、第一書房、昭和49年)

「怒り狂う“阿修羅”増水の音止めの滝」(『岳南朝日』1976年=昭和51年9月12日付「グラフニュース」)

「三たび様変わり 天下の名瀑・白糸滝」〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年9月19日付「グラフニュース」)

「浄土宗大頂寺(東町)戦国末期の開山」(『岳南朝日』1976年=昭和51年月9日19日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて」)

「秋本番、行事も盛ん 山ろくでキノコ狩りも」(『岳南朝日』1976年=昭和51年9月23日付)

「姿消す山ろくのセンブリ 開発の波に押され 栽培ままならず」〔薬草〕〔朝霧高原〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年9月28日付)

「初冬のお中道巡り 北高生が創立記念日に」〔富士宮北高〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年10月2日付)

《初冬のお中道巡り 北高生が創立記念日に

“北嶺健児の意気と体力を涵養する”富士宮北高の創立記念行事、富士山お中道めぐりが八日行なわれる。全校生、全職員参加で、山の息吹きに触れ、北嶺精神を心に呼びおこす。

お中道めぐりの出発は午前六時五十分。千二百五十人の生徒、職員がバス二十七台連ねて表口五合目に至り、同所から宝永山わきー御殿場ロー東ロー吉田口と二千五百<sub>m</sub>等高線のお中道をスバルラインまで半周する。

山肌には降雪もあり、お中道は九月下旬から冬模様。山裾から湧き上がるガスは、肌をさすようにつめたいと、実地踏査の先生方は語っている。きびしさと楽しさの織りまざった行事となりそうだ。》(『岳南朝日』1976年=昭和51年10月2日付)

「富士に初冠雪彩る 異常気象の賜物か？」(『岳南朝日』1976年=昭和51年10月3日付「グラフニュース」)

「曹洞宗安養寺(杉田)逸話秘めた古寺 水で地域と密着」(『岳南朝日』1976年=昭和51年10月14日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて」)

「また燃えだした地下水論議 自民支部長に聞く『公水』認めるのが先 企業の社会的責任問う」(『岳南朝日』1976年=昭和51年10月15日付「ズームアップ」)

「硫酸化合物総量規制で説明 市、50企業集めて」(『岳南朝日』1976年=昭和51年10月24日付)

「大規模開発 市、四年ぶり決着へ きょう起業者へ個別通知『ゴルフ場は同意せず』」(『岳南朝日』1976年=昭和51年10月27日付)

「尾を引くか“不同意宣告”起業者(ゴルフ場)に不満や反発 一部に強硬手段の素振りも」(『岳南朝日』1976年=昭和51年10月28日付)

「富士観の土地処分で話合い」〔保安林〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年10月28日付)

「西ろくの水害対策など 富士地区広域市町村圏 国や県に陳情 草地改良調査に含めよ 水害防止」(『岳南朝日』1976年=昭和51年10月30日付)

「新五合目も積雪 富士山、冬化粧急ぐ」(『岳南朝日』1976年=昭和51年10月30日付)



日付)

「ゴルフ場以外なら検討も 発想の転換求める 山川市長 大規模開発で語る」(『岳南朝日』1976年=昭和51年11月3日付)

「具体策示されず 富士観問題 全協、結論持越し」(『岳南朝日』1976年=昭和51年11月7日付)

「12日に調印式 市、テルモ公害防止協定」(『岳南朝日』1976年=昭和51年11月7日付)

「北山百姓蜂起①記録の周辺 天保の飢饉の中で 小山忠之」(『岳南朝日』1976年=昭和51年11月7日付「岳麓拾遺(20)」)

「北山百姓蜂起②反乱の背景 共通現象の“百姓反乱” 小山忠之」(『岳南朝日』1976年=昭和51年11月14日付「岳麓拾遺(21)」)

「北山百姓蜂起③反消えた歴史 その1 困窮の村に節約令も 小山忠之」(『岳南朝日』1976年=昭和51年11月20日付「岳麓拾遺(22)」)

「古タイヤ大量投棄 栗倉の山林 の関係機関で追求」〔産廃〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年11月26日付)

「観光協会の独立再燃 検討委員会の設立へ」〔富士宮市観光協会〕〔西富士観光連絡協議会〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年12月2日付) ▼▼

「民宿業者の連携で話し合い」(『岳南朝日』1976年=昭和51年12月2日付)

「建設大で六日に松陰祭」〔建設大学中央訓練所〕(『岳南朝日』1976年=昭和51年12月3日付)

「越境鉄砲水で協議会 富士宮市と上九一色村」(『岳南朝日』1976年=昭和51年12月22日付)

## ■ 1977年=昭和52年

「冬山遭難にきびしい注意 富士宮署 昨年は九人が死傷 氷壁と突風の富士山」(『岳南朝日』1977年=昭和52年1月11日付) ▼▼

「脈うつ開拓の精神 富士開拓『三十年史』に象徴」〔『富士開拓30年史』富士開拓30年史編纂委員会編、富士開拓農業協同組合、1976〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年1月14日付)

「米の裏で麦作り 富士宮は指定産地」(『岳南朝日』1977年=昭和52年1月14日付)

「かくれたブーム、オシキミ…連日、積み出し」〔櫛〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年1月15日付)

「富士曼荼羅、重文指定か 教委 五件を県へ指定申請」〔浅間大社〕〔富士参詣曼荼羅図〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年1月29日付)

「元も子もなくなる“密植造林” 労力不足で間伐放置 富士宮、芝川で一千畝も」〔富士森林組合〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年2月2日付)

「立春の富士はきびしく」(『岳南朝日』1977年=昭和52年2月5日付)

「復活するか清流 神田川をしゅんせつ 県が初めて取り組む」(『岳南朝日』1977

年＝昭和 52 年 2 月 9 日付)

「村山で“明るい村づくり” 専業農家育成図る」 (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 2 月 18 日付) ▼▼

「自衛隊の武器展中止 反対派が抗議行動」 (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 2 月 20 日付)

「18 日は星山観世音祭典 大画像ご開帳」 [大悟庵] (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 3 月 15 日付)

「富士山に春雪 登山ルート通行止め」 [スカイライン] (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 3 月 24 日付)

「さくら一挙に開花 浅間さん、月末見ごろ」 (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 3 月 25 日付)

「日本ランドに展望台完成」 [イエティ] (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 3 月 25 日付)

「観光事業にユニーク提言 新五合目に“分神社” 商工会議所 二特別委も結論」 [浅間大社中宮] (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 3 月 26 日付) ▼▼

「月の輪遺跡発掘 宅造前に文化財調査」 (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 3 月 26 日付)

「月の輪遺跡の発掘すすむ 早くも住居址発見 古墳時代初期と推定」 (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 3 月 29 日付)

「干大根出荷めざす 北井久保集出荷所が完成」 (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 3 月 29 日付)

「大沢扇状地の整備促進 当初予算で 11 億円台に 上井出一号線架橋工事も新年度早々発注」 (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 3 月 30 日付)

「国の重文に指定 浅間神社所蔵『富士まんだら』」 [浅間大社] [富士参詣曼荼羅図] [重要文化財] (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 3 月 30 日付) ←本文は国の重文を扱っているのに掲載写真は県の重文「富士参詣曼荼羅図」である。「二つの富士曼荼羅図」(4 月 3 日付) 掲載の写真が正しい。県の重文については「『富士浅間曼陀羅』浅間神社所蔵」(1981 年＝昭和 56 年 9 月 26 日付) 参照。

「火事にあった住居址 月の輪遺跡 大規模な集落確認」 (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 4 月 3 日付)

「二つの富士曼荼羅図 国の重文指定に寄せて 金森安彦」 [富士参詣曼荼羅図] (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 4 月 3 日付) ←ここに掲載の写真が正しい。

「石造調査を集大成 芝川 文化財保護の願い」 [『神々の舞ー芝川の石造物』王子坂保彦編、芝川町教育委員会発行、1977] (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 4 月 3 日付)

「“百花りょう乱” の大石寺 1 万人がにぎわう」 (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 4 月 6 日付)

「富士宮駅の貨物扱い減る 大幅値上げでカバー 51 年度トラックにタジタジ」 (『岳南朝日』 1977 年＝昭和 52 年 4 月 9 日付)

「虚空蔵社古墳だった！ 野村さん(文化財調査員)が発見 植松吉高教諭確認 市、保

存作策を検討 市内では五つ目の古墳」〔野村昭光〕〔植松章八〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年4月10日付）

「富士山五口協議会に“乱気流”物価協定に参加拒否『値上げ同調出来ぬ』富士宮口が独自行動」〔分裂料金〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年4月13日付▼▼

「協定内料金を黙認 富士宮口参加拒否で 富士山五口協 宿泊料10%値上げ」〔五口協議会〕〔物価〕〔分裂料金〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年4月15日付）▼▼

「草地開発、本調査段階へ 検討材料に6項目設定」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年4月17日付）

「大沢砂防予算決る 床固などに11億3千万円」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年4月17日付）

「一部床固工を完了 大沢砂防事業内容決る」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年4月20日付）

「窒素酸化物の沿道調査 車と汚染関連探る 公害対策に16か所で」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年4月21日付）

「黄金週間あすスタート 目玉行事がズラリ」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年4月28日付）

「客が減っても収入ふえる 51年度 物言った運賃値上げ 国鉄富士宮両駅の実査期」〔身延線〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年5月3日付）

「草原をひた走り 毛無山ろくで草競馬」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年5月4日付）

「ゴールデンウィーク佳境 やぶさめ祭りも中日 振るわぬ北部観光地」〔白糸の滝〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年5月5日付）

「近江八幡市を表敬訪問 市長。議長ら」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年5月5日付）

「追い詰められた産廃処理 栗倉の埋立地を断念 反対住民の説得不調に 今週中に別地確保 企業の積み置き限界に」〔製紙スラッジ〕〔公害〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年5月10日付）

「城山せんげんで恒例の夏越祭」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年5月11日付）

「ニッピと公害防止協定 事務レベルの折衝開始 悪臭対策などに焦点」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年5月12日付）

「国鉄の合理化に対処 身延線期成同盟“生活路線”を防衛」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年5月12日付）

「市観光協会組織強める 西富士観光協 解散して一本化」〔西富士観光連絡協議会〕〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年5月13日付）

「山菜狩りのシーズン 富士山中腹にぎわう」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年5月13日付）

「野鳥の受難記録そのまま 朝霧のセッカ1／7に 野鳥の会富士宮支部 14年間の生息調査 貴重な賓客オナガ 田貫湖の水鳥増加」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年5月13日付）

「富士宮口は料金据置き 夏山物価 登山客誘致に積極策」〔五口協議会〕〔分裂料金〕

(『岳南朝日』1977年=昭和52年5月14日付) ▼▼

「間伐対策組入れ 森林組合 労力不足で密植放置」〔富士森林組合〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年5月15日付)

「富士山で中原さんを捜索 富士宮署員ら」〔中原万次郎〕〔遭難〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年5月15日付) ▼▼ ←5月16日付が欠号で続報みつからず

「望まれる車排ガス規制 全測点で環境基準超す トップは十字屋交差点 窒素酸化物測定」(『岳南朝日』1977年=昭和52年5月17日付)

「大阪で観光展開催 九州キャラバンは中止 観光協会」〔富士宮市観光協会〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年5月17日付)

「旧登山道路沿いにフェンス 侵入防止に“窮余の策”」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年5月19日付)

「製紙スラッジを堆肥に 薬大研究グループ 富士宮で実験へ 富士マサ土改良に自信」〔静岡薬科大学〕〔赤堀幸男〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年5月21日付)

「一本化決める 観光協会、専従配置も」〔富士宮市観光協会〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年5月21日付)

「富士山頂局を増築 老朽化で耐用限界」(『岳南朝日』1977年=昭和52年5月22日付) ▼▼

「緑地をふやし堤防延長 創価学会墓園計画 地元の要望にも対応 山崎氏が説明」(『岳南朝日』1977年=昭和52年5月25日付)

「5年ぶりに5月の積雪 富士山真っ白」(『岳南朝日』1977年=昭和52年5月24日付)

「富士宮山岳会 年間計画決る」(『岳南朝日』1977年=昭和52年5月27日付)

「不況下でもゴミ減らず 産廃もうなぎのぼり」(『岳南朝日』1977年=昭和52年5月28日付)

「前期で8万トン进行处理 田子の浦港のしゅんせつ 秋まで作業中止」〔ヘドロ〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年6月2日付)

「分析室一般公開も 環境週間に記念行事」〔富士宮市公害対策課〕〔公害〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年6月2日付)

「富士山クリーン作戦 青少年5団体が共同で」〔清掃登山〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年6月2日付)

「夏の先取りに予約殺到 富士山ろく地方のキャンプ場」〔田貫湖〕〔ピカ表富士〕〔グリーンパーク〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年6月4日付)

「13トンのゴミ撤去 富士山クリーンM作戦 青年約百人参加」〔清掃登山〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年6月21日付)

「3頭目のクマ退治 こんどは鞍骨沢付近で」〔西富士猟友会〕〔富士宮猟友会〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年6月21日付)

「学会と協定締結 市、自然墓地公園建設で」〔創価学会〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年6月15日付)

「公水論を軸に研究調査 水利用特委が中間報告」〔地下水〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年6月17日付)

「『袖日記』に文久のコレラ記録 防疫は神仏祈願だけ 大宮町でも大騒動」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年6月21日付）

「下界へ近づく“夏だより” 頂上郵便局が新五合目に」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年6月22日付）▼▼

「2万ト、超過分は企業負担 田子の浦SS削減 県と環境保全協が協定」〔ヘドロ』（『岳南朝日』1977年＝昭和52年6月29日付）

「一億円の寄付申出 学会、池田教育基金へ」〔創価学会』（『岳南朝日』1977年＝昭和52年6月30日付）

「あす夏山開き 受入れ体制もOK 表富士宮口 登山客待つばかり」〔分裂料金』（『岳南朝日』1977年＝昭和52年6月30日付）▼▼

《あす夏山開き 受入れ体制もOK 表富士宮口 登山客待つばかり

ツユ明けよりひと足早く、夏山富士はあす七月一日山開きする。富士宮市観光協会は同日午前十一時から浅間神社で開山式を行ない、夏山期間中の安全を祈願するが、山室業者は二十五日から一部が荷揚げを始め、一日の開山に備える。そこで表富士宮口の受入れ体制をみるとー。

〈山室〉九合目がさる二十五日に開いたのを始め、三十日は新七合目、七月一日は頂上富士館、八合目、二日に九合五勺、七合目、三日に新六合目そして九日に六合目が店開きする。

〈登山バス〉一日から新五合目行きを運転。富士宮駅発、9時、12時50分、18時40分の三本。九日から6時50分、15時10分、19時50分の三本がふえ、十六日以降は10時30分、13時30分、17時30分、21時50分の四本を追加一日十本となる。また、土、日曜日には臨時増発も。料金は片道千三百円、小人六百五十円。

〈タクシー〉富士宮－新五合目間の料金は小型五千九百円、中型七千円（夜間各二〇％増）。有料道路往復通行料金は客負担。

〈奥宮・久須志宮〉七月二日、先発隊七人が登山、同日から登山客の参拝を受けける。八月三十一日まで。

〈富士山電話局〉七月十日から八月二十日まで山頂に臨時局を開設、新五合目から頂上までの山室に公衆電話を開設。通話時間は午前五時から午後九時まで。

〈富士山郵便局〉ことしは頂上局に使用していた山室が改修されるため新五合目にキャンピングカーを運んで臨時局を開設。七月十日開局。修理が済み次第山頂へ。

〈衛生センター〉七月中旬から八月中旬まで八合目に開設。日医大の医師と市立病院の看護婦が交替で勤務。高山病やけがをした登山客の診療にあたる。

〈お山の物価〉ことしは富士山五口協議会の協定がもめたが、表富士宮口は昨年と同じ据え置き料金。素泊千八百円、一泊二食三千円（団体十五人以上が一割引、高校生以下団体一割五分引）。》（『岳南朝日』1977年＝昭和52年6月30日付）

「夏山富士開く 霧雨の中 60人一番乗り」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年7月2日付）

「衛生センターの入口真っ二つ 冬山登山者の仕わざか」〔山室荒らし』（『岳南朝日』1977年＝昭和52年7月3日付）▼▼

「雨の中で富士山夏山開き」『岳南朝日』1977年＝昭和52年7月3日付「グラフニュ

ース) )

「すその(1) 富士はドル箱でない 画家として戒める 文・題字 曾宮一念」(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月3日付)

「富士山の山室など 観光地食品監視」〔山室衛生〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月5日付)

「維新と富士氏と徳川氏 作家 榛葉英治 誘引使に呼応し遠州報国隊生る」(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月5日付)

「すその(2) 富士はドル箱でない 画家として戒める 文・題字 曾宮一念」(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月5日付)

「すその(3) 富士はドル箱でない 画家として戒める 文・題字 曾宮一念」(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月6日付)

「林間学校一番乗り 活気づく表富士グリーンキャンプ場」〔ピカ表富士〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月6日付)

「豊作を祈るお田植え祭 きょう神田宮で」〔お田植え祭〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月6日付)

「根原のゴルフ場計画 富士急、事前協議取下げ」(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月7日付)

「維新と富士氏と徳川氏(2) 作家 榛葉英治 富士又八郎が赤心隊を結成」〔富士亦八郎〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月7日付)

「東高で登山とキャンプ」〔富士宮東高〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月5日付)

「維新と富士氏と徳川氏(3) 作家 榛葉英治 お札降りとええじゃないか騒ぎ」(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月8日付)

「維新と富士氏と徳川氏(4) 作家 榛葉英治 民衆にも革命機運 時勢に乗って立ち上る」(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月9日付)

「富士山頂で友情を 富士登山ホス募集中」〔ユースホステル富士宮〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月9日付)

「県外搬出や間借り仮置 スラッジ騒ぎから2か月」〔粟倉地先〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月10日付)

「お山のサービス機関業務入り 郵便局も例年通り山頂で」〔山頂郵便局〕〔山頂電話局〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月10日付) ▼▼

「維新と富士氏と徳川氏(5) 作家 榛葉英治 清水の次郎長と咸臨丸事件」(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月10日付)

「結婚式の申込みも 奥宮とモシモシ 二百人が日曜登山」〔山頂電話〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月11日付)

「4日清掃登山 連続5年クリーン運動」(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月12日付)

「維新と富士氏と徳川氏(6) 作家 榛葉英治 隊員への迫害頻発 帰郷できなかつた又八郎」〔富士亦八郎〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年7月12日付)

「私の発言 富士宮市の未来像について一言①須藤秀忠」(『岳南朝日』1977年=昭

和 52 年 7 月 12 日付)

「私の発言 富士宮市の未来像について一言②須藤秀忠」 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 13 日付)

「随想 富士山 村松史枝」 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 13 日付)

「26 日から発掘調査『滝戸遺跡』にメス」 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 14 日付)

「維新と富士氏と徳川氏 (7) 作家 榛葉英治 国学院の礎つくった又八郎 (おわり)」

〔富士亦八郎〕 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 14 日付)

「草地計画を軌道修正 治水、公害対策組み込む」 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 14 日付)

「あす、オープン 8 合目の衛生センター」 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 14 日付)

「富士登山も本番 つゆ明け週末にぎわいそう」 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 16 日付)

「概ね良好にホッ登観光地の衛生監視終る」〔山室衛生〕 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 17 日付)

「後断ため無謀登山 遭対協支部 正しい知識普及へ 主な遭難事故」〔静岡県山岳遭難防止協議会〕 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 17 日付) ▼▼

「地元の設営準備に着手 神奈川ジャンボリー」 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 17 日付)

「日本列島のおいたち展 奇石博物館で開幕」 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 17 日付)

「風雨の中、富士山クリーン 4H クラブがんばる」〔清掃登山〕 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 19 日付)

「富士山で転落重傷 下山中、足を踏み外し」〔遭難〕 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 20 日付) ▼▼

「沢に食肉鶏の死体大量投棄」〔産廃〕 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 20 日付)

「光化学シーズンに備え 市が監視体制を強める 今夏は発生しそう 早くも富士で予報」〔公害〕 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 21 日付)

「開発許可促進を陳情 北山・白糸 ゴルフ場計画捨てず」 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 21 日付)

「富士山頂から差出しも 暑中見舞最盛期」〔山頂郵便局〕 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 21 日付)

「“開山以来、初の日本晴れ” 頂上で大阪の青年が結婚式 奥宮の金森さんがたより」〔変わり種登山〕〔金森安彦〕 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 22 日付)

「あす市を親善訪問 富士と琵琶湖を結ぶ会」〔近江八幡市〕 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 22 日付)

「虚空蔵社古墳保存決る 小泉区画整理 改革街路を一部変更」 (『岳南朝日』 1977 年=昭和 52 年 7 月 23 日付)

「きょうの週末に期待 富士登山、最盛期入り」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年7月23日付）

「大沢砂防工事急ピッチ 台風シーズン控えて」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年7月24日付）

「期待される発掘 26日から滝戸遺跡調査」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年7月24日付）

「きょう朝霧で草競馬大会」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年7月24日付）

「薬草おみやげに 50人が自然に親しむ」〔自然と親しむ会〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年7月26日付）

「近江八幡から続々お客さん」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年7月26日付）

「ようこそ近江八幡の子どもたち 両市交歓会スタート」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年7月27日付）

「われら“兄弟”近江八幡・富士宮両市児童生徒交歓」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年7月28日付）

「新五合目駐車異常あり 乗捨てマイカーで混乱 第五日曜は非常体制で監視」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年7月29日付）

《新五合目駐車異常あり 乗捨てマイカーで混乱 第五日曜は非常体制で監視  
夏山富士がピークにさしかかったが、それとともに新五合目駐車場付近が車で渋滞、今後の受け入れに大きな問題をなげかけている。とくに七月最後の三十一日の第五日曜日はピークの頂点が予測され、富士宮署、富士土木事務所、それに富士急行は非常体制で臨む方針だ。

二十四日、新五合目に入ってきた車は二千九百六台（自家用車二二二九台、バス四二台）に上った。ところが、同所駐車場は四百四十台の収容能力しかない。置き場所を失なった車は山室周りの一方通行道路へ違法駐車で混雑を誘った。

このため、同日午前九時半ごろから渋滞し始めあとから来た車は立ち往生。外へ出ることもできず、一時間余のノロノロ運転の末、下山するというケースも重なった。

登山バスを運転する富士急行では、急拠“駐車場確保係”を編成、マイカー侵入を防ぐ始末。富士宮署もパトロールに当たったが、違法駐車の主は乗り捨てたままちっとも姿を現わさない（山頂組？）ため、監視のらちがあかなかったという。

そこで、ここ一両日中に道路管理者の土木事務所、富士急行と三者で対策会議を開き、“よりスムーズな運転”を協議することになった。根本的な解決策はとれないとしても、さしあたりパトロールの強化で対処する方針を固めている。》（『岳南朝日』1977年＝昭和52年7月29日付）

「“親睦の火”を灯しながら…近江八幡の子ら帰郷」〔富士と琵琶湖を結ぶ会〕〔近江八幡市〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年7月29日付）

「工業実態調査始まる 適地、公害対策の資料に」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年7月31日付）

「お中道で植物と地質の研究 中学校理科研修会」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年7月31日付）

「滝戸遺跡の発掘すすむ 方形周溝墓や土壌群 二層から配石遺構も」（『岳南朝日』1



977年=昭和52年8月2日付)

「七月 山はやや良 期待のピークは不振に 富士山」(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月3日付)

「涼味満喫白糸の滝 天然のルームクーラー」(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月4日付)

「二層から円形配石遺構 規模は県内でも最大級『滝戸遺跡』の発掘すすむ」(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月10日付)

「どうなるスラッジ処理 貫戸区と企業が埋立協定 一部住民が市へ反対陳情」(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月12日付)

「田貫湖の基盤整備を バンガロー改築など陳情 富士宮市」(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月12日付)

「親子四人が死傷 信号無視か 登山の乗用車に激突」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月14日付)

「日蓮宗 鬼子母山・自証寺(黒田)庶民が守り育てる」(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月12日付「精神の旅～岳麓の社寺を訪ねて」)

「議会厚経委 スラッジ投棄問題で手順のやり直しを要望 当局、反対者と話し合いへ」〔貫土区〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月13日付)

「近隣四区長が申入れ 搬入投棄に伴う措置で」〔スラッジ〕〔貫土区〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月13日付)

「婦人会がグリーン作戦」〔清掃登山〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月14日付)

「古代社会の謎を解く 大詰め、滝戸遺跡発掘」(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月15日付「カメラの目」)

「墜落兵士供養塔移す 新釜口橋の畔に 見通し悪くなり」(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月18日付)

「芝川町で土砂くずれ 朝霧で五〇〇<sup>ミリ</sup>超す」〔豪雨〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月19日付)

「奈木氏迎え文化講演会 芝川で28日に」〔富士川の合戦〕〔奈木盛雄〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月19日付)

「論議呼ぶか『地下水条例』規制は明年1月に告示 岳南地区 揚水設備の規制強化 南部の“巻きぞえ”憂慮」(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月20日付)

「“短い夏”富士山くっきり」(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月24日付)

「誘客宣伝活発に 観光協会が総会開く」〔富士宮市観光協会〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月24日付)

「教科書通りの『滝戸遺跡』三層もやはり墓地 火を燃した跡も 県東部では最古の配石遺構」(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月26日付)

「長雨に客足ダウン 夏富士、あす山閉い」〔閉山〕〔高齢者登山〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年8月30日付) ▼▼

「大小土■57基を確認 祭祀場の可能性強まる 千居遺跡」〔土壇〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年9月1日付) ■=土扁に広

「大気のクリーンまだ遠し 二酸化硫黄は基準達成 窒素酸化物は全測点不合格 51年度中佐」〔大気汚染〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月2日付）

「強行スケジュールでアウト“患者”の90%が高山病 衛生センターの夏山決算」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月2日付）

「随想 濃霧の富士登山（一）植松京子」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月2日付）

「ベールぬぐ『滝戸遺跡』縄文早期（紀元前七千年）から墓地に 近くは古墳中期（五世紀）まで？」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月2日付「ズームアップ」）

「随想 濃霧の富士登山（二）植松京子」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月3日付）

「富士山頂に初雪 冬はかけ足で」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月4日付）

「新五合へ22万7千人 夏山総決算 富士宮署調べ」〔登山者数〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月4日付） ▼▼

《新五合へ22万7千人 夏山総決算 富士宮署調べ

富士宮署は三日、夏山富士の“登山決算”と、田貫湖行楽の人出をまとめた。

それによると、七月一日から八月三十一日までの二カ月間に、新五合目まで登った人は二十二万七千三百五十二人。山頂までの登山者は五万六千四百三十九人だった。また高鉢ゲートから北では交通事故（物損）一件。登山中のケガは一件で一人。静岡市内の調理士（二六）が転落、重傷を負ったもの。

一方、田貫湖は。バンガローを利用した人が二千六百九人、貸テント利用者千五百三十七人、テント持ち込みが八百人。湖周辺の行楽交通事故は三件で六人がケガ。このほか、同期間中の釣り人は七百二十八人あった。》（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月4日付）

「広域かんがいで水不足解消へ 陽の目見るか栗倉、村山 一級畑作化の計画すすめる」〔畑灌〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月6日付）

《広域かんがいで水不足解消へ 陽の目見るか栗倉、村山 一級畑作化の計画すすめる 水不足の畑作地帯、栗倉、村山地区を広域灌漑化する事業計画が富士宮市の手ですすめられている。成功すると“有史以来の”水問題での一級畑作地帯にイメージ・チェンジするのが確実だ。

栗倉、村山地区の最大のなやみは水。古くから天水に頼っていたところが多く、最も深刻な北井久保部落は四年前、ボーリング揚水に成功して水問題と別れを告げたが、その他の地域は簡易水道を使用している。百畝ちかい耕地面積を持ちながら灌漑施設がないため畑作物の収益率はどこよりもひくいという。

水に対する地元民の要望はつよく、事あるごとに市へ上水道布設を要望したり、県へ灌漑用水の布設を訴えている。

同市でもこの実情には早くから心を痛めており非公式な形で対策を構っていたが、栗倉の西原地先きで県のボーリングが成功したことから全域の灌漑事業実施計画を立てた。灌漑の“生命線”である井戸の位置は海拔三百五十メートルの地点で、地下百六十メートル掘り下げ、日量千四百トンの水量を確保している。これを県から有償で譲りうけることになっているが、

水量は北井久保揚水の四倍に当り、水に困っている村山一、二区、粟倉一、二区の全域に給水しても十分応じられるほどだ。

同市では地元代表者と協議、加入戸数と面積、支出額、実施方法など検討、すでに準備段階に入っているが地元は歓迎ムード。スムーズにすすんでいる。

順調に運べば団体営土地改良総合整備事業で五十三年度から三か年計画で完成させる方針。いまのところ国、県の補助率は定かでないが、キーポイントの水があることと地元側の積極性とで明るい展望を持っている。富士山ろく畑灌事業に最後のピリオドが打てそうだ。》（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月6日付）

「製紙四社に支払い命ず 東京高裁 ヘドロ訴訟に判決」〔田子の浦港〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月7日付）

「51年度の企業重油使用量 48年度並みにもどる 伸び率は8・1% 硫黄酸化物排出量は減少」〔大気汚染〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月8日付）

「ニッピとの協定承認 公対審が答申」〔公害防止協定〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月8日付）

「登山バス客18%減 市商工観光課調べ 会員の入込状況」〔入り込み客〕〔登山者数〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月8日付） ▼▼

「山ろく酪農を飛躍 国の高率補助事業で 村山地区に団地計画 施設の近代化を推進」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月10日付） ▼▼

「富士山に登るイチゴ苗 今年も千百万本“仮植え”促成栽培でひっぱりダコ“育苗植民地”の声も」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月10日付）

「市と貫土区の合意成立 スラッジ埋立処理解決 向う3年間メドに認む」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月15日付）

「滝戸遺跡 どうなる発掘の出土品 整理にはたつぷり2年 市にいない専門調査員」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月18日付）

「浄土宗 後福山平等寺（東町）開山から四百十年」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月20日付「精神の旅～岳麓の社寺を訪ねて」）

「平等寺の今昔 末寺を開いて根北に伸びる」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月20日付）

「『富士山麓史』を刊行 富士急が創立50周年記念に 人文科学の立場で解明」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月22日付）

「大宮司家の墓所祭開く」〔富士大宮司家墓所護持会〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月22日付）

「秋色の富士の稜線」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月22日付）

「山ろくに熊が出没 キノコ刈りにご注意ください」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年9月25日付）

「産業界 迫られるきびしい対応 地下水条例 規則制定で働きかけ 市も業者間会議を計画」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年10月2日付）

「富士山頂が雪化粧」（『岳南朝日』1977年＝昭和52年10月6日付）

「富士登山で助けられた一親切な山室従業員に賞 香川の登山者が礼状と共に」〔赤池光男〕（『岳南朝日』1977年＝昭和52年10月13日付）

「新聞の原点 木版『中外新聞』幕末の世相、克明に報道 第2号から11号まで 小泉の妙円寺で保存 触書写しや町の話も」(『岳南朝日』1977年=昭和52年10月20日付)

「予想以上の効率示す 市内四工場の排脱装置」〔大気汚染〕〔硫黄酸化物〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年10月25日付)

「地下水規制条例適用で数値の見直しなど要望 富士宮市が県地下水審へ」(『岳南朝日』1977年=昭和52年10月26日付)

「大沢砂防や山口川 国の補正予算決まる」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年10月26日付)

「県の地下水規制に対応 きょう水利用調特委開く」〔水利用調査特別委員会〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年11月5日付)

「富士山真っ白」〔冠雪〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年11月5日付)

「落葉を集めて焼きイモ 山の分校で秋とお別れ」〔富士根北小栗倉分校〕(『岳南朝日』1977年=昭和52年11月23日付)

## ■ 1978年=昭和53年

「団体宿泊所新設にメド 田貫湖キャンプ場基盤整備」(『岳南朝日』1978年=昭和53年1月6日付)

「市の方針を説明 大詰めの地下水規制条例」(『岳南朝日』1978年=昭和53年1月6日付)

「ベール脱ぐ若宮、代官屋敷遺跡 今春、大がかりな発掘調査 縄文時代早期の宝庫」(『岳南朝日』1978年=昭和53年1月6日付)

「石原で珍しい火除け行事 19戸が番屋づくり ことしも16日に総出で」〔村山道〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年1月10日付) ▼▼

「緩和措置にダメ押し 地下水規制で地元業界 県議らにも働きかけ」(『岳南朝日』1978年=昭和53年1月11日付)

「至上課題、2トン(毎秒)保全 地下水採取、一件落着したが…迫られる使用量の掌握」(『岳南朝日』1978年=昭和53年1月18日付)

「内野神社(白糸)地域の五神社を“大統合”新しい共同体の象徴に」(『岳南朝日』1978年=昭和53年1月20日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて」)

「過去3回の大災害 富士宮浅間神社の地震記録 120~130年の“周期”で」〔浅間大社〕〔金森安彦〕〔写真:明治22年頃の浅間大社拝殿〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年1月26日付)

「栗倉・村山 広域灌がい化 受入れ体制固める 着工待っだけ」〔畑灌〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年1月29日付)

「へドロ抑制2万トン達成 田子の浦水域 協会が県へ報告」〔富士環境保全協会〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年2月1日付)

「身延線は二駅対象 国鉄合理化計画 55年、貨物扱廃止」(『岳南朝日』1978年=昭和53年2月1日付)

「白糸の滝を保護しよう～このままでは崩壊～市民ぐるみで運動」〔白糸の滝を守る会〕  
 (『岳南朝日』1978年=昭和53年2月2日付)

「畑地36畝に水道施設 村山・粟倉 土地改良事業を提案」〔畑灌〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年2月4日付)

「地元業者登用で調整を 市民クラブ、学会墓園建設で申入れ」〔創価学会〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年2月5日付)

「夏山料金を検討 富士宮で五口協幹事会」〔物価〕〔五口協議会〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年2月5日付) ▼▼

「これも修行寒くないゾ 大石寺の青年僧侶 日興しのび寒中水泳」(『岳南朝日』1978年=昭和53年2月7日付)

「田貫湖キャンプ場のの基盤整備 県が3か年事業で計画 団体宿泊所の建設と合わせ」  
 (『岳南朝日』1978年=昭和53年2月9日付)

「北山財産区 払い下げ価格で対立 市内市外小作権者『不平等で納得できぬ』財産区運営委『根拠に基いて算定』」(『岳南朝日』1978年=昭和53年2月11日付)

「毘沙門天祭に臨時バス」(『岳南朝日』1978年=昭和53年2月11日付)

「『富士山』に取組む 劇団つくし」〔野沢たけし〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年2月16日付)

「随想 富士山は生きている 深沢つや子」(『岳南朝日』1978年=昭和53年2月19日付)

「北限の気象に挑む 建設大の若い技官と訓練生 表土保全や防災資料に 四年がかりの観測 来月メドにまとめる」〔建設大学中央訓練所〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年2月21日付)

「小作料、7年ぶりに値上げ 水田40%、畑地50% 4月施工」(『岳南朝日』1978年=昭和53年2月23日付)

「委員をリストアップ 白糸滝を守る会へ着手」(『岳南朝日』1978年=昭和53年2月23日付)

「懸案の観光協会独立へ 新年度総会で規約改正 組織の体質強化図る」(『岳南朝日』1978年=昭和53年2月28日付)

「魚病ワクチン開発へ 業界の悲願になって…県立養そん場『試験経過に自信』」〔ニジマス〕〔富士養鱒場〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年2月28日付)

「日蓮宗本極山遠照寺(猪之頭)土地の“富豪”が建立 身延本山の“触頭”にも」(『岳南朝日』1978年=昭和53年2月28日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて」)

「未契約小作者に“催告”期限切れは無償返地 北山財産区」(『岳南朝日』1978年=昭和53年3月3日付)

「工業用水重視、生活用水軽視 転倒している水利用“先決問題は優先順位”」(『岳南朝日』1978年=昭和53年3月3日付「ズームアップ」)

「宿泊料3700円 夏山富士の物価決る 富士宮口ことしも独自」〔五口協議会〕〔富士宮口山室組合〕〔分裂料金〕〔わらじ〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年3月5日付) ▼▼

「造林育成に赤信号 広大な“放置林”すすむ 労力不足に用途減少が拍車 管内でざっ

と一万竈も」〔植林〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年3月11日付）  
「スラッジ処理、やっと許可 ホットした企業、行政 貫戸を『最終処分地』に」〔産廃〕  
「三人きりの卒業式 栗倉分校」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年3月19日付）〔富士根北小学校〕  
「春風に『観音大画像』星山大悟堂で“ご開帳”」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年3月19日付）  
（『岳南朝日』1978年＝昭和53年3月18日付）  
「陽の目みる二遺跡 2年ががかりで発掘調査 縄文早期の宝庫」〔代官屋敷調査〕〔若宮遺跡〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年3月25日付）  
「近代化へ向けて飛躍 根北に“酪農団地”」〔富士根北部酪農団地〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年3月25日付）  
「“東平遺跡”も発掘 富士 3カ年で3億円」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年3月29日付）  
「難問の鉄砲水対策 調査、53年度も継続 長期戦の構え」〔西富士地区土地改良調査事業〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年3月30日付）  
「岳麓散歩(26) 渦巻いた不信と期待 市村合併から20年 証言でつづるドラマ」〔北山〕〔白糸〕〔上井出〕〔上野〕〔柚の〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年4月6日付）  
「標準料金など正式決定 富士宮で五口協総会」〔富士山五口協議会〕〔夏山物価〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年4月9日付）  
《標準料金など正式決定 富士宮で五口協総会  
ことしの夏山富士の受入れを決める富士山五口協議会の五十三年度総会は十四日午前十一時半から富士宮グランドホテルで開かれ、今夏の標準料金をはじめ、輸送対策、山室受け入れ対策などを協議する。  
総会には静岡県側の富士宮、御殿場、小山、山梨県側の富士吉田、河口湖の各市町観光担当課長、山室業者、旅館組合、富士急行などの関係者ら約百三十人が出席する。  
夏山料金のうち山室宿泊料はすでに幹事会で昨年より六百円アップの三千七百円と決まり、富士宮口だけは三千五百円にすることで話し合いがついている。》（『岳南朝日』1978年＝昭和53年4月9日付）  
「夏山富士、受入れ固める 県境越え美化運動実施 宿泊料金なども確認 五口協議会」〔物価〕〔富士山をきれいにする会〕〔わらじ〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年4月15日付） ▼▼  
「除雪作業急ピッチ 富士山新五合目 黄金週間オープンめざして」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年4月23日付「グラフニュース」）  
「開発を“チェック”丸四年 四市一町がきょう総会 富士山の自然と環境を守る会」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年4月26日付）  
「遺跡発掘で説明会」〔代官屋敷遺跡〕〔若宮遺跡〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年4月26日付）  
「登山ルートあす開通 新五合目の除雪終る」〔スカイライン〕〔冬期閉鎖〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年4月27日付）  
「連休にハイキングバス 富士急、貧五合へ運転」（『岳南朝日』昭和63年年4日28日

付)

「春山の幕ひらく 登山ルート 新5合で開通式」〔スカイライン〕〔冬期閉鎖〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年4月29日付）

「光化学スモッグ監視体制強化 市公害交通課 緊急事態策決める」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年4月29日付）

「雨が出足をくじく 新五合目は雪 観光地拍子抜け」〔スカイライン〕〔冬期閉鎖〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年4月30日付）

「“黄金連休”スタート 初夏にみる冬のたたずまい 富士山新五合目」〔スカイライン〕〔冬期閉鎖〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年4月30日付「グラフニュース」）

「輸送の花形どこへ 値上げで国鉄離れ 貨物扱い27%減 富士宮駅」〔身延線〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年5月7日付）

「クリーン化はいつ 減らぬ窒素酸化物汚染 山間部でも基準すれすれ 排出ガス規制強化したが」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年5月11日付）

「山静両県結んで半世紀 27日に下部で記念式典 身延線の開通50年祝う」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年5月12日付）

「夏山富士の誘客宣伝へ 関西、関東へキャラバン 観光協会が来月にかけて派遣」〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年5月13日付）

「田植えに水の援軍 あすから田貫湖放出」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年5月18日付）

「公害調査を実施 市が環境週間行事に」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年5月20日付）

「高原教室一番乗り グリーンキャンプ場 清水市の中学生」〔ピカ表富士〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年5月20日付）

「森林レクの誘い 早くも予約殺到!! 表富士グリーンキャンプ場」〔ピカ表富士〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年5月25日付「レジャー」）

「宝永の雪溪に転落 貧血起した行楽の女性」〔宝永遊歩道〕〔遭難〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年5月30日付） ▼▼

「四工場・事業所が基準違反 総量規制後、初の立入調査 重油の硫黄分チェック」〔公害〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年5月31日付）

「発掘調査、きょうスタート 代官屋敷遺跡から着手 まず一千平方メートル対象に」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月1日付）

「夏山標準料金に『待った』公取委が廃棄勧告」〔公正取引委員会〕〔独禁法〕〔富士山物価協定表〕〔五口協議会〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月2日付） ▼▼

《夏山標準料金に『待った』公取委が廃棄勧告

富士山五口協議会（富士宮、御殿場、富士吉田、河口湖、小山五市町と関係業者で構成）がさきに総会で申し合わせた山室宿泊標準料金は独禁法違反の疑いがあるとして公正取引委員会が当番市の富士宮市へ廃棄通告してきた。夏山開きを一か月後にひかえ、各登山口の市や山室業者はショックを受けているが二日午後一時半から富士宮市元城町の勤労青年ホームで協議会を招集、こんごの対策を練る。

山室宿泊料金等の標準料金はさる四月十四日に富士宮市で開いた総会で申し合わせたも

ので、宿泊料（一泊二食付）は里の部が上限を四千元よりとし昨年より七百元アップ、山の部は三百円アップの三千七百元と決めた。

ところが公正取引委員会はこのほど当番市の富士宮市に対し、標準料金は独禁法違反の疑いがあるとして廃棄を通告してきたもので、窓口の市商工観光課はこれを五口協議会に報告、こんごの対応策を協議することになった。》（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月2日付）

「宝授山吉祥寺（芝川町上羽鮒）改宗して六百年 旧農村部に根を張る」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月2日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて（24）」）

「建設急ピッチ 大沢砂防事業 扇状地対策ほぼ固まる 潤井川整備と併行して 直轄延長求む地元」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月2日付「ズームアップ」）

「早くも土器の破片出土 代官屋敷遺跡の発掘調査」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月3日付）

「標準料金破棄決める 富士山五口協 善後策は別途協議」〔物価〕〔独禁法〕〔五口協議会〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月3日付）▼▼

「老朽の参集所、近く取壊し 大正末期の木造建物また一つ消える 和風造りの鉄筋で新築 浅間神社 来春完成をめざす」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月3日付）

「“富士山クリーン大作戦”スタート 公共心をアピール 11団体が参加して」〔清掃登山〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月3日付）

「きょう関東へキャラバン 一都市三県で観光誘客宣伝」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月7日付）

「ミミズ養殖業者結束 協同組合づくりへ」〔国土環境開発〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月7日付）

「夏山臨時電話架設決る 富士山」〔山頂電話〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月7日付）

「開山より一足早く山室監視 富士宮保健所」〔山室衛生〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月9日付）

「標準料金破棄で原点を問われる富士山五口協議会 富士宮口の組合長 中村さんに聞く料金の自主決定は当然 環境、条件の違いを重視」〔富士宮口山室組合〕〔中村嘉四郎〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月9日付「ズームアップ」）▼▼

「五口協の在り方再考へ 主眼（料金設定）否定され方向失う」〔五口協議会〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月9日付）▼▼

「【五口協議会】」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月9日付）▼▼

「富士山麓造林に息吹き 国の補助で中核林業推進 四市一町、今秋メドに施行 放置林を大幅整備」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月9日付）

「西駅の急行停車本決り 今秋十月から上下四本 悲願、六年ぶりで実る」〔身延線〕〔西富士宮駅〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月11日付）

「『貴重な地下水を守れ』水保全で市民代表が訴え 市議会」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月15日付）



「鎌倉、室町時代は墓地？中世土壌墓？発掘調査進む代官山遺跡」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月16日付）

「市が五千円補助 へい獣処理の輸送に」〔弊獣〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月16日付）

「山梨側から静岡側を襲う“人的猛威”迫られる“越境鉄砲水”対策 51年災害で重大化」〔豪雨〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月16日付「ズームアップ」）

「凄絶な溪谷美展開 富士川の“秘境”探る」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月17日付「レジャー」）

「富士登山のパンフ完成 初心者向に編成 富士急行で無料配布」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月17日付）

「十数トンのゴミ回収 富士山のクリーン作戦」〔清掃登山〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月20日付）

「『公水論』の立場、明確に 議会水利用調査特別委 報告書きょう作成」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月22日付）

「芝川でガケ崩れ 台風くずれの余波 富士山に大雨」〔豪雨〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月22日付）

「富士山二合目で探鳥会開く 野鳥の会支部」〔静岡県野鳥の会〕〔阿部英雄〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月22日付）

「百万人を割る 52年度の創価学会輸送」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月25日付）

「地下水問題 商工会議所が回答『規制遵守すれば不安ない 協力金制度、事実上拒否』」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月27日付）

「クラシックカーで富士登山 20数台が勢ぞろい 7月9日、富士宮口を出発」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月27日付）

「ふるさと夜話 戦国の世の黄金の宝庫 植松貞治」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月27日付）

「夏山情報 登山人口一般化？ 富士山落石に注意」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月29日付）

「夏山富士へゴー 表富士宮口の受入れ体制 山室も一斉に店開き 電話、郵便 10日から」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月29日付） ▼▼

「県境防災のズレ調整 山静岡両県が初会合 きょう富士宮市役所で」〔越境鉄砲水〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年6月30日付）

「夏山富士オープン 雨の中、37人が一番乗り」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月2日付） ▼▼

「82歳の片山貫主ら富士登山」〔高齢者登山〕〔北山本門寺〕〔片山日幹〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月4日付）

「大気のクリーン化順調 SO<sub>2</sub>環境基準を達成 重油の低硫黄化すすむ 52年度結果」〔大気汚染〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月4日付）

「友へ贈る 池田大作 聖教新聞社」〔創価学会〕〔広告〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月4日付）

「改造で生れ変わる駅前」〔駅前整備〕〔大鳥居〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月5日付「カメラの目」）

「ことしは近江八幡市で 交歓会日程決る」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月7日付）

「きょう古式床いしお田植祭」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月7日付）

「ゴミ持ち帰り運動 環境庁 富士クリーン作戦」〔清掃登山〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月8日付）

「実りの秋を祈って…七夕に古式床しいお田植祭」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月9日付「グラフニュース」）

「オールドカー勢ぞろい 富士登山前に市中パレード」〔クラシックカー〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月9日付）

「本社→富士山頂モシモシ おだやか登山日和続く 奥の宮 渡辺神官『水不足が心配』」〔奥宮〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月11日付）

「大半の車が無事登山 オールドカー面目躍如」〔クラシックカー〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月11日付）

「オールドカーの気骨 “軍団” 富士山へ」〔クラシックカー〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月12日付「カメラの目」）

「国の防災調査受け入れ 山静両県越境水対策で 協議会（仮称）の結成案も」〔越境鉄砲水〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月13日付）

「なりふり構わぬ耕作推進『管理休耕』で面積かせぎ 富士宮市水田利用再編成 15%の未消化に全力」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月14日付）

「富士山くっきり 大雨去って、さわやか」〔写真〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月14日付）

「ふるさと夜話 中宮八幡堂 村山登山道の歴史を刻む 植松貞治」〔村山古道〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月14日付）▼▼

「もう10回目です 自然と親しむ会 来月2日、旧2合目へ」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月14日付）

「若之宮浅間の例大会」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月14日付）

「青年のページ 郷土資料の一助に 郷愛チーム、植物群を“接写”」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月15日付）

「青年のページ 富士山頂で友情を ユース、富士登山ホス」〔ユースホステル富士宮〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月15日付）

「東側丘陵に期待 代官屋敷遺跡発掘 出土遺物が集中」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月15日付）

「西富士宮駅、生まれて50年 運んだ乗客五千万人 悲願の急行停車も決る だがジリ貧で前途多難」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月16日付）

「10月メドに再開 田子浦港の残留ヘドロ処理 県、紙業協会へ申入れ」〔田子の浦ヘドロ〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月16日付）

「今秋から基盤整備着手 県営田貫湖キャンプ場 団体宿泊所建設へ」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月20日付）

「八項目実現で当局へ要請 水利用調特委 協力金制度など後押し」〔地下水〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月21日付）

「若宮遺跡を予備調査 下旬から学生を投入」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月21日付）

「今夏は北山、上条を 宮北郷研 合宿で民俗調査」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月21日付）

「山頂郵便局大もて 暑中見舞いもどっと」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月22日付）

「駅前鳥居の撤去論争再燃か 広場の造成に支障 移転含め神社と交渉へ 年度内の決着めざす 当局」〔駅前整備〕〔大鳥居〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月26日付）

「富士と琵琶湖結ぶ会 富士宮を親善訪問」〔近江八幡市〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月26日付）

「涼ライン 人いきれを搔消す 白糸の滝」〔写真〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月27日付「レジャー」）

「心に残る“旧時代” 沼久保、レンガ倉庫も健在」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月27日付「レジャー」）

「“ロッコン、ショージョー” 交歓学生が富士登山 キムさんとマーガレットさん」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月28日付）

「大室古墳にメス 教委が実測確認調査」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月29日付）

「親子の富士登山とキャンプ ふるさと学級」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年7月30日付）

「涼ライン 闇に息づくスリルで涼しさも倍加 万野風穴」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年8月3日付）

「ふるさと夜話 天狗さん 天狗信仰は法印が伝承 植松貞治」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年8月3日付） ▼▼

「お中道で四〇〇<sup>㊦</sup>、富士宮地方に強い雨」〔豪雨〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年8月4日付）

「扇状地の土砂に受け皿？ すでに70万<sup>㊦</sup>たい積 学会本部を打診 富士宮市」〔大沢崩れ〕〔創価学会〕〔富士桜自然墓地〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年8月5日付）

「副葬品出れば年代の判明 大室古墳調査始まる」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年8月5日付）

「地下水利用で懇談会 市、企業と意見交換」（『岳南朝日』1978年＝昭和53年8月6日付）

「学会、善処を約束 大沢扇状地の土砂処理」〔大沢崩れ〕〔創価学会〕〔富士桜自然墓地〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年8月6日付）

「大もて建設大訓練所 夏休みで研修組どっと」〔建設大学中央訓練所〕（『岳南朝日』1978年＝昭和53年8月9日付）

「婦人薬剤師が薬草を勉強 富士山ろくで採取と観察」（『岳南朝日』1978年＝昭和

53年8月9日付)

「つくしモデル上演 『富士山』 山川市長も特別出演 全児演総会、富士宮で」〔全国児童演劇協議会〕（『岳南朝日』1978年=昭和53年8月9日付）

「劇団つくし公演 富士山 指揮・関矢幸雄」〔広告〕（『岳南朝日』1978年=昭和53年8月9日付）

「富士山新五合目は大にぎわい 下界の猛暑から逃げ出す 車のいり込み 45%増 昨年同期」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1978年=昭和53年8月10日付）▼▼

「豊茂に公民館1号 開拓80周年を記念して」（『岳南朝日』1978年=昭和53年8月10日付）

「涼ライン 人気をさそう伝説と聖穴の誇り 人穴風穴」（『岳南朝日』1978年=昭和53年8月10日付）

「家族連れに人気 駿河湾フェリー 富士と伊豆を70分で」（『岳南朝日』1978年=昭和53年8月10日付「レジャー」）

「日蓮宗富士山代立寺（小泉）起伏三世紀を経て地域に深く根張る」（『岳南朝日』1978年=昭和53年8月11日付）

「宗教界往来 80歳貫首の富士登山」〔高齢者登山〕〔北山本門寺〕〔片山日幹〕（『岳南朝日』1978年=昭和53年8月11日付）

「『婆々穴』を立入禁止に 入口小さく中ポッカーリ」（『岳南朝日』1978年=昭和53年8月12日付）

「登山客は“バス離れ”？ 夏山富士にちょっと異変」〔マイカー登山〕（『岳南朝日』1978年=昭和53年8月13日付「グラフニュース」）

「復活する神田川の清流 県が第四次しゅんせつ たい積する土砂や空カン除去」（『岳南朝日』1978年=昭和53年8月17日付）

「富士山衛生センターを閉鎖」（『岳南朝日』1978年=昭和53年8月17日付）▼▼

「夏山富士閉じる 近年にない好記録樹立 開通以来最高の登山ルート」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1978年=昭和53年9月1日付）▼▼

「富士山クリーン作戦 空カンドっさり」〔清掃登山〕（『岳南朝日』1978年=昭和53年9月5日付）

「富士山閉山祭 あす浅間神社で」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1978年=昭和53年9月6日付）

「20年ぶり護摩復活 村山浅間大日堂 区民が保存はかる」〔村山修験〕（『岳南朝日』1978年=昭和53年9月8日付）▼▼ ←本文中にある《昭和三十三年に一度復活した》は確認できない。←また以下のように、赤野竹司編『富士山表口登山道 茂良山』の記述と矛盾する。《三十数年来途絶えていた護摩の祭りが、氏子と青年の協力で復活し、大日堂境内は久方ぶりの賑わいを見せた。此日を契機として氏子と青年の申し合わせにより、毎年九月の第一日曜日を大日堂の祭典の日と定め、》（赤野竹司編『富士山表口登山道 茂良山』富士山表口登山道保存観光資源化推進協議会、1993年）

「浅間神社資料を公開 郷土資料館 家宝の系図や鬼面も」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1978年=昭和53年9月10日付）

「新五合目へハイクバス 日曜、祝祭日に一往復」（『岳南朝日』1978年=昭和53

年9月10日付)

「大沢砂防早期完成など 治山治水期成同盟 きょう、あす陳情」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年9月12日付)

「『白糸の滝守る会』結成へ 市民的運動の母体に 自然環境の保全目指す」(『岳南朝日』1978年=昭和53年8月16日付)

「富士山頂から 青銅の掛仏 横浜の大工さんが拾う 奇縁、寄進も室町中期の大工 出土品では最古 仏像は六の岳薬師如来」(『岳南朝日』1978年=昭和53年9月21日付)

「水なし地帯の解消へ一歩 栗倉・村山 畑かん事業が着工」〔富士根北部土地改良組合〕〔畑灌〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年9月22日付)

「構図 岳麓 一世紀余の案内標識 親しまれる上井出一本松 文 佐野満」(『岳南朝日』1978年=昭和53年9月22日付)

「大日蓮華山興徳寺(下柚野) 生粋の日蓮宗寺 問答に勝って元禄年間に移転」(『岳南朝日』1978年=昭和53年9月22日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて(26)」) → [大石寺からの反論あり、「不可解な“問答説”興徳寺問題の疑惑について」\(10月15日付\)](#)

「おめでとう、西駅急行停車! 鳴り物入りで祝賀行事」〔身延線〕〔西富士宮駅〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年9月27日付)

「西駅に悲願の急行停車 初便に感激の万歳 運転士に花束贈り祝う」(『岳南朝日』1978年=昭和53年10月3日付)

「建設大(災害防衛青年隊)が防災調査 活断層やブロック塀など」(『岳南朝日』1978年=昭和53年10月6日付)

「富士山初冠雪 秋深まる山ろく」(『岳南朝日』1978年=昭和53年10月7日付)

「再開発にテコ入れ 西町地区 急行停車で決意新たに」(『岳南朝日』1978年=昭和53年10月7日付)

「天照教(栗倉) 標高千メートルの名勝 布教強化めざす 準備進める3代目 22日には秋の大祭」(『岳南朝日』1978年=昭和53年10月15日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて(27)」)

「宝物公開もすぐ間近に」(『岳南朝日』1978年=昭和53年10月15日付)

「不可解な“問答説”興徳寺問題の疑惑について 日蓮正宗富士学林図書館長 山口範道」(『岳南朝日』1978年=昭和53年10月15日付) ← [9月22日付「大日蓮華山興徳寺\(下柚野\) 生粋の日蓮宗寺 問答に勝って元禄年間に移転」に対する反論](#)

「野鳥の会 次は“野鳥の聖地”新年度方針で打出す」(『岳南朝日』1978年=昭和53年10月18日付)

「構図 岳麓 広壮優美な“不死鳥”庶民の心に生きる浅間造り」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年10月19日付)

「追われる野鳥 お寒い保護行政 荒廃一方の山野 立ち上がる『野鳥の会』“聖地”建設に一石」(『岳南朝日』1978年=昭和53年10月20日付「ズームアップ」)

「砂防に二億五千万円 大沢川など補正決る 建設省」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年10月22日付)

「野ねずみ、国有林で繁殖 民有林に被害拡大の恐れ 来月、へりで空から退治」(『岳

南朝日』1978年=昭和53年10月31日付)

「随想 摩利支天—石塚信仰の周辺 植松貞治」(『岳南朝日』1978年=昭和53年10月31日付)

「千五百人が利用 西駅急行停車から一か月」〔西富士宮〕〔身延線〕(『岳南朝日』1976年=昭和53年11月3日付)

「富士桜自然墓地公園 学会が計画変更届 現有面積で五千基ふやす 市土地利用対策委で同意 県、市に負い目も」〔創価学会〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年11月15日付)

「スキー場・雪あそび場 12月9日、揃って開幕 日本ランドのウィンター・レジャー」〔イエティ〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年11月16日付「レジャー」)

「シーズン突入 モラル向上に慎重 西富士山麓猟友会」(『岳南朝日』1978年=昭和53年11月16日付「レジャー」)

「18年間の調査に終止符 天間沢遺跡の発掘」(『岳南朝日』1978年=昭和53年12月7日付)

「就業改善地域に指定 村山と広見の二か所 近代的農家へ脱皮図る」〔農業就業改善事業〕(『岳南朝日』1978年=昭和53年12月7日付)

「富士山初日の出バス選行[運行?] 富士急が初の試み」(『岳南朝日』1978年=昭和53年12月12日付)

「市内最古の住居址 代官屋敷遺跡で発掘 県内では初の発見」(『岳南朝日』1978年=昭和53年12月15日付)

## ■ 1979年=昭和54年

「展望照らす光は背後に 夜明けを待つ富士山 撮影 坂本猛」〔写真〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年1月1日付)

「ドーナツ化する公害 昨年は38件の苦情受付」(『岳南朝日』1979年=昭和54年1月4日付)

「ふもとの家でモチつき大会 15日、成人祝い」〔ユースホステル〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年1月4日付)

「柿のせん定講習 9日から巡回して」〔四ツ溝柿〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年1月7日付)

「こんどは若宮遺跡 今月中に発掘調査へ」(『岳南朝日』1979年=昭和54年1月9日付)

「潤井川改修、第二段階へ 白土の用地買収が完了 新年度から流域変更」(『岳南朝日』1979年=昭和54年1月17日付)

「保全調査費を計上 越境鉄砲水対策に朗報」(『岳南朝日』1979年=昭和54年1月17日付)

「市街地再開発 商工会議所で計画案 地下交差で鳥居は存置 西富士宮駅は線上化」〔駅前整備〕〔大鳥居〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年1月19日付)

「24日ごろ作業再開 田子の浦港へドロ処理 漁連条件つき了承」(『岳南朝日』197

9年＝昭和54年1月19日付)

「宿泊施設の建設進む 県営田貫湖キャンプ場」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年1月21日付「グラフニュース」)

「富士山ろく冬景色」〔下馬桜〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年1月21日付「グラフニュース」)

「縄文前期の土器復元 市内最古の住居址からの出土品」〔代官屋敷遺跡〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年1月28日付)

「富士山一合目の森林開発 “中腹林道”の建設へ 期成同盟会も誕生」〔飯盛林道〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年1月28日付) ▼▼

「クリーン富士めざし 今夏、徹底した清掃」〔清掃登山〕〔富士山を一度徹底してきれいにする会〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年1月30日付)

「“越境汚水は許さん” 一般廃棄物最終処分場 清水市の計画に待った 下流の芝川住民が反対運動 稲瀬川排出に拒否反応」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年2月15日付) →続報「“稲瀬川汚染”にケリ」1980＝昭和55年3月4日付

「『県営』の呼称を外す 田貫湖キャンプ場 条例で新年度から」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年2月15日付)

「富士山も街もクリーンに 都市美化運動を推進 富士宮市 54年度から継続的に」〔富士山クリーン作戦〕〔富士山を一度徹底してきれいにする会〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年2月20日付)

「竹養山正法寺(柚野) 真言から日蓮宗に 明治の苦難も執念で乗切る」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年3月16日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて(29)」)

「5年間でクリーン化 富士地域 公害防止計画見直し」〔富士山を一度徹底してきれいにする会〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年3月23日付)

「山ろく苗木の出荷、急ピッチ 三百五十万本、全国へ 自主調整効きひっぱりダコ」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年3月25日付)

「富士根畑総どうやら軌道に 今年度中に工程半道中 農道や排水路を着々と整備」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月9日付)

「ヤジリの“製作工房” 若宮は縄文早期の遺跡 狩猟の変化に手がかり？」〔若宮遺跡〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月13日付)

「身延線も“国鉄離れ”急 富士宮駅 前年の6・7%減少 値上げで収入は増」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月14日付)

「水干日程決まる 火の元にはご用心」〔用水の水干し〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月14日付)

「「世界“漫遊”青春一人旅 富士山頂は遠い道? スイスのピーター・ステイブレさん」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月14日付)

「27日から開通へ 表富士周遊道除雪急ピッチ」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月15日付「グラフニュース」)

「根北に共同製茶工場 シーズン控えて完成」〔富士根北部共同製茶組合〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月24日付)

「『富士山クリーン作戦』地固め きれいにする会あす発足 地元、県など53団体が参加

〔富士山を一度徹底してきれいにする会〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月25日付）

「粟倉、郷愁の田舎道 新緑と農家と畑作地と」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月26日付） ▼▼

「登山ルートがオープン きょう開通式」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月27日付）

「天照教へ観桜バス運転」〔天照教観桜親睦会〕〔渡辺兵一〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月27日付）

「『きれいにする会』設立 富士の汚れに歯止め クリーン作戦の陣容も決まる」〔富士山クリーン作戦〕〔富士山を一度徹底してきれいにする会〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月27日付）

「登山ルート開通 霧雨ぬって一番乗りも」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月28日付）

「連休に増発バス 祭りやハイク客向けに」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月28日付）

「市民文化会館へ一億円 大石寺細井日達猯下 喜寿を記念し寄付」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月28日付）

「貨物も“国鉄離れ” 富士宮駅 トラックに食われる 水揚げ高は一・六%増」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月29日付）

「この春一番の人出 連休二日目 富士山や北部観光地」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月30日付）

「22件に改善勧告 観光地の食品衛生監視」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月30日付）

「黄金週間に登山バス 富士急、日曜と祝日に」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月28日付）

「早春の富士山五合目 ガレ場に冬山の名残り」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月29日付「グラフニュース」）

「やぶさめ祭近づく 準備も急ピッチ」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年4月29日付「グラフニュース」）

「富士山で植樹祭 みどりの週間行事の一環」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年5月4日付）

「朝霧で百<sup>ミ</sup>、富士宮地方の雨量」〔豪雨〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年5月9日付）

「中核林業振興まど推進 森林組合 新年度事業に三本柱」〔富士森林組合〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年5月12日付）

「富士さんにみどりを 国有林で恒例の植樹祭」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年5月13日付「グラフニュース」）

「祭りがすんで提灯台もおクラ入り」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年5月13日付「グラフニュース」）

「創作の周辺 富士に向い50年 写真家の坂本猛氏」（『岳南朝日』1979年＝昭和



54年5月13日付)

「夏野菜団地に白羽の矢 栗倉・村山地区 受入れ準備進める」(『岳南朝日』1979年=昭和54年5月15日付)

「表富士登山ルートに積雪」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年5月15日付)

「第22回親と子の写生大会」〔白糸の滝〕〔写真〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年5月16日付「カメラの目」)

「“独禁法”にふるえた富士山 山小屋料金は自由に 五口協、標準料金定めず」〔夏山物価〕〔富士山五口協議会〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年5月17日付) ▼▼

「滞留観光客誘致へ 3コースにキャラバン派遣 観光協会 30日に出発」(『岳南朝日』1979年=昭和54年5月26日付)

「公害のない明るい町づくりを 分析室の一般公開も 環境週間の行事決まる」(『岳南朝日』1979年=昭和54年5月27日付)

「根北酪農に拠点 団地の共同畜舎完成」〔富士根北部酪農団地組合〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年5月27日付)

「二回代かきだけアップ 今期の農雇賃金申合せ」〔農繁期臨時雇賃金〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年5月27日付)

「投宿滞在客誘致重点に 観光協会 白糸滝リフト計画策定も 市内観光コースも検討」〔富士宮市観光協会〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年5月29日付) ←「第22回親と子の写生大会」(5月16日付) 掲載と同じ白糸の滝写真を使用

「若宮はヤジリ製作部落 確認された縄文早期遺跡 住居址も6基発見 めずらしい“定住集団”」〔若宮遺跡〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年6月1日付)

「大沢扇状地、また大量土砂 出水2度で排除分埋まる 芝川へ流路変える恐れも 市、建設省へ排除要請」(『岳南朝日』1979年=昭和54年6月2日付)

「産廃最終処分地チェック 環境汚染なしにホッと 富士宮市内スラッジ埋立など8か所」(『岳南朝日』1979年=昭和54年6月2日付)

「埋蔵文化財の宝庫若宮遺跡 発掘調査から一年」(『岳南朝日』1979年=昭和54年6月3日付「グラフニュース」)

「総動員計画をめぐって地元労働団体は現地調査」〔富士山クリーン作戦〕〔富士山を一度徹底してきれいにする会〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年6月3日付)

「真清水噴き上げる 水なしの栗倉・村山 待望の水道間近」〔畑灌〕〔富士根北部土地改良組合〕〔鈴木吉保〕〔倉田正吉〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年6月3日付)

▼▼

「随想 天子ヶ岳秘話－皇族と弾南長者－渡辺利雄」(『岳南朝日』1979年=昭和54年6月3日付)

「クリーン作戦中止申入れ『ゴミはなく事故の恐れ』労働団体が地元市へ 現地調査で確認」〔富士山クリーン作戦〕〔富士山を一度徹底してきれいにする会〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年6月5日付)

「夏山スキー楽しむ 新五合目で若者たち」(『岳南朝日』1979年=昭和54年6月7日付)

「富士宮市 富士宮駅橋上化の促進 国鉄へ強く働きかけ 負担区分で交渉難航」〔駅前整備〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月9日付）

「大沢扇状地を視察 きょう市議会建設委」〔大沢崩れ〕〔芝川〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月9日付）

「芝川水系の危険大 大沢扇状地視察で確認」〔大沢崩れ〕〔芝川〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月10日付）

「田貫湖畔荘に活気 夏休みに団体客集中」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月10日付）

「大沢扇状地に行く」〔大沢崩れ〕〔芝川〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月13日付「カメラの目」）

「後処理残の大倉川防災ダム 供用開始まで三～四か月 満水なら田貫湖の2倍」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月14日付）

「生活路線見直しを 身延線改善期成同盟会 本年度事業決る」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月16日付）

「完歩した五湖一周 励まし合い議論して 小林義文」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月16日付）

「規制強まる地下水採取 業界にも厳しい課題 迫られる水利用の合理化 岳水協総会」〔岳南地域地下水利用対策協議会〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月17日付）

「富士山クリーン作戦で論議 『今後は独自計画で』山川市長 関係市町の協議会構想も」〔富士山を一度徹底してきれいにする会〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月20日付）

「34頭を処理 53年度へい死獣」〔弊獣〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月20日付）

「新編・日蓮大聖人御書全集 編年体・日蓮大聖人御書 聖教新聞社」〔広告〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月20日付、6月27日付、7月3日付、7月5日付）

「オールドカー登山 山開きにあわせて30台 出発前にパレードも」〔クラシックカー〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月21日付）

「クリーン作戦で大衆集会 県評が富士宮で」〔富士山を一度徹底してきれいにする会〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月23日付）

「きょうクリーン作戦 富士山 富士宮市から2千2百人」〔富士山クリーン作戦〕〔富士山を一度徹底してきれいにする会〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月23日付）

「富士山クリーン作戦 5千2百人参加 富士宮口『張り合いがないねエ』ゴミのない登山道沿い」〔富士山を一度徹底してきれいにする会〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月24日付）

「星陵高は田貫湖で清掃活動」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月24日付）

「クリーン化進む 二酸化硫黄 低硫黄化で効果 環境基準を達成」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月27日付）

「市内で最古の築造？ 大室古墳の全容わかる」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年6月28日付）

「夏山開き間近 富士宮口の受入れ体制 山室も一斉に営業 電話、郵便10日から」（『岳

南朝日』1979年=昭和54年6月28日付) ▼▼

「百万人の大台超す 昨年の大石寺登山者」〔創価学会〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年6月28日付)

「ゴミ持ち帰り PR 富士山美化長期的に」〔富士山クリーン作戦〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年6月29日付)

「国有林に野ねずみ被害」(『岳南朝日』1979年=昭和54年6月29日付)

「文殊菩薩(原)百花の絵 39枚が内蔵」(『岳南朝日』1979年=昭和54年6月29日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて(30)」)

「用地買収 残る一社も合意 富士宮駅前広場 6年ぶり解決へ」〔駅前整備〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年6月30日付)

「山開きや夏休み きょうから七月 行事も多彩に展開」(『岳南朝日』1979年=昭和54年7月1日付)

「56年度着工めざす 富士宮駅線上化 国鉄と負担区分交渉」〔身延線〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年7月3日付)

「霧雨の中で山開き オールとカーも登山」〔クラシックカー〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年7月3日付)

「山中パトや施設の整備拡充 遭対協事業計画」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年7月5日付)

「『商魂萌ゆる』伊豆山 巨木と崖と石垣」(『岳南朝日』1979年=昭和54年7月5日付「レジャー」)

「感動を雲の上から 登山記念乗車券発売」〔富士急〕〔登山バス〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年7月5日付「レジャー」)

「異常な大腸菌汚染 潤井川は基準の40倍 有害物質は問題なし」(『岳南朝日』1979年=昭和54年7月7日付)

「五穀豊穡祈って 古式ゆかしくお田植え祭」〔お田植祭〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年7月8日付)

「こんどは広域衛生クリーン作戦 富士山や周辺観光地で 今夏は回数、規模を拡大」〔富士山クリーン作戦〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年7月8日付)

「レジャー ふえる高山病 富士山を軽視するな 事前PRの一考も 沢田記者」(『岳南朝日』1979年=昭和54年7月10日付「東西南北 記者レポート」)

「本社→富士山頂『モシモシ』無風、おだやか日和 奥の宮の渡辺神官『本番はまだまだ…』」(『岳南朝日』1979年=昭和54年7月12日付「レジャー」)

「自然のふるさと 上九一色村・その周辺」(『岳南朝日』1979年=昭和54年7月12日付「レジャー」)

「ガイドコーナー 朝霧高原 田貫湖キャンプ場」(『岳南朝日』1979年=昭和54年7月12日付「レジャー」)

「富士山こぼれ話」(『岳南朝日』1979年=昭和54年7月12日付「レジャー」)

「広域的にNO<sub>2</sub>測定 二市四町の主要道路で」〔大気汚染〕(『岳南朝日』1979年=昭和54年7月13日付)

「富士山クリーン作戦 ペナント販売も展開 14団体、300人が参加」(『岳南朝日』

1979年＝昭和54年7月14日付「青年のページ」)

「富士山頂で友情を 第6回富士登山ホス」〔富士登山ホステリング〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月14日付「青年のページ」)

「今夏、滝戸遺跡を発掘 注目される複合理蔵物」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月15日付)

「富士山と話そう 朝霧野外センターで ファミリーキャンプ」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月15日付)

「落石当たり重体 下山中に大阪の会社員 富士山」〔遭難〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月17日付) ▼▼

「富士宮にお客さんどっと 人気はやはり富士登山 “夫婦” “姉妹” ようこそ」〔近江八幡市〕〔サンタモニカ〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月18日付)

「根北小二度目の栄誉 健康優秀校の県代表に」〔富士根北小学校〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月18日付)

「大沢砂防工事を推進 富士治山治水の総会開催」〔富士治山治水同盟会〕〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月19日付)

「富士山にまた雪 寒梅雨続く山ろく」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月19日付) ▼▼

「山間に風雅な庭園 “閑静なる里” 神成部落」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月19日付) ▼▼

「橋上駅舎の促進を 市首脳 国鉄本社に陳情へ」〔駅前整備〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月20日付)

「出店計画近く結論 二つの中規模スーパー」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月20日付)

「今夏も民俗調査 富士宮北高郷土部 合宿で旧村くまなく」〔富士宮北高郷土研究部〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月22日付)

「細井日達上人が死去 山川市長も弔問 新法主に阿部日顕師」〔大石寺〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月24日付)

「“夫婦” 市からようこそ 児童生徒や婦人が交歓」〔近江八幡市〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月25日付)

「登山ルート一時通行止め 浮いた大岩除去」〔スカイライン〕〔近江八幡市〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月25日付) ▼▼

「産廃にも省資源志向 3千トン余が再利用に 富士宮保険部管内 動物性かすや紙くず 8割は製紙スラッジ」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月25日付)

「配石遺構を検出 滝戸遺跡発掘始まる」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月27日付)

「日本の生活を体験 交換学生のリン嬢 秀樹のファンに」〔ポートレット・リン・シンプソン〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月28日付)

「車イスで富士登山 がんばれ伊佐さん 2度目の挑戦」〔障害者登山〕〔車イス富士登山隊〕〔伊佐幸弘〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月28日付)

「登山者も共感 青少年クリーン大作戦」〔富士山クリーン作戦〕(『岳南朝日』1979

9年＝昭和54年7月31日付)

「富士山でけが」〔遭難〕〔滑落〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年7月31日付)



「建設大臣6日来宮 大沢扇状地など視察」〔渡海元三郎〕〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月2日付)

「イライラ近隣公害 猛暑到来で苦情急増」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月3日付)

「婦人登山客が行方不明 富士山九合目付近で」〔遭難〕〔沢田つね〕〔弾丸登山〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月3日付) ▼▼→「四日ぶりに保護」(8月7日付)に  
[続報](#)

「建設相の一行決る 国・地建・県から20人」〔渡海元三郎〕〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月4日付)

「さすが“王者”のネダン 村山浅間神社の老杉4本処分」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月5日付「グラフニュース」) ▼▼

「“サイの河原”にうなる 渡海建設相が大沢視察」〔渡海元三郎〕〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月7日付)

「四日ぶり保護 行方不明の登山婦人」〔遭難〕〔沢田つね〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月7日付) ▼▼

「随想 十八回目の登頂 矢部繁吉(つづく)」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月7日付)

「随想 十八回目の登頂 矢部繁吉(おわり)」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月8日付)

「細井上人の告別式に一万入 遺徳しのび焼香」〔細井日達〕〔大石寺〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月9日付)

「ハンドルさばきも軽くモテモテ登山バス 富士山にも省エネムード」〔富士急〕〔オイルショック〕〔マイカー〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月9日付) ▼▼

「正座して奥宮参拝 交換学生が富士登山」〔ロータリークラブ〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月14日付)

「登ったぞ富士山頂 親子登山 地質や植物も学ぶ」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月15日付)

「道祖神展開く 郷土資料館でパネル70点」〔外記省吾〕〔近藤克己〕〔大竹幸正〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月18日付)

「随想 紅葉天神 植松貞治」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月18日付) ▼▼  
←文中《火山弾》とあるがじっさいにあるのは「熔岩塊」である

「高山病など四二二人手当 富士山衛生センター閉鎖」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月18日付) ▼▼

「“古代”匂う老杉の森 陽光の中に木下闇 村山浅間神社」(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月18日付) ▼▼

「床下浸水さわぎも 市街地で一時間に28<sup>ミ</sup>」〔豪雨〕(『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月19日付)

「新採教員が研修富士登山」〔新規採用教職員富士登山〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月19日付）

「『私のインド紀行 遊休の大地に立って』池田大作著 聖教新聞社」〔創価学会〕〔広告〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月19日付）

「山頂郵便局ホクホク 夏山決算 CMに救われました」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月25日付） ▼▼

「夏の行楽総決算 富士山ろく地方 人出、軒並み30%減 観光業者はガックリ」〔オイルショック〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年8月31日付） ▼▼

「クリーン度は良好 夏山富士の現地調査」〔富士山クリーン作戦〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年9月1日付） ▼▼

「横関家『袖日記』にみる庶民が描く幕末側面史 生々しい桜田門外」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年9月2日付）

「観光客の平均像は？ 観光流動・流量調査 客のトップは東京 夏の富士山ドライブ」〔スカイライン〕〔マイカー〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年9月6日付）

「五湖めぐり中継点 白糸の滝」〔富士五湖〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年9月6日付）

「浅間様二題＝その一、亡母代参＝泉二郎（つづく）」〔雲見浅間神社〕〔イワナガヒメ〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年9月7日付）

「姿消す“戦争の遺物”大規模な防空壕 旧戦車学校周辺 地震対策で近く埋め戻し」〔陸軍少年戦車兵学校〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年9月8日付）

「浅間様二題＝その二、サクヤヒメ＝泉二郎」〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年9月8日付）

「富士山美化で新組織を検討 クリーン作戦反省会」〔富士山クリーン作戦〕〔富士山をいつまでも美しくする会〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年9月13日付）

「若宮遺跡 県内一の出土量 石鏃づくり集落裏付け」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年9月18日付）

「山ろくに竹林展開 清澄な空気溢れる 町の穀倉地帯 柚野集落」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年9月20日付）

「レジャー 早くも秋の装い 富士も紅葉シーズンへ」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年9月20日付）

「レジャー “月の名所”へどうぞ 十五夜間ぢか」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年9月20日付）

「沼久保山本妙寺（沼久保）日悦上人（開基）から」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年9月21日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて（33）」）

「イメージ・アップへ 表富士周遊道『チェリーライン』ではねえ 愛称の一新を提案 世界の名山にふさわしく」〔チェリーライン〕〔スカイライン〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年9月30日付）

「イチゴ苗山おろし 千二百万本が県内各地へ 灯油値上がりで不安も」（『岳南朝日』1979年＝昭和54年9月30日付）

「六合目小屋に首つり死体」〔自殺〕（『岳南朝日』1979年＝昭和54年10月3日付）

「ロマン色あせたが あすは仲秋十五夜 名月に寄せ句会は盛ん」 (『岳南朝日』 1979年=昭和54年10月4日付)

「お中道めぐり 女子も初参加 北高、創立記念行事で」 [富士宮北高] (『岳南朝日』 1979年=昭和54年10月4日付) ▼▼

「毒キノコにご注意 保健所 富士山で実態調査 こわいつキヨダケ カタハにそっくり」 (『岳南朝日』 1979年=昭和54年10月6日付)

「新しい参集所完成 神社活動の拠点 一般 集会にも開放」 [浅間大社] (『岳南朝日』 1979年=昭和54年10月6日付)

「市民生活と潤井川 乱開発防止と保全(1)」 (『岳南朝日』 1979年=昭和54年10月12日付)

「市民生活と潤井川 乱開発防止と保全(2)」 (『岳南朝日』 1979年=昭和54年10月13日付)

「富士山冬姿に」 [初冠雪] (『岳南朝日』 1979年=昭和54年10月14日付)

「市民生活と潤井川 乱開発防止と保全(3)」 (『岳南朝日』 1979年=昭和54年10月13日付)

「ことしで3度目 富士根北小 テレビなしデー」 (『岳南朝日』 1979年=昭和54年10月18日付)

「市民生活と潤井川 乱開発防止と保全(4)」 (『岳南朝日』 1979年=昭和54年10月13日付)

「千百余戸が浸水 台風20号被害 当局、全協開き報告 潤井川 行政の立遅れに批判」 [洪水] (『岳南朝日』 1979年=昭和54年10月21日付)

「富士山に雪 登山ルート一時通行止め」 [スカイライン] (『岳南朝日』 1979年=昭和54年11月22日付)

「地元新組織へ継承 富士山きれいにする会解散」 [富士山を一度徹底してきれいにする会] [富士山クリーン作戦] [富士山をいつまでも美しくする会] (『岳南朝日』 1979年=昭和54年11月23日付)

「激甚災害指定を陳情 富士宮市 きょう出県して陳情」 [台風20号] [豪雨] (『岳南朝日』 1979年=昭和54年10月26日付)

「親愛称で出直し チェリーライン返上決る」 [スカイライン] (『岳南朝日』 1979年=昭和54年10月26日付)

「産廃処理に問題提起 注射針など畑地へ 台風で流出」 [台風20号] [豪雨] (『岳南朝日』 1979年=昭和54年10月31日付)

「奈良時代の集落跡 富士市東平遺跡 若宮と地域差明確に」 [若宮遺跡] (『岳南朝日』 1979年=昭和54年12月2日付)

「富士山長い冬眠へ 閉鎖近づく登山ルート」 [スカイライン] [冬期封鎖] (『岳南朝日』 1979年=昭和54年12月18日付) ▼▼

「富士山スカイライン 表富士周遊道路 新愛称で有力」 [富士地区観光協議会] (『岳南朝日』 1979年=昭和54年12月21日付)

「数年分の処理確保 製紙カス投棄場が内定 トラブルなしでホッと」 [貫戸] [スラッシュ] (『岳南朝日』 1979年=昭和54年12月23日付)

## ■ 1980年=昭和55年

「黎明を告げる富士山 撮影 坂本猛」〔写真〕（『岳南朝日』1980年=昭和55年1月1日付）

「原始元年 郷土のあけぼの若宮遺跡 七千五百年前 山麓に生活の拠点 運ばれてきた黒曜石」（『岳南朝日』1980年=昭和55年1月1日付）

「観光客流動調査 秋はワンポイント型 夏との差異ははっきり」〔富士宮市商工観光課〕（『岳南朝日』1980年=昭和55年1月4日付）

「公害の苦情が急増 都市化に環境立遅れで」（『岳南朝日』1980年=昭和55年1月5日付）

「投宿滞在型化を推進 市観光協会 55年度事業計画案を作成」〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』1980年=昭和55年1月23日付）

「池田大作歌集『友舞』聖教新聞社」〔広告〕（『岳南朝日』1980年=昭和55年1月23日付）

「地下水観測所を増設 猪之頭など4か所“源流”に自記推移計を設置」（『岳南朝日』1980年=昭和55年1月30日付）

「大石寺の表参道が開通」（『岳南朝日』1980年=昭和55年3月4日付）

「芝川町“稲瀬川汚染”にケリ 清水市が地元で誠意」（『岳南朝日』1980年=昭和55年3月4日付）→第1報は「“越境汚水は許さん”一般廃棄物最終処分場 清水市の計画に待った」1979=昭和54年2月15日付

「富士山に魅せられ次々に改装、飯島さん」〔富士見荘〕〔野中温泉〕〔飯島右一〕（『岳南朝日』1980年=昭和55年2月16日付）

「富士山を美しく 登山口の市町で設立へ」〔富士山をいつまでも美しくする会〕（『岳南朝日』1980年=昭和55年2月17日付）

「富士山スカイラインに 新愛称名を正式決定」（『岳南朝日』1980年=昭和55年2月28日付）

「橋(36)舞々木橋 宗教的要素も濃厚に ひと頃は“おいはぎ”出沒も」〔賽の河原橋〕〔六地藏〕（『岳南朝日』1980年=昭和55年3月1日付）▼▼

「天子ヶ岳で会社員凍死 モトクロス登山 三人遭難、二人救出」（『岳南朝日』1980年=昭和55年3月11日付）▼▼

「水なし集落が解消 栗倉畑かん 通水の日間近に」〔村山〕〔畑灌〕〔畑総〕〔栗倉地区土地改良総合整備計画〕〔富士根北部土地改良総合整備組合〕（『岳南朝日』1980年=昭和55年3月15日付）▼▼

「たった一人の卒業式 栗倉分校で一日早く」〔富士根北小学校〕（『岳南朝日』1980年=昭和55年3月19日付）

「巨大な御影ご開帳“星山観音”の大悟庵で」（『岳南朝日』1980年=昭和55年3月23日付「グラフィックニュース」）

「富士山遊覧お高く 定期観光バスも値上げ」〔富士急〕（『岳南朝日』1980年=昭和55年4月2日付）



「クリーン富士山へ 『いつまでも美しくする会』 16日に設立総会」〔富士山をいつまでも美しくする会〕（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年4月10日付）

「大阪で富士山観光展 黄金連休前に客寄せ」〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年4月15日付）

「富士根畑総が進展 55年度は一億四千万円」〔富士根畑総土地改良事業〕（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年4月15日付）

「夏を拓く田貫湖畔 宿泊施設 県内外から早くも予約」〔湖畔荘〕（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年4月15日付）

「富士山を永遠に美しく 民間主導の『会』設立 今夏、クリーン作戦」〔富士山をいつまでも美しくする会〕（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年4月18日付）

「水あけられた静岡側 山梨と3対1の登山客」〔登山者数〕〔富士山五口協議会〕（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年4月22日付） ▼▼

「富士山スカイライン 26日に開通へ」〔冬期封鎖〕（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年4月25日付）

「近代的な“表玄関”に 駅前広場の配置図出来る 橋上（ペDESTリアンデッキ）は3方向」〔駅前整備〕（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年4月25日付）

「新五合やサファリ行も 大型連休に増発バス」〔富士急〕〔五合目ハイキングバス〕（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年4月25日付）

「中腹のお花見はこれから 天照教は29日ごろ」（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年4月25日付）

「新宮司に池田良八氏 佐藤氏は『名誉宮司』に」〔浅間大社〕〔佐藤東〕（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年5月8日付）

「頼朝拝領品や錦絵 市立郷土資料館 曾我物語と巻狩展」（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年5月9日付）

「山麓の水がめ放出 田貫湖 あすから田植えに“水の援軍”」（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年5月16日付）

「佐藤玄二編『医師が語るわが信仰と人生』 聖教新聞社」〔広告〕（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年5月16日付、7月1日付）

「関東、関西へ誘客宣伝 観光キャラバン繰出す」〔富士宮市観光協会〕〔スカイライン〕（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年5月17日付）

「開設から12万人利用 グリーンキャンプ場 10年目のオープン」〔ピカ表富士〕（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年5月27日付）

「富士宮駅 鳥居と対に歴史支える 駅舎変遷67年をかえりみて」〔大鳥居〕〔駅前整備〕〔創価学会〕〔写真〕（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年6月5日付「身延線あの町この町各駅停車（7）」） ▼▼

「新装の身延駅 8日に開業式 記念入場券も発売」（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年6月5日付）

「初めての割当て 上九一色村が減反達成」（『岳南朝日』 1980年＝昭和55年6月5日付） ▼▼

「富士山御神火リレーも 8月8-10日 夏まつり行事決る」（『岳南朝日』 1980年

＝昭和 55 年 6 月 12 日付)

「7 月 27 日にクリーン作戦 富士山を美しくする会 三登山口で一斉に」〔富士山をいつまでも美しくする会〕 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 6 月 13 日付)

「美しい姿で山開き 清掃登山の計画相次ぐ」 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 6 月 14 日付)

「岳排アワ食う マンホールで嘔き上げ」〔岳南排水路〕〔富士宮環境保全協会〕〔公害〕 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 6 月 15 日付)

「遭難防止に態勢 夏山ひかえ遭対協総会」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会富士宮支部〕 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 6 月 17 日付)

「オールドカー登山 ことしも夏山開きに」〔クラシックカー〕 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 6 月 20 日付)

「夏山びらき 受け入れ万全『庚申』で業者期待 富士宮口宿泊料ちよっぴり値上げ」〔ご縁年〕 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 6 月 27 日付) ▼▼

「富士山開きと共に 楽しい夏休みも間近」 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 7 月 1 日付)

「23 人が一番乗り 富士夏山開き オールドカーも登山 富士宮口」〔クラシックカー〕 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 7 月 2 日付)

「キャンプ場整備に協力 田貫湖運営委」 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 7 月 2 日付)

「富士山と話そう 来月、朝霧で家族キャンプ」 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 7 月 4 日付)

「富士山御縁年で記念乗車券 富士急で発売」〔庚申〕〔ご縁年〕 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 7 月 4 日付)

「田貫湖にテント村 梅雨明け待ちきれず」 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 7 月 8 日付)

「大倉川防災ダム 今秋、貯水テスト 芝川のはん乱防ぐ」 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 7 月 11 日付)

「日蓮宗『蓮覚寺』(貫戸)身延山の末孫として再興」 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 7 月 12 日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて (35)」)

「衛生センターの開設 20 日に 修理に手間取る」 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 7 月 12 日付)

「新五合目行ガラガラ 梅雨に浮かぬ登山バス 富士山」 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 7 月 13 日付)

「清掃バイトが活躍 きょうから富士山入り」〔富士山をいつまでも美しくする会〕 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 7 月 15 日付)

「御神火まつり内容決る 富士宮 JC 夜富士を赤々と 神田川でもかがり火たく 山頂で採火して運ぶ」〔富士宮青年会議所〕〔浅間大社〕 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 7 月 19 日付)

「朝霧グリーンパーク 温泉場や運動施設も あす増設オープン」〔小林製作所〕 (『岳南朝日』 1980 年＝昭和 55 年 7 月 18 日付)

「82 団体、1 4 0 0 人が参加 富士山美化で一斉清掃 3 登山口」〔富士山をいつまでも美しくする会〕（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 7 月 23 日付）

「山室など衛生状態良好 富士宮保健所 観光地立入り監視」〔山室衛生〕（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 7 月 25 日付）

「硫黄分は 1・1 PPM 稲子の掘削事業 温泉法の適用に合格」（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 7 月 25 日付）

「にぎわう富士山頂 奥宮とモシモシ『庚申の年』に期待」（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 7 月 25 日付）

「大阪の 4 4 3 人が団体富士登山」〔大阪府社会体育研究所〕〔清掃登山〕（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 7 月 26 日付）

「“ワンダフル、フジヤマ” 交換学生のグレゴリー君 元気よく富士登山」（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 7 月 26 日付）

「富士山頂に新鳥居 申年で岩淵の講が寄進」〔岩淵鳥居講〕〔久保田為雄〕（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 7 月 27 日付）

「野鳥の“聖域づくり” 朝霧高原の環境保全 県、市へ協力申入れ」〔日本野鳥の会富士宮支部〕（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 7 月 31 日付）

「8 月 1 日供用開始 市民墓地『朝霧霊園』ほぼ完成」〔創価学会〕〔富士桜自然墓地公園〕（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 7 月 31 日付）

「富士登山尻あがり 登山バス輸送も好調」（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 7 月 31 日付）

「富士講登山盛ん “みそぎ” の本格派も『庚申』の御縁年」〔ご縁年〕（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 8 月 2 日付） ▼▼

「潤井川下流 大腸菌群、基準の 1 8 0 倍も 環境調査で明るみに」〔公害〕（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 8 月 5 日付）

「富士登山とゴミ 登山ブームというけれど 話題から消えるのはいつ 深沢記者」（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 8 月 5 日付「東西南北記者レポート」）

「稲転農家に肉用牛 富士宮、芝川へ 10 頭ずつ」（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 8 月 7 日付）

「落石で二人けが 富士登山客」〔遭難〕〔富士宮口砂走り〕（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 8 月 7 日付） ▼▼

「富士講登山続く “大縁年” で賑わう山頂」〔変わり種登山〕〔村山浅間神社〕（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 8 月 7 日付） ▼▼

「下山中に転倒三人けが 横浜の学習塾生ら」〔遭難〕〔富士宮口砂走り〕（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 8 月 12 日付） ▼▼

「『主婦の目でみた素顔の中国』 聖教新聞社」〔広告〕（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 8 月 12 日付）

「“分村” だった代官屋敷 若宮より一時期新しい 埋蔵文化財発掘調査終る」〔代官屋敷遺跡〕（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 8 月 13 日付）

「隣接住民のゴミ捨てに悲鳴 管理人不在の市営墓地（二の宮）」〔公害〕（『岳南朝日』1 9 8 0 年＝昭和 55 年 8 月 13 日付）

「落石事故でパトロール 遭対協が富士山で」〔吉田大沢落石事故〕〔静岡県山岳遭難防止協議会富士宮支部〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年8月18日付）

「滝ノ上遺跡をきょうから発掘」（『岳南朝日』1980年＝昭和55年8月18日付）

「甘い富士登山の心構え 高山病患者が急増 衛生センター 落石と共に安全面に課題」〔吉田大沢落石事故〕〔富士宮口砂走り〕〔遭難〕〔ご縁年〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年8月20日付）▼▼

「きょうから騒音調査 主要市内3路線で」〔公害〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年8月20日付）

「山男の県代表に 木ノ内さんら国体へ出場」〔木ノ内高嘉〕〔宮尾勝一〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年8月23日付）

「富士山テーマに静大公開講座 聴講募集きょうまで」〔静岡大学〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年8月23日付）

「地獄の訓練、真った只中 駅頭で声張り上げ 型破り・管理者養成」〔管理者養成学校〕〔経営者教育研究所〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年8月24日付）▼▼

「遭難再発を避け 夏山登山の落石大惨事 安全性の徹底総括を 沢田記者」〔吉田大沢落石事故〕〔ご縁年〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年8月26日付「東西南北記者レポート 行政」）▼▼

「熔岩風化と砂走り下山 大落石事故の原因」〔吉田大沢落石事故〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年8月28日付「広域圏情報」）▼▼

「溶岩を縫う湧水 浅間神社境内 納涼の林泉図描く」〔湧玉池〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年8月29日付「さんぽ道」）

「山頂局ホクホク“御縁年”で収入大幅増」〔山頂郵便局〕〔ご縁年〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年8月29日付）▼▼

「夏の行楽総決算 富士山ろく地方 冷夏の割に人出増 富士山御縁年の余徳も」〔ご縁年〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年8月31日付）▼▼

「滝ノ上遺跡 埋文の宝庫裏付け 配石遺構を発見 土器片早くも数百点」（『岳南朝日』1980年＝昭和55年9月5日付）

「キャンプは大幅減 朝霧野外活動センター 冷夏で利用敬遠」（『岳南朝日』1980年＝昭和55年9月7日付）

「富士山に大雨 台風13号の影響」〔豪雨〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年9月12日付）

「畑地灌漑に拍車 村山農道改良着手へ」〔畑灌〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年9月18日付）

「学会婦人部が老人施設慰問 廃品で資金づくり」〔創価学会〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年9月18日付）

「秋の宝永火口に行く」（『岳南朝日』1980年＝昭和55年9月25日付「カメラの目」）  
←40年前の宝永遊歩道の植生が分かる貴重な写真である

「お年寄りの富士登山 70再以上が735人も 女性の最高 足形の佐野とよさん」〔浅間大社〕〔高齢者登山〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年9月26日付）▼▼

「ひっぱりダコのイチヨウの葉 今秋30ト出荷 根北を中心に 薬品原料に契約栽培」

(『岳南朝日』1980年=昭和55年9月26日付)

「通水テスト始まる 大倉川防災ダム 水門閉めまず貯水」(『岳南朝日』1980年=昭和55年9月26日付)

「子孫も列席し墓所御前祭 浅間神社大宮司家」〔富士亦八郎〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年9月26日付)

「学会が一億円寄付 市民文化会館建設に」〔創価学会〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年9月26日付)

「西山本門寺でお虫干し行事 国宝重美など展示」(『岳南朝日』1980年=昭和55年9月26日付)

「富士山に初雪 昨年より五日遅く」(『岳南朝日』1980年=昭和55年9月26日付)

「大気のクリーン化進む 54年度測定結果 全測点で基準達成 重油使用量は増大 低硫黄化で排出量減少」〔亜硫酸ガス〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年9月27日付)

「山梨側の登山者減 富士山落石事故が響く」〔登山者数〕〔吉田大沢落石事故〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年9月28日付) ▼▼

「秋晴れに薄化粧 冬姿の富士山くっきり」(『岳南朝日』1980年=昭和55年9月30日付)

「9月定例市会閉幕 富士山の安全対策を図れ 依田敏弘氏 観光かねた博物館の建設を秋鹿博氏」〔吉田大沢落石事故〕〔市立博物館構想〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年9月30日付)

「毒キノコに注意 保健所職員が繁殖調査 富士山」(『岳南朝日』1980年=昭和55年10月1日付)

「月の輪上遺跡を発掘調査『平』『上』の関連探る 古墳時代前期の集落」(『岳南朝日』1980年=昭和55年10月2日付)

「駅前通り地区の再開発 地元説明会を開催」(『岳南朝日』1980年=昭和55年10月5日付)

「姿を消すか風祭の男石 何とか残す方法を 護岸整備も間近く 地元の人たちが要望」(『岳南朝日』1980年=昭和55年10月5日付)

「まずは脱渋技術で 四ツ溝収穫前に講習会」〔四ツ溝柿〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年10月5日付)

「平和な富士山を『富士基地』で抗議行動」〔日本平和委員会〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年10月7日付)

「農大が畜産農場計画 種豚など多頭飼育 麓の8ヶ所に畜舎や管理棟 環境汚染の恐れ 住民が独自調査始める」〔東京農大〕〔朝霧高原〕〔畜産公害〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年10月16日付)

「滝ノ上遺跡 墓地を含んだ大集落裏付け 村の勢力示す石棒 珍しい配石遺構発見」(『岳南朝日』1980年=昭和55年10月18日付)

「富士山の安全登山対策で検討会 大落石事故(吉田)教訓に 二市一町と振興センター心配される三島ヶ岳」〔吉田大沢落石事故〕〔富士宮口砂走り〕〔遭難〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年10月30日付) ▼▼

「用地交渉の詰め急ぐ 滝戸川護岸の改修」(『岳南朝日』1980年=昭和55年10月)

30日付)

「大倉川防災ダム満たん“大湖水”が出現 貯水、田貫湖の二倍近く テスト終われば放出」(『岳南朝日』1980年=昭和55年11月6日付)

「NO<sub>2</sub>汚染調査を発表 十文字屋交差点は不動 芝川町は舩島踏切 気象条件でバラつきも『非悪化』で指導強化 来年度から新方式で調査」(『岳南朝日』1980年=昭和55年11月7日付)

「川虫で水質 汚濁ひと目 やはり『きれい』芝川 潤井川、排水の汚染歴然」〔公害〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年11月8日付)

「安全登山対策で初会合 当面は指導の強化 肝心な事項は“山梨待ち”」〔吉田大沢落石事故〕〔富士宮口砂走り〕〔遭難〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年11月9日付)



「根北で野犬掃討作戦 出没地帯に薬物まき」〔栗倉〕〔村山〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年11月9日付) ▼▼

「陣馬の滝 断崖高く五筋の糸『白糸』に準ずる景観」(『岳南朝日』1980年=昭和55年11月14日付「さんぼ道」)

「高齢登山者が集合『庚申の年』7年ぶりに富士宮で」〔矢部繁吉〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年11月18日付)

「月ノ輪上遺跡 古代の大集落を裏付け 住居址(古墳時代前期)14軒確認 鎌倉時代の六棟(柱穴)も」(『岳南朝日』1980年=昭和55年11月29日付)

「犬の戸籍簿で功労 清さん(市職員)に獣医会長表彰」〔野犬〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年11月30日付)

「富士山に大雪 毛無山にも“冬将軍”」(『岳南朝日』1980年=昭和55年11月30日付)

「香ばしい匂い漂わせ 栗倉分校で恒例焼きイモ大会」〔富士根北小学校〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年12月3日付)

「波乱の12月定例会市会 百条設置へ動く 税問題など疑惑解明で」〔百条委員会〕〔日原造園〕〔朝霧霊園〕〔創価学会〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年12月9日付)

「百条特委設置を提案 再開本会議焦点に 公明の動向がカギ」〔百条委員会〕〔日原造園〕〔朝霧霊園〕〔創価学会〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年12月10日付)

「富士山安全対策で地元関係者が打合せ」〔吉田大沢落石事故〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年12

月10日付) ▼▼

「汚染から河口湖を守れ 水質保全対策協結成」(『岳南朝日』1980年=昭和55年12月11日付「広域圏情報」)

「自然と野鳥保護で20年 乱開発防止の先駆けに 野鳥の会富士宮支部 総会で足跡を回顧」(『岳南朝日』1980年=昭和55年12月11日付)

「税問題(日原造園関係)の波紋広がる 当局、決算承認を撤回 『内容解明が先』議会側が反発」〔百条委員会〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年12月12日付)

「“砂走り”名称やめる 富士登山安全対策 将来はルート変更も」〔吉田大沢落石事故〕〔富士宮口砂走り〕〔弾丸登山〕(『岳南朝日』1980年=昭和55年12月13日付) ▼



- 「富士宮市議会 百条委きょう上程 緊張高まる再開本会議」〔百条委員会〕〔日原造園〕  
（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月18日付）
- 「富士神道本社で冬至祭」（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月18日付）
- 「百条特委設置で紛糾 採決、20日に持ち越す 賛成、反対両派鋭く対立」〔日原造園〕  
〔百条委員会〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月19日付）
- 「山崎元学会弁護士が来宮」〔創価学会〕〔山崎正友〕〔百条委員会〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月19日付）
- 山崎弁護士が記者会見「『市政介入はあった』土地ころがしは否定」〔創価学会〕〔山崎正友〕〔百条委員会〕〔日原造園〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月20日付）
- 「富士宮市議会 きょう可否採決 百条めぐり緊迫」〔百条委員会〕〔日原造園〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月20日付）
- 「富士宮市議会 異常事態つづく 遂に本会議流会 百条委設置“議長不在”で空転 激しいヤジ飛ぶ いらだつ傍聴の市民」〔百条委員会〕〔日原造園〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月21日付）
- 「25日も流会の恐れ 話し合いつかぬ限り」〔百条委員会〕〔日原造園〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月21日付）
- 「本社記者座談会 日原造園問題 どうなる疑惑解明（1）土地めぐる利権次々 富士宮市の“特異体質”」〔百条委員会〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月23日付）
- 「富士宮市議会 日程変更きょう本会議 補整予算など先議 百条委は最終日に」〔百条委員会〕〔日原造園〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月24日付）
- 「日原造園問題 どうなる疑惑解明（2）外科手術か内科治療か」〔百条委員会〕〔日原造園〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月23日付）
- 「百条委で買収工作？ 賛成派議員団が発表」〔百条委員会〕〔日原造園〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月25日付）
- 「百条委きょう審議」〔百条委員会〕〔日原造園〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月25日付）
- 「本社記者座談会 日原造園問題 どうなる疑惑解明（3）真偽をハッキリせよ」〔百条委員会〕〔日原造園〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月23日付）
- 「疑惑解明は年越し 百条委設置は廃案 12月定例会は自然閉会」〔百条委員会〕〔日原造園〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月26日付）
- 「百条委買収工作 贈賄申込みの疑いで富士宮署が捜索」〔百条委員会〕〔日原造園〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月26日付）
- 「『守秘義務必要ない』日原氏疑惑否定 当局、議会と対決も」〔百条委員会〕〔日原造園〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月26日付）
- 「日原造園の指名差控え延長 富士宮市が未申告で」〔百条委員会〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月26日付）
- 「朱色も鮮やかに 浅間神社 東門鳥居が完成」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1980年＝昭和55年12月26日付）
- 「変化に富む滝の競演 毛無山 麓地先 瞑想型や大蛇風も」（『岳南朝日』1980年

＝昭和 55 年 12 月 28 日付「さんぽ道」)

「富士山スカイライン 周遊道に雪遊び場」〔水ヶ塚駐車場〕(『岳南朝日』1980年＝昭和 55 年 12 月 28 日付) ←左端一部読めず

「越年する日原造園疑惑解明 賛成派 市民運動を展開 反対派 当局の対応見守る」(『岳南朝日』1980年＝昭和 55 年 12 月 27 日付)

「日原氏の公開討論要請拒否 賛成派の三市議」〔百条委員会〕〔日原造園〕(『岳南朝日』1980年＝昭和 55 年 12 月 27 日付)

## ■ 1981年＝昭和 56年

「いま明ける 81 年の旭光 撮影 坂本猛」〔写真〕(『岳南朝日』1981年＝昭和 56 年 1 月 1 日付)

「スライドとテープで富士山麓の野鳥を記録 まず朝霧高原地域から 日本野鳥の会富士宮支部」(『岳南朝日』1981年＝昭和 56 年 1 月 8 日付)

「若宮遺跡近く再開 埋蔵文化財の発掘調査」(『岳南朝日』1981年＝昭和 56 年 1 月 18 日付)

「新基準(二酸化窒素)に達成したが オキシダント不適合 54 年度の市公害白書『手離しで喜べない』」(『岳南朝日』1981年＝昭和 56 年 1 月 23 日付)

「反学会派が抗議集会 あす富士宮市で デモ行進も」〔創価学会の社会的不正を糾す会〕(『岳南朝日』1981年＝昭和 56 年 1 月 24 日付)

「富士宮市議会 税報告の対応協議 28 日に代表者会議開く」〔百条委員会〕〔日原造園〕(『岳南朝日』1981年＝昭和 56 年 1 月 27 日付)

「波紋呼んだ山崎逮捕 市政の裏まで知った男」〔創価学会〕〔山崎正友〕(『岳南朝日』1981年＝昭和 56 年 1 月 27 日付)

「反学会派が集会とデモ」〔創価学会の社会的不正を糾す会〕(『岳南朝日』1981年＝昭和 56 年 1 月 27 日付)

「富士山に水洗トイレ クリーン作戦第 2 弾」〔山室トイレ〕(『岳南朝日』1981年＝昭和 56 年 1 月 29 日付)

「第三文明展 2 月 2 日から富士美術館」〔創価学会〕(『岳南朝日』1981年＝昭和 56 年 1 月 29 日付)

「大沢に挑み 11 年 建設省の富士山砂防工事 すでに 156 億円投入 課題は潤井川流路工」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1981年＝昭和 56 年 2 月 5 日付)

「大沢・潤井川災害史」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1981年＝昭和 56 年 2 月 5 日付)

「『富士川』(その風土と文化)出版 遠藤秀男氏 流域住民に温かい目」〔『富士川ーその風土と文化』〕〔『富士宮歴史散歩』増補改訂版〕(『岳南朝日』1981年＝昭和 56 年 2 月 6 日付)

「集落の成立過程探る 再開された若宮遺跡調査」(『岳南朝日』1981年＝昭和 56 年 2 月 11 日付)

「富士根公民館建設へ 位置の決定待ち」(『岳南朝日』1981年＝昭和 56 年 2 月 11 日付)



「大沢砂防工事の 12 年 壮大な防壁刻むが課題山積」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年2月25日付「カメラの目」）

「クリーン間近 進む公共下水道事業 市街地全域すっぽり 明年一月から供用開始」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年2月27日付）

「宣伝、受け入れに 市観光協会 56年度事業計画決る」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年2月27日付）

「百条委ついに設置 賛成・元反対派合意 きょうの本会議に提出日原造園グループ 職権課税直後に『節税指導をした』」〔百条委員会〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年3月3日付）

「富士山大沢砂防 土砂除去は国の直轄で ホットする流域住民 56年度から事業実施」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年3月12日付）

「税務行政また一つミス 創価学会が修正申告 墓園用地取得 四千三百万円を納付 見直しで見解変更」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年3月14日付）

「県、日原造園を指名停止」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年3月14日付）

「緊急質問 学会への詫び状で追及 市長『取り戻し』を約束」〔創価学会〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年3月20日付）

「日原造園 行政処分、推移みる」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年3月20日付）

「春の観光へ急ピッチ 田貫湖工事進む」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年3月21日付）

「駅前大鳥居さようなら きょう解体撤去へ 改築駅舎東側へ新築」〔駅前整備〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年3月26日付）

「きょう百条委開く」〔百条委員会〕〔日原造園〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年3月26日付）

「一つの威容姿消す 解体された駅前大鳥居」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年3月28日付）

「宿泊料は昨年並み 富士山の山小屋 安全対策重点に」〔夏山物価〕〔富士山五口協議会〕〔落石事故〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年4月2日付） ▼▼

「大沢砂防に19億円 建設省の予算配分決る 富士宮関係」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年4月3日付）

「富士急が1000万円 文化会館資金」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年4月3日付）

「春へ除雪ピッチ 富士山スカイライン 連休前開通めざし」〔冬期封鎖〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年4月4日付）

「私の発言 なぜ『前途多難』か―百条委を傍聴して 佐野幸雄（市民会議代表幹事）」〔百条委員会〕〔日原造園〕〔公明党〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年4月10日付）

「観光富士宮をPR 16日から大阪展開く」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年4月10日付）

「市民会議も抗議へ 学会、大石寺の市議会訴訟 労組にも協力要請」〔百条委員会〕〔日原造園〕〔創価学会〕〔大石寺〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年4月15日付）

「私の発言『革新』よ革新たれー百条委傍聴に関連して 佐野幸雄（市民会議代表幹事）」〔日原造園〕〔創価学会〕〔大石寺〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年4月15日付）  
「登山ルート開通 富士山スカイライン 昨年より一週間早く」〔冬期封鎖〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年4月19日付）

「二合目へ巣箱かけ 根北小栗倉分校 児童のてづくり30個」〔富士根北小学校〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年4月22日付）

「重なる拒否どう対応 注目の百条委きょう開く」〔百条委員会〕〔日原造園〕〔創価学会〕〔大石寺〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年4月28日付）

「富士山ハイバス運転 あすから休日ごとに」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年4月28日付） ▼▼

「光化学シーズンに対処 来月から監視体制 富士宮市公害交通課 緊急事対策決まる」〔大気汚染〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年4月29日付）

「単独登山で滑落」〔遭難〕〔寒作誠〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年5月7日付）

▼▼

「大石寺周辺の土地取得 推進派委員 独自調査内容を発表 百条委で追及へ」〔百条委員会〕〔日原造園〕〔創価学会〕〔大石寺〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年5月15日付）

「日原グループ 請求資料一部提出 告発など次回へ持ち越す」〔百条委員会〕〔日原造園〕〔創価学会〕〔大石寺〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年5月15日付）

「会社員、富士で遭難か 救助隊員が捜索へ」〔仙波久司〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年5月15日付） ▼▼

「四たび請求決める 市議会百条委、拒否の大石寺、学会に 現地調査は中止」〔日原造園〕〔創価学会〕〔百条委員会〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年5月21日付）

「富士山で植樹祭 参加者がクワふるう」〔静岡営林署〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年5月21日付）

「山林変じてーゴミの山 ごっそり500トンも 林道脇を狙い打ち 残飯までも」〔産廃〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年5月24日付）

「二つの遺跡を発掘調査 若宮 新たに居住址五軒 月の輪平 八群の全容解明」〔若宮遺跡〕〔月の輪平遺跡〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年5月24日付）

「まず扇状地溪岸から 富士山大沢砂防事業 本年度は19億円投入」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年5月29日付）

「中■嘉四郎氏に知事が感謝状 観光事業に貢献」〔中村嘉四郎〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年5月29日付）

「学会、四たび記録請求拒否」〔日原造園〕〔創価学会〕〔百条委員会〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年5月30日付）

「山崎（元学会顧問弁護士）ら喚問決定 市議会百条委 次回に日原氏ら6人」〔山崎正友〕〔創価学会〕〔日原造園〕〔百条委員会〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年6月3日付）

「当局 条例規則違反認める 49～50年当時 課税漏れなど時効に」〔日原造園〕〔創価学会〕〔百条委員会〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年6月3日付）

「学会、大石寺を調査」〔日原造園〕〔創価学会〕〔百条委員会〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年6月3日付）

「今夏は8月23日 富士山のクリーン作戦」〔富士山をいつまでも美しくする会〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年6月3日付）

「浅間神社の宝物陳列 資料館（市民文化会館内）で特別展」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年6月6日付）

「月の輪遺跡群報告書を出版 教委、一般にも頒布」〔『月の輪遺跡群』〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年6月7日付）

「空からこんにちは（5）富士山頂 火口ポッカー 夏に更衣を急ぐ」〔写真〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年6月11日付）

「市民大会で疑惑解明報告『地方自治守る戦い』市議会常任弁護団が強調」〔日原造園〕〔創価学会〕〔百条委員会〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年6月16日付）

「惨事教訓に安全強化 夏山開きを前に対策たてる 遭対協」〔吉田大沢落石事故〕〔富士宮口砂走り〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年6月17日付）▼▼

「白ゆりの詩 聖教新聞社」〔広告〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年6月17日付）

「金剛杖生産ピッチ 富士夏山開き間近」〔柴田材木工業〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年6月26日付）

「富士山お山開き 登山の手引きアレコレ 余裕をもって牛歩行動」〔富士宮口砂走り廃止〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年6月27日付）←一部▼▼

「登山バス時刻表」〔略〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年6月27日付）

「日本一（横綱）は96歳 地元佐野さんは女横綱」〔高齢者登山〕〔富士喜楽会〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年6月27日付）▼▼

「オールドカー登山 今夏も夏山開き祝い」〔クラシックカー〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年6月28日付）

「夏山富士開く 富士宮口から一番乗り15人」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年7月2日付）

「懐しの名車 が勢ぞろい オールドカー富士登山」〔クラシックカー〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年7月7日付）

「お手上げ登山バス 乗客ゼロの日も うらめしや天候不順」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年7月8日付）▼▼

「富士山頂からモシモシ あすからオープン」〔山頂電話〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年7月9日付）

「古式ゆかしくお田植祭」〔浅間大社〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年7月9日付）

「駅前再開発に青写真 基本計画策定まとまる 9街区の特性生かす まず人の集まる場所に」〔駅前整備〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年7月10日付）

「産業廃棄物排出量減る 製紙スラッジ中心に 石油ショック以後初めて」〔公害〕〔産廃〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年7月11日付）

「『観光たばこ』売出す 富士登山のみやげにも」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年7月11日付）

「風俗激写!! 富士登山」〔写真〕（『岳南朝日』1981年=昭和56年7月15日付「カメラの目」）

「暑さを忘れて自然との一体感を 表富士グリーンキャンプ場」〔ピカ表富士〕（『岳南朝日』1981年=昭和56年7月17日付）

「安全登山の基地を 遭対協と市が件に要望」〔静岡県遭難対策協議会〕〔富士登山安全指導センター〕〔吉田大沢落石事故〕〔移動交番車〕（『岳南朝日』1981年=昭和56年7月18日付）▼▼

「月の輪平遺跡調査 古代集落解明に手がかり 新たに26軒の住居址 市内で初の銅鏃も発見」（『岳南朝日』1981年=昭和56年7月10日付）

「北條創価学会会長が死去 市長、議長がそろって弔問」（『岳南朝日』1981年=昭和56年7月10日付）

「あす百条委 二人を証人喚問」〔日原造園〕〔創価学会〕〔百条委員会〕（『岳南朝日』1981年=昭和56年7月10日付）

「富士と琵琶湖を結ぶ会 近江八幡からお客さん」（『岳南朝日』1981年=昭和56年7月22日付）

「空からこんにちは(11) 星山地区界限」〔写真〕（『岳南朝日』1981年=昭和56年7月23日付）

「5合目に標語塔設置 美化交歓会前に活発な運動」〔富士山をいつまでもきれいにする会〕（『岳南朝日』1981年=昭和56年7月23日付「広域圏情報」）

「ゴミ持ち帰り運動 富士山でキャンペーン」〔清掃登山〕（『岳南朝日』1981年=昭和56年7月24日付）

「富士山パト始まる 新五合目に移動交番車」（『岳南朝日』1981年=昭和56年7月26日付）

「施設改善に太鼓判 保健所が山室衛生監視」（『岳南朝日』1981年=昭和56年7月28日付）

「落石事故にピリピリ 遭対協 安全登山指導を強化」（『岳南朝日』1981年=昭和56年7月31日付）

「新型電車で切替え きょうからはほぼ全面的に 国鉄身延線」（『岳南朝日』1981年=昭和56年8月1日付）

「きょう富士登山はピークか 富士急増発も準備」（『岳南朝日』1981年=昭和56年8月1日付）

「廃棄物違反で告発 無許可でミミズに食わす」〔産廃〕〔スラッジ〕（『岳南朝日』1981年=昭和56年8月1日付）

「登山者減少目立つ 昨年の大落石事故響く 山小屋は渋い顔」〔吉田大沢落石事故〕（『岳南朝日』1981年=昭和56年8月2日付）▼▼

「安政5年の『袖日記』にみる大宮町は大パニック 一と夏に200人が死亡 “コロリ騒動” 頼るは神仏のみ」（『岳南朝日』1981年=昭和56年8月2日付）

「近づく富士宮夏まつり 御神火まつり 富士山頂で採火」（『岳南朝日』1981年=昭和56年8月2日付）

「上九一色村がレコード作戦 艶歌で誘客宣伝」〔精進湖慕情〕〔雨の本栖湖〕（『岳南

朝日』1981年=昭和56年8月2日付)

「観光富士宮紹介に一役 遊覧バス『新南麓号』健在」〔富士急〕(『岳南朝日』1981年=昭和56年8月5日付)

「夏山富士に秋風 好天続きの割に登山者減少」〔吉田大沢落石事故〕(『岳南朝日』1981年=昭和56年8月9日付「グラフニュース」)

「荒れ地 夏草公害苦情しきり」(『岳南朝日』1981年=昭和56年8月12日付)

「田子の浦港 ヘドロ処理を終結 県、基準に適合と発表」(『岳南朝日』1981年=昭和56年8月12日付)

「湧玉池・猪之頭水源 琵琶湖よりもリンが多かった 肥料が地下浸透か 常時流下救いに」(『岳南朝日』1981年=昭和56年8月14日付)

「盆明けに百条委 弘信商事社長ら証人に」〔日原造園〕〔創価学会〕〔百条委員会〕(『岳南朝日』1981年=昭和56年8月15日付)

「夏山じまい前にクリーン 空カン、ゴミ一掃 富士を美しくする会 23日、千人が参加」〔清掃登山〕〔富士山をいつまでも美しくする会〕(『岳南朝日』1981年=昭和56年8月20日付)

「クリーン作戦中止 台風15号の接近で」〔清掃登山〕〔富士山をいつまでも美しくする会〕(『岳南朝日』1981年=昭和56年8月23日付)

「アテ外れ富士山 登山者、昨年の半分 ポートピアに『客奪われた』」(『岳南朝日』1981年=昭和56年8月23日付) ▼▼

「随想 親子登山道中 山下富子」(『岳南朝日』1981年=昭和56年8月23日付)

「新米先生、富士に立つ 苦しい体験、教育に生かす」(『岳南朝日』1981年=昭和56年8月26日付)

「富士山を“科学する本” 高校教師が自費出版」〔『富士山あれこれ』〕〔服部哲雄〕(『岳南朝日』1981年=昭和56年8月28日付)

「台湾の“山男” 富士登頂 聖峰山岳会がサポート」〔台北市登山会高山具楽部〕(『岳南朝日』1981年=昭和56年8月29日付)

「前年対比で27%減 今夏の富士山入り込み客 富士宮 車両通行は8.5%増」(『岳南朝日』1981年=昭和56年9月9日付) ▼

「カラマツの腐心病調査『ユフロ』の一行が富士山へ」〔国際林業研究期間連合〕(『岳南朝日』1981年=昭和56年9月13日付)

「今夏の田貫湖大当り 施設整備で利用者どっと」(『岳南朝日』1981年=昭和56年9月15日付)

「お手玉遊びと道祖神 郷土史研究家 遠藤秀男」〔おじゃみ歌〕(『岳南朝日』1981年=昭和56年9月25日付)

「橋(55) 内房橋 強いられた多くの犠牲 めまぐるしい変遷の跡」(『岳南朝日』1981年=昭和56年9月26日付)

「10月14日、樹海大捜索 605人が4班にに分かれて」〔青木ヶ原〕〔自殺〕(『岳南朝日』1981年=昭和56年9月26日付「広域圏情報」)

「老いてますます盛ん 今夏の高齢者富士登山 90歳以上が五人も 浅間神社調べ」〔高齢者登山〕〔浅間大社〕(『岳南朝日』1981年=昭和56年9月26日付) ▼▼

「『富士浅間曼陀羅』浅間神社所蔵 県指定有形文化財に」〔浅間大社〕〔富士参詣曼荼羅図〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年9月26日付）

「“古代史のデパート”新発見 小泉・上石敷遺跡 先土器時代→奈良時代まで複合 5日から発掘調査 市史の空白部分に陽の目」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年10月2日付）

「台風一過の秋晴れ 黄葉近い富士もくっきり」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年10月3日付）

「不法投棄に住民の目 富士宮市 環境監視員制度が発足」〔産廃〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年10月6日付）

「清掃の仕上げ検討 富士山を美しくする会 富士宮できょう会合」〔清掃登山〕〔富士山をいつまでも美しくする会〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年10月7日付）

「盛大に七百年遠忌 大石寺に信徒7万6千人」〔創価学会〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年10月13日付）

「来月上旬に実施 富士山の掃除仕上げ」〔清掃登山〕〔富士山をいつまでも美しくする会〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年10月14日付）

「クマ騒動、射殺でピリオド」〔北山〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年10月17日付）

「山崎再喚問、事実上タナ上げ 富士宮市議会百条委 次回は日原県議を証人に 日程、今後を持ち越す」〔百条委員会〕〔山崎正友〕〔日原博〕〔創価学会〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年10月18日付）

「富士山が雪化粧」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年10月18日付）

「姿を変える駅前 広場造成工事が進展」〔駅前整備〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年10月22日付）

「くっきり台風一過 稲架倒しの置きみやげも」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年10月24日付）

「市街地の雨量一四〇・五㍉」〔豪雨〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年10月24日付）

「深まる秋を満喫 10月最後の日曜日 富士山麓にぎわう」〔東海自然歩道〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年10月27日付）

「秋は燃えている 県東部の紅葉案内 富士山はだんだら模様 極彩色の青木ヶ原」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年10月30日付）

「36年前の朝霧高原 滝戸の渡辺さん 稿料の風景、写真に」〔写真〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年10月31日付）

「辞表受理の方向で一致 百条委辞任問題 後任、13日の臨時会で 代表者会議」〔百条委員会〕〔日原造園〕〔創価学会〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年11月7日付）

「ヒマヤ登頂断念 富士宮山岳会 アナダブラム登山隊」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年11月7日付）

「冬はかけ足で きょう立冬 富士山ルート積雪」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1981年＝昭和56年11月7日付）

「早くも真冬の装い 富士山スカイライン」（『岳南朝日』1981年＝昭和56年11月

8日付「グラフニュース」)

「市公害交通課 継続調査の結果発表 リン汚染騒ぎにケリ」〔湧玉池〕〔猪之頭水源〕  
(『岳南朝日』1981年=昭和56年11月13日付)

「農大畜産研修飼育施設計画進む 県土地利用委が審査パス」〔東京農大〕〔畜産公害〕  
(『岳南朝日』1981年=昭和56年11月17日付)

「土蔵から 貴重な資料続々 270年前の高札、古文書 野中の塩川さん方 取壊し前の  
整理中発見」〔塩川豊子〕〔塩川辰義〕(『岳南朝日』1981年=昭和56年11月17  
日付)

「創価学会側が全面敗訴 訴えを“門前払い” 市議会の主張いずれも採用 静岡地裁」〔百  
条委員会〕〔日原造園〕(『岳南朝日』は送達を待って判断)〔創価学会〕〔百条委員会〕  
(『岳南朝日』1981年=昭和56年12月5日付)

「百条委『今後も使命を全う』学会は送達を待って判断」〔創価学会〕(昭和56年12月  
5日付)

「本社記者座談会『百条委』と今後の行方 いずれも“灰色”のまま 調査は大詰めの段  
階 百条委調査の経過」〔百条委員会〕〔日原造園〕〔創価学会〕(『岳南朝日』198  
1年=昭和56年12月15日付)

## ■ 1982年=昭和57年

「黎明の光兆す'82 撮影 坂本猛(富士宮市人穴で)〔写真〕」(『岳南朝日』1982  
年=昭和57年1月1日付)

「世紀の大事業 富士山大沢砂防一段落 すでに176億円投入 下流の潤井川流路工事  
へ」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年1月1日付)

「富士宮駅舎改築ゴー 57年度末に供用開始へ」(『岳南朝日』1982年=昭和57年  
1月1日付)

「郷土出身スターの年賀状 本年もよろしく 里見浩太郎 吉田真弓 いかりや長介」  
(『岳南朝日』1982年=昭和57年1月1日付)

「古代史の空白解明に新資料 小泉・上石敷遺跡 市内初の奈良時代住居址二基 唐の銅  
銭『開元通宝』などの発見」(『岳南朝日』1982年=昭和57年1月9日付)

「『富士宮の道祖神』出版 最古の双体像も発見 郷土史研究家の遠藤氏 貴重な民俗資  
料綴る」〔遠藤秀男〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年1月12日付)

「畜産基地推進で総会 実施へ向け態勢作り」〔朝霧高原〕〔富士西麓地区畜産基地建設  
事業富士宮市推進協議会〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年1月20日付)

「チェーン規制も 富士山スカイライン 積雪で路面凍結」(『岳南朝日』1982年=  
昭和57年1月20日付)

「迫る国鉄身延線CTC化計画 人減らし、配転は…“陣痛”に耐える沿線駅」(『岳南  
朝日』1982年=昭和57年1月22日付)

「安養寺(杉田)の土偶など 絶滅寸前の植物も 市指定文化財候補諮問へ」(『岳南朝  
日』1982年=昭和57年1月29日付)

「春を待つ山ろく田貫湖 栈橋、釣り場完成 南側キャンプ場整備へ」(『岳南朝日』1

982年=昭和57年1月30日付)

「相次ぐ死体遺棄に 県警と富士宮署 山麓のパトロール開始」〔殺人〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年2月6日付)

「文化財保護行政を充実 管理勧告や技術保存 条例を全面見直し 指定の中味も細文化」(『岳南朝日』1982年=昭和57年2月13日付)

「身延線CTC化スタート 西駅は徹夜で配置」(『岳南朝日』1982年=昭和57年2月27日付)

「県営富士根畑総事業 着手から10年目 整備進む農道、排水路 すでに10億6千万円投入」(『岳南朝日』1982年=昭和57年2月27日付) ▼

「富士山に指導センター 登山客の安全と観光に」〔吉田大沢落石事故〕〔富士山総合活動センター〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年3月3日付) →「安全登山の拠点」(11月13日付)、「登山客の安全を守る」(12月2日付)に続報あり

「三ツ池穴に石筍 日本洞穴学会が調査へ 学術上貴重な価値 教委も保存対策を検討」(『岳南朝日』1982年=昭和57年3月3日付)

「世界最大の石筍か 三ツ池穴学術調査 規模も日本最長確実」〔日本洞窟協会〕〔小川孝徳〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年月3日7付)

「山麓横断道に意欲 広域市町村圏の目玉に」〔国道469号〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年3月9日付)

「初の交流研修に成果 富士宮・近江八幡の文化団体」(『岳南朝日』1982年=昭和57年3月16日付)

「富士山と琵琶湖と 夫婦都市近江八幡を訪ねて 沢田記者」(『岳南朝日』1982年=昭和57年3月16日付「東西南北記者レポート」)

「東北にも誘客宣伝 ことしの観光キャラバン」(『岳南朝日』1982年=昭和57年3月17日付)

「世界一の折り紙 三ツ池穴の溶岩石筍 ワラビ状溶岩鐘乳も確認」〔日本洞窟協会〕〔ワラビ状溶岩鍾乳〕〔縄状溶岩床〕〔小川孝徳〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年3月17日付) →『行人塚』(第16号 民俗調査 富士地区特集一付 風穴調査図一、富士宮北高等学校郷土研究部編、富士宮北高等学校郷土研究部発行、1976年9月)

「4月中旬開通めざす 春へ除雪車出動 富士山スカイライン」(『岳南朝日』1982年=昭和57年3月18日付)

「大悟庵 観音像の開帳は中止 観音堂の屋根が一新」(『岳南朝日』1982年=昭和57年3月21日付)

「大沢砂防の2次の課題一次は芝川水系 土石流の受け皿拡大 まず見返沢流路工を着手」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年3月21日付)

「幸運な発見だった 三ツ池穴溶岩石筍 勝間田さんが体験談」〔日本洞窟協会〕〔勝間田隆吉〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年3月21日付)

「『神社』から『大社』に改称 富士宮の浅間さん」〔浅間大社改名〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年3月27日付) →「名実とも『大社』に」(10月22日付)に関連記事あり。このデータベースでは他の浅間神社と区別するため、当初から〔浅間大社〕のキーワードが付してある。



「西富士道路が開通 120台がパレード 風船飛ばし通り初め」(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月3日付)

「私の趣味 富士山に魅せられて カメラ愛好家 長谷川利治さん(57)」〔陸軍少年戦車兵学校〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月3日付)

「自然保護望む富士宮 富士山観、表裏で違い 環境庁アンケート調査 開発推進の富士吉田」〔環境庁富士箱根伊豆国立公園管理事務所〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月4日付)

「大沢に19億5千300万円 建設省関係予算決る」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月7日付)

「早くも予約で満杯 田貫湖キャンプ場 夏休みのバンガロー」(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月9日付)

「大阪で富士宮観光展 富士登山など誘客宣伝」(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月9日付)

「17日に開通目どに除雪作業 富士山スカイライン」(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月11日付)

「廃棄物は“地下処理時代” 富士宮市 10年で百万トンの埋却」(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月13日付)

「さようなら滝戸峡谷よ 護岸工事で姿を消す 風致地区 惜しまれる奇岩、巨木」(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月14日付「カメラの目」)

「町域の3分の1は灰燼に 大宮町大火 あれから50年 途方に暮れた被災町民 水干と強風で焰魔狂う」(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月18日付「ズームアップ」)

→『静岡新報』『静岡民友新聞』昭和7年1月以降の記事参照

「富士浅間神社(芝川町内房字相沢) 武運長久の神として」(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月18日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて(46)」) ▼

「信行人 曹洞宗大悟庵住職の河瀬道雄氏(69)」(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月18日付)

「静岡縣大宮の大火」〔新聞各紙の写真〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月18日付)

「動き出した宗教者 随時に“生きた説法”」(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月18日付)

「宗教短信」(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月18日付)

「富士山を美しく 五市町、富士宮で総会」〔富士山をいつまでも美しくする会〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月20日付)

「一斉清掃は8月22日 富士山を美しくする会事業決る」〔富士山をいつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月23日付)

「増えた悪臭と騒音 56年度公害苦情まとまる」(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月23日付)

「止まらぬ国鉄離れ 56年度営業詰責 通勤定期ガタ減り(西富士宮) 富士宮駅は微増七百遠忌に救われる」〔大石寺〕〔日蓮七百年遠忌〕〔身延線〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月23日付)

「きょう開通 富士山スカイライン」(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月23日付)

「私の趣味 蝶のコレクター 小林國彦さん(38) ライフワークは富士山麓の蝶相分布」

(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月24日付)

「大石寺登山28%増 56年度の輸送実績 七百年遠忌でどっと」(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月27日付)

「二合目に野鳥の家 栗倉分校の児童たち 今年も巣箱かけ」〔富士根北小〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月28日付)

「富士山麓売出し中 市観光協会 成果あげる宣伝行脚 東北コースにも手応え 関西では予約受付も」〔宣伝キャラバン〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年4月29日付)

「ダイヤモンドを捕えた 田貫湖の富士 山頂にキラリ旭光 執念の2アマカメラマン」

〔ダイヤモンド富士〕〔高橋要〕〔山口康彰〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年5月7日付)

「朝霧高原 野鳥の樂園はいつ 狩猟領域がからんで難航する聖域計画 あすから愛鳥週間」(『岳南朝日』1982年=昭和57年5月9日付)

「あす四方向へ 第二次キャラバン」(『岳南朝日』1982年=昭和57年5月9日付)

「田植えに水の援軍 12日から田貫湖を放水」(『岳南朝日』1982年=昭和57年5月9日付)

「早春の新五合目に行く」(『岳南朝日』1982年=昭和57年5月12日付「カメラの目」)

「道路が一大汚染源 富士地域 NO<sub>2</sub>調査結果公表」〔大気汚染〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年5月14日付)

「発送通知は一時延期 富士山頂の課税権紛争 県の仲裁で両市町」〔山頂紛争〕〔固定資産税〕〔銀明館〕〔宮崎善旦〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年5月16日付) ▼

→詳細は「揺れる山室課税権」(7月25日付)、「仲裁の県、名案なく」(9月4日付)、「この一年(上)尾をひいた税金問題」(12月28日付)に続報

「山静県境の白鳥山 M8で崩落の恐れ 富士川せき止め大被害も 大月市立短大教授が予測 流域市町が対策へ 宝永、安政にも大災害」〔田中収〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年5月19日付)

「間伐対策が急務 森林組合が総会開く」〔富士宮森林組合?〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年5月20日付)

「21世紀の森林資源に 富士山国有林で植樹祭」〔静岡営林署〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年5月21日付)

「観光基本構想まとまる 富士山の活性化はかれ サイクルコース開発を」(『岳南朝日』1982年=昭和57年5月23日付)

「身延線の“切捨て”に反発『守る会』が緊急役員会 臨調部会報告に反対運動」〔臨時行政調査会〕〔身延線を守る会〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年5月27日付)

「もう一つの国鉄離れ 発送、到着とも大幅減 56年度の富士宮駅 製紙不況が追い打ち」〔身延線〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年5月27日付)

「公害防止の成果報告 富士環境保全協 煤じん規制強化に対応」(『岳南朝日』1982年=昭和57年5月28日付)

「大沢崩れに挑戦 富士山砂防事業 源頭部下にダム築造 まず滝の後退現象調査 へリで資材輸送 お助け小屋を拠点に」〔富士砂防工事事務所〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年6月11日付）▼

「新たに維持存続運動 身延線改善期成同盟会 臨調部会報告に対処」〔臨時行政調査会〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年6月18日付）

「長沢亮太を励ますつどい」〔建設大学校中央訓練所〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年6月20日付）

「富士山スカイライン 事務所を全焼 二合目の夜間は無人施設」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年6月22日付）▼→「冬を前に工事促進」（10月17日付）に続報

「大気汚染のクリーン化進む だがNO<sub>2</sub>は横ばい 今後も強力な監視必要」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年6月22日付）

「富士山・山開き間近 楽しい登山のための手引 ペース配分考えゆっくり」〔物価〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年6月25日付）▼

「登山バス時刻表」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年6月25日付）

「ミニ登山史」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年6月25日付）

「消えゆく滝戸峡谷 別れを惜しむ地元の人たち」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年6月27日付「グラフニュース」）

「山開きにオールドカー」〔クラシックカー〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年6月29日付）

「夏へダッシュ きょうから7月 富士山山開きで幕あけ」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年7月1日付）

「好調、富士夏山開き 新五合目行き一番バスに63人」〔宮崎重利〕〔身障者登山〕〔変わり種登山〕〔植田五千石〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年7月2日付）▼

「富士山衛生センターを改修 破損と老朽化で」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年7月2日付）

「水害不安にピリオド 滝戸峡谷の護岸改修着手」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年7月4日付）

「17日から夏山パト 遭対協富士宮支部 登山者の安全確保」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年7月4日付）

「新幹線富士が浮上 設置めざし陳情」〔新富士駅〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年7月4日付）

「ゆっくり富士登山 オールドカー勢ぞろい」〔クラシックカー〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年7月6日付）

「お山のサービス始動 頂上から納涼便り 衛生センターも店開き」〔山頂郵便局〕〔山頂電話局〕〔浜松医大〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年7月10日付）▼

「滝戸遺跡発掘調査 方形周溝墓群が出土 大規模な聖域を形成」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年7月11日付）

「富士山大沢崩れ対策を推進 期成同盟会が総会」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年7月13日付）

「期成同盟会が陳情攻勢 新幹線富士駅実現を」〔新富士駅〕（『岳南朝日』1982年

＝昭和 57 年 7 月 14 日付)

「大日如来像など八件 市指定文化財を答申」〔富士宮市文化財保護審議会〕〔後藤清吉郎〕〔興法寺大日堂〕〔聖連作・大日如来坐像〕(『岳南朝日』1982年＝昭和 57 年 7 月 15 日付)

「観光地を食品監視 夏の行楽シーズンで」〔山室衛生〕(『岳南朝日』1982年＝昭和 57 年 7 月 16 日付)

「また一つ消えた“大宮”国鉄富士宮駅舎取り壊し 来春は橋上駅に」(『岳南朝日』1982年＝昭和 57 年 7 月 18 日付「グラフニュース」)

「身障者が富士登山 県下の 66 人あす初挑戦」〔静岡県身体障害者福祉会〕(『岳南朝日』1982年＝昭和 57 年 7 月 21 日付) ▼

「近江八幡からお客さん来宮 富士と琵琶湖を結ぶ会」(『岳南朝日』1982年＝昭和 57 年 7 月 22 日付)

「噴火活動の予知へ 気象庁 富士山で機動調査」(『岳南朝日』1982年＝昭和 57 年 7 月 23 日付) ▼

「揺れる山室課税権 富士宮市・小山町の富士山頂境界争い 背景に自治体のメンツ 金よりも帰属のイメージ」〔山頂紛争〕〔固定資産税〕〔銀明館〕〔宮崎善旦〕〔渡辺英一〕(『岳南朝日』1982年＝昭和 57 年 7 月 29 日付) ▼→第 1 報は「発送通知は一時延期」(5 月 16 日付)、「仲裁の県、名案なく」(9 月 4 日付)、「この一年(上) 尾をひいた税金問題」(12 月 28 日付)に続報、解決はいつのことやら。2014年＝平成 26 年 1 月現在の降着状態を以下に紹介しておこう：

「富士山頂山小屋 小山町所在で調整」(『中日新聞』2014年＝平成 26 年 1 月 10 日付)

「〔富士宮〕市長定例記者会見

日時：2014年＝平成 26 年 1 月 10 日(金) 10:00～「発表案件以外の質疑応答の要旨」  
[http://www.city.fujinomiya.lg.jp/municipal\\_government/liti2b0000001ojy.html](http://www.city.fujinomiya.lg.jp/municipal_government/liti2b0000001ojy.html))

「いよいよ砂防ダム工 富士山大沢 へりで資材搬入へ」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1982年＝昭和 57 年 7 月 25 日付)

「どこかで見たよな懐かしい大宮町 水車や馬車軌道も」〔遠藤秀男著『写真集 富士宮の百年』(泰文堂、昭和 57 年)、遠藤秀男編著『写真集 懐かしの富士宮』(羽衣出版、平成 21 年)〕(『岳南朝日』1982年＝昭和 57 年 7 月 28 日付「カメラの目」) ←『富士宮の百年 写真集』(遠藤秀男著、泰文堂、1982)掲載の一部

「違反 11 件に改善指導 保健所の観光施設監視」〔山室衛生〕(『岳南朝日』1982年＝昭和 57 年 7 月 28 日付) ▼

「不振極めた 7 月 富士登山 長梅雨がたたる」(『岳南朝日』1982年＝昭和 57 年 8 月 1 日付) ▼

「富士山御神火まつり 夏の夜を華やかに 8 日、山頂から浅間大社へ」(『岳南朝日』1982年＝昭和 57 年 8 月 1 日付)

「芝川町の被害増大 台風 10 号災害 道路、河川で 4 億円」〔豪雨〕(『岳南朝日』1982年＝昭和 57 年 8 月 6 日付)

「教育、自治一筋 小長谷宗芳氏」〔訃報〕(『岳南朝日』1982年＝昭和 57 年 8 月 6

日付) ▼▼

「岳排バイパス建設へ 関係企業 20億円ねん出に苦慮」〔岳南排水路一号管〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月8日付)

「富士山七合目で転倒しけが」〔遭難〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月10日付) ▼

「建大産業開発訓練所 西麓でスポーツ教室 熱気球で空中散歩も」〔建設大学中央訓練所〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月11日付)

「精進湖 あす『涼湖祭』花火大会など多彩に」(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月11日付)

「池田大作『忘れ得ぬ同志』聖教新聞社」〔広告〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月11日付、8月19日付、昭和59年1月31日付、3月14日付、6月15日付、6月19日付)

「随想 明治の大宮口(1) 永井延男」〔武田久吉『明治の山旅』〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月12日付) ▼

「東北へ求人行脚 職安が23日から三陣で」〔ハローワーク〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月12日付、10月7日付)

「涼味たっぷり 真夏の万野風穴にぎわう」(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月13日付)

「随想 明治の大宮口(2) 永井延男」〔武田久吉『明治の山旅』〕〔小島烏水『不二山』〕〔鉄道馬車〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月13日付) ▼

「22日にクリーン作戦 夏山富士の後始末を」(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月13日付)

「消える滝戸釣り橋 潤井川の改修工事で近く解体」(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月15日付「グラフニュース」)

「めずらしい石筍 三ツ池洞穴展を開催」〔三ツ池穴〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月15日付)

「写真で綴る郷土史 遠藤秀男氏『富士宮の百年』刊行」(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月15日付)

「終戦記念日に平和登山 大阪の中津さんら一行」〔変わり種登山〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月18日付)

「苦しい富士登山 教育に生かす」〔新規採用教職員富士登山〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月18日付)

「琵琶湖畔で友情の輪 富士宮・近江八幡 児童生徒が交歓会」(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月18日付)

「短い夏総決算 観光地は軒並み閑古鳥 富士登山客も激減 天候不順にたたられる」(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月21日付) ▼

「富士山を美しく きょうクリーン作戦」〔富士山をいつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月22日付)

「夏に…ひろう 浜松大風、富士に挑戦」(『岳南朝日』1982年=昭和57年8月22日付) ▼

「夏山の汚れを清掃 富士山クリーン作戦 モラル徐々に向上」〔富士山をいつまでも美しくする会〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年8月24日付）

「台風10号で遭難か 富士山で会社員の遺体発見」〔白石宏一〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年8月24日付）▼

「森林被害も甚大 一万五千本が倒木、損傷 台風10号」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年8月25日付）

「富士山で世界一の花火打ち上げ 直径600m、巨大な華 28夜、富士宮口6合目で」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年8月26日付）→「稜線に大輪の華」（9月1日付）  
に続報あり

「富士山花火大会で会員バス 富士急が運転」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年8月26日付）

「新五合目に公園建設 民間団体が推進運動 31日に準備会」〔富士山表口自然公園〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年8月28日付）▼

「縄文、弥生の巨大聖域 滝戸遺跡調査で確認 祭祀、墓地に裏付け 出土品にガラス玉も 遺構も続々」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年8月27日付）

「山頂郵便局は大もて 大口差出しで10%増（前年対比）」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年8月29日付）▼

「旧登山道の復活も 富士山表口自然公園計画 総力あげて推進へ」〔大宮新道〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年9月1日付）▼

「稜線に大輪の華 夏山富士ファイナーレ 打上げ成功」〔花火〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年9月1日付）

「仲裁の県、名案なく 未解決のまま閉山 銀明館の課税権争い 富士宮市は権利再確認」〔山頂紛争〕〔固定資産税〕〔銀明館〕〔小山町〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年9月4日付）→続報は「課税権争いに苦肉の策」（1983年昭和58年3月1日付）▼

「浅間大社で富士閉山奉告祭 観光協会の閉山式も」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年9月4日付）

「源頭部の砂防工に まずヘリポート建設 大沢沿いの『お助け小屋』周辺」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年9月4日付）

「流域2%規制再検討へ 大規模開発浮上で指導要項見直しも」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年9月7日付）

「建大生2人が水死 技術研修の利島で遭難」〔建設大生〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年9月7日付）

「根北中に相撲場完成」〔富士根北中〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年9月8日付）

「三者が夏山反省会開く」〔富士振興センター〕〔富士宮市〕〔山室業者〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年9月9日付）

「富士山に初雪」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年9月12日付）

「様相一変、滝戸峡谷 潤井川護岸工事急ピッチ」（『岳南朝日』1982年＝昭和57年9月12日付「グラフニュース」）

「登山客、前年比32%減 今夏の富士山 天候不順にたたられて 市のまとめ」〔登山者数〕（『岳南朝日』1982年＝昭和57年9月14日付）▼

「随想 宗芳先生 岩間茂芳」〔小長谷宗芳〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年9月17日付）▼

「富士大宮司家の墓前祭 25日護持会で」〔富士大宮司墓所護持会〕〔高橋文雄〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年9月17日付）▼

「麓の山中で遺体発見 “死体なき殺人” 解決 右翼リンチ殺人」〔大日本皇心塾〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年9月22日付）

「自然保護を基本に 表口自然公園建設促進協 趣意書まとまる」〔富士山表口自然公園建設促進協議会〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年9月23日付）▼

「湖畔 “沈没” なお続く 異常増水の富士五湖に行く 西湖畔ジワジワ水没」〔地下水〕〔富士五湖水位〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年9月26日付）▼

「記録的な湧水量 猪之頭水源地 音止めの滝も三本に」〔地下水〕〔音止滝〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年9月26日付）▼

「エネルギー供給に貢献 共同汽力の12年 試練を経て成長 公害防止に率先努力」〔岳南朝日』1982年=昭和57年9月26日付）

「富士大宮司家の墓前祭 雨の中、盛大に」（『岳南朝日』1982年=昭和57年9月26日付）

「湧玉池も水位上昇 富士山の伏流水が影響」〔湧玉池水位〕〔異常増水〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年9月29日付）

「空から こんにちは(68)富士根北小周辺」（『岳南朝日』1982年=昭和57年9月30日付）

「全員でお中道巡り 北高が伝統の記念行事」〔富士宮北高〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月7日付）

「富士山もう一つの日本一 今年も苺苗1000万本 高冷地育苗の『山おろし』」〔イチゴ苗〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月7日付）

「富士山麓でキノコ狩り盛ん 毒キノコには十分な注意を」（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月8日付）

「オートテクニク競う 村山ジャンボ 10日にトライアル大会」（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月8日付）

「富士宮保健所が富士山で キノコの繁殖調査 大雨で自生は減少 二合目に毒キノコ群生」（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月9日付）

「富士山周遊道で無謀運転二件 七人が重軽傷」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月13日付）

「“人車一体”の妙技 50人のライダーがトライアル」〔村山ジャンボ〕〔トライアルクラブR-139〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月14日付）▼

「燃える・秋 紅葉染まる富士山 周遊道沿いは庭園調」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月15日付）

「大気クリーン化進む SO<sub>2</sub>濃度は減少 光化学の元凶NO<sub>2</sub>は横ばい 56年度公害概要」（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月16日付）

「真白に富士冬姿 山ろくの秋も日ごと深まる」（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月17日付「グラフニュース」）

「山頂に示す明治の気概 高齢者富士登山526人 トップは五十嵐さんの97歳 富士宮では矢部繁吉老」〔五十嵐貞一〕〔浅間大社〕〔奥宮〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月17日付）▼

「冬を前に工事促進 スカイライン管理事務所の再建」（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月17日付）←6月22日第1報「富士山スカイライン 事務所を全焼」▼

「迫る寒気、襲う落石 富士山大沢源頭部下砂防ダム工 天候不順で四苦八苦」（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月19日付）

「オフロードの“覇者”トライアルクラブR-139 災害時の救急訓練」〔村山ジャンボ〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月20日付「カメラの目」）

「県が異常増水で現地調査 白糸の滝 湧出量3~4割増 観測井、軒並み水位上昇」〔地下水〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月21日付）

「名実とも『大社』に 浅間さん、社号標を改刻」〔浅間大社〕〔浅間大社改名〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月22日付）←「『神社』から『大社』に改称」（3月27日付）に関連記事

「火山活動を常時観測 富士山に初のモニター点 東大地震研」〔富士総合開発〕〔富士山坑道〕〔火山観測〕〔下鴨大輔〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月23日付）←「標高一千三百メートルに水を求め」（1959年=昭和34年7月10日付）、「横穴井戸あと二百メートル」（35年12月7日付）に関連記事あり

「日本縦断、酪農青年 富士登山、畜産試を見学 単車で北海道-沖縄の旅」（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月23日付）

「富士を描く 富士美術館 来月2日から秋季特別展」（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月24日付）

「スケートシーズン間近 富士山麓のリンク情報」（『岳南朝日』1982年=昭和57年10月29日付）

「大沢崩れに挑戦 源頭部砂防ダムで科学のメス」（『岳南朝日』1982年=昭和57年11月7日付「グラフニュース」）

「富士よ永遠なれ 始まった源頭部崩壊対策 注目される調査結果 沢田記者」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年11月9日付「東西南北記者レポート」）

「崩壊の大沢源頭部に行く」（『岳南朝日』1982年=昭和57年11月10日付「カメラの目」）

「安全登山の拠点に 富士山新五合目 総合指導センター一月内完成」〔富士山総合指導センター〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年11月13日付）←「富士山に指導センター」（3月3日付）に第1報あり、「登山客の安全守る」（12月2日付）続報あり

「新幹線富士駅新設を促進 同盟会が組織拡大 峡南地区含め2市7町に」〔新富士駅〕（『岳南朝日』1982年=昭和57年11月17日付）

「右岸はひと足早く完成 滝戸護岸工事順調」（『岳南朝日』1982年=昭和57年11月21日付）

「異常地殻変動を監視 来月一日から富士宮東高も基地に」（『岳南朝日』1982年=昭和57年11月26日付）

「日蓮宗永昌山長見寺（芝川町長貫）開基は日長上人」（『岳南朝日』1982年=昭和



57年11月28日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて(51)」)

「登山客の安全を守る 富士山新5合目 指導センター完成」〔富士山総合指導センター〕  
(『岳南朝日』1982年=昭和57年12月2日付) ←「富士山に指導センター」(3月3日付)に第1報、「安全登山の拠点に」(11月13日付)に続報あり

「西富士宮駅こ線橋供用開始 安全…だが疲れるネ」〔身延線〕(『岳南朝日』1982年=昭和57年12月8日付)

「スキーシーズン到来 近県のスキー場情報 日本ランド」(『岳南朝日』1982年=昭和57年12月10日付)

「スケートリンク23日オープン 朝霧高原グリーンパーク」(『岳南朝日』1982年=昭和57年12月10日付)

「56年版『富士宮市の公害』発行 大部分は近隣問題」(『岳南朝日』1982年=昭和57年12月15日付)

「通勤の80%が富士市へ 昼間人口ごっそり減 富士宮市 流出入数が確定」(『岳南朝日』1982年=昭和57年12月16日付)

「随想 富士山表口 小玉芋露」(『岳南朝日』1982年=昭和57年12月25日付) ▼

「この一年(上) 尾をひいた税金問題 富士山頂課税権争いも 山室の課税権争いも年越しに」(『岳南朝日』1982年=昭和57年12月28日付)

## ■ 1983年=昭和58年

「正月をデッカクーレジャーガイド 日本ランドスキー場 富士急ハイランド 御殿場スキー場 朝霧グリーンパーク」(『岳南朝日』1983年=昭和58年1月1日付)

「飲み水不足 悩み解消 村山三区に簡易水道組合 自力で近くボーリング」(『岳南朝日』1983年=昭和58年1月8日付)

「富士登山道で強歩大会 県高等農業学園」(『岳南朝日』1983年=昭和58年1月18日付)

「富士山麓に初雪 根原は一面銀世界」(『岳南朝日』1983年=昭和58年1月19日付)

「釣りシーズンに備えてへラブナ放つ」(『岳南朝日』1983年=昭和58年1月19日付)

「富士砂防 野溪対策が直轄に 拡大する治山治水事業 開発の歩調に懸念も」〔大沢長兵衛島開発〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年1月20日付)

「新駅設置で陳情行 東海道新幹線 期成同盟の二市七町」〔新富士駅〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年1月21日付)

「国鉄の認識高める 山静トップ会談も働きかけ 新幹線富士駅」〔新富士駅〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年1月26日付)

「潤井川改修事業大詰め 滝戸峡谷部も来月完成 上流開発計画を警戒 流域住民に二次的課題」〔大沢長兵衛島開発〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年1月28日付)

「河川汚濁に目光らす 工場の夜間排水を調査」(『岳南朝日』1983年=昭和58年1月28日付)

「富士山大沢扇状地沿いに150<sup>㌢</sup>の工業団地計画 市、土地利用対策委で検討へ 40～45%が砂防指定地域 開発ラッシュに警鐘も 不安高める下流住民」〔大沢崩れ〕〔大沢長兵衛島開発〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年2月2日付）▼

「具体的方策を検討 表富士自然公園促進で」〔富士山表口自然公園建設促進協議会〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年2月2日付）

「貨物部門の廃止提案 国鉄合理化 富士宮駅も対象に」〔身延線〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年2月4日付）

「ダルマ市盛大に 19日から3日間 富士市毘沙門天大祭」（『岳南朝日』1983年＝昭和58年2月4日付）

「大型ニジマスをめざす サケに変わる魅力を 県水産試富士養鱒場 最大の眼目は平均確保」（『岳南朝日』1983年＝昭和58年2月5日付）

「随想 八坂部落 城内睦夫」（『岳南朝日』1983年＝昭和58年2月6日付）▼

「随想 駅前と峡谷と 植松京子」（『岳南朝日』1983年＝昭和58年2月10日付）

▼

「大規模開発に“待った”自然環境守る会結成 広く住民運動を展開 大沢の危険性拭えず」〔大沢長兵衛島開発〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年2月11日付）

「近距離宣伝に力こぶ 市観光協会の事業計画」〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年2月19日付）

「姿消した天然記念物 本光寺のイチョウと村山のサクラ 指定解除」〔静岡県指定天然記念物〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年2月20日付）▼

「座談会 富士山西南麓を見つける自然環境保全と開発（1）砂防区域は保有せよ」〔大沢長兵衛島開発〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年2月22日付）

「座談会 富士山西南麓を見つける自然環境保全と開発（2）白糸の滝に打撃も」〔大沢長兵衛島開発〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年2月23日付）

「座談会 富士山西南麓を見つける自然環境保全と開発（3）遊砂地をもっと広く 拡大一方の大沢くずれ」〔大沢長兵衛島開発〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年2月24日付）

「座談会 富士山西南麓を見つける自然環境保全と開発（4）富士山の開発は限界 水の役割無視、地面砂漠に」〔大沢長兵衛島開発〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年2月25日付）

「座談会 富士山西南麓を見つける自然環境保全と開発（5）開発は立地を選べ」〔大沢長兵衛島開発〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年2月27日付）

「富士山頂の山室 課税権争いに苦肉の策 県の仲介で 税金は法務局に供託“領有権”はタナ上げ」〔山頂紛争〕〔固定資産税〕〔銀明館〕〔小山町〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年3月1日付）

「大沢扇状地の開発反対 市議会厚経委 請願、賛成多数で採択」〔大沢長兵衛島開発〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年3月12日付）

「富士川断層説で講演 東大地震研助手 恒石氏が富士宮で」〔富士川断層横すべり説〕〔東海地震〕〔恒石幸正〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年3月12日付）

「山ろく林業を活性化 富士宮市 富士裾野線開設目指す」〔林道裾野線〕〔林道飯盛線〕

(『岳南朝日』1983年=昭和58年3月15日付) ▼

「矢継ぎ早やに質問 芝川町の当局、議会 大沢扇状地を視察」〔大沢長兵衛島開発〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年3月18日付)

「富士山の自然と大沢 富士山の自然環境を守る会 阿部英雄」〔大沢長兵衛島開発〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年3月19日付「論壇」) ▼

「行楽の春へピッチ 富士山スカイライン 新五合の除雪開始」〔冬期閉鎖〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年3月29日付)

「珍しい樹氷が出現 富士山スカイラインで」〔富士山スカイライン管理事務所〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年3月30日付)

「空からこんにちは(85) 村山浅間神社周辺 登山と修験で賑った地」(『岳南朝日』1983年=昭和58年3月31日付) ▼

「10日から無人駅に 身延線 源道寺など三駅」(『岳南朝日』1983年=昭和58年4月8日付)

「建設省 大沢対策に19億円 二河川の砂防ダム工事も」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年4月10日付)

「県議選富士宮・富士郡区 公明が念願の初議席」〔稲田圭佑〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年4月11日付)

「大部分は近隣関係 大気、騒音、悪臭に集中 57年度公害苦情まとまる」(『岳南朝日』1983年=昭和58年4月14日付)

「富士宮駅 発送が前年比25%減 貨物の国鉄離れ続く」〔身延線〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年4月24日付)

「国鉄富士宮駅 乗客、前年比10%後退 合理化方針に拍車か」〔身延線〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年4月27日付)

「地域の証言綴り 30年 激動の戦後史を刻む 30年のあしあと」〔『岳南朝日』30年史〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年5月8日付)

「大沢開発問題で陳情 二つの市民団体が県へ」〔大沢長兵衛島開発〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年5月12日付)

「学会へ協力要請 新幹線富士駅設置尾促進で」〔新富士駅〕〔創価学会〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年5月12日付)

「秋山栄子編『春秋幸の旅』 聖教新聞社」〔広告〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年5月12日付)

「地域指定再延長を陳情 富士地域二市四町 公害防止計画達成せず」〔公害防止計画地域連絡協議会〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年5月13日付)

「田植えに水の援軍 田貫湖きょうから放水」(『岳南朝日』1983年=昭和58年5月13日付)

「白糸の滝で大木落下 記念撮影中逃げ遅れ 観光客六人重軽傷 安全管理問題に」〔落木事故〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年5月14日付) →「[倒木事故の和解成立](#)」(1984年=昭和59年11月30日付)

「富士山にヒノキ 10万5千本植林 17日に植樹祭も」〔静岡営林署〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年5月14日付)

「週明けに対策会議 白糸の滝の安全管理で」〔落木事故〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年5月15日付）

「国、県、市が対策会議 白糸の滝落木事故 三者で安全協設置 管理責任や危険立木検討」（『岳南朝日』1983年＝昭和58年5月18日付）

「富士山で植樹祭 さつき晴れの下300本」〔静岡営林署〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年5月18日付）

「寄稿 長者ヶ池の思い出 そのむかしの田貫湖 滝戸 渡辺利雄」（『岳南朝日』1983年＝昭和58年5月21日付）▼

「来月再び国鉄へ陳情 新幹線富士駅設置期成同盟 ポスターを作成配布」〔新富士駅〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年5月25日付）

「危険立木、行政で処分 白糸の滝落木事故対策 市が方針固める」（『岳南朝日』1983年＝昭和58年5月28日付）

「白鳥山崩壊説に対応 山静の二市五町が参加 九日、対策協議会結成」（『岳南朝日』1983年＝昭和58年6月2日付）

「遭難事故防止に全力 夏山シーズン パトロールや登山相談 富士山」（『岳南朝日』1983年＝昭和58年6月3日付）

「汚濁すすむ神田川 生物調査結果 原因は雑排水の流入」（『岳南朝日』1983年＝昭和58年6月5日付）

「身延線利用を促進 改善期成同盟会 維持、存続前面に」（『岳南朝日』1983年＝昭和58年6月9日付）

「危険木きょう伐採 白糸の滝落木事故」（『岳南朝日』1983年＝昭和58年6月9日付）

「これで一まず安全 白糸の滝 危険木4本を伐採」〔落木事故〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年6月10日付）

「原生林を行く 富士山大沢のお中道」（『岳南朝日』1983年＝昭和58年6月15日付「カメラの目」）

「寄稿 9月噴火説に寄せて 富士山噴火史 渡辺利雄」〔相楽正俊著『富士山大爆発』徳間書房〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年6月19日付）

「釜口に響く鎮魂読経 芝川の僧侶 水難犠牲者を供養」〔釜口橋〕〔妙法山長遠寺〕〔湛溪日道〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年6月19日付）

「名車50台が富士登山 ことしも夏山開きに」〔クラシックカー〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年6月23日付）

「路線バスSOS 過疎、マイカー両面攻勢 やむなく間引き運転も」（『岳南朝日』1983年＝昭和58年6月25日付）▼

「溶岩洞穴のパネル展 観光宣伝にもひと役」〔遠藤秀男著『富士山の洞穴探険』〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年6月26日付）

「次は南口設置へ 駅前整備 貨物ヤードを利用」〔身延線〕〔富士宮駅前整備〕（『岳南朝日』1983年＝昭和58年6月28日付）

「白鳥山防災は難問題…場所は行政の“死角” 芝川町当局 協議会に諮り対処」（『岳南朝日』1983年＝昭和58年6月29日付）

「夏山開きプレゼント 富士山スカイライン 手づくりキーホルダー」 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年6月28日付)

「夏山シーズン開幕 富士山・あす山開きー楽しい登山の手引きースケジュール万全に」 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年6月30日付) ▼

「登山バス時刻表」 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年6月30日付)

「富士山頂」 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年6月30日付) ▼

「梅雨明けも間近 きょうから七月 夏本番に行事多彩」 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7月1日付)

「山宮工業団地 工場敷地は44区画 土地利用委へ事前協議書提出」 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7月1日付)

「夏ひらく 山開き、新駅舎オープン 一番バスで63人が出発 一番列車からスムーズに」〔身延線〕〔富士宮駅前整備〕 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7月2日付) ▼

「御神火まつりの登山者募集 富士宮青年会議所」 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7月2日付)

「名車連ねて富士登山 山開き祝ってオールドカー」〔クラシックカー〕 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7月3日付「グラフニュース」)

「大もて大沢の土砂 建設事業の埋立にひと役」〔大沢崩れ〕 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7月6日付) ▼

「激特、本年度で終了 潤井川災害対策 5年で31億円投入」〔潤井川激甚災害特別対策事業〕 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7月7日付)

「空からこんにちは(98) 山宮小学校周辺 溶岩洞穴の数多い地域」 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7月7日付)

「富士山に仏舎利塔 経ヶ岳奉讃会 日蓮七百年遠忌で計画」 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7月7日付「広域圏情報」)

「富士山をいつまでも美しく クリーン作戦に550人 今夏は8月21日に実施」〔清掃登山〕 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7月8日付)

「製紙汚泥82%占める 57年度産廃処理、前年より増加」〔スラッジ〕 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7月9日付)

「登山切手帳を売り出す 富士山頂局オープン」〔山頂郵便局〕 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7月10日付)

「富士山の植生を探る みどりの“開拓者”はい上がる高山植物 お中道の大沢原生林 秘境を守ろう(沢田記者)」 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7月10日付「ズームアップ」) ▼

「観光客の健康守り 富士宮保険所 明日から衛生監視」〔山室衛生〕 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7月10日付)

「保健所 富士山室を監視 衛生面は『概ね良好』」〔山室衛生〕 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7月13日付)

「“梅雨明けヤーイ” 低温続きで生活に異変も 登山バスガラ空き」 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7月13日付) ▼

「登山客の安全守る 富士山衛生センター開設」 (『岳南朝日』 1983年=昭和58年7

月 14 日付)

「新五合目で一日観光案内所開設」(『岳南朝日』1983年=昭和58年7月14日付)

「白糸の滝で地質調査 観光客の安全対策図る」〔落木事故〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年7月15日付)

「公害の苦情が急増 市、工業団地移転を指導」(『岳南朝日』1983年=昭和58年7月17日付)

「富士山頂に元気よく挑戦 上野中・一中の一年生」〔上野中学〕〔第一中学〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年7月20日付)

「近江八幡からお客さん 富士と琵琶湖を結ぶ会」(『岳南朝日』1983年=昭和58年7月21日付)

「富士山・田貫湖 土、日曜パトロール 富士宮署が夏期臨時派出所」(『岳南朝日』1983年=昭和58年7月22日付)

「富士と琵琶湖を結ぶ会来宮」(『岳南朝日』1983年=昭和58年7月24日付「グラフニュース」)

「今は“幻”三極生産 そのルーツは白糸の里に 二百年前から集団栽培」〔ミツマタ〕〔渡辺十三郎〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年7月24日付) ▼《中国中南部・ヒマラヤ地方が原産地とされる。》(Wikipedia) とどう折り合いをつけるか。

「半数は関西のお客 一日観光案内所 新五合目でアンケート」(『岳南朝日』1983年=昭和58年7月26日付)

「待ちわびる梅雨明け 富士登山客もさっぱり」(『岳南朝日』1983年=昭和58年7月26日付) ▼

「田貫湖畔で友情交歓 近江八幡の子ら来宮」(『岳南朝日』1983年=昭和58年7月28日付)

「空からこんにちは(101) 神成地区周辺 次郎長が残した足跡」(『岳南朝日』1983年=昭和58年7月28日付) ▼

「世界の屋根に挑戦 インドヒマラヤCB13A峰 富士宮山岳会 初の女子登山隊が遠征女教師ら3人編成 成田をあす出発」(『岳南朝日』1983年=昭和58年7月29日付)

「夏本番、涼を求めて 賑わう富士山新五合目」(『岳南朝日』1983年=昭和58年7月31日付「グラフニュース」)

「富士山御神火祭り“大特集” 富士宮青年会議所広報」〔広告〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年7月31日付)

「朝霧に6000の若いこだま ボーイスカウト県大会 ミニジャンボリー再現」(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月2日付)

「富士山に2万人 今夏最高の人出を記録」(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月2日付) ▼

「大沢砂防促進など陳情 富士治山治水期成同盟 県、国の関係機関へ」(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月4日付)

「富士山で心中未遂 借金苦の男、妻を絞殺」〔自殺〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月4日付) ▼

「探検気分で樹海散策 山梨県上九一色村で整備 自然観察路が人気」〔青木ヶ原〕(『岳

南朝日』1983年=昭和58年8月5日付)

「550人が清掃に参加 富士山クリーン作戦決る」〔清掃登山〕〔富士山をいつまでも美しくする会〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月10日付)

「随想 サウンド富士 岡田収治」(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月10日付)

「ハングラライダーで墜死」〔ハンングライダー〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月13日付)

「登山からハイクや納涼の場 富士山アンケート結果 観光化進む新五合目」〔富士宮市観光協会〕〔一日観光案内所〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月14日付)

「“美しくきついフジヤマ” 米国の交換女子高生が登山」〔外国人登山〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月16日付)

「ふれあいの観光目指す 富士宮市、観光施策の確立へ」〔富士山周辺地域観光基本構想〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月19日付)

「富士山を美しく きょうクリーン作戦」〔清掃登山〕〔富士山をいつまでも美しくする会〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月21日付)

「夏の観光地総決算 後半で盛り返えず 通算では『例年以上』」(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月23日付) ▼

「空からこんにちは(104) 大石寺周辺 七百年の法灯連綿」(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月24日付)

「強行登山で患者倍増 富士山衛生センター 今夏は417人診療」(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月24日付) ▼

「浅間大社 大鳥居の再建で要望 市は代替案を提案」(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月25日付) 〔駅前整備〕 ▼

「親切な医師を捜して 富士山衛生センター『助かった』と登山客礼状」(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月26日付)

「利用、前年比9%増 日本一高い郵便局閉じる」〔山頂郵便局〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月26日付)

「夏山富士も最後の週末 山室の営業日程」(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月27日付) ▼

「スギ10本を伐採 白糸の滝の安全で」〔落木事故〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月27日付)

「遂に征復ヒマラヤCB13A がんばった女子登山隊 市長に成果を報告」(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月30日付)

「音止めの滝大崩落 売店の敷地にも亀裂」〔音止の滝〕〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年9月6日付) →昭和58年10月12日付、昭和60年1月13日付、5月30日付に関連記事あり

「女子登山隊が登頂成功の報告会 11日市民文化会館で」〔ヒマラヤCB13A〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年9月7日付)

「海を渡る『巖峰富士』南部さん、姉妹都市協会へ寄贈」〔南部陽一郎〕〔富士宮サンタモニカ都市提携協会〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年9月10日付)

「富士山に初雪」(『岳南朝日』1983年=昭和58年9月10日付)

「富士山も質的变化 観光流動実態調査 節約型行楽目立つ」〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』1983年=昭和58年9月13日付）

「論壇 富士夏山の反省 限りなく尊い高山植物 阿部英雄」〔ゴミ〕〔お花畑〕（『岳南朝日』1983年=昭和58年9月18日付）▼

「白糸、音止の滝の地質調査 来月中旬に報告書 総合的見地から安全対策」〔白糸の滝〕（『岳南朝日』1983年=昭和58年9月25日付）

「毒キノコにご注意 富士山に6種類も」（『岳南朝日』1983年=昭和58年9月25日付）

「山麓で強歩大会 宮北 3年に一度の恒例行事」〔富士宮北高〕（『岳南朝日』1983年=昭和58年9月29日付）▼← [《村山浅間神社一天照教》はどこを通ったのかな](#)

「白糸の滝周辺の安全対策 11日に地質調査報告」（『岳南朝日』1983年=昭和58年10月6日付）

「毒キノコ判別研修 富士山三合目 例年より遅い成長」（『岳南朝日』1983年=昭和58年10月6日付）

「今夏の高齢者登山番付発表 富士山頂奥宮・久須志宮 明治の気概…30%増」〔五十嵐貞一〕〔桑原虎之助〕〔三原種憲〕〔矢部繁吉〕〔渡辺兵一〕（『岳南朝日』1983年=昭和58年10月6日付）▼

「後退速度が早まる 滝の地質調査で対策提言」〔白糸の滝〕〔音止の滝〕〔松浦工事事務所〕（『岳南朝日』1983年=昭和58年10月12日付）→[昭和58年9月6日付、昭和60年1月13日付、5月30日付に関連記事あり](#)

「30年間で34・4%減 富士宮市の農家戸数 農政局調べ 経済成長期に急降下」（『岳南朝日』1983年=昭和58年10月9日付）

「研究活動や施設を紹介 創立50周年の富士養鱒場」（『岳南朝日』1983年=昭和58年10月9日付）

「シーズンですが…富士山に立看板」〔毒キノコ〕（『岳南朝日』1983年=昭和58年10月9日付「グラフニュース」）

「大沢防災に挑む 建設省直轄事業急ピッチ」（『岳南朝日』1983年=昭和58年10月9日付「グラフニュース」）

「店頭の特産四ツ溝柿」（『岳南朝日』1983年=昭和58年10月9日付「グラフニュース」）

「後退速度が早まる 滝の地質調査で対策提言」〔白糸の滝〕（『岳南朝日』1983年=昭和58年10月12日付）

「富士山も全容くつきり 台風一過で秋晴れ」（『岳南朝日』1983年=昭和58年10月12日付）

「白糸の滝を永遠に ご難続きに抜本策を」〔音止の滝〕（『岳南朝日』1983年=昭和58年10月13日付）

「白糸の滝 安全対策協近く結成 観光地対象の保険加入」（『岳南朝日』1983年=昭和58年10月14日付）

「本年度から三カ年計画で田貫湖を大規模改修 堤体老朽、決壊の恐れ 地震対策の一環にも」（『岳南朝日』1983年=昭和58年10月21日付）



「秋色から冬仕度へとー富士山」(『岳南朝日』1983年=昭和58年10月26日付「カメラの目」)

「味覚の王者出番に 特産四ツ溝柿出荷始まる」(『岳南朝日』1983年=昭和58年10月27日付)

「空からこんにちは(112) 芝川町西山地区」(『岳南朝日』1983年=昭和58年10月27日付)

「水位上昇 西湖で試験放水 湖畔道路へジワジワ」〔異常増水〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年10月27日付「広域圏情報」)

「西白塚に『ふれあいの森』自然休養林を活用 県が三カ年計画で整備」(『岳南朝日』1983年=昭和58年10月30日付)

「市史の資料提供求める 『下巻』の編纂に」〔『富士宮市史 下巻』〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年10月30日付) →『広報ふじのみや』(昭和58年11月号)

「空からこんにちは(113) 大中里地区周辺 弧を描くロマン身延線」(『岳南朝日』1983年=昭和58年11月3日付)

「爆発説に抗議文 富士五湖観光連盟 臨時総会で決める」〔相楽正俊著『富士山大爆発』徳間書房〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年11月3日付「広域圏情報」)

「新幹線富士駅で決起 19日、民間団体が大会」〔新富士駅〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年11月6日付)

「富士山も真っ白、きょう立冬」(『岳南朝日』1983年=昭和58年11月8日付)

「冬を迎える田貫湖 放水で湖岸も様変わり」(『岳南朝日』1983年=昭和58年11月10日付)

「富士山に水道構想 山頂までポンプアップ 県 事業費負担が難問」〔富士山水道施設構想〕〔水洗トイレ〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年11月10日付) ▼

「ホテルも競争時代 駅前の富士急30日オープン」(『岳南朝日』1983年=昭和58年11月18日付)

「新幹線富士駅で氣勢 市民団体7000人が参加」〔新富士駅〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年11月20日付)

「夜間登山の道しるべ 富士山新五合目に太陽エネ灯」(『岳南朝日』1983年=昭和58年11月20日付「グラフニュース」)

「ニュースその後 歴史的使命果たす 13年ぶりヘドロ訴訟決着」(『岳南朝日』1983年=昭和58年11月23日付)

「“魔の淵”で水難者慰霊祭 宗教団体有志が呼びかけて」(『岳南朝日』1983年=昭和58年11月26日付)

「空からこんにちは(116) 富士宮駅と駅前広場」(『岳南朝日』1983年=昭和58年11月27日付)

「峡南・五湖 冬の富士山遭難防げ 地元山岳会 避難所開設も要望」〔吉田口〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年11月27日付「広域圏情報」)

「富士宮の姓氏調べ 圧倒的に多い『佐野』佐野正夫」(『岳南朝日』1983年=昭和58年12月4日付)

「『長兵衛開発、要件に合わず』助役が否定的見解 土地利用対策委で近く結論」〔大沢

長兵衛島開発] (『岳南朝日』1983年=昭和58年12月6日付)

「厚生経済委 長兵衛島開発の請願 4対3で継続審議に」〔大沢長兵衛島開発〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年12月9日付)

「富士を背にスキー 日本ランド 雪遊び広場も18日に」〔イエティ〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年12月9日付)

「12月定例市議会 長兵衛島処理先送り 賛成多数で継続審議」(『岳南朝日』1983年=昭和58年12月15日付)

「新たに土擴五基 渋沢遺跡発掘調査 埋め甕など発見」(『岳南朝日』1983年=昭和58年12月15日付)

「白糸の滝落木事故教訓に安全対策協発足へ」〔白糸の滝等風致保全及び安全対策協議会〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年12月16日付)

「富士山へ初日の出バス運行」〔富士急〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年12月27日付)

## ■1984年=昭和59年

「21世紀めざす輝く朝 撮影 坂本猛」〔写真〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年1月1日付)

「自然と緑をたっぷり 完成が待たれる2つの森林事業 白糸森林公園 ふれあいの森林」〔白糸財産区有林〕〔西白塚国有林〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年1月1日付) ▼

「日本一の工事着々ー富士山大沢砂防事業 来年度で二ダム完成 新田橋の供用も間近」(『岳南朝日』1984年=昭和59年1月1日付)

「余水吐えん堤工が完成 田貫湖の能力アップへ」(『岳南朝日』1984年=昭和59年1月6日付)

「3年ぶりワカサギ穴釣り 精進湖が前面氷結」(『岳南朝日』1984年=昭和59年1月10日付)

「白糸滝守る会解散 新組織の協議会に引き継ぐ」〔白糸の滝を守る会〕〔白糸の滝等風致保全及び安全協議会〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年1月27日付)

「身延線 上り下り16本微調整 国鉄ダイヤあす改正 貨物取扱いは廃止」(『岳南朝日』1984年=昭和59年1月31日付)

「富士根幼児学級“子育て戦争”に仲間で協力」(『岳南朝日』1984年=昭和59年2月2日付)

「8日から毘沙門天祭 博物館ではダルマ展も」〔富士市立博物館〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年2月3日付)

「身延線に『割増運賃』国鉄が大幅値上げ申請」〔地域別旅客運賃〕〔身延線を守る会〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年2月5日付)

「山宮工業団地実質スタート 地元が同意書に調印 今週中に県へ本申請」(『岳南朝日』1984年=昭和59年2月7日付)

「毘沙門天祭にダイヤ増発 富士急バス」(『岳南朝日』1984年=昭和59年2月7日付)

付)

「長兵衛島開発で結論 市、企業へ回答 現計画は“不適當”内容の再検討を求める 住民の安全確保に問題」〔大沢長兵衛島開発〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年2月10日付）

「鶏ふん処理施設完成 養鶏団地、悩みの悪臭解消」〔畜産公害〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年2月10日付）

「空からこんにちは（125）杉田・小安さん付近 茶畑の中に点在する住宅群」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年2月16日付）

「峡南・五湖 上流含め汚濁防止 富士川環境保全対策協」〔富士川環境保全対策協議会〕〔家庭用雑排水〕〔内水面漁業〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年2月16日付「広域圏情報」）

「富士山五合目観光協会 応急処置を学ぶ 土産店の従業員が参加」〔吉田口〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年2月16日付「広域圏情報」）

「住民の安全か産業開発か 具備しなかった要件 結論下った長兵衛島問題」〔大沢長兵衛島開発〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年2月23日付「ズームアップ」）←記事には「大沢扇状地と工業団地計画地」地図あり

「芝川の『柱状節理』県文化財指定を答申」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年2月26日付）

「自然に触れて体験学習 西白塚に『山の村』計画 県教委61年度解説めざす」〔富士山麓山の村〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年2月29日付）

「雪で出荷遅れ模様 山ろくの系統確認苗木」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年2月29日付）

「“素顔”見せるか大宮城 柱穴の遺構発見 市教委 6月ごろから本調査」〔大宮城址遺跡〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年3月10日付）▼

「大都市で観光展 富士宮市が誘客作戦展開」〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年3月14日付）

「足形できょう火伏せ念仏」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年3月14日付）

「青空圧す巨大観音 星山大悟庵のご開帳賑わう」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年3月20日付）

「隠れた名瀑が世に出る 陣馬の滝に受入れ施設 トイレ建設、道路も造成へ」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年3月23日付）

「富士山中腹の林業を活性化 林道建設工事始まる 栗倉～山宮間 受益面積は205㌔」〔林道富士裾野線建設促進期成同盟会〕〔出水富士線〕〔飯盛線〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年3月24日付）▼

「春へ除雪作業ピッチ 立ちほだかる大雪 富士山スカイライン 4月上旬開通めざす」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年3月28日付）▼

「新会長に木ノ内氏 富士宮山岳会役員決る」〔木ノ内高嘉〕〔渡井豊〕〔工藤誠志〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年4月3日付）

「ひと足遅れの春が… 富士山の除雪急ピッチ」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年4月4日付「カメラの目」）

「懸念される客離れ 身延線 20日から割増運賃」〔地域別旅客運賃〕〔身延線を守る会〕  
（『岳南朝日』1984年＝昭和59年4月7日付）

「登山ルートが開通 富士山スカイライン 雪の壁をドライブ」〔冬期閉鎖〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年4月8日付）

「富士山スカイライン 雪に覆われる新五合目 登山区間開通」〔冬期閉鎖〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年4月12日付）

「峡南・五湖 上九一色村や関係漁協 日軽金の本栖湖取水 県に中止を要請」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年4月12日付「広域圏情報」）

「自然観察の会が発足 指導員の呼掛けで組織化」〔仁藤浪〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年4月15日付）

「村山で民家一棟を全焼」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年4月15日付）

「富士山に強いあこがれ 市観光協会大阪府民にアンケート」〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年4月17日付）

「大沢崩れに19億円 建設省・農水省 国庫補助事業決まる」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年4月20日付）

「富士登山道に『山開句碑』上田夫妻ら出席、除幕式」〔畦の会〕〔上田五千石〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年4月24日付）

「新駅設置場所は川成島 富士市が独自案発表」〔新富士駅〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年4月25日付）

「公害苦情が最多記録 58年度 環境の質求める市民」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年4月25日付）

「坂上遺跡の存在確認 縄文早期の配石遺構 下層は旧石器の可能性も」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年4月26日付）

「登山ルートきょう通行を再開 積雪できのうストップ」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年5月3日付）

「底をついた？客離れ 東西富士宮両駅乗車数 前年に比べ収入微増」〔身延線〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年5月9日付）

「田植えに水の援軍 田貫湖 11日から21日まで放水」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年5月9日付）

「雲の上からモシモシ 富士山新五合目に公衆電話」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年5月9日付）

「愛鳥週間スタート 絶滅したコノハズク オオルリ、コマドリも激減 いま乱獲、開発のツケ 野鳥の会が警告」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年5月10日付）

「富士山で植樹祭 ふれあいの森造成にひと役」〔静岡営林署〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年5月13日付）

「タラノメを特産化 粟倉地区で人工栽培 苗木から新芽次々と 来年の収穫に期待大」〔遠藤咸男〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年5月15日付）

「総登山人員は90万 創価学会輸送 富士宮駅は8・3%後退 58年度実績」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年5月16日付）

「富士山にめずらしい“夏雪” 市内も肌寒く」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年5月

18日付)

「期成同盟会 創価学会に協力要請 新幹線富士駅の設置で」〔新富士駅〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年5月19日付)

「観光キャラバン派遣 第一次 22日から三班に分れて」〔富士宮市観光協会〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年5月20日付)

「名古屋で31日から観光展 富士山麓誘客作戦」〔富士宮市観光協会〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年5月20日付)

「修学旅行の“メッカ” 白糸滝が連日の賑い」〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年5月24日付)

「山岳遭対協が総会開く」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年5月24日付)

「夏山富士の共同宣伝 大阪・虹のまちで登山版」〔富士地区観光協議会〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年5月26日付)

「富士山に緑の別天地 散策道路が一部完成 自然林を生かし体験学習も」〔西白塚〕〔富士山自然休養林〕〔ふれあいの森〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年5月26日付)



「随想 気象異変 本源寺天念」〔昭和12年の異常気象〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年5月26日付)

「“幻の城”の発掘へ 大宮城址あすから遺構調査」〔大宮城址遺跡〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年5月27日付)

「南麓横断道路の実現期す 期成同盟会結成へ準備 富士宮など四市三町で」〔富士地区広域市町村圏協議会〕〔国道469号〕〔富士山南麓道路建設促進期成同盟会〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年5月30日付)

「富士山でキャンプ場開き 先陣は沼津の中学校 飯ごう炊さんで楽しむ」〔グリーンキャンプ場〕〔ピカ表富士〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年5月30日付)

「苗木プレゼント 富士山スカイラインで」(『岳南朝日』1984年=昭和59年6月1日付)

「山岳パトロール強化 遭対協 夏山シーズンに備え」〔静岡県産額遭難防止対策協議会〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年6月6日付)

「白鳥山防災は長期化 抜本的対策つかめず」(『岳南朝日』1984年=昭和59年6月8日付)

「山麓は広域的水枯れ 各地で梅雨待ち様相 音止の滝も細く」〔地下水〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年6月10日付)

「べールぬぐか“幻の大宮城址”発掘調査 土間や石積み水路も 生活用品など出土」(『岳南朝日』1984年=昭和59年6月10日付)

「大沢砂防、ひと区切り 懸案工事相次ぎ完成へ 今年度は19億2900万円 源頭部下の斜面对策も」(『岳南朝日』1984年=昭和59年6月14日付)

「富士山麓の自然文化一堂に【富士万葉植物園】【富士吉田市郷土館】」〔ふじさんミュージアム〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年6月15日付「レジャー」)

「身延線に禁煙電車 7月から急行に一車両」(『岳南朝日』1984年=昭和59年6月

16日付)

「新幹線富士駅ヤマ場へ 募金運動を具体化 期成同盟総会」〔新幹線富士駅設置促進期成同盟会〕〔新富士駅〕（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月16日付）

「富士山の思い出に スカイライン 苗木をプレゼント」（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月16日付）

「郷土史同好会が発足 近く設立総会を開く」〔富士宮市郷土史同好会〕（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月17日付）

「富士山くっきり夏姿 梅雨もひと休み」（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月17日付）

「御神火まつり 登山者を募る 富士宮青年会議所」（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月17日付）

「一斉清掃は8月19日 三登山口で1100人動員」〔富士山をいつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月19日付）

「シンボルの清流取り戻す 漁組が神田川を清掃」〔富士宮市非出資漁業協同組合〕（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月19日付）

「富士山くっきり夏姿 梅雨もひと休み」（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月17日付）

「金剛杖生産が本番 富士山山開き間近」〔芝田木材工業〕（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月21日付）

「オールドカー勢ぞろい 富士山山開きに今年も登山」〔クラシックカー〕（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月23日付）

「来春にも追録刊行 芝川 町誌の執筆に着手」〔『芝川町誌 追補』〕（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月23日付）

「公害苦情1000件超す 富士宮市、開設17年で」〔市民生活課公害対策係〕（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月27日付）

「富士山衛生センターを視察」〔富士振興センター〕〔富士宮保健所〕〔富士宮市観光課〕（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月27日付）

「富士地区広域NO<sub>2</sub>調査-環境基準クリアー 国道沿いで高濃度」〔大気汚染〕（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月29日付）

「夏山シーズン開幕 富士山・山開き間近 無理ないスケジュールで」（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月29日付）▼

「登山の心得」（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月29日付）

「富士山=こぼれ話=」（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月29日付）

「登山バス時刻表」（『岳南朝日』1984年=昭和59年6月29日付）

「白樺の壁掛け贈呈 富士山スカイライン」（『岳南朝日』1984年=昭和59年7月1日付）

「もうすぐ楽しい夏休み きょうから七月 富士山開きで幕開け」（『岳南朝日』1984年=昭和59年7月1日付）

「つゆも一服、夏開く 富士登山者もどっと」（『岳南朝日』1984年=昭和59年7月3日付）▼

「往年の名車がズラリ オールドカー富士登山」〔クラシックカー〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月4日付「カメラの目」）

「登山者の健康を守る 富士宮保健所 山室の衛生監視」〔山室衛生〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月5日付）

「館をとりでに転用か 大宮小敷地の遺跡発掘調査 戦闘の遺物発見できず」〔大宮城址遺跡〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月5日付）▼

「大沢扇状地を視察 参院建設委員会の一行」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月6日付）

「富士山郵便局きょうオープン 記念台紙も発行」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月10日付）

「雪が少ない山頂“雲海電話”で」モシモシ 奥宮に聞く」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月11日付）

「富士山頂に挑戦 一中、上野中の一年生」〔第一中学〕〔上野中学〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月11日付）

「植栽から間伐へ 様変わりする森林業務 悩みは人手不足」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月12日付）

「半年ぶり遺体収容 富士山頂火口の遭難は自殺」〔江幡明〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月14日付）▼

「若林静大教授が記念講演 郷土史同好会設立総会」〔富士宮市郷土史同好会〕〔若林淳之〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月14日付）

「登山者の健康を守る 富士山衛生センター 21日から8合目に開設」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月15日付）

「音止め滝を修復 災害復旧事業 浸蝕防止と護岸保全 崩落から10カ月、近く着工」〔音止の滝〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月19日付）

「SO<sub>2</sub>も環境基準達成 58年度大気汚染測定結果 O<sub>x</sub>は0・5%不適合」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月20日付）

「岳排、30日から補修 一年に一回の“骨休め”」〔岳南排水路〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月20日付）

「市内の二青年団体が清掃登山」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月21日付）

「富士山で呼吸機能実験 富士中央病院 気圧変動の影響調べる」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月21日付）

「近江八幡からお客さん 富士と琵琶湖を結ぶ会来宮」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月25日付）

「一日観光案内開く 富士山新五合目で アンケートも実施」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月26日付）

「下山途中で転倒大けが 富士山」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月27日付）▼

「お山は晴天、富士山くっきり」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月27日付）

「富士山御神火まつり」〔見開き2ページ広告〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年7月29日付）

「バスガール、車にはさまれ即死 富士山新五合目で」(『岳南朝日』1984年=昭和59年7月29日付)

「登山客にアンケート 新五合目で観光相談所開設」〔一日観光案内〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月2日付)

「富士大沢と正面对決 建設省富士砂防事務所 浸食防止の試験工事 へり出動」(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月5日付)

「熱気ムンムン御神火 夏まつりに二十五万人」(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月7日付「カメラの目」)

「新幹線富士駅建設費 財源計画で負担求める 富士宮は5億円余か 寄付金は30億見込む」〔新富士駅〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月8日付)

「山麓殖産の原点築く 駿河和紙を世に出す 池谷本家 連綿と12代を 三極生産の『別家』親族で連携プレー」〔ミツマタ〕(『岳南朝日』1983年=昭和58年8月12日付「家門と郷土」) ▼

「夏山富士の後始末 三登山口で19日一斉清掃」〔富士山をいつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月16日付)

「ルート設定など検討 富士南麓道路建設 七市町の担当者会議」〔国道469号〕〔富士山南麓道路建設促進期成同盟会〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月18日付)

「賑わう新五合目 下界の猛暑を脱出」(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月19日付「グラフニュース」)

「万野風穴を立入禁止 修復は難航か 内部は落石の危険」〔大日穴〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月21日付)

「“ゴミの山”一掃 夏山富士の後始末 空き缶など1・75トンの処理」〔富士山をいつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月21日付)

「過去最高に匹敵か 大にぎわいの登山ルート 富士山」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月21日付) ▼

「夏山富士の後片付け」〔富士山をいつまでも美しくする会〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月22日付「カメラの目」)

「富士山中腹に林道 開削進む富士裾野線 ヒノキ、スギを搬出」(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月24日付) ▼

「樹海の神秘と歴史—青木ヶ原自然歩道—森林浴と洞穴めぐり」(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月24日付)

「高山病やはりトップ 富士山衛生センター診療結果」(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月25日付)

「猛暑と好天、泣き笑い 開設以来の新記録=富士山 有料道路 花鳥山脈 朝霧高原グリーンパーク 田貫湖 目立つ安・近・短=白糸の滝」(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月26日付「ズームアップ」) ▼

「なごやかに交歓研修 富士宮・近江八幡 両市の婦人団体代表」(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月31日付)

「建設は国道で合意 富士南麓道路ルート構想」〔国道469号〕〔富士山南麓道路建設促進期成同盟会〕(『岳南朝日』1984年=昭和59年8月31日付)



「イチゴ苗の高冷地仮植 富士山の特産に 育苗数は一千万本 日本一の高低差が適地」  
（『岳南朝日』1984年＝昭和59年9月6日付）

「浅間大社で閉山奉告祭 観光協会の閉山式も」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年9月6日付）

「山頂だより大ウケ 富士山臨時郵便局 前年比38・6%の伸び」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年9月6日付）▼

「富士山、冬の装い 深まる秋」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年10月14日付「グラフィックニュース」）

「大沢土砂にワンサ 配分にてんてこ舞い 搬出予定量超す注文」〔大沢崩れ〕〔扇状地堆積土砂等処理協議会〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年9月14日付）

「今夏の高齢者富士登山番付 最高は99歳の五十嵐さん（福島） 地元では矢辺さん 70歳以上が899人も」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年9月21日付）▼

「富士根畑総70%消化 地域活性化に早くも効果」〔県営富士根畑総土地改良事業〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年9月28日付）

「毒きのこにご注意 富士山で見分け方を講習 主婦を対象に標本づくりも」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年10月6日付）

「宝永火口、御殿場へ 一泊二日でスポーツ登山」〔県スポーツ祭登山大会〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年10月10日付）

「きのこ判別法研修会 食用と有毒が混生 富士山で25種類採取」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年10月12日付）

「新幹線の富士駅設置内定 ゴーサイン待つだけ」〔新富士駅〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年10月17日付）

「南麓道路実現めざす 23日に期成同盟会を設立」〔国道469号〕〔富士山南麓道路建設促進期成同盟会〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年10月16日付）

「新幹線富士駅設置 事実上、本決まり 国鉄、具体的条件を提示 二面四線、62年度に完成」〔新富士駅〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年10月19日付）

「紅葉に染まる富士山麓 富士山二合目今が盛り」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年10月19日付）

「富士南麓道路へ結束 山静7市町が期成同盟会発足」〔国道469号〕〔富士山南麓道路建設促進期成同盟会〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年10月24日付）

「国鉄に受諾回答 新幹線富士駅で渡辺市長」〔新富士駅〕〔渡辺彦太郎〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年10月24日付）

「新幹線をどう生かす 身延線沿線市町の課題 交通体系の整備がカギ」〔新富士駅〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年10月28日付）

「足早に冬仕度 紅葉から雪へ富士山」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年11月8日付）

「離陸直後に墜落死 ハンググライダーの会社員」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年11月10日付）

「音止の滝修復 天然の割石積み 2年がかりで護岸補強」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年11月11日付）

「富士 新幹線駅設置で大集会」〔新富士駅〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年11月14日付）

「一合目付近に『山の村』高校生宿泊訓練施設 建設候補地決る 県教委 まず用地と水源を確保」〔富士山麓山の村〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年11月21日付）

「新五合目ルートに積雪」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年11月21日付）

「秀麗冬富士くっきり 山頂で35センチ積雪 新五合下まですっぽり」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年11月22日付）

「峡南・五湖 林道に不燃物の山 ごみ不法投棄、昨年の倍」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年11月29日付「広域圏情報」）

「冬のレジャー2大施設情報 富士急ハイランド 日本ランドHOWスキー場」〔イエティ〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年11月29日付）

「倒木事故の和解成立 重傷の観光客に最高4800万円 白糸の滝」〔落木事故（『岳南朝日』1984年＝昭和59年11月30日付） ←「白糸の滝で大木落下」（昭和58年5月14日付）参照

「富士五山を訪ねて 村松撰」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年12月2日付）

「市民墓地を半分売却 創価学会への債務解消」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年12月4日付）▼

「極寒に耐えて気象観測 富士山測候所」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年12月6日付）▼

「“山麓の緑を守って”森林組合が助成を陳情」〔富士森林組合〕〔間伐枝打ち〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年12月7日付）

「施設の老朽化目立つ 排煙脱硫装置 市が工場パトロール 二社に文書で改善勧告」〔大気汚染〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年12月16日付）

「地区別世帯数と人口 依然、富士根で増加 上井出地区は減少」（『岳南朝日』1984年＝昭和59年12月19日付）

「富士宮市の否定文化財を調査 富士宮市教委 候補に大室古墳など18件 来年3月末までに結論」

「山宮御神幸道の首標 埋もれた元禄の碑再建 春田さん」〔浅間大社〕〔春田市郎〕（『岳南朝日』1984年＝昭和59年12月22日付）▼→「御神道を行く1」（『岳南朝日』1990年＝平成2年7月12日付「ふるさと再発見」）で言及

## ■1985年＝昭和60年

「悠久の歴史を刻んで…… '85富士の新春 撮影 坂本猛」〔写真〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年1月1日付）

「工業新時代の幕開け 山宮工場団地の建設」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年1月1日付）

「富士山麓に候補地絞る 高校生集団宿泊訓練施設 年度内に用地折衝」〔富士山麓山の村〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年1月1日付）

「雪と氷の世界が魅了 正月のプレイスポット情報 日本ランド 富士急ハイランド グリーンパーク」〔イエティー〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月1日付）

「謹賀新年 1985年元旦 日蓮正宗創価学会」〔広告〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月1日付）

「富士砂防は360度対策」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月4日付）

「穏やか正月三が日ー初もうでにどっとー浅間大社に24万人 初日の出の富士山も賑う」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月5日付）

「農家の国勢調査 2月1日全国一斉 富士宮の対象約四千戸」（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月12日付）

「公害の現状一と目 58年版白書を発刊」（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月12日付）

「音止の滝復旧急ピッチ 3月中旬完了へ 崩壊防止と護岸整備」（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月13日付）→[昭和58年9月6日付、10月12日付、昭和60年5月30日付に関連記事あり](#)

「水ヶ塚遊園地で牛の雪像づくり」（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月13日付）

「仲良く雪の親子牛 富士山水ヶ塚公園に完成」（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月15日付）

「市内にツツガムシ病 保健所で感染経路究明」〔栗倉〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月19日付）

「鳥居 宮原勝三さん」〔大鳥居〕〔写真〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月19日付「読者のフォトギャラリー」）

「氷上立入り当分お預け 精進、山中湖で対策協」（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月19日付「広域圏情報」）

「山宮工場団地にゴーサイン 件の開発余暇下りる」〔富士宮市土地開発公社〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月20日付）

「新春の大空に舞う 朝霧で子ども劇場たこあげ大会」（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月22日付）

「初めての富士登山 根南小六年 桜井済徳（つづく）」（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月23日付「第25回岳南朝日作文コンクール入賞作品」）

「初めての富士登山 根南小六年 桜井済徳（つづく）」（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月24日付「第25回岳南朝日作文コンクール入賞作品」）

「初めての富士登山 根南小六年 桜井済徳（おわり）」（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月26日付「第25回岳南朝日作文コンクール入賞作品」）

「1945年1月27日富士宮上空 B29撃墜の“悪夢”から40年 一瞬、恐怖のどん底 機体バラバラ、米兵惨死」〔堀水しず江〕〔田中正夫〕〔西原秀雄〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年1月27日付「話題お・む・に・ば・す」）→[関連記事あり、「残されていたB29撃墜現場の写真」（1985年=昭和60年9月1日付）、「身近で味わった恐怖」（1985年=昭和60年8月11日付）、「B29撃墜 あの日から50年」（199](#)

5年=平成7年1月27日付)、「B29『ウイアー・ウルフ号』墜落から75年」(2020年=令和2年1月26日付)、「B29撃墜から75年 乙黒盛雄」(2020年=令和2年2月6日付)

「大泉寺の遠藤是文上人 百日の大荒行あす満願 12日にめでたく帰山へ」(『岳南朝日』1985年=昭和60年2月9日付)

「排水基準値以下に 田子の浦水質保全 昨年の実績まとめる」〔ヘドロ汚染〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年2月9日付)

「『身延線延長難しい』新幹線新駅との接続 国鉄、同盟会へ回答」〔新静岡駅〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年2月23日付)

「富士宮市指定新文化財①山宮浅間神社 山岳信仰の原点」(『岳南朝日』1985年=昭和60年3月5日付) →掲載写真間違い、昭和60年3月6日付に訂正記事あり

「富士宮市指定新文化財②中野梅市建立の句碑 郷土の女流俳人」(『岳南朝日』1985年=昭和60年3月6日付) ←山宮浅間神社の訂正記事

「富士宮市指定新文化財③猪之頭の『イモウエツツジ』樹齢四百年の巨木」〔高野幸孝〕〔ミツバツツジ〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年3月7日付)

「富士宮市指定新文化財④妙蓮寺の表門および客殿 最大級の木造建築」(『岳南朝日』1985年=昭和60年3月8日付)

「工場団地造成が起工 進出企業などに受け皿」〔山宮工場団地〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年3月9日付)

「“植物過去帳”を作成 継続して潜在植生調査」〔市域現存植生調査〕〔市域自然調査〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年3月9日付)

「富士宮市指定新文化財⑤大室古墳(小泉三ツ室) 後期古墳の特徴」(『岳南朝日』1985年=昭和60年3月10日付)

「身延線乗り入れ要望 新幹線富士駅で対応 市長答弁」〔新富士駅〕〔吉田廉〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年3月12日付)

「富士宮市指定新文化財⑥平等寺三門 激動の歴史秘めて」〔富知六所浅間神社〕〔東泉院〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年3月12日付) ←本文中「富知六所浅間神社」とあるのはすべて「東泉院」の間違い

「富士宮市指定新文化財⑦袖日記 庶民生活の哀歓」〔河野佐登肆〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年3月14日付)

「ツツガムシ退治へ 病原体の有無を究明 富士市境などで野ねずみ捕獲」(『岳南朝日』1985年=昭和60年3月14日付)

「潤井川砂防、完了時点へ 峡谷部には落差工も」(『岳南朝日』1985年=昭和60年3月14日付)

「世に出る“隠れた名瀑” 遊歩道や進入路建設 陣馬の滝の周辺整備進む」(『岳南朝日』1985年=昭和60年3月16日付)

「10匹の野ねずみを捕獲 ツツガムシ病調査」(『岳南朝日』1985年=昭和60年3月16日付)

「見直される用水堀 旧市内にも改修の手」(『岳南朝日』1985年=昭和60年3月19日付)

「春風に大観音像 大悟庵で恒例のご開帳」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年3月19日付）

「富士山スカイライン 除雪が急ピッチ 4月上旬開通を期し」〔冬期封鎖〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年3月24日付「グラフニュース」）

「身延線を救おうー沿線住民が存続作戦ー五月に下部で地域集会 イベント組み臨時列車運行も」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年3月24日付）

「念願の“南北交流”へ 富士宮駅 南口跨線橋工事に着手」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年3月24日付）

「朝霧で学生選手権大会 ハンググライダーが乱舞」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年3月24日付）

「大空に舞う50選手 ハンググライダー学生選手権大会」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年3月27日付）

「根北公民館が完成 コミュニティ活動の拠点に」〔富士根北公民館〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年3月29日付）

「さくらに寄せて（上）県さくら保護士」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年3月29日付）

「大阪で観光展 富士宮の魅力をPR」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年3月29日付）

「“お尋ね者”はいた ツツガムシ 捕獲の野ねずみから幼虫」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年3月30日付）

「新幹線対策を強調 富士宮商工会議所 新年度事業決まる」〔新富士駅〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年3月30日付）

「さくらに寄せて（下）県さくら保護士」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年3月30日付）

「週末開通めざす 富士山スカイライン 新五合目登山区間」〔冬期封鎖〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年4月3日付）

「曲松 米津朋納さん」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年4月4日付「読者のフォトギャラリー」）

「大石寺の総坊に散弾銃？」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年4月7日付）→[昭和60年6月5日付「後藤組員逮捕」、6月27日付「起訴」、8月24日付「暴力団員に判決」と続報](#)

「開通は十日す過ぎに延期 新五合目ルート」〔スカイライン〕〔冬期封鎖〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年4月7日付）

「八景台で新遺跡を発見ー縄文時代早期中葉ーやじりの生産工房跡か 市教委が発掘調査完成品や破片が多数」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年4月10日付）

「公害苦情が大幅減 59年度の処理状況 内容に質的变化も」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年4月12日付）

「富士山スカイライン お待たせ登山ルート開設 一番乗りに記念品 積雪の新五合目楽しむ」〔冬期封鎖〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年4月12日付）

「冬の名残り濃く 富士山に行楽シーズン」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年4月

14日付「グラフニュース」)

「間伐見本林を設定 健全で良質な森林を」〔富士地区林業振興対策協議会〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年4月14日付「グラフニュース」)

「富士宮駅 国鉄離れ止まらず 59年度 前年比3・8%も減少 新幹線利用は大幅増」〔身延線〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年4月28日付)

「光化学スモッグ監視強化 情報、緊急対策を確立」(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月4日付)

「3億円を寄付 大石寺と創価学会 新幹線富士駅募金」〔新富士駅〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月4日付)

「好天にどっと人出」〔スカイライン〕〔新五合目〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月5日付「グラフ特集」)

「野鳥保護の栗倉分校 全国野鳥愛護のつどいで林野庁長官が感謝状」〔富士根北小栗倉分校〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月9日付)

「富士ヶ嶺に滑走路―普及する超軽量動力機―飛行条件は最適 牧草地を整備 会員に医師やパイロット」(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月9日付)

「身延線を存続しよう みんなのつどい 沿線首長らのシンポも」(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月9日付)

「朝霧で自然探索会 食べられる野草や料理学ぶ」(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月9日付)

「田植えに水の援軍 田貫湖放水」(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月9日付)

「身延線存続で氣勢 みんなのつどい盛り上がる 下部町 シンポで具体策発表」(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月14日付)

「国際森林年も記念 富士山で植樹祭 すくすく育てとヒノキ500本」〔静岡営林署〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月17日付)

「地域活性化に期待大 富士根畑総 本年度で目標の80%へ」〔富士根畑総土地改良事業〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月15日付)

「池田大作『心に残る人びと』聖教文庫」〔広告〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月15日付、62年4月19日付)

「三方面へキャラバン 富士登山客誘致図る」(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月17日付)

「グリーンキャンプ場が開村 第一陣に長泉中の一行を迎え」〔ピカ表富士〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月19日付)

「インタビュー 発足一年を迎えた富士宮自然観察会の会長 仁藤浪さん(48) ごく自然に生きるため 開発の名の破壊から守る」(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月22日付)

「富士南麓道路の建設促進 期成同盟会が総会」〔国道469号〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月23日付)

「身延線“存続への道”(下) 切り札、新幹線乗り入れ 具体的な利用促進策を」(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月26日付「ズームアップ」)

「オーミケンシが『工場』から『事業部』に 先端産業へ方向転換 紡績と二本立てで経

営」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年5月28日付）

「朝霧高原の自然ひと目 県がガイドブック発刊」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年5月28日付）

「富士山のブナ林を観察しよう」〔ブナ原生林保護基金〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年5月28日付）

「美しい流れふたたび 音止の滝 崩落か所の工事終了」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年5月30日付）→昭和58年9月6日付、10月12日付、昭和60年1月30日付に関連記事あり、7月7日付ではさらに流出

「59年度の重油使用量 過去最高の私費記録 硫黄酸化物は減少 大気クリーン達成」〔大気汚染〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年6月1日付）

「富士宮駅南口こ線橋 きょうオープン 北口ホームから直行へ」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年6月1日付）

「大石寺発砲事件で後藤組員逮捕」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年6月5日付）

「富士こけも酒が誕生 全国初のリキュール」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年6月5日付）

「夏山パトロールも 山岳遭対協日歩が実施」〔静岡県山岳遭難対策協議会〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年6月5日付）

「富士山に初夏の雪降る」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年6月9日付）

「長兵衛島開発に反対 潤井川期成同盟が市長に陳情」〔潤井川治水期成同盟会〕〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年6月11日付）

「自然林の尊さを肌に 富士山のブナ観察会に80人」〔富士宮自然観察会〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年6月11日付）

「産業廃棄物も伸び 製紙など活性化裏書き」〔産廃〕〔スラッジ〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年6月12日付）

「富士山一合目で探鳥会」〔日本野鳥の会〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年6月12日付）

「今年こそ富士山へ！ 新宿駅で誘客キャンペーン」〔富士地区観光連絡協議会〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年6月12日付）

「長瀬調整池が完成 西ろく畜産基地“越境鉄砲射水”を防ぐ 貯水量、田貫湖の半分」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年6月14日付）

「信仰の道『身延往還』昔の隆盛いまなく」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年6月14日付「レジャー情報」）

「表富士グリーンキャンプ場盛況！まだピークすぎの“空き”あり」〔ピカ表富士〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年6月14日付「レジャー情報」）

「田貫湖は土曜以外“余裕”」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年6月14日付「レジャー情報」）

「ビンズイのさえずりも 野鳥の会 富士山東白塚で探鳥会」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年6月18日付）

「ルポ 富士山の緑はいま（上）住家追われる鳥獣 伐採される実のなる木」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年5月19日付）

「人員は減り収入は増 県下輸送機関 59年度の創価学会輸送」(『岳南朝日』1985年=昭和60年5月19日付)

「ルポ 富士山の緑はいま(下)全体の7割が人工林 ブナ林文化の伝統に危機」(『岳南朝日』1985年=昭和60年6月20日付)

「今年こそ富士山へ!受け入れ体制は万全!開山まで10日・富士登山ガイド」〔山頂電話〕〔山頂郵便局〕〔物価〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年6月21日付「レジャー情報」)▼

「気をつけたい登山ルール」(『岳南朝日』1985年=昭和60年6月21日付)

「登山バス時刻表(富士宮口)」(『岳南朝日』1985年=昭和60年6月21日付)

「走れ、懐しの木炭自動車 富士山開きに“雄姿”披露 三人の仲間が手づくりで完成」〔クラシックカー〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年6月25日付)

「こんどは賛成陳情 長兵衛島開発の推進団体」〔国際健康コミュニティセンターを推進する会〕〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年6月26日付)

「60台が勢ぞろい 山開きオールドカー登山」〔クラシックカー〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年6月27日付)

「大石寺の発砲事件で起訴」(『岳南朝日』1985年=昭和60年6月27日付)

「早春のたたずまい 山開き間近の富士山頂」〔奥宮〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年6月28日付)

「頂上付近に残雪 市観光課など登山道調査」(『岳南朝日』1985年=昭和60年6月28日付)

「あすから7月 一日、富士山開き 下旬から楽しい夏休み」(『岳南朝日』1985年=昭和60年6月30日付)

「緑と環境の保全を 野鳥の会など市に要望書」〔富士山の自然環境を守る会〕〔日本野鳥の会〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年6月30日付)

「登山客の健康を守り…富士山衛生センター」(『岳南朝日』1985年=昭和60年6月30日付「グラフニュース」)

「富士氏の居館か 幻の大宮場遺跡」(『岳南朝日』1985年=昭和60年6月30日付「グラフニュース」)

「台風6号、芝川町にツメあと 稲子川流域が寸断 身延線 山梨県下でズタズタ」〔豪雨〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年7月2日付)

「台風“一夏”富士山開く 63人が一番乗り オールドカーも登山」〔クラシックカー〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年7月2日付)

「往年の名車新5合目へ…オールドカー富士登山 木炭車も参加」〔クラシックカー〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年7月3日付「カメラの目」)

「ここに戦国の城趾が…富士川町の北松野城 小領主荻氏が支配」(『岳南朝日』1985年=昭和60年7月5日付「さんぽ道」)

「富士登山メモ②出発前に天気調べを」(『岳南朝日』1985年=昭和60年7月5日付)

「復旧箇所流出 増水の音止の滝」(『岳南朝日』1985年=昭和60年7月7日付「グラフニュース」)→昭和58年9月6日付、10月12日付、昭和60年1月30日付、5月30日付に関連記事あり



「ゴミ持ち帰りをPR 富士宮、中央LCが横断幕設置」〔ライオンズクラブ〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月7日付「グラフニュース」）

「潤井川防災に課題 工業団地から健康センターへ またしても長兵衛島」〔大沢崩れ〕〔砂防法〕〔国際健康コミュニティセンターを推進する会〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月7日付「ズームアップ」）

「新五合目にも郵便局開設 夏山シーズンで20日から」〔富士宮郵便局新五合目臨時出張所〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月9日付）

「デザイン37年ぶり改正 山頂郵便局の日付スタンプ」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月10日付）

「富士山 梅雨明けで登山シーズン本番 60・夏」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月11日付）

「意見広告 大沢扇状地の大規模開発に反対します。潤井川・芝川治水期成同盟」〔長兵衛島〕〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月11日付）

「防災か過疎化対策か 相反する二つの住民運動 芝川流域にも反対の火の手 長兵衛島不鮮明な土地所有」〔潤井川・芝川治水期成同盟〕〔国際健康コミュニティセンターを推進する会〕〔長兵衛島〕〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月14日付）



「お知らせ お塔婆…是非店売りはお止め下さい 各宗実施寺院」〔広告〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月14日付）

「古希記念に富士登山 九州と静岡の戦友会が交歓」〔陸軍久留米四八連隊〕〔高齢者登山〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月12日付）→7月26日付「[富士登山心のふれあい](#)」に続報

「下旬に山室監視 保健所や消防組合本部」〔山室衛生〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月14日付）

「民商青年部が富士登山 市民の参加者を募る」〔富士宮民主商工会〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月16日付）

「『先照寺と富士宮』を講演 郷土史同好会例会」〔富士宮市郷土史同好会〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月16日付）

「計画に『うさん臭さ』佐野助役 長兵衛島開発に疑念示す 記者会見」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月19日付）

「全員富士山頂に 頑張った上野中1年生」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月21日付）

「五合目で喫煙クリーン運動 たばこ屋さんら」〔富士宮たばこ小売組合婦人部〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月23日付）

「富士山ビデオ放映 振興センターが新五合目で」〔富士振興センター〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月24日付）

「滝しぶきに涼感 別天地の風情楽しみ」〔白糸の滝〕〔滝上からみた写真〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月25日付）

「万野原再開発に苦心 笹原一族 産業功労者を輩出 歴史を物語る『搗屋』」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年7月25日付「家門と郷土」）▼

「南麓道路で陳情 三日がかりで東奔西走」〔富士南麓道路建設期成同盟会〕〔国道469号〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年7月26日付）

「松田県衛生部長が視察 富士山衛生監視」〔山室衛生〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年7月26日付）

「きょう富士山衛生センター開設」（『岳南朝日』1985年=昭和60年7月26日付）

「私の発言 富士登山心のふれあい 勝又作治郎」〔高齢者登山〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年7月26日付） ←「古希記念に富士登山」（7月12日付）に記事あり

「富士と琵琶湖を結ぶ会 友好深めきょう登山」〔近江八幡市〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年7月26日付）

「表富士宮口登山組合 富士山と共に生きる 表口再生へ向け結束」〔中村嘉四郎〕〔「御休憩券」（登山切符）〕〔村山古道〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年7月26日付

「レポート同業組合(16)」) ▼▼

「富士登山の移り変わり『信仰の山』から『観光の山』へ」〔富士山中休泊所組合〕〔荷背負い〕〔強力〕〔宮強力〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年7月26日付「レポート同業組合(16)」) ▼▼

「履歴メモ」〔富士山中休泊所組合〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年7月26日付「レポート同業組合(16)」) ▼▼

「新五合目でクリーン運動 市内のたばこ屋さんが呼掛け」〔富士宮たばこ小売組合婦人部〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年7月28日付）

「大沢扇状地を視察 市民有志が砂防で勉強会」〔小長谷文雄〕〔大沢崩れ〕〔長兵衛島〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年7月30日付）

「湖上彩る華麗な花火 富士五湖夏祭り特集 8月1～5日」（『岳南朝日』1985年=昭和60年8月1日付「レジャー情報」）

「御神火、花火など多彩 きょうから富士宮夏まつり 商店街で“歩行者天国”も」（『岳南朝日』1985年=昭和60年8月2日付）

「湧玉池で若者がみそぎ 夏まつりの開幕告げる」（『岳南朝日』1985年=昭和60年8月3日付）

「人出は延べ29万人 夏まつり、市民的規模に」（『岳南朝日』1985年=昭和60年8月6日付）

「朝霧に友情と連帯の輪 きょう富士山クリーン作戦」〔清掃登山〕〔富士宮市国際青年記念大会〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年8月6日付）

「随想 富士山と破壊 鈴木一枝」（『岳南朝日』1985年=昭和60年8月6日付）

「25団体、600人が参加 富士山の一斉清掃運動」〔清掃登山〕〔富士山をいつまでも美しくする会〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年8月7日付）

「緑の少年団が交流集会 330人が富士山一合目で」〔グリーンキャンプ場〕〔ふれあいの森〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年8月7日付）

「開発反対で再度陳情 潤井川、芝川の沿線住民」〔潤井川・芝川治水期成同盟〕〔長兵衛島〕〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年8月8日付）

「新五合目でアンケート 入込客動向調査」〔入り込み客〕（『岳南朝日』1985年=昭和60年8月9日付）

「身近で味わった恐怖 富士宮市上空のB29 撃墜」(『岳南朝日』1985年=昭和60年8月11日付「あれから40年 特集わたしの戦争体験記(9)」)

「富士山の自然と緑を守る市民団体が懇談会」〔潤井川・芝川治水期成同盟〕〔長兵衛島開発反対市民の会〕〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年8月14日付)

「国際コミ構想実現で陳情 推進する会が副知事に」〔国際健康コミュニティセンターを推進する会〕〔長兵衛島〕〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年8月14日付)

「『富士宮の野草』を刊行した富士宮理科同好会会長の日原章氏 自然保護を視点到」(『岳南朝日』1985年=昭和60年8月16日付「インタビュー」)

「テクテク富士登山 伊東市の小田卯一さん(70)18時間かかって登頂 浅間大社から歩き通す」〔麓から登山〕〔高齢者登山〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年8月20日付)

「富士宮の鈴木さんが作曲 太鼓曲『富士山』表富士郷土芸能として永く継承」〔鈴木孝長〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年8月22日付)

「大沢砂防、線から面へ 富士山360度対策を推進 本年度は21億円投入」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年8月23日付)

「高山病患者が6割 衛生センター診療実績 富士登山に“甘さ”」(『岳南朝日』1985年=昭和60年8月24日付)

「あすクリーン作戦 夏山富士の後片付け」〔富士山をいつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年8月24日付)

「随想 宝永火口底 浅羽緑子」(『岳南朝日』1985年=昭和60年8月24日付)

「郷土の歴史など学習 根北高齢者学級 盛況のスタート切る」〔村山修験〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年8月24日付)

「大石寺狙撃の暴力団員に判決」〔鈴木省治〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年8月24日付) ←「大石寺総坊に散弾銃？」(4月4日付) 第1報

「今夏の汚れを一掃 富士山美化 2・1トンのゴミ集める」〔富士山をいつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年8月27日付)

「今期は『自己処理』に 大もての大沢扇状地土砂」〔大沢崩れ〕〔扇状地堆積土砂等処理協議会〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年8月28日付)

「富士登山アンケート 観光兼ねての熟年組に人気 環境整備はまあまあ 山小屋の施設に厳しい注文も」(『岳南朝日』1985年=昭和60年8月30日付) ▼

「残されていたB29撃墜現場の写真 40年ぶりに発見 歯科医の市川さんが撮影 惨状も生々しく 市史に貴重な資料」(『岳南朝日』1985年=昭和60年9月1日付)

「差出し16・8%増(前年比) 富士山頂郵便局の決算」(『岳南朝日』1985年=昭和60年9月4日付)

「入込客は3,1%後退 今夏市内観光地の総決算 富士登山は好調 好天に恵まれて5,5%増 科学万博の影響大 白糸滝、好天も裏目に」〔入り込み客〕〔登山者数〕〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年9月6日付)

「長兵衛島開発反対市民の会を結成 10月に“大沢シンポ”」〔大沢崩れシンポジウム〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年9月11日付)

「富士大宮家護持会が墓前祭」〔富士亦八郎〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年9月13日付）

「恒例お中道めぐり 北嶺健児の意気示す」〔富士宮北高〕〔お中道めぐり〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年9月22日付）

「面影残す“中山千軒”毛無の武田金山跡を訪ねて 赤池敏和」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年9月26日付「歴史紀行」）

「大沢扇状地など視察 学者や住民運動関係者」〔長兵衛島開発反対市民の会〕〔大沢崩れシンポジウム〕〔西岡昭夫〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年10月1日付）

「毒キノコにご注意 7日、富士山で鑑別会」〔富士宮保険所〕〔富士宮食品衛生協会〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年10月5日付）

「ツツガムシ病にメス 市内で野ねずみ捕獲調査」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年10月5日付）

「富士登山に老人パワー 70歳以上の登拝者 今夏は922人で新記録 最高は百歳の五十嵐さん（福島）地元は矢部繁吉さん 全国総合でも18位にランク」〔高齢者登山〕〔五十嵐貞一〕〔三原種憲〕〔末森豊治〕〔矢島ミネ〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年10月6日付）▼

「史談1 徳川家康宿中取立の朱印状と元上井出 北邨隠士」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年10月6日付）

「町田都立大教授ら講師に 大沢崩れシンポ開く 住民の災害体験報告も」〔長兵衛島開発反対市民の会〕〔大沢崩れシンポジウム〕〔町田洋〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年10月10日付）

「安住した『青銅掛仏』拾得者が浅間大社へ寄贈 500年前、山頂へ奉納 山岳信仰の貴重な資料」〔今泉安雄〕〔遠藤秀男〕〔廃仏毀釈〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年10月13日付）

「今夏、吉田口でも一個発見」〔不動明王掛仏？〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年10月13日付）

「扇状地は富士宮の生命線 学者ら開発計画に警告 大沢崩れシンポで強調」〔長兵衛島開発反対市民の会〕〔大沢崩れシンポジウム〕〔町田洋〕〔西岡昭夫〕〔藤村郁雄〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年10月15日付）

「山麓秋深む 富士山初冠雪」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年10月16日付）

「潤井川水系の水質悪化 59年度測定結果 不適合（BOD）三カ所増える 自浄不能の横巻橋付近」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年10月17日付）

「大沢崩れシンポから 扇状地は警告する1 第1部崩壊する富士山 富士山は生きている エネルギーをためる若い火山」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年10月18日付）

「紅葉前線、富士山五合目に 20日すぎには周遊道路も錦模様」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年10月18日付「レジャー情報」）

「大沢崩れシンポから 扇状地は警告する2 第1部崩壊する富士山 大沢崩れの実態地響き立てて崩壊」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年10月19日付）

「大沢崩れシンポから 扇状地は警告する3 第1部崩壊する富士山 崩壊のメカニズム 宿命的な自然浸食」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年10月20日付）

「大沢崩れシンポから 扇状地は警告する4 第1部崩壊する富士山 流れ出る土石流大出水時には一気に」(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月22日付)

「コンベンション構想探る 市、磯村氏らとシンポ開く」〔磯村英一〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月23日付)

「大沢崩れシンポから 扇状地は警告する5 第2部潤井川災害史 くり返す水災害 大雨のたびに氾濫」(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月23日付)

「栗倉分校校舎増改築など落札」〔富士根北小〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月23日付)

「大沢崩れシンポから 扇状地は警告する6 第2部潤井川災害史 富士の雪代 5月の雪どけで襲来」(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月24日付)

「大規模ブロイラー養鶏場を計画 業者が開発申請 富士山一合目下の山林『自然破壊の恐れ』地元住民が意見書提出」〔富士宮畜産〕〔若尾信幸〕〔山宮2区〕〔松村公通〕〔富士山ポーター〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月25日付)

「大沢崩れシンポから 扇状地は警告する7 第2部潤井川災害史 明治から昭和へ 昭和に入り25回の水害 潤井川災害の主な記録」(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月25日付)

「静鉄局管内で最後 手動式遮断機来年2月姿消す 身延線ペニー踏切」〔富士宮駅〕〔身延線〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月26日付)

「大沢崩れシンポから 扇状地は警告する8 第2部潤井川災害史 戦後最大の土石流 荒れ狂った潤井川」(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月26日付)

「『一字一石経』が出土 二又の旧登山道沿い 市内で初の発見 宝永6年に埋める 富士山信仰研究に貴重な資料」〔道者道〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月27日付)

「大沢崩れシンポから 扇状地は警告する9 第2部潤井川災害史 台風20号のツメ跡 整備されたが残る不安」(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月27日付)

「猪之頭のミツバツツジ 県内最大の巨木誇る 県文化財に指定」(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月27日付)

「大沢崩れシンポから 扇状地は警告する10 第3部氾濫源の役割 富士砂防の歩み 17年で250億円の巨費投入」(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月29日付)

「75%にツツガムシ 捕えた野ねずみに付着」〔ツツガムシ病〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月29日付)

「大沢崩れシンポから 扇状地は警告する11 第3部氾濫源の役割 扇状地対策の現状 計算上は100万トンの堆砂能力 大沢扇状地砂防計画平面図」(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月30日付)

「大沢崩れシンポから 扇状地は警告する12 第3部氾濫源の役割 砂防計画への疑問 狭められた扇状地」(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月31日付)

「全国の“富士”大集合 来月9日 富士吉田 本家で祝賀行事」〔ふるさと富士〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年10月31日付)

「近く結論、市長に答申 市土地利用対策委員会 長兵衛島開発問題で」(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月1日付)

「大沢崩れシンポから 扇状地は警告する 13 第3部氾濫源の役割 もう一つの大沢対策 東海大地震が起きたら…」(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月1日付)

「大沢崩れシンポから 扇状地は警告する 14 第3部氾濫源の役割 自然の受け皿 80%の土砂が下流へ」(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月2日付)

「きょうシンポジウム フジヤマ・コンベンション」〔磯村英一〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月2日付)

「大沢崩れシンポから 扇状地は警告する 15 第3部氾濫源の役割 防災か開発か 大沢は富士宮の生命線 扇状地の拡大、国有化を(おわり)」(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月2日付)

「山麓に国際会議都市を コンベンション・シンポに800人」(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月3日付)

「紅葉まっ盛り 秋冬混在の富士山」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月7日付)

「白鳥山崩壊で研修会 芝川 防災関係機関が参加 田中大月短大教授を講師に」〔田中収〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月7日付)

「日本ランド スケート場、17日にオープン “氷上探検車”も人気」〔イエティ〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月7日付「レジャー情報」)

「ソフト面の対応を 白鳥山大崩壊対策 田中教授が警鐘」〔田中収〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月8日付)

「来シーズンへ備えて新五合目にベンチ設置 富士山」(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月8日付)

「白鳥山 防災担当者が視察 地滑り地帯を確認」〔田中収〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月9日付)

「ハレー彗星を捕えよう 富士山二合目で観測 福島県の天文ファングループ」〔白河天体観測所〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月15日付)

「重要群落など示す 宮脇教授が現存植生報告」〔宮脇昭〕〔『富士宮市の植生—緑の実態調査と緑の保全・創造に対する植生学的研究—』富士宮市、1987〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月17日付) → [「注目される緑へのアプローチ」\(1986年=昭和61年2月20日付\)](#)、[「緑の復元創造に提言」\(8月26日付\)](#)に関連記事

「長兵衛島問題、一応決着 “開発認められない”市が起業者に回答」〔鉄建建設〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月19日付)

「富士のパノラマ眼下に空中散歩 毛無山系にハングラライダー」〔ハングラライダー〕(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月21日付)

「富士宮旅館・料理組合 浅間大社を観光の拠点に 行政と一体での活性化めざす」(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月21日付「レポート同業組合」) ▼

「履歴メモ」(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月21日付「レポート同業組合」)

▼

「旅館業界の移り変わり 登山・花柳界の隆盛から “通過地”へ」(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月21日付「レポート同業組合」) ▼

「“長兵衛島”問題での市長行政報告」(『岳南朝日』1985年=昭和60年11月29

日付)

「環境庁長官が来宮 富士山の保全で」〔石本茂〕〔環境省〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年11月29日付）

「ツツガ虫病を撲滅 市北部地区 3回目の野鼠捕獲調査」〔ツツガムシ病〕〔野ネズミ〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年12月3日付）

「白く南アルプスの峰々眼前 富士山5合目の近況」〔写真〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年12月5日付）

「稲葉元法相らが視察 大沢崩れの扇状地など」〔富士山とその霊水を考える会〕〔稲葉修〕〔福田仁志〕〔松蔭寺〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年12月6日付）

「富士森林組合 富士ヒノキの森を生き返らせよう」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年12月6日付「レポート同業組合」）▼

「履歴メモ」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年12月6日付「レポート同業組合」）

▼

「林業の移り変わり 拡大造林から“放置林”増加へ」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年12月6日付「レポート同業組合」）▼

「ツツガ虫病対策 野ねずみ12匹を捕獲 肉眼でダニ付着を確認」〔ツツガムシ病〕〔野ネズミ〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年12月10日付）

「意見広告 長兵衛島開発反対市民の会」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年12月10日付）▼

「富士山に霧氷も 今冬一番の冷え込み」〔スカイライン四合目〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年12月11日付）

「スキー・シーズン開幕 14日、日本ランドHOWスキー場オープン 22日、スケート場がオープン グリーンパーク」〔イエティ〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年12月13日付「レジャー情報」）

「白銀の世界、相次ぎオープン 富士山麓の冬季レジャーが本格化 日本ランドHOWゆうえんち」〔イエティ〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年12月20日付「レジャー情報」）

「天然雪が降れば25日にオープン 御殿場スキー場」〔太郎坊〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年12月20日付「レジャー情報」）

「初詣・初日の出バスを運転 富士急行 富士山、成田山など五地区へ」（『岳南朝日』1985年＝昭和60年12月20日付「レジャー情報」）

「市民の会 扇状地開発で反対陳情 木村副知事らに提出 市当局の意見尊重 山本知事が記者会見で言明」〔長兵衛島開発反対市民の会〕（『岳南朝日』1985年＝昭和60年12月21日付）

## ■ 1986年＝昭和61年

「生きている神やどる山”86 富士の新春 撮影・坂本猛」〔写真〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年1月1日付）

「足踏み中の駅南区画整理 ふくらむ開発課題 住民コンセンサスであと一步」（『岳南

朝日』1986年=昭和61年1月1日付)

「産業経済に新時代 山宮工場団地、今秋完成へ」(『岳南朝日』1986年=昭和61年1月1日付)

「正念場迎えた身延線 進む民営化への地ならし 切り札に新幹線接続 守る会 存続へ十万人書名」〔身延線を守る会〕〔新富士駅〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年1月8日付)

「捕獲の70%がプラス反応 ツツガ虫病の野ねずみ調査」〔ツツガムシ病〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年1月9日付)

「住民パワーで自然保護 猪之頭で組織づくり 乱獲される貴重な山野草 小田貫湿原保護も」〔猪之頭地域自然保護の会〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年1月10日付)

「3年がかりで市境を踏破 富士宮北高山岳部 足跡をまとめ冊子発行」〔工藤誠志〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年1月14日付) ←富士宮市立図書館で検索できるのは、『富士宮周辺 登山道現況案内 No.2 富士山～近くて良き山～』(伊藤芳文編、工藤誠志文責、静岡県立富士宮北高等学校山岳部発行、昭和61年)と『富士山とその南西面の山々 富士宮周辺のやまみち』(杉山雅紀編、工藤誠志文責、静岡県立富士宮北高等学校山岳部発行、昭和63年)の2冊で、ずばりこの記事にあてはまる冊子は見つからない。しかし後者の編集後記に工藤誠志は次のように書いている。《「富士宮の市境めぐり」「天子山塊」「富士山」「雪溪」(部報の名称)10・11・12・13号として手元に残っています。》

「大沢砂防工事ピッチ 見返沢流路工の完成も間近」(『岳南朝日』1986年=昭和61年1月21日付)

「渡邊本家 製紙業の原点築く 平安末期から山麓に“割拠”」〔ミツマタ〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年1月23日付「家門と郷土」) ▼

「県境根原で積雪 表富士スカイライン 一合目上でチェーン規制」〔冬期封鎖なし〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年1月23日付)

「渡邊本家 治水、産業振興に貢献 信頼厚い指導力と先見性」〔ミツマタ〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年1月26日付「家門と郷土」) ▼

「大量の不法投棄摘発 8法人、22人を書類送検 富士山麓と茨城県内に廃油1800キロ」〔産廃〕〔村山2区〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年1月28日付)

「富士山麓不法投棄の実態をみる 地権者と業者と暴力団絡み 村山地内に廃油700キロリットル 『請け』で問われる企業モラル 地下水汚染で地元不安」〔千貫松〕〔三井喜久夫〕〔石川和一〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年1月30日付「ズームアップ86」) ▼

「厳しい寒気の中で 音止の滝の復旧工事始まる」(『岳南朝日』1986年=昭和61年1月31日付)

「新幹線乗り入れを要請 山静両県知事と静鉄局へ 身延線を守る会」〔新富士駅〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年2月4日付)

「9日から雪まつり 表富士の水ヶ塚公園で」(『岳南朝日』1986年=昭和61年2月4日付)

「ワカサギ異変 メッカの精進湖で二年連続」(『岳南朝日』1986年=昭和61年2月7日付「レジャー情報」)



「水ヶ塚公園で雪まつり 9日～16日 雪像ドラえもんも登場！」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年2月7日付「レジャー情報」）

「東海一のダルマ市 毘沙門天大祭 15～17日の3日間開催」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年2月7日付「レジャー情報」）

「雪のネコ型ロボット ドラえもんが登場 水ヶ塚公園 家族連れが雪滑り」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年2月14日付）

「富士山麓に『山の村』63年オープンめざす 来年度から造成工事へ」〔富士山麓山の村〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年2月19日付）

「注目される緑へのアプローチ 植生調査近く最終報告 本物の緑の創造に指針」〔『富士宮市緑のマスタープラン』〕〔日本野鳥の会〕〔阿部英雄〕〔富士宮自然観察の会〕〔仁藤浪〕〔宮脇昭〕〔『富士宮市の植生－緑の実態調査と緑の保全・創造に対する植生学的研究－』富士宮市、1987〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年2月20日付「ズームアップ」）

「山宮工場団地 10月オープン目指す 企業25社の配置決る」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年2月22日付）

「身延線は東海旅客鉄道の所属に 国鉄の分割民営化」〔国鉄民営化〕〔JR東海〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年3月5日付）

「早くも最多記録にタイ 持ち込まれた公害苦情」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年3月7日付）

「ハレーを捕えた 富士山で大中里の後藤さん」〔後藤芳司〕〔水ヶ塚公園〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年3月12日付）

「小田貫湿原を測量 16日に自然観察の会」〔富士宮自然観察の会〕〔仁藤浪〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年3月12日付）

「随想 星山観音と倭文神社 佐野十三郎」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年3月15日付）

「春風に観音大画像 星山大悟庵 彼岸の入りご開帳」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年3月19日付）

「富士山も“春のめざめ” 登山区間で除雪始まる」〔スカイライン〕〔雪煙〕〔吹っ立て〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年3月23日付「グラフ特集」）

「土屋家一族 大宮町の基盤つくる 殖産と教育に貢献 四百年余の伝統脈々」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年3月27日付「家門と郷土」）

「花のあるまちづくり 富士山麓を“さくら世界”に 4月6日、田貫湖などに初の植樹」〔ラブフジヤマさくら推進運動〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年3月28日付）

「クロスボウの静岡公式戦 来月、村山ジャンボ クロスボウ射撃場で」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年3月28日付）

「綱敷天満天神霊像（丘路八幡宮）形相“激怒”の天神像 先照寺と京都に2体」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年4月4日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて（57）」）

「春の富士をひとめぐり 富士急行 定期観光バス運行中」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年4月4日付「レジャー情報」）

「早くも予約二百人に 富士登山申込み好調」〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』19

86年＝昭和61年4月4日付「レジャー情報」)

「新五合目は雪の下 記録的な雪量に除雪難航」〔スカイライン〕〔残雪〕(『岳南朝日』1986年＝昭和61年4月10日付)

「田子の浦ゆ富士を背に赤人の歌碑ぞ建ちける 富士市に新名所が誕生」〔フェリー岸壁〕(『岳南朝日』1986年＝昭和61年4月11日付「レジャー情報」) ▼

「田貫湖・長者ヶ原 水際から幻の遺跡 古墳時代初頭の集落 竪穴住居跡や土師器発見 市教委発掘調査」(『岳南朝日』1986年＝昭和61年4月20日付)

「富士根北小体育館が竣工」(『岳南朝日』1986年＝昭和61年4月20日付)

「樹勢とみに衰えたが…『下馬桜』が八分咲“春の嵐”で大枝ポッキリ 天然記念物」(『岳南朝日』1986年＝昭和61年4月22日付)

「増える近隣公害 60年度の苦情まとまる 業務開始以来の最高記録」(『岳南朝日』1986年＝昭和61年4月24日付)

「登山区間が開通 富士山スカイライン 雪で一番乗りUターン」(『岳南朝日』1986年＝昭和61年4月20日付)

「山頂も“春遠からじ”」(『岳南朝日』1986年＝昭和61年4月27日付「グラフニュース」)

「知名度低い『表富士宮口』90%は富士登山希望 大阪でアンケート調査」〔富士宮市観光協会〕(『岳南朝日』1986年＝昭和61年5月1日付)

「富士山で恒例の植樹祭 静岡営林署 本年度はヒノキ11万8000本」〔富士山国有林〕(『岳南朝日』1986年＝昭和61年5月8日付)

「子や孫へと“緑のオーナー”も 富士山国有林で植樹祭」〔静岡営林署〕(『岳南朝日』1986年＝昭和61年5月14日付)

「湖の汚染防止めざす 本栖地区 し尿処理場が稼働」(『岳南朝日』1986年＝昭和61年5月15日付「広域圏情報」)

「13年ぶり大名行列復活 上九一色村の精進地区で」(『岳南朝日』1986年＝昭和61年5月15日付「広域圏情報」)

「富士山くっきり さわやか五月晴」(『岳南朝日』1986年＝昭和61年5月18日付)

「南松野の旧跡をたん能 自然に親しむ会」〔不動尊大日岩〕(『岳南朝日』1986年＝昭和61年5月18日付)

「夏山対策など協議 山岳遭難対策支部が総会」〔静岡県山岳遭難対策協議会〕(『岳南朝日』1986年＝昭和61年5月22日付)

「一斉清掃は8月24日 富士山3登山口で」〔富士山をいつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1986年＝昭和61年5月21日付)

「晴れ渡る五月空 薫風薫る富士山麓」(『岳南朝日』1986年＝昭和61年5月29日付)

「梅雨入り近し 風物詩モリアオガエル」〔栗倉〕(『岳南朝日』1986年＝昭和61年6月4日付)

「樹齢数百年に感嘆 富士山原生林でブナ観察」〔富士宮自然観察の会〕〔仁藤浪〕〔富士宮市域自然調査会〕〔佐野登〕(『岳南朝日』1986年＝昭和61年6月4日付)

「特集 ふれあいの森林(もり) 魅惑の富士山原生林」〔表富士グリーンキャンプ場〕

(『岳南朝日』1986年=昭和61年6月7日付「レジャー情報」)  
「フジザクラの苗木プレゼント 富士山スカイライン」(『岳南朝日』1986年=昭和61年6月7日付「レジャー情報」)  
「岳麓古代史解明に貴重 長者ヶ原B遺跡 市教委が調査報告書 予想以上に深い構築の  
竪穴住居」(『岳南朝日』1986年=昭和61年6月10日付)  
「着陸を失敗、墜落死 朝霧高原のモーターグライダー飛行」(『岳南朝日』1986年  
=昭和61年6月10日付)  
「60年度の観光客入込状況 富士西麓に383万人 実質5%の落ち込み 科学万博や  
円高が影響? 登山、白糸の滝など減少 依然として春夏型」〔入り込み客〕(『岳南朝  
日』1986年=昭和61年6月13日付)  
「富士山クリーン調査 開山前に関係機関が登山」〔富士山をいつまでも美しくする会〕  
(『岳南朝日』1986年=昭和61年6月21日付)  
〔クリーン状況まずまず 富士山の事前調査同行記〕(『岳南朝日』1986年=昭和61  
年6月25日付「カメラの目」)  
「クリーン状況まずまず 富士山の事前調査同行記 頂上のゴミもちらほら 標識などの  
整備が必要」(『岳南朝日』1986年=昭和61年6月25日付)  
「音止の滝完工間近 右岸部分で災害復興」(『岳南朝日』1986年=昭和61年6月  
26日付)  
「夏富士が招く日本一の爽快感 7月1日山開き特集 富士登山オールガイド」(『岳南  
朝日』1986年=昭和61年6月26日付)  
「山室宿泊施設」(『岳南朝日』1986年=昭和61年6月26日付)  
「富士山新五合目バス時刻表」(『岳南朝日』1986年=昭和61年6月26日付)  
「タクシー・団体バス」(『岳南朝日』1986年=昭和61年6月26日付)  
「6月のディナー スカイレストラン雲上」〔広告〕(『岳南朝日』1986年=昭和61  
年6月26日付)  
「開山を祝 藤太郎」〔広告〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年6月26日付)  
「今年の夏はワイドだぞ ホテルサンパレス橋本」〔広告〕(『岳南朝日』1986年=  
昭和61年6月26日付)  
「名物 増田屋本店」〔広告〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年6月26日付)  
「富士登山 頂上富士館」〔広告〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年6月26日付)  
「富士山衛生センターを改築 登山シーズン後に着工」(『岳南朝日』1986年=昭和  
61年6月27日付)  
「今夏は近江八幡から来宮 地婦連が歓迎準備に着手」〔富士宮市地域婦人団体連合会〕  
(『岳南朝日』1986年=昭和61年6月27日付)  
「クラシックバイクも 富士山夏山開き盛り上げ 市中パレードのあと登山」〔クラシッ  
クカー〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年6月29日付)  
「真夏の季節到来 きょうから7月 山開きでスタート」(『岳南朝日』1986年=昭  
和61年7月1日付)  
「好天に恵まれ続々 富士夏山開き オールドカーも登山」〔クラシックカー〕(『岳南  
朝日』1986年=昭和61年7月2日付)

「夏山富士開く」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月2日付「カメラの目」）

「レジャー情報 熱気球でフワリ空の旅 まかいの牧場 今月から本格利用」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月4日付）

「『ひがわり富士山』情報 NTT富士」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月4日付）

「湧玉池異変 湧水量がガタ減り 本池の水位40㌦に低下 一時は下からポンプアップ 夏場の回復に望み」〔湧玉池水位〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月4日付）

「随想 神田市神社の御利益 佐野十三郎」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月4日付）▼

「放置林対策に拍車 市が新聞伐事業を促進」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月5日付）▼

「富士山を撮る②」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月11日付）

「新五合目に派出所 富士宮署 富士山パト始まる」〔富士山総合指導センター〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月13日付）

「新五合目で植樹も 富士箱根伊豆国立公園指定50周年で記念事業」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月15日付）

「梅雨明けも間近 久しぶりに青空 夏富士も顔を出す」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月19日付）

「全員、元気に山頂に立つ 今年で四回目の富士登山 上野中1年生」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月20日付）

「登山客の健康を守る 衛生センター店開き」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月24日付）

「富士山の山室監視 保健所がきょう登山」〔山室衛生〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月24日付）

「ピンチに立つ富士山麓の野草たち」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月26日付）▼

「富士登山に挑戦 障害者2団体 車いすと独歩で 野菊の会が2泊3日で 視力障害者も参加 大阪の『山と友の会』」〔障害者登山〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月27日付）▼

「県立高等農業学園が富士登山」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月27日付）

「お待ちかね夏本番 富士山新五合目は車の列」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月29日付）

「お山にも夏戻る 最盛期迎えた富士山ルポ」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月30日付「カメラの目」）

「山室は快適と太鼓判 保健所の衛生監視結果」〔山室衛生〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年7月30日付）

「聖域登山でスタート きょうから富士宮夏まつり 明夜、御神火まつり みこし四基で 神田川昇り」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月1日付）

「緑の少年団が交流 表富士グリーンキャンプ場 下刈り作業体験も」〔ピカ表富士〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月1日付）

「60年度の大気汚染状況 ダスト、依然『不適合』SO<sub>2</sub>などクリヤー」〔硫黄酸化物〕  
（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月2日付）

「湧玉池で“みそぎ”御神火まつり 聖域登山隊が出発」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月2日付）

「車椅子で富士登山 神奈川のボラ・グループ」〔障害者登山〕〔野菊の会〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月3日付「グラフニュース」）

「扇状地開発に否定的 長兵衛島開発反対陳情 斉藤知事が見解示す」〔大沢崩れ〕〔斉藤滋与史〕〔長兵衛島開発反対市民の会〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月5日付）

「重金属汚染に威力 市が原子吸光光度計を新設」〔公害〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月5日付）

「中学生、富士山で不明 家族と下山中に消息断つ」〔遭難〕〔杉本充良〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月5日付）▼→「富士山 中2生、遺体で発見」（8月6日付）

「神田川に渦巻いた興奮 富士山御神火まつり なだれ打つ昇りみこし」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月5日付）

「富士山頂にうっすら雪 登山客ブルブル」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月5日付）

「富士山 中2生、遺体で発見 寒さと疲労が原因か」〔遭難〕〔杉本充良〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月6日付）▼

「汚染が進む市内河川 いたのはヒルやミズムシばかり 生物調査でも浮き彫り」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月7日付）

「富士山新五合目で自殺」〔木村弘〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月10日付）

▼

「会葬御礼 故三井濱子儀 三井喜久夫 三井啓正 村山つり堀ジャンボ ㈱三井緑化開発」〔死亡広告〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年6月12日付）

「“夏のゴミ”総決算 24日に富士山クリーン作戦」〔富士山をいつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月14日付）

「小田貫湿原の全容判明 貴重な生物相の宝庫 19日に保護対策を検討」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月16日付）

「長兵衛島開発計画 再び『不适当』の判断 市が県知事に意見書 大沢崩れ砂防を重視」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月19日付）

「インタビュー 富士山頂から高々度フライトに成功した佐野雄昭さん（52）眼下に雲海を一望 空中に止まっている感じ」〔ハンググライダー〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月22日付）

「夏山富士の後始末 美しくする会 きょうクリーン作戦」〔富士山をいつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月24日付）

「清掃作戦成果は1・6トシ 富士山 夏の汚れを一掃」〔清掃登山〕〔富士山をいつまでも美しくする会〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年8月26日付）

「緑の復元創造に提言 植生調査 最終報告まとまる」〔宮脇昭〕〔『富士宮市の植生 一緑の実態調査と緑の保全・創造に対する植生学的研究』富士宮市、1987〕（『岳南

朝日』1986年=昭和61年8月26日付) ▼

「診療は726人 富士山衛生センター 登山者の甘さ指摘」(『岳南朝日』1986年=昭和61年8月26日付) ▼

「富士砂防工が広域化 61年度事業 ダムや導流堤建設」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年8月27日付)

「久遠寺で資料調査 県史編さん専門委 日蓮真筆や曼荼羅など」(『岳南朝日』1986年=昭和61年8月27日付)

「富士急行60周年記念事業 甲州織物の大型 “織物きっぷ” 30日から限定発売」(『岳南朝日』1986年=昭和61年8月29日付)

「秋の富士山麓キャンペーン 9月18日、東京駅で ススキ2千束をプレゼント」〔富士宮市観光協会〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年8月29日付)

「ふじのみやの緑-復元と創造をめざして-1 第一部・緑の現状 山麓に豊かな植物相」(『岳南朝日』1986年=昭和61年9月3日付)

「ふじのみやの緑-復元と創造をめざして-2 第一部・緑の現状 生命の木・タブノキ」(『岳南朝日』1986年=昭和61年9月4日付)

「富士登山など大幅増 スカイライン開業以来最高 今夏観光地の総決算」(『岳南朝日』1986年=昭和61年9月5日付) ▼

「ふじのみやの緑-復元と創造をめざして-3 第一部・緑の現状 うっそうと茂る椎の林」〔スタジオ〕〔浅間大社〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年9月5日付)

「ふじのみやの緑-復元と創造をめざして-4 第一部・緑の現状 湧水のもとで茂る樫の木」〔カシ〕〔出水不動尊〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年9月6日付)

「石器の約4割が石鏃 黒田向林遺跡 調査報告書を発刊」(『岳南朝日』1986年=昭和61年9月7日付)

「ふじのみやの緑-復元と創造をめざして-5 第一部・緑の現状 母なる森・ブナ自然林」(『岳南朝日』1986年=昭和61年9月7日付)

「“多角経営”大当たり 富士山頂郵便局 取り扱い、前年比22%増」(『岳南朝日』1986年=昭和61年9月7日付)

「開設以来、最高の利用を記録 今夏の表富士グリーンキャンプ場」〔ピカ表富士〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年9月7日付)

「潤井川水系の大腸菌群数調査 神田川も依然高い汚染 水遊び可能は湧玉池だけ 風祭川末端は“死の川”」〔公害〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年9月9日付)

「ふじのみやの緑-復元と創造をめざして-6 第一部・緑の現状 威容誇る富士の水櫃」〔ミズナラ〕〔西白塚〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年9月6日付)

「ふじのみやの緑-復元と創造をめざして-7 第一部・緑の現状 朝霧に立つ葉守の神・柏」〔カシワ〕〔朝霧高原〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年9月10日付)

「ふじのみやの緑-復元と創造をめざして-8 第一部・緑の現状 移りゆくススキ草原」〔火入れ〕〔朝霧高原〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年9月11日付)

「白糸の滝の保全事業決める 安全施設など整備促進」〔白糸滝等保全対策協議会〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年9月12日付)

「国鉄の回答を報告 身延線改善期成同盟が総会」〔国鉄民営化〕(『岳南朝日』1986年=昭和61年9月12日付)

6年＝昭和61年9月12日付)

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－9 第一部・緑の現状 天を衝くケヤキ林」  
〔白糸の滝熊野神社〕 (『岳南朝日』1986年＝昭和61年9月12日付)

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－10 第一部・緑の現状 消失した河辺の緑」  
〔潤井川〕 (『岳南朝日』1986年＝昭和61年9月13日付)

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－11 第一部・緑の現状 姿を消した自生の芝」  
〔天母山〕 (『岳南朝日』1986年＝昭和61年9月14日付)

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－12 第一部・緑の現状 森林7割近くが人工林」  
〔放置林〕〔拡大造林〕 (『岳南朝日』1986年＝昭和61年9月17日付)

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－13 第一部・緑の現状 春を呼ぶ可憐な片栗」  
〔毛無山〕〔カタクリ〕 (『岳南朝日』1986年＝昭和61年9月18日付)

「富士登山に老人パワー 最高齢は百一歳 70歳以上が945人 浅間大社奥宮が番付発表 地元的一位は90歳の矢辺繁吉さん」  
〔高齢者登山〕 (『岳南朝日』1986年＝昭和61年9月18日付) ▼▼

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－14 第一部・緑の現状 多面的な緑の役割」  
〔湧水〕 (『岳南朝日』1986年＝昭和61年9月19日付)

「富士宮市観光協会 都民にススキをプレゼント 秋の誘客キャンペーン」 (『岳南朝日』1986年＝昭和61年9月19日付)

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－15 第二部・緑の復権 乏しい並木や街路樹」  
〔トウカエデ〕 (『岳南朝日』1986年＝昭和61年9月20日付)

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－16 第二部・緑の復権 富士山の人工林にブナを」  
〔水源涵養林〕 (『岳南朝日』1986年＝昭和61年9月21日付)

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－17 第二部・緑の復権 遊水池にはケヤキを」  
(『岳南朝日』1986年＝昭和61年9月23日付)

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－18 第二部・緑の復権 公園を“郷土の森”に」  
(『岳南朝日』1986年＝昭和61年9月25日付)

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－19 第二部・緑の復権 各地に“グリーンの拠点”を」  
〔白尾山〕 (『岳南朝日』1986年＝昭和61年9月26日付)

「スカイラインの渋滞解消に本腰『上高地方式も検討 関係機関が来月、現地視察 マイカーを規制 実現までには課題も』」 (『岳南朝日』1986年＝昭和61年9月26日付)

▼

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－20 第二部・緑の復権 教育の場に緑のアメニティ」  
〔学校林〕 (『岳南朝日』1986年＝昭和61年9月28日付)

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－21 第二部・緑の復権 工場に環境保全林を」  
〔富士フィルム〕 (『岳南朝日』1986年＝昭和61年10月1日付)

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－22 第二部・緑の復権 鎮守の森を生き返らせよう」  
〔スダジイ〕 (『岳南朝日』1986年＝昭和61年10月2日付)

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－23 第二部・緑の復権 一人一人が緑のプロデューサーに」  
〔緑化と美化の市民団体〕 (『岳南朝日』1986年＝昭和61年10月3日付)

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－24 第二部・緑の復権 世界に誇る 21 世紀の緑を」〔宮脇昭〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年10月4日付）

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－25 第三部・緑を守る人々 富士山を守る心に広がり」〔仁藤浪〕〔富士宮自然観察の会〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年10月5日付）

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－26 第三部・緑を守る人々 人も動物も生かす緑を」〔日原章〕〔富士宮市理科同好会〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年10月7日付）

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－27 第三部・緑を守る人々 総合的な“緑の行政”を」〔阿部英雄〕〔日本野鳥の会〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年10月8日付）

「ふじのみやの緑－復元と創造をめざして－28 第三部・緑を守る人々 呼びさませ、緑愛する心」〔佐野登〕〔富士宮市域自然調査研究会〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年10月9日付）

「富士山“冬姿” 六合目以上が雪化粧」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年10月9日付）

「スカイラインの交通対策検討会」〔マイカー規制〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年10月9日付）

「『山の村』で打ち合わせ 県教委 63年度オープン目指す」〔富士山麓山の村〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年10月12日付）

「山宮工場団地工事が完成 現地で竣工式」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年10月17日付）

「紅葉前線、富士山二合目上へ 20日すぎにはスカイライン“錦模様”」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年10月17日付「レジャー情報」）

「目立つ近隣騒音の苦情 上半期の公害状況 事業所の管理不備も」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年10月21日付）

「豊かな自然を満喫 国立公園50周年 観察会で記念植樹も」〔富士箱根伊豆国立公園指定五十周年を祝う朝霧高原自然観察会〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年10月21日付）

「富士山九合目で滑落死 細江の女医、バランス失う」〔遭難〕〔伊藤聡美〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年10月28日付）▼

「初の自然ガイド『富士山』県自然保護課が発行」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年11月7日付）

「富士山麓地、紅葉盛り 富士山腹では、10数年ぶりの鮮やかさ 天子、長者ヶ岳も本番」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年11月7日付「レジャー情報」）

「日本一のマンモス・リンク 16日、日本ランド スケート場オープン」〔イエティ〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年11月14日付「レジャー情報」）

「五合目観光協が反対 富士山の恩組管理センター 近く、趣意書提出」〔富士山五合目観光協会〕〔富士吉田市外二ヶ村恩組県有財産保護組合〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年12月4日付「広域圏情報」）



「『芝川のり』ピンチ 陣馬に滝が水枯れ 皆無に近い収獲 湧水減と雨不足で大打撃」  
（『岳南朝日』1986年＝昭和61年12月5日付）

「山麓のスキーシーズン開幕 日本ランドHOWスキー場、13日にオープン」〔イエティ〕  
（『岳南朝日』1986年＝昭和61年12月11日付「レジャー情報」）

「山麓の冬季レジャー本番 日本ランド雪あそび広場、21日オープン」〔イエティ〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年12月18日付「レジャー情報」）

「『開発不許可』を示唆 長兵衛島問題 斉藤知事、年内にも結論『市民の会』の陳情に見解」〔長兵衛島開発反対市民の会〕〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年12月20日付）

「富士宮は北半球一の“日出づる町”」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年12月25日付）▼

「富士山が一分間見えなかったら、部屋代タダ ホテルマウント富士の新春企画」（『岳南朝日』1986年＝昭和61年12月25日付）

「『不許可濃厚』で撤退？ 長兵衛島開発 取り下げで一応落着」〔国際健康コミュニティーセンター〕〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1986年＝昭和61年12月27日付）▼

## ■ 1987年＝昭和62年

「生きとし生けるものの共存を '87 富士の新春 坂本猛」〔写真〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年1月1日付）

「郷土出身のスター年賀状 里見浩太郎 清水香織 高野進 清つねお 青木和雄 仲代達矢 佐野量子 仙波貴正」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年1月1日付）

「新幹線富士駅 開業まであと14カ月」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年1月6日付）

「雪と氷の富士山麓 観光地やレジャー施設 元旦からフル回転」〔日本ランドスキー場〕〔御殿場スキー場〕〔富士天神山スキー場〕〔日本ランドスケート場〕〔富士急ハイランドスケート場〕〔グリーンパークスケート場〕〔イエティ〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年1月1日付「お正月レジャー情報」）

「市域の鳥類調査まとめる 野鳥の会支部 富士山の雷鳥も生息 田貫湖、芝川などに167種」〔富士宮市域自然調査会？〕〔日本野鳥の会〕〔ライチョウ〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年1月6日付）←本文中《一昨年十月、富士山の五合目上で雷鳥七羽が発見されているという。野鳥の会としてはまだ確認していませんが、生息はほぼ確実》とのこと。》とあるが、これ以降追認したという報道はない。「富士山の雷鳥 静岡側にも生息確認」（『山梨時事新聞』1966年＝昭和41年6月30日付）、これがおそらく最後の確認事例ではないか。「ライチョウ生存？」（1971年＝昭和46年10月1日付）、「富士山麓は野鳥の聖地」（1987年＝昭和62年6月13日付）も参照。

「大沢に巨大なブロック 扇状地の床固め工進む」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年1月15日付）

「富士氏〈上〉浅間の宮と共に1800年 郷土の礎を築く」〔浅間大社〕〔大宮司〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年1月15日付「家門と郷土」）▼

「富士氏〈下〉近代を拓く壮絶な光芒 維新を駆け抜けた『駿州赤心隊』」〈浅間大社  
〔富士亦八郎〕〔芙蓉館〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年1月18日付「家門と郷  
土」）▼

「東海一のダルマ市 富士 毘沙門天大祭 2月4日から3日間開催」（『岳南朝日』1  
987年＝昭和62年1月23日付）

「雪だより 天然雪は少なめ 新設の“天神山”は盛況」〔御殿場スキー場〕〔水ヶ塚雪  
あそび場〕〔富士天神山スキー場〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年1月23日付）

「銀盤の上で冬を満喫 グリーンパーク・スケート場」（『岳南朝日』1987年＝昭和  
62年1月23日付）

「『大宮町誌』が覆刻 50余年ぶり」〔『静岡県富士郡大宮町誌』〕（『岳南朝日』19  
87年＝昭和62年1月29日付）

「2月8日～15日、水ヶ塚公園で開催富士山スカイライン雪まつり 今年パンダの雪像  
が登場」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年1月30日付）

「毘沙門天行き直行バス 富士急行が増発し運行」（『岳南朝日』1987年＝昭和62  
年1月30日付）

「冬山遭難の救急訓練 富士宮署 厳寒の富士山三合目で」（『岳南朝日』1987年＝  
昭和62年2月1日付）

「風祭石を後世に保存 地元郷土史研 富丘小の一角に説明板」〔風祭川の男女石〕〔富  
丘郷土史研究会〕〔佐野忠男〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年2月6日付）

「親子パンダも登場 水ヶ塚公園で雪まつり」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年2月  
11日付）

「建設費17億円余計上 県 富士山麓に『山の村』」〔富士山麓山の村〕（『岳南朝日』  
1987年＝昭和62年2月14日付）

「随想 風祭遺跡 佐野忠男」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年2月14日付）

「明治の老アーチ姿消す 東海道本線旧富士川鉄橋」〔写真〕（『岳南朝日』1987年  
＝昭和62年2月15日付）

「観光協会新規事業に意欲『曾我まつり』も計画 富士講登山の復活 猪之頭観光村作り」  
（『岳南朝日』1987年＝昭和62年2月20日付）

「幻想ムード漂う霧氷」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年2月22日付「グラフニュ  
ース」）

「フジヤマ・コンベンション構想 夢から現実へ(?) 国・県『リゾート法案』動き出  
す 最有力の要因に“地の利”」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年3月1日付「ズー  
ムアップ」）

「御嶽教富士神誠教会 覚明、普寛両行者が普及」（『岳南朝日』1987年＝昭和62  
年3月5日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて(59)」）▼

「ピンチ、特別天然記念物 湧玉池にポンプアップ 浅間大社」〔湧玉池水位〕（『岳南  
朝日』1987年＝昭和62年3月7日付）

「神田川 いま、水の生命は…〔1〕清冽な水の源・湧玉池 水資源の重要なポイント」  
〔湧玉池水位〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年3月18日付）

「二又の一字一石経 宝永噴火の鎮静を祈願 巡礼して小石に写経 市教委 二年がかり

で解明 全国的にも貴重な資料」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年3月14日付）

「神田川 いま、水の生命は…〔2〕歴史のはざまを流れる 木ノ内記者」〔地下水〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年3月18日付）

「観音大画像ご開帳 彼岸の入りに星山大悟庵」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年3月19日付）

「神田川 いま、水の生命は…〔3〕水を通じて心の交流 再生に向けて行動も 木ノ内記者」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年3月25日付）

「除雪作業が急ピッチ 富士山スカイライン」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年3月29日付「グラフ特集」）

「神田川 いま、水の生命は…〔4〕ます釣りのメッカ 木ノ内記者」〔神田川にほたるを飛ばす会〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年4月1日付）

「神田川 いま、水の生命は…〔5〕心とむホテルの復活 木ノ内記者」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年4月8日付）

「“鳥になりたい人”続々 朝霧でハンググライダー 賑わうスカイスポーツスクール」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年4月10日付）

「40台が一番乗り 富士山スカイライン登山ルート開通」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年4月12日付）

「困った、トイレがない!? JR身延線 『富士ポニー』に苦情続出」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年4月12日付）

「冬の眠りから覚め 行楽客、スキーヤーで賑わい 富士山スカイライン登山区間」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年4月16日付）

「神田川 いま、水の生命は…〔6〕下水道で水質回復 木ノ内記者」〔BOD〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年4月15日付）

「三古墳の実測調査 市教委が報告書を発刊」〔『富士宮市古墳実測調査報告書―大室古墳―別所稻荷塚古墳―虚空蔵社古墳―』（富士宮市文化財調査報告書第10集、名富士宮市教育委員会編・発行、1987）〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年4月16日付）

「消えゆく担ぎ屋さん 山静経済交流の脇役果たして」〔西富士宮駅〕〔身延線〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年4月17日付「ズームアップ」）▼

「西富士宮駅利用者」〔身延線〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年4月17日付「ズームアップ」）▼

「『山の村』建設計画成る すべて富士ヒノキで 高校生の集団宿泊訓練施設 8月ごろ工事着手 総事業費28億円」〔富士山麓山の村〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年4月19日付）

「田貫湖草原遺跡 集落外縁部を発掘『村』の形態などにメス 市教委 従来の不明部分に期待」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年4月19日付）

「神田川 いま、水の生命は…〔6〕親水性備えた川に 木ノ内記者（おわり）」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年4月22日付）

「花のジプシー旅立ち 富士宮地区の養蜂生産者」〔富士地区養蜂協会〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年4月24日付）

「公害のトップ『騒音』61年度の苦情受付 大気の汚染は減少」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月3日付）

「水をさされた観光地 三連休初日 雨で行楽の出足鈍る」〔白糸の滝〕〔新五合目〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月7日付）

「富士山スカイラインは32%増 GWの観光地総決算 やぶさめ祭りに20万人」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月7日付）

「光化学スモッグにご注意 市が監視体制を強化 目やノドに被害 去年は予報2回」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月9日付）

「富士山麓は野鳥の聖地 市自然調査研が鳥類報告書 市域で142種類確認 朝霧高原セッカなど消滅の危機 田貫湖は渡りのコース 生きていたライチョウ」〔日本野鳥の会〕〔富士宮市域自然調査研究会？〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月13日付）

「富士山一合目で植樹祭 ヒノキ苗350本植える 静岡営林署 緑のオーナーも参加」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月14日付）

「地図に見る百年前の大宮町 繰り返した町村合併 佐野里見（つづく）」〔大日本帝国測量部〕〔正式地形図〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月17日付）

「山室宿泊料金値上げ 表富士宮口組合 4年ぶり今夏から」〔物価〕〔富士山表富士宮口登山組合〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月22日付）▼

「田貫湖草原遺跡 集落外縁部から『落とし穴』外敵やけものから守る 基底から木をさした穴 弥生期では初例 発掘調査に一石投ず」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月23日付）

「地図に見る百年前の大宮町 各地結ぶ往還道路 地図に未完成の印も（つづく）」〔佐野里見〕〔大日本帝国測量部〕〔正式地形図〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月23日付）

「地図に見る百年前の大宮町 なつかしい旧町名も 明治16年大宮銀行が中宿に 佐野里見（つづく）」〔大日本帝国測量部〕〔正式地形図〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月28日付）

「七月メドに分布や深度を 県が富士山麓地下水調査実施」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月27日付）

「来月から 駅舎基礎工事へ 新幹線富士駅、外枠現す」〔新富士駅〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月28日付）

「南麓道路の実現めざし期成同盟会が3日に総会」〔国道469号〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月28日付）

「山開きへ向け総会 山岳遭難防止協富士宮支部」〔静岡県山岳遭難防止協議会〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月28日付）

「富士山自然林に活気 グリーンキャンプ場シーズン入り」〔ピカ表富士〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月29日付）

「夏の誘客キャンペーン展開中 市観光協会」（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月29日付）

「全国主要都市に配布 登山誘客ポスター完成」〔富士山五口協議会〕〔写真〕（『岳南朝日』1987年＝昭和62年5月30日付）

「地図に見る百年前の大宮町 町の東南は一面水田 大正9年に身延線運行 佐野里見 (完)」〔大日本帝国測量部〕〔正式地形図〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年5月31日付)

「大沢崩れのソフト充実 お中道復活、登山ラリーも 国内初の砂留工建設」〔富士砂防工事事務所〕〔高梨和行〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年6月2日付)

「富士山をいつまでも美しく 一斉清掃は8月23日 今夏のクリーン作戦決る」〔富士山をいつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年6月3日付)

「日ごろの技術生かして建大生が施設などで労力奉仕」〔建設大学中央訓練所〕〔神田川〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年6月3日付)

「南麓道路実現に全力 62年度総会開く 4市3町が強力陳情」〔国道469号〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年6月4日付)

「土石流監視に“新兵器”光ファイバーで扇状地と結ぶ 雨期控え期待大 富士砂防事務所」〔富士砂防工事事務所〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年6月4日付)

「白糸の滝を保存管理 市教委 計画策定事業に着手」(『岳南朝日』1987年=昭和62年6月10日付)

「JC富士山会議発足 東部、五湖JCが交流 共同イベントの開催も」〔青年会議所〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年6月11日付)

「産廃の悪しきメッカ 富士山麓 不法投棄、6カ所発見 保健所がパトロール 地主の了解もなく」(『岳南朝日』1987年=昭和62年6月14日付)

「『富士山博物館』立ち遅れる文化政策 今から構想づくりを(沢田記者)」〔市立博物館構想〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年6月16日付「東西南北 記者レポート」)

「観光地にも円高直撃 61年度入込客 前年比7・6%の減 白糸の滝振るわず 朝霧、富士山は好調」〔入り込み客〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年6月19日付)

「山開き前にゴミ一掃 宮農生 富士山などで清掃活動」〔富士宮農業高校〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年6月19日付)

「身延線沿線の活性化へ 山静市町村 促進協議会が発足」〔国鉄民営化〕〔身延線沿線活性化促進協議会〕〔身延線改善促進期成同盟〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年6月19日付)

「クリーン状況を調査 開山前に関係機関が登山 富士山」〔富士山振興センター〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年6月20日付) → 「例年より雪は少ない」(6月27日付)、「富士山は“夏仕度”」(6月28日付) に関連記事

「地下水保全図れ 調整池水源涵養を 乱費のツケが今に(佐野記者)」〔水不足〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年6月23日付「東西南北 記者レポート」)

「行政は具体策を 富士山麓の産廃投棄に思う これで国際都市か(深沢記者)」(『岳南朝日』1987年=昭和62年6月23日付「東西南北 記者レポート」)

「山開き 牧野酒造 万年雪山荘 NTT富士宮電報電話局 ふきのとう 江戸屋本店 ホテルサンパレス橋本 富士養鱒漁協 篠原タクシー有限会社 富士宮富士急ホテル 東海給食センター」〔協賛広告〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年6月25日付、6月28日付)

「夏山の準備急ピッチ 登下山道を点検」〔富士山安全対策連絡協議会〕〔吉田ルート〕  
（『岳南朝日』1987年=昭和62年6月26日付「広域圏情報」） ←本文中「六合目雲  
海荘」とあるが「六合目星観荘」のことか？

「例年より雪は少ない 富士山 クリーン度ほぼ良好」〔富士山振興センター〕（『岳南  
朝日』1987年=昭和62年6月27日付）

「富士山は“夏仕度”登山シーズンもうすぐ」（『岳南朝日』1987年=昭和62年6月  
28日付「グラフ特集」）

「7月1日山開き特集 今年こそ富士山へ！ 富士登山オールガイド しっかりプランで  
安全登山を」（『岳南朝日』1987年=昭和62年6月28日付「レジャー情報」） ▼

「登山メモ」（『岳南朝日』1987年=昭和62年6月28日付「レジャー情報」）

「山室宿泊施設」（『岳南朝日』1987年=昭和62年6月28日付「レジャー情報」）

「富士山新五合目バス時刻表」（『岳南朝日』1987年=昭和62年6月28日付「レジ  
ャー情報」）

「タクシー・団体バス」（『岳南朝日』1987年=昭和62年6月28日付「レジャー情  
報」）

「富士宮夏まつり 富士山御神火まつり 8月7・8・9日 富士宮青年会議所」〔全面  
広告〕（『岳南朝日』1987年=昭和62年6月28日付）

「富士山開きなど多彩 きょうから7月 楽しい夏休みも間近」（『岳南朝日』1987  
年=昭和62年7月1日付）

「遭難救助に新兵器 富士宮署にマウンテンストレッチャー」（『岳南朝日』1987年=  
昭和62年7月1日付） ▼

「富士山麓で最後の冒険 オペレーション・ローリー」〔チャールズ皇太子〕〔朝霧野外  
活動センター〕（『岳南朝日』1987年=昭和62年7月2日付）

「夏山開く 雨の中、60人が一番乗り 富士山表富士宮口 オールドカーも登山」〔クラ  
シックカー〕（『岳南朝日』1987年=昭和62年7月2日付）

「ふるさとの産品 こけもも羊羹、富士宮サブレー 藤太郎本店」〔大宮大火〕〔後藤巖〕  
（『岳南朝日』1987年=昭和62年7月2日付）

「困った五湖の減水 遊覧船運航も危険状態」（『岳南朝日』1987年=昭和62年7月  
2日付「広域圏情報」）

「頂上までは無理という人には… 富士山五合目付近 宝永遊歩道と御殿庭」（『岳南朝  
日』1987年=昭和62年7月3日付「レジャー情報」）

「芝川のりの謎に迫る 水質調査がスタート」〔芝川水系〕〔五斗目木川〕（『岳南朝日』  
1987年=昭和62年7月7日付）

「森林と仲良くなろう 東白塚で親子自然教室」（『岳南朝日』1987年=昭和62年7  
月7日付）

「豊かな実りを祈願 浅間大社でお田植祭」（『岳南朝日』1987年=昭和62年7月9  
日付）

「富士山一帯を指定へ 運輸省の国際観光モデル地区」（『岳南朝日』1987年=昭和  
62年7月9日付「広域圏情報」）

「お山の業務スタート きょうから山頂郵便、電話OK」〔富士山頂郵便局〕〔富士山頂

電話局] (『岳南朝日』1987年=昭和62年7月10日付) ▼

「国、県に協力陳情 富士治山治水の促進訴え 期成同盟会」〔富士治山治水期成同盟会〕  
(『岳南朝日』1987年=昭和62年7月12日付)

「大沢砂防など8項目 富士治山治水期成同盟会の陳情」(『岳南朝日』1987年=昭和62年7月15日付) ▼

「山頂で手をつなごう 富士山会議 来月、ハンドインハンド」〔JC富士山会議〕〔青年会議所〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年7月16日付)

「山宮工場団地 進出企業すべて決まる 市外8、市内16社に 企業一覧」(『岳南朝日』1987年=昭和62年7月16日付「ローカル経済ウイークリー」)

「今月のディナー 雲上」〔広告〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年7月16日付)

「農道、排水路を建設 富士根畑総 全工程の81%消化」〔富士根県営畑地総合整備事業〕  
(『岳南朝日』1987年=昭和62年7月17日付)

「有事に備えて 白糸の滝安全対策協開く」(『岳南朝日』1987年=昭和62年7月17日付)

「農民市場 粟倉にきょうオープン 新鮮な野菜を直売 平日は無人スタンドで ふるさと活性化めざし ビニールハウス建設も計画」(『岳南朝日』1987年=昭和62年7月18日付)

「農民市場オープン 初日から買物客で大盛況」(『岳南朝日』1987年=昭和62年7月19日付)

「行楽地の事故防止 臨時警備派出所を開設 富士宮署」〔富士山総合指導センター〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年7月19日付)

「富士山頂を征服 中学校生活のステップ 上野、一中」〔上野中学校〕〔第一中学校〕  
(『岳南朝日』1987年=昭和62年7月19日付「ワイド学園」)

「富士登山客、出足快調 富士宮市観光協会 予約は約600件に」(『岳南朝日』1987年=昭和62年7月24日付) ▼

「本年度は集水路など 粟倉の県営の内保全事業」(『岳南朝日』1987年=昭和62年7月30日付)

「『新富士』で意思統一 新幹線駅名で期成同盟会」〔新富士駅〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年7月30日付)

「富士山スカイラインを選定 建設省の『日本の道』百選」(『岳南朝日』1987年=昭和62年8月5日付)

「新鮮な地元野菜大もて 農民市場、連日にぎわい お盆特売会も計画」(『岳南朝日』1987年=昭和62年8月6日付)

「夏まつりスタート “みそぎ”して御神火隊登山」(『岳南朝日』1987年=昭和62年8月8日付)

「富士山頂に心の輪 8青年会議所がハンドインハンド “お鉢”をぐるり500人 万国旗なびかせ平和祈念」〔JC富士山会議〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年8月9日付)

「岳排の改良急ピッチ 老朽化に対処、新管理設」〔岳南排水路〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年8月12日付)

「建設廃材など112トン 富士宮保健所 山麓で不法投棄発見」〔産廃〕（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月12日付）

「愛に支えられ1 講演『これから期待される人間像』より 欲しいものは努力して 作家・藤原てい」（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月13日付）

「朝霧でキャンポリー開幕 2万人が参加 県下のスカウト集う」〔ボーイスカウト〕（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月14日付）

「愛に支えられ2 講演『これから期待される人間像』より 断ち切られた教師の道 作家・藤原てい」（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月14日付）

「愛に支えられ3 講演『これから期待される人間像』より 国境を越えた命の恩人 作家・藤原てい」（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月15日付）

「神田川にカワノリ育つ 定説破る新発見 芝川水系以外でも繁殖 少量だが河床の石に付着」〔芝川のり〕（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月15日付）

「富士山頂'87夏」（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月15日付「グラフ特集」）

「愛に支えられ4 講演『これから期待される人間像』より 夫・新田次郎のこと 作家・藤原てい 夫・新田次郎のこと」（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月15日付）

「三登山口から1400人 富士山の一斉清掃 シルバー人材センターも初参加」〔富士山をいつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月19日付）

「愛に支えられ5 講演『これから期待される人間像』より 親自ら挫折しない心を 作家・藤原てい（おわり）」（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月19日付）

「250年前に江戸で“宝物展” 上井出の木本家で記録見付かる 曾我八幡宮の再建で資金づくりに『出開帳』」（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月20日付）

「滝戸遺跡発掘調査 連綿と続いた聖地 有力集落示す遺物も出土 配石遺構からペンダント」（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月21日付）

「相次いで集会開催 富士山麓のリゾート推進 誘致合戦が本格化」（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月22日付）

「ミツマタの功労者 河原崎光治郎氏」〔訃報〕（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月22日付）▼

「念願の富士登頂 姉妹都市の交換学生『ビューティフル!』を連発」〔サンタモニカ〕（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月22日付）

「富士山で老人が重傷 風の中を単独登山、転倒」〔原石源一〕〔高齢者登山〕（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月25日付）▼

「高山病が84・5% 今夏の富士山衛生センター」（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月26日付）▼

「局地的に集中豪雨 市街地で床下浸水など被害 大宮都市下水路も満水」（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月26日付）

「富士山頂有感地震“寝耳に水”に戸惑い 地元の反応『見守る以外ない』」（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月27日付）

「官・民がリゾート構想示す 2本立て、互いに調整 推進協が初の幹事会開く」（『岳南朝日』1987年=昭和62年8月29日付）



「各市町を有機的結合 富士山麓リゾートでシンポ」 (『岳南朝日』 1987年=昭和62年9月1日付)

「自衛隊機が旋回一時間 富士宮市上空 訓練飛行に市民びっくり」 [軍事基地] (『岳南朝日』 1987年=昭和62年8月4日付) → 「着陸待機で旋回」 (9月5日付) に続報  
「富士山頂に初雪 昨年に比べ6日早く」 (『岳南朝日』 1987年=昭和62年8月4日付)

「今夏の総決算 天候不順で軒並み減 富士山と山麓観光地 前年比マイナス6・2%」 (『岳南朝日』 1987年=昭和62年9月5日付) ▼

「着陸待機で旋回 飛来の自衛隊輸送機」 [東富士演習場] [軍事基地] (『岳南朝日』 1987年=昭和62年9月5日付)

「大もて山頂局 利用者は30%増(前年比) 納涼だよりも6万通」 [山頂郵便局] (『岳南朝日』 1987年=昭和62年9月6日付)

「県身障者福祉会 新五合目を散策」 [身障者福祉会] [身障者登山] (『岳南朝日』 1987年=昭和62年9月12日付) → 「登山は雨で断念」 (9月12日付) に続報

「リゾート構想を了承 推進協幹事会 近く県知事に提出」 (『岳南朝日』 1987年=昭和62年9月11日付)

「富士山麓のススキプレゼント 10月7日、東京でキャンペーン」 [富士宮市観光協会] (『岳南朝日』 1987年=昭和62年9月11日付「レジャー情報」)

「登山は雨で断念 県身障者福祉会 新五合目を散策」 [身障者登山] (『岳南朝日』 1987年=昭和62年9月12日付)

「旧富士登山道を歩く」 [鈴木勲] [富士宮市郷土史同好会] [道者道] (『岳南朝日』 1987年=昭和62年9月23日付「カメラの目」) → 「旧富士登山道史跡めぐり」 (昭和63年1月21日付) に関連記事

「あの時はアリガトウ イタリアの山男“命の恩人”にお礼を 11年前、富士山で滑落 救助の山岳会員と再会 富士山へ再びチャレンジ」 [ルチアーノ・フリパス] [富士宮山岳会] [渡井豊] [加藤三郎] (『岳南朝日』 1987年=昭和62年9月26日付) ▼

「浮遊粉じん除きクリア 61年度大気汚染 環境基準の達成 県も原因究明を強化」 (『岳南朝日』 1987年=昭和62年9月27日付)

「今年も老人パワー 高齢者の富士登山 登拝者名簿に940人 トップは102歳の五十嵐さん(福島) 市内では矢部さん 記録更新 地元静岡は二位」 (『岳南朝日』 1987年=昭和62年10月1日付) ▼

「あれ!湧玉池に巨石 水位保持に“苦肉の策”」 [湧玉池水位] (『岳南朝日』 1987年=昭和62年10月1日付)

「クリーンな空を保つ 61年度の企業燃料消費 硫黄酸化物量が減少」 [大気汚染] (『岳南朝日』 1987年=昭和62年10月2日付)

「官民の推進会議設立 富士山麓リゾート誘致 15日に総決起大会」 (『岳南朝日』 1987年=昭和62年10月6日付)

「南ろく道路建設前進 勢子辻一国道139号 当面の整備ルート決る」 [南麓道路] [国道469号] (『岳南朝日』 1987年=昭和62年10月10日付)

「うっすらと雪化粧 富士山」 (『岳南朝日』 1987年=昭和62年10月13日付)

「目立つ空カン投げ捨て 富士山クリーン状況調査 一斉清掃中止が影響」〔富士振興センター〕〔清掃登山〕（『岳南朝日』1987年=昭和62年10月15日付）

「官民あげて総決起大会 富士山ろくりゾート誘致 満場一致で決議採択 地元県議も後押し」〔富士駿河広域リゾート推進会議〕（『岳南朝日』1987年=昭和62年10月16日付）

「紅葉前線、富士山五合目へ 今年はやれ気味、錦模様は下旬から イタヂリなど色づく」（『岳南朝日』1987年=昭和62年10月16日付「レジャー情報」）

「山容えぐる大沢源頭部 現地見学会」〔大沢崩れ〕〔富士砂防工事事務所〕〔高梨和行〕（『岳南朝日』1987年=昭和62年10月21日付）

「お中道の秋[1]小御岳五合目 風雪に耐える樹林（木ノ内記者）」（『岳南朝日』1987年=昭和62年10月22日付）

「お中道の秋[2]小御岳・大沢ルート シャクナゲ群生 いまは花芯だけ残し（木ノ内記者）」（『岳南朝日』1987年=昭和62年10月23日付）

「『山の村』建設起工 高校生の集団宿泊訓練訓練施設 来年10月完成へ」〔富士山麓山の村〕（『岳南朝日』1987年=昭和62年10月24日付）

「お中道の秋[3]富士山“八百八沢”眼下のパノラマ スリリングな気分も（木ノ内記者）」（『岳南朝日』1987年=昭和62年10月25日付）

「富士山 7合目以上が真っ白に」（『岳南朝日』1987年=昭和62年10月28日付）

「お中道の秋[4]お助け小屋 街並み、駿河湾一望 都会の喧そう忘れて（木ノ内記者）」（『岳南朝日』1987年=昭和62年10月28日付）

「JR発車、6ヶ月 身延線富士宮、西富士宮駅 旅客収入、10%以上伸び」（『岳南朝日』1987年=昭和62年10月29日付）

「お中道の秋[5]大沢源頭部 土に還る朽ち木 過酷な自然に生きて（木ノ内記者）」（『岳南朝日』1987年=昭和62年10月29日付）

「お中道の秋[6]富士山大沢崩れ 巨大な裂け目（完）（木ノ内記者）」（『岳南朝日』1987年=昭和62年11月1日付）

「川と人と『富士川』25選を行く〈1〉源流から河口まで 恵みと被害の二つの顔 諸支流合わせ延々128キロメートル」（『岳南朝日』1987年=昭和62年11月5日付）▼

「富士山麓紅葉真っ盛り 天子、長者ヶ岳も本番へ」（『岳南朝日』1987年=昭和62年11月8日付「レジャー情報」）

「特別天然記念物 湧玉池よ永遠に 保護保存に市民運動 氏子代表や大社講役員『美しくする会』結成へ」〔湧玉池水位〕〔湧玉池を美しくする会〕（『岳南朝日』1987年=昭和62年11月12日付）

「日本一のマンモス・リンク 日本ランドHOWゆうえんち 15日、スケート場オープン」〔イエティ〕（『岳南朝日』1987年=昭和62年11月15日付「レジャー情報」）

「川と人と『富士川』25選を行く〈2〉古郡氏三代と雁（かりがね）堤 53年の歳月、執念の治水 汜らん源に新田開発」（『岳南朝日』1987年=昭和62年11月18日付）▼

「野中用水建設物語（上）深沢彪」（『岳南朝日』1987年=昭和62年11月11日付「ふるさと再発見」）

「野中用水建設物語（中）疎水碑 深沢彪」（『岳南朝日』1987年=昭和62年11月

20日付「ふるさと再発見」)

「野中用水建設物語(下)深沢彪(おわり)」(『岳南朝日』1987年=昭和62年11月27日付「ふるさと再発見」)

「市立図書館建設現場“掘ってわいた地下水”騒ぎ 水脈から日量2万ト。近く専門家が調査 保全、活用両面で対応策」(『岳南朝日』1987年=昭和62年12月1日付)

「川と人と『富士川』25選を行く〈3〉釜無川、御勅使川の治水 水をもって水を制す 現代に伝わる『甲州流川除』」(『岳南朝日』1987年=昭和62年12月4日付) ▼

「新富士駅-富士駅 シャトルバスで輸送 富士急、12系統を新設 直行便は40回運行」1987年=昭和62年12月5日付)

「懸命に除雪作業 富士山スカイライン登山区間 異例の積雪に苦慮」(『岳南朝日』1987年=昭和62年12月11日付)

「富士山麓のスキーシーズン開幕 12日、日本ランドスキー場オープン」〔イエティ〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年12月11日付)

「川と人と『富士川』25選を行く〈4〉甲州三河岸とアクバ(1)」(『岳南朝日』1987年=昭和62年12月11日付) ▼

「市立図書館建設工事 周辺の変化に対処 地下部分を設計変更 湧水部分を埋め戻しへ」〔湧玉池水位〕〔地下水〕(『岳南朝日』1987年=昭和62年12月13日付)

「総合体育館に10億円 大石寺、創価学会が市に寄付」(『岳南朝日』1987年=昭和62年12月16日付)

「東西文化の接点 小松原A遺跡 若宮に並び最古」(『岳南朝日』1987年=昭和62年12月16日付)

「川と人と『富士川』25選を行く〈5〉甲州三河岸とアクバ(2)」(『岳南朝日』1987年=昭和62年12月18日付) ▼

「重体のパイロット死亡 ハンググライダー事故 昨年除き連続4件」(『岳南朝日』1987年=昭和62年12月24日付)

## ■ 1988年=昭和63年

「青年富士(暁光浴びる冬富士)撮影 坂本猛」(『岳南朝日』1988年=昭和63年1月1日付)

「富士山頂に龍の碑 風雪に耐えて」〔御水講〕〔鈴木松年〕〔銀明水龍碑〕(『岳南朝日』1988年=昭和63年1月3日付)

「富士の噴火を告げた竜 竜ヶ岳伝説」(『岳南朝日』1988年=昭和63年1月3日付)

「雨乞いと長者ヶ岳の竜 天子ヶ岳伝説」(『岳南朝日』1988年=昭和63年1月3日付)

「富士山麓山の村 今秋オープン 高校生の集団訓練施設 野鳥や自然観察も 550人収容の宿泊OK」(『岳南朝日』1988年=昭和63年1月3日付)

「富士急ハイランド ホテルマウント富士 御殿場市キー場 水ヶ塚公園」(『岳南朝日』1988年=昭和63年1月8日付「レジャー情報」)

「水質保全に自主監視 岳排利用の市内企業 マニュアル設け実施」〔富士環境保全協会〕

〔岳南排水路〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年1月12日付）→「[水質規制を強化](#)」（3月20日付）[に関連記事](#)

「スカイライン登山区間が閉鎖 4月まで“雪ごもり”」〔冬期閉鎖〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年1月15日付）

「川と人と『富士川』25選に行く〈6〉甲州三河岸とアクバ（3）繰り返された遭難悲劇今に残る水死者供養塔」〔釜口橋〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年1月15日付）



「富士山を間近に豪快な雪すべり スカイライン・水ヶ塚公園」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年1月20日付）

「扇状地溪岸工事急ピッチ 富士山砂防 源頭部下に調査工も 62年度事業」〔大沢崩れ〕〔富士砂防工事事務所〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年1月20日付）

「旧富士登山道史跡めぐり 資料館で特別展」〔郷土資料館〕〔富士宮郷土史同好会〕〔道者道〕〔『旧富士登山道史跡巡り資料－富士山本宮浅間大社から村山浅間神社まで－』富士宮市立郷土資料館、1988〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年1月21日付）

「全国の『富士』集めシンポ 富士市がPR作戦 今夏、登山ウォークも」〔おらが富士〕〔新富士駅〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年1月22日付）

「富士宮青年会議所理事長に就任した伊藤一芳さん」〔富士総合開発観光〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年1月24日付「人点描」）

「重点地区の整備計画 山麓リゾートで作成」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年1月24日付）

「川と人と『富士川』25選に行く〈7〉富士川舟運の船着き場 問屋や運送店で活気 木材運搬の筏も上り下り」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年1月29日付）▼

「“緑の創造”など提言 富士宮市の植生 9日に最終報告会開く」〔宮脇昭〕〔『富士宮市の植生－緑の実態調査と緑の保全・創造に対する植生学的研究－』富士宮市、1987〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年2月4日付）

「肝心の雪がない！7日から開催予定のスカイライン雪まつり」〔水ヶ塚公園〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年2月5日付「レジャー情報」）

「市立図書館建設地 地下水保全で設計変更 埋め戻し作業に着手」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年2月6日付）

「雪不足で中止に 日程と内容を変更 富士山の雪まつり」〔水ヶ塚公園〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年2月6日付）

「富士山ろくにビジターセンター 民間サイドで誘致 環境庁に要望書提出」〔静岡県自然観察指導員会〕〔近田文弘〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年2月7日付）

「観光協会が体質改善 理事会と二本立て体制 運営委員会新設へ 若手層の参加で変化に対応」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年2月19日付）

「東海一のダルマ市 毘沙門天祭きょう幕開け」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年2月24日付）

「リゾート法指定地域『富士山ろく』に内定 景観、利便性で優位に 県が近く正式に発表」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年3月4日付）

「美しい富士山を世界の人々に 新幹線新富士駅 13日、待望の開業 東京まで1時間15

分 どこからでも富士山バッチリ」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年3月9日付）

「美しい富士山を世界の人々に 新幹線新富士駅 13日、待望の開業へ 駅舎内部施設ご案内 交通アクセス」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年3月11日付）

「新幹線新富士駅きょう開業 岳南地域の発展へ弾み 経済、文化、観光面の振興期待」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年3月13日付）

「水質規制を強化 減らぬ駿河湾のSS」〔富士環境保全協会〕〔スラッジ〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年3月20日付）

「横関家 商業発展の一翼担う 造り酒屋の草分け『枅弥』“庶民の歴史書”『袖日記』も」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年3月20日付「家門と郷土」）▼

「特集 還暦60年迎える身延線 健在！ふるさとレール 山静両県を結ぶ“庶民の足”」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年3月23日付）▼

「“山の春”もうすぐ 富士山スカイライン登山区間 除雪作業がスタート」〔冬期封鎖〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年3月25日付）

「武田信玄と富士宮」〔麓金山〕〔中道往還〕〔大宮城〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年4月8日付「ふるさと再発見」）▼

「多い身近な公害苦情 62年度受理状況 前年度に比べ大幅減」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年4月10日付）

「富士山旧登山道調査も 郷土史同好会が取り組み」〔富士宮市郷土史同好会〕〔村山古道〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年4月12日付）▼

「新五合目になだれ 総合指導センター全壊 富士山 登山区間でも三ヵ所 開通は29日に延期」〔スラッシュ雪崩〕〔富士宮口砂走り〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年4月15日付）▼ →本文中に《昭和五十三年にも表層雪崩が発生、レストハウスを直撃》とあるが同年に雪崩の記事みられず、「周遊道路をクシ刺し」（昭和51年4月11日付のことか

「雪崩の爪痕 富士山新5合目付近」〔スラッシュ雪崩〕〔富士宮口砂走り〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年4月16日付）▼

「復旧作業始まる 富士山の雪崩現場」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年4月16日付）▼

「自然ビジターセンターと博物館を 観察の会が市長に要望書」〔市立博物館構想〕〔富士宮自然観察の会〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年4月17日付）

「総合指導センター再建で協議」〔スラッシュ雪崩〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年4月17日付）

「本殿、拝殿を修理 浅間大社 文化財保存で」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年4月20日付）

「富士山ろく田貫湖 田植えに“水の援軍”29日から延べ19日間放水」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年4月22日付）

「富士山、雪崩の危険 富士宮署 春山登山に注意呼掛け」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年4月23日付）▼ →本文中に《遭難事故の多発した昭和五十四年に積雪状況が酷似している》とあるが、本紙ではそういった記事を拾うことができない

「JR1年の足跡 乗客数、収入とも増 営業努力が実る お座敷列車で団体獲得 定期

利用が大幅減」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年4月27日付）

「登山区間きょう開通 富士山スカイライン」〔冬期閉鎖〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年4月29日付）

「シーズンまでに再建 新五合目の指導センター」〔総合指導センター〕〔スラッシュ雪崩〕〔富士宮口砂走り〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年4月29日付）

「登山区間が開通 富士山スカイライン 冬の名残をとどめ」〔冬期閉鎖〕〔残雪〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年5月1日付）

「三連休初日 行楽客がどっと 朝霧や富士山に車の列」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年5月4日付）

「“表富士は面白い” 新富士駅観光PR 東京駅で大イベント」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年5月4日付）

「天照教に花見客」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年5月7日付）

「富士山で二人死ぬ」〔遭難〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年5月7日付）▼

「県立富士宮北高山岳部『山行』を冊子に 身近でなじみの山を網羅 5年にわたる記録をまとめる」〔『富士山とその南西面の山々－富士宮周辺のやまみち－』杉山雅紀編、静岡県立富士宮北高等学校山岳部、1988〕〔工藤誠志〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年5月11日付）

「富士山で火山機動観測 新五合目など4点で 地震の実態究明も 7月から気象庁」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年5月12日付）

「信玄と『富士山道』 武田軍団の3本の道」〔富士三道〕〔駿州往還〕〔中道往還〕〔沼津往還〕〔塩の道〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年5月13日付「ふるさと再発見」）▼

「“すきんしっぷ富士山”で誘客 東京観光展にぎわう」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年5月18日付）

「富士山でも植樹祭 次代に引き継ぐヒノキ300本」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年5月18日付）

「第一次調査研究報告書『富士宮市の自然』発刊 動植物の実態明らかに 開発、乱獲で危機的状態 環境保全対策、強く提言 保護条例の制定を」〔『富士宮市の自然－富士宮市域自然調査研究報告書－第一次』富士宮市企画部企画振興課編、富士宮市、1988〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年5月21日付）

「富士山麓山の村 建設急ピッチ 宿泊棟は“ロッジ”風」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年5月27日付）

「新穴で洞穴探険 大宮小の自然教室 冒険気分に入り」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年5月29日付「グラフニュース」）

「リゾート（総合保養）地域 県が富士、伊豆北部を選定『県知事の英断に感謝』推進協会長の吉田富士宮市長 国の承認に向け全力」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年5月31日付）

「南ろく道路早期実現を リゾート指定で弾み 国、県へ強力陳情決める 期成同盟会」〔国道469号〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年6月4日付）

「あすから第16回環境週間 22地点で有害物質調査」〔公害〕（『岳南朝日』1988

年＝昭和 63 年 6 月 4 日付)

「湧玉池の水位正常に 7 カ月ぶりで元に戻る 市立図書館工事 埋め戻し完了で復元」  
〔湧玉池水位〕 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 6 月 5 日付)

「富士山も夏姿に“衣替え”大雨上がって全容くっきり」 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 6 月 5 日付)

「富士山クリーン作戦 宮農 23 日に環境美化運動」〔富士宮農業高校〕〔清掃登山〕 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 6 月 5 日付)

「8 月 21 日に一斉清掃 富士山を美しくする会 富士宮口は 700 人が参加」〔富士山をうつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 6 月 15 日付)

「現状維持が課題に 岳南地域地下水利用対策協 枯渇化進む中で」 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 6 月 16 日付)

「芝川のり 分布状況集約へ 本流よりも用水に付着 コンクリート床が好き？」 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 6 月 17 日付)

「山開きを前にクリーン作戦 富士宮農高生 富士山新五合目など 登山道のゴミを一掃」〔清掃登山〕 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 6 月 24 日付)

「緑の砂防ゾーン創出 今年力 3 カ年計画で 扇状地に樹林帯 建設省富士砂防」〔大沢崩れ〕〔富士砂防工事事務所〕 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 6 月 25 日付)

「富士山中腹の種まきに“待った”市議会で疑問提起」〔大沢崩れ〕〔富士山とその霊水を考える会〕〔富士むすび会〕〔阿部英雄〕〔坂本猛〕〔中島信哉〕 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 6 月 25 日付) →「県にも中止指導要望」(7 月 30 日付)に続報

「3 カ所に休憩所整備 富士山スカイライン“八百八沢”の名称看板も」〔高鉢駐車場〕〔七曲がり休憩所〕〔西沢〕 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 6 月 25 日付)

「もうすぐ“お山開き”富士登山ガイド 表口から夏富士ロマン」 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 6 月 26 日付) ▼

「富士登山バス時刻表」 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 6 月 26 日付)

「山頂付近は残雪が多い 土木事務所 富士山富士宮口を調査」〔富士土木事務所〕 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 6 月 26 日付) ▼

「富士山クリーン調査 振興センター 関係機関ときょう登山」〔富士振興センター〕〔富士山をいつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 6 月 28 日付)

「夏山富士同行記 例年より少ないゴミ クリーン意識高まる」 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 6 月 30 日付)

「いよいよ夏山シーズン 富士山クリーン状況調査」 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 6 月 30 日付「グラフ特集」)

「いよいよ夏到来 きょうから七月 山開きでスタート」 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 7 月 1 日付)

「クラシックカーも一番乗り 富士山開きにぎやかに」 (『岳南朝日』 1988 年＝昭和 63 年 7 月 1 日付)

「にぎやかに夏山開き 富士山表富士宮口 バス 3 台で一番乗り」〔クラシックカー〕 (『岳

南朝日』1988年=昭和63年7月2日付)

「富士山の“夏”が到来 お山開きでシーズン開幕」(『岳南朝日』1988年=昭和63年7月3日付「グラフ特集」)

「砂防予算拡大で陳情 富士山治山治水期成同盟 13・15日、関係機関へ」(『岳南朝日』1988年=昭和63年7月5日付)

「富士山の自然、植生を知ろう 保護団体が講演会」〔富士山の自然を守る会〕〔日本野鳥の会〕〔富士宮自然観察の会〕(『岳南朝日』1988年=昭和63年7月5日付)→「『あるがままの富士山を』」(7月15日付)に続報

「『笹塚離』と開発 旧登山道に学(沢田記者)」〔村山古道〕〔大宮新道〕〔スカイライン〕(『岳南朝日』1988年=昭和63年7月5日付「東西南北記者レポート」)▼

「御神火登山の参加者募集」(『岳南朝日』1988年=昭和63年7月6日付)

「鉄舟と2人の弟子 土勝勝太郎、深澤安兵衛 佐野十三郎」〔土屋勝太郎〕(『岳南朝日』1988年=昭和63年7月8日付)→8月21日付「ふるさと再発見」末尾に訂正記事あり

「富士山頂で平和宣言も 朝霧で第4回IYY」〔国際青年年〕(『岳南朝日』1988年=昭和63年7月8日付)

「旧国鉄退職者 全員が再就職—JR富士宮駅 やっと肩の荷おろす 一年二カ月ぶり」〔国鉄民営化〕(『岳南朝日』1988年=昭和63年7月8日付)

「死の富士山ドライブ 姉妹ら五人が死傷 深夜、暴走して木に激突」(『岳南朝日』1988年=昭和63年7月8日付)

「地位も国際的に 富士山頂郵便局 きょうからオープン 国外向けの通信日付印 郵政省が認可」(『岳南朝日』1988年=昭和63年7月10日付)▼

「60<sup>キ</sup>背負い往復 台湾の駱さん、富士山制覇」〔駱高田〕〔変わり種登山〕(『岳南朝日』1988年=昭和63年7月10日付)▼→「親切、大変ありがとう」(9月14日付)に続報

「『あるがままの富士山を』自然と植生で近田氏講演」〔富士山の自然を守る会〕〔日本野鳥の会〕〔富士宮自然観察の会〕〔近田文弘〕(『岳南朝日』1988年=昭和63年7月15日付)→この日の講演詳細は「富士山の高山帯の自然環境」「質疑応答抜粋」(7月22日付)に収録されている

「夏の臨時派出所開設 富士宮署 富士山新五合目と田貫湖に」(『岳南朝日』1988年=昭和63年7月17日付)

「本年度で90%を消化 富士根畑総 来月、視線農道など着工」〔富士根畑地総合整備事業〕(『岳南朝日』1988年=昭和63年7月17日付)

「富士講の『霊地』史跡調査 人穴の石碑群 年代、先達の“戸籍”編さん 富士山資料収集の一環で 市教委 地元も側面から協力」(『岳南朝日』1988年=昭和63年7月17日付)

「随想 村山古道を探る(1) 佐野良」〔小島烏水「不尽の高根」「すたれ行く富士古道」「すたれ行く富士古道」〕〔久保田杏村「富士の古道」〕〔冠松次郎「富士の古道を行く」〕(『岳南朝日』1988年=昭和63年7月20日付)▼▼

「23日から使用再開 雪崩被害の指導センター 復旧工事が完了」〔スラッシュ雪崩〕〔富



土山総合指導センター）（『岳南朝日』1988年＝昭和63年7月21日付）

「富士山の自然を守る会発足 入会を呼びかけ」〔中島信哉〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年7月21日付）

「『富士山を知る講演会』より 富士山の高山帯の修繕環境」〔近田文弘〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年7月22日付）▼

「質疑応答抜すい 特別保護区のない富士山 生態系をかく乱する安易な緑化」〔近田文弘〕〔富士山を知る講演会〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年7月22日付）▼

「富士山室衛生監視」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年7月24日付）

「夏季臨時診療所オープン 富士山表富士宮口八合目に」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年7月24日付）

「富士と琵琶湖結ぶ会 28日に親善訪問団来宮」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年7月24日付）

「岳排の管網を改修 本年度は7億7000万円投入」〔岳南排水路管理組合〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年7月27日付）

「随想 村山古道を探る（2）村山から天照教 佐野良」〔金森安彦〕〔道興准后『廻国雑記』〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年7月27日付）▼▼ →これに加筆して「村山口登山道探査日記」（『月の輪』4号、1989年＝平成元年3月）に再録

「富士山の森林の活用 特色あるリゾート地の形成（雲）」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年7月28日付「論壇」）

「随想 村山古道を探る（3）村山から天照教 佐野良」〔札打場〕〔天照教〕〔鈴木勲〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年7月29日付）▼▼

「県にも中止指導要望 富士山の種入土ダンゴ 市内の自然保護団体」〔富士山とその霊水を考える会〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年7月30日付）▼

「富士五湖の夏祭り 河口湖・湖上祭 西湖・竜宮祭 精進湖・涼湖祭 本栖湖・神湖祭」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年7月31日付）

「山室の衛生状態は良好」〔山室衛生〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年7月31日付）

「日本の道100選に 富士山スカイラインに顕彰碑」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月5日付）

「8日は連番日記念 富士山頂局で押印帳発売」〔山頂郵便局〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月5日付）

「“富士山兄弟”が大集合 8日に1000人余が夜行登山」〔フジ・ムーンロードクライミング〕〔おらが富士〕〔弾丸登山〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月6日付）

「売り出せ！富士山カップ 記念のTシャツ製作 テレホンカードも販売」〔サッカー〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月7日付）

「平均濃度、着実に減少 62年度の大気汚染 環境基準をクリア」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月10日付）

「進む粟倉の農地保全事業 3年目で“半道中”」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月10日付）

「富士山スカイラインに顕彰碑『日本の道100選』指定を記念」（『岳南朝日』198

8年＝昭和63年8月11日付)

「障害者が富士登山 ハンディを克服して ボランティアが協力」〔障害者登山〕(『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月14日付)

「随想 村山古道を探る(4) 天照教社から中宮八幡堂跡へ 佐野良」(『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月18日付) ▼▼→これに加筆して「村山口登山道探査日記」(『月の輪』4号、1989年＝平成元年3月)に再録。ただし本文中、日沢の《右岸》《左岸》を逆に読み替えないと実景と合致しないのだが訂正はない。→ここに出てくる炭焼き窯は村山古道沿いではなく、国土地理院地形図を追跡すると戦後造られた作業道沿いになるのだが、『大宮・村山口登山道』(静岡県埋蔵文化財研究所、平成21年、非公開)はこのルートを採用して調査し、《木馬道として利用されたと見られ、道幅が拡張された可能性があり、明治末期の登山遺跡であると断定できない。》(p.17)としている。

「活性化にとどろき 28日、陣馬の滝祭り」(『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月19日付)

「水難者の霊よ安かれ 芝川町 富士川で恒例の川供養」〔釜口橋〕(『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月19日付)

「随想 村山古道を探る(5) 中宮八幡堂跡 佐野良」(『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月19日付) ▼▼→ほぼ同文が「村山口登山道探査日記」(『月の輪』4号、1989年＝平成元年3月)に再録してある。ただし本文中《南無妙法蓮華經》の石碑文字は《妙法蓮華經》と訂正され、《中宮八幡堂跡はその先き三百メートルにあった。》は《中宮八幡堂跡は、その先五〇メートルにあった。》と書き替えられているがどちらが本当であろうか。『大宮・村山口登山道』(静岡県埋蔵文化財研究所、平成21年、非公開)掲載の《中宮八幡堂(1号遺跡跡)遺構概念図》(p.23)の実測図の現況とも合致しない。

「大宮司富士重本と『芙蓉館塾』大宮町最初の私立学校 富士宮市郷土史研究家 佐野十三郎(つづく)」(『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月19日付「ふるさと再発見」)  
「富士山を美しく あす一斉清掃登山」〔富士山をいつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月20日付)

「大宮司富士重本と『芙蓉館塾』文明の進歩 産業の発展 教育の普及に礎を築く 富士宮市郷土史研究家 佐野十三郎」(『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月21日付「ふるさと再発見」)

「夏山富士の“アカ”一掃 ごみ類760キロを回収 表富士宮口 40団体695人がクリーン作戦」(『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月23日付)

「随想 村山古道を探る(6) 中宮八幡堂調査 佐野良」〔野中至『富士案内』春陽堂、明治34年〕〔横井春野著『最新富士登山案内』正午出版社、大正6年〕(『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月23日付) ▼▼

「富士山頂局大当たり 新企画で収益20%伸びる」〔山頂郵便局〕(『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月26日付)

「水脈のボーリング調査 市、湧玉池の保全対策で」〔湧玉池水位〕(『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月28日付)

「新たにかんがい計画 富士根畑総」〔富士根畑地総合整備事業〕〔畑灌〕(『岳南朝日』1988年＝昭和63年8月28日付)

「“新米先生” 富士山頂に立つ 教師生活に大きな自信」 (『岳南朝日』 1988年=昭和63年8月28日付)

「真夏日、たったの14日間 異常気象を裏付け 富士宮地方の夏」 (『岳南朝日』 1988年=昭和63年8月28日付)

「一集落の全容が解明 月の輪上遺跡発掘調査 市教委」 (『岳南朝日』 1988年=昭和63年8月31日付)

「日本一の汚れた川 湧水を生かすことなく 他市のでつ踏まぬ努力を(木ノ内記者)」 [桂川] (『岳南朝日』 1988年=昭和63年8月31日付「東西南北記者レポート」)

「73・4%が高山病 富士山衛生センター 今夏は579件診察」 (『岳南朝日』 1988年=昭和63年9月3日付)

「火山荒原の植生学ぶ 富士山の自然を守る会 11日にフィールドワーク」 (『岳南朝日』 1988年=昭和63年9月4日付)

「“幻の名著” 復刊 遠藤氏の『富士山—史話と伝説』」 [遠藤秀男] [初版・寺田書店1967年、改訂版・寺田書店1970年、新装復刊・名著出版1988年] (『岳南朝日』 1988年=昭和63年9月6日付)

「全体の半分が放置林 指導機関はてんでこ舞い」 [水源涵養] (『岳南朝日』 1988年=昭和63年9月7日付)

「大宮町の墓地条例 100年前の街づくり 佐野十三郎」 (『岳南朝日』 1988年=昭和63年9月9日付「ふるさと再発見」)

「富士山お中道巡り 富士宮北高が創立記念行事で」 (『岳南朝日』 1988年=昭和63年9月9日付)

「富士大宮司家の墓前祭 26日、ゆかりの人が参列」 (『岳南朝日』 1988年=昭和63年9月11日付)

「夏の観光地総決算 入り込み客は104万人 富士山減り、朝霧高原大幅増」 (『岳南朝日』 1988年=昭和63年9月11日付)

「快調、新幹線新富士駅 開業半年で200万人利用 ビジネス、観光客に定着」 (『岳南朝日』 1988年=昭和63年9月14日付)

「新富士は好調、身延線伸び悩み JR東海静岡支社調べ 天候不順で富士川号の利用者大幅減に」 (『岳南朝日』 1988年=昭和63年9月14日付「ローカル経済」)

「親切、大変ありがとう 富士登頂の駱さんが礼状」 [駱高田] [変わり種登山] (『岳南朝日』 1988年=昭和63年9月14日付)

「村山の歴史研究に新資料 県史編さん室が調査 門外不出の?記録も 大鏡坊の栄華盛衰裏付け」 [若林淳之] (『岳南朝日』 1988年=昭和63年9月17日付) ▼▼

「随想 富士と百歳人生 本源寺天念」 (『岳南朝日』 1988年=昭和63年9月17日付)

「シリーズ 富士宮市西地区今昔散歩(1) 佐野里見」 (『岳南朝日』 1988年=昭和63年9月23日付「ふるさと再発見」)

「今夏の高齢者登山番付 トップ変わらず 103歳の五十嵐さん(福島)」 [五十嵐貞一] (『岳南朝日』 1988年=昭和63年9月23日付) ▼

「富士山の蝶と共に 30余年 富士宮出身 清教諭の研究を出版 山ろくの16種を追跡

無計画な開発に警告」〔『富士山にすめなかった蝶たち』築地書館、1988〕（『岳南朝日』1988年=昭和63年9月27日付）

「亦八郎の遺徳しのぶ 富士大宮司家の墓前祭」 「富士亦八郎」 （『岳南朝日』1988年=昭和63年9月28日付）

「うっすらと雪化粧 富士山8合目以上が初冠雪 昨年より一日早く」 （『岳南朝日』1988年=昭和63年10月1日付）

「シリーズ水、、、1 芝川のりの興亡 水量減り本流絶滅寸前 湧水ジリ減が影響 保護の手も延びず」 （『岳南朝日』1988年=昭和63年10月7日付「視点焦点」）

「湧玉池 が“復活” 降雨で地下水上昇」〔湧玉池水位〕（『岳南朝日』1988年=昭和63年10月8日付）

「360度対策に一步踏み込む 富士山砂防 26億7700万円を投入 ダムと沈砂池メインに」 （『岳南朝日』1988年=昭和63年10月9日付）

「根北の活性化に弾み 県道大坂富士宮線 特殊改良事業が完成」 （『岳南朝日』1988年=昭和63年10月12日付）

「見ごろは月末頃に 富士山の紅葉やや遅れる」 （『岳南朝日』1988年=昭和63年10月13日付）

「シリーズ水、、、2 地場産業の周辺“有効利用”に挑む業界 まず現況調査着手へ」〔富士養鱒場〕（『岳南朝日』1988年=昭和63年10月7日付「視点焦点」）

「新幹線新富士駅 開業後の動向調査 レジャー客が29% 『富士山に目で魅せられて』」（『岳南朝日』1988年=昭和63年10月16日付）

「徳田寛豊と天照教（富士宮市北栗倉）桜田門外の変に加わる 維新後“救世”発起し開教 今三世が遺志を継ぐ 文・小山忠之 写真・宮原勝三」（『岳南朝日』1988年=昭和63年10月18日付「岳麓拾遺1」）▼▼←「岳麓拾遺(22)」(1976年=昭和51年11月20日付)から12年経って「岳麓拾遺1」が再出発、「岳麓拾遺11」(1989年=平成元年7月9日付)まで断続的につづくが、事の経緯は不明である

「水の先覚者恩地養宗 水探し用水掘削 ゆかりの杉田に地元住民が記念胸像 きょう除幕式」〔安養寺〕（『岳南朝日』1988年=昭和63年10月19日付）→恩地養宗の事績については「ルポ 恩地養宗と杉田用水(1)～(4)」(1973年=昭和48年9月20～23日付)に詳しい

「シリーズ水、、、3 管理計画と地下水対策 富士市の挑戦 環境管理計画で南麓保全へ」〔ペーパーラッジ〕（『岳南朝日』1988年=昭和63年10月21日付「視点焦点」）

「随想 御殿庭 岡田収治」 （『岳南朝日』1988年=昭和63年10月23日付）

「シリーズ水、、、4 富士宮市の対応 富士宮市議会の対応 県調査は65年公表」(『岳南朝日』1988年=昭和63年10月28日付「視点焦点」)

「神成と次郎長集落 市境接して 人や物も深い交流」 （『岳南朝日』1988年=昭和63年10月29日付「さんぼ道」）

「富士山の紅葉見ごろ スカイライン沿い錦模様」 （『岳南朝日』1988年=昭和63年10月29日付）

「富士登山4割が女性 五湖観光連盟調査 河口湖は広い客層」 （『岳南朝日』1988年=昭和63年11月1日付「広域圏情報」）

「『富士山麓山の村』が開設 県教委 初代所長に松本氏」〔松本馨〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年11月2日付）

「シリーズ水々々々5 市民の対応 富士山の自然を守る会 9日、総会で“旗上げ”特別保護司区設定を目標に」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年11月5日付「視点焦点」）

「富士山に特別保護区を 自然を守る会が総会 設定する運動展開へ 将来は市外・山梨とネットワークも」〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年11月11日付）

「精進川の二つの古文書〈上〉精進川 渡井家の洗たくばあさん 日興に献身尽くす 寺開創、陰から支え」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年11月12日付「岳麓拾遺2」）

「清掃登山に脱帽 希更山の会の奉仕 市民は自主努力を！佐野記者」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年11月15日付「東西南北記者レポート」）

「緑の砂防ゾーン創出 大沢扇状地に樹林帯 建設省が3カ年計画で着手」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年11月18日付）

「岳麓リゾートは、いま…〈上〉杉山教授が提言：中心円、『特別保護』区に 富士宮と一市四町：民活で内需拡大皮算用」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年11月18日付「視点焦点」）

「天母山法華道場 傘一本で雨風しのぎ…燈明を継承し、81年の歳月」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年11月19日付「精神の旅 岳麓の社寺を訪ねて（61）」）

「富士山、冬化粧 積雪で通行止めも」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年11月20日付「グラフニュース」）

「新宮司に桜井氏 権宮司は土屋氏昇任」〔桜井敏夫〕〔土屋正治〕〔浅間大社〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年11月22日付）

「吉田市町 富士山公園計画で 法的保護に積極発言」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年11月26日付）

「岳麓リゾートは、いま…〈中〉富士川リバーサイドの模索 悩み深い“民活の特定”」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年11月26日付「視点焦点」）

「岳麓リゾートは、いま…〈下〉西ろくの展望『企業のヤル気見極められぬ』構想、なお“闇のなか”」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年12月2日付）

「富士山麓山の村 工事も終盤入り 来春オープンめざし」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年12月3日付）

「精進川の二つの古文書〈下〉朱印状 強かった武田のイキ『知行充行』で根を張る」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年12月4日付「岳麓拾遺3」）

「角田桜岳とその周辺〈上〉江戸遊学、10代で役人に」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年12月11日付「岳麓拾遺4」）

「明治初期の登山ガイド書 富士山奥宮と二等辺三角形の地勢 佐野十三郎」〔富士山表口真面の図＝明治版〕〔土屋勝太郎『富士之葉』〕（『岳南朝日』1988年＝昭和63年12月15日付「ふるさと再発見」）

「村山浅間神社と地ノ理 富士山奥宮と二等辺三角形の地勢 佐野十三郎（おわり）」（『岳南朝日』1988年＝昭和63年12月22日付「ふるさと再発見」）

「富士南ろくのスキー場 日本ランドHOW 雪あそび広場もオープン」〔イエティ〕（『岳

南朝日』1988年=昭和63年12月22日付「レジャー情報」)

## ■ 1989年=昭和64年=平成元年

「鈍角富士 撮影 坂本猛」(『岳南朝日』1989年=昭和64年1月1日付)

「富士山南西麓 水と緑のある風景」〔湧玉池〕〔富士山の水源地〕〔白糸の滝〕〔小田貫湿原〕〔猪野頭地区〕〔陣馬の滝〕〔淀師・渋沢〕〔大中里のヨシマ池〕〔大岩の出水〕〔天子の七滝〕〔安養寺のタブノキ〕〔富士山ブナ原生林〕〔西白塚のミズナラ〕〔白糸を守るケヤキ〕〔猪之頭のカタクリ〕〔朝霧高原〕〔朝霧のカシワ〕〔浅間大社のスタジイ〕〔西山本門寺の杉並木〕〔河辺の緑たち〕(『岳南朝日』1989年=昭和64年1月1日付)

「神田川に清流がもどった 下水道の普及で大幅改善 下川、方辺川もAランク」(『岳南朝日』1989年=昭和64年1月5日付)

「工事、旧市内に拡大 富士砂防360度対策進む」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』平成元年1月10日付)

「公害防止で協定 市と園池製作所が調印 市内では8工場目 実効性に期待」(『岳南朝日』1989年=平成元年1月11日付)

「参入企業の研究会発足 リゾート構想の連合探る」(『岳南朝日』1989年=平成元年1月18日付)

「富士山をテーマに 来月、フジワールドトークイン」〔フジ・ワールド・トークイン〕(『岳南朝日』1989年=平成元年1月18日付)

「火災から村を守る番屋 村山の石原地区 住民総出で伝統行事」(『岳南朝日』1989年=平成元年1月18日付) ▼

「42<sup>キ</sup>の長丁場に挑戦 県立農業学園 登山道などコースに強歩」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1989年=平成元年1月19日付)

「新事務所3月オープン 建設省富士砂防 庁舎改築工事が完成」〔富士砂防工事事務所〕(『岳南朝日』1989年=平成元年1月19日付)

「座談会 いま環境問題を考える 富士山の自然保全と市民の暮らし〈1〉 “開発は最小限にせよ” 森林破壊が災害招く」(『岳南朝日』1989年=平成元年1月19日付)

「座談会 いま環境問題を考える 富士山の自然保全と市民の暮らし〈2〉 周辺自治体で富士山サミットを」(『岳南朝日』1989年=平成元年1月20日付)

「なぜか?いま『富士山』浮上 郷土の誇りは富士山とお茶 静岡総研が富士山意識調査」〔静岡総合研究機構〕〔フジ・ワールド・トークイン〕(『岳南朝日』1989年=平成元年1月20日付)

「座談会 いま環境問題を考える 富士山の自然保全と市民の暮らし〈3〉 既存の自然に合った防災を」(『岳南朝日』1989年=平成元年1月21日付)

「富士宮市 駅前開発に更新計画 年度内に基本計画策定」(『岳南朝日』1989年=平成元年1月22日付)

「座談会 いま環境問題を考える 富士山の自然保全と市民の暮らし〈4〉 古老含めた審議会を」(『岳南朝日』1989年=平成元年1月22日付)

「座談会 いま環境問題を考える 富士山の自然保全と市民の暮らし〈5〉 古老含めた審議会を」(『岳南朝日』1989年=平成元年1月24日付)

「富士南ろく道路建設 実施へ一歩前進 用地取得で説明会開催 県、本年度予算に5億円計上」〔国道469号〕(『岳南朝日』1989年=平成元年1月25日付)

「座談会 いま環境問題を考える 富士山の自然保全と市民の暮らし〈6〉 環境行政の一本化を」(『岳南朝日』1989年=平成元年1月25日付)

「座談会 いま環境問題を考える 富士山の自然保全と市民の暮らし〈7〉 野放しの公園管理計画」(『岳南朝日』1989年=平成元年1月27日付)

「近藤家 粟倉400年の原点築く 甲斐より来て開墾 村政と教育に貢献」(『岳南朝日』1989年=平成元年1月28日付「家門と郷土」) ▼

「富士山で冬山訓練 富士宮署 遭難救助や搬送に汗」(『岳南朝日』1989年=平成元年1月28日付)

「大宮町の町立図書館 県内一(自治体)の蔵書でスタート 佐野十三郎(つづく)」(『岳南朝日』1989年=平成元年2月2日付「ふるさと再発見」)

「富士山の植生で講演 増沢静大助教授」〔富士砂防工事事務所〕〔富士山治山治水期成同盟会〕〔増沢武弘〕(『岳南朝日』1989年=平成元年2月4日付)

「角田桜岳とその周辺〈中〉不毛の地開墾に情熱 万野用水と万農庵と… 文・小山忠之」(『岳南朝日』1989年=平成元年2月4日付「岳麓拾遺」)

「富士山生かした地域づくり フジ・ワールド・トークイン 共同宣言を確認閉幕」(『岳南朝日』1989年=平成元年2月5日付)

「『富士山』はひとつ フジワールドトークインから」〔フジ・ワールド・トークイン〕」(『岳南朝日』1989年=平成元年2月7日付「東西南北 記者レポート」)

「大宮町の町立図書館 晴れの文部大臣表彰 佐野十三郎(おわり)」(『岳南朝日』1989年=平成元年2月9日付「ふるさと再発見」)

「角田桜岳とその周辺〈下〉地球儀と人脈と 交友から知識深める 文・小山忠之」(『岳南朝日』1989年=平成元年2月11日付「岳麓拾遺6」)

「標高上昇…熟度不明…時間不足 リゾート山ろくゾーン 議会に強い懸念感 富士宮市」(『岳南朝日』1989年=平成元年2月15日付)

「ことしこそ富士山シンポ 富士山の自然を守る会 今秋を目標 環境マップ作成も」〔富士山全国シンポジウム〕(『岳南朝日』1989年=平成元年2月17日付「視点焦点」)

「大沢砂防に新拠点 建設省富士砂防工事事務所 関係者が出席、落成式」(『岳南朝日』1989年=平成元年3月1日付)

「上旬からキャラバン 市観光協会誘客作戦 大都市で観光展も」(『岳南朝日』1989年=平成元年3月3日付)

「安養寺第22世 恩智養宗(おんちようそう)の周辺〈上〉赴任の背景 文・小山忠之」(『岳南朝日』1989年=平成元年3月5日付「岳麓拾遺」)

「木本初蔵と教育雑誌 改題重ねて刊行 中江兆民の寄稿も 加藤善夫」〔『岳麓之友』〕〔『富士山』〕〔『扶桑』〕(『岳南朝日』1989年=平成元年3月9日付「ふるさと再発見」)

「有機塩素系溶剤 大宮水源からも検出 隣接の湧玉池でも 暫定基準を下回る微量だが

…」〔地下水〕〔公害〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年3月11日付）

「対応の遅れに批判 有機塩素系溶剤検出 市議会予算委で追及」〔地下水〕〔公害〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年3月15日付）

「知られざる27番札所－明星山大悟庵 いまも巡礼者の姿 加々美和博」〔十一面観音絵図〕〔駿河一國三十三カ所〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年3月16日付「ふるさと再発見」）

「山ろくゾーン見送り リゾート重点指定 当局、市議会全協で報告」（『岳南朝日』1989年＝平成元年3月17日付）

「『土屋勝太郎伝』を出版 佐野十三郎氏 発掘した新資料も紹介」〔『史実 土屋勝太郎伝』佐野十三郎著、土屋松堂会編、緑星社出版、1989年〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年3月25日付）→「[土屋翁の人物像浮き彫り](#)」（4月8日付）[に関連記事](#)

「機能性重視、蔵書数は15万冊 新市立図書館あすオープン」〔富士宮市立中央図書館〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年3月28日付）

「来月中旬にオープン 富士山スカイライン 登山区間の除雪始まる」〔冬期閉鎖〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年3月28日付）

「暮らしにジワリ あすから消費税施行 富士山スカイライン↑」（『岳南朝日』1989年＝平成元年3月31日付）

「有機塩素系溶剤 汚染防止の徹底期す 市、使用の23社に文書指導」〔地下水〕〔公害〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月4日付）

「“水がめ”の保全に関心 朝霧の環境マップ作成調査」〔朝霧高原〕〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月4日付）

「安養寺22世 恩智養宗の周辺〈中〉 隧道開さく…① 文・小山忠之」（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月6日付「岳麓拾遺8」）

「音止の滝の景観よみがえる 自然石を使い“傷跡”修正 壁面にツタ類植生」（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月6日付）

「富士山管理に高まる関心 総合管理センター ビジターセンター 富士山博物館」〔市立博物館構想〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月7日付「視点焦点」）

「土屋翁の人物像浮き彫り 佐野さんの労作を出版」〔土屋勝太郎〕〔佐野十三郎〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月8日付）

「翔く、表富士工業団地 あす待望の竣工式 組合加盟14社のプロフィール」（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月8日付）

「節水型社会移行を提言 富士宮市 水需給計画の報告書作成」〔地下水〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月13日付）

「南麓道路、動き出す 一部で伐採作業も 用地交渉が本格化」〔国道469号〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月13日付）

「幻の村山登山道、今ふたたび 郷土史同好会が調査 ルートの8割突き止める 歴史的資料裏付ける遺跡も発見 保存整備の声も」〔村山古道〕〔富士宮市郷土史同好会〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月13日付）▼▼ →「[町名、登山道（村山口）調査報告も](#)」（5月11日付）[に関連記事](#)

「村山古道を探る 富士宮市郷土史同好会調査部会 佐野良」〔冠松次郎〕〔馬頭観世音〕



〔八大龍王〕〔水神祠〕〔井戸跡〕〔木馬道の橋〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月15日付）▼▼→この記事の前半は加筆されて「村山口登山道探査日記」（『月の輪』4号、1989年＝平成元年3月）に再録され、後半4月5日の探査行記事は「村山口登山道探査日記 その二」（『月の輪』5号、1990年＝平成2年5月）に再録されている。なお、本文中《以前一人できた時、ここに木馬のための橋につかった材木があったことを思い出した。》という一文は貴重な記録である。かつて日沢のこの部分、左岸の高みには貯木場地形が残っており、ここから右岸の八幡堂前に木馬道の橋が架かっていたことを示唆している。

「正式に実行委発足 東部地区の自然保護団体 今秋、富士山シンポ」〔富士山の自然を守る会〕〔富士山全国シンポジウム〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月20日付）  
「新しい販売所が完成 富士宮農民市場組合 手づくり食品研究所も併設 5月1日に落成記念『ふる里創生祭』」（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月25日付「ローカル経済」）→「新即売所落成祝う」（5月2日付）に続報

「登山ルート28日開通決まる 富士山スカイライン除雪終了」（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月27日付）

「源頼朝と安居山郷土 浅間大社やぶさめの由来 佐野十三郎」（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月27日付「ふるさと再発見」）

「新五合目へ一番乗り 富士山スカイライン 登山区間オープン」（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月29日付）

「GW スタート 富士山、北部行楽地に人出」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年4月30日付）

「初めて落葉樹を 営林署が富士山で植樹祭」（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月2日付）

「富士山で遭難相次ぐ 一人死亡、一人は自力で下山」〔中村将〕〔木村茂夫〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月2日付）▼

「会社員、富士山で行方不明」〔遭難〕〔前田祐男〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月2日付）▼

「田貫湖畔で身元不明の自殺体」（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月2日付）

「新即売所落成祝う 農民市場 ふるさと創世祭開く」（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月2日付）

「軽装登山をやめよう 遭難続出で緊急呼びかけ 富士山」（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月3日付）▼

「行方不明は2人に 悪天候で捜査打ち切る」〔遭難〕〔前田祐男〕〔古源弘〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月3日付）▼

「GW、新緑求めどっと 山ろくにぎわう 主要幹線はノロノロ運転」（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月4日付）

「富士山行方不明の捜索中止」〔遭難〕〔前田祐男〕〔古源弘〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月4日付）▼

「郷土史同好会が7日に総会開催」〔富士宮市郷土史同好会〕〔村山古道〕〔『月の輪』〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月5日付）

「遭難の2遺体収容 富士山 行方不明の登山者」〔前田祐男〕〔古源弘〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月7日付）▼

「田貫湖の山林で自殺死体発見」（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月7日付）

「初の農薬水質検査 市が3系統を一括して」〔水質汚染〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月9日付）

「溶岩樹型群の保護訴え 鳴沢村・渡辺さんが報告書」〔ジラゴンノ丸尾〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月9日付「広域圏情報」）

「お疲れ様、GW終わる 天候不順で前年並み 富士山ろく行楽地の決算」（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月9日付）

「富士山で3人死亡」〔遭難〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月9日付）

「石造仏学習や登山道探索会 郷土史同好会が事業計画」〔村山古道〕〔富士宮市郷土史同好会〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月9日付）

「河川、湧水などの水質検査 農薬の硫黄、塩素系も」〔水質汚染〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月10日付）

「富士川河口 野鳥の“宿場”守ろう 行政区域越え保護運動 阿部さん（野鳥の会富士宮支部長）らの訴え実る」〔阿部英雄〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月10日付）

「富士山シンポ 10月28、29日に開催 基調提案に近田教授」〔富士山全国シンポジウム〕〔近田文弘〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月11日付）

「町名、登山道（村山口）調査報告も 郷土史同好会誌『月の輪』」〔村山古道〕〔廃仏毀釈〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月11日付）

「春山遭難は防げるか 今シーズン死者3人“自由登山”止める手なし 完全装備でも滑落死 なお積雪、雪崩の恐れ」（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月12日付「視点焦点」）

「伸びよキハダ 富士山で植樹祭」〔静岡営林署〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月13日付）

「安養寺22世 恩智養宗の周辺〈下〉寺追放の前後 寺追われても異常な執念 浮島沼排水構想 文・小山忠之」（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月13日付「岳麓拾遺9」）

「井戸の水質検査を 汚染に自己防衛 市が指導に乗り出す」〔地下水汚染〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月14日付）

「田植えに“水の援軍” 田貫湖の放水本番入り」（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月14日付）

「23日から治山パトロール 富士地区132施設の危険度調査」（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月19日付）

「新たにかんがいも 富士根畑総に加える 平成3年度までに完成」〔富士根畑地総合整備事業〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月20日付）

「貨物船の大型化に対応 田子の浦港 中央港湾審が改修決定」（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月21日付）

「クリーン作戦を協議 富士山を美しくする会」〔富士山をいつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月23日付）

「講師に蝶研究者清氏 富士山の自然を守るフィールドワーク 朝霧の自然を観察」〔朝

霧高原〕〔富士山の自然を守る会〕〔清邦彦〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月23日付）→「富士山の自然を守ろう」（5月30日付）、「底なし沼に驚きのこえ」（6月2日付）に続報

「治山パト始まる 雨期を前にチェック 2市1町 23地区133カ所が対象」〔治山パトロール〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月24日付）

「企業誘致は非用水型で 市が方針」〔地下水〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月24日付）

「天然林を復活 富士山に広葉樹試験地『択伐』したあとに計画植樹 静岡営林署」〔拡大造林〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月25日付）

「有機塩素系溶剤 3社で7割を占める 市内工場の使用量 富士宮市調べ」（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月26日付）

「静かな静かなベストセラー『もういりません!!ゴルフ場』農薬、水…生態系の危機訴える」〔日本消費者連盟〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月26日付「視点焦点」）

「治山パトロール 荒れる山に谷止め工 緩衝植林で補完 県農林事務所 芝川町瓜島の現場から」（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月26日付「視点焦点」）

「汚れた山のイメージから脱却 富士山を美しくする会 一斉清掃は8月20日 ゴミ持ち帰り運動も徹底」〔富士山をいつまでも美しくする会〕〔清掃登山〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月26日付）

「富士宮地方に降ヒョウ 雨量も100<sup>3</sup>記録」〔豪雨〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月27日付）

「大沢砂防に27億円配分 平成元年度予算 建設省の直轄事業」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月28日付）

「富士山スカイライン 夏の渋滞緩和策 駐車場案内チラシ配布 上高地方式は検討課題に 最盛期は24時間交通整理も」（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月28日付）

「鉄道・団体は1・8%減 63年度の学会輸送実績」〔創価学会〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月28日付）

「富士山の自然を守ろう 朝霧を舞台にフィールドワーク『こんな所にゴルフ場とは…』」〔富士山の自然を守る会〕〔朝霧高原〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月30日付）

「富士山信仰を調査研究 エアハート教授（米国）が来宮 村山、山宮浅間神社を視察」〔村山修験〕〔山宮講〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月31日付）

「五郎十郎の供養祭 久沢の曾我寺で盛大に」〔曾我兄弟〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年5月31日付）

「緊急復旧は1カ所 治山パトロール 9カ所で異常発見」（『岳南朝日』1989年＝平成元年6月1日付）

「底なし沼に驚きのこえ 朝霧フィールドワーク 富士山らしさが後退」〔富士山の自然を守る会〕〔朝霧高原〕〔清邦彦〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年6月2日付「視点焦点」）

「遭難事故続出の春山泰作も 遭対協が総会」〔山岳遭難防止対策協議会〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年6月3日付）

「浙江省交流団が農民市場を視察 生産供給システムに感心 友好団体の姉妹探しも」

(『岳南朝日』1989年=平成元年6月3日付)

「大沢砂防堤に壁画誕生 昆虫や汽車など色鮮やかに 市内児童の力作、秀作がズラリ」

〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月4日付「ワイドがくえん」)

「気がかりな異常積雪 県土木事務所 富士山にパトロール隊」〔残雪〕〔登山道補修〕

(『岳南朝日』1989年=平成元年6月4日付)

「朝霧のコスモス街道を整備」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月4日付) →[反対運動に発展、「コスモス種まき今年度は中止」\(6月10日付\) 続報](#)

「座談会 公害から自然保護へ 暮らしの中の環境問題①“東電火力”が発端に 地域で反公害運動 富士、富士宮に『市民協』」〔東電富士川火力発電所建設反対連絡協議会〕

〔公害対策市民協議会〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月7日付)

「小委員会を設置 富士山シンポの準備進む」〔富士山全国シンポジウム〕(『岳南朝日』

1989年=平成元年6月8日付)

「初のお山開きフェステ 目玉にミス富士山コンテスト 大金剛杖<sup>パレト</sup>や旧登山道探訪も」〔富士山お山開きフェスティバル〕〔富士山表口開山祭〕〔村山古道〕(『岳南朝日』

1989年=平成元年6月8日付)

「座談会 公害から自然保護へ 暮らしの中の環境問題②見えてからでは遅い」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月8日付)

「座談会 公害から自然保護へ 暮らしの中の環境問題③見えてからでは遅い」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月9日付)

「富士山のブナと語ろう 来月、全国一斉観察」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月9日付)

「テトラクロロエチレン 県が2月調査 民家井戸3本から検出 基準値上回る例も」〔有機塩素系〕〔地下水汚染〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月10日付「視点焦点」)

「座談会 公害から自然保護へ 暮らしの中の環境問題④反公害で科学する 告発型から保護運動へ」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月10日付)

「大沢扇状地を視察 土木技術者女性の会」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月10日付)

「コスモス種まき今年度は中止 富士宮市 根原国道沿い 除草剤にクレーム 自然保護団体の関係者 外来種にも反発」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月10日付「視点焦点」)

「博物館構想、初の議題に 富士宮市文化財審 事前準備へ気運高まる」〔市立博物館構想〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月11日付)

「座談会 公害から自然保護へ 暮らしの中の環境問題⑤市民意識の広がり」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月11日付)

「渋沢遺跡発掘報告書で発表『渋沢式土器』(仮称)を提唱 東西交流の接点 独自の文化もつ 弥生時代のれい明期 稲作ルート明らかに」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月11日付)

「水需給計画の策定へ 利用率引き上げ目標に 富士宮市 初の手づくり作業で」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月14日付)

「若宮遺跡解明に手掛かり 好対照の小松原A遺跡 市教委が調査報告書 貴重な新資料

を提供」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月15日付)

「文化財保護審 博物館建設で提言 特性、中味の論議を」〔市立博物館構想〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月17日付)

「粟倉農地保全が進展 生産と環境改善に貢献」〔粟倉農地整備事業〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月17日付)

「中野信成(黒田)の周辺〔上〕 天狗党 総裁の一人に 小山忠之」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月17日付「岳麓拾遺10」)

「池の水は“40歳”湧玉池調査・土教授が報告 保全の適正利用計画必要」〔湧玉池水位〕〔土隆一〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月20日付)

「農高生が富士山清掃」〔富士宮農業高校〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月21日付)

「富士山の自然林 ブナと語ろう会」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月21日付)

「楽観許されぬ水資源 新たな需要増に対処 工業団地やFRC構想で」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月22日付)

「遭対協あす登山 富士山 積雪状況など調査」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月22日付)

「“富士山再発見”で募集 山開きフェスタ」〔富士山お山開きフェスタバル〕〔富士宮市郷土史同好会〕〔村山古道〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月22日付) ▼

「富士山安全登山のチラシ作製 五口協議会」〔富士山五口協議会〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月23日付)

「宮農生がクリーン作戦 開山前の富士山新5合目」〔富士宮農業高校〕〔清掃登山〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月23日付)

「能『富士山』を観てー富士宮招演、二つの壁 菊川勇」〔観世流〕〔金春流〕〔金剛流〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月24日付)

「富士山開きに“待った”6合目以上を立入禁止 残雪で異例措置決める」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月24日付)

「山開きを前に大金剛杖奉納 建築専門学校と富士森林組合」〔日本建築専門学校〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月25日付)

「冬山なみの富士山」〔残雪〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月25日付「グラフ特集」)

「異常残雪の夏山富士 対応に追われる関係者 計画変更や様子待ち」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月27日付)

「7月1日山開き特集 富士山、雪の山開き 記録的積雪『安全登山』呼びかけ」〔残雪〕(『岳南朝日』1989年=平成元年6月29日付) ▼

「山室施設」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月29日付)

「『管理の徹底を期せ』有機塩素系溶剤保管で45工場に文書発送 富士宮市」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月28日付)

「夏山クリーンの横断幕を掲出 ライオンズクラブ」(『岳南朝日』1989年=平成元年6月29日付)

「新五合目に立て看板 6合目以上入山禁止で注意」〔残雪〕(『岳南朝日』1989年

＝平成元年3月30日付)

「ツツガムシ病について 野山や河川敷では注意を」(『岳南朝日』1989年＝平成元年6月30日付)

「随想 富士の間 安田竹よ」(『岳南朝日』1989年＝平成元年6月30日付)

「砂防財源拡大求め 富士治山治水期成同盟が総会」〔大沢崩れ〕〔富士山治山治水期成同盟会〕(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月1日付)

「きょうから7月 本格的な夏到来 富士開山、参院選挙も」(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月1日付)

「イベントは多彩に きょうお山開きフェステ 『大宮市』やミス公開審査」〔富士山お山開きフェステバル〕(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月1日付)

「頂上の積雪152センチ 新五合目で事故防止呼び掛け」〔残雪〕(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月1日付)

「富士山が山開き 雪解け祈りながら…華やかにフェステバル」〔富士山お山開きフェステバル〕(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月2日付)

「盛大にお山開き」(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月2日付「グラフ特集」)

「公害の組織強化を 水と緑特委 中間報告で鋭い提言」(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月4日付)

「宝永火口～御殿庭 第3回富士山フィールドワーク 16日、増沢静大助教授が案内」〔増沢武弘〕(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月4日付)

「初代ミスに小泉さん ミス富士山コンテスト 公開審査で選ばれる」〔小泉まり枝〕(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月4日付)

「山頂は一面残雪 富士山表口 開山後の状況調査」(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月5日付) ▼

「芝川のりを保護 今月末、3回目の調査」(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月6日付)

「静岡茶 新5合目中心に宣伝 23日登山客に売り込む」(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月7日付「ローカル経済」)

「入り込み客がダウン 昭和63年度市内観光地 前年比4・9%減る」(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月8日付)

「豊かな収穫祈り 古式ゆかしくお田植え祭」(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月8日付)

「3回目の富士山残雪調査」(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月8日付) ▼

「富士山新五合目に白骨死体」(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月8日付)

「『水と緑』特別委中間報告 豊富な水でも汚れてはだめ 勢力的な調査を継続 質量とも“水の都”たれ」〔地下水〕(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月8日付「視点焦点」)

「お田植祭 豊かな実りを祈願」(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月9日付「グラフニュース」)

「中野信成(黒田)の周辺〔下〕医師中西周道と出あうー充実した“第二の人生”小山忠之」(『岳南朝日』1989年＝平成元年7月9日付「岳麓拾遺11」)

「私の生きた富士山 東小PTA 藤村さん迎え講演会」〔藤村郁雄〕〔富士山測候所〕  
（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月9日付）

「さらに守りを固く 湧玉を美しくする会 17日、総会を開く」（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月11日付）

「ようこそ富士山へ 駅へ案内ポール設置」（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月11日付）

「お中道とシャクナゲ林 自然観察の会がハイク」（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月11日付）

「小泉で井戸が汚染 トリクロ等県調査 8月に原因究明へ」〔地下水汚染〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月12日付）

「大沢砂防など重点に 富士治山治水期成同盟会 陳情日程など決まる」〔大沢崩れ〕〔富士山治山治水期成同盟会〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月13日付）

「富士登山“解禁”を検討 残雪のない道をう回？ 富士宮口、一両日中に結論」（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月14日付）▼

「塩素系3物質 全容ほぼつかむ 富士宮市が集中調査 トリクレン使用工場は大幅減」〔地下水汚染〕〔有機塩素系溶剤〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月14日付）

「郷土資料収集の協力呼びかけ 富士宮市教委 農具、生活用具、古文書、書籍など」（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月14日付）

「下旬に山室の一斉監視」〔山室衛生〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月15日付）

「富士山と水と緑を特集 季刊『わがまち』発売」（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月15日付）

「21日“解禁”メドに準備 市観光課 富士登山 まず安全対策重点に」（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月16日付）▼

「郵便局 一足早く“里”で店開き 局内に山頂局臨時出張所」（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月16日付）▼

「行政の力借り対処 湧玉池を美しくする会」（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月18日付）

「あすから波状陳情 富士治山治水の予算獲得」〔富士山治山治水期成同盟会〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月18日付）

「火口に緑の壮大なドラマ 富士を守る会フィールドワーク 自然の聖域を歩く」〔富士山の自然を守る会〕〔宝永火口〕〔増沢武弘〕〔パッチ〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月18日付）

「小泉南部の井戸調査 来月、集中的に実施 有機塩素系溶剤 汚染の有無や分布解明」〔地下水汚染〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月19日付）

「県国際農友会が親善富士登山 外国研修生と共に」（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月19日付）

「富士登頂あす規制解除 富士宮口は受け入れOK 御殿場口は規制を続行 九合五勺からう回」〔残雪〕〔ブル道〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月20日付）▼

「自然を次代へ、テーマに 富士山全国シンポ要項発表」〔富士山全国シンポジウム〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年7月20日付）

「重油使用量連続 10 万台記録 環境基準はクリア 63 年度の大気汚染 硫黄酸化物排出量は微増」 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 7 月 21 日付)

「荒れ地対策に細々と陸稲栽培」〔農林 1 号〕 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 7 月 21 日付)

「山の子ガッカリ 続く火山活動に配慮 山宮小の網代小交流 今夏は中止決める」〔伊東沖海底火山〕 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 7 月 22 日付)

「山頂郵便局きょうオープン 富士登山客に業務サービス」 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 7 月 23 日付)

「市内ゴルフ場対象に 農薬アンケート 富士宮市 種類、使用量など把握」 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 7 月 26 日付)

「歴史や自然、伝説など集約 遠藤秀男氏『富士よもやま話』“環境保全”にもメス」〔『富士山よもやま話』静岡新聞社、平成元年〕 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 7 月 26 日付)

「芝川のり、今年は“豊作” 水量が豊かで生育順調 市が芝川水系で分布調査」 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 7 月 27 日付)

「児童生徒交歓会 “富士宮市へようこそ” 近江八幡児童生徒が来宮」 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 7 月 27 日付)

「農業学園生が富士登山 協力意識と気力を養う」 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 7 月 28 日付)

「衛生状態、概ね良好 富士山の山室監視」〔山室衛生〕 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 7 月 29 日付)

「大気汚染は低位固定化 63 年度公害調査まとめ 酸性雨 3 回も測定『なお厳しい監視必要』市公害対策」 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 7 月 29 日付「視点焦点」)

「産業活性化めざして 初の酪農講座開く 富士根北公民館」 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 7 月 29 日付)

「進展する南ろく道路 今秋から一部着工 富士宮側が“一步先行”」〔国道 469 号〕 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 7 月 30 日付)

「健康県 PR に富士登山 衛生部、保健所 斉藤知事のお声がかり」 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 7 月 30 日付) ▼

「夏空に稜線くっきり 登山シーズンたけなわ」〔残雪〕 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 8 月 1 日付)

「夏まつり、あす開幕『御神火』を皮切りに 商店会も独自のイベント」 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 8 月 3 日付)

「聖域登山でスタート 富士宮夏まつり 今夜、勇壮神田川昇り」 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 8 月 5 日付)

「芝川のり 復活へ光再び 水質、水量保全のバロメーターにも メカ解明に当局動く」 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 8 月 5 日付「視点焦点」)

「5 日は『タクシーの日』富士宮地区走り続けて 77 年 タクシー物語」 (『岳南朝日』 1989 年=平成元年 8 月 5 日付「話題'89」) ▼

「小泉南部 有機塩素系物質の検出で 富士宮市 水汚染の有無を調査 民家、工場の井



戸 18 ヲ所」〔地下水汚染〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月11日付）

「講師に観世栄夫氏も 富士山シンポ準備進む」〔富士山の自然を守る会〕〔富士山全国シンポジウム〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月13日付）

「シンポに向け公開学習会」〔富士山の自然を守る会〕〔富士山全国シンポジウム〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月15日付）

「芝川の釜口橋で施餓鬼供養 水難者の慰霊祭」（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月15日付）

「神田川 今年も川ノリを確認 清流回復の証明に」〔芝川のり〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月18日付）

「“霊安かれ”と…釜口橋で施餓鬼供養」（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月19日付）

「芝川のり 分布広く量豊か 市が調査結果まとめ」（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月19日付）

「村山で農地保全計画 平成2年度採択に向け調査」（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月20日付）▼

「ゴミ、相変わらず 富士山清掃で3トンの回収 曲がり角にきたクリーン作戦」〔富士山をいついまでも美しくする会〕〔清掃登山〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月22日付）

「これでも国立公園？」〔クリーン作戦〕〔富士山をいついまでも美しくする会〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月22日付「グラフ特集」）

「潤井川で生息生物調査」〔公害〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月22日付）

「大沢峡谷部の資材運搬 空輸やめ地上輸送に 年度内に手法詰める 景観保全して新ルート 建設省富士砂防事務所」〔大沢崩れ〕〔富士砂防工事事務所〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月23日付）

「下流部は旧態依然 潤井川の水生生物調査結果」（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月23日付）

「富士山山林内に白骨死体」（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月24日付）▼

「3万トンの灰を処分 粟倉で埋却作業」（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月24日付）▼

「環境保全で現地視察 市議会『水と緑』特委 水資源や農薬問題」（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月25日付）

「山静・富士山ろく“自殺の名所”は困ります！ 今年はまだ5体 富士宮署管内 青木ヶ原樹海は8体 発見は氷山の一角」（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月26日付）▼

「洞穴の神秘を体感 教諭らが野外活動研修 『犬涼山洞穴群』（『岳南朝日』1989年＝平成元年8月27日付「グラフニュース」）▼

「富士山一合目に15年 自然の尊さを肌で 前島多喜子さん 文・片岡伸行」〔ピカ表富士〕〔グリーンキャンプ場〕〔二合目湧水〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年9月1日付「金曜版リフレ」）▼

「今夏の観光地総決算 全体で前年比2・5%減 富士山、異常残雪が響く」（『岳南朝日』1989年＝平成元年9月1日付「金曜版リフレ」）▼

日』1989年＝平成元年9月7日付) ▼

「林道などに被害続出 連日の大雨で路面流出」〔豪雨〕(『岳南朝日』1989年＝平成元年9月7日付)

「都民にスキッププレゼント 富士宮市観光教会 秋の富士山ろく誘客作戦」(『岳南朝日』1989年＝平成元年9月8日付)

「大半は高山病と頭痛 今夏の富士山衛生センター 100人に2人が診療」(『岳南朝日』1989年＝平成元年9月8日付) ▼

「夏の無事に感謝 浅間大社で閉山奉告祭」(『岳南朝日』1989年＝平成元年9月8日付)

「富士砂防直轄20年 下流対策ほぼ完成 扇状地貯留能力150万トに 主力、上流部へ移行」〔大沢崩れ〕〔富士砂防工事事務所〕(『岳南朝日』1989年＝平成元年9月9日付「視点焦点」)

「大泉寺－中里山－鎌倉を結ぶルーツ 極楽の森と日蓮祖師像」(『岳南朝日』1989年＝平成元年9月9日付「話題'89」)

「除草剤、県平均上回る ゴルフ場の農薬使用調査 殺虫・殺菌剤は少ない」(『岳南朝日』1989年＝平成元年9月12日付)

「大沢と御中道見学 富士砂防で参加者募集」〔大沢崩れ〕〔富士砂防工事事務所〕〔お中道〕(『岳南朝日』1989年＝平成元年9月19日付)

「湧玉池の汚染濃度上昇 大岩の湧水からも検出 有機塩素系3物質 市、さらに継続調査へ」(『岳南朝日』1989年＝平成元年9月20日付)

「台風一過」(『岳南朝日』1989年＝平成元年9月21日付)

「月の輪上遺跡B地区 弥生時代集落の外縁部 ムラの形成解明に期待」(『岳南朝日』1989年＝平成元年9月21日付)

「大宮司家の業績しのぶ おごそかに墓前祭」(『岳南朝日』1989年＝平成元年9月27日付)

「大沢崩れ源頭部を視察 記者たちに鋭い宿題」(『岳南朝日』1989年＝平成元年9月29日付)

「月の輪上遺跡B地区 密度の濃い大集落を立証 特殊な倉庫跡二棟も『ムラ』の形成解明に手がかり」(『岳南朝日』1989年＝平成元年10月1日付)

「富士五湖が異常増水 本栖湖では道路が一時冠水」(『岳南朝日』1989年＝平成元年10月8日付「グラフ特集」)

「田貫湖の観光整備進む メーンの道路完成 駐車場拡張、銀輪コースも計画」(『岳南朝日』1989年＝平成元年10月6日付)

「小田貫湿原整備事業 木道建設に近く着工 年度内に全面完成」(『岳南朝日』1989年＝平成元年10月7日付)

「富士山麓山の村中心に 29日、市民歩け歩け運動」(『岳南朝日』1989年＝平成元年10月7日付)

「月の輪上遺跡B地区 壺が大量に出土 焼けた竪穴式住居跡から 工房跡の可能性も土器時代に貴重な資料」(『岳南朝日』1989年＝平成元年10月12日付)

「富士山に強い関心 お中道めぐりに申込み殺到」〔大沢崩れ〕〔富士砂防工事事務所〕

(『岳南朝日』1989年=平成元年10月13日付)

「湧玉池汚染源を断つ 市、追跡調査で確認 有機化学溶剤 水系の使用はゼロに」〔地下水汚染〕(『岳南朝日』1989年=平成元年10月19日付)

「湧玉池汚染の追跡“観測井特設”の声も」〔地下水汚染〕(『岳南朝日』1989年=平成元年10月21日付)

「多角的な富士山砂防 ダムから樹林帯まで 27億円の予算を投入」〔大沢崩れ〕〔富士砂防工事事務所〕(『岳南朝日』1989年=平成元年10月21日付)

「理科同好会 大沢に在来7種まく 植生調査を開始」〔大沢崩れ〕〔富士宮市理科同好会〕(『岳南朝日』1989年=平成元年10月24日付)

「アウト・ドア 田貫湖、大倉川周辺はこれから」〔紅葉〕(『岳南朝日』1989年=平成元年10月26日付)

「特集 富士山全国シンポジウムー日本の聖域 富士山の自然を次代へー富士宮で全国集会」(『岳南朝日』1989年=平成元年10月26日付)

「自然に親しみ強歩 富士宮北高 登山道などコースに」〔村山浅間神社〕〔天照教〕〔林道裾野線〕〔スカイライン〕(『岳南朝日』1989年=平成元年10月26日付)

「富士山シンポ開幕“人と自然の共生”追求 日本の縮図に科学のメス 荒れる富士に驚き シンポ参加者有志 新5合目で“勉強会”『ブナ林を壊すな』参加者らが憂える声」〔富士山全国シンポジウム〕(『岳南朝日』1989年=平成元年10月29日付)

「富士山シンポ アピール採択、閉じる 市民運動ネット化に展望 リゾート法には厳しい声 地元会員らも報告」〔全国富士山シンポジウム〕(『岳南朝日』1989年=平成元年10月31日付)

「一九八九・富士山アピール」(『岳南朝日』1989年=平成元年10月31日付)

「自然保護の持続的運動を 富士山シンポ・分科会で討論 延べ150人が熱い論議交す」〔全国富士山シンポジウム〕〔ゴルフ場〕〔水源地開発〕〔道路開削〕(『岳南朝日』1989年=平成元年10月31日付)

「パネルディスカッション 富士山と日本の自然の明日を考える」〔田中澄江〕〔門馬晋〕〔藤原信〕〔加藤龍夫〕〔近田文弘〕〔増沢武弘〕〔杉山恵一〕〔全国富士山シンポジウム〕(『岳南朝日』1989年=平成元年10月31日付)

「有機塩素系溶剤の水質汚染 空白地域含め追跡調査」(『岳南朝日』1989年=平成元年11月1日付)

「富士砂防事務所 5合目周辺“開発”の是非問う 有識者らにアンケート調査」〔大沢崩れ〕〔富士砂防工事事務所〕(『岳南朝日』1989年=平成元年11月2日付)

「四ツ溝柿の出荷始まる 裏作で収穫量は低調」(『岳南朝日』1989年=平成元年11月1日付)

「富士山シンポ分科会報告1 水と水辺環境を考える〈上〉水質汚染」〔全国富士山シンポジウム〕(『岳南朝日』1989年=平成元年11月1日付)

「富士山シンポ分科会報告2 水と水辺環境を考える〈中〉水辺の生態系」〔全国富士山シンポジウム〕(『岳南朝日』1989年=平成元年11月2日付)

「富士山シンポ分科会報告3 水と水辺環境を考える〈下〉水と住民運動」〔全国富士山シンポジウム〕(『岳南朝日』1989年=平成元年11月5日付)

「富士山シンポ分科会報告4 リゾート開発は地域に何をもちたらすか〈上〉土地が動く」〔全国富士山シンポジウム〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年11月7日付）

「富士山シンポ分科会報告5 リゾート開発は地域に何をもちたらすか〈中〉二つの危惧」〔全国富士山シンポジウム〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年11月8日付）

「富士山シンポ分科会報告6 ゴルフ場の行方」〔全国富士山シンポジウム〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年11月9日付）

「富知神社と西町の発展 佐野十三郎」（『岳南朝日』1989年＝平成元年11月9日付）

「富士山シンポ分科会報告7 国立公園の現状と課題〈上〉『ゴルフ場は生物の天敵』」〔全国富士山シンポジウム〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年11月10日付）

「富士山シンポ分科会報告8 国立公園の現状と課題〈中〉線引きの中身」〔全国富士山シンポジウム〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年11月11日付）

「公害行政の視察団 県中部の3市2町 富士宮市を訪問」（『岳南朝日』1989年＝平成元年11月11日付）

「富士山シンポ分科会報告9 法的保護の行方『富士山を裸にするな』」〔全国富士山シンポジウム〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年11月12日付）

「富士山シンポ 担当記者座談会 生態系の保護強力に 豊かな自然観が大切」〔全国富士山シンポジウム〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年11月14日付）

「林業活性化に弾み 北部3ヵ所で林道建設」〔作業道土玉線〕〔基幹作業道南草里線〕〔作業道宝山線〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年11月18日付）

「溶岩の護岸工完成 浅間大社湧玉池 雪どけ水に調和」〔湧玉池を美しくする会〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年11月18日付）

「旧村山登山道は遠かったか 佐野良」〔『最新富士登山案内』横井春野、正午出版社、1917〕〔太田孝之「高地医学」（『金剛杖』登張信一郎編、織田東禹画、春陽堂、1907）〕〔村山古道〕〔大宮新道〕（『岳南朝日』1989年＝平成元年11月30日付）

「ふるさと再発見」）▼

「一合目まで真っ白 富士山積雪 一時通行止めに」（『岳南朝日』1989年＝平成元年12月15日付）

「有機塩素系溶剤 今年3回目の調査 西部の井戸（飲用）からも検出 汚染、4ヵ所に分布 汚染源はほぼ断つ 出水不動尊 汚染源は周辺に？」（『岳南朝日』1989年＝平成元年12月14日付）

「大岩丸ヶ谷戸遺跡 発掘調査始まる 規模の大きい周溝遺跡」（『岳南朝日』1989年＝平成元年12月20日付）

「遭難事故防止呼びかけ 富士山スカイライン 登山ルートは積雪で通行止め」（『岳南朝日』1989年＝平成元年12月28日付）▼

## ■ 1990年＝平成2年

「古代からのメッセージ 撮影 坂本猛」〔写真〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年1月1日付）

「いま、なぜ朝霧か 激減する猪之頭湧水 富士山の自然を守る会事務局長 中島信哉 鶏が栄えれば人も栄える 日本野鳥の会富士宮支部長 阿部英雄」(『岳南朝日』1990年=平成2年1月1日「シリーズ1 素顔の朝霧」)

「『こだわる』佐野良」〔村山古道〕〔久保田杏村〕〔久保田福次郎〕(『岳南朝日』1990年=平成2年1月1日付) ←久保田杏村「富士の古道」のことが「村山古道を探る(1)」(1988年=昭和63年7月20日付)で言及されているが具体的には不明。

「馬頭観音の由来」(『岳南朝日』1990年=平成2年1月1日付)

「庶民信仰の馬頭観音 富士宮北高郷土研究部調査から 富士地区に370基確認 役立ってくれた馬を供養」〔『富士山麓石造物総集』静岡県立富士宮北高等学校郷土研究部編・発行、昭和43年〕(『岳南朝日』1990年=平成2年1月1日付) ←その後『富士山麓石造物資料集』(静岡県立富士宮北高等学校郷土研究部編・発行、昭和44年)も出版されている。

「謹賀新年 日蓮正宗創価学会」〔広告〕(『岳南朝日』1990年=平成2年1月1日付)

「百家争鳴の博物館構想 吉田市長『市民委員会』(仮称)も検討 文化財保護審も積極的」〔市立博物館構想〕(『岳南朝日』1990年=平成2年1月4日付)

「レジャー特集 WINTER SPORTS 富士天神山スキー場 日本ランド 富士急ハイランド」〔イエティ〕(『岳南朝日』1990年=平成2年1月1日付)

「新年度は橋台建設へ 富士南麓道路 村山、大淵地内で漸進」〔国道469号〕(『岳南朝日』1990年=平成2年1月7日付)

「国道昇格を陳情 南麓道路促進期成同盟会 きょう斉藤知事らに」〔国道469号〕(『岳南朝日』1990年=平成2年1月10日付)

「市境越え林道結ぶ 富士山腹に“交通革命”」〔寄坂線〕(『岳南朝日』1990年=平成2年1月13日付) ▼

「雪の後遺症つづく 7路線でチェーン必要 富士山周遊道は通行止め」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1990年=平成2年1月18日付)

「広域化する富士山砂防 ダム建設や築堤など 平成元年度 進捗率は65%台に」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1990年=平成2年1月14日付)

「早期実現は困難か 南麓道路の国道昇格」〔国道469号〕(『岳南朝日』1990年=平成2年1月14日付)

「白糸滝公園線の改良進む 栗倉地先200mを拡幅」〔国道469号〕(『岳南朝日』1990年=平成2年1月21日付)

「『富士宮のあけぼの』発刊 埋蔵文化財展を機に 市教委」〔『富士宮市のあけぼの』〕(『岳南朝日』1990年=平成2年1月24日付)

「山宮の農地保全完成へ 市内で初めて7カ年で水路など整備 村山地区は来年度から」〔富士根地区畑地総合整備事業〕(『岳南朝日』1990年=平成2年1月26日付)

「山で教えられた『思いやり』 富士宮西高校ワンダーフォーゲル部 チームワークで全国3位 西岡美紀さん 文・片岡伸行 写真・島崎三郎」(『岳南朝日』1990年=平成2年1月26日付「金曜版リフレ」「素顔でトーク」)

「だるま市 毘沙門さん控え大忙し 万野原新田の杉山さん どっしり『鈴川だるま』」

〔杉山幸夫〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年1月27日付）  
「説明会は31日に 県境のゴルフ場計画」〔上九一色村〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年1月28日付）→「調停申請は県知事に」（4月7日付）以下に関連記事  
「貴重な文化財一堂に 富士宮市のあけぼの展」（『岳南朝日』1990年＝平成2年1月28日付）  
「古代駿河の『常世の虫騒動』杉山恵一」〔『日本書紀』〕〔大生部多〕〔秦造河勝〕〔『季刊 静岡の文化』18号〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年2月1日「ふるさと再発見」）  
「今・昔 市川武一さん」〔大鳥居〕〔駅前整備〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年2月6日「読者のフォトギャラリー」）  
「大岩・丸ヶ谷戸遺跡 古墳直前の超有力者の墓 県内初例の前方後方型周溝墓『ムラ長』を統括か」（『岳南朝日』1990年＝平成2年2月7日付）  
「富士山で救助訓練 富士宮署員ら16人が参加」（『岳南朝日』1990年＝平成2年2月8日付）  
「注目集める丸ヶ谷戸遺跡 国の成立解明にカギ」（『岳南朝日』1990年＝平成2年2月8日「グラフ特集」）  
「富士山で雪遊び 水ヶ塚公園 あす広場オープン」（『岳南朝日』1990年＝平成2年2月10日付）  
「論壇 富士山と市民運動 住民保護優先でない法体系 落合巳代治」（『岳南朝日』1990年＝平成2年2月11日付）  
「富士山にも酸性雨 一合目の『山の村』で測定 強酸性には至らず 大気汚染、影響じわり」〔富士山麓山の村〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年2月15日付）  
「丸ヶ谷戸遺跡 古墳出現直前の暮制 前方後方型周溝墓 大塚明大教授が調査 第一級資料の折り紙」〔大塚初重〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年2月18日付）  
「今昔・白糸滝」〔白糸の滝〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年2月27日付「読者のフォトギャラリー」）  
「『富士山に生きる植物』テーマに 講師は菅原久夫氏 市立中央図書館で記念講演会」（『岳南朝日』1990年＝平成2年3月3日付）  
「県内の地域資料を集大成 県図書館協会『郷土資料総合目録』発刊」〔『静岡県郷土資料総合目録』〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年3月3日付）  
「ゴルフ場 広がる反対運動 31日、静岡市で 県下市民団体が初会合 東西から20団体余」（『岳南朝日』1990年＝平成2年3月10日付）  
「ダイヤ改正を機に 身延線にワンマン列車 整理券に戸惑いも」（『岳南朝日』1990年＝平成2年3月11日付）  
「富士山を守ろう〈上〉水源かん養地域にゴルフ場計画 水を守る 放置すれば将来に不安 法律以前のモラル問う 阿部英雄（環境庁自然公園指導員）」〔地下水〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年3月16日付「シリーズ 朝霧高原2」）  
「富士山を守ろう〈下〉太古の自然残る聖域 環境変えずに活用を 阿部英雄（環境庁自然公園指導員）」〔地下水〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年3月17日付「シリーズ 朝霧高原2」）  
「移動編集室地域を語る〈1〉富士宮市黒田区 道路問題 ネットは大宮・富士線 『馬

力道』」も随所に」（『岳南朝日』1990年＝平成2年3月17日付）

「周辺を圧倒 大悟庵の観音大画像ご開帳」（『岳南朝日』1990年＝平成2年3月20日付）

「“おぼっこ”振るまう 大鹿窪の地神200年祭祝う」（『岳南朝日』1990年＝平成2年3月27日付）

「春の富士山麓と五湖めぐり 定期観光バス運行」（『岳南朝日』1990年＝平成2年3月27日付）

「冬の眠りから間もなく… 富士山スカイラインで除雪作業が開始」（『岳南朝日』1990年＝平成2年4月1日付「グラフニュース」）

「調停申請は県知事に ゴルフ場問題 富士山守る会 9日に申請書を提出」〔富士山の自然を守る会〕〔公害〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年4月7日付）

「茶畑の30%に霜害 初摘み目前、生産者がっくり」（『岳南朝日』1990年＝平成2年4月7日付）

「富士の巻狩り祭りの日程決まる」（『岳南朝日』1990年＝平成2年4月7日付）

「富士山ビジターセンター誘致運動など 自然観察の会が活動計画」〔富士宮自然観の会〕〔仁藤浪〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年4月7日付）

「県知事に調停申請 ゴルフ場問題『建設工事差し止めを』富士宮市の市民団体 公害の未然防止求める 山梨県にも申し入れ」〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年4月10日付）

「富士山ろくのヒノキ苗出荷 全国各地へ23万本 林業不振の中で生き続く」（『岳南朝日』1990年＝平成2年4月12日付）

「芝川ぼり、共同予備調査 富士宮市 東海大海洋学部と提携して」（『岳南朝日』1990年＝平成2年4月18日付）

「富士山で救助訓練 県警山岳救助隊 きょうから5合目で」（『岳南朝日』1990年＝平成2年4月18日付）

「もう一つの苗木 おしきみ生産拡大 スギ、ヒノキに勝る勢い 東北や北関東などにも出荷」〔大石寺〕〔シキミ〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年4月18日付）▼

「春山の遭難事故に対応 県警山岳遭難救助隊が訓練 昨年は3人が死亡 富士山」（『岳南朝日』1990年＝平成2年4月19日付）

「登山ルート28日開通へ 新五合目以上軽装者の立入禁止も 遭対協支部」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会富士宮支部〕〔冬期閉鎖〕〔スカイライン〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年4月20日付）

「新緑の山道で“快汗”歩け歩け運動に130人」（『岳南朝日』1990年＝平成2年4月24日付）

「数百台が新五合目へ 富士山登山ルートが開通」〔スカイライン〕〔冬期封鎖〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年4月29日付）▼

「オースチン彗星キャッチ 後藤さん、新五合目で」〔後藤芳司〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月4日付）

「山ろくにも行楽客 GW後半入り 白糸の滝などにぎわう」（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月4日付）

「史跡『人穴』に案内板 市観光課が道路沿いに設置」（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月5日付）

「大宮小初代校長長布山 佐野十三郎」〔長尾布山〕〔平等寺〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月8日付「ふるさと再発見」）

「GW、総決算 行楽客、前年を下回る 連休後半の雨が出足くじく 登山区間、一時通行止めも」（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月8日付）▼

「富士山をみどりに 静岡営林署が国有林で植樹祭」（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月9日付）

「大宮小初代校長・長尾布山 佐野十三郎」〔平等寺〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月8日付「ふるさと再発見」）

「『月の輪』第5号発刊『旧町名調査』が完結 村山口登山道探索なども所収」〔村山古道〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月12日付）▼

「溶岩洞くつの全容明るみに 富士宮市が委託調査 西ろくで29カ所確認 規模、成因など考察」〔日本火山洞窟学協会〕〔市立博物館構想〕〔小川孝徳〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月15日付）→『富士宮の火山洞窟』（富士宮市立郷土資料館調査報告書第2号、富士宮市教育委員会編・発行、平成3年）

「調停申請は『県際事件』県が結論、山梨と協議へ 県境ゴルフ場問題」〔公害紛争処理法〕〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月16日付）

「早期に地域説明会 北山工業団地 地権者特定急ぐ」（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月16日付）

「富士山国有林で植樹祭 ヒノキの複層林を造成」（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月16日付）

「早期整備めざし陳情 富士南麓道路建設促進期成同盟 事業計画など決める」〔国道469号〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月18日付）

「富士山 地下水の謎を探る〈上〉ボーリング調査の結果は…地下川は幻だった 土隆一」〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月23日付）

「『連合審査会は不要』山梨側、静岡県へ通告 調停申請 舞台は中央へ移る 県境ゴルフ場問題」〔公害紛争処理法〕〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月24日付）

「富士山 地下水の謎を探る〈中〉山体の雨や雪が影響－圧力の分だけわき水に 土隆一」〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月24日付）

「富士山 地下水の謎を探る〈下〉住民共通の地下資源 開発は慎重に 有効利用が将来の問題 土隆一」〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月25日付）

「一斉清掃は8月19日 富士山を美しくする会 28日、富士宮で総会」〔富士山をいつまでも美しくする会〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月25日付）

「随想 野中の富士山 佐野良」（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月25日付）

「調停申請、総理府に移送 県境ゴルフ場問題 『公害未然防止』焦点に」〔公害紛争処理法〕〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月26日付）

「『富士山は眺める山』砂防事務所が意識調査 将来の原則は環境保全 登山家に多い砂



防事業否定 御中道復活に関心示す」〔富士砂防工事事務所〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月30日付）

「林業再建に強い決意 富士森林組合総会 遅れる間伐、枝打ち推進」（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月31日付）

「野鳥観察に巣箱かけ 栗倉分校の子どもたち」〔富士根北小〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年5月31日付）

「『砂防で山容保ちたい』砂防事務所が富士山意識調査 環境保全を大原則に『御中道復活を希望』」〔富士砂防工事事務所〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月2日付「時局ラウンジ」）

「田子の浦港 入港トン数も新記録に 出入貨物は過去最高 船舶の大型化を反映」（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月7日付）

「岳南地区の三代議員〈上〉陰山秀樹 佐野十三郎」（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月7日付「ふるさと再発見」）

「建設、農水省関係予算 富士砂防に26億9000万円 焦点、源頭部対策に 大沢砂防事業」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月9日付）

「9合5勺以上は積雪 富士山登山道を調査」〔山開き〕〔残雪〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月9日付）

「富士山登山道はいま 市観光課が山開き前に調査」（『岳南朝日』1990年＝平成2年月6日10付「グラフ特集」）

「富士山登山道で土砂流出 一時通行止めに」〔スカイライン〕〔豪雨〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月12日付）

「住民協力で道路開通 富士根畑総改良区 一足早くあす完成式」〔富士根畑地総合整備事業〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月13日付）

「パレードや大宮市も 富士山まつり お山開きフェステ決まる」（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月13日付）

「7月1日 登山客 60 人を宿泊招待 旅館料理組合が初の企画 応募1200人から抽選で」〔富士宮市旅館料理組合〕〔山崎義広〕〔山開き〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月13日付）

「支線農道の完成祝う 富士根畑総 テープカットで開通」〔富士根畑地総合整備事業〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月16日付）

「ピンチ 天然記念物湧玉池 ヘドロに水草が繁茂」〔浅間大社氏子青年会〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月19日付）

「村山口を初調査 市が保護保全の検討へ」〔村山古道〕〔富士宮市教育委員会〕〔石川滋〕〔大塚輝〕〔遠藤岩男〕〔山口源蔵〕〔富士宮市郷土史同好会〕〔塩川甲子郎〕〔佐野良〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月19日付）▼

「“森林の味”見直す『水と緑』特別委 緑の現況を視察」（『岳南朝日』1990年＝平成2年月6日19付）

「小学生が大沢扇状地を見学」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年月6日19付）

「地上輸送手段の研究へ 大沢峡谷部の砂防 デメリットが多い空輸 環境、景観との調

和が焦点」〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月20日付）

「“凍結”問題に触れず ゴルフ場開発 県が公開質問に回答」（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月20日付）

「7月に着手の意向 朝霧の地下水調査」〔土隆一〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月20日付）

「岳南地区の三代議員〈下〉池谷繁太郎 清峯太郎 佐野十三郎」（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月21日付「ふるさと再発見」）

「27日、山頂にかけ除雪 富士山開き 通行規制は様子待ち 富士宮口登山道」〔残雪〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月24日付）

「今年もモリアオガエル 富士山麓山の村で10日も早く産卵」（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月26日付）

「自然保護団体 富士市内でも結成“富士・愛鷹の自然を守る会” 労組加えて結集図る 環境管理計画で特別委 富士市議会が対応」（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月28日付「広域圏ニュース」）

「県農林 初の野溪調査実施 民有林1900㍊対象に」（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月28日付「広域圏ニュース」）▼

「素顔でトーク 自然を守る心、次代へ 手づくり絵本『おこった富士山』の作者 佐藤敬子さん 文・片岡伸行 写真・島崎三郎」（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月29日付「金曜版リフレ」 「素顔でトーク」）

「夏山開きを前に清掃登山 宮農生が奉仕作業 田貫湖や朝霧でも」〔富士宮農業高校〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月29日付）

「強酸性雨を観測」（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月30日付）

「湧玉池の汚染低下 依然、4地点（小泉）で基準超す 塩素系有害物質調査結果 監視体制なお継続」〔地下水汚染〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月30日付）

「九合五勺以上は通行止め 富士山あす山開き 残雪で“当分の間”富士宮口」（『岳南朝日』1990年＝平成2年6月30日付）▼

「イベントも多彩に 富士山きょう山開き パレードやミス選出など」（『岳南朝日』1990年＝平成2年7月1日付）

「富士山頂で風景入通信日付印」〔山頂郵便局〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年7月1日付）

「富士山も“夏本番”セレモニーに300人 夏山の安全と山開き祝う」（『岳南朝日』1990年＝平成2年7月3日付）

「新五合目でテープカット」〔山開き〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年7月3日付）

「市民プールなどに4億円 大石寺・創価学会 記念事業で市に寄付」（『岳南朝日』1990年＝平成2年7月4日付）

「『村山口』展始まる 信仰と歴史の道を紹介」〔富士宮市郷土資料館〕〔村山古道〕〔富士山表口真面之図（明治13年）〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年7月5日付）▼

「富士山の高さの1/1000 JR富士宮駅に大金剛杖」〔山開き〕〔桜井正夫〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年7月7日付）

「『富士のお山と歴史讃歌』富士山振興センターが発刊 富士地域の名所史跡を集大成」

(『岳南朝日』1990年=平成2年7月7日付)

「山頂局開設は月末に 新五合目へ臨時出張所 改修工事で遅れ」〔山頂郵便局〕(『岳南朝日』1990年=平成2年7月10日付)

「御神幸道を行く～1～ 富士宮市郷土史同好会会長 塩川甲子郎 富士宮市光町」(『岳南朝日』1990年=平成2年7月12日付「ふるさと再発見」) ▼▼

「夏期の入り込み客減少 平成元年度の市内観光地 全体では1%増(前年比) 伊豆沖噴火、富士山残雪影響」(『岳南朝日』1990年=平成2年7月13日付)

「登山客に環境美化の横断幕 LCが新5合目に」(『岳南朝日』1990年=平成2年7月13日付)

「富士山治山治水 国、県へ強力陳情 大沢源頭部対策など求め」〔大沢崩れ〕〔富士山治山治水期成同盟会〕(『岳南朝日』1990年=平成2年7月14日付)

「富士宮市“夢の博物館”表舞台へ 一般公募で『語る会』発足」〔市立博物館構想〕(『岳南朝日』1990年=平成2年7月19日付)

「富士山の山室衛生監視 保健所と機動班」(『岳南朝日』1990年=平成2年7月19日付)

「来月“富士山シンポ”明日の姿。浮き彫りに 直轄砂防20周年記念」〔大沢崩れ〕〔富士砂防工事事務所〕(『岳南朝日』1990年=平成2年7月22日付)

「登山客の安全確保 富士山警備派出所を開設 富士宮署」〔山開き〕(『岳南朝日』1990年=平成2年7月22日付)

「治山治水同盟会が陳情」〔富士山治山治水期成同盟会〕〔吉田廉〕(『岳南朝日』1990年=平成2年7月22日付)

「大もての山の村 一年間で2万4000人 大半は市外の高校 夏期中心に宿泊訓練」〔富士山麓山の村〕(『岳南朝日』1990年=平成2年7月22日付)

「近江八幡からお客さん 今夏も『富士と琵琶湖を結ぶ会』」(『岳南朝日』1990年=平成2年7月25日付)

「自然を守る会 調停で検討会」〔富士山の自然を守る会〕〔上九一色村〕〔ゴルフ場〕(『岳南朝日』1990年=平成2年7月25日付)

「夏山を甘くみるな! 富士山警備派出所 意外に多い遺失物」(『岳南朝日』1990年=平成2年7月25日付)

「衛生センターきょうオープン」(『岳南朝日』1990年=平成2年7月25日付)

「御神幸道を行く～2～ 富士宮市郷土史同好会会長 塩川甲子郎」(『岳南朝日』1990年=平成2年7月26日付「ふるさと再発見」) ▼▼

「ゴミ持ち帰りPR サッカー少年団育成協 29日、富士山二合目で」〔富士宮サッカー少年団育成協議会〕(『岳南朝日』1990年=平成2年7月27日付)

「管理状況概ね良好 保健所が山室の衛生監視 富士山」〔山室衛生〕(『岳南朝日』1990年=平成2年7月29日付)

「湖の“夏”を彩る花火 富士五湖の夏まつり 報湖祭・山中湖 竜宮祭・西湖 神湖祭・本栖湖 湖上祭・河口湖」(『岳南朝日』1990年=平成2年7月29日付)

「県境ゴルフ場公害調停 第3回目は富士宮で 公害等調整委 現地視察後、29日に」〔富士山の自然を守る会〕(『岳南朝日』1990年=平成2年8月1日付)

「博物館を語る 市民参加の要項発表」〔市立博物館構想〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月1日付）

「琵琶湖畔に友情の輪 富士宮・近江八幡 児童生徒交歓会同行記」（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月1日付）

「イレブンがゴミ追放 富士山で持ち帰りPR」〔富士宮サッカー少年団育成協議会〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月2日付）

「富士山腹からも酸性雨 頂上付近はクリーン保つ 富士宮市調査」（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月5日付）

「人体への被害報告はなし 光化学スモッグ」（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月5日付）

「雲海を走る富士登山駅伝 5日（日）後4:05～5:20 テレビ静岡」（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月5日付「テレビ倶楽部」）

「“歴史の道”村山口探索会 小屋跡で新発見も 市内外から55人が参加」〔村山古道〕〔富士宮市郷土史同好会〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月7日付）▼

「富士山頂局が好調 好天で売れ行き増加」〔山頂郵便局〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月8日付）

「御神幸道を行く3 富士宮市郷土史同好会会長 塩川甲子郎」（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月9日付「ふるさと再発見」）▼▼←この項の引用部分は新旧仮名遣いが混在し、引用か筆者の解説か区別しがたい箇所もある。引用する際には『浅間神社の歴史』pp.135-140でチェックが必要である。

「頂上まで1時間40分 富士宮署 全署員が富士登山」（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月9日付）

「釜口橋で施餓鬼供養祭 水難者を慰霊」（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月11日付）

「博物館を語る会の応募快調」〔市立博物館構想〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月11日付）

「第2東名 接続道路に焦点 南麓道との連携探る」〔国道469号〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月16日付）

「身延で来月2日に身延線沿線まつり」（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月16日付）

「昭和5年の自転車登山 よみがえる秘蔵の写真 富士市鷹岡の横溝栄さん」〔変わり種登山〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月16日付）

「庶民生活を浮き彫り 保存古文書を解説 中井出の内藤さん 市立中央図書館に寄贈」〔内藤太郎〕〔『内藤家保存庫文書解説』〕〔『わが里の行事のこと』〕〔『中井出ものがたり』〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月18日付）

「あふれた新五合目 富士山 行楽マイカーどっと」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月18日付）

「ゴミも多かった！ 前年を上回る回収量 富士山一斉清掃で3・7トン」〔富士山をいつまでも美しくする会〕（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月21日付）

「水危機どうやら回避 日量5万7000トン 供給量は過去最大」（『岳南朝日』1990年＝平成2年8月21日付）

「守られぬモラル 富士山クリーン作戦 ボランティアから怒りの声 ゴミ、ゴミ、ゴミの富士山 これで国立公園とは」(『岳南朝日』1990年=平成2年8月21日付「グラフ特集」)

「直轄砂防 20 周年記念 富士山砂防シンポ 専門家らが現状説明 二市一町首長も夢語る」〔富士砂防工事事務所〕(『岳南朝日』1990年=平成2年8月22日付)

「『富士風穴』探検記 洞窟内は氷の世界 真暗闇の異次元体験 気温零度、地下のアイスバーン『遊牧民キャンプ』の子供たち 奥深い自然に感動と畏怖」(『岳南朝日』1990年=平成2年8月22日付)

「古式ゆかしくみこし渡り 村山浅間で例祭」〔神仏混淆〕(『岳南朝日』1990年=平成2年8月22日付) ▼

「近江八幡からようこそ 婦人交歓研修の一行来宮」(『岳南朝日』1990年=平成2年8月23日付)

「定例会で中間報告 市議会『水と緑』対策特委」(『岳南朝日』1990年=平成2年8月23日付)

「仏様、空前の大移動 大石寺～三重・兵庫 新墓地へ7万3000人分」〔創価学会〕(『岳南朝日』1990年=平成2年8月24日付)

「富士山ろくに秋の気配 珍しい釣り鐘状の雲も」〔吊るし雲〕(『岳南朝日』1990年=平成2年8月25日付)

「村おこしに通じる研究を 若林静学短大学長が郷土史講演」〔富士宮市郷土史同好会〕〔若林淳之〕(『岳南朝日』1990年=平成2年8月25日付)

「山静県境の葛谷城発掘調査 大規模な『山城』確認 二重の堀、二つの曲輪 稲子城をにらんだ武田の最前線」(『岳南朝日』1990年=平成2年8月26日付)

「富士山頂郵便局 利用者は40%増加 黒字会計で店閉じまい」(『岳南朝日』1990年=平成2年8月26日付)

「衛生センターは前年並み」(『岳南朝日』1990年=平成2年8月26日付)

「公害調整委が現地視察行う ゴルフ場調停問題」〔総理府公害等調査委員会〕〔富士中央ゴルフ倶楽部〕〔富士山の自然を守る会〕(『岳南朝日』1990年=平成2年8月29日付)

「治療件数は増加 今夏の富士山警備 大きな事故なし」〔富士山警備派出所〕〔衛生センター〕(『岳南朝日』1990年=平成2年8月29日付)

「富士砂防シンポジウム 富士山の明日は…大沢砂防に緑を活用 現地植物で基礎研究リゾート開発で高まる危険度」〔大沢崩れ〕〔富士砂防工事事務所〕(『岳南朝日』1990年=平成2年8月29日付「時局ラウンジ」)

「富士宮で公害調停 実質審理スタート 申請人強く不安訴える ゴルフ場調停」〔富士山の自然を守る会〕(『岳南朝日』1990年=平成2年8月30日付)

「富士地域の絵図や生活文化伝える品々 開館 10 周年記念 80 余点の『館蔵品展』富士市立博物館」〔富士山かぐや姫ミュージアム〕(『岳南朝日』1990年=平成2年9月1日付)

「環境テーマにシンポ 県東部の消費者団体」〔90 東部ちきゅう環境いま〕(『岳南朝日』1990年=平成2年9月4日付)

「随想 お礼登山 岡田収治」 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月4日付)

「修験の昔しのび護摩供養 村山浅間神社で歴史行事」〔閉山祭〕 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月4日付) ▼

「箕輪B遺跡発掘調査 竪穴住居跡に期待 焼け土と炉の遺構発見 縄文中期の集落解明へ」 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月5日付)

「ゴルフ場問題は今… 県際事件 調停実質審理へ 全国集会と公害調停と」〔富士山の自然を守る会〕 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月5日付)

「貴重な資料発見 55年前にも“巻狩りまつり”軍国色にじませ盛大に『曾我兄弟慰霊祭』日支事変で立ち消え…」〔日中戦争〕 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月6日付)

「夏の行楽総決算 富士山は21・5%増(前年比)涼を求め山ろくにもどっと 残雪の開通遅延響かず 夏期観光客入込状況速報」 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月7日付)

「国有林の現地視察 緑を守り林業を考える会」 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月7日付) →「富士山の緑を現地視察」(9月18日付)に続報

「環境保全条例制定へ 富士宮市 審議会設置も含め 9月議会に提案」 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月9日付)

「A沢、B沢でも 市が河川の水質検査」 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月9日付)

「富士山が初冠雪 山ろくに忍び寄る秋」 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月9日付)

「富士山がダメになる 佐野栄代」 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月9日付「岳朝茶論」)

「大宮町と曾我兄弟-55年前の大イベント『慰霊祭』沢田正彦(つづく)」 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月13日付「ふるさと再発見」)

「富士山の緑を現地視察 林業を考える会50人が参加」 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月18日付)

「酸性雨じわじわ増加 麓山の村でも高数値 8月測定 工場排煙が主因に 富士宮市」〔富士山麓山の村〕 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月20日付)

「大宮町と曾我兄弟-55年前の大イベント『慰霊祭』沢田正彦(つづく)」 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月20日付「ふるさと再発見」)

「高齢者登山も新旧交代 今夏の富士山登頂 浅間大社調べ 百歳組は姿消す 809人が元気に記帳」 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月20日付) ▼▼

「台風一過、さわやか富士 山ろくも秋本番に」 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月21日付)

「大宮町と曾我兄弟-55年前の大イベント『慰霊祭』沢田正彦(おわり)」 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月27日付「ふるさと再発見」)

「『J C富士山会議』が共同事業プラン 富士山一周駅伝案も」〔青年会議所〕 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月28日付)

「地区戦没者のお墓参り 村山婦人会」〔西見付〕 (『岳南朝日』 1990年=平成2年9月28日付) ▼

「芝川のり調査最終報告 川のり保全が自然保護 水質保てば自生続く 増殖産業化には否定的 東海大と富士宮市」(『岳南朝日』1990年=平成2年9月28日付)

「環境保全条例可決へ 不十分だが“よしまし”建設委員会」(『岳南朝日』1990年=平成2年9月29日付)

「博物館構想に夢を 会長に磯田氏『語る会』が初顔合わせ」〔博物館を語る会〕〔磯田隆一〕〔市立博物館構想〕(『岳南朝日』1990年=平成2年9月29日付)

「富士巻狩りの裏役 安居山太郎信定とその周辺 佐野十三郎(つづく)」(『岳南朝日』1990年=平成2年10月4日付「ふるさと再発見」)

「十五夜をたのしく 観光協会 首都圏のススキ配布」〔富士宮市観光協会〕(『岳南朝日』1990年=平成2年10月4日付)

「荒れる富士山人工林 深刻な野溪の拡大 県が調査報告 3カ年計画で保全へ」(『岳南朝日』1990年=平成2年10月10日付)

「知名度高い『白糸滝』東京で観光アンケート 約半数が富士登山 利用少ない富士宮口」〔白糸の滝〕(『岳南朝日』1990年=平成2年10月13日付)

「湧玉池濃度は微増 有害物質定期調査 基準超える工業用井戸も」〔地下水汚染〕(『岳南朝日』1990年=平成2年10月18日付)

「森林組合、市長に陳情『補助、出資金の増額を』」〔富士森林組合〕(『岳南朝日』1990年=平成2年10月18日付)

「富士巻狩りの裏役 安居山太郎信定とその周辺 佐野十三郎(おわり)」(『岳南朝日』1990年=平成2年10月18日付「ふるさと再発見」)

「進展する富士南麓道路建設工事 村山と大淵で着手 進入路やバイパス付け替え」〔国道469号〕(『岳南朝日』1990年=平成2年10月19日付) ▼

「富士山砂防工事 溪岸工やダム建設 順調に事業が進む」〔大沢崩れ〕(『岳南朝日』1990年=平成2年10月21日付)

「オウム教本部を強制捜査 熊本、山梨県警 国土利用法違反容疑など」(『岳南朝日』1990年=平成2年10月23日付)

「御中道と大沢崩れ一と目 富士砂防が冊子発行」〔お中道〕(『岳南朝日』1990年=平成2年10月23日付)

「うっすらと雪 富士山が冬化粧」〔冠雪〕(『岳南朝日』1990年=平成2年10月25日付)

「石の宮風土記-歴史と伝説の集落 沢田正彦(つづく)」(『岳南朝日』1990年=平成2年10月25日付「ふるさと再発見」)

「村山で農地保全事業 対象地151㌔ 8カ年計画で推進」〔村山地区農地保全事業〕(『岳南朝日』1990年=平成2年10月25日付) ▼

「『世話になった息子のお礼を』戦死した旧少年戦車兵の母親 当時の協力家庭をを探す」(『岳南朝日』1990年=平成2年10月26日付) →「少年戦車兵の“恩人”が判明(11月7日付)に続報

「ゴルフ場は除外して リゾート構想朝霧ゾーン 富士山守る会 吉田市長に要望書」〔富士山の自然を守る会〕(『岳南朝日』1990年=平成2年10月30日付)

「紅葉の大沢に感動 歩け歩け運動に300人」〔北山林道〕(『岳南朝日』1990年

＝平成2年10月30日付)

「石の宮風土記－歴史と伝説の集落 沢田正彦(おわり)」(『岳南朝日』1990年＝平成2年11月1日付「ふるさと再発見」)

「少年戦車兵の“恩人”が判明 上井出の佐野きよのさん 九州の老母、来春対面へ」(『岳南朝日』1990年＝平成2年11月7日付)

「富士砂防20周年を祝う 斉藤知事ら出席、記念式典」(『岳南朝日』1990年＝平成2年11月7日付)

「おや、古富士層が無い!? 地下水調査で意外な事実 地下160<sup>メートル</sup>で御坂層に」〔猪之頭〕(『岳南朝日』1990年＝平成2年11月18日付) ▼

「拡大すすむ放置林 富士森林組合 間伐目標は138<sup>ヘクタール</sup>に 平成2年度」(『岳南朝日』1990年＝平成2年11月28日付)

「朝霧地域の地下水調査 中間報告 富士宮市が発表」(『岳南朝日』1990年＝平成2年11月28日付)

「旧村山登山道『笹垢離』佐野良」(『岳南朝日』1990年＝平成2年11月29日付「ふるさと再発見」) ▼ ←このときの発見は「大樫」であり、「訂正『笹垢離』跡」(1991年＝平成3年10月17日付)に訂正記事あり

「ゴルフ場を除外 リゾート構想『ふじの国』見直し 斉藤県知事が言明 県議会」〔斉藤滋与史〕(『岳南朝日』1990年＝平成2年12月5日付)

「強酸性雨が上昇傾向 今夏の測定結果 富士山一合目でも検出」〔大気汚染〕(『岳南朝日』1990年＝平成2年12月7日付)

「大石寺が市に1億円 開創700年記念して寄付」(『岳南朝日』1990年＝平成2年12月20日付)

「処理方法の指導再検討へ 有害物質定期検査 湧玉池のトリクロ増加 富士宮市」〔地下水汚染〕(『岳南朝日』1990年＝平成2年12月21日付)

「元日に富士山パト 山岳遭対協が新5合目で」〔静岡県山岳遭難対策協議会〕(『岳南朝日』1990年＝平成2年12月21日付)

「ここまできた水と緑保護運動〈上〉ゴルフ場外しへ動く 斉藤知事、画期的方針」〔斉藤滋与史〕(『岳南朝日』1990年＝平成2年12月22日付)

「ここまできた水と緑保護運動〈中〉条例制定で一步前進 審議会の機能に注目 自然環境保全条例」(『岳南朝日』1990年＝平成2年12月25日付)

「ここまできた水と緑保護運動〈下〉ゴルフ場調停で全国に波紋 『水と緑』特委が報告」(『岳南朝日』1990年＝平成2年12月28日付)

「富士山登山ルート通行止め」〔スカイライン〕〔冬期封鎖〕(『岳南朝日』1990年＝平成2年12月29日付)

## ■ 1991年＝平成3年

「宇宙からのメッセージ 撮影・坂本猛」〔写真〕(『岳南朝日』1991年＝平成3年1月1日付)

「塾頭大宮司富士重本－芙蓉館塾が残したもの＝上＝ 佐野十三郎」〔赤心隊〕〔富士亦



八郎) (『岳南朝日』1991年=平成3年1月10日付「ふるさと再発見」)  
「『石の横綱』の風格も 柱状節理掘り出す」〔富士川活断層〕(『岳南朝日』1991年=平成3年1月23日付)  
「塾頭大宮司富士重本-芙蓉館塾が残したもの=中= 佐野十三郎」〔赤心隊〕〔富士亦八郎〕(『岳南朝日』1991年=平成3年1月24日付「ふるさと再発見」)  
「塾頭大宮司富士重本-芙蓉館塾が残したもの=下= 佐野十三郎」〔赤心隊〕〔富士亦八郎〕(『岳南朝日』1991年=平成3年1月31日付「ふるさと再発見」)  
「『古富士層』まだ見えず 猪之頭の地下水調査」〔朝霧高原〕(『岳南朝日』1991年=平成3年2月6日付)  
「新有害物質も調査 発がん性もつジクロロエチレン 昨年に続き2回目 富士宮市」〔地下水汚染〕(『岳南朝日』1991年=平成3年2月6日付)  
「座談会 どう守る富士山~富士山と富士山南西ろく〈1〉富士山とは」〔中島信哉〕〔清守介〕〔渡辺佐一郎〕〔小長谷保〕(『岳南朝日』1991年=平成3年2月13日付)  
「大規模開発 指導要綱で全協 市議会 見直し作業の報告聞く」(『岳南朝日』1991年=平成3年2月13日付)  
「白銀に子供が歓声 富士山水ヶ塚 雪遊び広場に3000人」(『岳南朝日』1991年=平成3年2月13日付)  
「座談会 どう守る富士山~富士山と富士山南西ろく〈2〉現況と問題」〔中島信哉〕〔清守介〕〔渡辺佐一郎〕〔小長谷保〕(『岳南朝日』1991年=平成3年2月14日付)  
「座談会 どう守る富士山~富士山と富士山南西ろく〈3〉現況と問題 富士山は無法の山」〔中島信哉〕〔清守介〕〔渡辺佐一郎〕〔小長谷保〕(『岳南朝日』1991年=平成3年2月16日付)  
「地区対策協 初会合で当面の事業決める ダイオキシン 発生防止に地域も始動」〔富士地区ダイオキシン対策協議会〕(『岳南朝日』1991年=平成3年2月16日付)  
「座談会 どう守る富士山~富士山と富士山南西ろく〈4〉現況と問題 水田は貯水池なのに…」〔中島信哉〕〔清守介〕〔渡辺佐一郎〕〔小長谷保〕(『岳南朝日』1991年=平成3年2月17日付)  
「座談会 どう守る富士山~富士山と富士山南西ろく〈5〉現況と問題 市民運動は変化の原動力」〔中島信哉〕〔清守介〕〔渡辺佐一郎〕〔小長谷保〕(『岳南朝日』1991年=平成3年2月19日付)  
「座談会 どう守る富士山~富士山と富士山南西ろく〈6〉現況と問題 勇気もって保護運動(おわり)」〔中島信哉〕〔清守介〕〔渡辺佐一郎〕〔小長谷保〕(『岳南朝日』1991年=平成3年2月20日付)  
「東海一のダルマ市 21日から3日間」〔毘沙門天〕〔妙法寺〕(『岳南朝日』1991年=平成3年2月20日付)  
「開運ダルマ5万個製作 万野の杉山さん」〔杉山だるま店〕(『岳南朝日』1991年=平成3年2月20日付)  
「先人の足跡たどる 根北公民館 登山道の裏道探訪」〔小林茂夫〕(『岳南朝日』1991年=平成3年2月21日付) ▼  
「わたしの巣箱使ってるかな? 富士山二合目でバードウォッチング 栗倉分校」〔富士

根北小学校] (『岳南朝日』1991年=平成3年2月27日付)  
「炭焼きを体験学習 分校の子らが2週間かけ」〔小野田高良〕〔富士根北少学校栗倉分校〕(『岳南朝日』1991年=平成3年2月27日付)  
「レストハウス(2合目)全焼 富士山観光の拠点施設」〔グリーンキャンプ場〕〔ピカ表富士〕(『岳南朝日』1991年=平成3年3月8日付)  
「河川の微生物を調査 A沢、B沢など」〔水質検査〕(『岳南朝日』1991年=平成3年3月8日付)  
「新富士層、意外な厚み 地下水調査 ボーリングで新事実」〔朝霧高原〕〔熔岩層〕(『岳南朝日』1991年=平成3年3月9日付)  
「工業生産にも規制を 安斉氏が環境講演で強調」〔コーポ静岡〕〔公害〕〔安斉育郎〕(『岳南朝日』1991年=平成3年3月9日付)  
「春は名のみ 富士山はまだ冬景色」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1991年=平成3年3月16日付)  
「北山のタブノキなど14件 保存樹などを指定」〔富士宮市自然環境の保全及び育成に関する条例〕〔保存樹林〕〔保存湧水池〕(『岳南朝日』1991年=平成3年3月16日付)  
「東京都の距離短縮 ダイヤ改正 身延線で記念出発式」(『岳南朝日』1991年=平成3年3月17日付)  
「観音大画像ご開帳 彼岸の入り、星山大悟庵」(『岳南朝日』1991年=平成3年3月19日付)  
「地域おこしに脚光 村山口登山道復元の夢を 地元青年が現地踏査 一部ルートの整備に自信 郷土史同好会が案内」〔富士宮市郷土史同好会〕〔元村山青年団〕〔赤野明宏〕〔村山古道〕(『岳南朝日』1991年=平成3年3月19日付) ▼  
「栗倉分校の4人 ひと足早く卒業式 地域ぐるみでお祝い」〔富士宮北小〕(『岳南朝日』1991年=平成3年3月19日付)  
「富士南麓道路建設 市境村山と大淵で促進 10億円の事業費要望 新年度から本格的工事 緑と展望のデラックス道路」〔国道469号〕(『岳南朝日』1991年=平成3年3月29日付)  
「地域の道祖神を冊子に 富丘郷土史同好会 文化財保護の一助に 石造物を調べ記録に残す」(『岳南朝日』1991年=平成3年4月4日付)  
「好評、富士山麓『山の村』延べ4万7300人が宿泊 秋口の利用が増える」〔富士山麓山の村〕(『岳南朝日』1991年=平成3年4月8日付)  
「富士山も春のめざめ。除雪作業が進む新五合目登山区間」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1991年=平成3年4月10日付「グラフ特集」)  
「大鹿窪村の碑文 化政時代の村とくらし 佐野十三郎」(『岳南朝日』1991年=平成3年4月11日付「ふるさと再発見」)  
「沈沙池工を多目的広場に 富士砂防が目玉事業」〔富士砂防工事事務所〕(『岳南朝日』1991年=平成3年4月13日付)  
「湧玉池のTCE最低値 第4回有害物質等調査 上流の工業用井戸でなお検出」〔地下水汚染〕〔有機塩素系溶剤〕(『岳南朝日』1991年=平成3年4月14日付)  
「壇信徒300人が宝物拝観 西山本門寺でお虫干し」(『岳南朝日』1991年=平成

3年4月19日付)

「26日にオープン 富士山スカイライン登山区間 昨年より2日早く」〔冬期封鎖〕(『岳南朝日』1991年=平成3年4月21日付)

「開通、一日延びる 降雪で富士山登山区間」〔スカイライン〕〔冬期封鎖〕(『岳南朝日』1991年=平成3年4月26日付)

「新五合目登山ルート開通 一番乗りに花束贈呈」〔冬期封鎖〕(『岳南朝日』1991年=平成3年4月28日付)

「新五合目登山ルート開通 一番乗りに花束贈呈」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1991年=平成3年4月28日付)

「武田信玄親子と富士宮浅間神社〈上〉佐野十三郎」〔浅間大社〕(『岳南朝日』1991年=平成3年5月30日付「ふるさと再発見」)

「文化財保護審が『中間報告』博物館で提言まとめ 富士山生かした施設 基本認識はほぼ共通に」〔市立博物館構想〕(『岳南朝日』1991年=平成3年5月6日付)

「GW、行楽地の総決算 好天続きでどっと どこも前年を大幅増」(『岳南朝日』1991年=平成3年5月8日付)

「富士山に女性の白骨死体」(『岳南朝日』1991年=平成3年5月8日付) ▼ →「心当たりの人に協力要請」(5月16日付)、「白骨女性の復顔像作成」(12月1日付)に続報

「博物館を語る会 活動の成果を集約 近く意見のまとめへ 来月からの最終討議を」〔市立博物館構想〕(『岳南朝日』1991年=平成3年5月11日付)

「県境ゴルフ場 公害調停が成立 水質汚染防止に活性炭 情報提供・場内公開 事実上保障される 申請人側『実を取った』」〔富士山の自然を守る会〕(『岳南朝日』1991年=平成3年5月16日付)

「心当たりの人に協力要請 富士山・白骨死体」(『岳南朝日』1991年=平成3年5月16日付)

「県境ゴルフ場 上九一色村が方針 村長ら近く表敬訪問へ 富士宮へ情報提供」(『岳南朝日』1991年=平成3年5月19日付)

「日蓮正宗大石寺 登山運営めぐり大揺れ 宗門と信徒団体の対立表面化 創価学会の運営『7月から寺側に移す』売店に深刻な影響も」(『岳南朝日』1991年=平成3年5月23日付)

「篠原タクシー有限会社 創業60周年 伝統的ち密な研修で コンピューターを導入配車方式を大改革」(『岳南朝日』1991年=平成3年5月26日付「企業物語19」)

「富士南麓道路 国道昇格へ向け運動推進 期成同盟会が総会 早期実現めざす」〔国道469号〕(『岳南朝日』1991年=平成3年5月28日付)

「自力で下山し無事保護 山菜採りの老人」〔坂林林道〕〔中山繁雄〕(『岳南朝日』1991年=平成3年5月28日付) ▼

「大沢砂防、一段と広域化 建設省富士砂防工事事務所 メーンは猪の窪沈砂工 富士市内でもダム工事」(『岳南朝日』1991年=平成3年5月29日付)

「林地保全と活性化を 富士森林組合が総代会」(『岳南朝日』1991年=平成3年5月31日付)

「県境ゴルフ場 調停成立、集会で報告 一年の経緯を教訓に」〔富士山の自然を守る会〕  
（『岳南朝日』1991年＝平成3年6月1日付）

「9日にブナ林観察会 富士山の自然を守る会 参加者つもの」〔西臼塚〕（『岳南朝日』  
1991年＝平成3年6月4日付）

「杉山静大教授が講演」〔富士愛鷹の自然を守る会〕〔杉山恵一〕（『岳南朝日』199  
1年＝平成3年6月4日付）

「旧村山登山道 市が調査を委託 郷土史同好会の事業決まる」〔富士宮市郷土史同好会〕  
（『岳南朝日』1991年＝平成3年6月4日付） ▼

「四輪駆動など規制 富士山ろくの乗り入れ」〔オフロードバイク〕〔自然公園法〕（『岳  
南朝日』1991年＝平成3年6月4日付）

「武田信玄親子と富士宮浅間神社〈下〉佐野十三郎」〔浅間大社〕（『岳南朝日』199  
1年＝平成3年6月6日付「ふるさと再発見」）

「富士山でも枯損 ブナ林保護訴え 角張静大助教授が講演」〔角張嘉孝〕〔酸性雨〕（『岳  
南朝日』1991年＝平成3年6月7日付）

「大石寺と創価学会 登山運営めぐり対立混迷 寺側『学会と一定の距離を置く』学会側  
『唐突な寺側の措置』」（『岳南朝日』1991年＝平成3年6月7日付「金曜ルポ」）

「登山者の安全確保 県山岳遭対協が総会」〔山岳遭難防止対策協会〕（『岳南朝日』1  
991年＝平成3年6月8日付）

「どっこい生きている！ 伝統精神で陸稲栽培 富士宮の農家 年間100俵をを出荷」  
（『岳南朝日』1991年＝平成3年6月9日付）

「ブナ林の営みにふれ 富士山の自然を守る会が観察会」（『岳南朝日』1991年＝平  
成3年6月11日付）

「芝川のりの保護対策 14ヵ所を定点観測地に 水質保全のデータにも 富士宮市公害  
対策係」（『岳南朝日』1991年＝平成3年6月15日付）

「今年も山頂で日付印 ふもとへ涼感伝える」〔山頂郵便局〕（『岳南朝日』1991年  
＝平成3年6月23日付）

「学会（団体）輸送にピリオド 富士宮駅 きょうお別れ式」〔創価学会〕（『岳南朝日』  
1991年＝平成3年6月25日付）

「県境ゴルフ場調停成立報告 渡辺富士宮市長」（『岳南朝日』1991年＝平成3年6  
月25日付）

「遊歩道に木柵設置 建設大の生徒 開山前の宝永コース」〔建設大中央訓練所〕〔宝  
永遊歩道〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年6月25日付）

「富士市大淵の『杉田・竹川家』富士山御林守で勲功」（『岳南朝日』1991年＝平成  
3年6月26日付「家門と郷土」） ▼

「近づくお山開き 多彩なイベント展開 浅間大社と新五合目で」（『岳南朝日』199  
1年＝平成3年6月25日付）

「3年ぶり、ホッと 富士山頂の積雪ゼロ」（『岳南朝日』1991年＝平成3年6月25  
日付）

「労作の富士山模型 富士宮農卒業生 砂防事務所に寄贈」〔富士砂防工事事務所〕〔富  
士宮農業高校〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年6月25日付）

「夏本番 あす富士山お山開き 富士山登山ガイド 昨年3万人が頂上めざす」〔山頂郵便局〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年6月30日付）

「山室宿泊施設」（『岳南朝日』1991年＝平成3年6月30日付）

「富士登山新5合目バス時刻表」（『岳南朝日』1991年＝平成3年6月30日付）

「富士夏山開き 200人が一番乗り 新五合目で句会の人たちも」（『岳南朝日』1991年＝平成3年7月2日付）

「盛大にお山開き」〔写真〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年7月2日付）

「宗門と学会対立問題 大石寺境内、ひっそり 初日は法華講など2500人 学会員の登山者見えず 最悪の事態に売店深刻」〔創価学会〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年7月3日付）

「富士宮市精進川・佐野家の系譜『大先祖』は川越（埼玉県）から」（『岳南朝日』1991年＝平成3年7月4日付「家門と郷土」）

「オフロード車締め出し 標高1600m以上乗り入れ禁止 富士山」（『岳南朝日』1991年＝平成3年7月6日付）

「船舶の大型化を反映 90年の港湾統計 総トン数減り、貨物量は増加 田子浦港管理事務所」〔田子の浦港〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年7月7日付）

「山の中までピカピカ『富士山の横道』も 各所で林道改良工事 周辺環境も改善 維持管理に新たな課題」〔富士裾野線〕〔出水富士線〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年7月10日付）

「富士山頂局きょう開業 涼しい夏だよりを集配」〔山頂郵便局〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年7月10日付）

「『開拓之碑』の周辺 富士開拓40周年に寄せて〈上〉佐野十三郎」〔西富士長野開拓団〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年7月11日付）

「大沢崩れの見学会 富士砂防が50人募集」〔富士砂防工事事務所〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年7月13日付）

「村山口登山道跡の探索会」〔村山古道〕〔富士宮市郷土史同好会〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年7月13日付）▼→「旧村山口を歩こう」（7月28日付）、「古道の歴史、自然をたん能」（8月6日付）、「雲海の史跡と自然」（8月18日付）に続報

「富士山ろくで14件発見 産廃処理富士地区連絡会 不法投棄に監視強化」（『岳南朝日』1991年＝平成3年7月14日付）

「『開拓之碑』の周辺 富士開拓40周年に寄せて〈下〉佐野十三郎」〔西富士長野開拓団〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年7月13日付）

「行程に歴史の香り 神成～木伐山 石造物と曲折路」（『岳南朝日』1991年＝平成3年7月18日付「さんぽ道」）▼

「岡田紅陽の作品一堂に 富士市立博物館 初日に夫人の講演も 8月3日開幕」（『岳南朝日』1991年＝平成3年7月18日付）

「養護学校生が富士登山 高等部の20人 7合目まで登り切る 宮西山岳部がボランティア」〔富士養護学校〕〔富士宮西高校〕〔障害者登山〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年7月24日付）

「近江八幡の子ら迎え 25日から富士宮で児童交歓会」（『岳南朝日』1991年＝平成

3年7月24日付)

「安全な登山指導も 富士山新五合目に派出所」〔夏季臨時警備派出所〕(『岳南朝日』1991年=平成3年7月24日付)

「随想 富士山 菅野實」(『岳南朝日』1991年=平成3年7月25日付)

「光化学オキシダント、多発傾向 富士宮市 連日予報 市民に注意呼びかけ」(『岳南朝日』1991年=平成3年7月26日付)

「富士山で落石 女性登山者ケガ」〔遭難〕(『岳南朝日』1991年=平成3年7月26日付) ▼

「旧村山口を歩こう 郷土史同好会 来月4日に探索会」〔富士宮市郷土史同好会〕〔村山古道〕(『岳南朝日』1991年=平成3年7月28日付) ▼→「[古道の歴史、自然をたん能](#)」(8月6日付)、「[雲海の史跡と自然](#)」(8月18日付)に続報

「ゴミ持ち帰りキャンペーン 富士山2合目で」〔若草会〕(『岳南朝日』1991年=平成3年7月28日付)

「水系(富士山型・天子山型)の違い明確 朝霧地下水調査で中間報告 富士宮市」〔猪之頭湧水群〕〔土隆一〕(『岳南朝日』1991年=平成3年7月28日付)

「富士山でクリーン作戦 県農協青壮年連盟が参加」(『岳南朝日』1991年=平成3年7月30日付)

「『神幸橋』を拡幅改良 湧玉池を美しくする会 老朽化で架け替え」(『岳南朝日』1991年=平成3年7月30日付)

「随想 村山古道に取り憑かれて 佐野良」(『岳南朝日』1991年=平成3年7月30日付) ▼

「全般的に管理良好 富士宮保健所 富士山施設の衛生監視」〔山室衛生〕(『岳南朝日』1991年=平成3年7月30日付)

「男性登山客が疲労死 富士山9合5勺で倒れる」〔遭難〕(『岳南朝日』1991年=平成3年7月31日付) ▼

「国際ワークキャンプ開く ユースホステルふもとの家 富士登山や親善交流」(『岳南朝日』1991年=平成3年8月3日付)

「法大文学部 富士山の水を調査 白糸の滝や神田川でも」〔富士山周辺水調査〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月4日付)

「18日に富士山クリーン作戦 4市1町から1200人参加」〔富士山をいつまでも美しくする会〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月4日付)

「富士山夏まつりに6万5000人 全国の総体選手も見物 昂奮の神田川昇り」(『岳南朝日』1991年=平成3年8月6日付)

「古道の歴史、自然をたん能 旧村山口の探索会 新たな石造物も発見」〔村山古道〕〔富士宮市郷土史同好会〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月6日付) ▼←「[雲海の史跡と自然](#)」(8月18日付)に関連記事

「地域の案内一目で 元村山青年団が看板立てる」(『岳南朝日』1991年=平成3年8月7日付) ▼

「波志太山・鉢田の戦いは…朝霧高原か愛鷹山麓か(上) 中島信哉」〔富士川合戦〕〔甲斐源氏〕〔『吾妻鏡』〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月8日付)「ふるさと再発

見) )

「富士山の復元テーマに 来月、著名人集め国際シンポ 富士市」〔富士山国際シンポジウム〕〔富士山の自然復元〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月9日付) → 「『地球環境回復のモデルに』」(9月14日付)、「富士山の自然復元をめざせ」(9月19日付)、「91 ステートメント」(9月19日付)に続報

「エントツを日本一生かしたまちづくり まず365本の“戸籍”づくりから 全国シンポ11月に照準 公害の象徴に文化の光を」(『岳南朝日』1991年=平成3年8月9日付「金曜ルポ」)

「火山災害などテーマに『富士山にまなぶ』講演会 18日、文化会館で」〔富士山にまなぶ火山と砂防〕〔土隆一〕〔池谷浩〕〔富士砂防工事事務所〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月11日付) → 「不思議でない噴火」(8月30日付)に続報

「雲海の史跡と自然 富士山旧村山口登山道探索写真ルポ」〔村山古道〕〔富士宮市郷土史同好会〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月18日付) ▼

「空き缶など1・9ト回収 富士山クリーン作戦 1500人がお山の後片付け」〔富士山をいつまでも美しくする会〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月20日付) → 「あいかわらずゴミの山」(8月20日付)に関連記事

「30種類すべて対象に 市が農薬汚染をチェック」〔公害〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月20日付)

「あいかわらずゴミの山 富士山クリーン作戦」〔富士山をいつまでも美しくする会〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月20日付「グラフ特集」)

「波志太山・鉢田の戦いは…朝霧高原か愛鷹山麓か(下) 中島信哉」〔富士川合戦〕〔甲斐源氏〕〔『吾妻鏡』〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月22日付「ふるさと再発見」)「深刻な後継者不足 市農経振が県に要望書」〔富士宮市農業経営振興会〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月28日付)

「新五合目で清掃運動 たばこ会社と組合婦人部」〔富士宮たばこ販売組合〕〔日本たばこ〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月28日付)

「不思議でない噴火 土隆一静大教授が講演」〔富士砂防工事事務所〕〔富士山にまなぶ火山と砂防〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月30日付)

「火山砂防に位置づけ 建設省、災害予想区域図の作成も」〔池谷浩〕〔富士砂防工事事務所〕〔富士山にまなぶ火山と砂防〕〔ハザードマップ〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月30日付)

「遭難事故死など3件 今夏の富士山 警備派出所閉じる」(『岳南朝日』1991年=平成3年8月30日付)

「歴史と伝統のゴマ焼き 村山浅間神社祭典」〔村山閉山式〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月30日付) → 「こぼれ話」(9月5日付)に続報▼

「白糸の滝でまた倒木 関係者が安全対策協議へ」〔落木事故〕〔白糸の滝等保全対策協議会〕(『岳南朝日』1991年=平成3年8月31日付) ← 「白糸の滝で大木落下」(昭和58年5月14日付)参照、「白糸の滝保全 防護フェンスをかさ上げ」(9月15日付)に続報

「利用者、収入とも増加 今夏の富士山頂郵便局総決算」(『岳南朝日』1991年=平

成3年9月5日付)

「こぼれ話」〔村山閉山式〕〔護摩供〕〔鈴木勲〕〔杉の葉〕(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月5日付) ▼

「開発計画実現で陳情 富士根地域の振興協議会」〔富士根地区地域振興協議会〕〔大河原栄男〕〔新富士インターナショナルスペース計画〕〔サンキ・システムプロダクト〕(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月6日付) ▼→「[北部開発慎重に対処](#)」(9月27日付) [に続報](#)

「利用者の8割が高山病 今夏の富士山衛生センター 前年比26%上回る」〔浜松医大〕(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月6日付)

「ハンググライダー墜落 東京の社長が重症」(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月8日付)

「秋色濃くする富士山ろく」(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月8日付)

「石仏を訪ねて〈上〉出水(いずりみず)井出栄一」〔眼のびっこの不動尊〕〔宇賀神と弁財天〕(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月12日付「ふるさと再発見」)

「日の出仰ぎ美化運動 スカウトの日 B S第3団が富士山清掃」〔清掃登山〕〔ボーイスカウト〕(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月12日付)

「夏の行楽総決算 富士山は3・5%上回る 北部観光地は前年並み ディズニーにさらわれた行楽客 夏期観光客入込状況」(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月12日付)

「『地球環境回復のモデルに』富士山ステートメントを採択 国際シンポ」〔富士山国際シンポジウム〕(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月14日付)

「白糸の滝保全 防護フェンスをかさ上げ 恒久対策案もほぼ固まる」〔落木事故〕〔白糸の滝等保全対策協議会〕(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月15日付)

「富士宮地方も大雨 台風17号 通行止めや土砂崩れ」〔豪雨〕(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月15日付)

「富士山の自然復元をめざせ 国際シンポジウム・提言から 単に『保護』では済まぬ 専門家は積極的貢献を」〔富士山国際シンポジウム〕(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月19日付「視点焦点」)

「'91ステートメント 富士山保護 世界のモデルに 必要な中長期管理計画」〔富士山国際シンポジウム〕(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月19日付)

「ガラン沢で登山者が凍死」〔遭難〕(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月18日付)

▼→「[遺体登山者の身元判明](#)」(9月20日付) [に続報](#)

「石仏を訪ねて〈中〉小泉若宮の『直至院』井出栄一」(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月19日付「ふるさと再発見」)

「遺体登山者の身元判明」〔ガラン沢〕〔三好進〕(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月20日付)

「石仏を訪ねて〈下〉杉田の安養寺』井出栄一」〔滝泉寺という寺跡〕〔恩智養宗と杉田用水〕(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月26日付「ふるさと再発見」)

「北部開発慎重に対処 総務委で当局説明」〔富士根地区地域振興協議会〕〔大河原栄男〕〔新富士インターナショナルスペース計画〕〔林業森林保全地域〕(『岳南朝日』1991年＝平成3年9月27日付) ▼



「富士大宮司家の墓前祭 50人が遺徳しのぶ」（『岳南朝日』1991年＝平成3年9月27日付）

「悩み深刻富士山の放置林 人工林の30%手つかず 補助も効き目薄く？土砂流出の引き金にも」（『岳南朝日』1991年＝平成3年9月27日付「金曜ルポ」）

「自然環境の冊子、相次ぎ出版」〔『富士山の極限環境に生きる植物たち』増沢武弘著〕  
〔『湧水の復活のために雨水を地下に』渡辺佐一郎著〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年9月27日付）

「大沢扇状地でアザミ移植調査 500本の苗も植える」〔大沢崩れ〕〔富士砂防工事事務所〕〔増沢武弘〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年9月27日付）

「富士急が『記念の森林（もり）』創立65周年で林野庁と共同経営」（『岳南朝日』1991年＝平成3年10月8日付）

「意外に深い台風の傷あと 河川、道路に5億円の被害 富士宮市 国へ災害査定申請」〔豪雨〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年10月12日付）

「富士と琵琶湖を結ぶ会 近江八幡と夫婦都市提携 25年 観光協会が交歓旅行を計画」（『岳南朝日』1991年＝平成3年10月12日付）

「富士山頂に明治の気概 浅間大社調べ 高齢者登拝 今夏、90歳組が14人も 上位は新旧交代模様 富士宮組トップは石川さん」〔高齢者登山〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年10月13日付） ▼▼

「富士山林道の『SOS』御報の可能性も」〔遭難〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年10月15日付） ▼

「富士山頂、冬景色 8合目まで冠雪くっきり」（『岳南朝日』1991年＝平成3年10月17日付）

「訂正『笹垢離』跡 佐野良」〔村山古道〕〔角田屋佐野与一〕〔大縦〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年10月17日付「ふるさと再発見」） ▼ ←「旧村山登山道『笹垢離』（1990年＝平成2年11月29日付）の訂正

「ひっそり内職作業も 大石寺売店 登山者激減、深刻さ増す 周辺民宿も打撃」（『岳南朝日』1991年＝平成3年10月20日付）

「田貫湖をグレードアップ 湖畔沿いに遊水池 自転車遊歩道計画の一部に」（『岳南朝日』1991年＝平成3年10月26日付）

「自殺の5遺体収容 青木ヶ原樹海で捜索」（『岳南朝日』1991年＝平成3年10月30日付「峡南・富士五湖」）

「本栖湖キャンプ場 新コテージが完成」（『岳南朝日』1991年＝平成3年10月30日付「峡南・富士五湖」）

「地域史の研究30余年 鈴木富雄さん 未来を開く昔の姿 郷土史研究誌『駿河』すでに46号」〔駿河郷土史研究会〕〔『富士市の神社』富士市立図書館蔵〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年10月31日付「市民の文化」）

「ツツガムシにご用心 山野に潜伏するゲリラ 昨年は患者が一人発生」（『岳南朝日』1991年＝平成3年10月31日付）

「本山と創価学会、全面对立 宗門側が信徒団体の解散を勧告」〔大石寺〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年11月9日付）

「宗門と学会の対立問題 泥沼化の様相 学会、法主の退座を要求」〔創価学会〕〔大石寺〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年11月10日付）

「東海自然歩道のルート一部変更 根原地区 草原丘陵から山寄りに 旧ルートの存続求める声も」（『岳南朝日』1991年＝平成3年11月10日付）

「深刻化する環境問題反映 公害対策審議会 審議会の機能見直し論も」（『岳南朝日』1991年＝平成3年11月14日付）

「後を絶たない不法投棄 富士宮北部だけで12件も 産廃連絡会で対策を協議」（『岳南朝日』1991年＝平成3年11月14日付）

「岩本山実相寺 勅願の天台密教から日蓮に帰依 日蓮宗霊跡本山水造安国論霊場『立証安国論』誕生の巨刹」（『岳南朝日』1991年＝平成3年11月14日付「シリーズ 岳麓の社寺」）

「富士山と車公害 佐野栄代」（『岳南朝日』1991年＝平成3年11月15日付「時評」）  
→「続・富士山と車公害」（1992年＝平成4年7月10日付）あり

「富士砂防、順調に進む 源頭部でネット強度、植生調査 滝沢川流路工にも着手」〔富士砂防工事事務所〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年11月20日付）

「石仏を訪ねて〈上〉井出栄一」〔右富士山道〕〔賽の河原六地藏〕〔繕れ場〕〔道者道〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年11月21日付「ふるさと再発見」）

「石仏を訪ねて〈下〉井出栄一」〔十三仏〕〔一字一石経塚〕〔道者道〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年11月28日付「ふるさと再発見」）

「創価学会を団体破門『正宗とは無関係』宗門側『動ぜずに活動推進』学会側」〔大石寺〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年11月30日付）

「白骨女性の復顔像作成 富士宮署が全国に公開」（『岳南朝日』1991年＝平成3年12月1日付）

「山静県境ゴルフ場 調停後、初の現地視察 保全条項などを点検 申請人に審査官らも同行」〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年12月6日付）

「右翼の街宣車に悲鳴 大石寺周辺 市区長会上野支部 関係機関に対策を陳情 上野小校内マラソンを延期 現行法ではお手上げ」〔創価学会〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年12月10日付）

「土石流をキャッチ 建設省富士砂防の大沢岩樋テレビカメラ 20万立方メートルが一挙に流下」〔大沢崩れ〕〔富士砂防工事事務所〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年12月12日付）

「安全管理に手落ち 有毒ガス流出事故 工場長代理を書類送検」〔丸井製紙〕〔公害〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年12月12日付）

「富士登山道通行止め 降雪で新5合目ルートも」〔スカイライン〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年12月12日付）

「湧玉池や白糸の滝など 県みずべー○○選に」〔静岡県みずべー○○選〕（『岳南朝日』1991年＝平成3年12月22日付）

「富士地域に1300万人 90年度観光客入込調べ 依然『通過型』に甘んじる」（『岳南朝日』1991年＝平成3年12月22日付）

「よみがえった神田川 初の環境基準（B類）クリア」〔地下水汚染〕（『岳南朝日』1

991年＝平成3年12月27日付)

「新五合目間、冬期閉鎖 表富士スカイライン 再開は明春4月に」(『岳南朝日』1991年＝平成3年12月27日付)

「白糸の滝周辺探訪(下) 佐野十三郎」〔清釜太郎〕〔上井出宿の老松〕〔若桜神社〕(『岳南朝日』1991年＝平成3年12月28日付「ふるさと再発見」)

## ■ 1992年＝平成4年

「若者たちよ、何が見えるか 撮影 坂本猛」(『岳南朝日』1992年＝平成4年1月1日付)

「ニホンザル 愛鷹山では目撃多く 富士山には可能性少い」(『岳南朝日』1992年＝平成4年1月1日付)

「冬だ！スキーだ！ゲレンデ天国 スキーサイド情報あれこれ 富士天神山スキー場」(『岳南朝日』1992年＝平成4年1月1日付「レジャー特集」)

「富士山御自然を考える 杉山恵一 高橋節蔵 渡辺佐一郎 中島信哉」(『岳南朝日』1992年＝平成4年1月3日付「座談会」)

「警備中の信徒毆る 大石寺境内で街宣車の二人」(『岳南朝日』1992年＝平成4年1月5日付)

「パラグライダー失速、女性重症」(『岳南朝日』1992年＝平成4年1月5日付)

「村山浅間 東見付けまでの道筋(上) 井出栄一」〔道者道〕〔富士本道〕〔下向道〕〔村山道〕〔根方道者〕(『岳南朝日』1992年＝平成4年1月8日付「ふるさと再発見」)



「岳南排水路“裏方さん”も疲労気味 目立つ管の老朽化 各所で改修工事 車両の重圧も原因」(『岳南朝日』1992年＝平成4年1月18日付「ズームアップ」)

「村山浅間 東見付けまでの道筋(下) 井出栄一」〔村山道〕〔むら山道〕〔山崎福松〕〔道しるべ〕(『岳南朝日』1992年＝平成4年1月22日付「ふるさと再発見」) ▼▼

「二子山で冬山訓練 県山岳救助隊 富士宮署員も参加」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会〕〔救助訓練〕(『岳南朝日』1992年＝平成4年1月25日付)

「村山浅間の節分祭」(『岳南朝日』1992年＝平成4年1月25日付) ▼▼

「立体駐車場かマイカー規制か 富士山5合目舞台に環境論争」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1992年＝平成4年1月29日付)

「富士山の女人堂跡 旧村山口登山道調査」〔村山古道〕(『岳南朝日』1992年＝平成4年1月29日付「ふるさと再発見」) ▼▼ ←添付地図に描かれている村山古道は、八大龍王から熔岩流末端を直登して富士山周遊道の上の山の神社に出ている。またここでの「女人堂跡」は中宮八幡堂まで5分だから『富士山村山口登山道跡調査報告書』にいう「2号建物跡」の位置に間違いないが、文中にある石組みをこんにち見ることはできない。また同報告書の「2号建物跡」の写真説明は《道の南側に12m×8mの平坦面があり、道の北側にも平らなところがあります。》となっている。しかし道の正面上方に富士山頂が見えるので、この道は南北に通じており、《道の南側》《道の北側》という表現はふさわしくない。

「人工林を自然林に 富士山腹に復元構想 粟倉を舞台に ゴルフ場計画を一転」〔自然林復元〕〔環境アセスメントセンター〕〔塩坂邦雄〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年1月31日付）

「6月に国際シンポも開催」〔自然林復元国際シンポジウム〕〔静岡大学環境研究会〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年1月31日付）

「3月早々に事業着手 自然林復元 近田静大助教授ら現地調査」〔環境アセスメントセンター〕〔近田文雄〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月4日付）

「幸せ祈って豆まき村山では東と西の二カ所で」〔村山浅間神社〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月5日付）

「大石寺従業員が労組結成 僧俗対立深まる中で」〔富士宮ヒューマンユニオン〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月5日付）

「僧俗の正宗離脱で宗門が反論」〔大石寺〕〔創価学会〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月5日付）

「幸せ祈って豆まき 浅間大社の節分祭に1000人 東漸寺でもにぎやかに 村山では東と西の二カ所で」〔鈴木勲〕〔村山浅間神社〕〔村山青年団〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月5日付）▼▼

「富士宮市政施行前夜―大宮町と富丘村の合併―〈上〉沢田正彦」（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月5日付「ふるさと再発見」）

「南麓路のルート公表 本村山から山宮間2・5km 近く地元で説明会開く」〔国道469号〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月7日付）

「表富士レストハウス 春のオープンへ急ピッチ 火災から一年、建て替え」〔グリーンキャンプ場〕〔ピカ表富士〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月7日付）

「『子どもの国』決定 富士市の誘致実る 県議会特委が正式に報告」（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月8日付）

「高架線がお目見え 安居山地内の身延線 供用開始は4月以降」（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月8日付）

「ダルマ市にぎわう 毘沙門祭が幕開け」（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月11日付）

「富士山国有林“リゾート林”大幅増の危機!? 自然保護団体が『意見書』施業管理計画に反映を 背景に国有林の財政大赤字が…?」〔国有林地域別森林計画〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月15日付「視点焦点」）

「修行僧らが水行式 東漸寺副住職の荒行帰山祝い」〔黒崎政秀〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月15日付）

「動植物の聖域に理解を 地域別森林計画へ意見書 富士山の自然を守る会」〔国有林地域別森林計画〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月18日付）

「春を待つ田貫湖畔に新名所 親水公園や遊歩道橋 観光シーズンにお目見え」（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月20日付）

「南麓道路ルートの説明会 富士土木事務所」〔国道469号〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月20日付）

「富士宮署員が冬山救助訓練」（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月20日付）

「富士山で遭難救助訓練 富士宮署の隊員 11 人が参加」（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月21日付）

「オーミケンシ富士宮工場閉鎖へ 来月 20 日で操業停止 53 年間に及ぶ歴史に幕 跡地再活用に関心集まる」（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月23日付）

「間伐にメカトロ隊 白糸区有林で活躍 県森林連が新鋭機器備え」（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月23日付）

「遭難者の搬送技術も 富士宮署が冬山救助訓練」（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月23日付）

「大石寺への街宣活動に 地裁富士支部 禁止の仮処分下す」〔阿部日顕〕〔山崎慈昭〕〔小川只道〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月28日付）

「富士宮市政施行前夜－大宮町と富丘村の合併－〈下〉沢田正彦」（『岳南朝日』1992年＝平成4年2月26日付「ふるさと再発見」）

「富士山の文化を学ぶ 町おこしにつながる運動 元富士宮市教育長 塩川隆司さん 自然、文化、歴史などなど学際的な『市民自前の講座』」（『岳南朝日』1992年＝平成4年3月4日付「市民の文化」）

「実相寺を訪ねて－仁王像と大わらじ－井出栄一」（『岳南朝日』1992年＝平成4年3月4日付「ふるさと再発見」）

「8月に国際ビックハイク 富士山一周と日帰りコース」（『岳南朝日』1992年＝平成4年3月4日付）

「30年間の学舎閉じる オーミケンシ高等女学院 工場閉鎖で最後の卒業式」（『岳南朝日』1992年＝平成4年3月10日付）

「大淵畑総事業 道路・排水路ほぼ完了 生産と住環境が一変 富士根畑総と共存共栄」〔大淵地区畑地帯総合改良事業〕〔富士根畑地帯総合整備事業〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年3月11日付）

「富士国有林野に“黄信号”自然維持林の拡大図れ 富士森林計画に『意見書』」〔国有林地域別森林計画〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年3月13日付）

「難病の子供に富士山を 富士宮市を拠点にイベント『いのちの輝き』テーマに 5月～8月 全国から100人が参加」（『岳南朝日』1992年＝平成4年3月14日付）

「朝霧でパラグライダー競技会 岳南朝日杯」（『岳南朝日』1992年＝平成4年3月14日付）

「富士宮の開国・維新への足跡 幕末の外国人の富士登山 =上= 中島信哉」〔オールコック〕〔『日本登山史 新稿』山崎安治著、白水社、1986年〕〔『大君の都』山口光朔訳、岩波文庫、1978年〕〔『悪魔のため息』谷有二著、未来社、1986年〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年3月18日付「ふるさと再発見」） ▼▼

「たった一人の卒業式 栗倉分校の植松君、巣立つ」〔富士根北小学校〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年3月20日付）

「富士宮の開国・維新への足跡 幕末の外国人の富士登山 =下= 中島信哉」（『岳南朝日』1992年＝平成4年3月25日付「ふるさと再発見」） ▼▼

「富士宮市と3ゴルフ場“農薬協定”を締結 自治体独自では県内二番目 立ち入り調査条項含む」（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月3日付）

「妙遠坊本堂に発砲 大石寺 窓ガラス5枚割る」〔阿部日顕〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月7日付）

「大石寺で信徒と組合員けが」〔富士宮ヒューマンユニオン〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月7日付）

「間伐枝打ちを促進 富士宮市 補助・奨励金、大幅アップ」（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月10日付）

「本町商店街 アーケード落成で多彩な行事『マイロード本町』に決定」（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月10日付）

「富士山登山ルートを除雪作業本格化 26日に開通予定」〔スカイライン冬季閉鎖〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月10日付）

「延長300mのテープカット『マイロード本町』が落成」（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月12日付）

「富士南麓道路に弾み 本年度は7億投入」〔国道469号〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月12日付）

「富士側ルートも近く発表」〔国道469号〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月12日付）

「酸性雨を追う 守る会が講演会」〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月12日付）

「水と緑の砂防モデルに 富士砂防事業 源頭部と野溪対策が重点」〔大沢崩れ〕〔富士砂防工事事務所〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月12日付）

「市内の『遺跡地図』を作製 埋蔵文化財保護に活用 無料配布」〔『富士宮市遺跡地図1992』富士宮市教育委員会編・発行、1992年〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月12日付）

「登山区間26日オープン 富士山スカイライン 除雪作業も順調に」〔スカイライン冬期閉鎖〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月15日付）

「角張静大助教授の講演も 富士山の自然を守り会が総会」〔角張嘉孝〕〔酸性雨〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月15日付）

「天目山の悲運勝頼と富士宮浅間大社の森〈上〉佐野十三郎」（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月15日付「ふるさと再発見」）

「ブナ林復元に着手 栗倉の民有人工林 幼木250本を植栽」〔環境アセスメントセンター〕〔塩坂邦雄〕〔近田文弘〕〔自然林復元〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月19日付）

「表富士レストハウスが完成 25日オープン」〔グリーンキャンプ場〕〔ピカ表富士〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月19日付）

「天目山の悲運勝頼と富士宮浅間大社の森〈下〉佐野十三郎」〔スダジイ〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月22日付「ふるさと再発見」）

「背後関係など追及 富士宮署 大石寺恐喝未遂の女性」〔創価学会〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年4月22日付） →「[大石寺を脅した女性起訴（5月13日付）](#)」、「[大石寺脅迫の女性に懲役10月求刑（6月10日付）](#)」に続報

「富士山の自然を守る会の講演から酸性雨を追う〈上〉欧州では森や湖に被害 角張嘉孝」

(『岳南朝日』 1992年=平成4年4月25日付)

「富士山の自然を守る会の講演から酸性雨を追う〈下〉ブナ林の生育に障害 角張嘉孝」

(『岳南朝日』 1992年=平成4年4月26日付)

「登山道で重体事故 大型送迎バスと衝突」〔スカイライン〕 (『岳南朝日』 1992年=平成4年4月26日付)

「吉原高校1年生が集団宿泊訓練 山麓の村で2泊3日 大自然の中で規律体験」〔富士山麓山の村〕 (『岳南朝日』 1992年=平成4年5月1日付「ハイスクール」)

「湧玉池上流部のTCE 初めて基準下回る 有機塩素系汚染」〔地下水汚染〕〔〕トリクロロエチレン (『岳南朝日』 1992年=平成4年5月3日付)

「自然林見直しでシンポ 来月、富士宮市内で開催」〔自然林復元国際シンポジウム〕 (『岳南朝日』 1992年=平成4年5月5日付)

「GW行楽地人出総決算 新五合目に1万5千台 富士山スカイライン」 (『岳南朝日』 1992年=平成4年5月7日付)

「富士山で遭難相次ぐ 滑落などで4人死亡、2人重傷 富士宮署管内」 (『岳南朝日』 1992年=平成4年5月7日付) ▼▼

「春の野山散策中止」〔富士根北公民館〕 (『岳南朝日』 1992年=平成4年5月7日付) ▼▼

「大石寺を脅した女性起訴」 (『岳南朝日』 1992年=平成4年5月13日付) ←この記事の最後の1行は次の別記事2段目の1行目が紛れ込んだものと推量される。

「右翼幹部三人逮捕 大石寺売店で業務妨害 富士宮署」 (『岳南朝日』 1992年=平成4年5月13日付)

「南麓道路促進に拍車 期成同盟会国道昇格後、初の総会 未公開ルート、28日に発表」〔富士南麓道路建設促進期成同盟会〕〔国道469号〕 (『岳南朝日』 1992年=平成4年5月14日付)

「富士山は甘くない 佐野栄代」〔昭和47年3月20日発生の富士山史上最大の遭難〕 (『岳南朝日』 1992年=平成4年5月15日付「時評」) ▼

「登山者のモラルを啓発 富士山遭難事故対策検討会『未然防止にも限界が』」 (『岳南朝日』 1992年=平成4年5月16日付) ▼

「モリアオガエルの季節 今年も栗倉で卵塊」〔近藤照光〕〔近藤節子〕 (『岳南朝日』 1992年=平成4年5月16日付)

「大石寺の寮に火炎ビン 勝手場付近の屋根焦げる」 (『岳南朝日』 1992年=平成4年5月19日付)

「天照教を訪ねてーその発祥と沿革史〈上〉井出栄一」 (『岳南朝日』 1992年=平成4年5月20日付「ふるさと再発見」) ▼▼ ←ここに書かれているほぼ全文が「天照教物語」の198～202ページ (『史話と伝説 富士山麓の巻』松尾四郎編、松尾書店、昭和33年) からの抜粋・引用である。

「大沢崩れ源頭部でフジアザミの移植調査 建設省富士砂防事務所」〔富士砂防工事事務所〕 (『岳南朝日』 1992年=平成4年5月29日付)

「天照教を訪ねてーその発祥と沿革史〈中〉井出栄一」 (『岳南朝日』 1992年=平成4年6月3日付「ふるさと再発見」) ▼▼←ここに書かれているほぼ全文が「天照教物語」

の203～212ページ（『史話と伝説 富士山麓の巻』松尾四郎編、松尾書店、昭和33年）からの抜粋・引用である。なお同書212ページ上段2行目に（徳田悦翁）と注記がある。同書の他の文章末尾には、出典や話者が記載されていることが多いので、この「天照教物語」の内容は、天照教第2代・徳田悦翁丸の談話が基になっているのかもしれない。

「富士山峡谷部 フジアザミで崩壊防ぐ 斜面に苗1000本を移植 増沢助教授（静大）の研究活用」〔増沢武弘〕〔大沢崩れ〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年6月4日付）

「リゾート法廃止ゴルフ場反対全国交流集会（静岡）から〈上〉大規模開発、徐々に下火」（『岳南朝日』1992年＝平成4年6月5日付）

「リゾート法廃止ゴルフ場反対全国交流集会（静岡）から〈下〉富士山国有林にも“危機”迫る」（『岳南朝日』1992年＝平成4年6月6日付）

「7年ぶり大規模開発審査 栗倉に工業団地造成計画」〔富士山南陵工業団地〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年6月7日付）

「富士山にセスナ機墜落 乗員男女三人が絶望」〔鈴木明〕〔鈴木奈緒美〕〔増子美和〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年6月7日付） ▼▼

「本栖湖から流水なし 土隆一静大名誉教授 朝霧地域の地下水調査 全協で報告」（『岳南朝日』1992年＝平成4年6月9日付） ▼

「富士山自然観察会 新緑のブナ林をゆく」〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年6月9日付「フォト特集」）

「3人の遺体を収容 富士山頂セスナ機墜落 事故原因の究明へ」（『岳南朝日』1992年＝平成4年6月9日付）

「天照教を訪ねて－その発祥と沿革史〈下〉井出栄一」（『岳南朝日』1992年＝平成4年6月10日付「ふるさと再発見」） ▼▼←本文中、後半の「人魚のミイラ」の由来・来歴部分については井出栄一氏の加筆が若干みられるが、ほぼ全文が「天照教物語」の212ページ（『史話と伝説 富士山麓の巻』松尾四郎編、松尾書店、昭和33年）からの抜粋・引用である。

「大石寺脅迫の女性に懲役10月求刑 地裁富士支部初公判」（『岳南朝日』1992年＝平成4年6月10日付）

「富士宮署に現地対策本部設置 セスナ機墜落事故」（『岳南朝日』1992年＝平成4年6月10日付）

「自然林復元シンポが開幕 国内外の学者ら問題提起」〔自然林復元国際シンポジウム〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年6月11日付）

「復元の重要性を強調 富士山の酸性雨被害も報告」〔自然林復元国際シンポジウム〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年6月13日付）

「チェック事項明らかに 大規模開発申請前協議 住民合意や信用調査も」〔富士根観光開発〕〔富士山南陵工業団地〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年6月13日付）

「7年ぶり大規模開発が浮上『工業団地』造成計画が審議入り 異業種団地構想も絡む『民・民』方式で動く」〔富士根観光開発〕〔富士山南陵工業団地〕〔国道469号〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年6月13日付「時局ラウンジ」）

「自然林復元国際シンポ報告から〈1〉木材資源と人工林 静岡県林業技術センター所長伊藤守夫」〔自然林復元国際シンポジウム〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年6月17



日付)

「大鳥居再建で申し入れ 大社役員会 渡辺市長、即答避ける」〔駅前整備〕〔浅間大社〕  
(『岳南朝日』1992年=平成4年6月17日付)

「大規模開発計画 土地利用委を通過」〔富士山南陵工業団地〕(『岳南朝日』1992年=平成4年6月17日付)

「県に着工先送り要望 富士山五合目立体駐車場で住民『環境への影響調査を』」〔スカイライン〕(『岳南朝日』1992年=平成4年6月17日付)

「実況見分で登頂 セスナ機墜落事故」(『岳南朝日』1992年=平成4年6月17日付)

「名簿提出指導を徹底 山岳遭対協支部が総会」〔静岡県山岳遭難防止対策協議会〕(『岳南朝日』1992年=平成4年6月18日付)

「オフロード車締め出し 28日、初の合同パトロール」〔富士山自然環境保全連絡会議〕  
(『岳南朝日』1992年=平成4年6月18日付) ▼

「自然林復元国際シンポ報告から〈2〉自然林と人工林、ゴルフ場の水保全機能 岩手大学大学院連合農学科教授 村井宏」〔自然林復元国際シンポジウム〕(『岳南朝日』1992年=平成4年6月18日付)

「ミス富士山が一日砂防所長」〔大沢崩れ〕〔富士砂防工事事務所〕(『岳南朝日』1992年=平成4年6月18日付)

「事故機の回収は現場で分解 セスナ機対策本部」〔セスナ機墜落〕(『岳南朝日』1992年=平成4年6月18日付)

「不法投棄、後を絶たず 建設廃材など山積み 県が富士山ろくで統一パトロール」〔産廃〕(『岳南朝日』1992年=平成4年6月19日付)

「自然林復元国際シンポ報告から〈3〉富士山におけるブナ林の復元 静岡大学理学部助教授 近田文弘」〔自然林復元国際シンポジウム〕(『岳南朝日』1992年=平成4年6月19日付)

「不法投棄パトロール 富士地区で187トンを確認 80%が産業廃棄物」〔産廃〕(『岳南朝日』1992年=平成4年6月20日付)

「自然林復元国際シンポ報告から〈4〉中国雲南省の自然生態系の破壊と復元 中国科学院昆明植物研究所 徐延志 自然林の土壌特性と土壌管理について 静岡大学農学部 伊藤忠夫 インドにおける地域開発と森林減少 デリー大学教授 R・B・シン」〔自然林復元国際シンポジウム〕(『岳南朝日』1992年=平成4年6月20日付)

「あすセスナ機回収 富士山頂墜落事故 解体し、本田航空へ搬送」〔セスナ機墜落〕(『岳南朝日』1992年=平成4年6月21日付)

「英国大使館も出席 富士山開きに親善交流も」〔オールコック記念碑〕〔市政50周年〕〔村山浅間神社〕(『岳南朝日』1992年=平成4年6月21日付) ▼▼

「無惨、サツキ根こそぎ 富士根北中で 手作りの花壇から連続2回」(『岳南朝日』1992年=平成4年6月24日付)

「山開き登頂に“赤信号”今夏の富士山 九合五勺以上に2<sup>㊦</sup>の残雪」(『岳南朝日』1992年=平成4年6月24日付) ▼

「7月1日、お山開き 富士山 昨年約3万人が山頂へ」(『岳南朝日』1992年=平成4年6月25日付)

「富士山登山バス時刻表」(『岳南朝日』1992年=平成4年6月25日付)

「開山祭 市制施行50周年と合わせて盛大に」〔市政50周年〕〔オールコック記念碑〕(『岳南朝日』1992年=平成4年6月25日付) ▼▼

「駅前商店街を並木通りにイメージチェンジ 今秋、アーケードを撤去」(『岳南朝日』1992年=平成4年6月27日付)

「夏山開き、あす盛大に 市政50周年で多彩な行事 市中パレードや日英交流式典」(『岳南朝日』1992年=平成4年6月30日付)

「富士山の環境美化を呼びかけ 新五合目などに横断幕 富士宮・中央両LCが設置」(『岳南朝日』1992年=平成4年6月30日付)

「当分の間通行止め 富士山頂」〔残雪〕(『岳南朝日』1992年=平成4年6月30日付)

「山室衛生監視の日程決まる」(『岳南朝日』1992年=平成4年6月30日付)

「“台風一過”夏山開き オールコック記念碑除幕も 市政50周年祝い盛り上がる」〔英国大使館〕(『岳南朝日』1992年=平成4年7月2日付)

「旧村山登山口で植樹 フジザクラとプラタナス」〔英国大使館〕〔渡辺紀〕〔グラハム・フライ〕(『岳南朝日』1992年=平成4年7月2日付) ▼▼

「新五合目で観光案内 市が協会に委託 山頂登山者数の調査も」〔富士宮市観光協会〕(『岳南朝日』1992年=平成4年7月2日付)

「和やかに日英親善交流 富士開山式典 ミス富士山に水越さん」〔英国大使館〕〔渡辺紀〕〔グラハム・フライ〕〔オールコック〕(『岳南朝日』1992年=平成4年7月3日付)

「富士山も笑顔の夏山開き」(『岳南朝日』1992年=平成4年7月3日付「グラフ特集」)

「小規模校の良さを強調 栗倉分校で山内元校長が講演」〔富士根北小〕〔山内修〕(『岳南朝日』1992年=平成4年7月4日付)

「大鳥居再建問題 物心両面になお難題 当局、打開に全力」(『岳南朝日』1992年=平成4年7月8日付)

「古式ゆかしくお田植え祭 豊作を願って」(『岳南朝日』1992年=平成4年7月8日付)

「村山浅間神社を訪ねて〈1〉富士山表口の光と影 浅間神社の御神体 大日如来座像 井出栄一」〔『富士山表口「村山」の歴史』遠藤秀男〕(『岳南朝日』1992年=平成4年7月8日付「ふるさと再発見」) ▼▼

「続・富士山と車公害 佐野栄代」(『岳南朝日』1992年=平成4年7月10日付「時評」) ←「富士山と車公害」(1991年=平成3年11月15日付)にあり

「13、14日に人海作戦で除雪 富士山表口登山道」〔残雪〕(『岳南朝日』1992年=平成4年7月10日付)

「山の村にオゾン濃度計 富士宮市 ブナ林などへの影響調査」〔富士山麓山の村〕〔大気汚染〕(『岳南朝日』1992年=平成4年7月11日付)

「迫る『小作料額改訂』自治体も不安 見直しはどのように」(『岳南朝日』1992年=平成4年7月16日付)

「富士山と富士宮展“ミニ博物館”や講演会 旧村山口登山道の探索も」〔市政50周年〕〔村山古道〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月17日付）

「富士山頂上オープン 人海作戦の除雪が奏功 通行止め解除」〔残雪〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月17日付）

「一日署長にミス富士山 新五合目に『警備派出所』」（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月17日付）

「ふるさと再発見 村山浅間神社を訪ねて〈2〉如来といわれる仏様 修験道役小角 村山と役小角 井出栄一」（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月18日付）

「登山客に安全呼びかけ 富士山整備派出所 一日署長の水越さん」〔警備派出所〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月19日付）

「盛大に『紙のイベント』近代製紙100年の足跡を記念」（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月21日付）

「みなと祭りにどっと 田子の浦港開港30年祝う」（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月21日付）

「富士山を世界遺産条約に登録を 中島信哉」（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月21日付「論壇」）

「『題目宝塔』が復元 富士山表口六合目 信仰の歴史を伝える石造物 落石の直撃で倒壊」〔大泉寺〕〔遠藤是秀〕〔後藤豊平〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月21日付）

「ふるさと再発見 村山浅間神社を訪ねて〈3〉末代上人（富士山人）木花咲耶姫 身禄行者の遺言 井出栄一（おわり）」（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月22日付）〔鈴木勲〕

「光化学スモッグにご注意 市も監視態勢を強める」〔公害〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月23日付）

「食品衛生に目光らす 富士山の山室一斉監視」〔山室衛生〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月23日付）

「近江八幡から富士登山『結ぶ会』が27日に来宮」（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月25日付）

「自然林保全の拡大を 来月、営林局、環境庁へ要望 国有林野の施業管理計画 市議会にも請願の準備」〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月26日付）

「富士山に注目を 迫るブナ林の危機？ 小山忠之」（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月28日付「東西南北記者の目」）

「初の光化学スモッグ予報」〔大気汚染〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月29日付）

「李鵬首相から感謝の書 研修生受け入れの商議所」〔富士宮商工会議所〕〔外国人登山〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月30日付）

「政府が『世界遺産条約』を批准、目下候補探し 富士山を候補第1号に 地元で気運高まる 県自然保護協会 環境、文化両庁に働きかけ」（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月31日付「時局ラウンジ」）

「『世界遺産条約』って何だ？」（『岳南朝日』1992年＝平成4年7月31日付）  
「測定開始以来の低レベル TCE 調査 湧玉池の地下水汚染」〔トリクロロエチレン〕  
（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月1日付）  
「随想 鳥居 後藤英明」〔駅前大鳥居〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月1日付）  
「富士山と富士宮展開幕 大自然の恵み、後世へ」〔市政50周年〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月2日付）  
「養護学校生が富士登山 宮西ワンゲル部とともに」〔富士養護学校〕〔富士宮西高校〕  
〔障害者登山〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月2日付）  
「随想 続・鳥居 後藤英明」〔駅前大鳥居〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月2日付）  
「有機塩素系の3物質 市内37工場 使用総量が増加傾向」〔地下水汚染〕〔トリクロロエチレン〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月4日付）  
「富士山の地下水を次代へ 土静大名誉教授が講演」〔土隆一〕〔富士山と富士宮展〕〔市政50周年〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月4日付）  
「富士山人工沢 県、知りながら放置 1年前に監視員報告 富士吉田」〔五合目立体駐車場〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月5日付）  
「富士山を候補地に 自然保護団体が国へ要望 世界遺産条約」〔静岡県自然保護協会〕〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月6日付）  
「斉藤県知事にも要望書」〔世界遺産条約〕〔静岡県自然保護協会〕〔富士山の自然を守る会〕〔斉藤滋与史〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月6日付）  
「森林の大切さを学ぶ 富士山麓山の村 緑の少年団300人が交流」（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月6日付）  
「『自然維持林』の位置付け 富士山国有林施業管理計画 東京営林局が難色」（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月8日付）  
「親子ふれあい登山出発 全国各地から38人参加」〔市政50周年〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月8日付）  
「朝霧の根原財産区内 無許可でオフロード場建設計画 市が事情聴取へ 工事はストップ」〔入会権〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月9日付）  
「池田氏を信徒から除名 大石寺が処分通告書」〔創価学会〕〔池田大作〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月12日付）  
「『ホゴ同然の通知』創価学会広報室がコメント」（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月12日付）  
「富士山に結ぶ友情の輪 富士宮・近江八幡 ガールスカウトが交流」（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月12日付）  
「国有林保護で請願へ 富士山ブナ林『自然維持林』にして 盆明けから署名運動」〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月13日付）  
「鱒の家を移転新築 市の迎賓館的役割も」（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月13日付）  
「無届けオフロード問題 所有権問題は平行線 県の指導求める方針」〔根原財産区〕（『岳

南朝日』1992年＝平成4年8月13日付)  
「富士山の保全など陳情 守る会きょう渡辺市長に」〔富士山の自然を守る会〕〔渡辺修〕  
(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月15日付)  
「富士山のブナ林帯保護を 守る会が陳情 市長も前向きに対処」〔富士山の自然を守る会〕〔渡辺修〕〔世界遺産条約〕(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月18日付)  
「遺産条約は関係自治体と協議」〔富士山の自然を守る会〕〔渡辺修〕〔世界遺産条約〕  
(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月18日付)  
「富士山観察の記録を集計 見えるのは年間三分の一?! 午後より朝、春夏より秋冬がくつきり 富士市政策推進室」(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月19日付)  
「頼朝の富士野巻狩の道〈上〉足柄路～十里木街道 井出栄一(つづく)」(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月19日付「ふるさと再発見」)  
「23日に富士山一斉清掃 富士宮口 13団体、700人が参加して」〔清掃登山〕〔富士山をいつまでも美しくする会〕(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月19日付)  
「釜口峡で川供養祭 鈴木町長ら水難者を鎮魂が」(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月19日付)  
「遭難救助活動に威力 富士宮署 アマ無線同好会が発足」〔ボビーズハム〕(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月21日付)  
「富士山環境美化一斉清掃活動 1530<sup>キロ</sup>のゴミ回収 2年続きの減だが…改善されぬ登山者モラル」〔清掃登山〕〔富士山をいつまでも美しくする会〕(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月25日付)  
「マイカー登山増えてゴミも増えて一焼け石に水の富士山クリーン作戦」(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月25日付「グラフ特集」)  
「富士山スカイライン 交通マヒの登山区間 路上駐車が渋滞に拍車 迫られる抜本的対策 出動の救急車もイライラ」(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月26日付)  
「頼朝の富士野巻狩の道〈下〉十里木街道～富士野西麓 井出栄一(完)」(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月19日付「ふるさと再発見」)  
「法主に公開質問状 退座求める僧侶有志 日蓮正宗紛争」〔阿部日顕〕〔大石寺〕〔創価学会〕(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月28日付)  
「やはり圧倒的に多い高山病 今夏の富士山診実績」〔富士山衛生センター〕(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月28日付)  
「ブナ林保護で 署名運動開始」〔富士山の自然を守る会〕(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月26日付)  
「市の『玄関口』完成へ 駅レンタカー跡地に駐輪場」〔駅前整備〕(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月29日付)  
「富士山の恵みを語る 細田、小田両氏が砂防講演」〔富士砂防工事事務所〕〔細田剛〕〔小田帰山〕(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月29日付)  
「若い女性の死体 富士山スカイラインわきの草むらで」〔殺人死体遺棄事件〕(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月29日付)  
「農薬調査を実施」〔ゴルフ場〕〔公害〕(『岳南朝日』1992年＝平成4年8月29日付)

「女性の死体遺棄 殺人事件と断定 死因は絞殺による窒息死 富士宮署に捜査本部設置」〔殺人死体遺棄事件〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年8月30日付）

「今夏の登山者6万人 富士山富士宮口 遭難事故はゼロ 富士宮署」〔登山者数〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月1日付）

「手がかり得られず 女性殺人死体遺棄事件 捜査範囲も拡大」（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月1日付）

「ブナ帯を自然維持林に 自然を守る会が署名活動」〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月2日付）

「『富士人穴双紙』について〈上〉佐野良」（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月2日付「ふるさと再発見」）

「鳥居再建大きな壁に 道路敷の占用無理 大社側計画再検討」〈富士宮駅前整備〉（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月2日付）

「きょう、立て看板設置 女性殺人死体遺棄事件 身元割り出しに全力」（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月2日付）

「2児の遺体も発見 女性殺人死体遺棄事件 夫を殺人・遺棄で逮捕」（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月3日付）

「半数ちかくが山小屋利用 富士山新五合目観光案内所 初年度の利用は2500件」（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月4日付）

「凶器の発見に全力 妻子殺人死体遺棄事件 2児も絞殺の疑い」（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月4日付）

「宮農生がクリーン作戦 富士山と田貫湖で」〔富士宮農業高校〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月8日付）

「『富士人穴双紙』について〈下〉佐野良」〔空胎〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月9日付「ふるさと再発見」）

「きょう新宿駅で富士山の秋をプレゼント ススキの袋詰め作業」〔富士宮市観光協会〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月10日付）

「歩く健康づくり1万歩 松と潮騒コース」〔鈴川海岸〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月10日付「散策の道」）

「5合目と田貫湖周辺で 宮農2年生クリーン作戦 190人が奉仕活動に励む」（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月11日付）

「郷土の繁栄を祈念 13日、村山浅間神社で『神仏両界富士山柴燈護摩法要』」〔阿含宗〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月12日付） ▼▼

「今夏7万880人が富士登山 算出方法改めた結果 昨年の2・38倍」〔登山者数〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月13日付）

「特別ダイヤを組み新型ロマンスカー来宮 10月25日」〔小田急富士宮乗り入れ〕〔カントリーハート・イン・アサギリ〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月13日付）

「富士山の自然を守る会 ブナ林保護の請願書提出 議会側の対応に注目」〔東京営林局〕〔施業管理計画〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月15日付）

「食中毒の防止を 富士山ろくのキノコ観察会」（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月15日付）

「村山浅間神社 神仏両界護摩法要 参拝者、家運隆昌祈願」〔神仏両界富士山柴燈護摩法要〕〔阿含宗〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月17日付）▼▼←写真を見ると、この法要は上の護摩壇跡ではなく、社務所のある下の段で行っている。

「栗倉地区をすっきり 7年計画で地積調査 本年度は中間地点で実施 全域では10平方<sup>キロ</sup>に」（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月18日付）

「砂防事業、順調に進展 沈砂池ダム建設 工事エリアも拡大」〔富士砂防工事事務所〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月20日付）

「いま富士山のブナ林が危ない！ 上 経済優先に重いツケ “保水の宝庫”も虫の息」（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月25日付「ニュースの焦点」）

「いま富士山のブナ林が危ない！ 下 施業管理は両刃の剣 保護の市政を全面に」（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月26日付「ニュースの焦点」）

「ブナ林保護の請託採択 『開発容認に“ノー”9月定例会厚生経済委』」〔富士山の自然を守る会〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月29日付）

「地下水汚染に警鐘 平成3年度版『富士宮市の公害』発刊」（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月30日付）

「富士宮市議会厚生経済委 山毛櫨林保護の請願審査詳報 多数決で『採択』保護の認識はほぼ共通 当局の調査不足目立つ」（『岳南朝日』1992年＝平成4年9月30日付）

「自然とのふれあいメーンに たぬき湖祭 最終スケジュール決まる」（『岳南朝日』1992年＝平成4年10月1日付）

「『富士山開発』やめて！ 勤労者山岳連盟 あさぎり山の会が反対集会 林野庁の森林利用に強い不満」（『岳南朝日』1992年＝平成4年10月1日付）

「ブナ林保護の請願採択 意見書を国へ 提出 自然維持林拡大で 9月定例会閉会 意見書本文」（『岳南朝日』1992年＝平成4年10月2日付）

「大宮司家の遺徳しのぶ 浅間大社が墓前祭」〔富士亦八郎〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年10月2日付）

「富士山雪化粧 山ろく地方は初冬のきざし」（『岳南朝日』1992年＝平成4年10月7日付）

「歩く健康づくり1万歩〈3〉 松籟コース（下）赤人の歌碑と海沿いの道」〔田子の浦港〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年10月8日付「散策の道」）

「毒キノコに注意 富士山で1301人が研修」（『岳南朝日』1992年＝平成4年10月10日付）

「歩く健康づくり1万歩〈4〉 松籟コース（上）松林の中の遊歩道」〔田子の浦港〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年11月12日付「散策の道」）

「自然維持林の拡大求め 富士山の自然を守る会 意見書の尊重申し入れ」〔渡辺修〕〔東京営林局〕〔施業管理計画〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年10月17日付）

「明治の気概ここに 富士山高齢登拝者 今夏は753人 90歳代が大幅増加」〔高齢者登山〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年10月17日付）▼▼

「意見書の尊重申し入れ 富士山の自然を守る会『国有林すべてを自然維持林に』」〔渡辺修〕〔東京営林局〕〔施業管理計画〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年10月25日付）

「林業従事者に援助を 富士森林組合が 要望」（『岳南朝日』1992年＝平成4年10月25日付）

「村山口登山道探索会 自然の素晴らしさ人間の力強さを体験」〔村山古道〕〔赤野竹司〕〔元村山青年団〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年10月27日付）

「自然を守る会 東白塚の秋を訪ねる」〔富士山の自然を守る会〕〔野口英昭〕〔阿部英雄〕〔愛峰会〕〔富士山資料館〕〔渡辺徳逸〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年10月28日付）

「日本ランドHOW ゆうえんち スケートリンク14日オープン スキー場は12月12日」〔イエティ〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年11月7日付）

「東西南北記者の目“5合目整備”に反対 山梨で署名運動始まる 小山忠之」〔立体駐車場〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年11月17日付）

「身延線高架化 可能性調査開始 駅周辺整備委が現地視察」（『岳南朝日』1992年＝平成4年12月1日付）

「2つのへら鮎放流 田貫湖 大阪から成魚運輸」（『岳南朝日』1992年＝平成4年12月1日付）

「山静両県が共同歩調 富士山を世界遺産に 保護団体が運動を展開」〔富士山を世界遺産にする連絡協議会〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年12月12日付）

「富士山の特殊性を考慮 国有施業管理計画 全協で基本姿勢表明」〔渡辺修〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年12月12日付）

「自然保護団体が結束 富士山を世界遺産に 正式に連絡協発足」〔富士山を世界遺産にする連絡協議会〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年12月13日付）

「白紙で環境保全協議 5合目利用適正化会議 脱会団体遺留へ」〔富士山の自然を愛する者の集い〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年12月16日付「峡南・富士五湖」）

「富士山を世界遺産に 山静の自然保護団体が大連合 当面の目標『地種区分設定』に全力」〔富士山を世界遺産にする連絡協議会〕（『岳南朝日』1992年＝平成4年12月27日付「時局ラウンジ」）